

松戸市  
「子育て世帯生活実態調査」  
報告書

平成30年3月  
松戸市



## 目 次

第1章 結果の概要 .....	1
1. 調査の概要 .....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査対象者・抽出方法.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 調査期間.....	1
(5) 有効回答数（有効回答率） .....	2
(6) 回答者の基本属性（性別・年齢・世帯タイプ） .....	2
2. 結果の概要 .....	3
第2章 世帯構成と親の就労状況.....	9
1. 世帯構成.....	9
(1) 世帯タイプ.....	9
(2) 世帯内の子どもの人数.....	9
(3) 外国にルーツを持つ子ども .....	10
2. 父母の就労状況 .....	11
(1) 母親の就労状況 .....	11
(2) 父親の就労状況 .....	15
第3章 松戸市の子どもの生活困難の状況.....	17
1. 生活困難層の定義 .....	17
2. 松戸市の生活困難.....	19
(1) 松戸市の生活困難層 .....	19
(2) 世帯タイプ別の生活困難層の割合 .....	21
(3) 子どもの人数別の生活困難層の割合 .....	22
(4) 親の就労状況別の生活困難層の割合 .....	23
3. 家計の状況 .....	25
(1) 食料を買えなかった経験 .....	25
(2) 衣類を買えなかった経験 .....	26
(3) 公共料金の滞納経験 .....	28
(4) 家計の収支の状況.....	30
第4章 松戸市の子どもの生活 .....	33
1. 子どもの食と栄養.....	33

(1) 朝食の摂取状況.....	33
(2) 食品群別の摂取状況（野菜）.....	34
(3) 食品群別の摂取状況（果物）.....	36
(4) 食品群別の摂取状況（肉か魚）.....	37
(5) 食品群別の摂取状況（カップ麺・インスタント麺）.....	38
(6) 食品群別の摂取状況（コンビニのおにぎり・お弁当）.....	39
(7) 食品群別の摂取状況（お菓子）.....	40
2. 子どもの体験.....	41
3. 子どもの所有物.....	47
4. 住居の状況.....	51
(1) 住居の所有形態.....	51
(2) 部屋数.....	52
第5章 子どもの学び.....	55
1. 学校の成績についての主観的評価.....	55
2. 授業の理解度とわからなくなった時期.....	57
(1) 小学5年生.....	57
(2) 中学2年生.....	58
3. 勉強を教えてくれる人.....	60
(1) 小学5年生.....	60
(2) 中学2年生.....	62
4. 自宅での学習環境.....	65
5. 通塾の状況.....	67
6. 学校の授業以外の学習時間.....	69
7. 学校の学習教室の利用状況.....	72
(1) 小学5年生.....	72
(2) 中学2年生.....	74
8. 学習支援事業・自習室の利用意向.....	75
(1) 無料の学習支援事業.....	75
(2) 自習室.....	76
第6章 子どもの居場所・つながり.....	79
1. 平日の放課後・休日の午後に過ごす場所.....	79
(1) 平日の放課後に過ごす場所.....	79
(2) 休日の午後に過ごす場所.....	84
(3) ほっとできる場所.....	87
2. 中学生の部活動の状況.....	89
3. 平日の放課後・休日の午後と一緒に過ごす人.....	91

(1) 平日の放課後に一緒に過ごす人.....	91
(2) 休日の午後に一緒に過ごす人.....	94
4. 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験 .....	96
5. 会話の頻度 .....	96
(1) 小学5年生.....	96
(2) 中学2年生.....	99
6. 友人関係.....	103
(1) 友だちとの関係.....	103
(2) 仲の良い友だち.....	104
7. 使ってみたい居場所・相談事業.....	106
(1) 放課後の居場所事業 .....	106
(2) 休日の居場所事業.....	107
(3) 夕食の場所（子ども食堂） .....	108
(4) 何でも相談できるところ .....	110
第7章 子どもの自己肯定感.....	113
1. 自己肯定感 .....	113
2. 学校に行きたくないと思った経験.....	122
3. 1か月以上学校を休んだ経験.....	123
4. いじめ.....	124
第8章 子どもの健康状態.....	127
1. 健康状態についての主観的評価.....	127
2. 虫歯の有無 .....	128
3. 医療機関での受診状況.....	130
(1) 医療の受診抑制経験 .....	130
(2) 受診抑制の利用.....	131
4. 予防接種の状況 .....	132
(1) 定期予防接種の接種状況 .....	132
(2) 任意予防接種の接種状況 .....	134
第9章 保護者の状況 .....	139
1. 保護者の健康状態.....	139
(1) 母親.....	139
(2) 父親.....	140
2. 相談相手.....	141
3. 子どもと一緒にすること .....	143
4. 子どもの将来についての会話.....	147

第10章 制度・サービスの利用 .....	149
1. 情報の入手 .....	149
(1) 現在の情報の入手方法 .....	149
(2) 情報の入手方法の希望 .....	152
2. 就学援助制度の利用 .....	155
(1) 就学援助制度の利用状況 .....	155
(2) 就学援助制度を利用していない理由 .....	157
(3) 就学援助費と実費の差 .....	160
3. 子どもを対象とした支援制度の利用 .....	162
(1) 子どもを対象とした支援制度の利用状況 .....	162
(2) 子どもを対象とした支援制度を利用していない理由 .....	164
4. 公的機関への相談 .....	174
(1) 公的機関への相談経験の有無 .....	174
(2) 公的機関に相談しなかった理由 .....	177
5. 金銭的支援制度の利用 .....	182
(1) 金銭的支援制度の利用経験 .....	182
(2) 金銭的支援制度を利用したことがない理由 .....	182
(3) 金銭的支援制度の利用意向 .....	186
第11章 外国にルーツを持つ世帯の状況 .....	187
1. 生活困難度 .....	187
(1) 生活困難層の割合 .....	187
(2) 食料を買えなかった経験 .....	188
(3) 衣類を買えなかった経験 .....	189
(4) 公共料金の滞納経験 .....	189
2. 授業の理解度 .....	190
3. 友だちとの関係 .....	193
4. 保護者の健康状態 .....	194
(1) 保護者の健康状態 .....	194
(2) 医療の受診抑制経験およびその理由 .....	195
5. 普段話す言語 .....	196
6. 日本語が分からないことで困っていること .....	197
7. 相談相手 .....	199
8. 情報入手の方法 .....	200

参考資料 .....	203
調査票 .....	205
(1) 小学生票 .....	205
(2) 小学生保護者票.....	217
(3) 中学生票 .....	233
(4) 中学生保護者票.....	245

## 【集計方法】

- 本報告書においては、クロス表の掲載の際には、 $\chi^2$  二乗検定によって分布が統計的に有意であるかを検定している。その結果、1%水準で有意である場合は表頭などに「\*\*\*」、5%で有意の場合は「\*\*」、10%で有意の場合は「\*」、有意でない場合は「X」を付している。  
(「1%未満で有意」とは、図表で示している項目の間に統計的に差がない確率が1%未満であり、差があると言って問題がない、ということの意味する。)
- 世帯タイプは、保護者票の子供と父親、母親それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 一般的に分析結果が統計的に有意であるかの検定は、分析に用いられた n 値（ケース数）を考慮して行われている。そのため、クロス表に n 値を表記する必要は必ずしもない。しかし、分析に用いた変数の n 値を示すことが読者の理解に資することもある。そこで、本報告書では付表にて n 値を確認できないクロス表に限り、n 値を表記している。
- 図表には各項目の割合を 100 分率で表記している。この値は、小数点第二位を四捨五入している。そのため、同一図表中の値を合計しても 100%にならない場合がある。



## 【調査概要】

- (1) 調査目的 本市における子育て世帯の生活実態（健康、経済的な状況、教育、就労や住環境など）を把握し、支援策を検討するために実施したものである。
- (2) 調査対象 松戸市立小学校 5 年生の全児童（3,929 人）及び保護者  
松戸市立中学校 2 年生の全生徒（3,740 人）及び保護者
- (3) 調査方法 各学校から児童・生徒に調査票を配付し、自宅にて記入後、学校にて回収

- (4) 有効回答数 有効回答数（上段）および有効回答率（下段）

	子ども票	保護者票	親子のマッチングができた票
小学 5 年生	3,603	3,605	3,405
	91.7%	91.8%	86.7%
中学 2 年生	3,178	3,192	3,115
	85.0%	85.3%	83.3%

- (5) 調査期間 平成 29 年 9 月 1 日から 9 月 15 日まで

- (6) 調査分析体制

調査実施機関 株式会社インテージリサーチ

分析機関 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター

阿部 彩（子ども・若者貧困研究センター センター長）

小田川華子（同、特任研究員）

川口 遼（同、リサーチ・アシスタント）

内藤朋枝（同、リサーチ・アシスタント）

上原洋八（同、リサーチ・アシスタント）

進藤理恵（同、研究補助員）

福山洋子（同、研究補助員）

## 【子供の生活実態調査における「生活困難」の取り扱いについて】

子供の生活実態調査では、子供の「生活困難」を以下の3つの要素に基づいて分類した。

### ① 低所得

等価世帯所得<sup>※1</sup>が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準<sup>※2</sup>未満の世帯<sup>※3</sup>

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」（所得は平成27年値）の世帯所得の中央値（428万円）を平均世帯人数（2.47人）の平方根で除した値の50%である136.2万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている「子供の貧困率」（13.9%）と比較できるものではない

### ② 家計の状況

公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

### ③ 経済的理由による子どもの体験・所有物の不足

子供の体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で不足している項目が3つ以上該当

生活困難層	困窮層＋周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

# 第 1 章 結果の概要

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

本市における子育て世帯の生活実態（健康、経済的な状況、教育、就労や住環境など）を把握し、支援策を検討するために実施したものである。

### (2) 調査対象者

- ① 松戸市立小学校の 5 年生の全児童およびその保護者  
3,929 人×2=7,858 人
- ② 松戸市立中学校の 2 年生の全生徒およびその保護者  
3,740 人×2=7,480 人

### (3) 調査方法

自記式、学校配布、学校回収方式

調査票は、子ども票と保護者票から構成され、学校を通して、児童生徒に配布した。自宅に持ち帰ってもらい、自宅にて子ども本人と保護者 1 名が記入し、同封の封筒に子ども票・保護者票を一緒にして各学校に提出してもらった。なお、子ども票と保護者票は、それぞれ別の封筒に入れ、封印するように指示されており、お互いの回答をみることがないように配慮されている。

また、市立小中学校に在籍中の子どものみを対象としているため、松戸市在住であっても、私立学校などに通う子どもは対象外となる。

### (4) 調査期間

平成 29 年 9 月 1 日 ～ 平成 29 年 9 月 15 日

### (5) 有効回答数(有効回答率)

有効回答数(率)は、小学5年生の子ども票3,603票(91.7%)、保護者票3,605票(91.8%)、中学2年生の子ども票3,178票(85.0%)、保護者票3,192票(85.3%)である。このうち、子ども票と保護者票のマッチングができたのは、小学5年生では3,405ペア(86.7%)、中学2年生では3,115ペア(83.3%)であった。

図表 1-1-1 有効回答数(上段)および有効回答率(下段)

	子ども票	保護者票	うち親子のマッチングができた票	分析対象
小学5年生	3,603	3,605	3,405	3,405
	91.7%	91.8%	86.7%	86.7%
中学2年生	3,178	3,192	3,115	3,115
	85.0%	85.3%	83.3%	83.3%

### (6) 回答者の基本属性(性別・年齢・世帯タイプ)

回答者の属性は以下の通りであった。子どもの回答者の性別は、小学5年生は男子47.0%、女子45.9%、無回答7.0%であった。中学2年生は、男子45.3%、女子46.5%、無回答8.1%であった。回答した保護者は、小学5年生は母親91.2%、父親7.1%であった。中学2年生は、母親89.2%、父親8.4%であった。

図表 1-1-2 子どもの性別(人:上段 割合:下段)

	男子	女子	無回答	合計
小学5年生	1,695	1,654	254	3,603
	47.0%	45.9%	7.0%	100%
中学2年生	1,440	1,479	259	3,178
	45.3%	46.5%	8.1%	100%

図表 1-1-3 保護者の子どもとの属性(人:上段 割合:下段)

	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
小学5年生	257	3,286	0	5	2	2	2	51	3,605
	7.1%	91.2%	0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	1.4%	100%
中学2年生	267	2,848	1	13	3	1	3	56	3,192
	8.4%	89.2%	0.0%	0.4%	0.1%	0.0%	0.1%	1.8%	100%

## 2. 結果の概要

### 【世帯構成と親の就労状況】

○小学5年生の76.0%、中学2年生の72.0%の子どもは、ふたり親（二世帯）世帯である。ひとり親（二世帯）世帯の子どもは、小学5年生では13.1%、中学2年生では15.4%である。

○外国にルーツを持つ世帯の子どもは、小学5年生では3.8%、中学2年生では1.9%であった。

○両学年ともに母親の約半数は非正規雇用であり、専業主婦等は約20~30%である。ひとり親世帯の母親は、ふたり親世帯の母親に比べて正規雇用が多いが、困窮層のひとり親世帯は正規雇用が少ない。ふたり親世帯では、生活困難度が上がるほど正規雇用が少ない傾向があり、周辺層・困難層では専業主婦等の母親も一般層よりも多い。

○ふたり親世帯の父親は80%以上が正規雇用、10%強が自営業等である。ひとり親世帯の父親は、ふたり親世帯の父親に比べ正規雇用が少なく、自営業等や無職が多い。

### 【松戸市の子どもの生活困難の状況】

○松戸市の子どもの生活困難度を低所得、家計の状況、経済的理由による子どもの体験や所有物の不足の3つの軸から、困窮層、周辺層、一般層の3層に分類したところ、小学5年生では困窮層7.3%、周辺層16.2%、一般層76.5%、中学2年生では困窮層8.9%、周辺層16.2%、一般層74.9%であった。

○ひとり親世帯の生活困難度は高く、小学5年生のひとり親（二世帯）世帯では困窮層が20.1%、周辺層が28.6%、ひとり親（三世帯）世帯では21.2%、34.6%であった。中学2年生のひとり親（二世帯）世帯では、困窮層27.4%、周辺層26.5%、ひとり親（三世帯）世帯では、15.2%、24.2%であった。

○小学5年生の12.3%、中学2年生の12.4%の世帯において、過去1年間に家族が必要とする食料を買えなかった経験がある。また、小学5年生の15.1%、中学2年生の16.9%の世帯において、過去1年間に家族が必要とする衣類を買えなかった経験がある。

○小学5年生、中学2年生の世帯の3~4%が、過去1年間に電話、電気、ガス、水道料金の滞納経験がある。家賃の滞納は、小学5年生の2.1%、中学2年生の2.0%、住宅ローンの滞納はそれぞれ1.1%、1.4%の世帯で起こっている。

### 【松戸市の子どもの生活】

○小学5年生の88.6%、中学2年生の83.7%は、平日に朝食を「いつも食べる」と回答しているが、「食べないほうが多い（週に1、2回）」、「いつも食べない」という子どもは、小学5年生では4.8%、中学2年生8.3%存在する。朝食を「いつも食べない」子どもは、困窮層では特に高く、小学5年生では4.2%、中学2年生では6.6%である。

○給食以外に野菜、くだもの、肉や魚を食べる頻度は、生活困難度が高いほど少なく、ふたり親世帯よりひとり親世帯のほうが少ない。

○カップ麺・インスタント麺を食べる頻度は、中学 2 年生では生活困難度が高いほど多く、ふたり親世帯よりひとり親世帯のほうが多い。コンビニのおにぎり・お弁当を食べる頻度は、生活困難度が高いほど多く、中学 2 年生においては、ふたり親世帯よりひとり親世帯のほうが多い。

○「海水浴」、「山登り、ハイキング、サイクリング」、「キャンプやバーベキュー」、「家族旅行」、「スポーツ観戦や劇場」、「博物館・科学館・美術館」の体験を金銭的な理由で行けない子どもの割合は、生活困難度や世帯タイプによって違いがあり、特に困窮層とひとり親世帯に多い。

○小学 5 年生の困窮層の子どもは、「インターネットにつながるパソコン」、「子ども部屋」、「ゲーム機」などが欲しいが持てない割合が多く、中学 2 年生の困窮層の子どもは「自宅で宿題をすることができる場所」、「インターネットにつながるパソコン」、「子ども部屋」、「自分専用の勉強机」が欲しいのに持てない割合が多い点で、生活困難度別に特に大きな差が検証された。

○小学 5 年生、中学 2 年生の約 20%が賃貸住宅に住んでおり、困窮層ほどその割合は高い。

○「居住用の部屋数」は両学年とも最も多いのが「4 室」である。「1 室」あるいは「2 室」の比較的狭い住宅に住む世帯は、一般層では 7～8%であるが、小学 5 年生の困窮層では 29.2%、中学 2 年生の困窮層では 23.7%であり、自宅で勉強する場所がないといった困難につながっている。

### 【子どもの学び】

○授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもは小学 5 年生の 23.1%、中学 2 年生の 32.6%で困窮層ほどその割合は高くなる（小学 5 年生 35.0%、中学 2 年生 49.5%）。授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」、「たまにある」と答えた小学 5 年生の 25.6%は小学 1 年生から 3 年生の間にわからなくなっている。中学 2 年生にて授業の理解に課題を抱える子どもの 29.7%が小学校にてすでに授業がわからなくなっており、その割合は生活困難層では 35.9%、ひとり親世帯では 35.3%である。

○勉強がわからない時、小学 5 年生の 83.3%は「親」に教えてもらっている。子どもの勉強をみることは「めったにない」と答えた保護者の割合は小学 5 年生全体で 11.6%、一般層では 9.2%である一方で、困窮層は 20.2%、周辺層は 14.0%と、困窮層ほど割合が大きくなる。中学 2 年生は勉強がわからない時、「友だち」（55.6%）、「塾や習い事などの先生」（51.5%）、「親」（50.1%）に教えてもらっている。しかし、「塾や習い事などの先生」に教えてもらう割合は困窮層では 28.6%にとどまり、「教えてもらえる人がいない」のは、一般層は 3.2%であるが、困窮層は 8.8%である。

○自宅で宿題をすることができる場所や自分専用の勉強机が「ある」割合は小学 5 年生、中学 2 年生とも困窮層ほど低い。

○小学 5 年生の 47.3%が通塾（または家庭教師利用）している一方で、「経済的にできない」は 14.9%であった。中学 2 年生では 62.2%が通塾（または家庭教師利用）している一方で、「経済的にできない」は 12.7%であった。「経済的にできない」割合はふたり親世帯に比べてひとり親世帯で多い。

○「(家や学校以外で) 大学生のお兄さんやお姉さんなどが、勉強を無料でみてくれる場所や施設」を「使ってみたい」と答えたのは小学 5 年生の 39.9%、中学 2 年生は 37.0%。「(家や学校以外で) 放課後や休日・夏休みなどに、静かに勉強ができる場所や施設」を「使ってみたい」と答えたのは小学 5 年生の 48.9%、中学 2 年生は 50.7%である。

### 【子どもの居場所・つながり】

○小学 5 年生は、平日の放課後、休日の午後とも自分の家で過ごす割合が約 70%。中学 2 年生は、平日放課後は学校、休日は家で過ごす者が過半数である。

○中学 2 年生全体では 88.8%が部活動に参加している。しかし、困窮層は 84.6%、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯はそれぞれ 84.2%、83.5%である。部活動に参加しない理由は多い順に「入りたい部がないから」29.1%、「塾や習い事が忙しいから」24.5%、「おもしろくないから」19.0%、「家の事情」8.2%である。「塾や習い事が忙しいから」は一般層では 29.6%であるが、困窮層では 0.0%である。また、ひとり親世帯の子どもはふたり親世帯の子どもに比べて、部活動に参加しない理由として、「家の事情があるから」と回答した割合が高い。

○「友だちと仲良くしていると思う」という設問について、小学 5 年生の 70.5%、中学 2 年生の 63.0%が「とてもそう思う」と答えたが、この割合は一般層に比べて周辺層、困窮層で低く、ふたり親世帯の子どもに比べてひとり親世帯の子どもの方が低い。また、「とくに仲の良い友だちはいない」と答えた子どもの割合は、小学 5 年生の 0.9%、中学 2 年生の 1.4%であるが、小学 5 年生の困窮層、周辺層ではそれぞれ 1.8%、1.9%、中学 2 年生のひとり親（二世帯）世帯で 2.7%、ひとり親（三世帯）世帯で 2.1%である。

○「(家や学校以外で) 放課後に友だちと食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設」を「使ってみたい」と答えた小学 5 年生は 73.4%、中学 2 年生は 68.3%である。「(家や学校以外で) 休日や夏休みなどに友だちと食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設」を「使ってみたい」と答えた小学 5 年生は 72.4%、中学 2 年生は 71.9%である。「(家や学校以外で) 家族がいないときに、友だちや大人の人などとみんなで夕ごはんを食べることができる場所や施設」を「使ってみたい」と答えた小学 5 年生は 48.9%、中学 2 年生は 43.1%である。

### 【子どもの自己肯定感】

○「自分は価値のある人間だと思う」については、「とても思う」、「思う」は、小学5年生、中学2年生いずれも50%を超えているものの、約10%が「思わない」と回答している。また、小学5年生の6.9%、中学2年生の11.3%が、「自分の将来が楽しみだ」に対して「思わない」と答えている。

○「学校に行きたくないと思った」ことが、「よくあった」、「時々あった」と回答した子どもは小学5年生では合計36.8%、中学2年生では合計42.4%である。生活困難度別、世帯タイプ別にみると、困窮層、周辺層、ひとり親世帯で多く、特に中学2年生の困窮層では23.6%、ひとり親（二世帯）世帯では20.4%が「よくあった」と回答している。

○1か月以上学校を休んだ経験があるのは小学5年生で1.1%、中学2年生では2.4%である。生活困難度別にみると、小学5年生の困窮層で多い（4.8%）。また中学2年生でも困窮層、周辺層で多い傾向がある（3～4%）。一方、世帯タイプ別においては、中学2年生のひとり親（二世帯）世帯で5.4%と多いほか、ひとり親（三世帯）世帯も3.1%と多い。

○「いじめられた」ことが、「よくあった」、「時々あった」と回答した子どもの割合は、小学5年生全体で12.6%、中学2年生の8.6%である。生活困難度別、世帯タイプ別にみると、中学2年生の生活困難度別でのみ差がみられた。

### 【子どもの健康状態】

○小学5年生の4.3%、中学2年生の8.6%が、健康状態が「あまりよくない」と答え、また、「よくない」と答えた子どももそれぞれ0.6%、1.9%と一定数存在する。

○虫歯が4本以上の子どもは、小学5年生では1.4%、中学2年生では1.2%である。また、小学5年生と比較すると、中学2年生は虫歯がある子どもの割合が少ない。

○虫歯が1本以上ある子どもの割合は、小学5年生は13.4%、中学2年生は8.7%である。困窮層に限ると、両学年ともその割合は20%を超える。

○「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際に受診させなかったことがありましたか。」という設問に、小学5年生では8.1%、中学2年生では16.0%の保護者が「あった」と回答している。生活困難度別、世帯タイプ別いずれも、中学2年生でのみ統計的有意差がみられた。困窮層、ひとり親（二世帯）世帯で多く、それぞれ28.4%、21.0%である。

○小学5年生、中学2年生を合わせて集計した結果、「受診させなかった」理由で最も割合が高かったのは、「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」54.4%、次に「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」19.9%である。特にひとり親（二世帯）世帯と困窮層は、多忙を理由に挙げることが多く、その割合はどちらも約



4人に1人である。

○無料で受けられる「定期予防接種」では未接種率が低く、小学5年生で1.7%、中学2年生では2.2%である。ただし、困窮層では未接種率が有意に高く、小学5年生では6.2%、中学2年生では7.9%になる。

### 【保護者の状況】

○保護者の健康状態が「あまりよくない」、「よくない」と答えた母親の割合は、両学年とも6%~7%程度である。生活困難度は、保護者の健康状態と関連があり、生活困難度が高いほど健康状態が悪い。困窮層において「あまりよくない」、「よくない」と答えた母親の割合は、両学年とも約20%である。

○困りごとを相談する相手のいない保護者の割合は、小学5年生の世帯において6.4%、中学2年生の世帯において8.2%である。生活困難度別にみると、両学年とも有意な差が確認された。生活困難度が高いほど相談する相手のいない割合が高く、小学5年生の困窮層では23.6%、同じく中学2年生では24.2%であった。およそ4人に1人の保護者に困りごとの相談相手がいない。単に経済的に困難を抱えているだけでなく、孤立している傾向がうかがえる。

○小学5年生の世帯においては、保護者は子どもの勉強をよくみる傾向にあるが、中学2年生の世帯においてはその割合が減る傾向がある。また、中学2年生の世帯においては、保護者が子どもと一緒に遊ぶ頻度も、小学5年生の世帯より低い。他方、子どもとの会話の頻度は、学年による大きな差はない。子どもと一緒に料理をする頻度は、中学2年生になると下がる。一緒に外出する頻度も下がるが、料理の頻度ほどではない。

### 【制度・サービスの利用】

○子どもに関する施策等の情報の入手方法として最も利用されているのは、「学校からのお便り」である（小学5年生77.9%、中学2年生74.6%）。「家族や友人からの情報」、「学校からのメール」の割合も比較的高く、学校からの情報発信と私的な人間関係を通じて、情報を入手することが多いようだ。ただし、生活困難度別、世帯タイプ別にみると、困窮層やひとり親世帯ほど、学校や私的な人間関係から情報を入手している割合が低くなる。

○就学援助制度を利用していない理由の約70%が、「必要ないと判断した」である。ただし、この割合は周辺層においては50%程度、困窮層においては20%程度になる。その代わり困窮層においては、「申請要件を満たしていなかった」、「申請することに抵抗があった」、「申請したが、認定されなかった」が増加する。

○「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」の利用率には、生活困難度および世帯タイプによる有意差がみられた。小学5年生では、生活が困窮するほど、利用率が低くなる。他方、中学2年生では、周辺層（20.7%）の利用率が最も低く、

続いて困窮層（25.8%）、一般層（27.4%）となっている。また、ひとり親（三世代）世帯、ひとり親（二世帯）世帯、ふたり親（三世代）世帯、ふたり親（二世帯）世帯の順に利用率が低くなる。

### 【外国にルーツを持つ世帯】

○外国籍を持つ親が普段話す言語は日本語が一番多いが、日本語の次に話されている言語については、小学5年生と中学2年生において違った傾向がみられる。小学5年生においては中国語が日本語の次に話されており、母親では37.2%、父親では41.0%となっている。一方、中学2年生においては、中国語の割合については、母親では18.0%、父親では8.0%と小学5年生に比べて低く、英語が日本語の次に話されており、母親では24.6%、父親では36.0%となっている。

○日本語が分からないことによる困りごとを聞いたところ、小学5年生の世帯、中学2年生の世帯ともに「困っていることはない」と回答した割合が最も高く、それぞれ39.2%、56.0%であった。具体的な困りごとを回答割合の高い順にみると、小学5年生の世帯では、「就職することが難しい」22.5%、「近くに相談する相手がない」16.7%、「市や公的機関からの情報が届かない」11.8%であった。中学2年生の世帯では、「市の公的機関からの情報が届かない」16.0%、「就職することが難しい」12.0%、「近くに相談する相手がない」8.0%であった。

○相談相手が「いない」と答えた割合は、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が多い。とくに中学2年生の世帯においては、外国にルーツを持つ世帯では23.1%、外国にルーツを持たない世帯では7.2%となっており、3倍以上、外国にルーツを持つ世帯の方が多い。

## 第2章 世帯構成と親の就労状況

### 1. 世帯構成

#### (1) 世帯タイプ

保護者票の同居家族に関する設問から、父親、母親、祖父母の同居状況を把握し、各世帯の世帯タイプを、「ふたり親（二世帯）世帯」、「ふたり親（三世帯）世帯」、「ひとり親（二世帯）世帯」、「ひとり親（三世帯）世帯」の4つに分類した。なお、同居家族に父母がいない世帯、保護者票回答者が施設職員の世帯などは「その他」としている。

小学5年生の76.0%、中学2年生の72.0%の子どもは、ふたり親（二世帯）世帯であり、この世帯タイプが大多数を占める。両親に祖父母が加わるふたり親（三世帯）世帯は、小学5年生では8.3%、中学2年生では9.1%となっている。ひとり親（二世帯）世帯の割合は小学5年生では13.1%、中学2年生では15.4%と2番目に多い世帯タイプとなっている。また、ひとり親（三世帯）世帯は、小学5年生では2.2%、中学2年生では3.1%となっており、合わせると小学5年生では15.3%、中学2年生では18.5%の子どもがひとり親世帯で育っている。

図表 2-1-1 世帯タイプ(小学5年生、中学2年生)

	小学5年生	中学2年生
ふたり親(二世帯)	76.0%	72.0%
ふたり親(三世帯)	8.3%	9.1%
ひとり親(二世帯)	13.1%	15.4%
ひとり親(三世帯)	2.2%	3.1%
父母なし世帯	0.3%	0.4%
施設	0.1%	0.1%

\*数値は保護者票ベース。

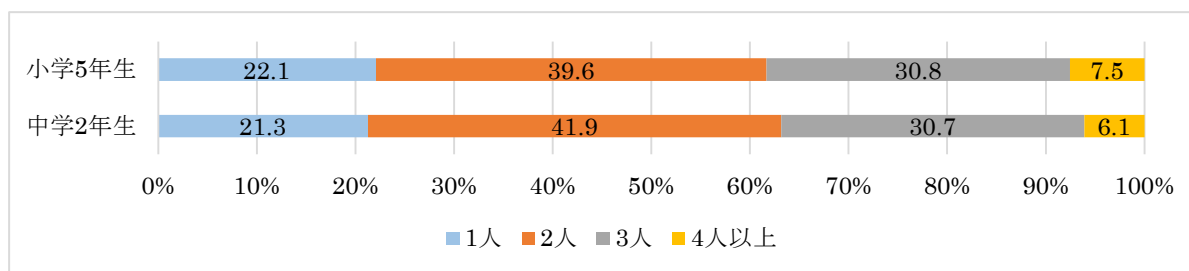
#### (2) 世帯内の子ども的人数

次に、世帯内の子ども的人数（調査対象の子ども本人を含む）をみた。ここでは、調査対象の子ども本人からみた兄弟姉妹の人数と本人を含めた数を子ども的人数としている。

小学5年生の世帯と、中学2年生の世帯では、ほぼ同じ数値であり、それぞれ22.1%、21.3%が子ども的人数が1人であり、39.6%、41.9%が子ども的人数が2人、30.8%、30.7%が子ども的人数が3人となっている。また、小学5年生の7.5%、中学2年生の6.1%が、子ども的人数が4人以上の世帯に属している。

子ども的人数については、ライフコースにおいて、どの段階にあるのか（今後も子どもを産むのか、出産が終了しているのか等）がわからないため、解釈が難しいが、子ども的人数の多さは生活困難のリスクと関係しているため（第3章参照）、その状況を把握することは重要である。

図表 2-1-2 子どもの人数(小学5年生、中学2年生)



### (3) 外国にルーツを持つ世帯

次に、外国にルーツを持つ世帯の割合をみるために、母親の国籍と父親の国籍を集計した。ここでは、保護者に子どもの母親と父親の国籍を、「日本」「日本以外」「(母親は、父親は) いない」の3つの選択肢で聞いた回答を集計している。母親と父親は、必ずしも同居しているとは限らない点は留意されたい<sup>1</sup>。

小学5年生、中学2年生の母親のそれぞれ94.8%、95.4%は日本国籍であるが、小学5年生では3.1%、中学2年生の1.9%は日本以外の国籍である。父親では、小学5年生の92.5%、中学2年生の92.4%が日本国籍である。母親と父親の国籍の組み合わせでみると、小学5年生、中学2年生とも約90%が両親ともに日本国籍である。小学5年生では2.8%、中学2年生では1.6%が一方の親が日本国籍、他方が日本以外の国籍である。両親とも日本以外の国籍であるのは、小学5年生では1.0%、中学2年生では0.3%であった。

図表 2-1-3 母親と父親の国籍(小学5年生、中学2年生)

学年	国籍	日本	日本以外	いない	無回答
小学5年生	母親	94.8%	3.1%	0.5%	1.6%
	父親	92.5%	2.2%	2.3%	3.1%
中学2年生	母親	95.4%	1.9%	0.8%	1.8%
	父親	92.4%	0.8%	2.6%	4.3%

図表 2-1-4 母親と父親の国籍組み合わせ(小学5年生、中学2年生)

学年	両方日本	日本+日本以外	両方日本以外	日本+いない	日本以外+いない	不明
小学5年生	90.2%	2.8%	1.0%	2.8%	0.1%	3.1%
中学2年生	90.3%	1.6%	0.3%	3.0%	0.3%	4.5%

\*子ども数ベース。保護者票と子ども票が揃った票のみ。

<sup>1</sup> 母親または父親が何らかの理由で不在の場合、「いない」、無回答、または不在でも国籍を答えた3つの可能性がある。

## 2. 父母の就労状況

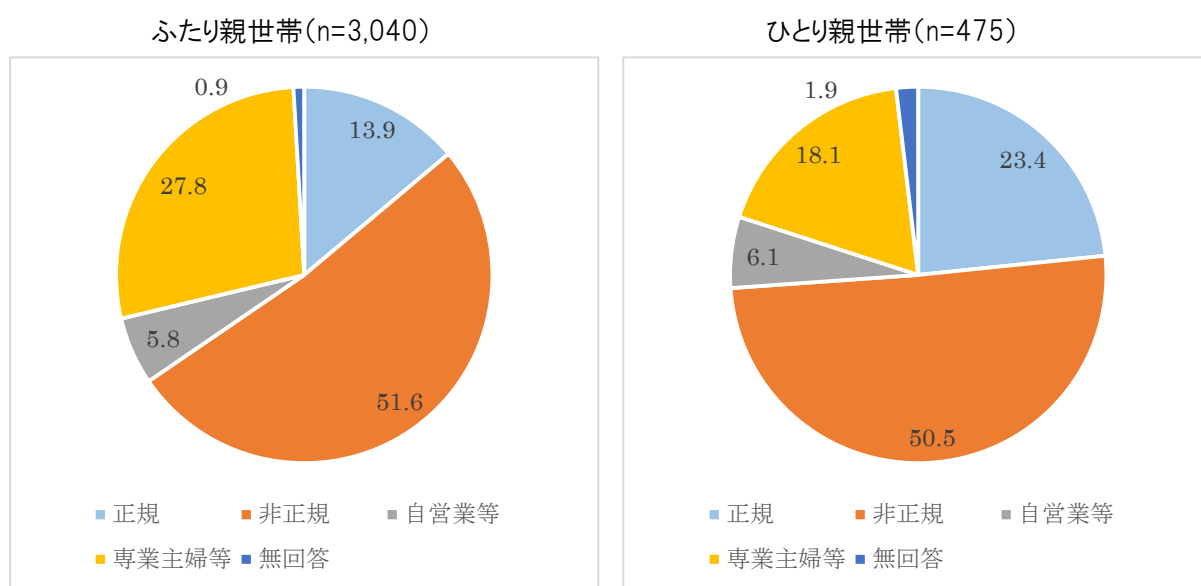
### (1) 母親の就労状況

次に、母親の就労状況をみる。母親の就労状況は、世帯タイプ別において大きな差があるため、ここでは、世帯タイプ別の集計を行う。

小学5年生のふたり親世帯の母親は、正規雇用が13.9%、非正規雇用（パート・アルバイト・非正規社員等）が51.6%、自営・家業・その他の働き方が5.8%、専業主婦等が27.8%となっている。母親が専業主婦等である世帯は全体の30%に満たなく、約70%の小学5年生の母親は就労している。ひとり親世帯の母親については、正規雇用はふたり親世帯の母親よりも高く23.4%となっているものの、非正規雇用が全体の約半数を占める50.5%となっている。自営業等は6.1%、専業主婦等は18.1%であった。

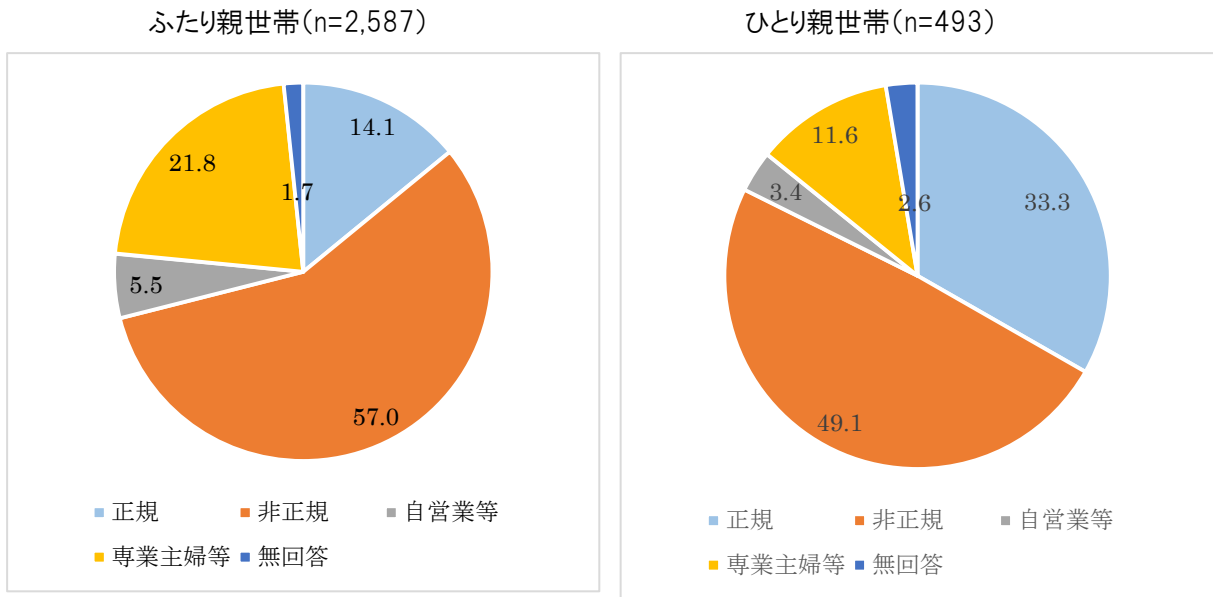
次に、中学2年生の母親については、小学5年生よりも就労率が高くなり、専業主婦等の割合は、ふたり親世帯では21.8%、ひとり親世帯では11.6%となっている。正規雇用の割合も、小学5年生の母親より高い。しかし、ふたり親世帯の母親の57.0%、ひとり親世帯の母親の49.1%と依然として大半を非正規雇用が占める。

図表 2-2-1 母親の就労状況(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



\*母親が世帯内に同居している場合に限って集計

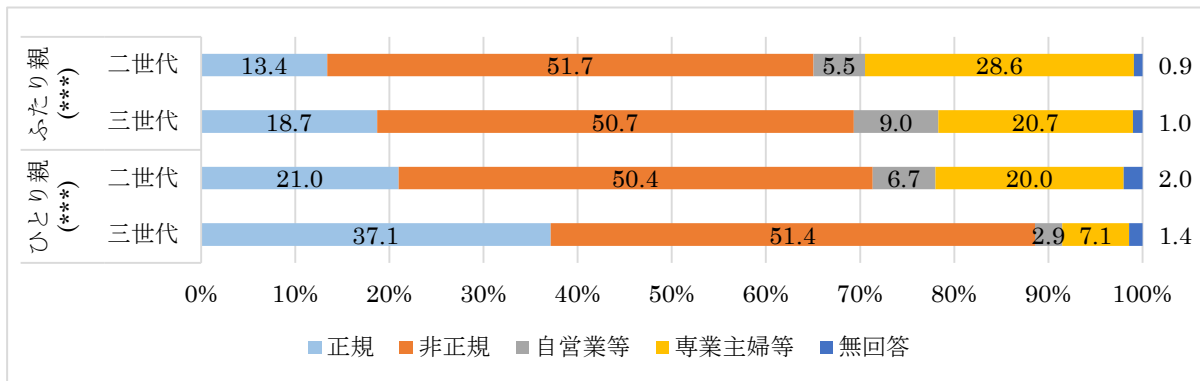
図表 2-2-2 母親の就労状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



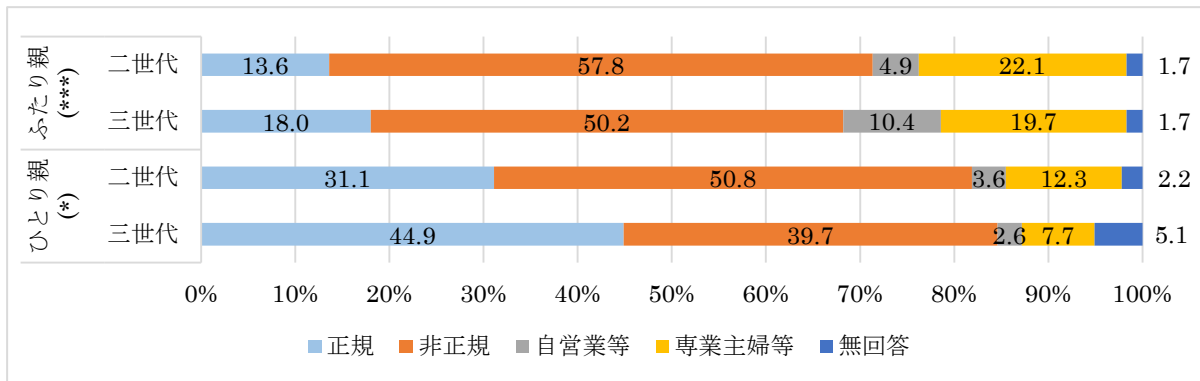
\*母親が世帯内に同居している場合に限って集計

祖父母との同居によって、母親の就労状況に差があるのかをみるために、ふたり親世帯、ひとり親世帯それぞれにおいて二世帯世帯と三世帯世帯を比べた。小学 5 年生においても、中学 2 年生においても、ふたり親世帯同士、ひとり親世帯同士でも祖父母の同居によって母親の就労状況に差がある。三世帯世帯（祖父母同居）の場合は、母親が正規雇用である割合が高く、専業主婦等である割合が低い。この傾向は、特にひとり親世帯にて顕著である。

図表 2-2-3 母親の就労状況(小学 5 年生):二世帯・三世帯別



図表 2-2-4 母親の就労状況(中学 2 年生):二世帯・三世帯別

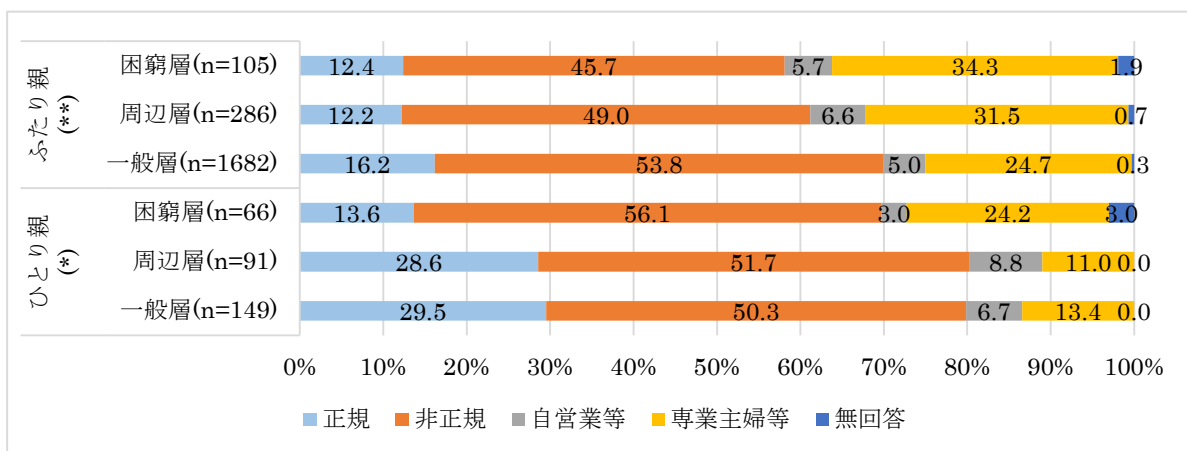


次に、ふたり親世帯、ひとり親世帯それぞれにおいて、生活困難度の違いによって、母親の就労状況に差があるのかをみた。世帯タイプを分けて集計するのは、そもそも、ふたり親世帯の母親とひとり親世帯の母親では就労行動が全く異なるからである。まず、小学 5 年生においては、ふたり親世帯の母親の就労率は生活困難度があがるにつれて低くなる傾向がみられる。ふたり親世帯の母親の就労率（正規＋非正規＋自営業等）は、困窮層、周辺層、一般層の順に、63.8%、67.8%、75.0%と多くなっており、また正規雇用の割合も一般層にて高い。逆に、専業主婦等の割合は、34.3%、31.5%、24.7%と一般層の方が低い。すなわち、専業主婦等のいる世帯が裕福というわけではなく、むしろ、母親の就労は生活困難の緩和に役立っている可能性がある。

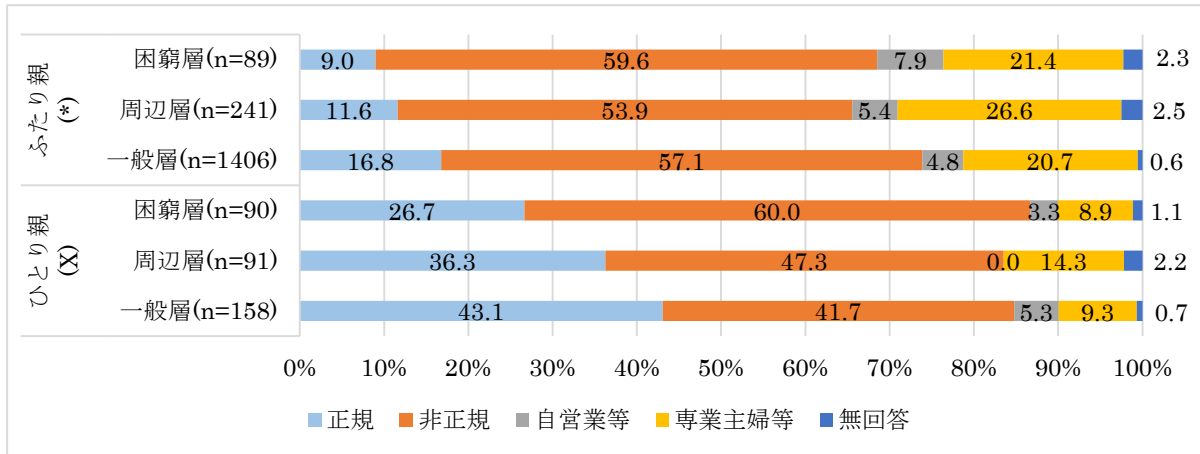
ひとり親世帯内で比較すると、周辺層と一般層においては大きな差がないものの、困窮層においては、正規雇用の割合が他層の半分以下であり、また、専業主婦等の割合は 2 倍以上である 24.2%となっている。

中学 2 年生の世帯においては、生活困難度によらず、高い就労率となっており、ふたり親世帯で 70.9%~78.7%、ひとり親世帯で 83.6%~90.1%となっている。また、ふたり親世帯では生活が困窮するほど、正規雇用の割合が低くなる傾向がみられる。ひとり親世帯についても、同様の傾向がみられたが、サンプル数が少ないため統計的に有意ではない。

図表 2-2-5 母親の就労状況(小学 5 年生):世帯タイプ・生活困難度別

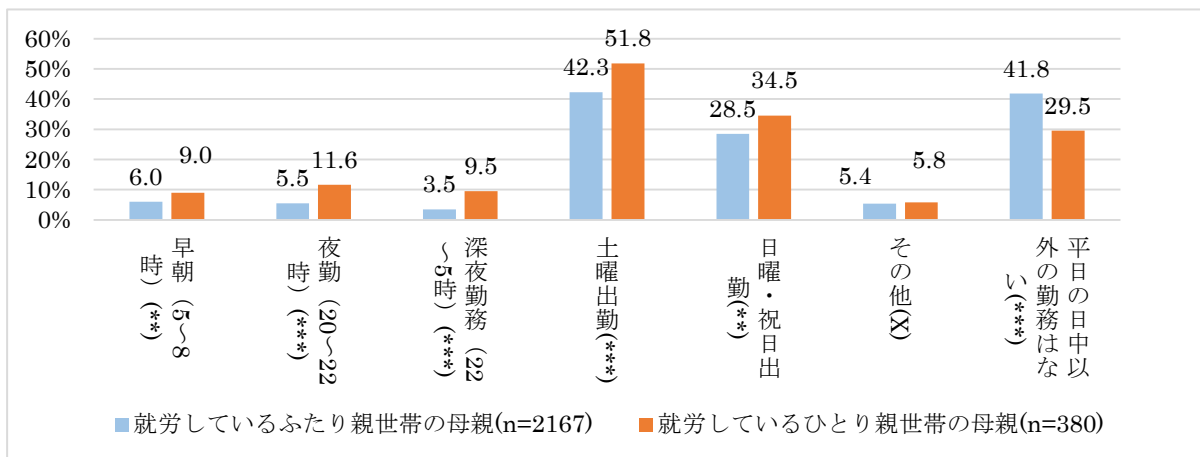


図表 2-2-6 母親の就労状況(中学 2 年生):世帯タイプ・生活困難度別

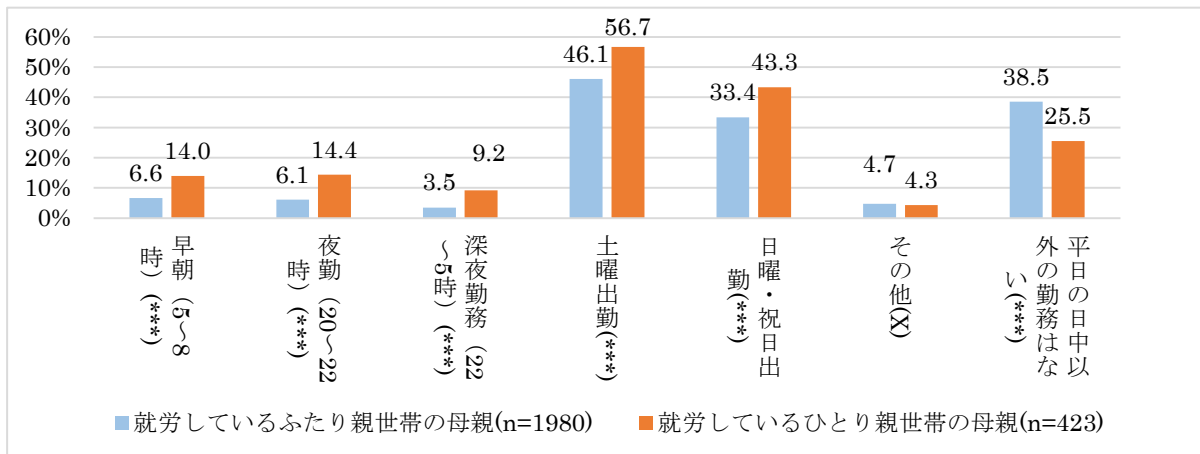


就労している時間帯については、両学年ともひとり親世帯の母親の方が、ふたり親世帯の母親よりも、平日の日中以外に勤務している傾向がある。

図表 2-2-7 母親の平日の日中以外の就労状況(小学 5 年生):世帯タイプ別



図表 2-2-8 母親の平日の日中以外の就労状況(中学 2 年生):世帯タイプ別



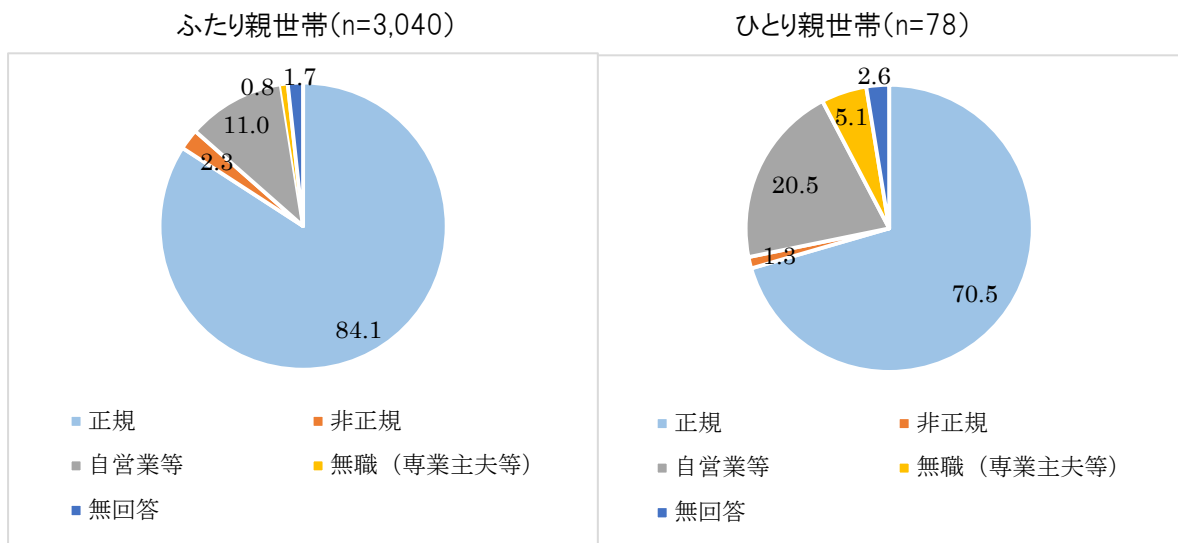


## (2) 父親の就労状況

小学5年生の父親については、ふたり親世帯の父親の84.1%は正規雇用の職についており、自営・家業・その他は11.0%、非正規雇用は2.3%、無職は0.8%であった。ひとり親世帯の父親の場合、正規雇用の職の割合が少なく、70.5%であった。代わりに多いのが、自営業等20.5%、無職5.1%であった。

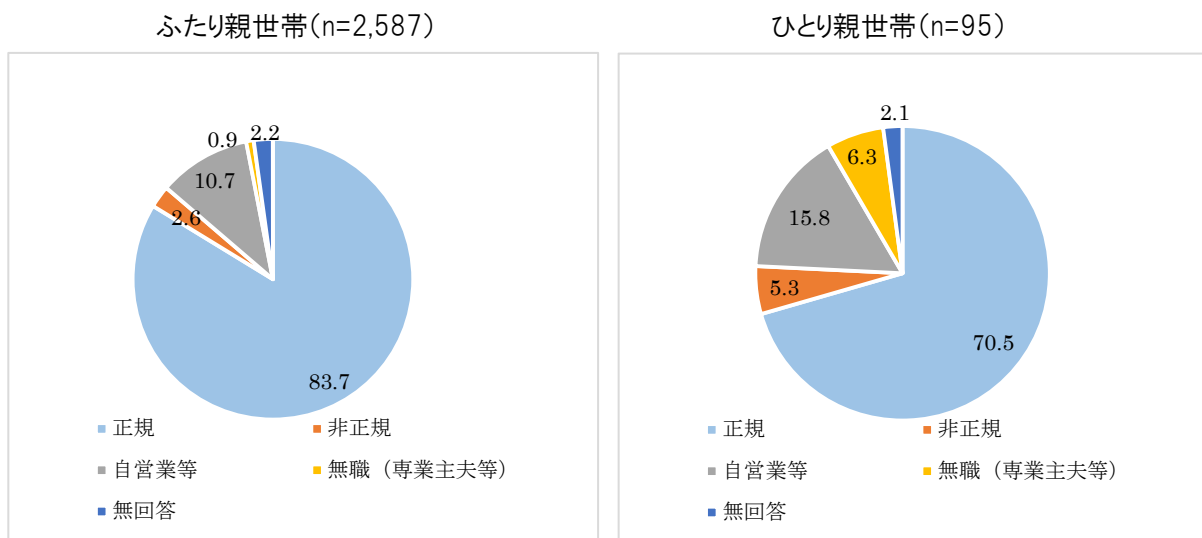
中学2年生の父親についても、ほぼ同じ割合であり、ふたり親世帯では父親の83.7%、ひとり親世帯では父親の70.5%が正規雇用となっている。小学5年生の父親、中学2年生の父親ともにひとり親世帯であると正規雇用の割合が少なくなっており、自営業等、無職の割合が多くなっている。

図表 2-2-9 父親の就労状況(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



\*父親が世帯内に同居している場合に限って集計

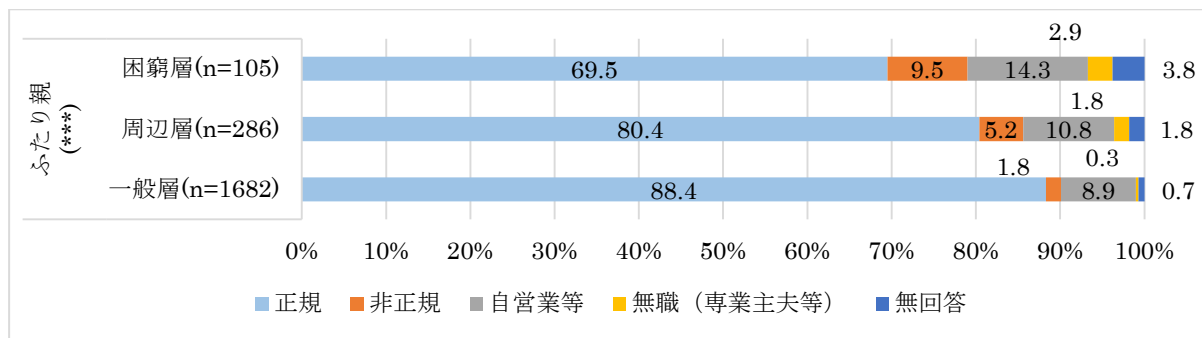
図表 2-2-10 父親の就労状況(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



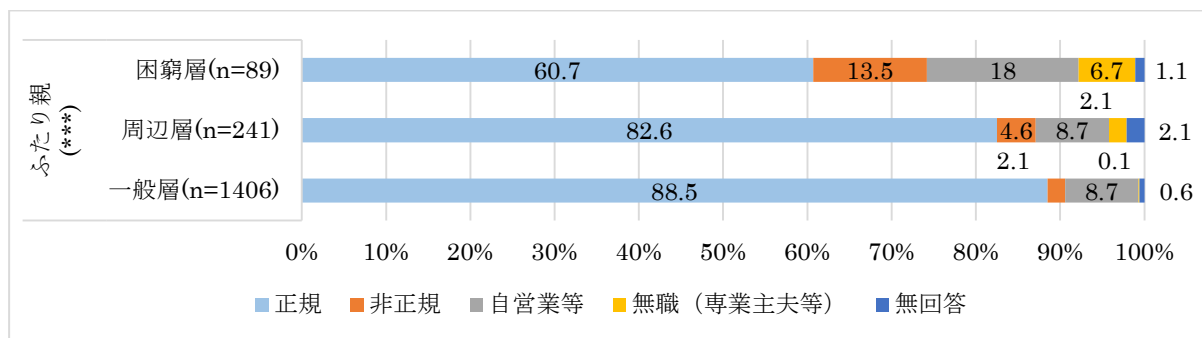
\*父親が世帯内に同居している場合に限って集計

次に、ふたり親世帯の父親の就労状況を、生活困難度別にみた。ひとり親世帯の父親については、サンプル数が少ないため、両学年ともに集計はおこなっていない。ふたり親世帯の父親については、両学年ともに、生活困難度が高いほど正規雇用の割合が低くなっている。とくに困窮層の正規雇用の割合は、小学5年生では69.5%、中学2年生では60.7%と、一般層のそれぞれ88.4%、88.5%と比べて20ポイント近い差がある。

図表 2-2-11 父親の就労状況(小学5年生):ふたり親世帯のみ、生活困難度別



図表 2-2-12 父親の就労状況(中学2年生):ふたり親世帯のみ、生活困難度別



# 第3章 松戸市の子どもたちの生活困難の状況

## 1. 生活困難層の定義

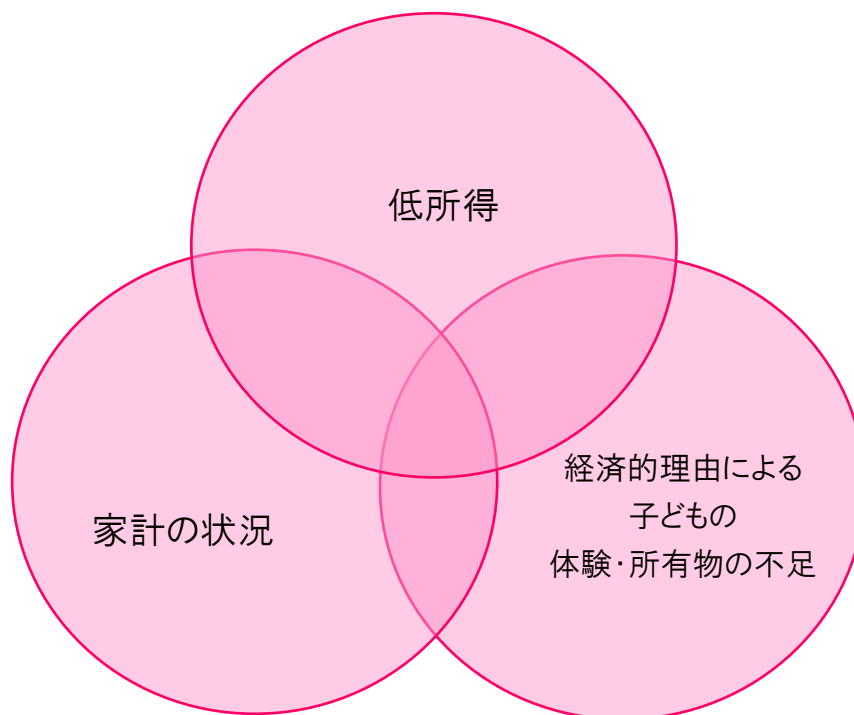
本調査では、子どもたちの「生活困難」を以下の3つの要素（低所得、家計の状況、経済的理由による子どもたちの体験・所有物の不足）に基づいて分類した。3つの要素のうち、二つ以上の要素に該当した場合を「困窮層」、一つのみ該当した場合を「周辺層」と定義し、「困窮層」、「周辺層」を合わせて「生活困難層」と定義する。

図表 3-1-1 生活困難について

①低所得	③経済的理由による子どもたちの体験・所有物の不足
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯&lt;低所得基準&gt;</p> <p>世帯所得の中央値 428 万円÷ √平均世帯人数(2.47 人)×50% =136.2 万円</p> <p>二人世帯の場合=192.6 万円 四人世帯の場合=272.3 万円</p>	<p>子どもたちの体験や所有物などに関する 15 項目のうち、<u>経済的な理由で</u>、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 海水浴に行く</li> <li>2 博物館・科学館・美術館などに行く</li> <li>3 キャンプやバーベキューに行く</li> <li>4 スポーツ観戦や劇場に行く</li> <li>5 遊園地やテーマパークに行く(*)</li> <li>6 毎月おこづかいを渡す</li> <li>7 毎年新しい洋服・靴を買う</li> <li>8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる</li> <li>9 学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう)</li> <li>10 お誕生日のお祝いをする</li> <li>11 1年に1回くらい家族旅行に行く</li> <li>12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる</li> <li>13 子供の年齢に合った本</li> <li>14 子供用のスポーツ用品・おもちゃ</li> <li>15 子供が自宅で宿題(勉強)をすることができる場所</li> </ol>
②家計の状況	
<p><u>経済的な理由で</u>、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上が該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 電話料金</li> <li>2 電気料金</li> <li>3 ガス料金</li> <li>4 水道料金</li> <li>5 家賃</li> <li>6 家族が必要とする食料が買えなかった</li> <li>7 家族が必要とする衣類が買えなかった</li> </ol>	

◆生活困難層(困窮層・周辺層)、一般層

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



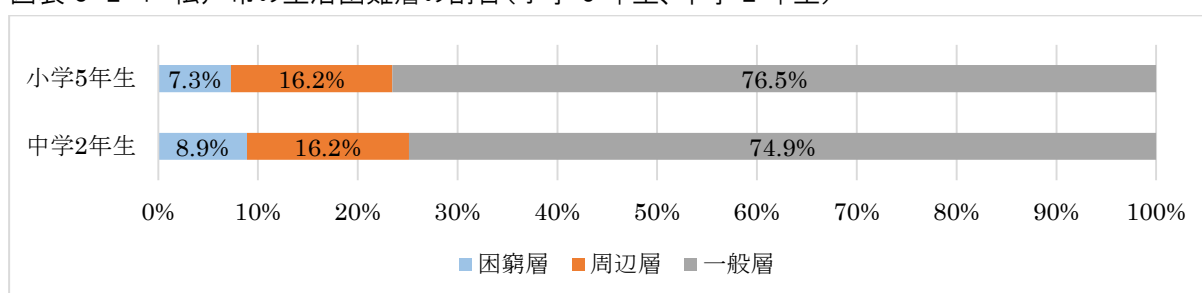
## 2. 松戸市の生活困難

### (1) 松戸市の生活困難層

松戸市の生活困難度別の子どもの割合は、小学5年生においては、困窮層 7.3%、周辺層 16.2%、一般層 76.5%であった。中学2年生においては、この割合は困窮層 8.9%、周辺層 16.2%、一般層 74.9%である。

生活困難層を判定するための3軸をそれぞれ見てみると、低所得率は、小学5年生では 11.4%、中学2年生では 12.1%であり、中学2年生の方が小学5年生より若干高い率となっている。家計の状況と子どもの体験・所有物の不足については、小学5年生の方が、中学2年生に比べて高い率となっている。

図表 3-2-1 松戸市の生活困難層の割合(小学5年生、中学2年生)



図表 3-2-2 生活困難層の割合(全体)

	小学5年生	中学2年生
	(サンプル数)	2,437
生活困難層	572 23.5%	537 25.1%
困窮層	178 7.3%	190 8.9%
周辺層	394 16.2%	347 16.2%
一般層	1865 76.5%	1601 74.9%

	小学5年生	中学2年生
低所得	300 11.4%	273 12.1%
家計の状況	316 11.1%	284 9.6%
子供の体験・所有物の不足	401 14.4%	427 13.7%

\*サンプル数は生活困難度が判別できたサンプルの数

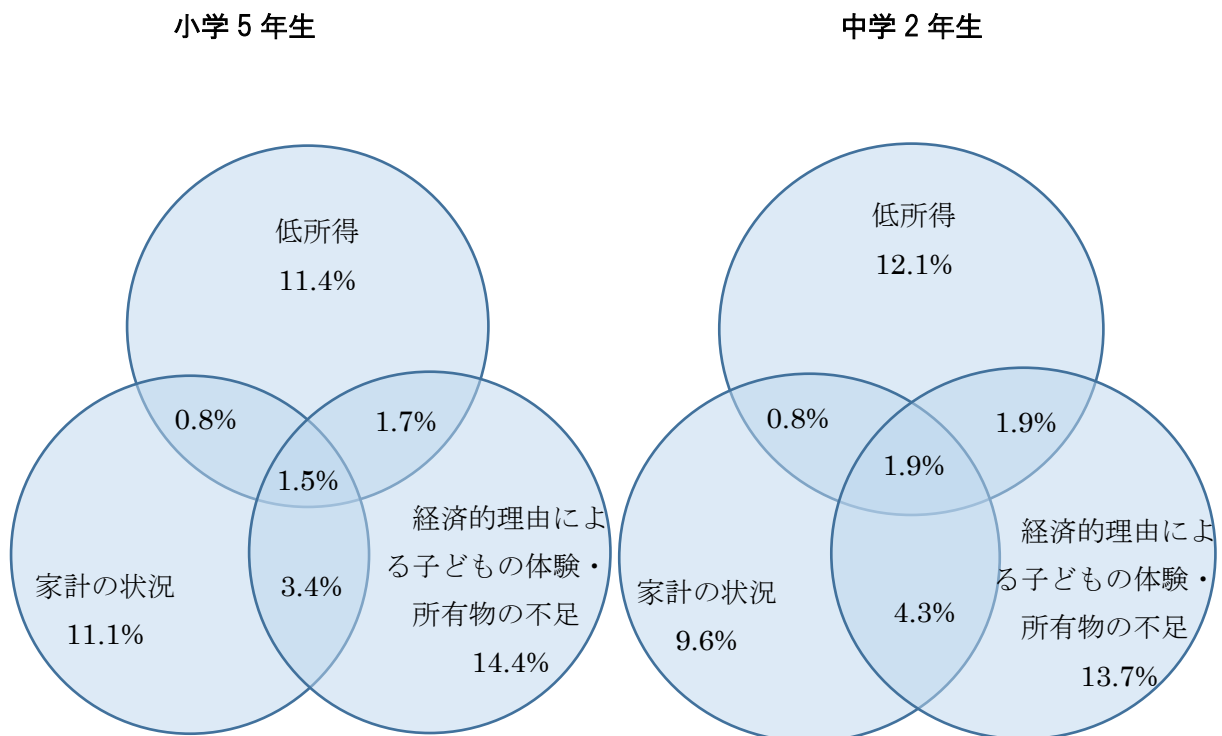
図表 3-2-3 生活困難層の割合(小学 5 年生)

困窮層	3 つに該当	低所得+家計の状況+ 子どもの体験・所有物の不足	1.5%	7.3%
	2 つに該当	低所得+家計の状況	0.8%	
		低所得+子どもの体験・所有物の不足	1.7%	
		家計の状況+子どもの体験・所有物の不足	3.4%	
周辺層	1 つに該当	低所得のみ	7.6%	16.2%
		家計の状況のみ	3.8%	
		子どもの体験・所有物の不足のみ	4.8%	
困窮層と周辺層の計				23.5%

図表 3-2-4 生活困難層の割合(中学 2 年生)

困窮層	3 つに該当	低所得+家計の状況+ 子どもの体験・所有物の不足	1.9%	8.9%
	2 つに該当	低所得+家計の状況	0.8%	
		低所得+子どもの体験・所有物の不足	1.9%	
		家計の状況+子どもの体験・所有物の不足	4.3%	
周辺層	1 つに該当	低所得のみ	7.6%	16.2%
		家計の状況のみ	2.7%	
		子どもの体験・所有物の不足のみ	5.9%	
困窮層と周辺層の計				25.1%

図表 3-2-5 三つの要素の大きさ:年齢層別

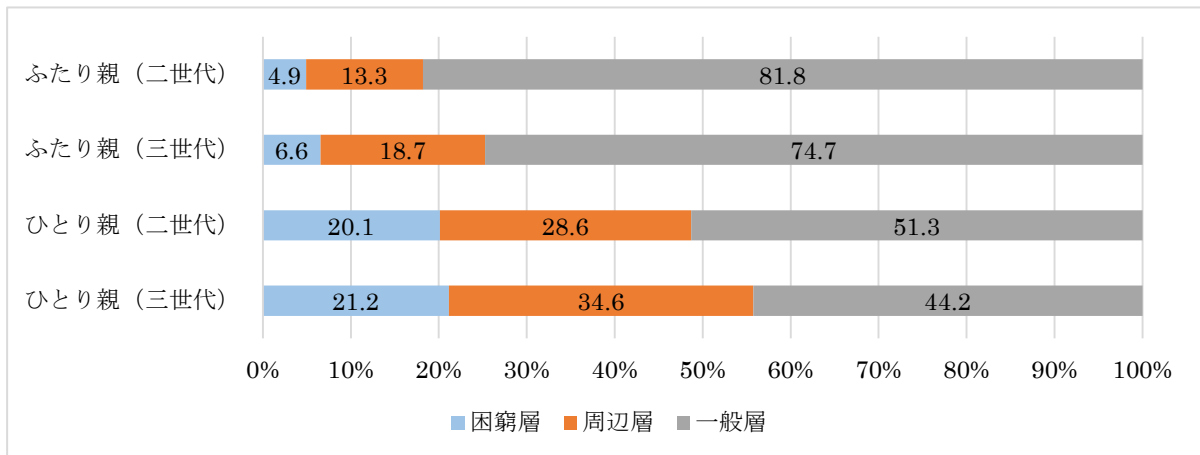


## (2) 世帯タイプ別の生活困難層の割合

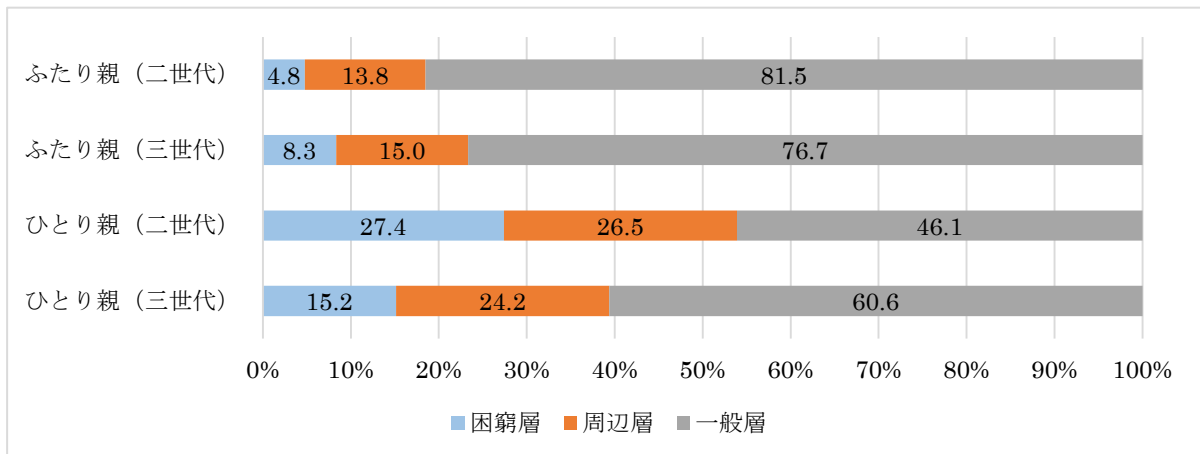
次に、世帯タイプ別にみると、小学5年生においては、ふたり親（二世帯）世帯の困窮層の割合は4.9%、周辺層の割合は13.3%、ふたり親（三世帯）世帯では6.6%、18.7%、ひとり親（二世帯）世帯では20.1%、28.6%、ひとり親世帯（三世帯）では21.2%、34.6%となっている。ひとり親世帯の生活困難層（困窮層+周辺層）の割合は、二世帯世帯で48.7%、三世帯世帯で55.8%である。二世帯世帯と、三世帯世帯の比較においては、ふたり親世帯もひとり親世帯も、三世帯世帯の方が、生活困難層が多い。

中学2年生においては、ふたり親（二世帯）世帯については、小学5年生と殆ど変わらず、困窮層4.8%、周辺層13.8%となっている。ふたり親（三世帯）世帯、ひとり親（二世帯）世帯については、小学5年生より多い傾向があり、それぞれ困窮層8.3%、周辺層15.0%（ふたり親（三世帯）世帯）、困窮層27.4%、周辺層26.5%（ひとり親（二世帯）世帯）となっている。ひとり親（三世帯）世帯の困窮層の割合は15.2%、周辺層の割合は24.2%となっており、小学5年生よりも低い割合である。両学年ともに、ふたり親世帯よりひとり親世帯の方が生活困難層の割合が著しく高い。

図表 3-2-6 松戸市の生活困難層(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 3-2-7 松戸市の生活困難層(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 3-2-8 生活困難層の分布:世帯タイプ別

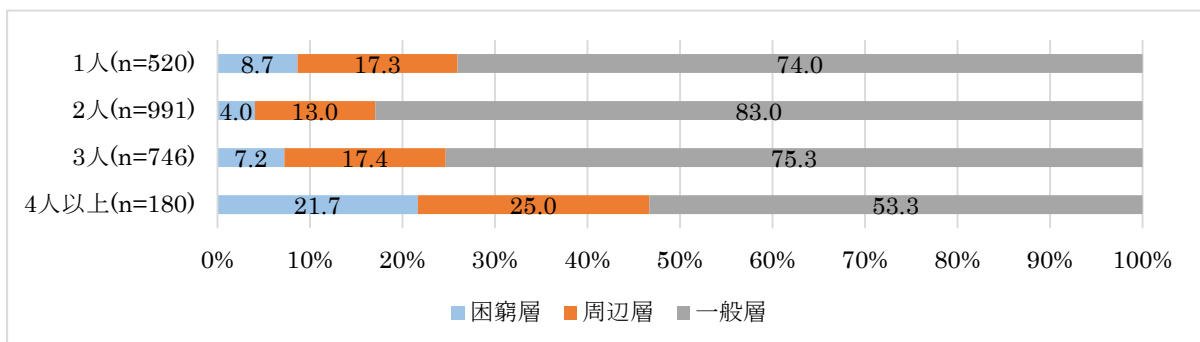
(サンプル数)		年齢層	ふたり親 (二世帯)	ふたり親 (三世帯)	ひとり親 (二世帯)	ひとり親 (三世帯)
		小学 5 年生 中学 2 年生	1,875 1,556	198 180	308 332	52 66
生活困難層	困窮層	小学 5 年生	92 4.9%	13 6.6%	62 20.1%	11 21.2%
		中学 2 年生	74 4.8%	15 8.3%	91 27.4%	10 15.2%
	周辺層	小学 5 年生	249 13.3%	37 18.7%	88 28.6%	18 34.6%
		中学 2 年生	214 13.8%	27 15.0%	88 26.5%	16 24.2%
一般層	小学 5 年生	1,534 81.8%	148 74.7%	158 51.3%	23 44.2%	
	中学 2 年生	1,268 81.5%	138 76.7%	153 46.1%	40 60.6%	

\*サンプル数は、世帯タイプと生活困難度が判別できたサンプルの数。

### (3) 子どもの人数別の生活困難層の割合

次に、世帯内の子どもの人数別に生活困難度をみると、小学 5 年生、中学 2 年生の両学年において、子どもの人数が 2 人の世帯の生活困難層の割合が最も低く、次に、子どもの人数が 3 人の世帯、1 人の世帯と続き、子どもの人数が 4 人以上の世帯の順になっている。子どもの人数が 4 人以上の世帯は割合としては、少ないものの（小学 5 年生では 7.5%、中学 2 年生では 6.0%）、生活困難を抱える世帯は約半数となっている。

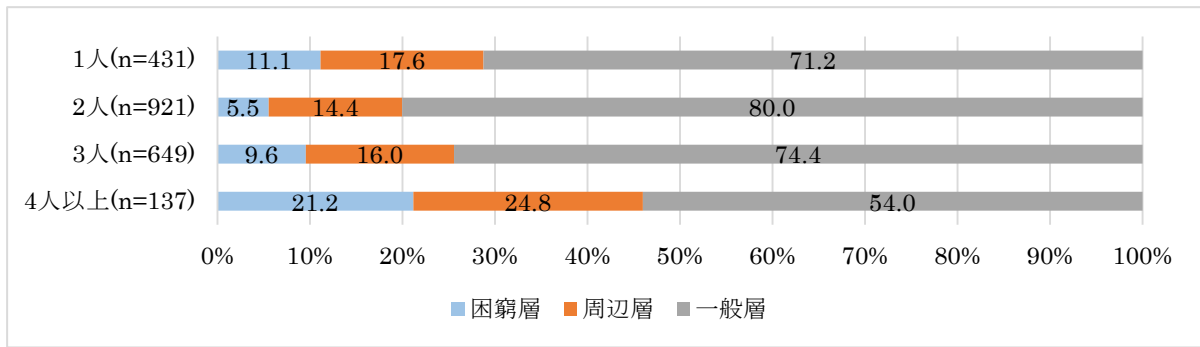
図表 3-2-9 生活困難度(小学 5 年生):子どもの人数別



\*保護者票の回答者が施設職員の場合は、集計外。



図表 3-2-10 生活困難度(中学 2 年生):子どもの人数別



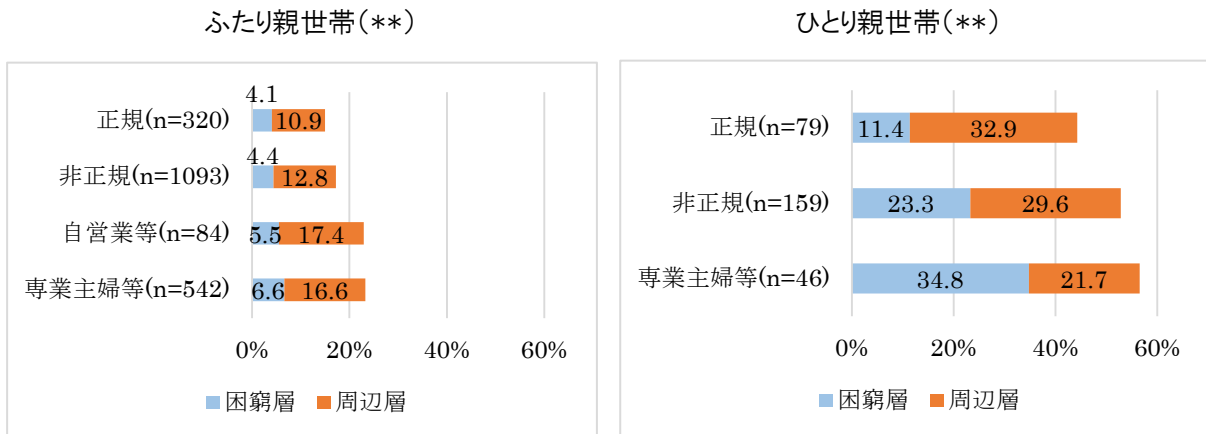
\*保護者票の回答者が施設職員の場合は、集計外。

#### (4) 親の就労状況別の生活困難層の割合

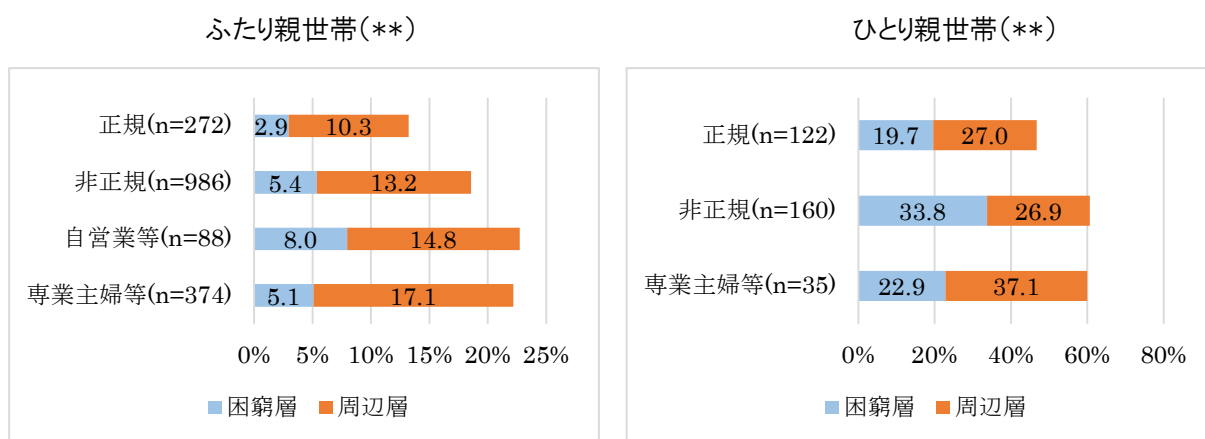
次に、世帯タイプを分けただうえで、親の就労状況別に生活困難度をみる。まず、ふたり親世帯にて母親が正規雇用の場合は、困窮層が 4.1%であるのに対し、専業主婦等の場合は 6.6%となっている。続いて、非正規雇用は 4.4%、自営業等は 5.5%である。母親が就労しており、かつ、雇用されていると、生活困難に陥る割合が少なくなることがわかる。かつては、専業主婦がいる世帯が裕福なイメージがあったが、松戸市のデータをみる限り、両学年とも、母親が正規雇用に就いている方が、母親が専業主婦である世帯より生活困難が少ない。しかしながら、母親が正規雇用には就いている場合においても、一定数の困窮層、周辺層が存在することは留意しなくてはならない。

ひとり親世帯では、正規雇用の場合に困窮層が少ないことが顕著であり、小学 5 年生においては母親が正規雇用である場合と、専業主婦等である場合は、困窮層の割合が 20 ポイント以上異なる。しかし、この差は、中学 2 年生では 3 ポイントほどになっており、一定ではない。これは、ひとり親世帯でかつ母親が専業主婦等のサンプル数が少ないこと（小学 5 年生 46 名、中学 2 年生 35 名）も影響している。なお、ひとり親世帯の周辺層の割合は、母親が正規雇用には就いていても 32.9%（小学 5 年生）、27.0%（中学 2 年生）である。

図表 3-2-11 生活困難度(小学 5 年生):世帯タイプ別および母親の就労状況別



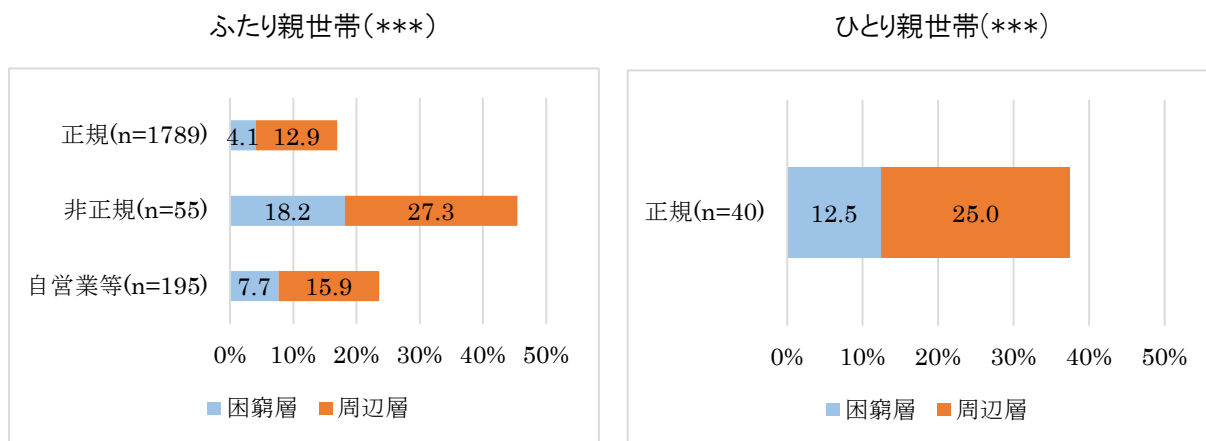
図表 3-2-12 生活困難度(中学 2 年生):世帯タイプ・母親の就労状況別



次に、世帯タイプを分けたうえで、父親の就労状況別に生活困難度をみる。ただし、ふたり親世帯では専業主婦等、ひとり親世帯では正規雇用以外はサンプル数が少ないため集計外とする。ふたり親世帯においては、父親が正規雇用にいる場合は困窮層が 4.1% (小学 5 年生)、3.6% (中学 2 年生) であり、非正規雇用、自営業等の場合に比べて困窮層が少ない。周辺層については、正規雇用と自営業等では大きな差はないが、非正規雇用の場合に他の就労形態よりも約 2 倍の割合となる。結果、父親が非正規雇用の場合、生活困難層の割合は、小学 5 年生で 45.5%、中学 2 年生で 43.4%となる。

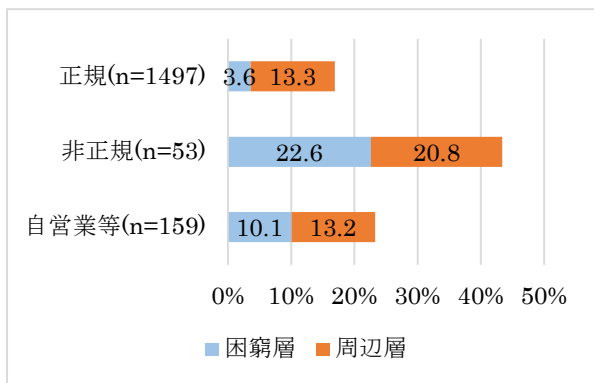
ひとり親世帯の場合は、正規雇用であっても困窮層が 12.5% (小学 5 年生)、11.8% (中学 2 年生)、周辺層が 25.0% (小学 5 年生)、17.6% (中学 2 年生) となっている。

図表 3-2-13 生活困難度(小学 5 年生):世帯タイプ別および父親の就労状況別

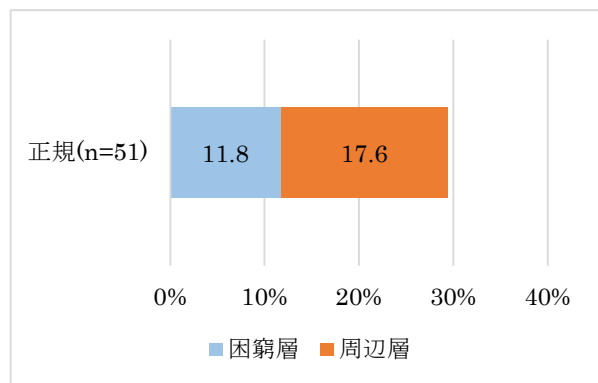


図表 3-2-14 生活困難度(中学 2 年生):世帯タイプ別および父親の就労状況別

ふたり親世帯(\*\*\*)



ひとり親世帯(\*\*)

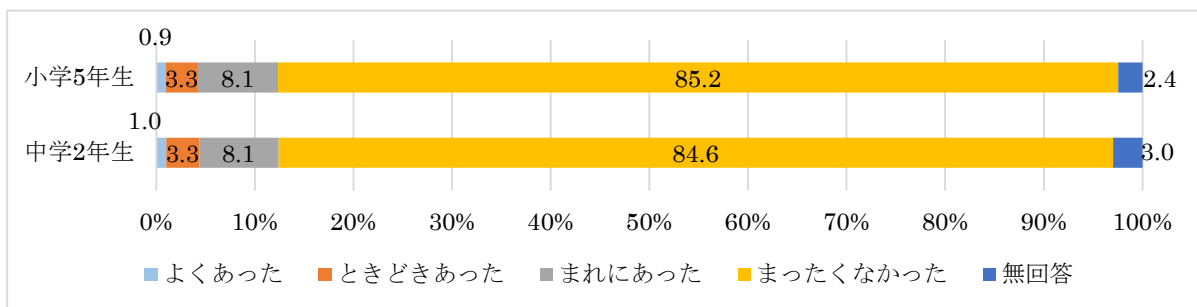


### 3. 家計の状況

#### (1) 食料を買えなかった経験

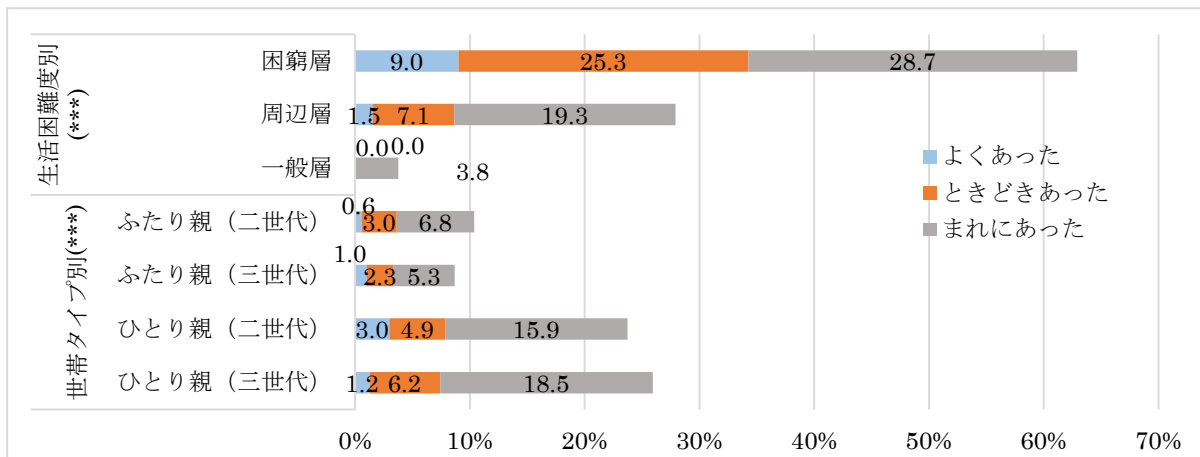
子どものいる世帯が、実際にどのような困難に直面しているのかをみるために、まず、「あなたのご家庭では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」という設問に対する回答を集計した。すると、小学 5 年生の保護者では 85.2%、中学 2 年生の保護者では 84.6%が「まったくなかった」と回答しているものの、それ以外の回答もみられた。小学 5 年生は、0.9%が「よくあった」、3.3%が「ときどきあった」、8.1%が「まれにあった」と回答しており、合計すると 12.3%の世帯で食料が買えなかった経験がある。中学 2 年生では、この割合が 1.0%、3.3%、8.1%となり、計 12.4%となる。

図表 3-3-1 食料を買えなかった経験(小学 5 年生、中学 2 年生)

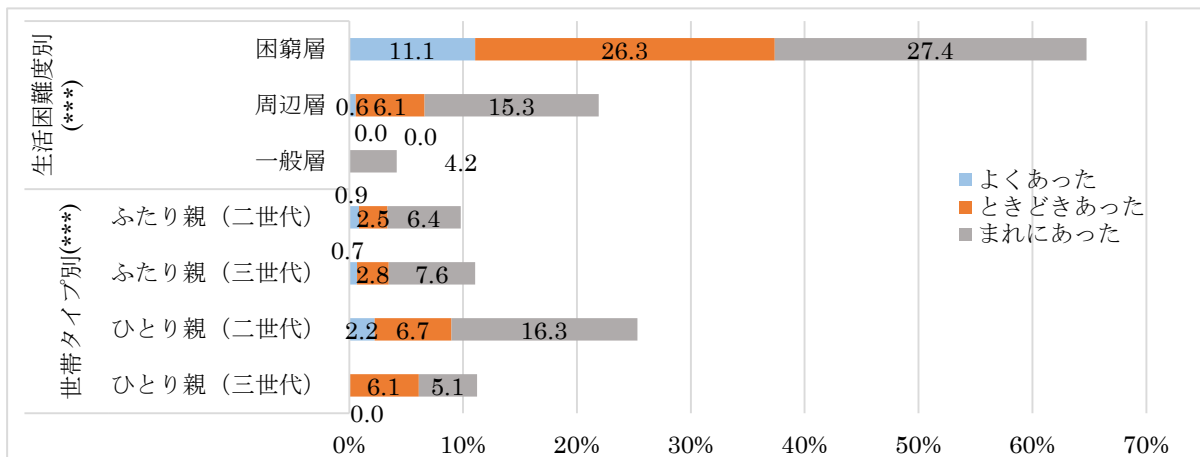


生活困難度別、世帯タイプ別にみると、困窮層、周辺層、一般層の順で、また、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも食料を買えなかった経験がある世帯が多い。特に困窮層においては、小学 5 年生では 9.0%、中学 2 年生では 11.1%が「よくあった」と回答した世帯に育っている。「まれにあった」、「ときどきあった」まで含めると、食料が買えなかった経験がある世帯は困窮層のそれぞれ 63.0%、64.8%を占める。

図表 3-3-2 食料を買えなかった経験(小学 5 年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 3-3-3 食料を買えなかった経験(中学 2 年生):生活困難度別、世帯タイプ別

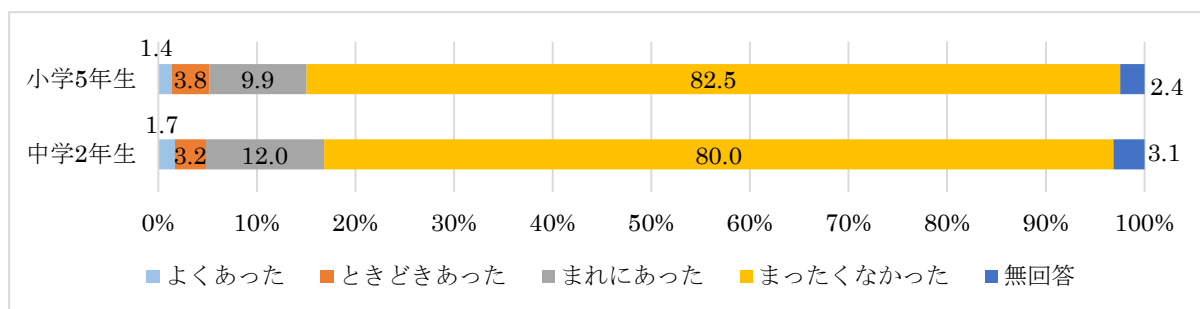


## (2) 衣類を買えなかった経験

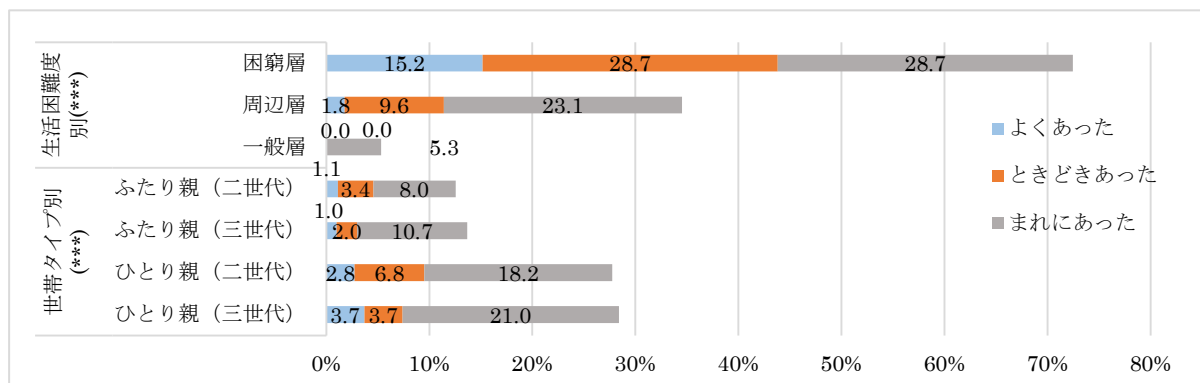
次に、「衣類を買えないことがありましたか」の問いの回答をみると、小学 5 年生の世帯では 1.4%が「よくあった」、3.8%が「ときどきあった」、9.9%が「まれにあった」と回答しており、全体の 15.1%が衣類を買えなかった経験がある。中学 2 年生の世帯では、この割合は 1.7%、3.2%、12.0%、計 16.9%となっている。

生活困難度別、世帯タイプ別の差も検証され、困窮層では「まれにあった」まで含めると 72.6% (小学 5 年生)、76.3% (中学 2 年生) に衣類が買えなかった経験がある。ひとり親世帯では、ふたり親世帯に比べて、衣類が買えなかった経験をもつ子どもが多い。

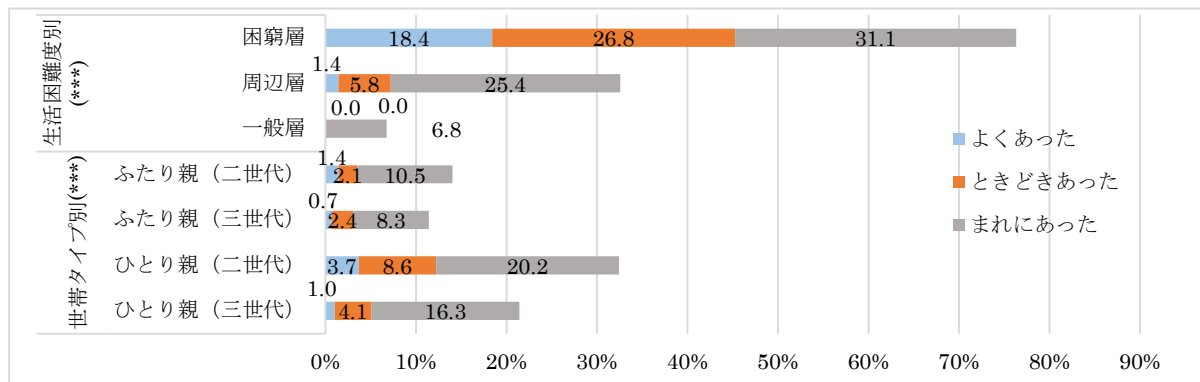
図表 3-3-4 衣類を買えなかった経験(小学5年生、中学2年生)



図表 3-3-5 衣類を買えなかった経験(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 3-3-6 衣類を買えなかった経験(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別

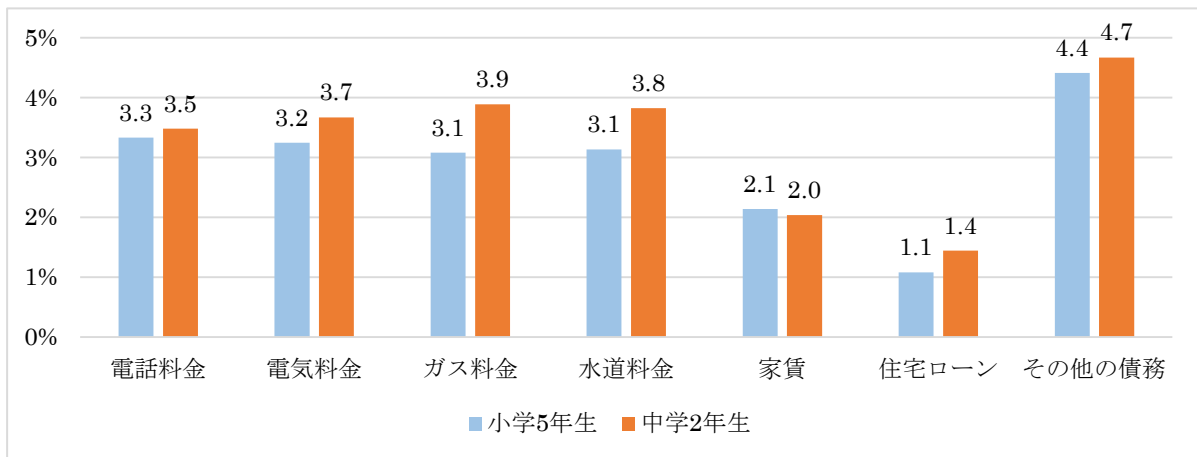


### (3) 公共料金の滞納経験

次に、公共料金（電話、電気、ガス、水道）、家賃、住宅ローン、その他の債務の滞納経験をみる。本調査では、保護者票にて「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか」との設問を設けており、「あった」、「なかった」、「該当しない（払う必要がない）」の3つの選択肢を設けている。この中で「あった」と答えた世帯の割合を集計した。

小学5年生の世帯では、3.1%~3.3%の世帯が、電話、電気、ガス、水道料金の滞納経験があったと答えている。また、家賃については、2.1%、住宅ローンについては1.1%、その他の債務については4.4%に滞納経験がある。中学2年生の世帯についても、全体の3.5%~3.9%の世帯において、電話、電気、ガス、水道料金の滞納経験があり、2.0%が家賃、1.4%が住宅ローン、4.7%がその他債務の滞納経験があると答えている。

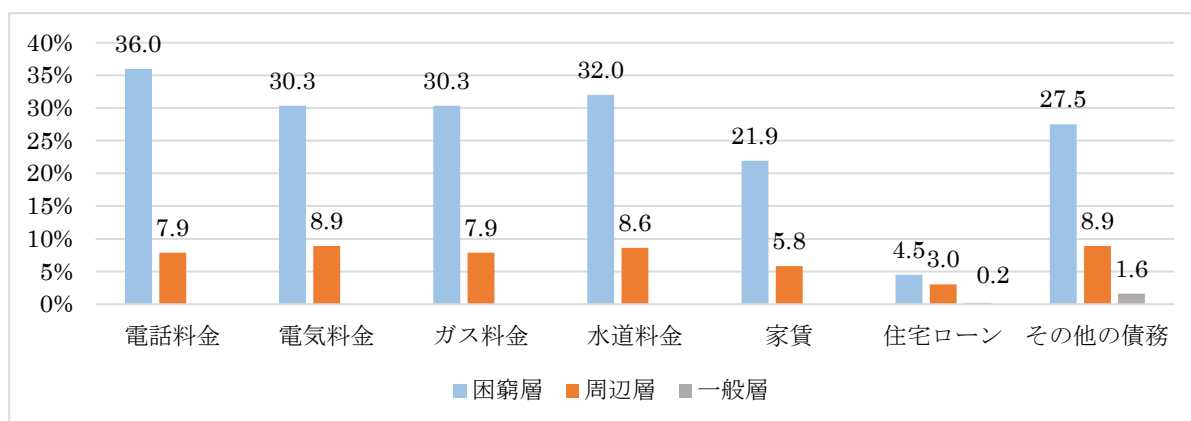
図表 3-3-7 公共料金の滞納の経験(小学5年生、中学2年生)



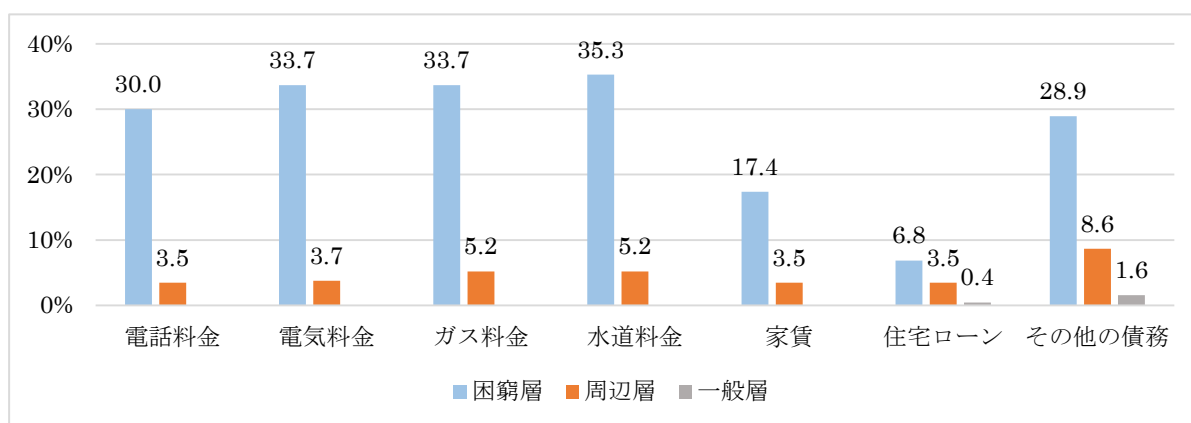
生活困難度別に集計すると、小学5年生の困窮層では、30%を超える世帯、また、周辺層においても7.9~8.9%の世帯において、電話、電気、ガス、水道料金が払えなかった経験がある。なお、一般層は生活困難度の定義上、これらの滞納がない世帯のみである。家賃、住宅ローン、その他の債務においては、家賃の滞納が困窮層では21.9%、周辺層で5.8%、住宅ローンはそれぞれ4.5%、3.0%、その他の債務については、27.5%、8.9%となっている。中学2年生においても、同様の傾向が認められるが、周辺層については小学5年生よりも滞納経験が少ない傾向がある。

世帯タイプ別には、ひとり親世帯とふたり親世帯の差は、生活困難度別の差ほど顕著ではないが、それでも統計的に有意な差が検証される。特に、滞納が他の世帯タイプより際立っているのが、中学2年生におけるひとり親（二世帯）である。また、小学5年生では、ひとり親（三世帯）世帯も項目によってはひとり親（二世帯）世帯を上回る。

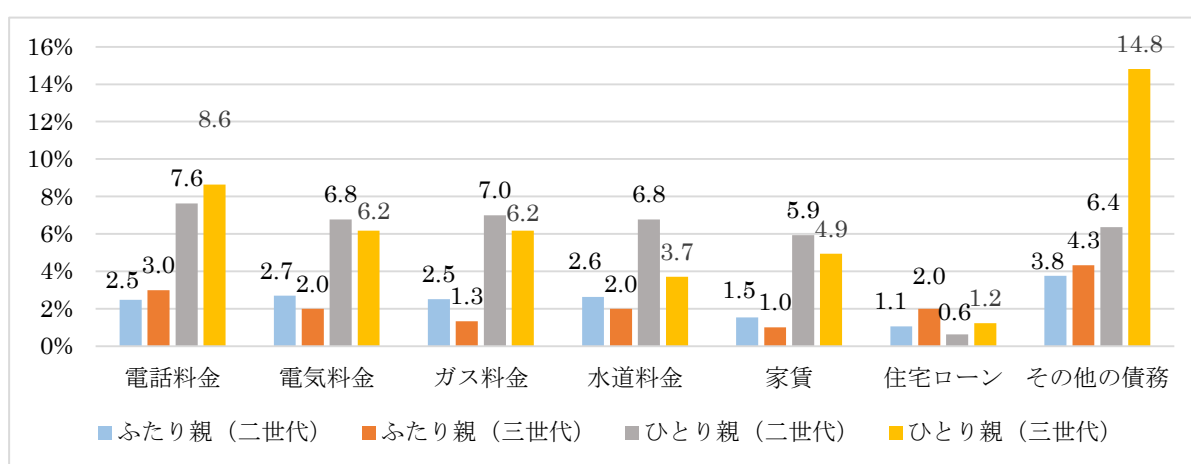
図表 3-3-8 公共料金の滞納の経験(小学5年生):生活困難度別(すべて\*\*\*)



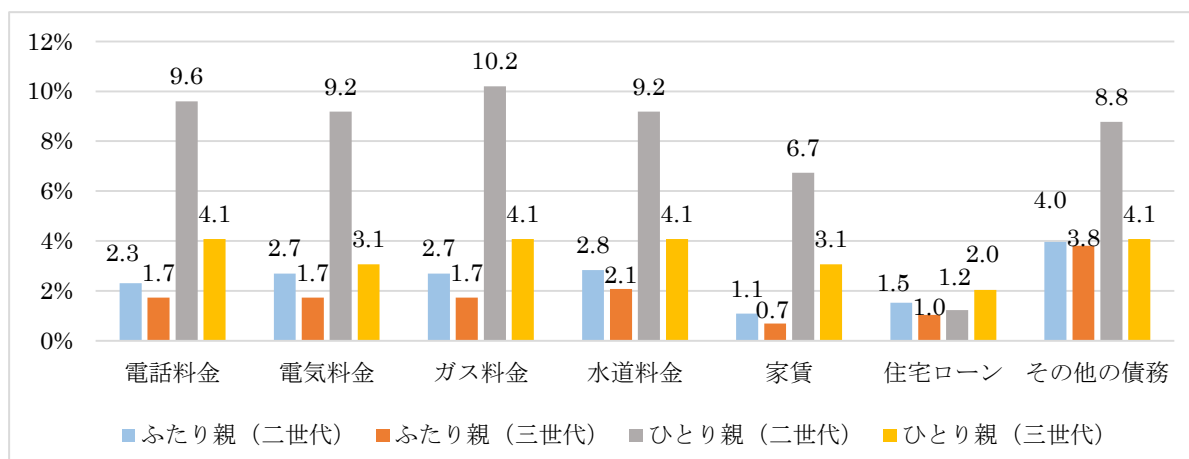
図表 3-3-9 公共料金の滞納の経験(中学2年生):生活困難度別(すべて\*\*\*)



図表 3-3-10 公共料金の滞納の経験(小学5年生):世帯タイプ別(すべて\*\*\*)



図表 3-3-11 公共料金の滞納の経験(中学 2 年生):世帯タイプ別(すべて\*\*\*)



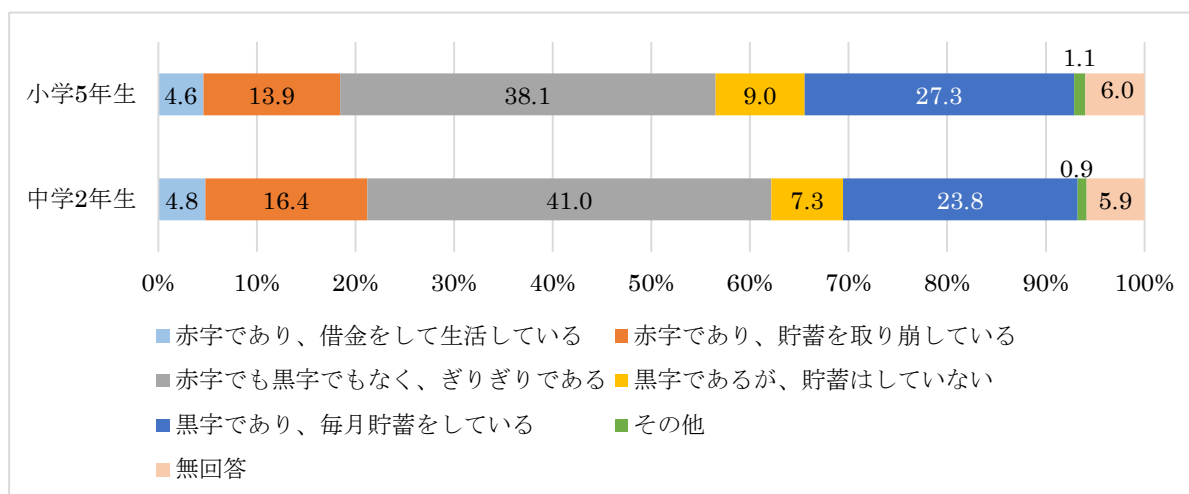
#### (4) 家計の収支の状況

次に、月々の家計の収支から生活困難度をみる。以下は、保護者票にて「ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください」との設問の集計結果である。

小学 5 年生では、全体の 4.6%が「赤字であり、借金をして生活をしている」、13.9%が「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と回答している。全体では、18.5%が赤字生活である。中学 2 年生では、赤字やぎりぎりの世帯が若干増え、「黒字であり毎月貯蓄をしている」が少なくなっている。

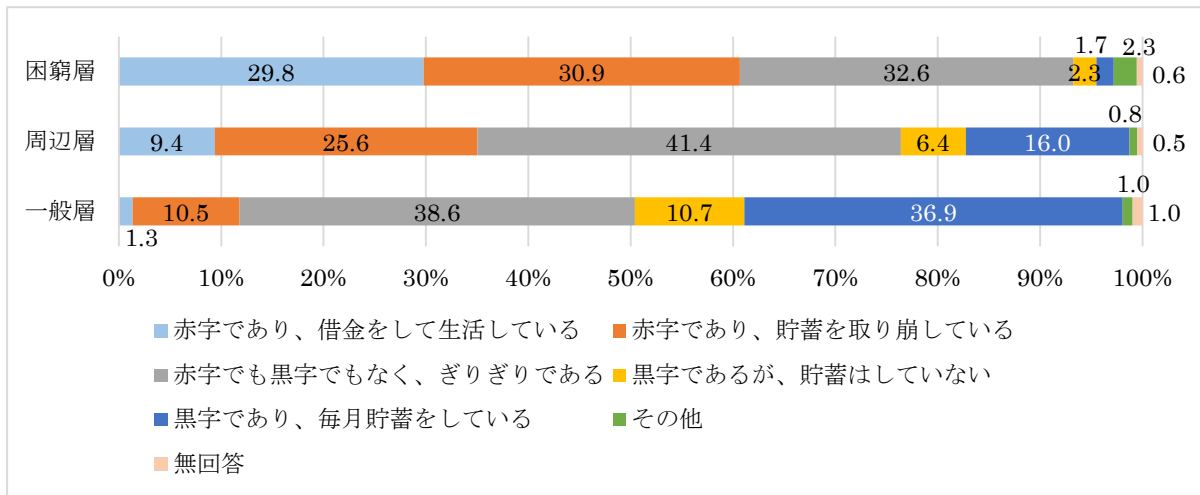
生活困難度別にみると、借金をして生活をしている世帯の割合は、困窮層では 29.8% (小学 5 年生)、29.5% (中学 2 年生) と約 3 世帯に 1 世帯となっている。また、世帯タイプ別にみると、ひとり親 (三世帯) 世帯において、借金をしている世帯が多い。

図表 3-3-12 家計の収支の状況(小学 5 年生、中学 2 年生)

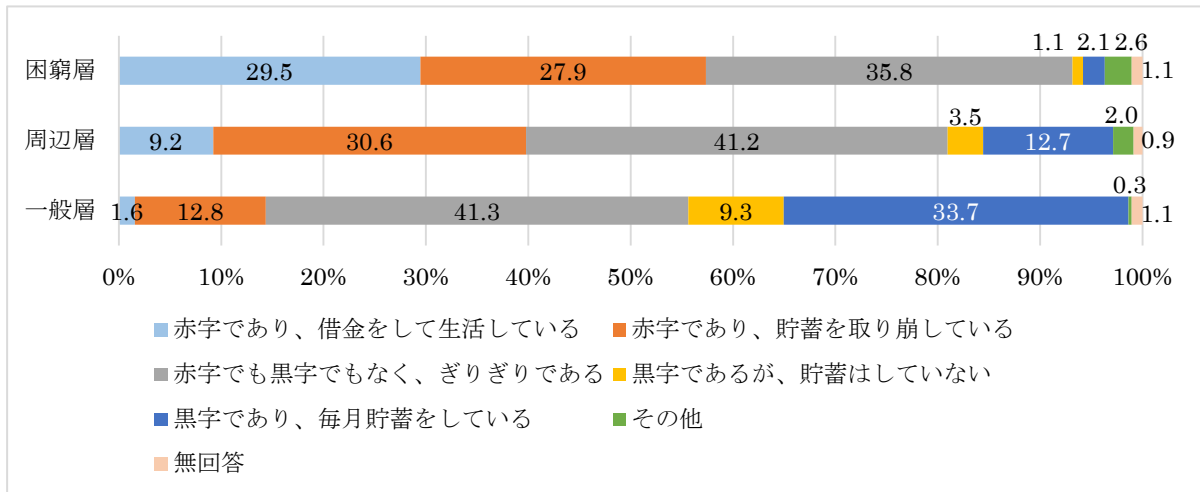




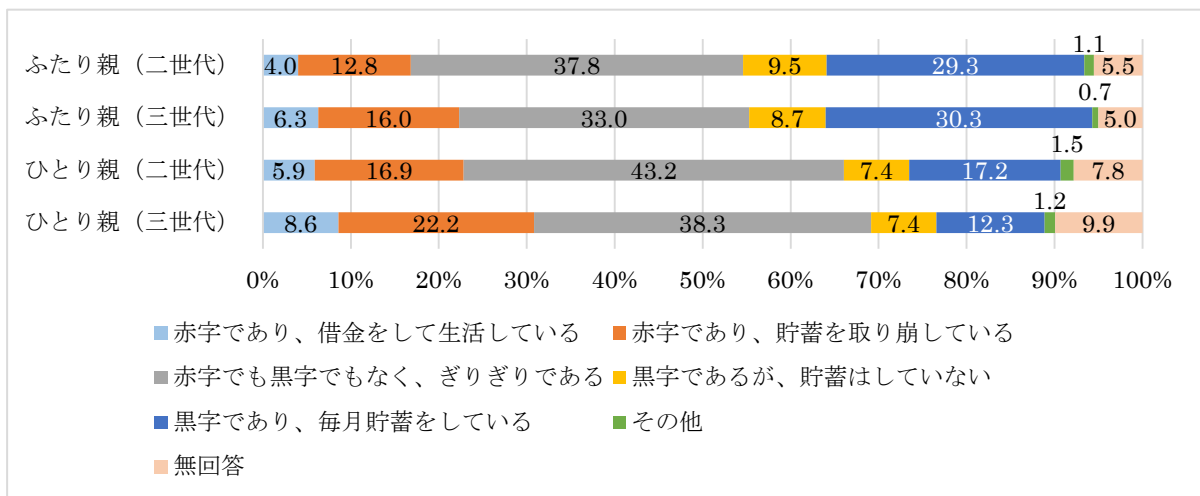
図表 3-3-13 家計の収支の状況(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



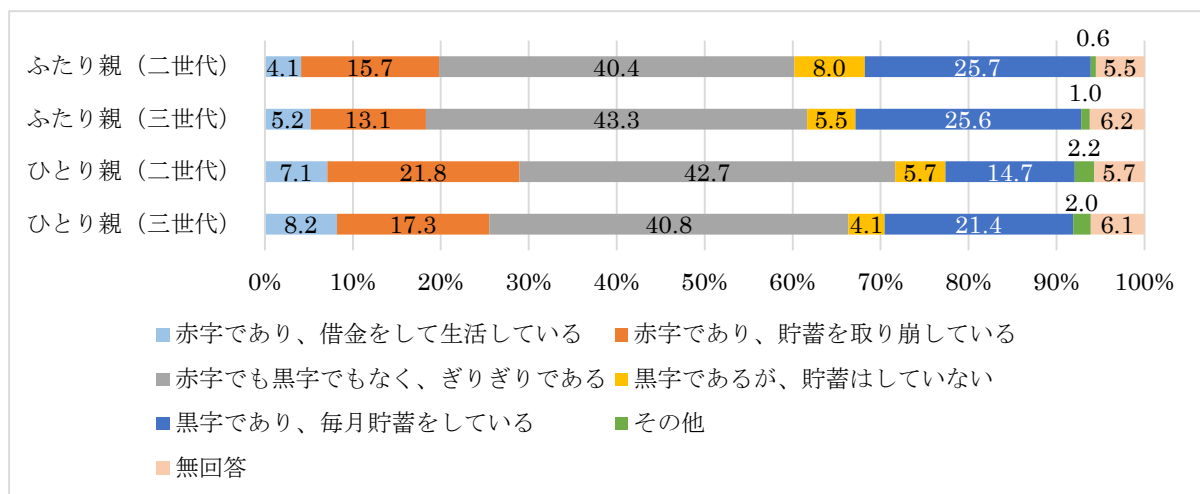
図表 3-3-14 家計の収支の状況(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 3-3-15 家計の収支の状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 3-3-16 家計の収支の状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



# 第4章 松戸市の子どもたちの生活

## 1. 子どもの食と栄養

### (1) 朝食の摂取状況

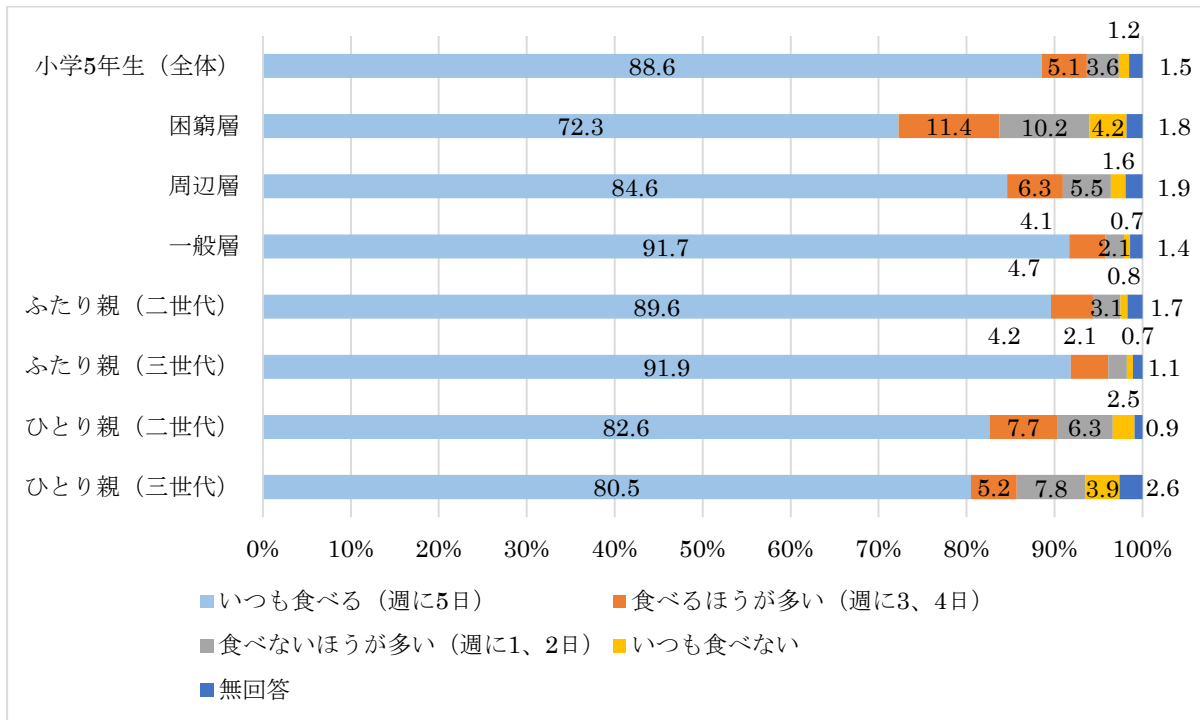
松戸市の子どもたちの平日の朝食の摂取状況を子ども票の回答からみた。小学5年生の88.6%、中学2年生の83.7%の子どもは、「いつも食べる」と回答しており、80%以上の子どもは毎日朝食を食べている。しかしながら、一部においては朝食を食べる頻度の低い子どもが存在する。小学5年生では「食べる方が多い(週に3、4日)」が5.1%、「食べない方が多い(週に1、2日)」が3.6%、「いつも食べない」が1.2%となっており、計9.9%と10人に1人の子どもが平日に、毎日朝食を食べていない。

中学2年生では、朝食を摂らない生徒の割合が若干増え、「食べるほうが多い(週に3、4日)」が6.9%、「食べないほうが多い(週に1、2日)」が5.3%、「いつも食べない」が3.0%となっており、合わせて計15.2%となっている。

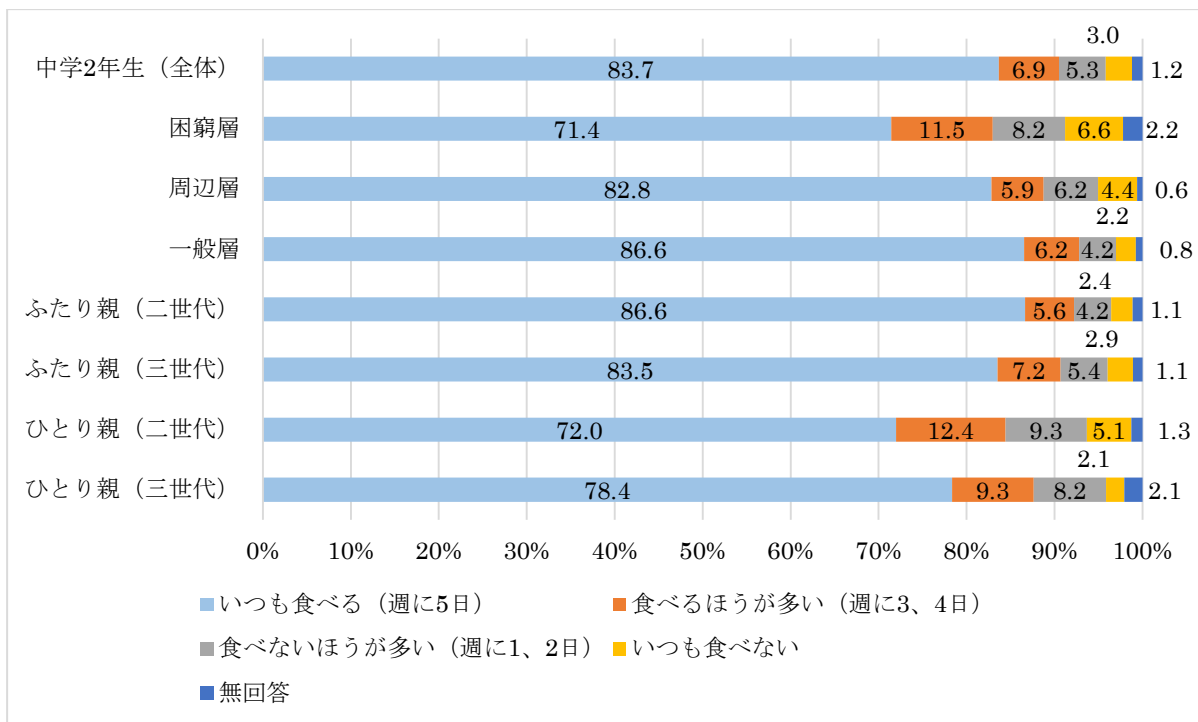
この割合を、生活困難度別にみると、特に困窮層においては、毎日朝食を食べない子どもが多くなっており、合わせると小学5年生の困窮層では25.8%、中学2年生の困窮層では26.3%と約4人に1人の子どもが朝食を毎日食べていない。特に、「食べない方が多い」、「いつも食べない」子どもが、困窮層では両学年ともに15%近くになっている。

世帯タイプ別では、小学5年生においては、ひとり親(三世代)世帯が朝食を「いつも食べる」子どもが最も少なく、中学2年生ではこれがひとり親(二世代)世帯の子どもとなっている。

図表 4-1-1 朝食の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 4-1-2 朝食の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)

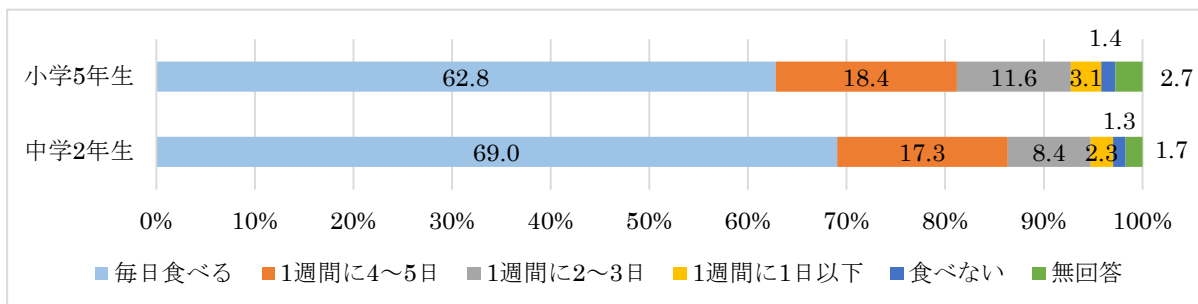


## (2) 食品群別の摂取状況 (野菜)

次に、食品群別の摂取の頻度をみていく。子ども票にて、給食以外に、野菜、くだもの、肉か魚、カップ麺・インスタント麺、コンビニのおにぎり・お弁当、お菓子のそれぞれについて、どれほど食べるかを5つの選択肢(「毎日食べる」、「1週間に4~5日(=食べる日の方が多い)」、「1週間に2~3日(=食べない日の方が多い)」、「1週間に1日以下」、「食べない」)を設けて聞いた。

まず、野菜については、小学5年生の62.8%、中学2年生の69.0%は、給食以外に「毎日」食べている。小学5年生においては、「1週間に4~5日」が18.4%、「1週間に2~3日」が11.6%、「1週間に1日以下」が3.1%、「食べない」が1.4%となっており、中学2年生においては、この割合はそれぞれ17.3%、8.4%、2.3%、1.3%となっている。

図表 4-1-3 野菜の摂取状況(小学5年生、中学2年生)

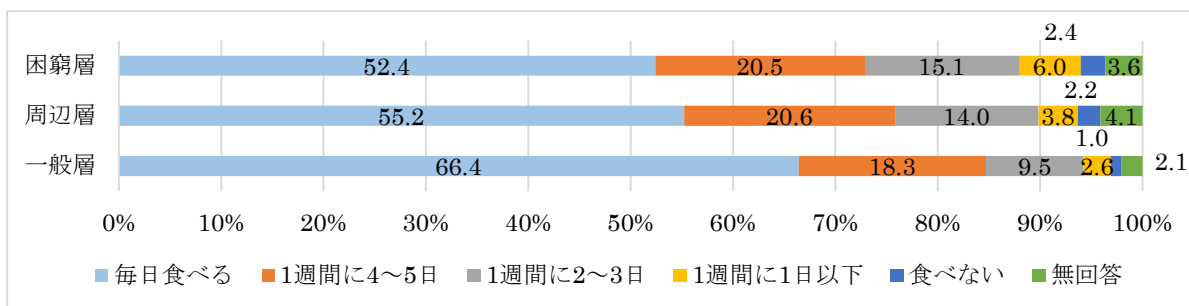


生活困難度別にみると、小学5年生、中学2年生ともに生活困難度が高いほど野菜を「毎日食べる」と回答した割合が低くなっている。

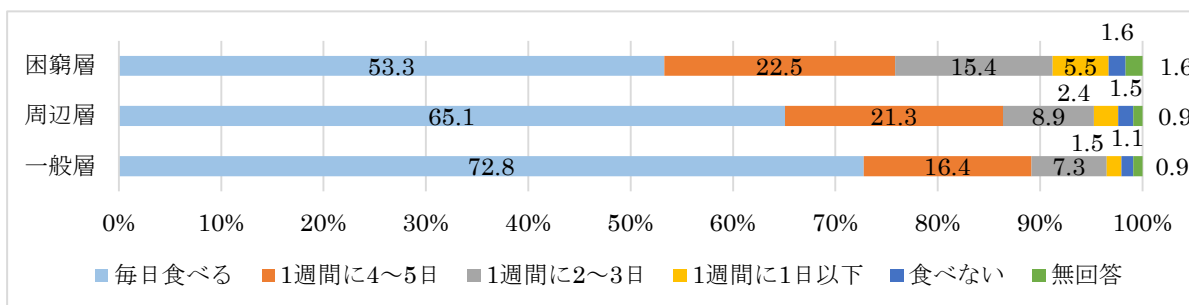
また、世帯タイプ別にみると、小学5年生、中学2年生ともにふたり親世帯よりひとり親世帯

の方が野菜を「毎日食べる」と回答した割合が低くなっている。

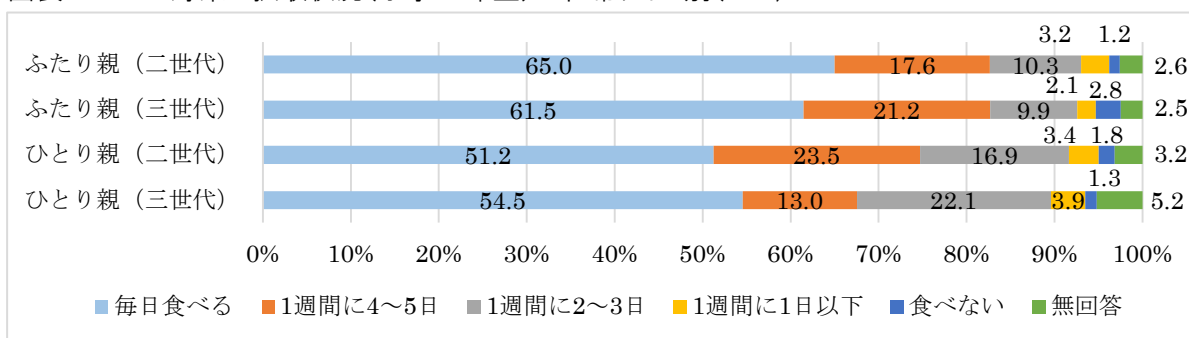
図表 4-1-4 野菜の摂取状況(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)



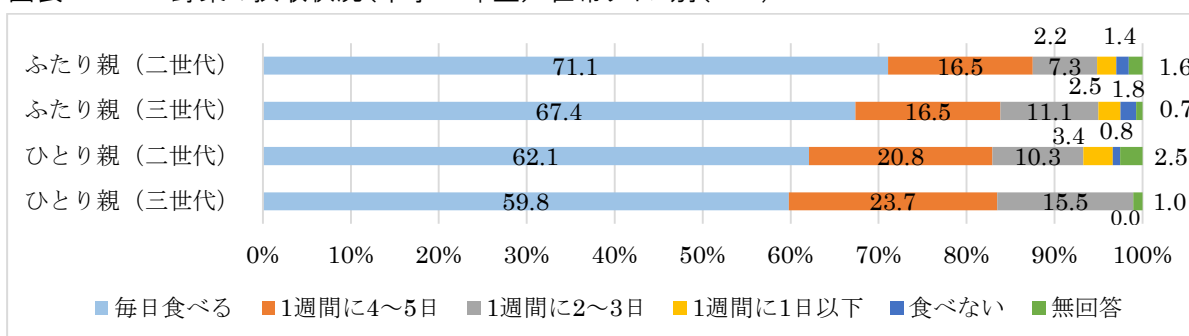
図表 4-1-5 野菜の摂取状況(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 4-1-6 野菜の摂取状況(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



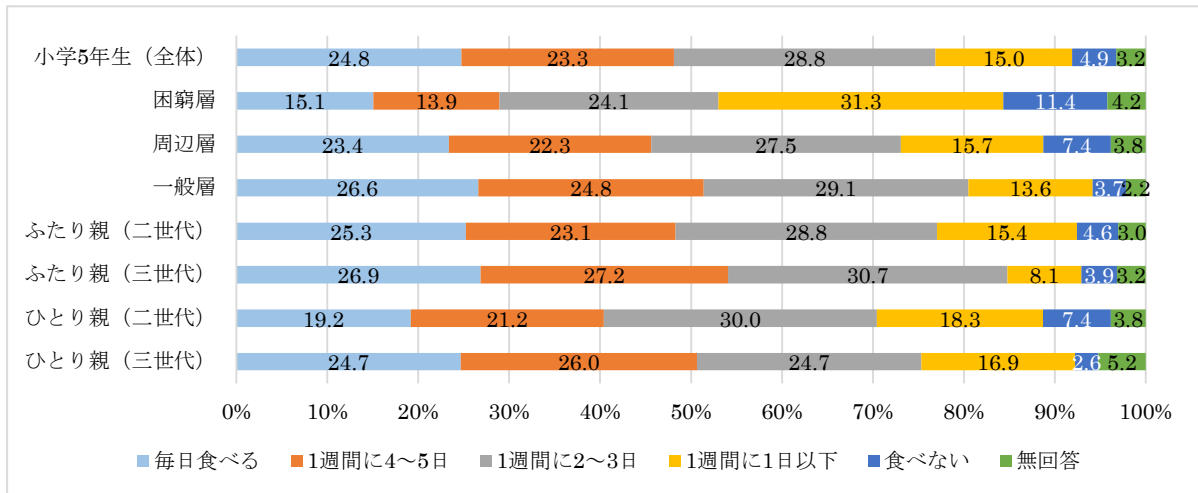
図表 4-1-7 野菜の摂取状況(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



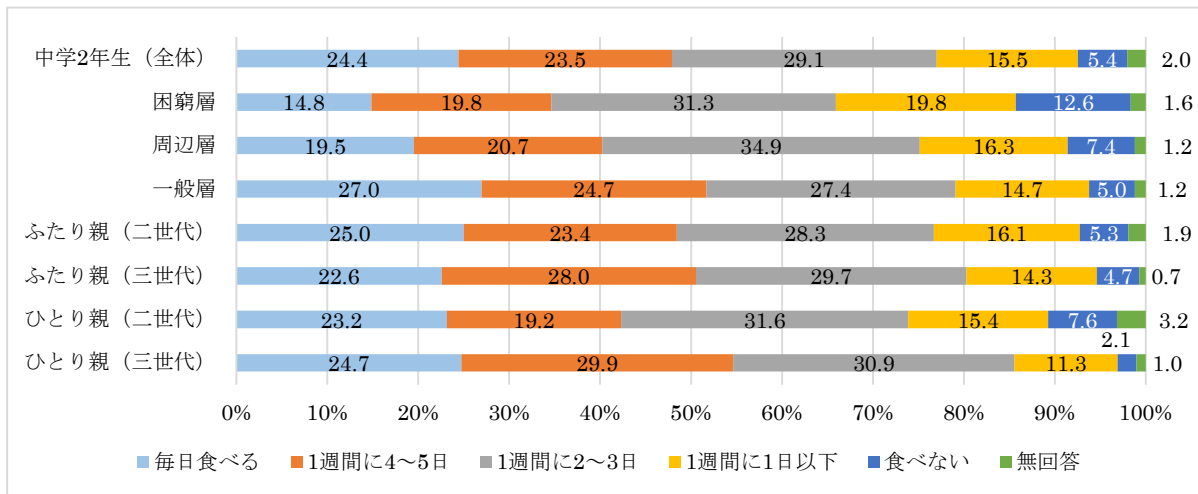
### (3) 食品群別の摂取状況（果物）

次に、果物の摂取状況をみると、最も多い回答は小学5年生でも中学2年生でも「1週間に2～3回」であり、それぞれ28.8%、29.1%となっている。一方で、果物をまったく「食べない」子どもは、小学5年生では4.9%、中学2年生では5.4%となっている。この割合は、困窮層ではそれぞれ11.4%、12.6%、ひとり親（二世帯）世帯においては、7.4%、7.6%となっており、果物をまったく食べていない子どもがこれらの層にて多い。

図表 4-1-8 果物の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



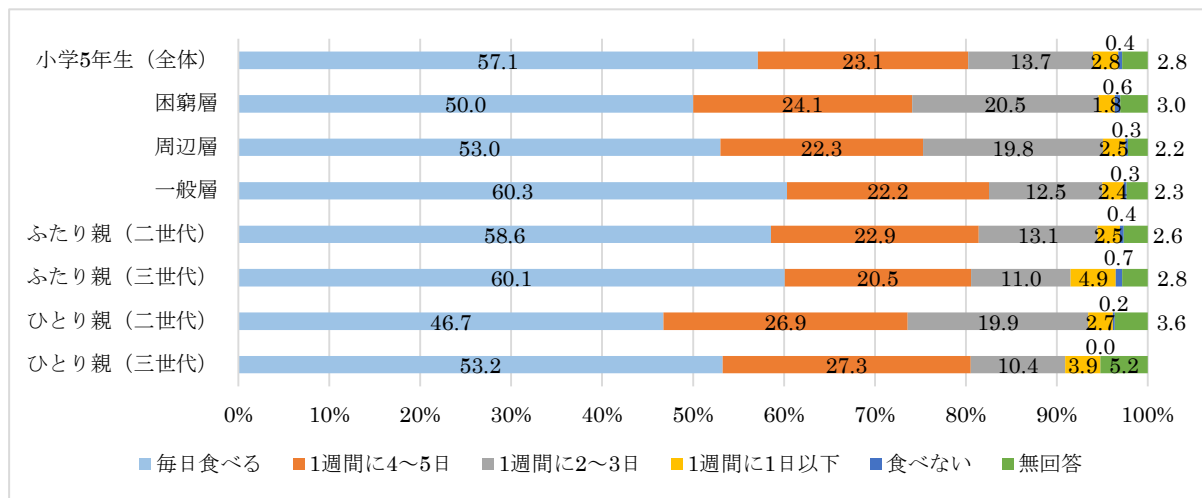
図表 4-1-9 果物の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



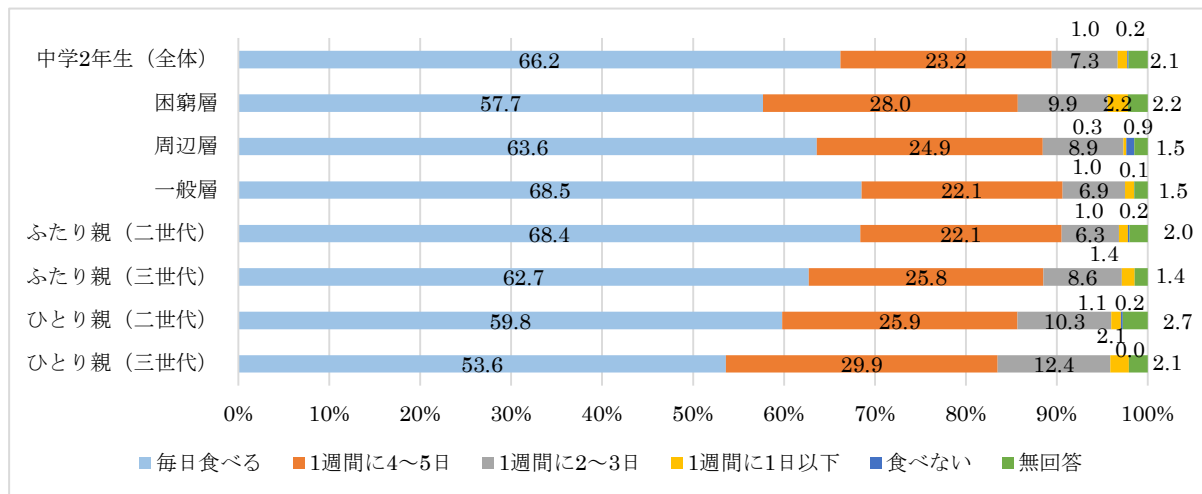
#### (4) 食品群別の摂取状況（肉か魚）

次に、「肉か魚」については、小学5年生の57.1%、中学2年生の66.2%が「毎日食べる」と回答している。まったく「食べない」と回答した子どもは、両学年ともにごく僅かであるが、「1週間に2~3日」、「1週間に1日以下」の子どもは小学5年生では合わせて16.5%、中学2年生では8.3%存在する。野菜、果物ほどではないが、「肉か魚」についても、生活困難度別、世帯タイプ別の差が検証され、生活困難度が高いほど、また、ふたり親世帯よりひとり親世帯の方が、「肉か魚」を「毎日食べる」と回答した割合が低い。

図表 4-1-10 肉か魚の摂取状況(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



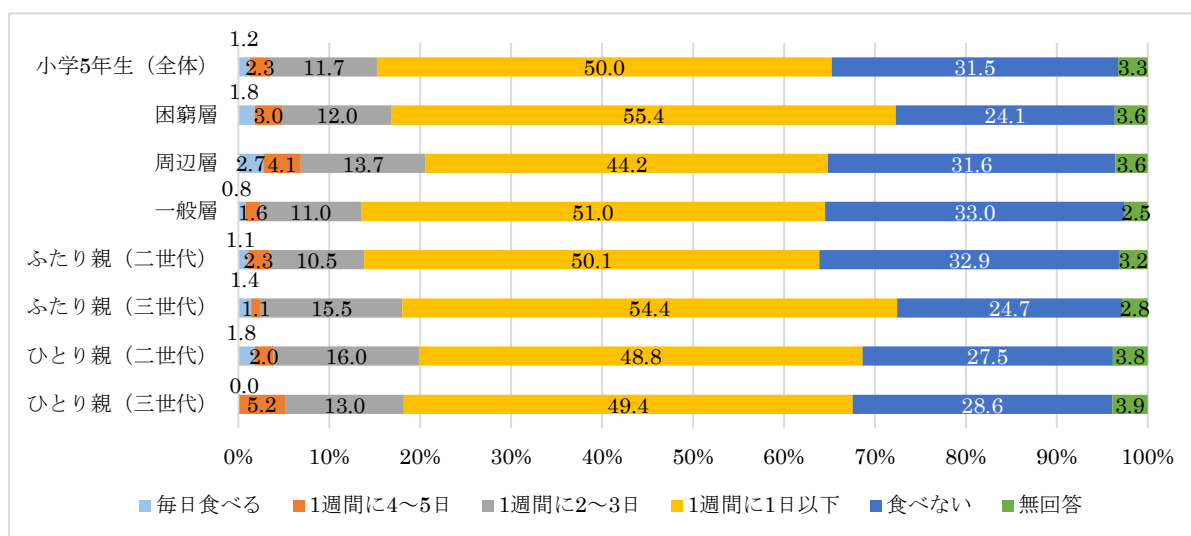
図表 4-1-11 肉か魚の摂取状況(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*)



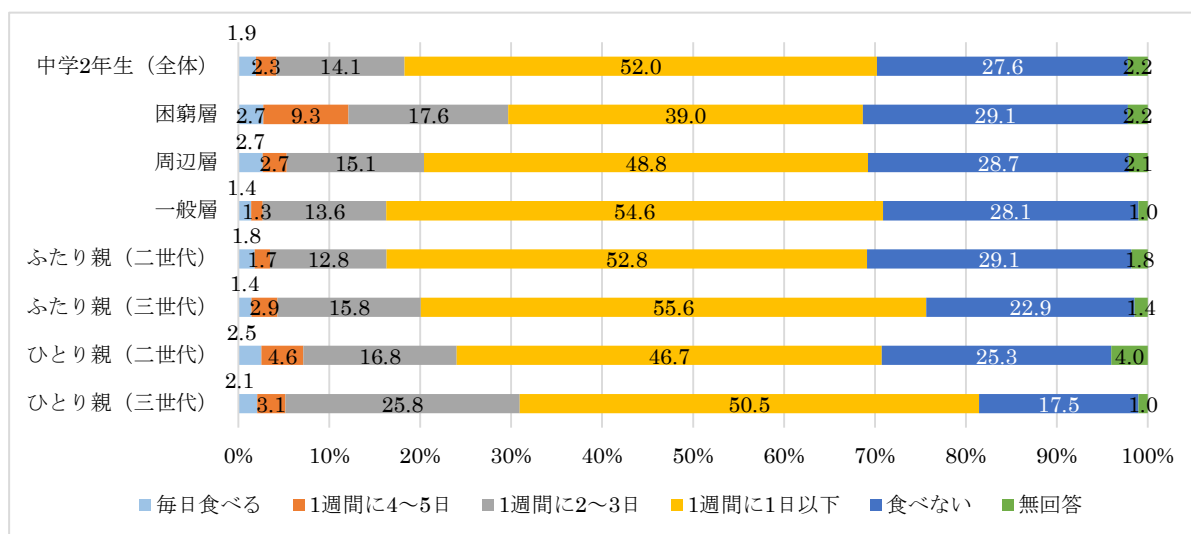
### (5) 食品群別の摂取状況(カップ麺・インスタント麺)

次に、カップ麺・インスタント麺を食べる頻度をみる。小学5年生の半数(50.0%)が、「1週間に1日以下」、31.5%が「食べない」と回答しており、子どもの8割以上が1週間に1日以下しかカップ麺・インスタント麺を摂取していない。この割合は、中学2年生でも、ほぼ同様である。しかし、「1週間に2~3日」、「1週間に4~5日」、「毎日」と回答した子どもは、小学5年生では15.2%、中学2年生では18.3%となっている。生活困難度別と世帯タイプ別の差も確認され、特に中学2年生における差が大きくなっている。また、ひとり親世帯の子どもは、ふたり親世帯の子どもよりもカップ麺・インスタント麺を食べる頻度が若干高い。

図表 4-1-12 カップ麺・インスタント麺の摂取状況(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 4-1-13 カップ麺・インスタント麺の摂取状況(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)

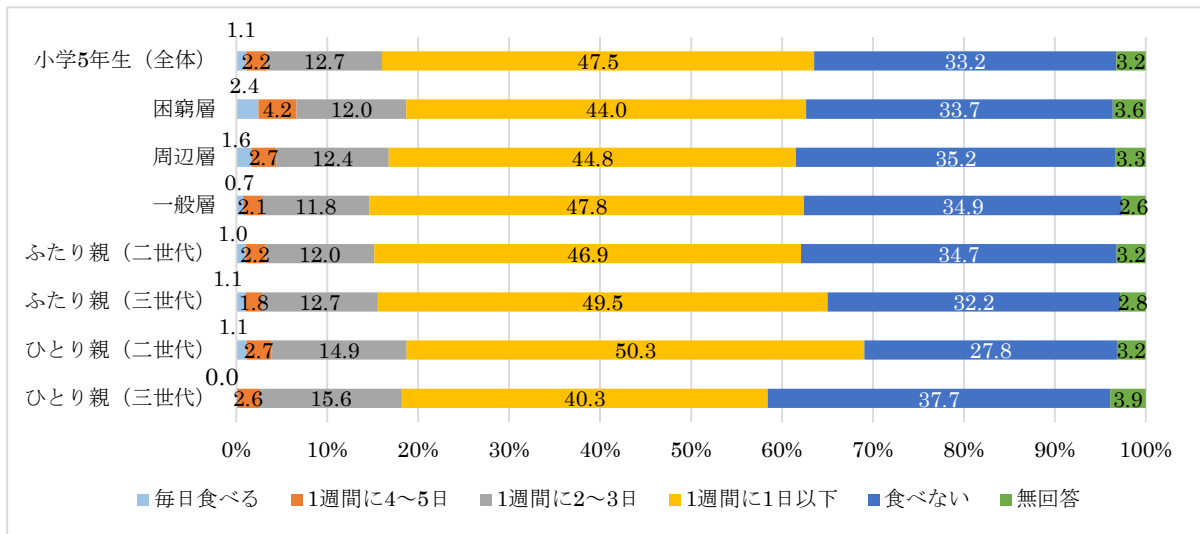




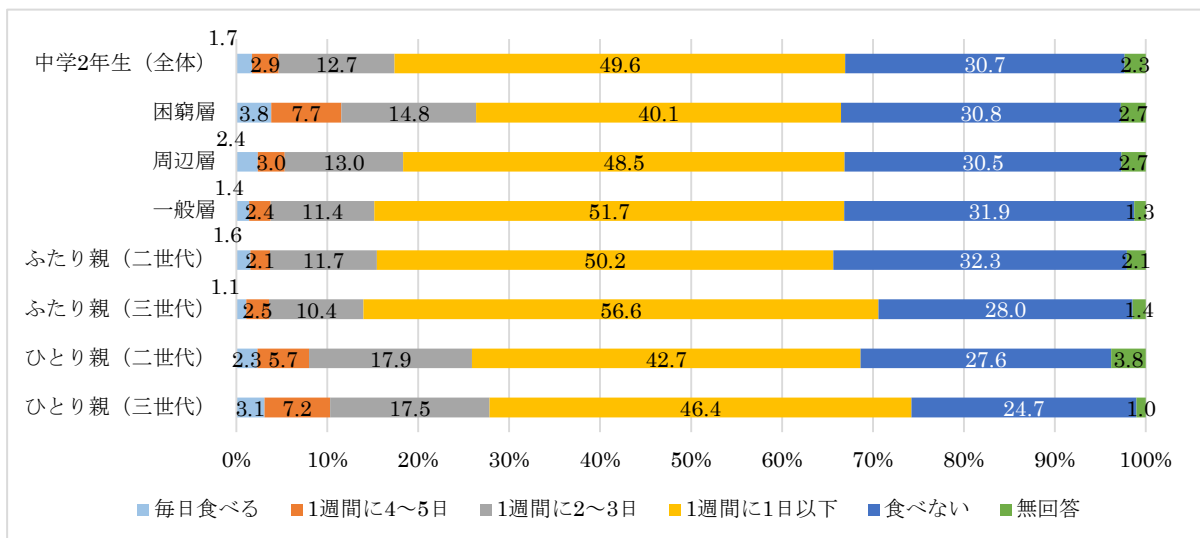
### (6) 食品群別の摂取状況（コンビニのおにぎり・お弁当）

コンビニのおにぎり・お弁当については、小学5年生では47.5%が「1週間に1日以下」、33.2%が「食べない」と回答しており、8割以上の子どもは1週間に1日以下の摂取の頻度となっている。中学2年生でも、ほぼ同じ割合である。生活困難度別にみると、中学2年生における困窮層では「毎日食べる」が3.8%、「1週間に4~5回」が7.7%となっている。世帯タイプ別にみると、中学2年生においてふたり親世帯よりひとり親世帯の方が、「毎日食べる」、「1週間に4~5日」、「1週間に2~3日」と回答した割合が高い。

図表 4-1-14 コンビニのおにぎり・お弁当の摂取状況(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(X)



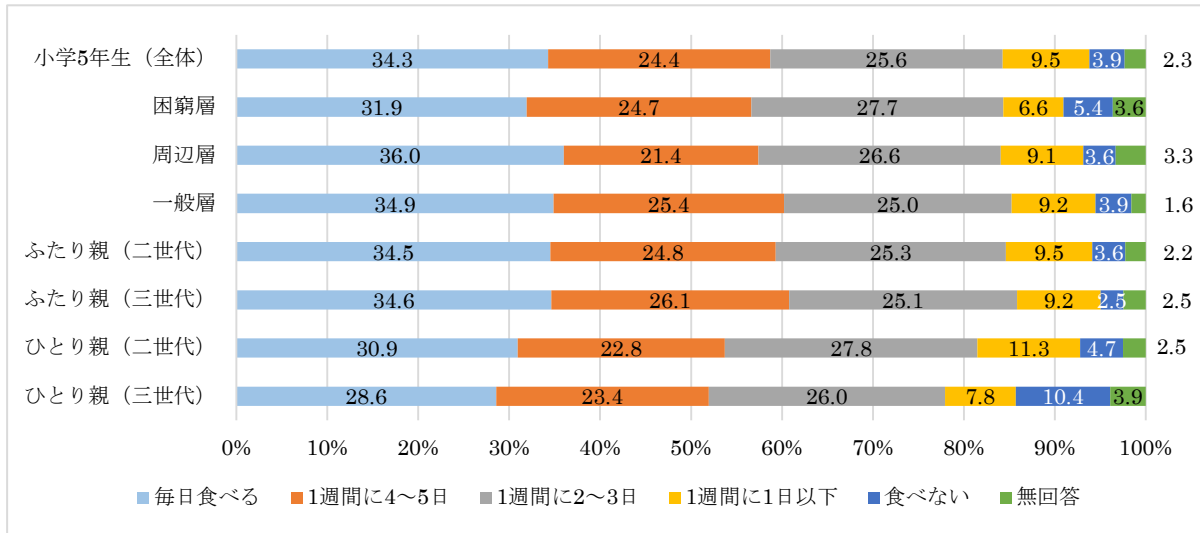
図表 4-1-15 コンビニのおにぎり・お弁当の摂取状況(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



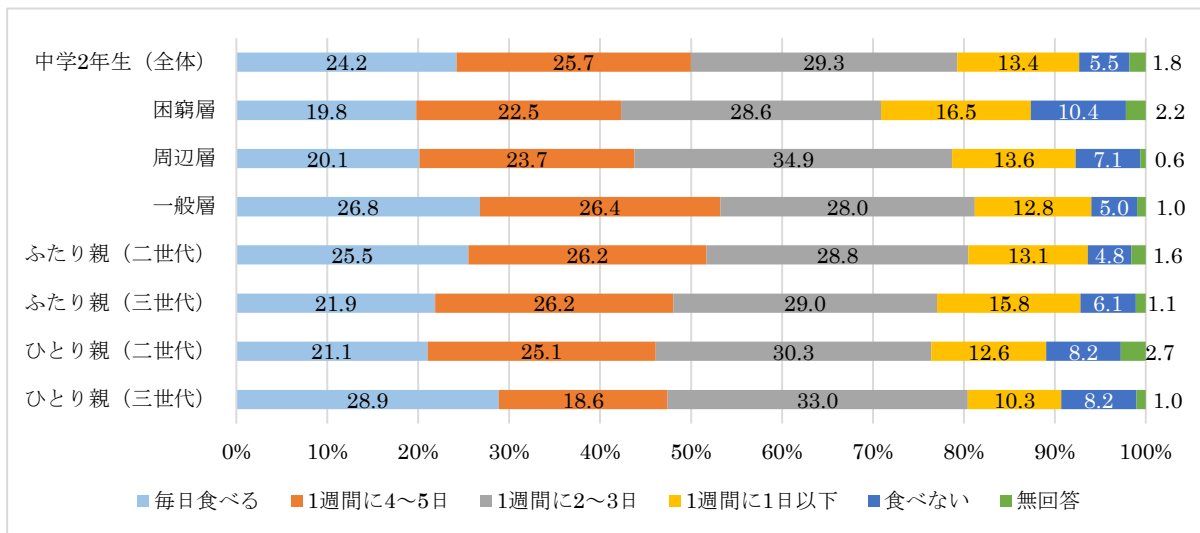
### (7) 食品群別の摂取状況（お菓子）

お菓子の摂取頻度については、小学5年生の34.3%、中学2年生の24.2%が「毎日食べる」と回答している。お菓子を「1週間に1日以下」、「食べない」子どもは、小学5年生では13.4%、中学2年生では18.9%であった。小学5年生では、生活困難度別、世帯タイプ別の差は検証されなかった。しかし、中学2年生では差が検証され、困窮層やひとり親世帯の方が一般層よりお菓子を食べる頻度が少ない。

図表 4-1-16 お菓子の摂取状況(小学5年生):生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)



図表 4-1-17 お菓子の摂取状況(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*)

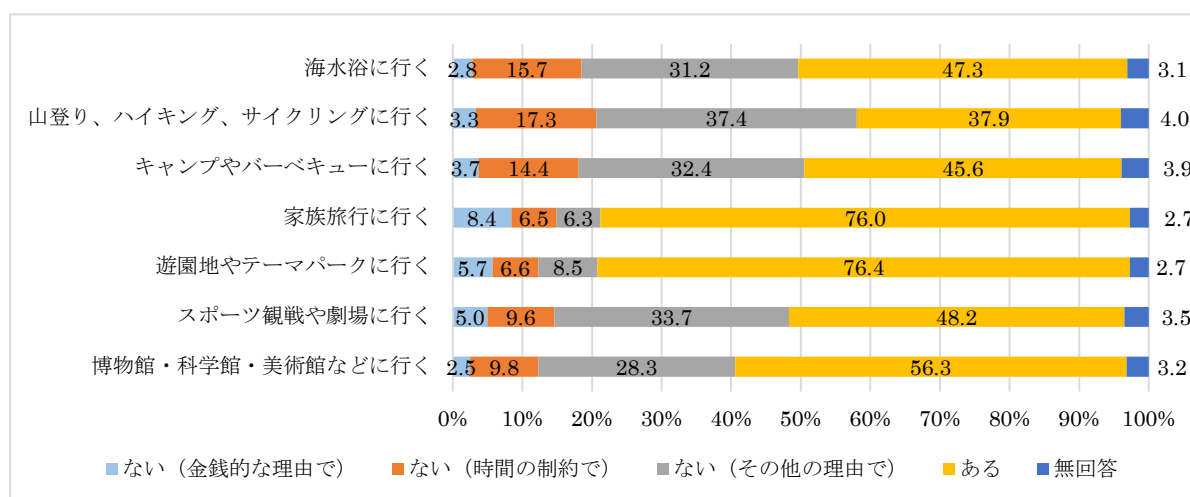


## 2. 子どもの体験

本節では、子どもが一般的に享受しているさまざまな体験の有無について検討する。本調査では、保護者票にて「過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか」として、「海水浴に行く」、「山登り、ハイキング、サイクリングに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「家族旅行に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」と7つの典型的な子どもの体験について聞いている。回答選択肢は「ある」、「ない（金銭的な理由で）」、「ない（時間の制約で）」、「ない（その他の理由で）」の4つである。

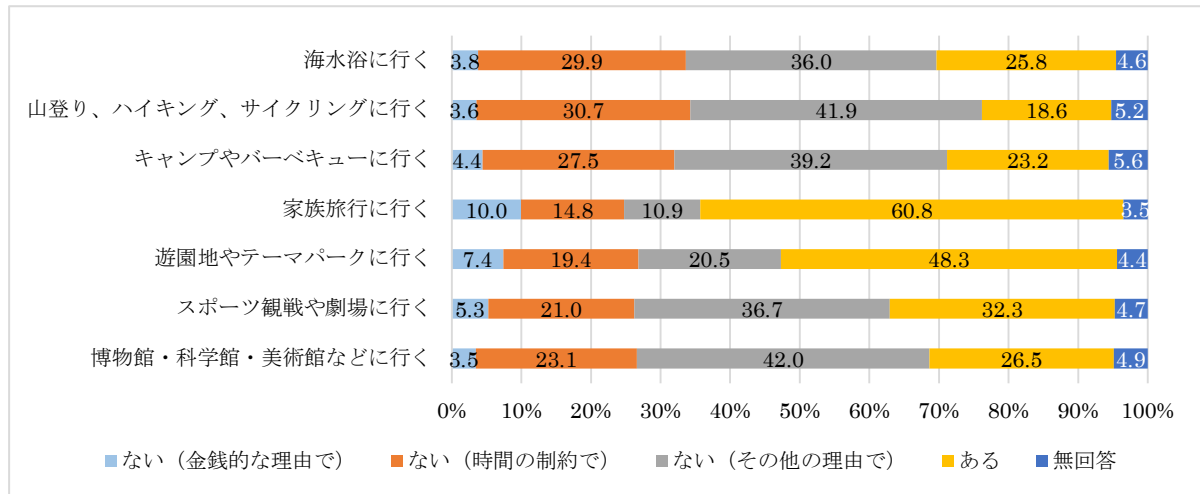
小学5年生の保護者の回答をみると、「海水浴」は47.3%、「山登り、ハイキング、サイクリング」は37.9%、「キャンプやバーベキュー」では45.6%、「家族旅行」では76.0%、「遊園地やテーマパーク」では76.4%、「スポーツ観戦や劇場」では48.2%、「博物館・科学館・美術館」では56.3%の保護者は「ある」と回答している。「ない」理由で最も多いのが、「その他の理由」であるが、「金銭的な理由」も2~8%程度、「時間の制約」では7~17%程度にのぼる。

図表 4-2-1 子どもの体験(小学5年生)



中学 2 年生の保護者では、全ての項目で、体験が「ある」と回答した割合が小学 5 年生よりも少なく、「ない（時間の制約で）」と答えた割合が多くなっている。

図表 4-2-2 子どもの体験(中学 2 年生)

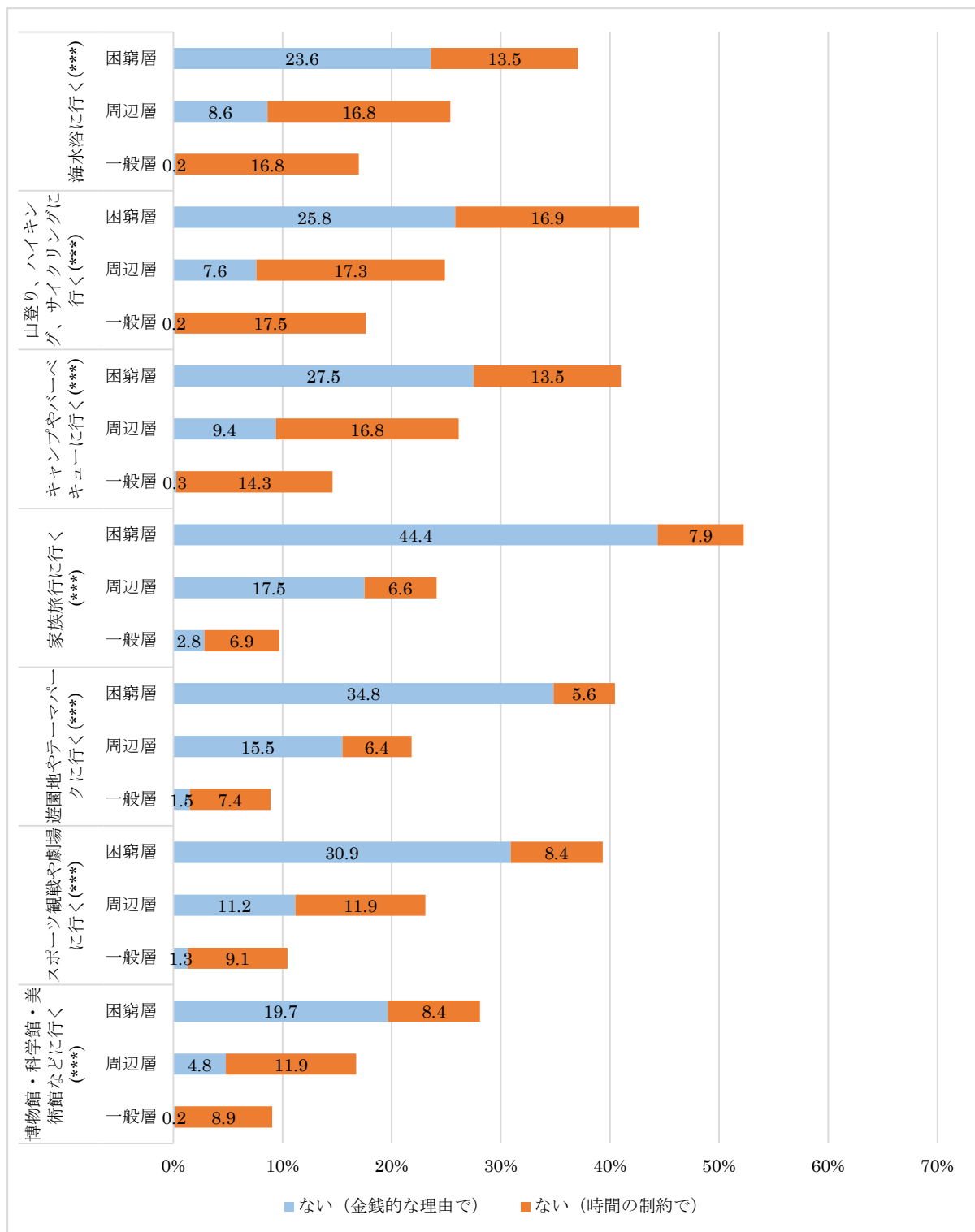


しかし、生活困難度別にみると状況は大きく異なる。特に際立っているのは、「ない」場合の理由が、困窮層では「金銭的な理由」が突出して多いことである。「家族旅行」、「遊園地やテーマパーク」、「スポーツ観戦や劇場」、「海水浴」などについては、周辺層に比べて、困窮層の保護者が「金銭的な理由で」過去 1 年間に体験していないと答えている割合が多い。この傾向は、小学 5 年生の保護者よりも、中学 2 年生の保護者の方が顕著である。

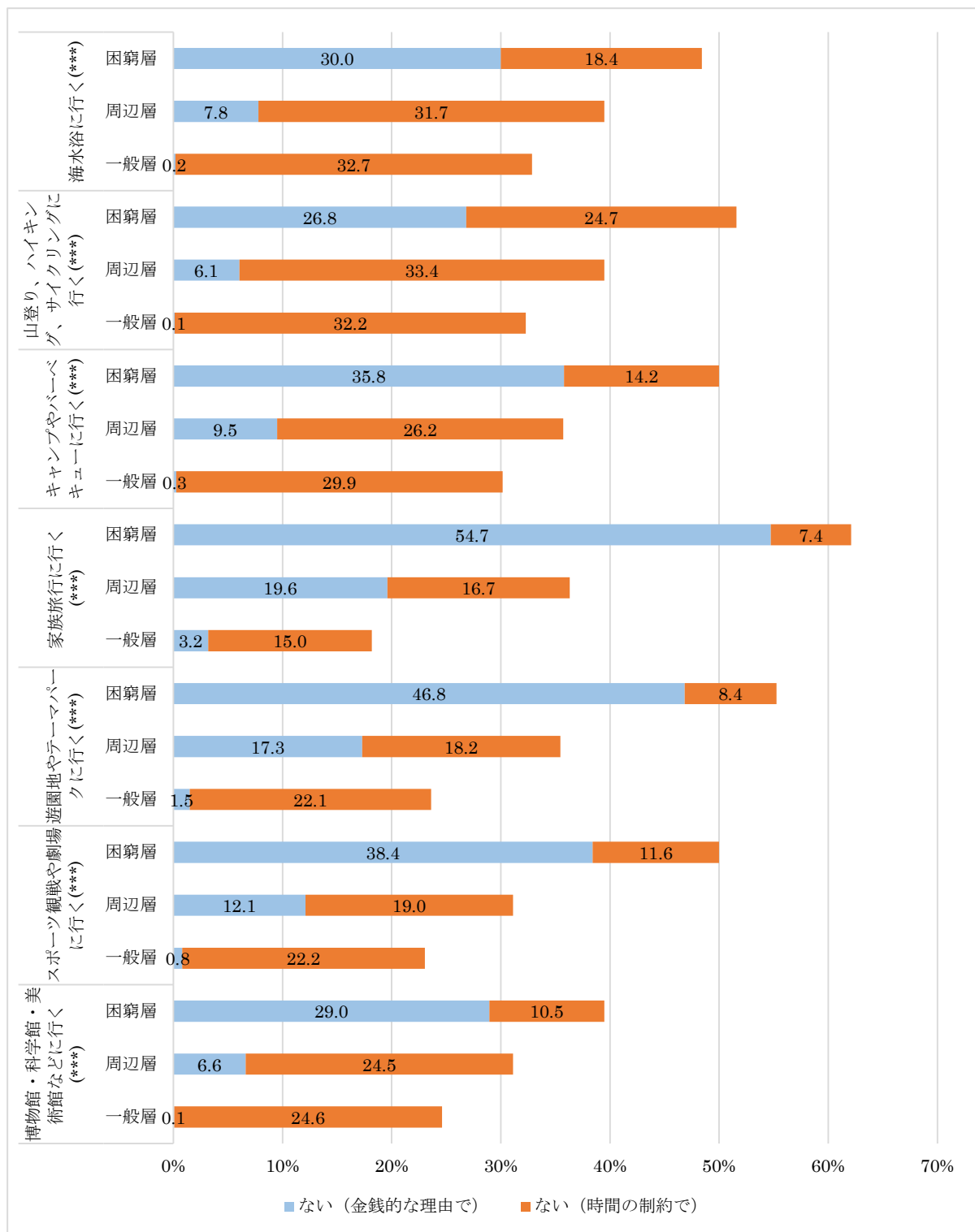
時間的な制約については、どの階層においても、一定数がそれを理由に体験活動ができないとしている。小学 5 年生の保護者においては、時間的制約を挙げる割合に生活困難度別の大きな違いがみられるわけではないが、中学 2 年生の保護者においては、一般層、周辺層の方が困窮層よりも時間の制約を挙げる割合が高い傾向がある。

また、世帯タイプ別にみると、両学年とも、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも「ない（金銭的な理由で）」の割合が高くなる傾向にある。

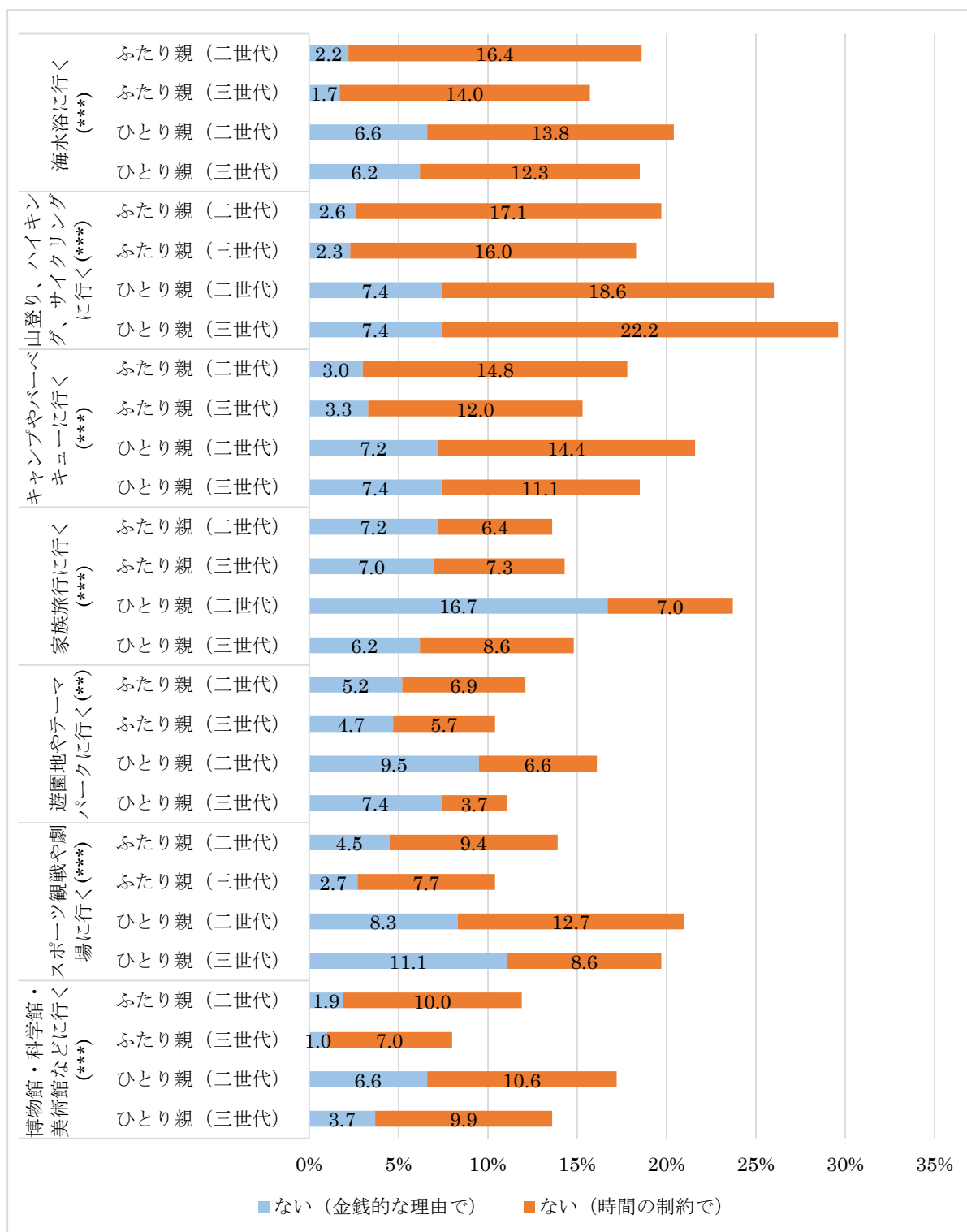
図表 4-2-3 子どもの体験(小学5年生):生活困難度別



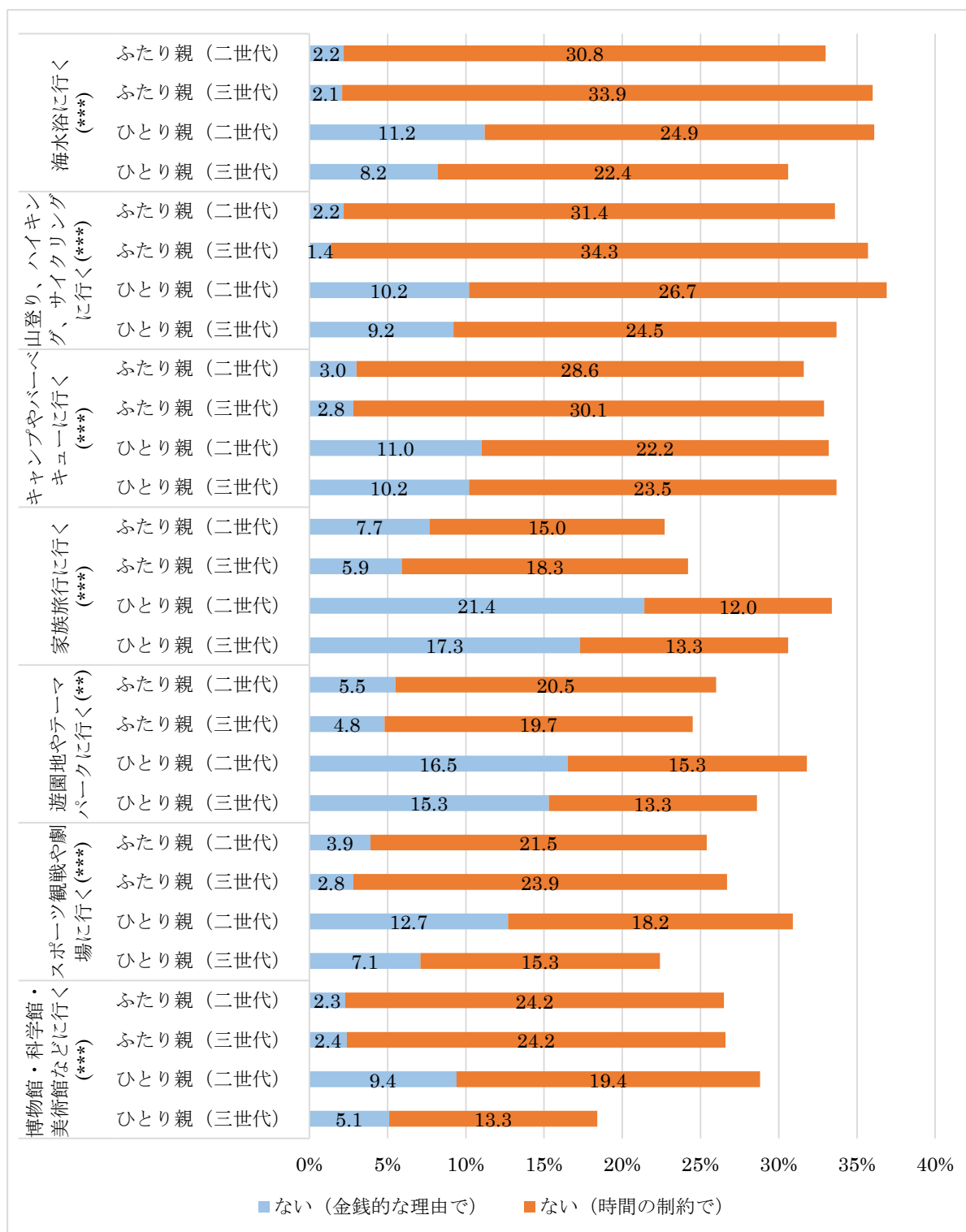
図表 4-2-4 子どもの体験(中学2年生):生活困難度別



図表 4-2-5 子どもの体験(小学5年生):世帯タイプ別



図表 4-2-6 子どもの体験(中学2年生):世帯タイプ別





### 3. 子どもの所有物

次に、子どもの所有物について分析を行う。本調査では、子ども自身に以下の14の項目について、「持っている」、「ない(ほしい)」、「ない(ほしくない)」の3つの選択肢で聞いている。単純な所有物の有無だけでなく、「ない」を「ほしい」と「ほしくない」に分けたのは子ども自身の選好の違いを考慮するためである。項目の詳細は以下の通りである。

- A 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく)
- B 子ども部屋(兄弟姉妹と使っている場合もふくみます)
- C (自宅で)インターネットにつながるパソコン
- D 自宅で宿題をすることができる場所
- E 自分専用の勉強机
- F スポーツ用品(野球のグローブや、テニスラケットなど)
- G ゲーム機
- H たいていの友だちが持っているおもちゃ
- I 自転車
- J おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい
- K 友だちが着ているのと同じような服
- L 普段はく靴2足以上
- M 携帯電話、スマートフォン
- N 携帯音楽プレーヤーなど

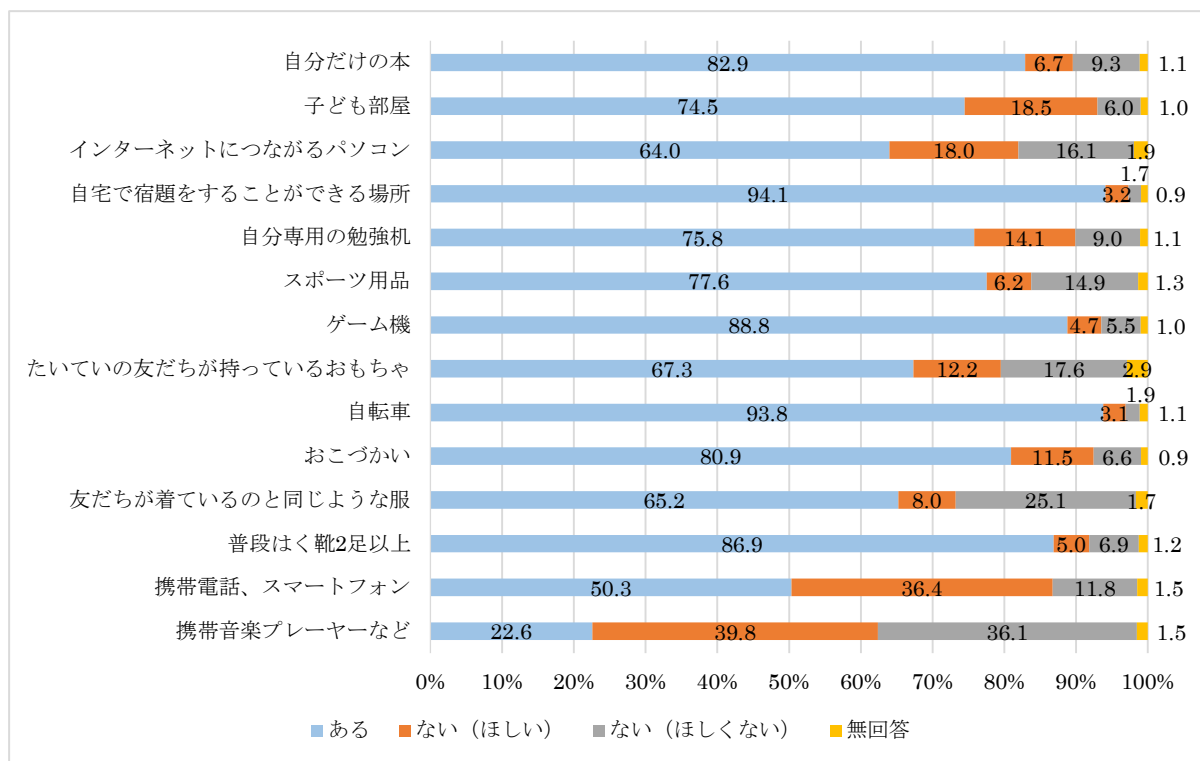
まず、小学5年生については、「ある」と答えた割合は「自宅で宿題をすることができる場所」(94.1%)から「携帯音楽プレーヤーなど」(22.6%)と幅広い。子ども自身が「ない(ほしい)」と答えた割合が多いのは「携帯音楽プレーヤー」、「携帯電話、スマートフォン」、「インターネットにつながるパソコン」とIT機器となっている。中学2年生については、全般的に所有率が増えている。

これを、生活困難度別にみたものが図表4-3-3と4-3-4である。ここでは、「ない(ほしい)」と答えた子どもの割合を示している。すると、「携帯電話、スマートフォン」、「携帯音楽プレーヤー」は統計的に有意な差がみられず、どの階層の子どもも「ない(ほしい)」割合が多い。一方、それ以外の項目は生活困難度別に差が検証された。特に大きな差がみられたのは「子ども部屋」、「インターネットにつながるパソコン」、「ゲーム機」であった。

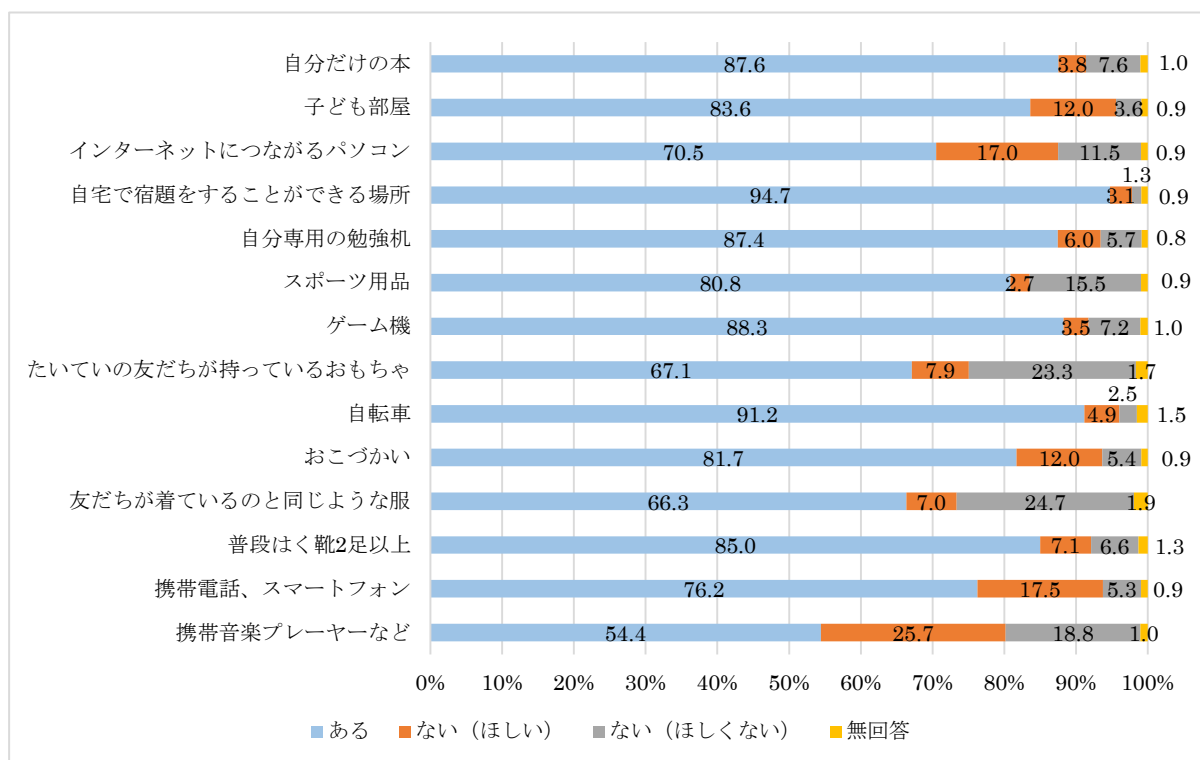
中学2年生では、「自分だけの本」と「携帯電話、スマートフォン」以外に差が顕著にみられ、特に大きな差は「子ども部屋」、「インターネットにつながるパソコン」、「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」などであった。

世帯タイプ別では、生活困難度別ほど顕著な差がないが、特に中学2年生において、ひとり親(三世代)世帯にて、「子ども部屋」、「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」などにて「ない(ほしい)」割合が高くなる。

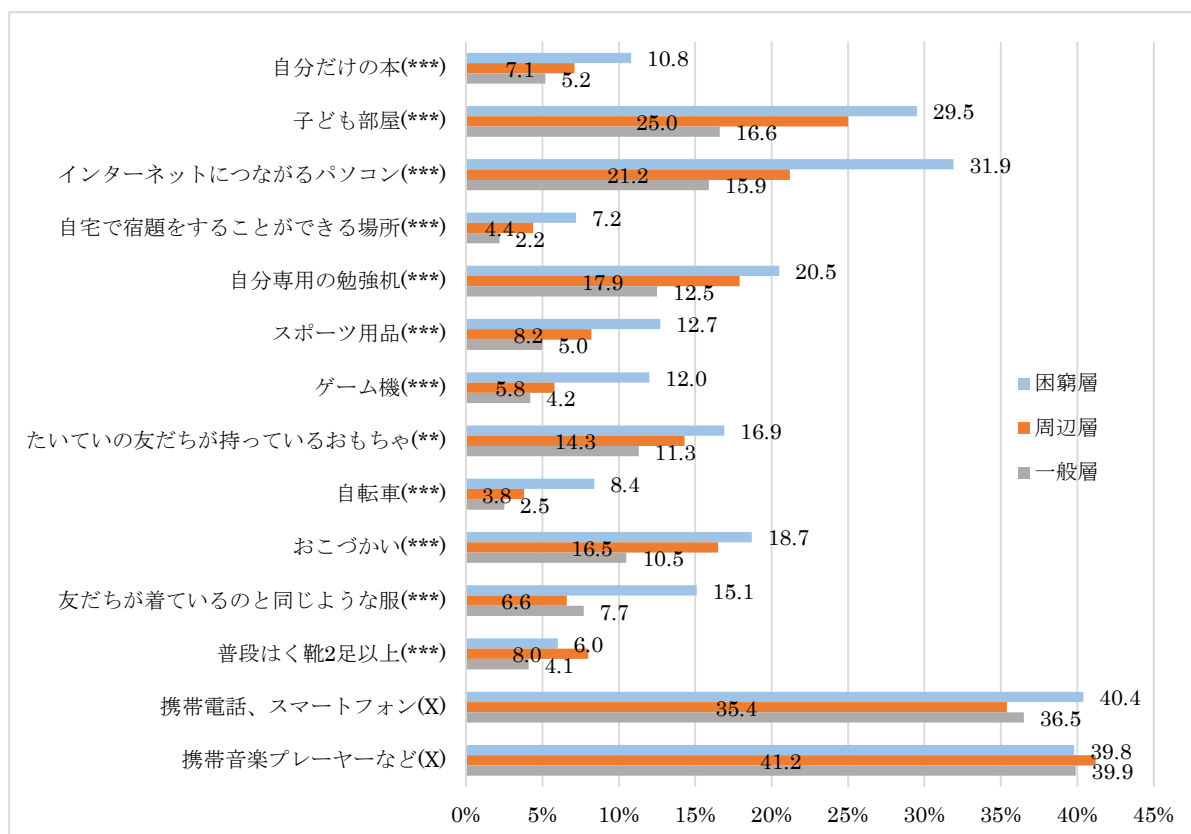
図表 4-3-1 子どもの所有物(小学5年生)



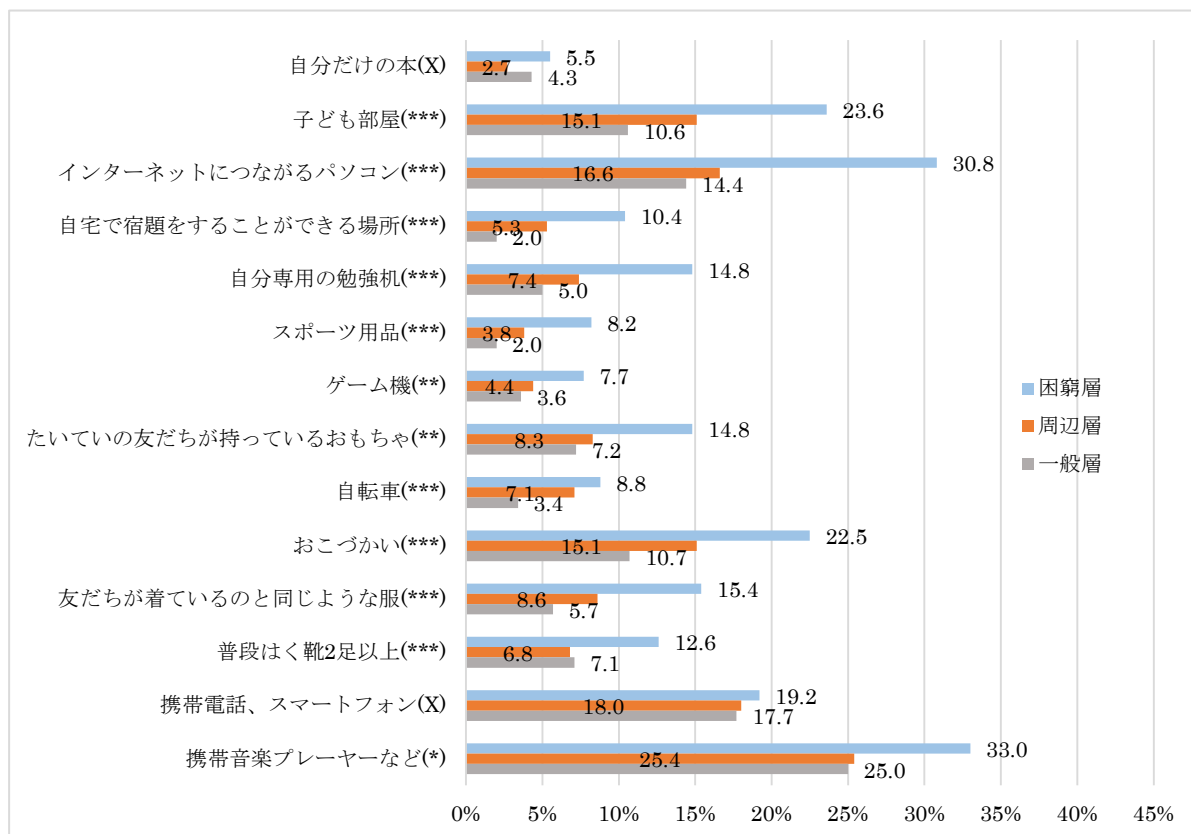
図表 4-3-2 子どもの所有物(中学2年生)



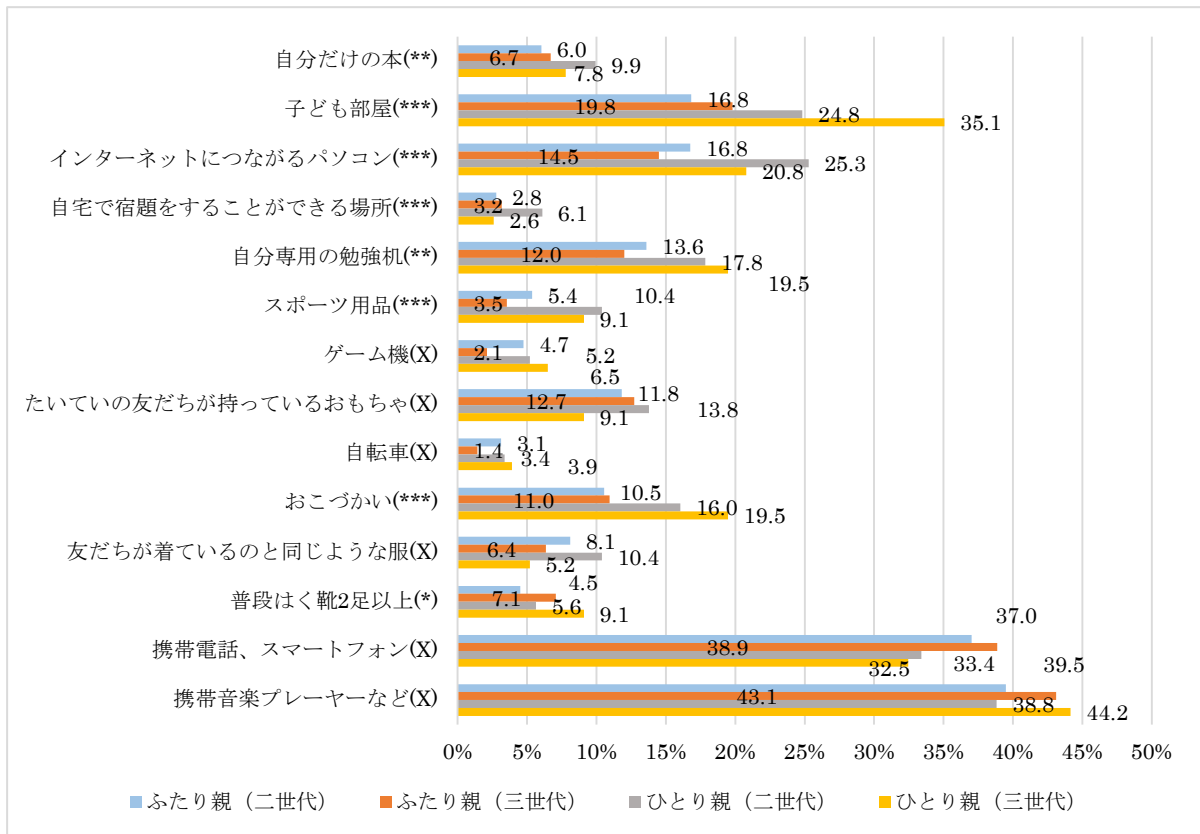
図表 4-3-3 子どもの所有物(ない(ほしい))と回答した割合)(小学5年生):生活困難度別



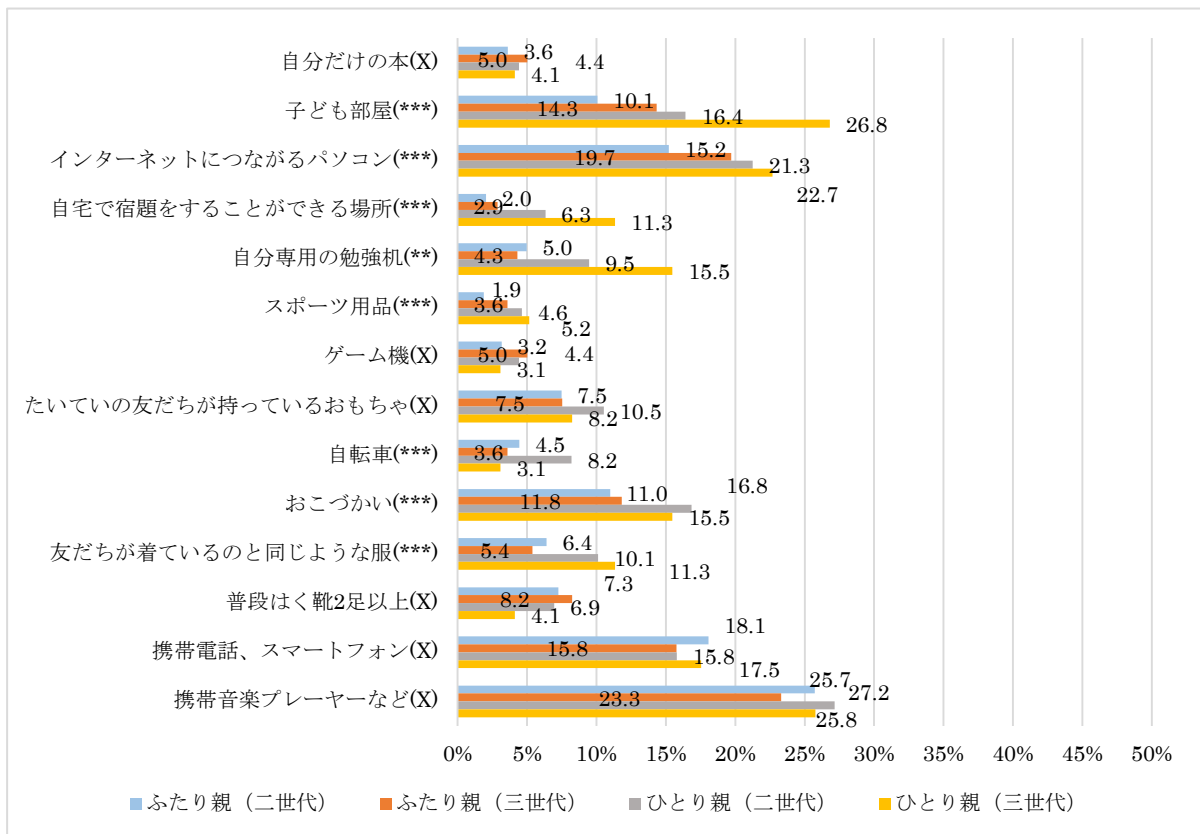
図表 4-3-4 子どもの所有物(ない(ほしい))と回答した割合)(中学2年生):生活困難度別



図表 4-3-5 子どもの所有物(ない(ほしい)と回答した割合)(小学5年生):世帯タイプ別



図表 4-3-6 子どもの所有物(ない(ほしい)と回答した割合)(中学2年生):世帯タイプ別



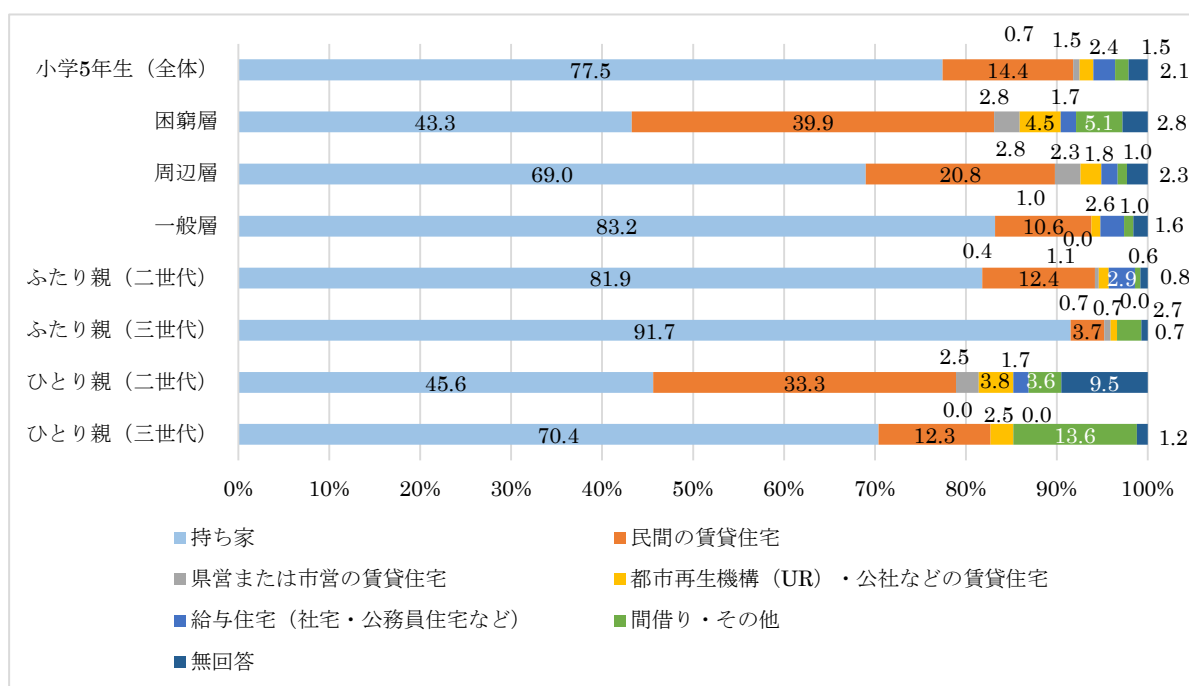
## 4. 住居の状況

### (1) 住居の所有形態

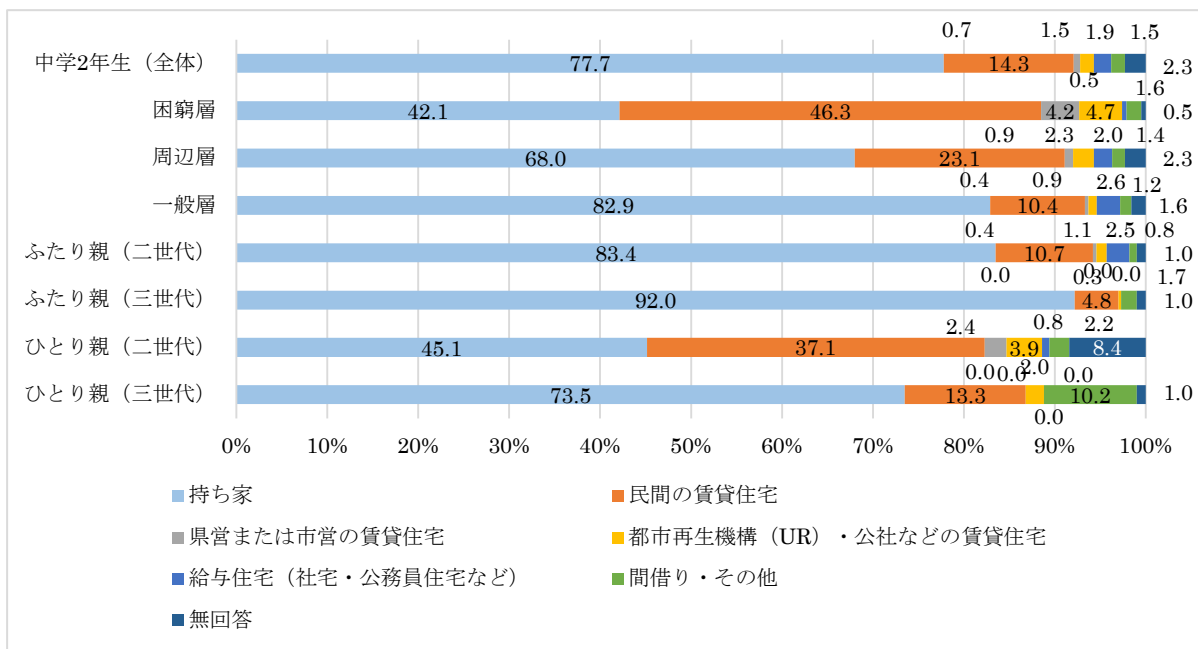
子どものいる世帯の住居の状況を見るために、まず、住居の所有形態を集計した。小学5年生の世帯の77.5%が「持ち家」、14.4%が「民間の賃貸住宅」であった。その他の「県営または市営の賃貸住宅」、「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」、「給与住宅（社宅・公務員住宅など）」、「間借り・その他」の世帯は、合わせて6.1%であった。生活困難度別にみると、「持ち家」と答えた割合は一般層の83.2%に対し、困窮層では43.3%となっている。困窮層においては、「民間の賃貸住宅」が39.9%と「持ち家」の割合に近くなっている。「県営または市営の賃貸住宅」および「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」は、他の層よりも多いものの、困窮層であってもそれぞれ2.8%、4.5%となっている。世帯タイプ別では、ひとり親世帯よりもふたり親世帯、また、二世帯世帯よりも三世帯世帯の方が「持ち家」と答えた割合が多い。

中学2年生では、世帯の77.7%が「持ち家」、14.3%が「民間の賃貸住宅」と答えており、小学5年生とほぼ同じ割合となっている。生活困難度別にみると、困窮層では「持ち家」と答えた割合が42.1%、「民間の賃貸住宅」と答えた割合が46.3%となっており、「民間の賃貸住宅」の方が多くなっている。「県営または市営の賃貸住宅」および「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」はそれぞれ4.2%、4.7%となっている。世帯タイプ別の傾向も、小学5年生と同じである。

図表 4-4-1 住居の所有形態（小学5年生）：生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 4-4-2 住居の所有形態（中学2年生）：生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)

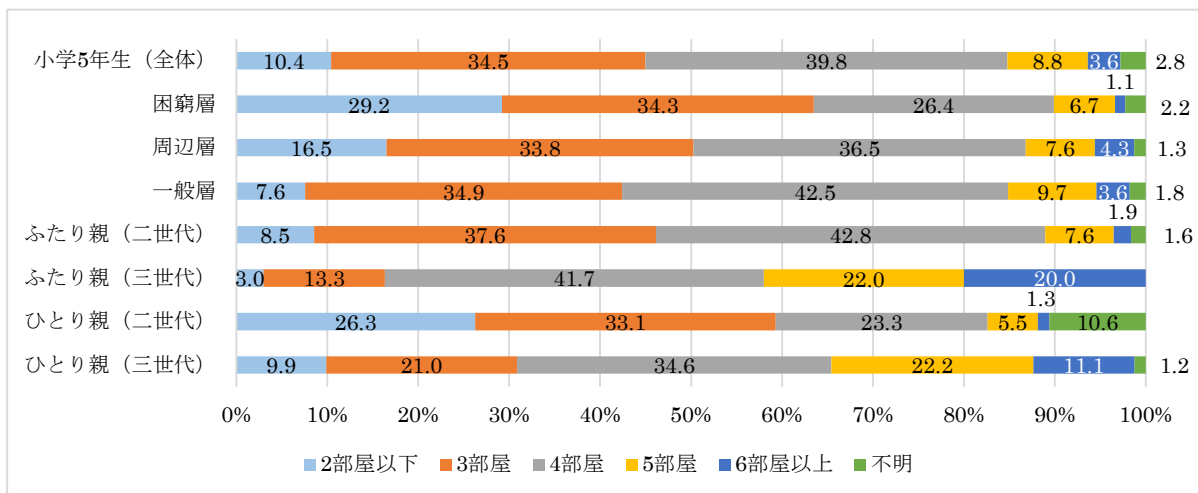


## （2）部屋数

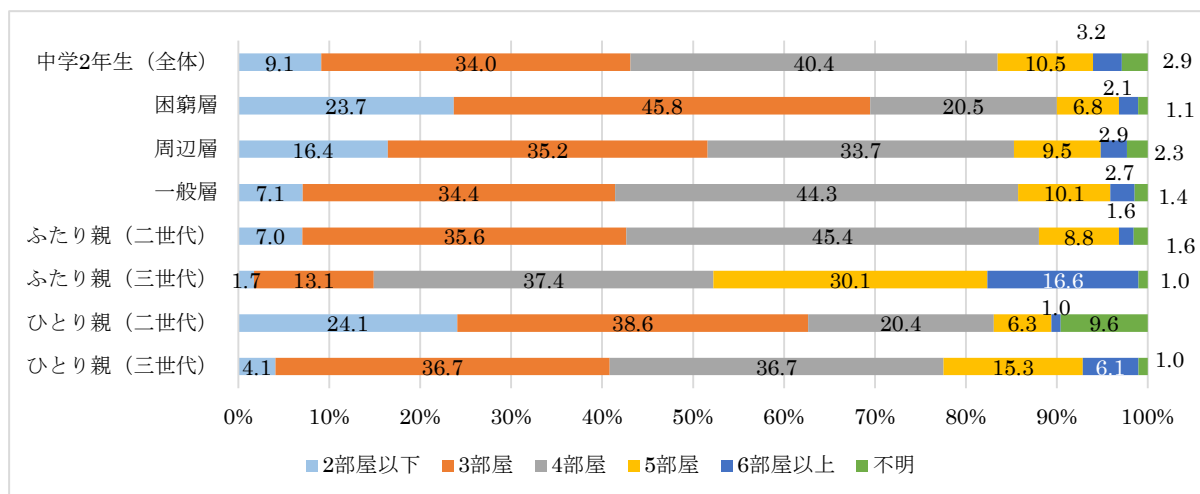
次に、部屋数について集計した。小学5年生の世帯の10.4%は「2部屋以下」、34.5%は「3部屋」、39.8%は「4部屋」、8.8%は「5部屋」と答えている。生活困難度別にみると、困窮層においては「2部屋以下」が29.2%、対して、周辺層では16.5%、一般層では7.6%と違いが見られる。世帯タイプ別に見ると、ふたり親世帯に比べて、ひとり親世帯の部屋数が少ない世帯の割合が多く、ひとり親（二世帯）では「2部屋以下」が26.3%、ひとり親（三世帯）世帯では9.9%となっている。

中学2年生においては、全体的に小学5年生に比べて、部屋数が若干多くなるものの、困窮層、ひとり親（二世帯）世帯において、部屋数が「2部屋以下」世帯が約4世帯に1世帯となっている。

図表 4-4-3 部屋数(小学5年生)：生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 4-4-4 部屋数(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)、世帯タイプ別(\*\*\*)







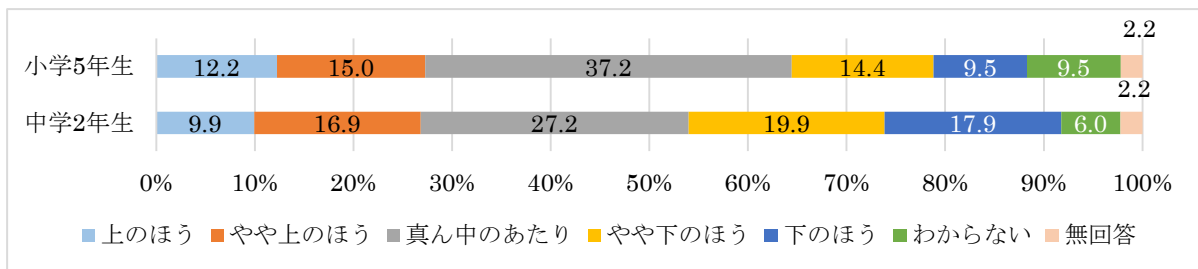
# 第5章 子どもの学び

## 1. 学校の成績についての主観的評価

本章では、松戸市の子どもたちの学校での学習や家庭学習、通塾の状況についてみる。

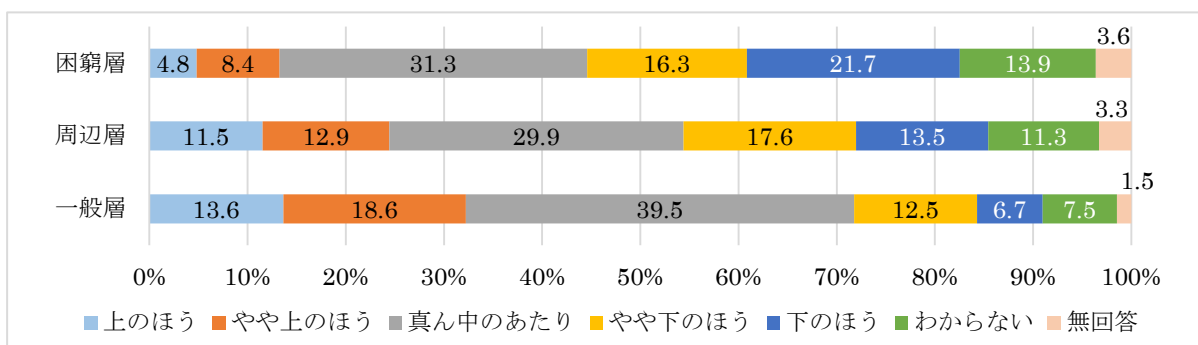
子どもに自分の成績について「クラスの中でどのくらいだと思いますか」と6つ（「上のほう」、「やや上のほう」、「真ん中のあたり」、「やや下のほう」、「下のほう」、「わからない」）の選択肢を設けて聞いたところ、小学5年生では、「上のほう」は12.2%、「やや上のほう」は15.0%であり、合わせると27.2%、「やや下のほう」は14.4%、「下のほう」は9.5%、合わせると23.9%であった。中学2年生では、自分の成績はクラスの中の「上のほう」は9.9%、「やや上のほう」は16.9%であり、合わせると26.8%、「やや下のほう」は19.9%、「下のほう」17.9%を合わせると37.8%である。中学2年生では、自分の成績は「下のほう」と感じる子どもの割合（17.9%）は小学5年生（9.5%）の2倍近くになる。

図表 5-1-1 成績の主観的評価(小学5年生、中学2年生)

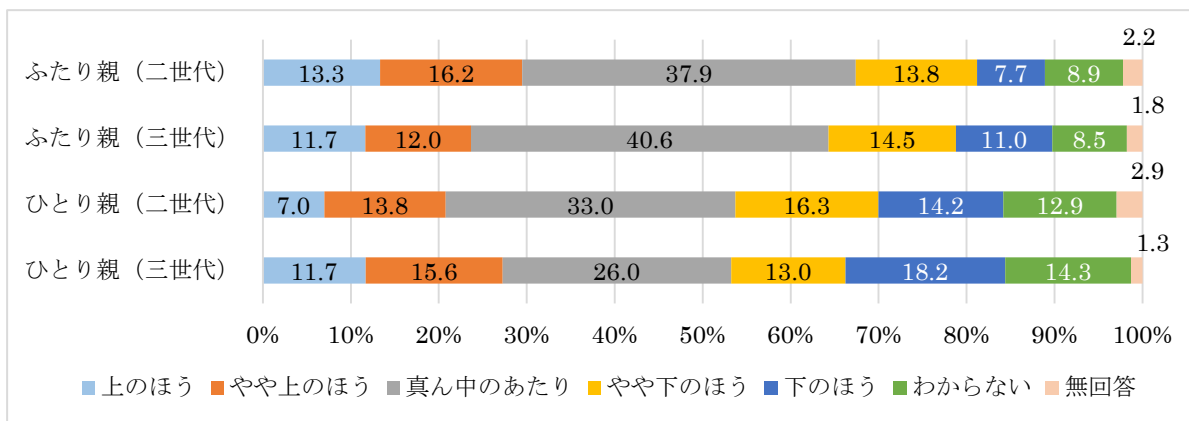


この割合を、小学5年生について、生活困難度別にみると、自分の成績は「やや下のほう」または「下のほう」を足し合わせた割合は、生活困難度が上がるほど高くなる。「やや下のほう」および「下のほう」と答えた割合は、一般層で19.2%であるのに対し、周辺層は31.1%、困窮層は38.0%となっている。世帯タイプ別にみると、「やや下のほう」および「下のほう」と答えた割合は、ふたり親（二世帯）世帯で21.5%であるのに対し、ひとり親（三世帯）世帯は31.2%と多い。ふたり親世帯よりも、ひとり親世帯の方が、自分の成績を「下のほう」と思っている子どもが多い。

図表 5-1-2 成績の主観的評価(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)

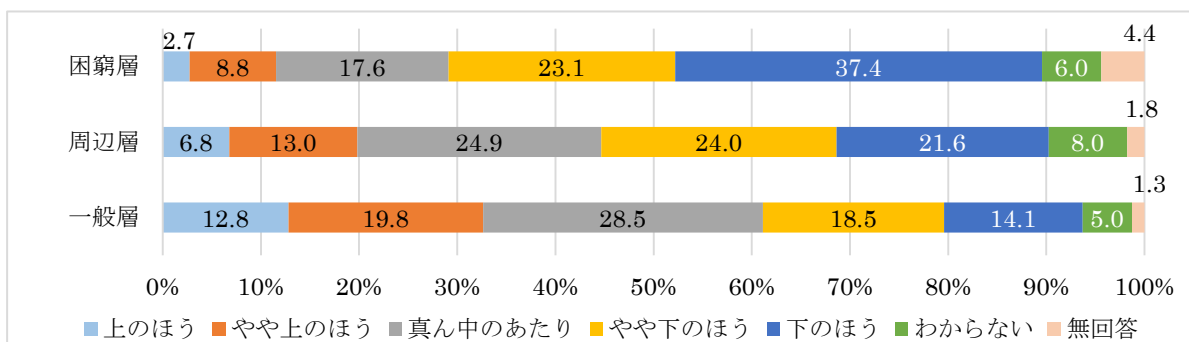


図表 5-1-3 成績の主観的評価(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

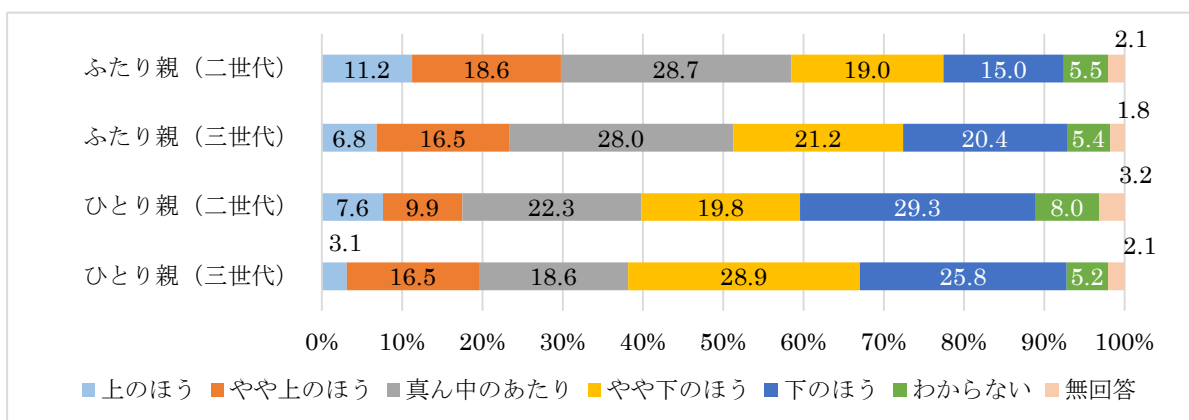


中学 2 年生について、生活困難度別にみると、「やや下のほう」および「下のほう」と答えた子どもは、一般層で 32.6%であるのに対し、周辺層は 45.6%、困窮層は 60.5%となっている。世帯タイプ別にみると、「やや下のほう」および「下のほう」と答えた子どもは、ふたり親 (二世帯) 世帯で 34.0%であるのに対し、ひとり親 (三世帯) 世帯は 54.7%となっている。

図表 5-1-4 成績の主観的評価(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-1-5 成績の主観的評価(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



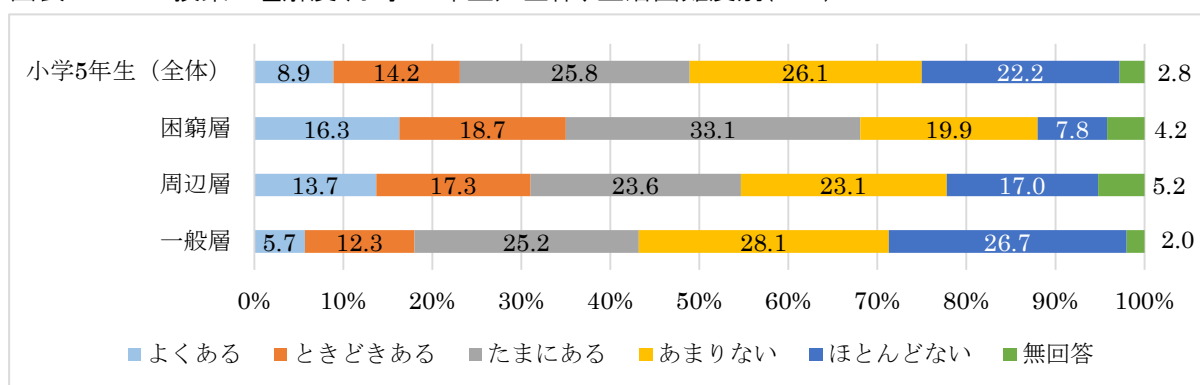
## 2. 授業の理解度とわからなくなった時期

### (1) 小学5年生

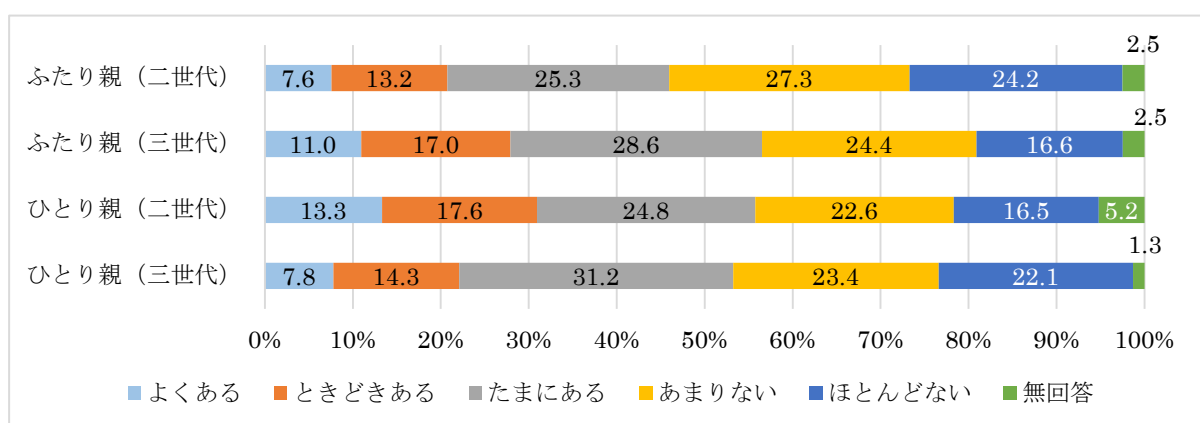
子ども本人に「学校の授業がわからないことがありますか」と聞いた。その結果、小学5年生においては、8.9%が「よくある」、14.2%が「ときどきある」、25.8%が「たまにある」と答えている。「あまりない」と答えたのは26.1%、「まったくない」と答えた子どもは22.2%である。授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもは合わせて23.1%である。

授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもの割合は、生活困難度別に差があり、一般層では合わせて18.0%であるのに対し、周辺層は31.0%、困窮層では35.0%と、生活困難度が上がるほど、授業がわからないことがある子どもの割合が増える傾向がある。また、世帯タイプ別にみると、授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもは、ひとり親（二世帯）世帯で最も多く、30.9%、次いで、ふたり親（三世帯）世帯で28.0%となっている。

図表 5-2-1 授業の理解度(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)

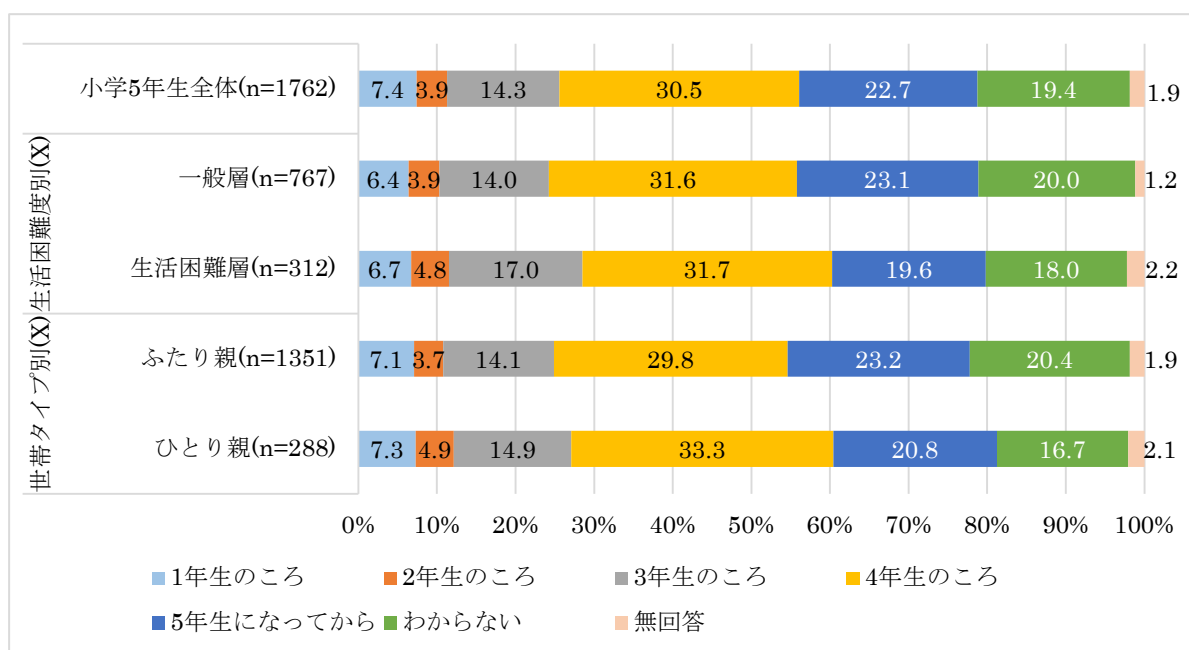


図表 5-2-2 授業の理解度(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」、「たまにある」と答えた子どもに、いつから分からなくなったのか聞いたところ、「4年生のころ」が最も多く30.5%であるが、「1年生のころ」は7.4%、「2年生のころ」は3.9%、「3年生のころ」は14.3%となっており、小学1年生から3年生の間にわからなくなった子どもは25.6%にのぼる。学校の授業がわからなくなった時期について、生活困難度別、世帯タイプ別に統計的に有意な差はみられない。

図表 5-2-3 授業がわからなくなった時期(小学5年生)



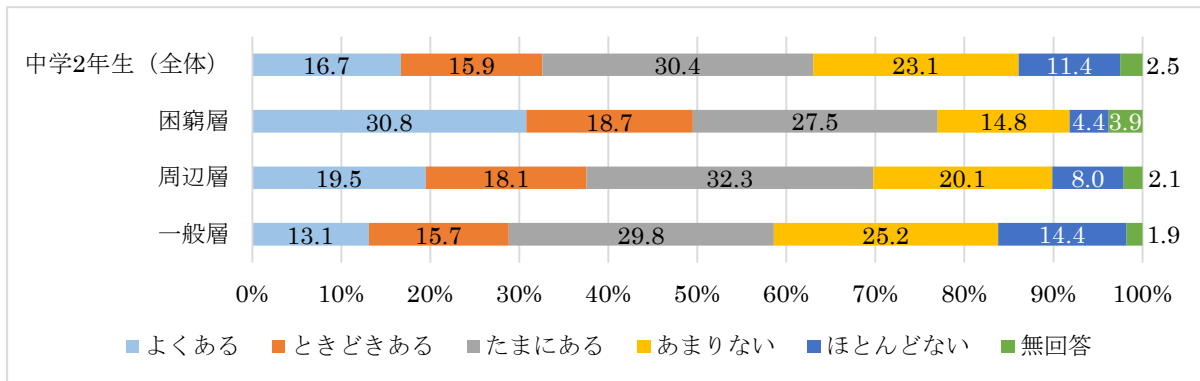
## (2) 中学2年生

中学2年生については、学校の授業がわからないことが「よくある」と答えた子どもは16.7%、「ときどきある」は15.9%、「たまにある」は30.4%であった。対して、「あまりない」は23.1%、「ほとんどない」は11.4%と、わからないことがある子どもの方がいない子どもより多くなっている。授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもだけに着目しても、合わせて32.6%である。

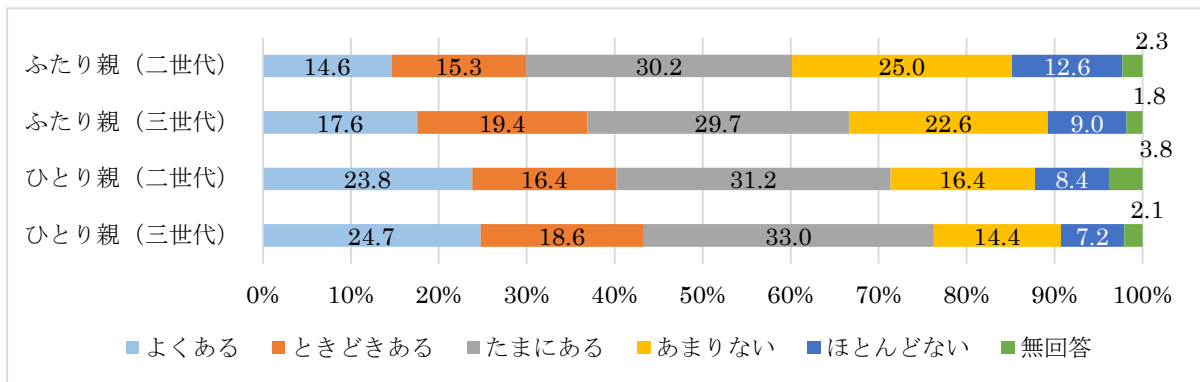
授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもの割合は、生活困難度が上がるほど高くなり、一般層で28.8%であるのに対し、周辺層は37.6%、困窮層では49.5%である。特に困窮層の子どもの30%以上が「よくある」と答えている。世帯タイプ別にみると、授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」子どもは、ひとり親(三世代)世帯で最も多く、43.3%、次いでひとり親(二世代)世帯で40.2%となっている。ふたり親(二世代)世帯においては、この割合は29.9%である。

授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」、「たまにある」と答えた子どもに、いつから分からなくなったのか聞いたところ、「中学1年生のころ」が最も多く41.9%、次いで「小学5・6年生のころ」が19.5%であった。小学1年生から4年生の間にわからなくなった子どもは10.2%おり、中学2年生で授業の理解に課題を抱える子どもの29.7%が、小学校ですでに課題を抱えていたことがわかる。この割合は、生活困難層(困窮層+周辺層)では35.9%、ひとり親世帯では35.3%である。

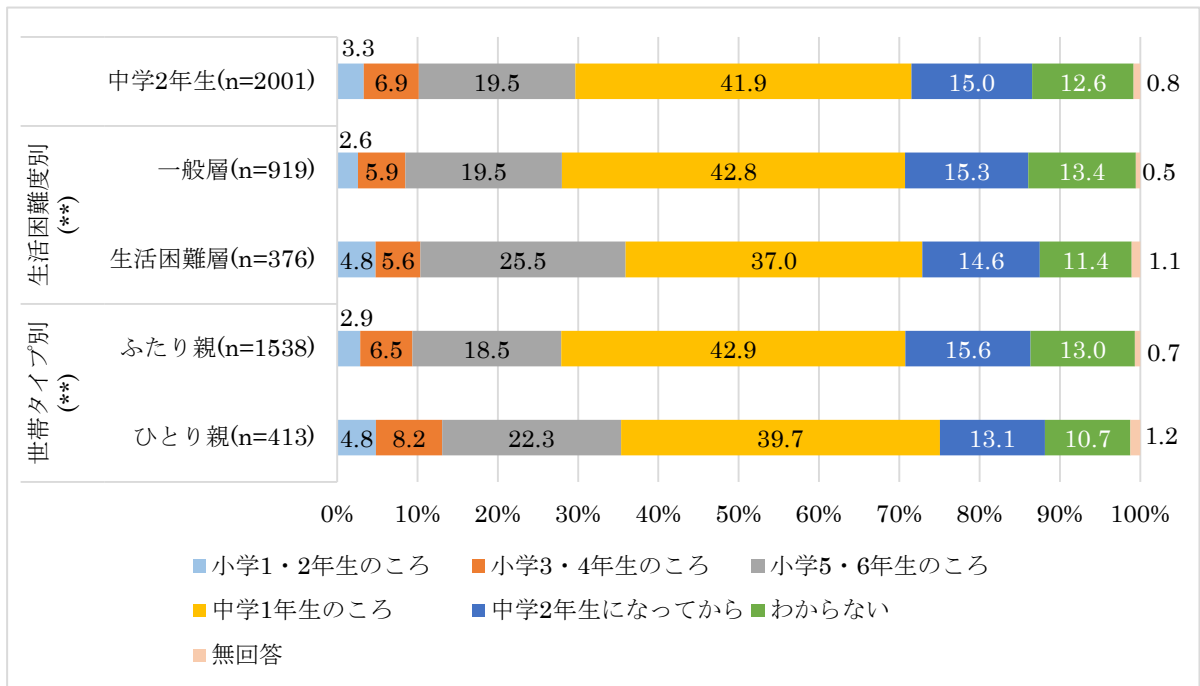
図表 5-2-4 授業の理解度(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-2-5 授業の理解度(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 5-2-6 授業がわからなくなった時期(中学2年生)



### 3. 勉強を教えてくれる人

#### (1) 小学5年生

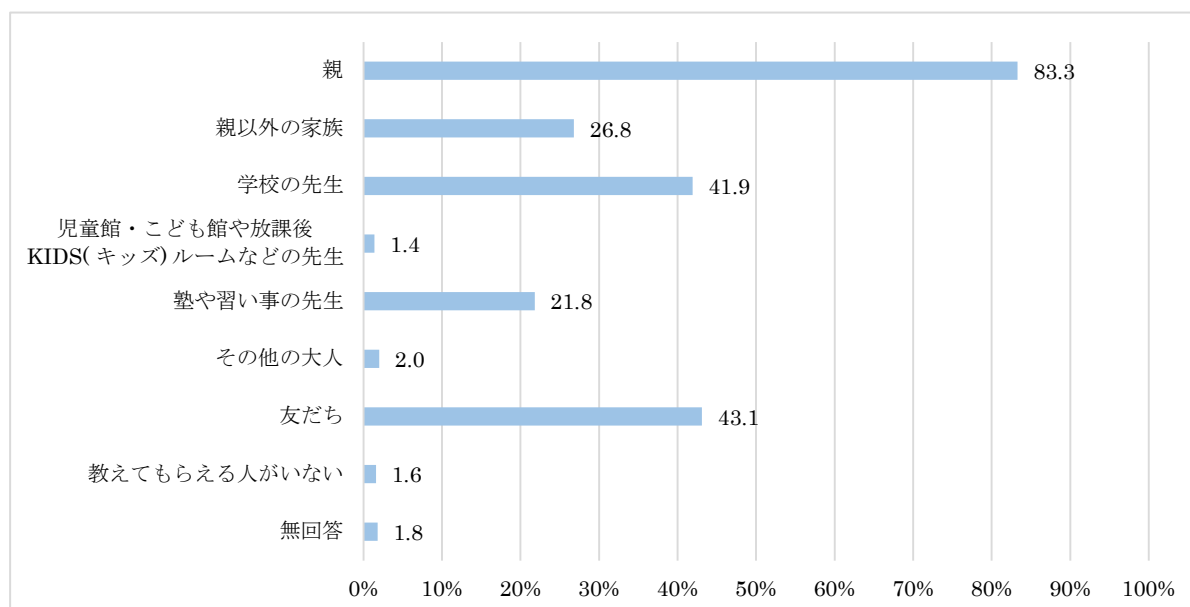
次に、「勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか」と子ども本人に聞いた。

勉強がわからない時、小学5年生の83.3%は「親」に教えてもらっている。次に多いのは「友だち」であり43.1%、次が「学校の先生」41.9%、「親以外の家族」26.8%、「塾や習い事の先生」21.8%と続く。「教えてもらう人がいない」と答えた小学5年生は1.6%であった。

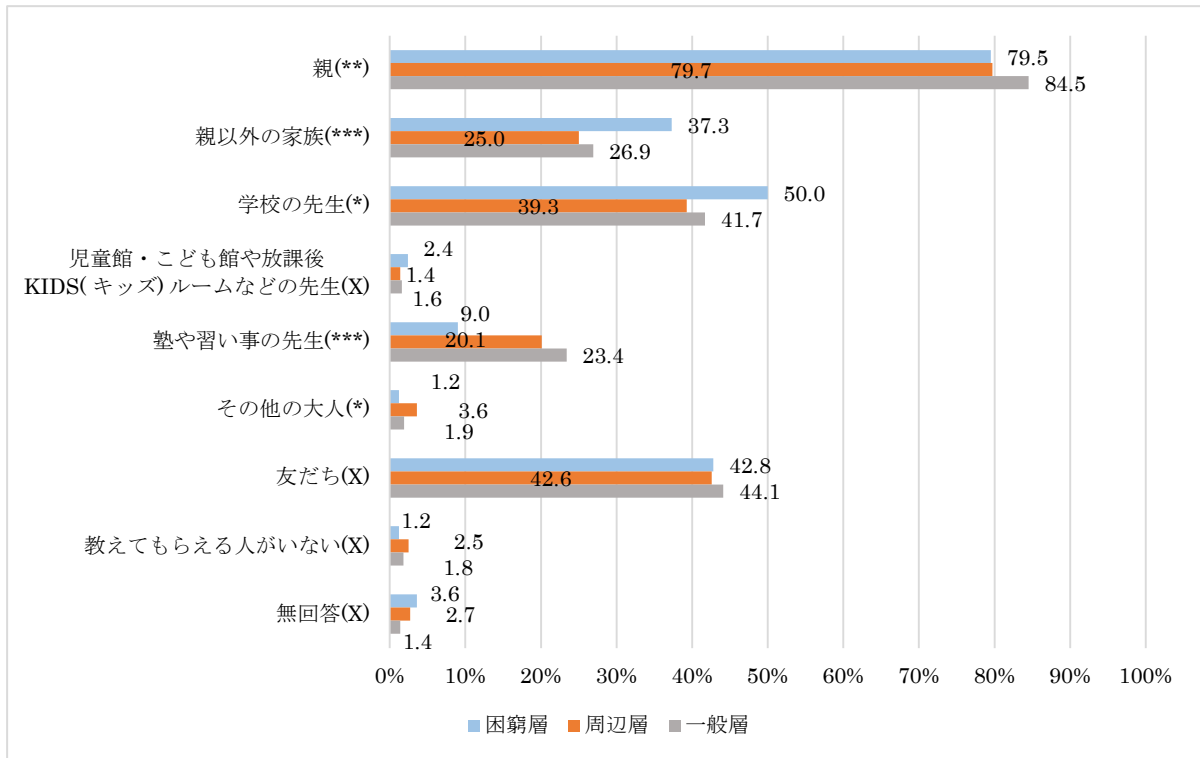
生活困難度別に違いがみられるのは、「親以外の家族」、「学校の先生」、「塾や習い事の先生」、「その他の大人」に教えてもらう割合である。「学校の先生」に教えてもらう割合は、周辺層、一般層がそれぞれ39.3%、41.7%であるのに対し、困窮層では50.0%である。「親以外の家族」に教えてもらう割合は、周辺層、一般層がそれぞれ25.0%、26.9%であるのに対し、困窮層は37.3%である。「塾や習い事の先生」に教えてもらう割合は、周辺層、一般層がそれぞれ20.1%、23.4%であるのに対し、困窮層は9.0%にとどまる。困窮層の子どもたちは、「塾や習い事の先生」に聞くことができない分、学校の先生や親以外の家族に教えてもらっている可能性がある。なお、「その他の大人」については一貫した傾向を読み取れない。

世帯タイプ別で傾向が異なるのは、「親」と「親以外の家族」、そして「教えてもらう人がいない」である。ふたり親（二世帯、三世帯）世帯の子どものそれぞれ85.0%、86.9%が「親」に教えてもらっているのに対し、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯の子どもはそれぞれ73.1%、75.3%にとどまる。「親以外の家族」に教えてもらう割合は、二世帯世帯よりも三世帯世帯で多い。また、「教えてもらう人がいない」は、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯でそれぞれ1.4%、0.7%であるのに対し、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯ではそれぞれ2.9%、3.9%である。

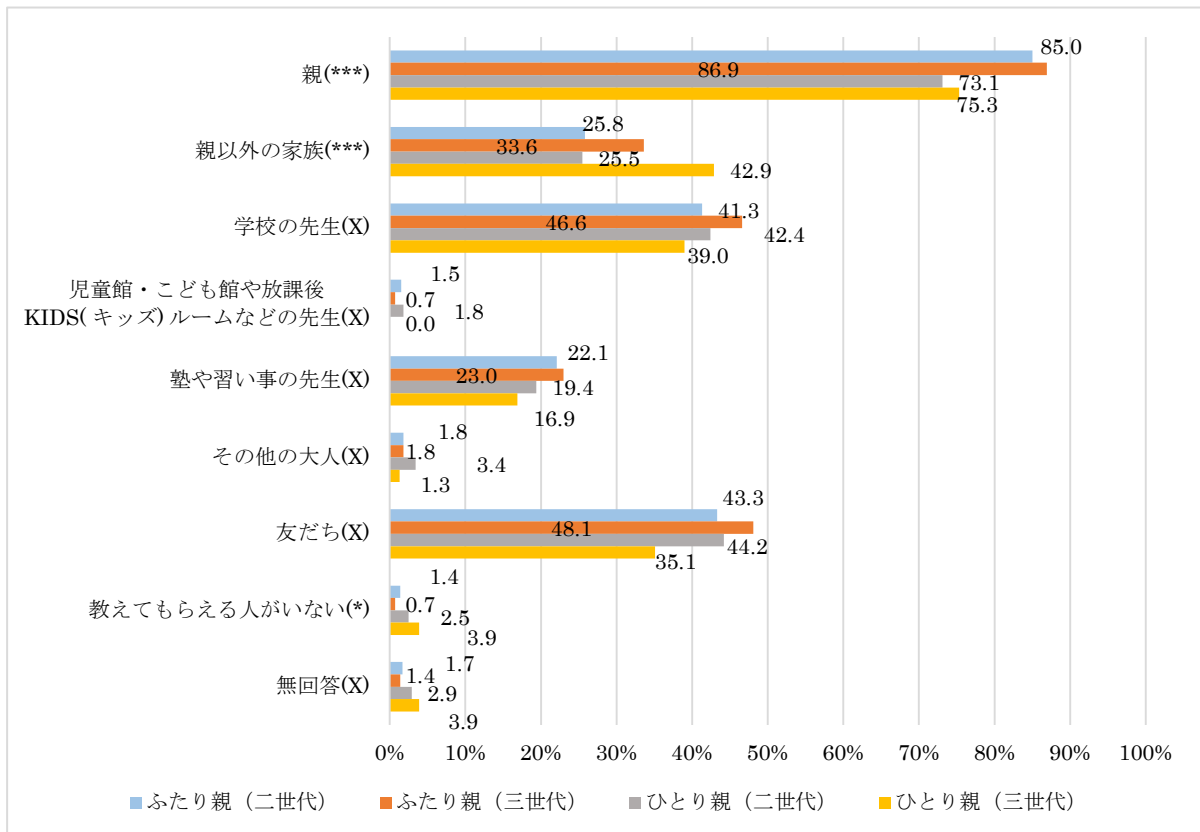
図表 5-3-1 勉強がわからない時に教えてもらう人(小学5年生)



図表 5-3-2 勉強がわからない時に教えてもらう人(小学 5 年生):生活困難度別

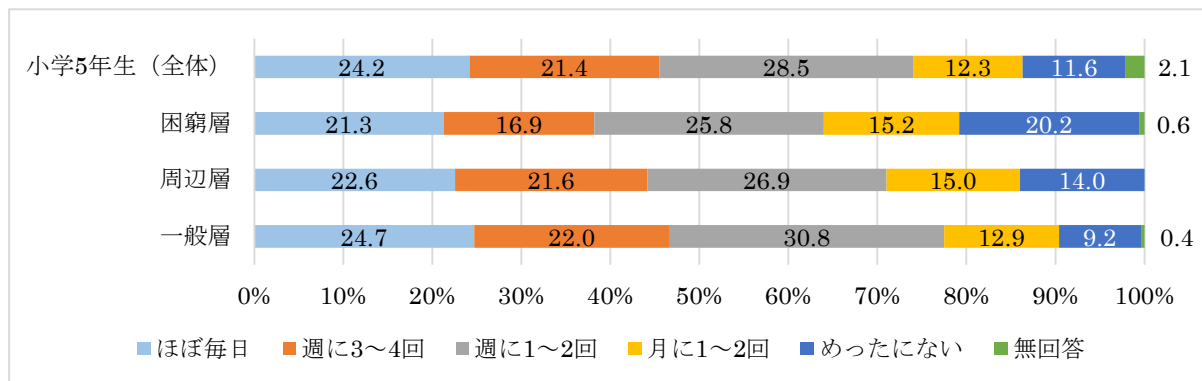


図表 5-3-3 勉強がわからない時に教えてもらう人(小学 5 年生):世帯タイプ別

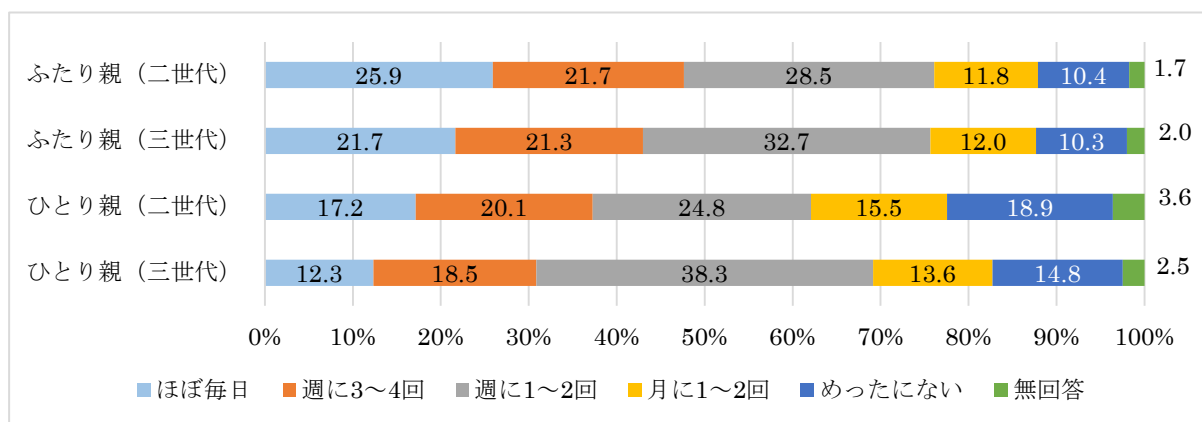


一方、保護者票では、保護者が子どもの勉強をみる頻度を聞いた。小学5年生の保護者の24.2%は「ほぼ毎日」子どもの勉強をみている一方で、11.6%は、子どもの勉強をみることは「めったにない」と答えている。生活困難度別にみると、どの層も「ほぼ毎日」は21.4~24.7%で大差ないが、「めったにない」は一般層が9.2%である一方、周辺層は14.0%、困窮層は20.2%と、生活困難度が高いほど割合が大きくなる。世帯タイプ別にみると、「ほぼ毎日」はふたり親（二世帯）世帯で25.9%であるのに対し、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯はそれぞれ17.2%、12.3%と少ない。

図表 5-3-4 お子さんの勉強をみる頻度(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-3-5 お子さんの勉強をみる頻度(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



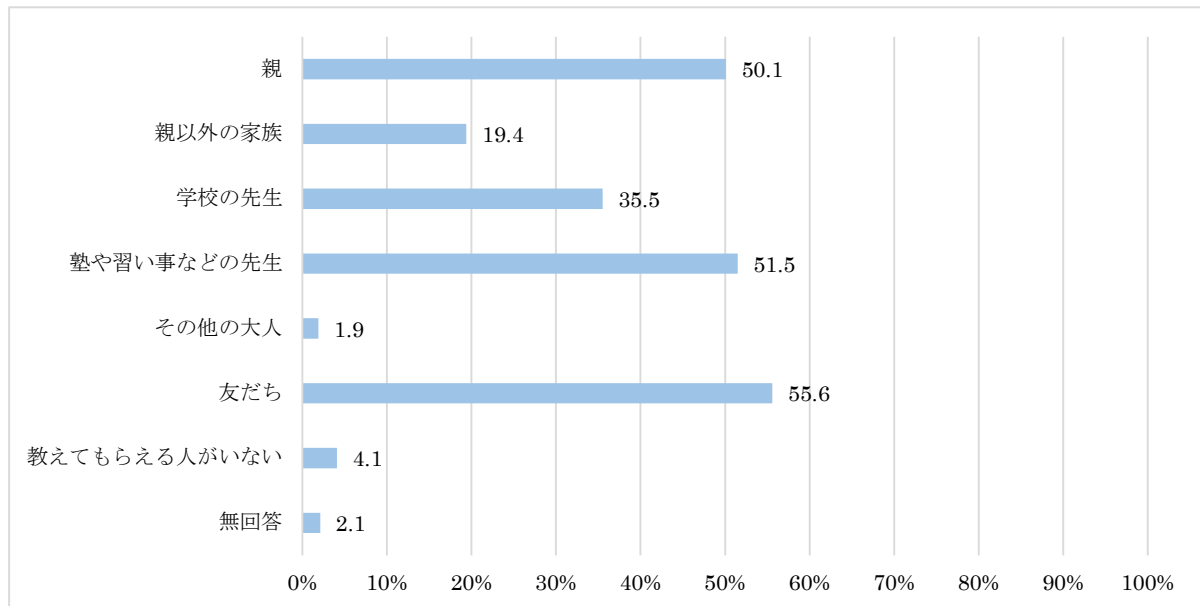
## (2) 中学2年生

中学2年生が、勉強がわからない時に教えてもらえる人は、「友だち」55.6%、「塾や習い事の先生」51.5%、「親」50.1%、「学校の先生」35.5%の順に多い。約半数が、「友だち」、「塾や習い事の先生」、「親」と答えた一方で、「教えてもらう人がいない」と答えた子どもも4.1%存在する。これを、生活困難度別にみると、「親」、「塾や習い事の先生」、「友だち」、そして「教えてもらえる人がいない」で異なる傾向がみられる。もっとも顕著な差がみられるのは、「塾や習い事の先生」に教えてもらう割合で、一般層は54.9%であるが、周辺層は47.9%、困窮層は28.6%にとどまる。「教えてもらえる人がいない」にも顕著な差があり、一般層は3.2%であるが、周辺層は4.4%、困窮層では8.8%である。困窮層の中学2年生は、12~13人に1人は勉強が分からない時に教えてもらう人がいない。

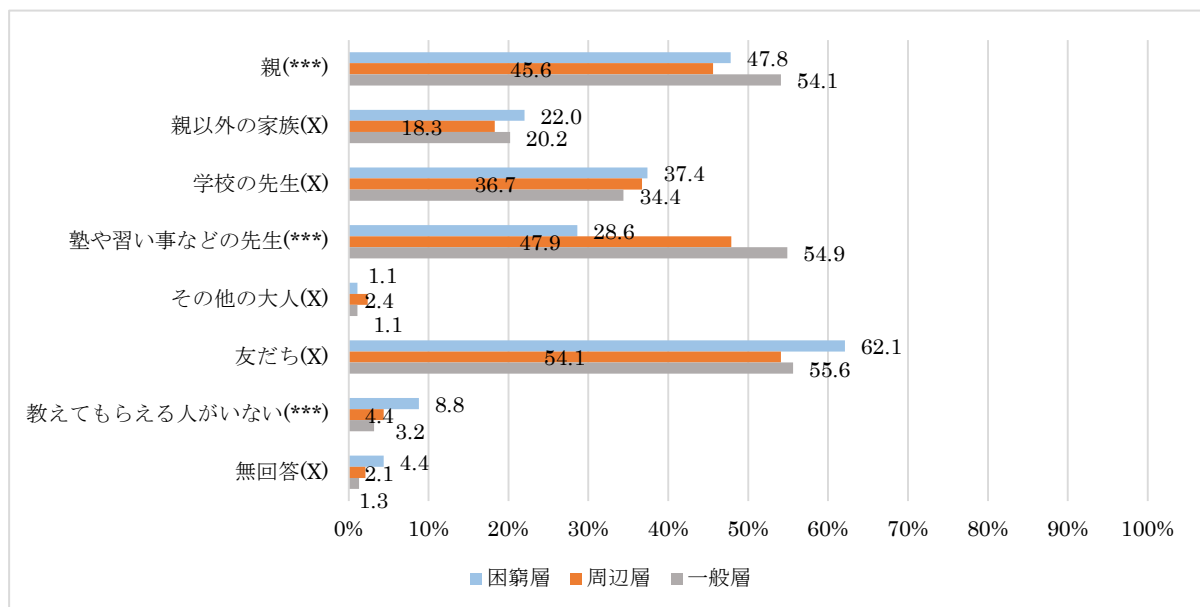


世帯タイプ別にみると、「親」、「塾や習い事の先生」、「その他の大人」、そして「教えてもらえない人がいない」で異なる傾向がみられる。とりわけ顕著な違いがみられるのは、「親」に教えてもらう割合で、ふたり親（二世帯）世帯は 53.5%であるが、ひとり親（二世帯）世帯は 44.1%、ひとり親（三世帯）世帯は最も少ない 39.6%である。「教えてもらえない人がいない」割合は、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯でそれぞれ 3.7%、3.3%であるのに対し、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯ではそれぞれ 8.0%、6.3%である。

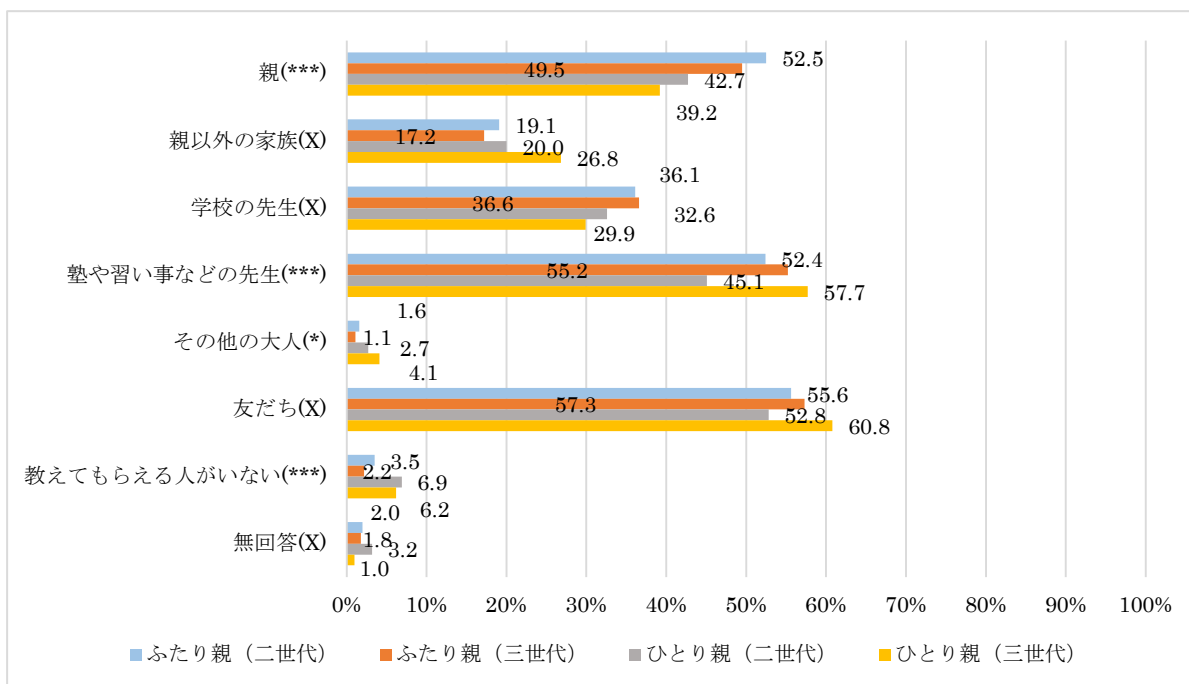
図表 5-3-6 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学 2 年生)



図表 5-3-7 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学 2 年生):生活困難度別

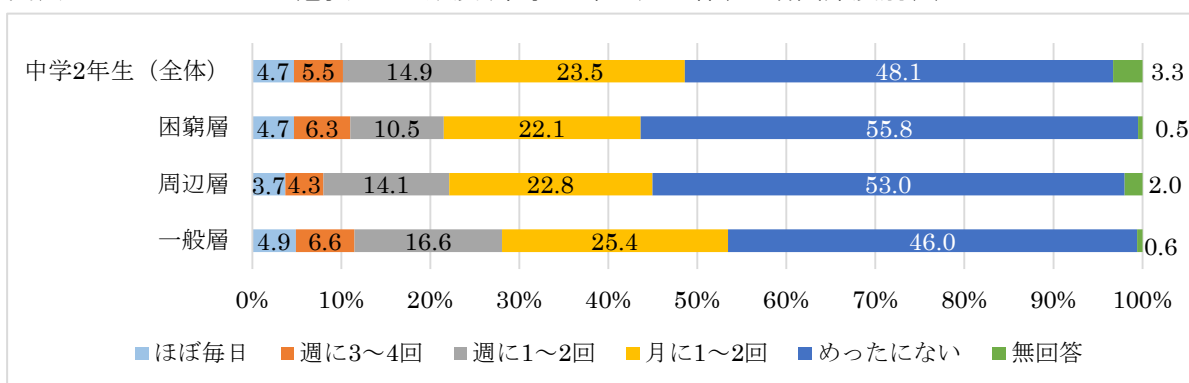


図表 5-3-8 勉強がわからない時に教えてもらう人(中学 2 年生):世帯タイプ別



中学 2 年生の保護者が子どもの勉強をみる頻度は、全体的に小学 5 年生の保護者よりも少なく、「めったにない」が最も多く 48.1%である。次いで、「月に 1~2 回」が 23.5%であるが、「ほぼ毎日」子どもの勉強をみる保護者も 4.7%いる。生活困難度別にみると、「めったにない」が一般層で 46.0%であるが、周辺層では 53.0%、困窮層では 55.8%である。その一方で、「ほぼ毎日」子どもの勉強をみる保護者は困窮層でも 4.7%いる。世帯タイプ別に有意な差は検証されなかった(図表省略)。

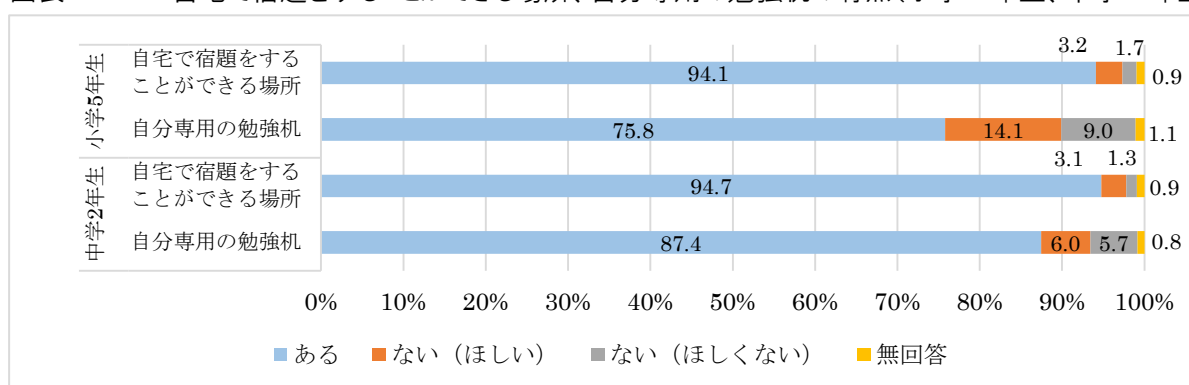
図表 5-3-9 お子さんの勉強をみる頻度(中学 2 年生):全体、生活困難度別(\*)



#### 4. 自宅での学習環境

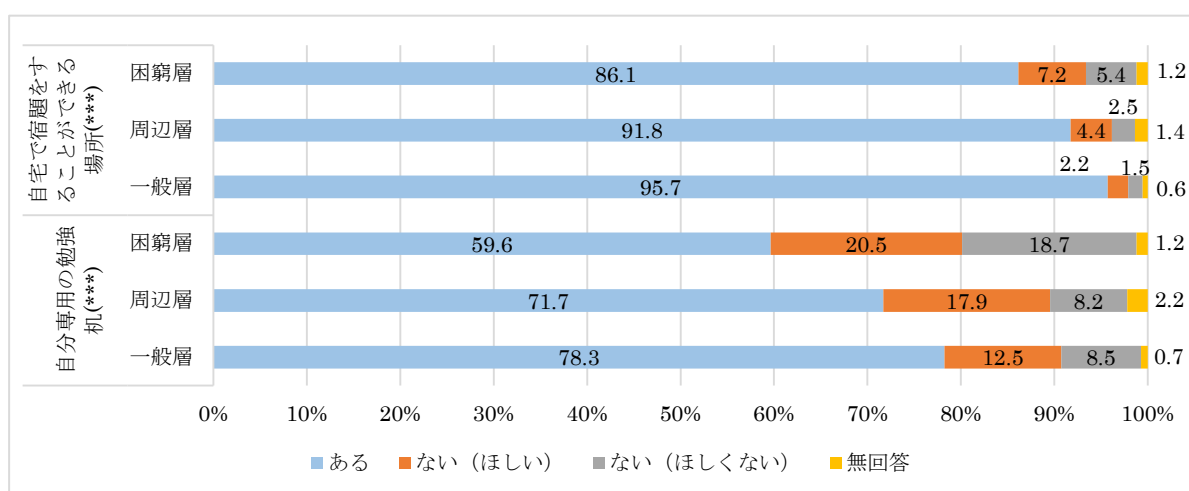
自宅での物質的な学習環境について、「自宅で宿題をすることができる場所」、「自分専用の勉強机」の有無を、「ある」、「ない（ほしい）」、「ない（ほしくない）」の三つの選択肢を設けて、子ども本人に聞いた。結果、自宅で宿題をすることができる場所が「ある」のは小学5年生の94.1%、中学2年生の94.7%、自分専用の勉強机が「ある」のは小学5年生の75.8%、中学2年生の87.4%である。この設問に「ない」と答えた子どものうち、特に注目したいのは、「ない（ほしい）」と回答した子どもたちである。自宅で宿題をすることができる場所が「ない（ほしい）」と回答したのは小学5年生の3.2%、中学2年生の3.1%、自分専用の勉強机が「ない（ほしい）」と回答したのは小学5年生の14.1%、中学2年生の6.0%である。

図表 5-4-1 自宅で宿題をすることができる場所、自分専用の勉強机の有無(小学5年生、中学2年生)

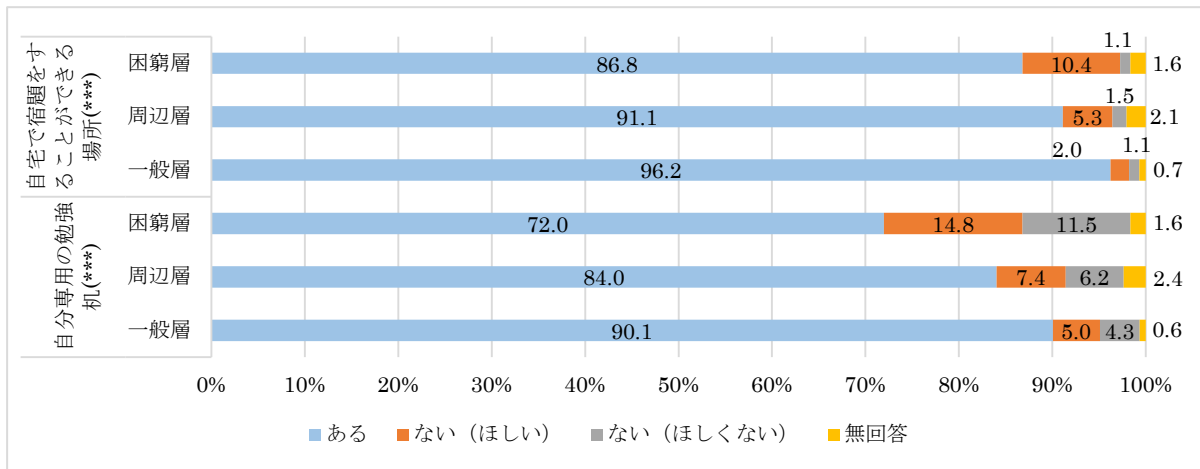


これらを生活困難度別にみると、自宅で宿題をすることができる場所が「ある」のは、小学5年生の一般層では95.7%であるのに対し、困窮層では86.1%にとどまる。中学2年生でも同様に、一般層では96.2%であるのに対し、困窮層では86.8%である。自分専用の勉強机についても同様に生活困難度が高いほど「ない」傾向がみられる。

図表 5-4-2 自宅で宿題をすることができる場所、自分専用の勉強机の有無(小学5年生):生活困難度別

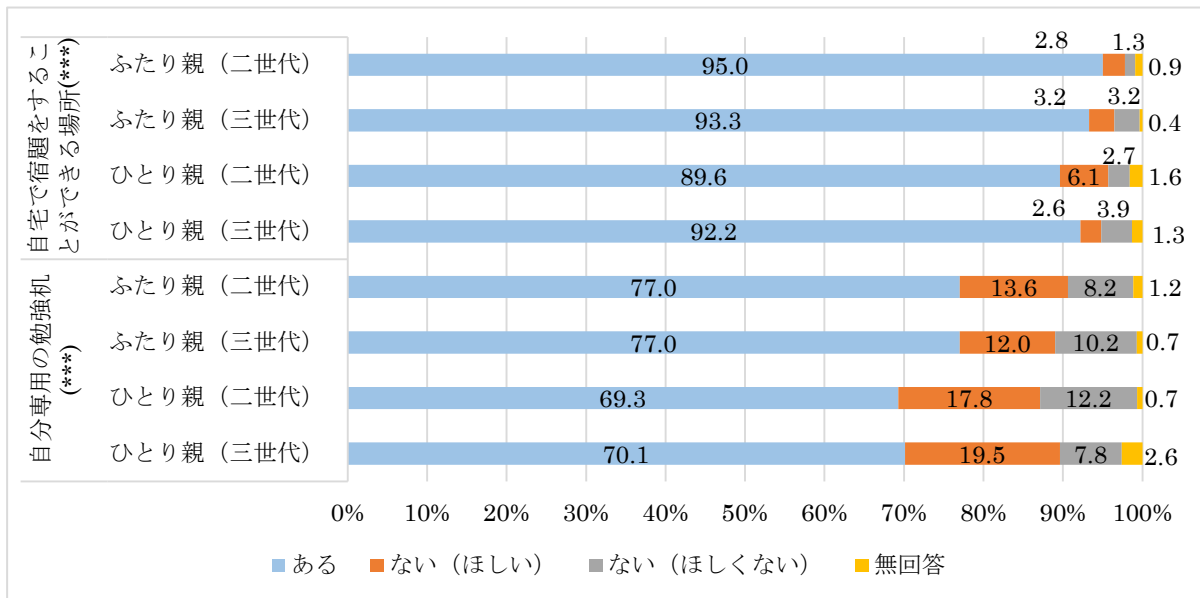


図表 5-4-3 自宅で宿題をすることができる場所、自分専用の勉強機の有無(中学2年生):生活困難度別

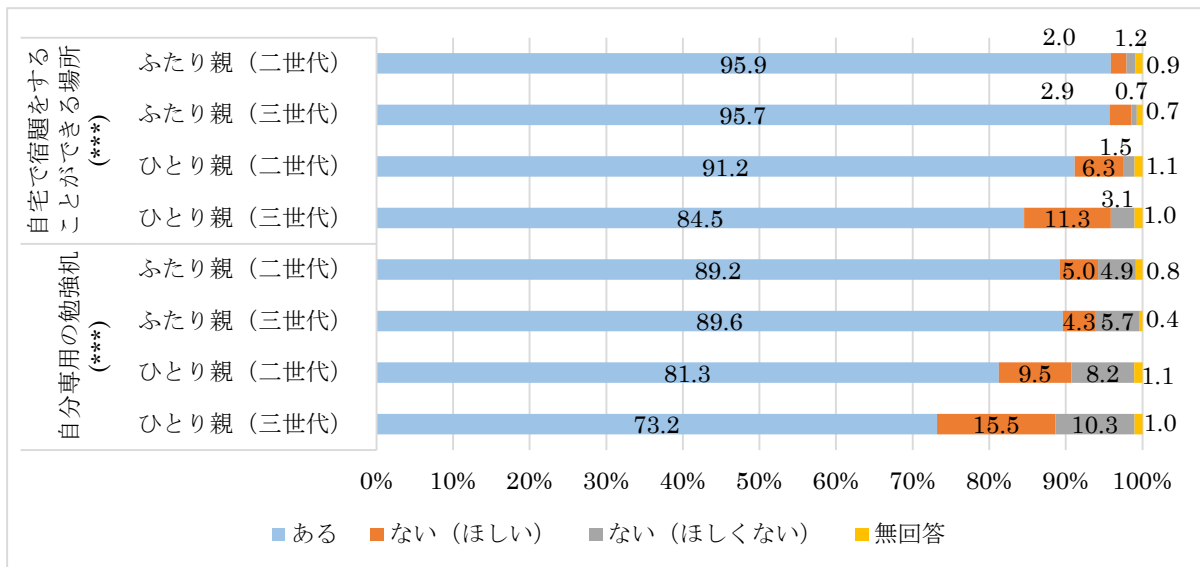


世帯タイプ別にみると、自宅で宿題をすることができる場所が「ある」のは、小学5年生のふたり親(二世帯)世帯では95.0%であるのに対し、ひとり親(二世帯)世帯では89.6%にとどまる。中学2年生でも同様に、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯ではともに約96%であるのに対し、ひとり親(三世帯)世帯では84.5%である。自分専用の勉強機についても同様にふたり親世帯よりひとり親世帯の方が「ない」傾向がみられる。

図表 5-4-4 自宅で宿題をすることができる場所、自分専用の勉強機の有無(小学5年生):世帯タイプ別



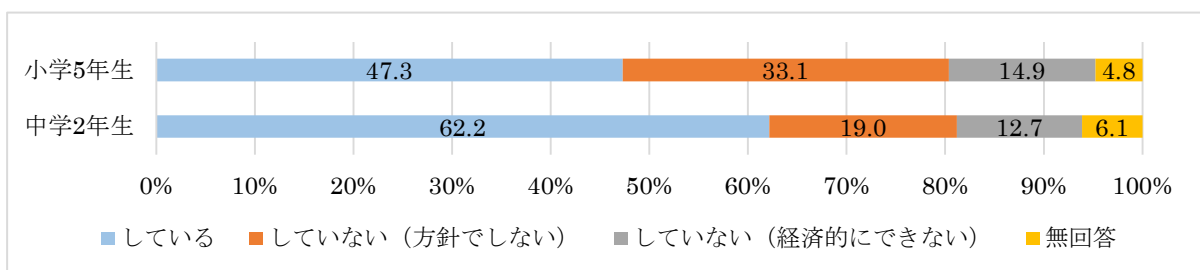
図表 5-4-5 自宅で宿題をすることができる場所、自分専用の勉強机の有無(中学2年生):世帯タイプ別



### 5. 通塾の状況

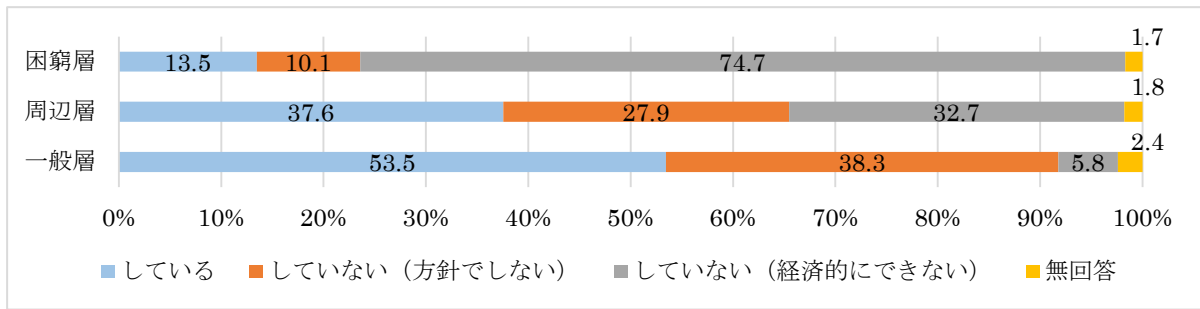
次に、塾や家庭教師の利用状況についてみる。保護者に「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」について「している」、「していない（方針でしない）」、「していない（経済的にできない）」の3つの選択肢で聞いたところ、小学5年生の47.3%が通塾（または家庭教師を利用）している一方で、「していない（経済的にできない）」は14.9%であった。中学2年生では62.2%が通塾（または家庭教師を利用）している一方で、「していない（経済的にできない）」は12.7%であった。

図表 5-5-1 通塾の状況(小学5年生、中学2年生)

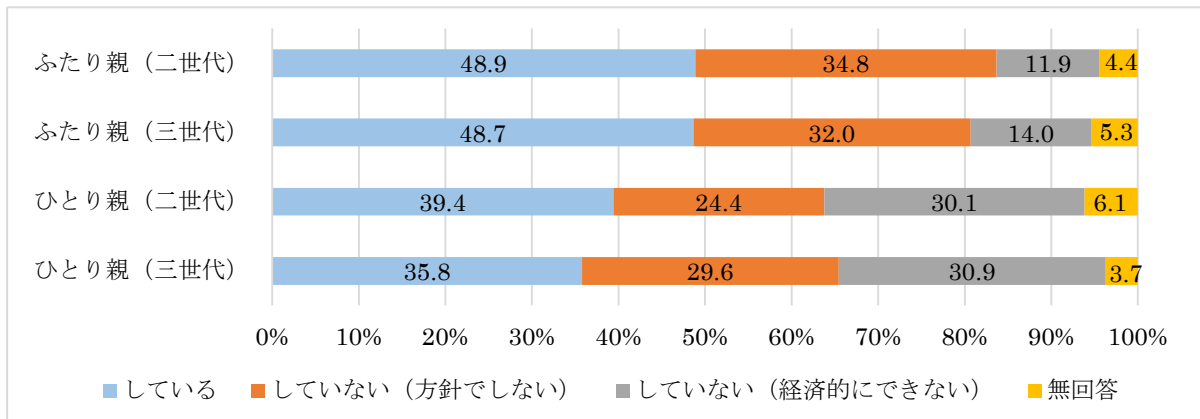


小学5年生を生活困難度別にみると、通塾（または家庭教師を利用）しているのは一般層の53.5%であるが、周辺層は37.6%、困窮層は13.5%にとどまる。その一方で、「していない（経済的にできない）」との回答は、一般層では5.8%であるが、周辺層で32.7%、困窮層では74.7%に上る。世帯タイプ別にみると、ふたり親（二代、三代）世帯で「している」がともに約49%であるのに対し、ひとり親（二代、三代）世帯はそれぞれ39.4%、35.8%にとどまる。ひとり親（二代、三代）世帯の約30%は通塾（または家庭教師を利用）させることが経済的にできない。

図表 5-5-2 通塾の状況(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)

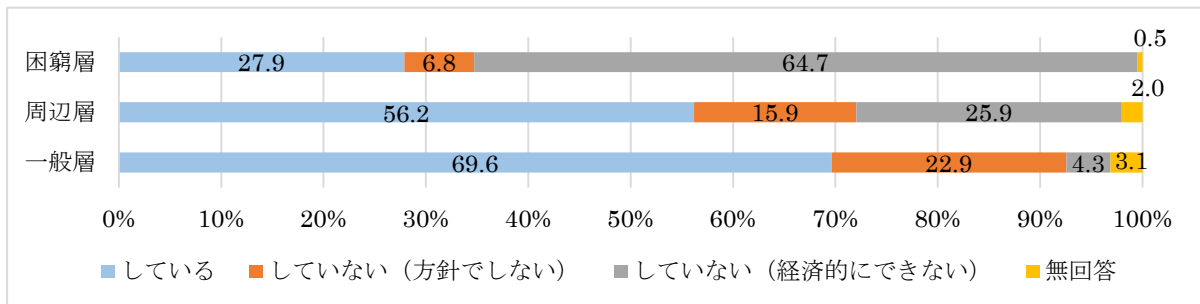


図表 5-5-3 通塾の状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

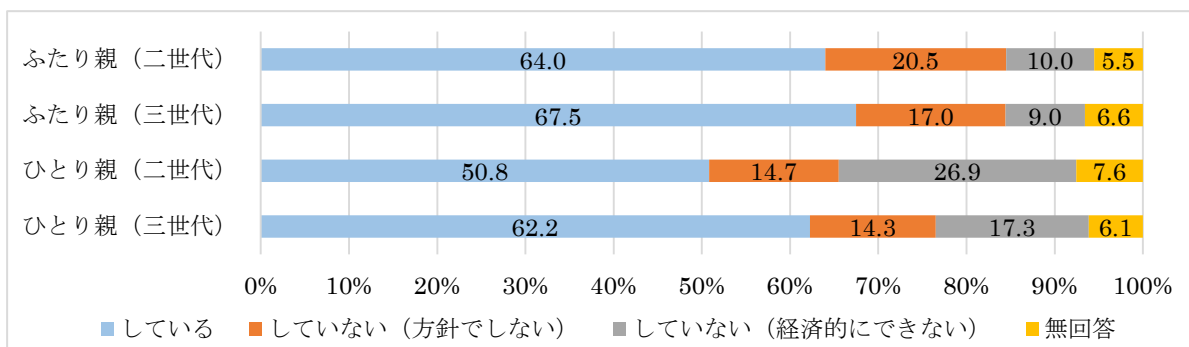


中学 2 年生を生活困難度別にみると、通塾（または家庭教師を利用）しているのは一般層の 69.6%であるが、周辺層は 56.2%、困窮層は 27.9%である。その一方で、「していない（経済的にできない）」との回答は、一般層では 4.3%であるが、周辺層は 25.9%、困窮層では 64.7%に上る。世帯タイプ別にみると、「している」がふたり親（二世帯、三世帯）世帯、ひとり親（三世帯）世帯で 62.2%～67.5%であるのに対し、ひとり親（二世帯）世帯は 50.8%にとどまる。「していない（経済的にできない）」は、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯でそれぞれ 26.9%、17.3%である。

図表 5-5-4 通塾の状況(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-5-5 通塾の状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

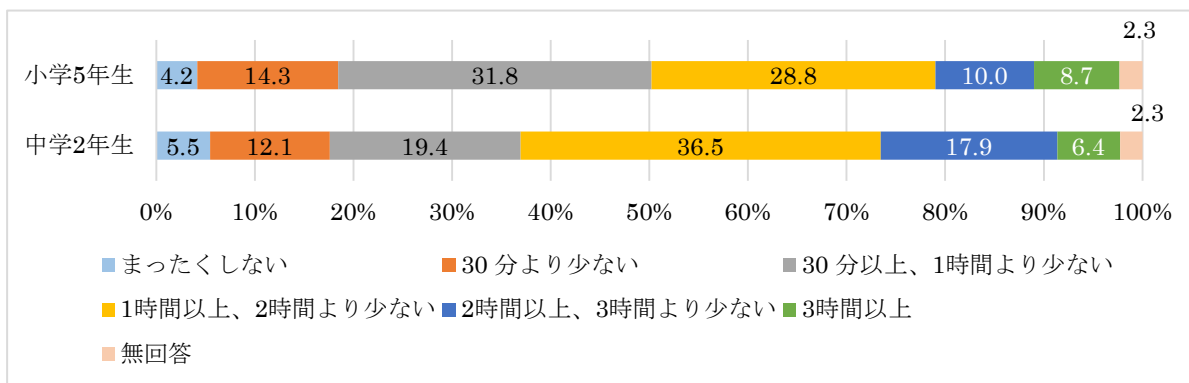


## 6. 学校の授業以外の学習時間

以上より、困窮層の子どもたちは一般層の子どもたちに比べて、家庭での学習環境、通塾の点で、差があることが明らかになった。また、ひとり親世帯の子どもたちと、ふたり親世帯の子どもたちとの間でも差があることが確認された。これらを踏まえたうえで、学校の授業以外の学習時間について子ども本人の回答をみってみる。

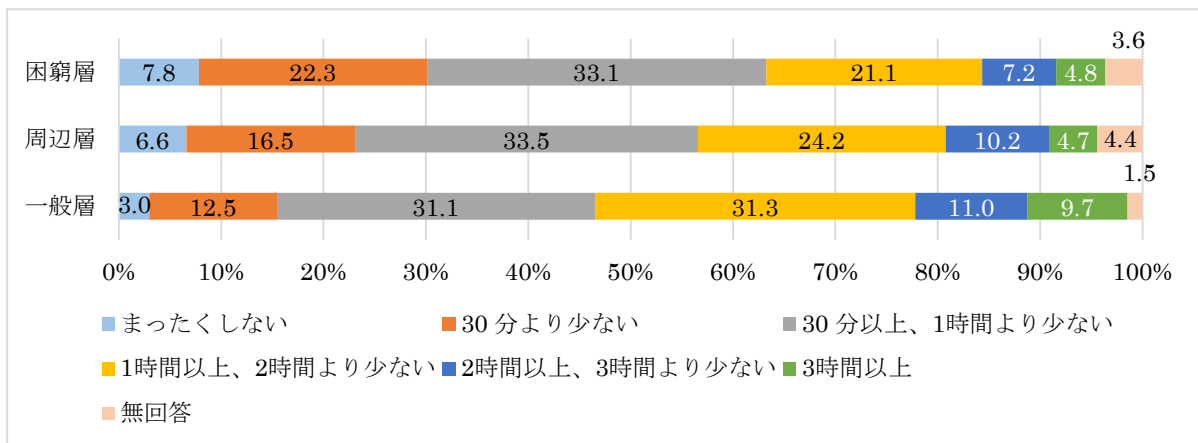
学校の授業以外に勉強を「まったくしない」のは小学 5 年生の 4.2%、「30 分未満」(「まったくしない」および「30 分より少ない」)は 18.5%である。その一方で、「2 時間以上」(「2 時間以上、3 時間より少ない」および「3 時間以上」)は 18.7%である。中学 2 年生では、学校の授業以外に勉強を「まったくしない」は 5.5%、「30 分未満」は 17.6%である一方、「2 時間以上」は 24.3%である。

図表 5-6-1 学校の授業以外の学習時間(小学 5 年生、中学 2 年生)

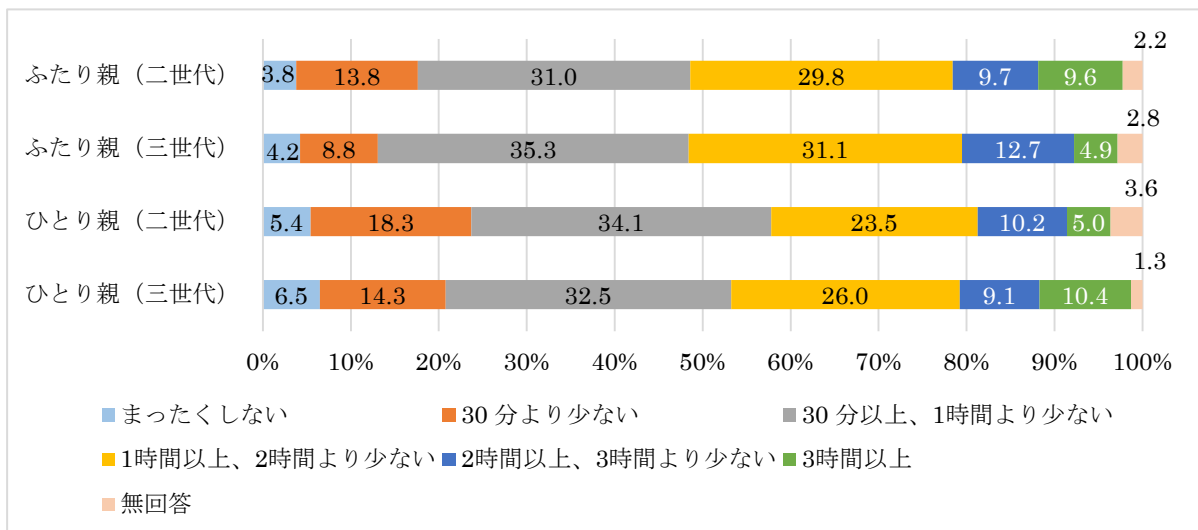


小学 5 年生を生活困難度別にみると、一般層は「30 分未満」が 15.5%であるのに対し、周辺層は 23.1%、困窮層は 30.1%である。その一方で、「2 時間以上」は、一般層で 20.7%であるのに対し、周辺層は 14.9%、困窮層は 12.0%である。世帯タイプ別にみると、「30 分未満」は、ふたり親 (三世帯) 世帯で 13.0%であるのに対し、ひとり親 (二世帯) 世帯では、23.7%である。「2 時間以上」はふたり親 (二世帯、三世帯) 世帯、ひとり親 (三世帯) 世帯ではいずれも 20%に近いが、ひとり親 (二世帯) 世帯は 15.2%である。

図表 5-6-2 学校の授業以外の学習時間(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



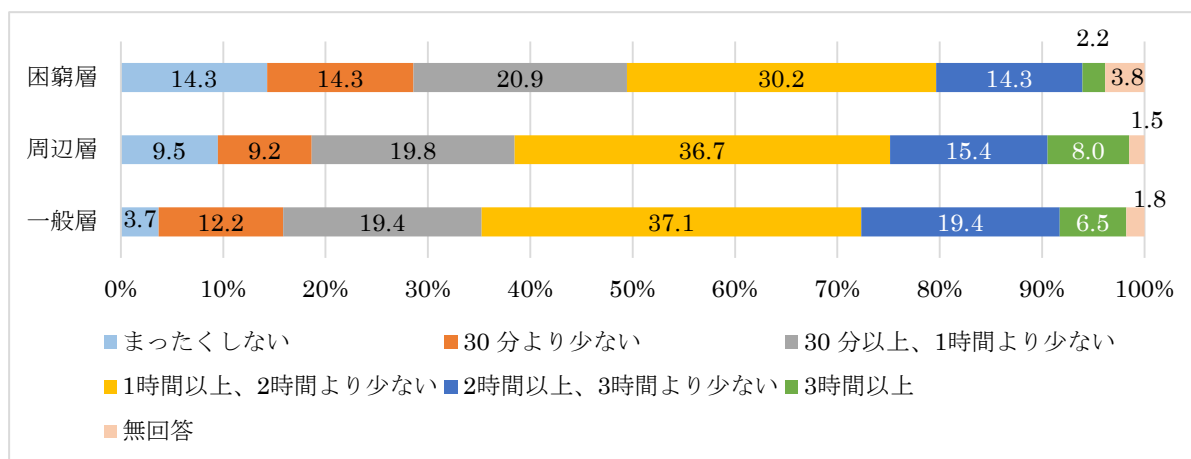
図表 5-6-3 学校の授業以外の学習時間(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



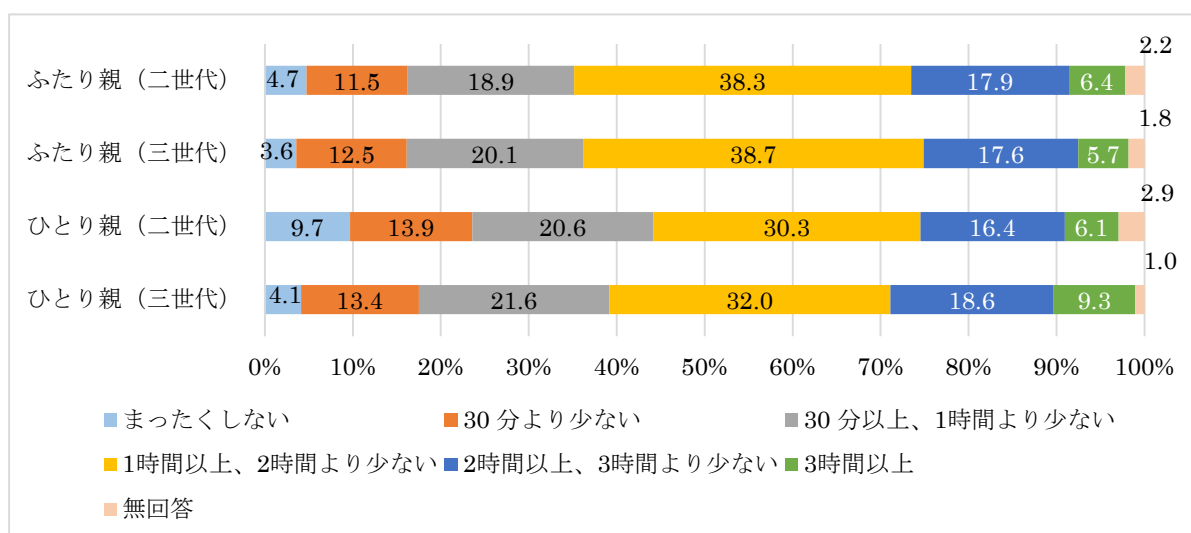
中学 2 年生を生活困難度別にみると、一般層は「30 分未満」が 15.9%であるのに対し、周辺層は 18.7%、困窮層は 28.6%である。その一方で、「2 時間以上」は、一般層で 25.9%であるのに対し、周辺層は 23.4%、困窮層は 16.5%である。世帯タイプ別にみると、「30 分未満」は、ふたり親 (二世帯、三世帯) 世帯、ひとり親 (三世帯) 世帯で 16%~17%程度であるのに対し、ひとり親 (二世帯) 世帯では、23.6%である。「2 時間以上」は、ひとり親 (三世帯) 世帯で 27.9%であるが、ひとり親 (二世帯) 世帯は 22.5%である。



図表 5-6-4 学校の授業以外の学習時間(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-6-5 学校の授業以外の学習時間(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

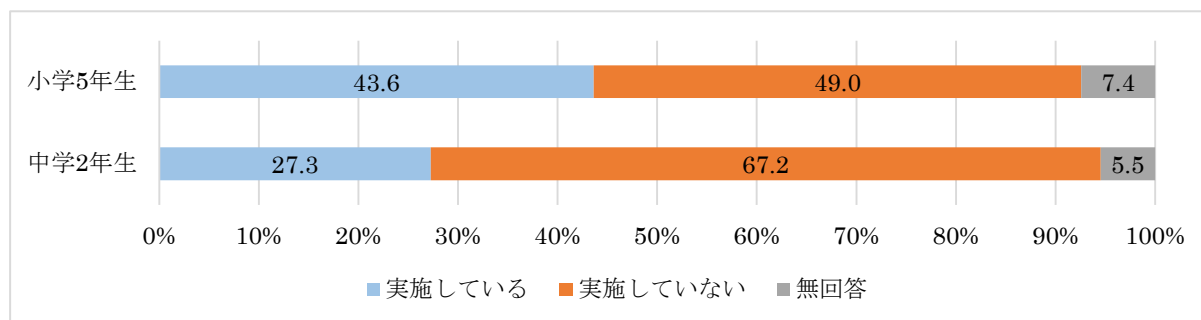


このように、一般層に比べて、周辺層、困窮層の子どもは学習時間が短く、ひとり親 (二世帯) 世帯の子どもは他の世帯タイプの子どもに比べて学習時間が短い傾向があることが分かった。

## 7. 学校の学習教室の利用状況

そこで、学校における学習環境のひとつとして、学校の学習教室に着目し、その参加についてみる。ここでは、子ども票にて、子ども本人に「あなたの学校では、学習教室（放課後、昼休み等）を実施していますか」と聞いた回答を用いている。その結果、小学5年生の43.6%、中学2年生の27.3%が「実施している」と回答した。本節では、学習教室を実施している学校における学習教室への参加状況と参加しない理由についてみる。

図表 5-7-1 学校における学習教室の実施状況(小学5年生、中学2年生)

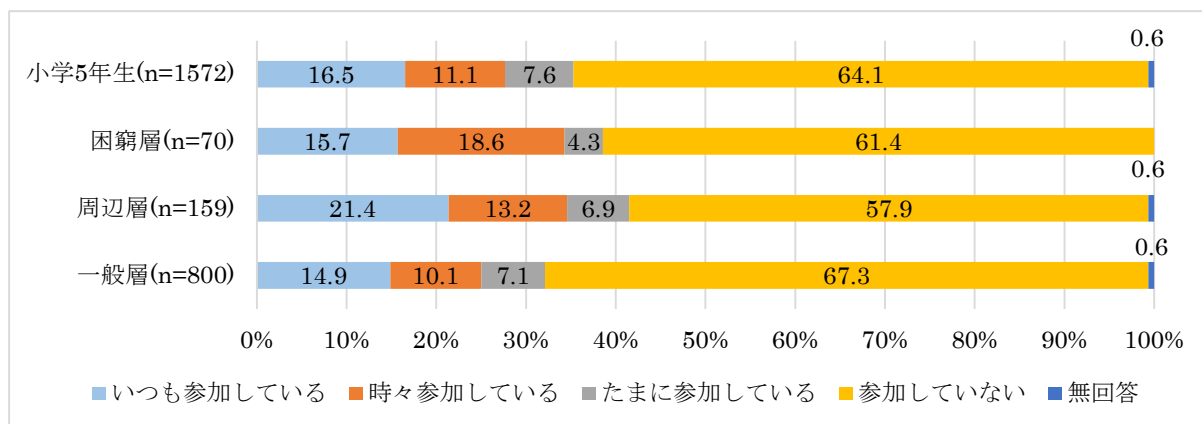


### (1) 小学5年生

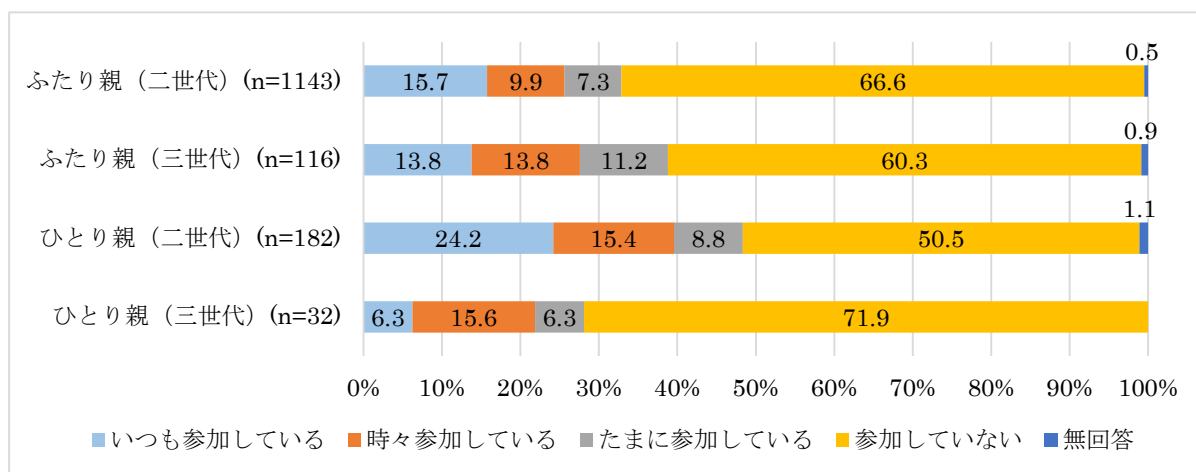
学習教室を実施している学校の小学5年生の16.5%は「いつも参加している」、11.1%は「時々参加している」と答え、合わせて27.6%が「(いつも・時々)参加している」のに対し、「たまに参加している」は7.6%、「参加していない」は64.1%であった。生活困難度別にみると、「(いつも・時々)参加している」のは、一般層の25.0%、周辺層の34.6%、困窮層の34.3%である。世帯タイプ別にみると、「(いつも・時々)参加している」のは、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯のそれぞれ25.6%、27.6%、ひとり親(二世帯)世帯の39.6%、ひとり親(三世帯)世帯の21.9%である。

「たまに参加している」および「参加していない」と答えた子どもにその理由を聞いたところ、もっとも多い理由は「必要がないから」40.6%であり、次に「塾、スポーツ、習い事などで時間がないから」19.8%、「興味がないから」18.0%の順であった。これを生活困難度別にみると、一般層、周辺層は小学5年生全体と同様に「必要がないから」、「塾、スポーツ、習い事などで時間がないから」、「興味がないから」の順に多い。これに対し、困窮層では「必要がないから」32.6%、次に「興味がないから」28.3%、「その他の理由」13.0%の順に多い。困窮層は、「興味がないから」が一般層よりも11.5ポイント多いこと、「塾、スポーツ、習い事などで時間がない」が一般層よりも14.5ポイント少ないこと、「家の事情」が8.7%と一般層よりも6.7ポイント多いことが特徴的である。世帯タイプ別には統計的に有意な差は認められなかった。

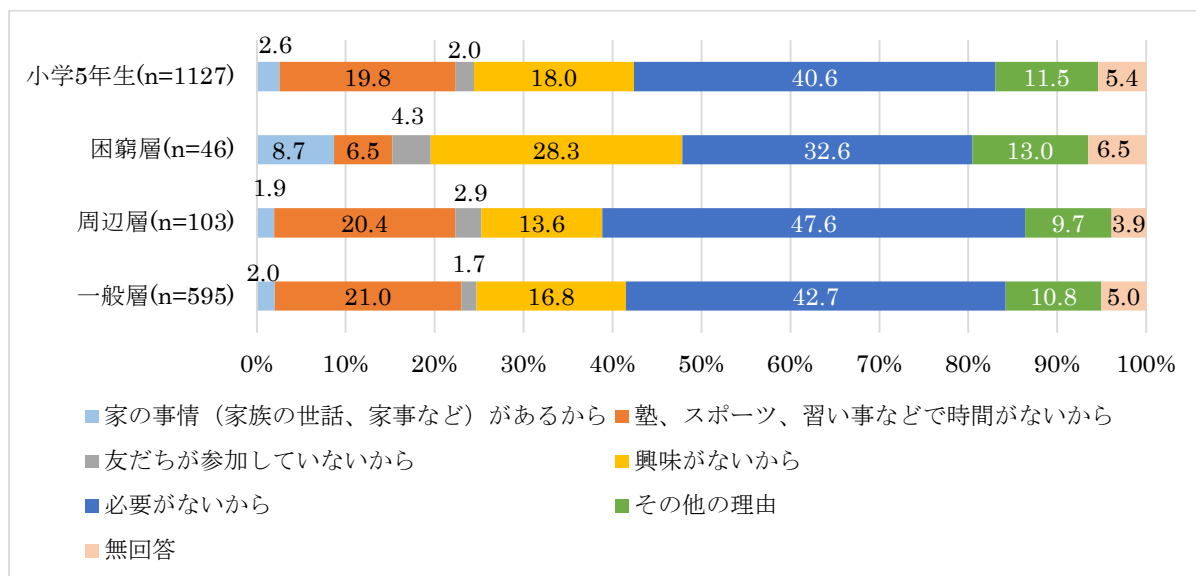
図表 5-7-2 学習教室への参加状況(小学5年生):全体、生活困難度別(\*)



図表 5-7-3 学習教室への参加状況(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



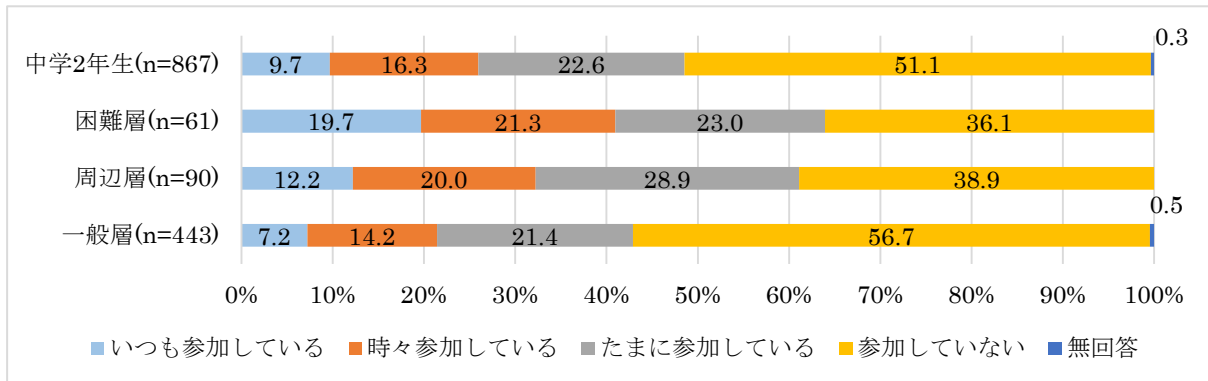
図表 5-7-4 学習教室に参加しない理由(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*)



## (2) 中学2年生

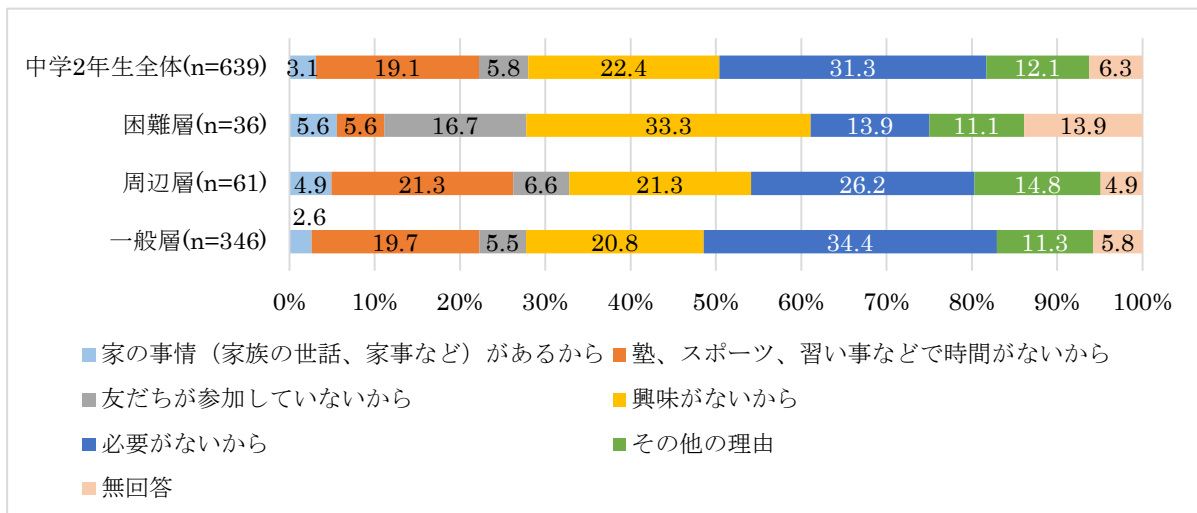
学習教室を実施している学校の中学2年生の9.7%は「いつも参加している」、16.3%は「時々参加している」と答え、合わせて26.0%が「(いつも・時々)参加している」のに対し、「たまに参加している」は22.6%、「参加していない」は51.1%であった。生活困難度別にみると、「(いつも・時々)参加している」のは、一般層の21.4%、周辺層の32.2%、困窮層の41.0%である。世帯タイプ別に有意な差はみられなかった。

図表 5-7-5 学習教室への参加状況(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)

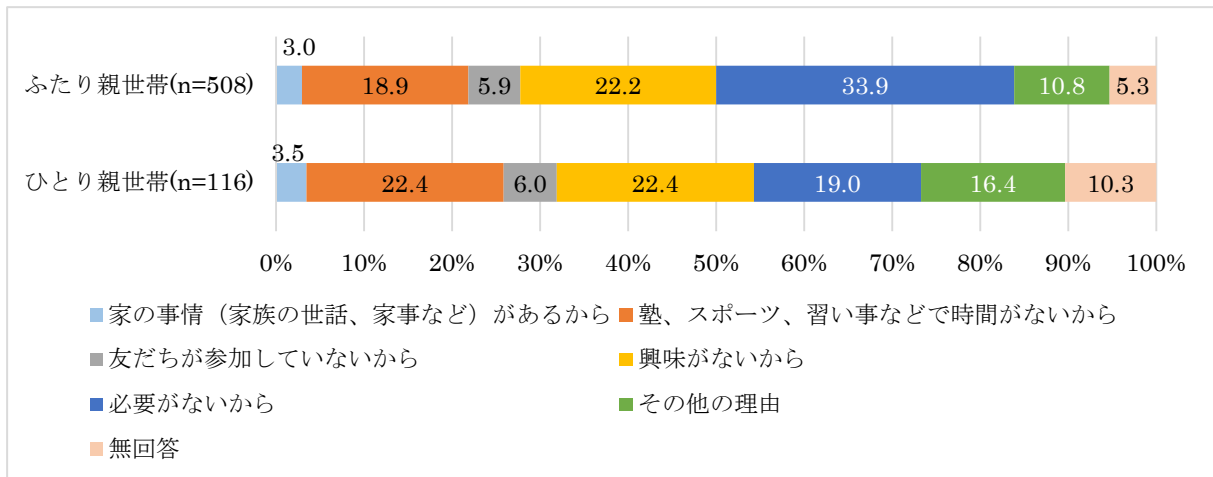


「たまに参加している」および「参加していない」と答えた子どもが参加しない理由として、もっとも多いのは「必要がないから」31.3%、次に「興味がないから」22.4%、「塾、スポーツ、習い事などで時間がないから」19.1%の順に多かった。これを生活困難度別にみると、困窮層は「興味がないから」33.3%、「友だちが参加していないから」16.7%、「必要がないから」13.9%の順に多い。これらの項目は一般層と比べて差が大きく、「興味がないから」は12.5ポイント差、「塾、スポーツ、習い事などで時間がない」は14.1ポイント差(困窮層5.6%、一般層19.7%)、「友だちが参加していないから」は11.2ポイント差である。世帯タイプ別に4分類すると度数が少なく、分析に堪えないため、2分類でみると、「必要がないから」がふたり親世帯で33.9%であるのに対し、ひとり親世帯では19.0%である。

図表 5-7-6 学習教室に参加しない理由(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*)



図表 5-7-7 学習教室に参加しない理由(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*)

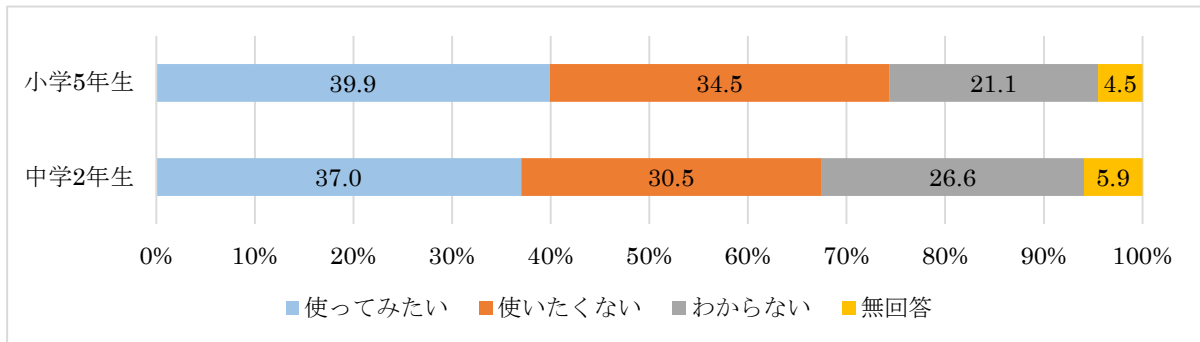


## 8. 学習支援事業・自習室の利用意向

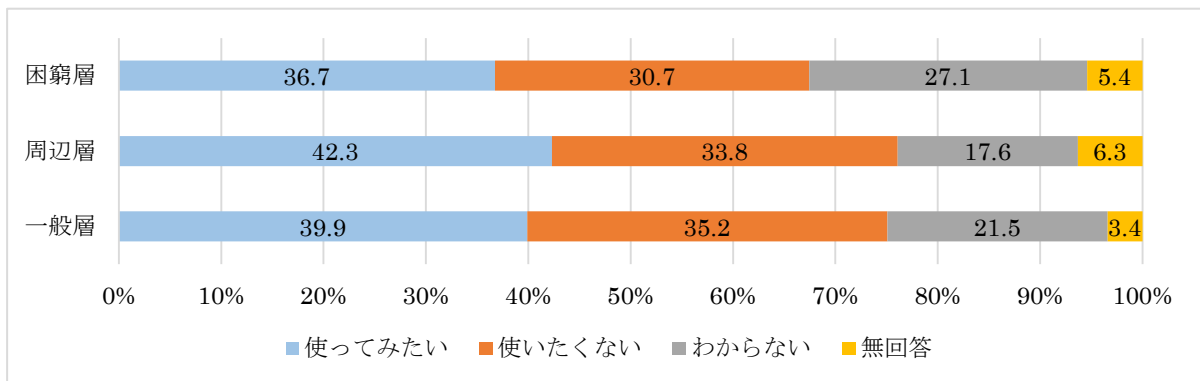
### (1) 無料の学習支援事業

「(家や学校以外で) 大学生のお兄さんやお姉さんなどが、勉強を無料でみてくれる場所や施設」の利用意向を子ども本人に聞いた。小学 5 年生の 39.9%、中学 2 年生は 37.0%が「使ってみたい」と答えた。小学 5 年生も中学 2 年生も生活困難度別、世帯タイプ別に統計的に有意な差はみられなかった。

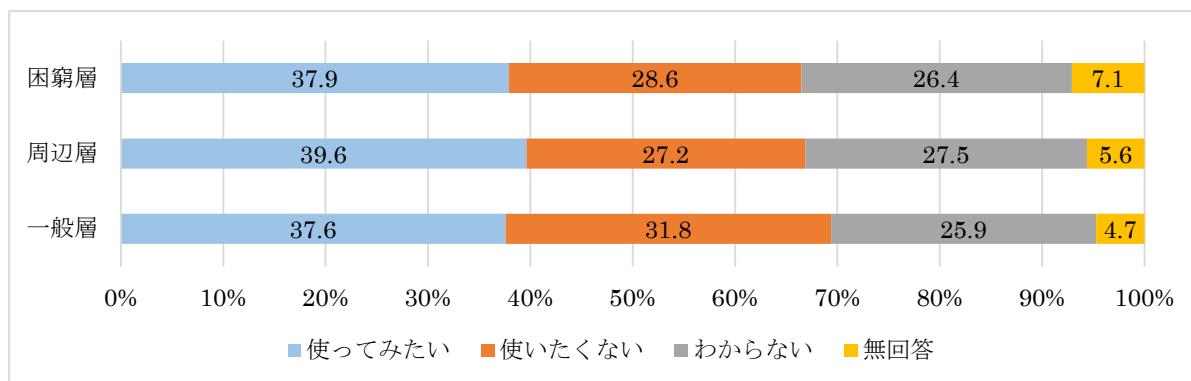
図表 5-8-1 学習支援事業の利用意向(小学 5 年生、中学 2 年生)



図表 5-8-2 学習支援事業の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(X)



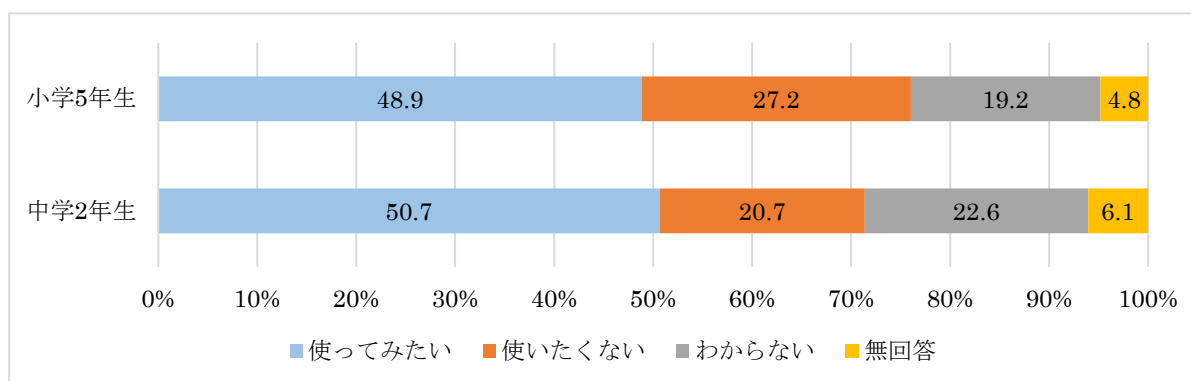
図表 5-8-3 学習支援事業の利用意向(中学2年生):生活困難度別(X)



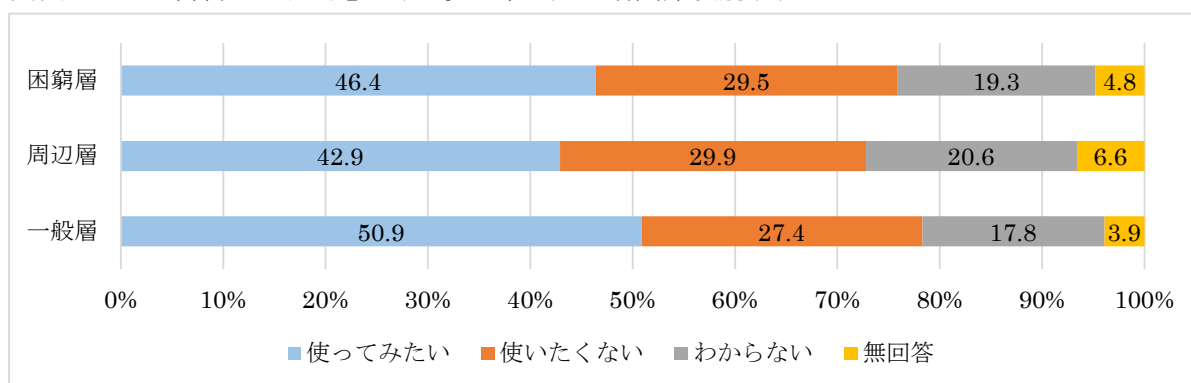
## (2) 自習室

「(家や学校以外で) 放課後や休日・夏休みなどに、静かに勉強ができる場所や施設」の利用意向を子ども本人に聞いた。小学5年生の48.9%、中学2年生は50.7%が「使ってみたい」と答えた。小学5年生も中学2年生も生活困難度別、世帯タイプ別に統計的に有意な差はみられなかった。

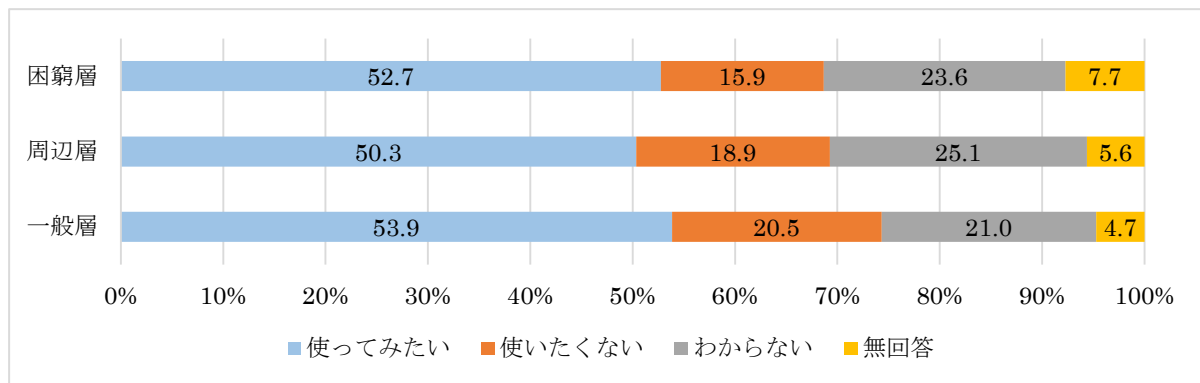
図表 5-8-4 自習室の利用意向(小学5年生、中学2年生)



図表 5-8-5 自習室の利用意向(小学5年生):生活困難度別(X)



図表 5-8-6 自習室の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(X)







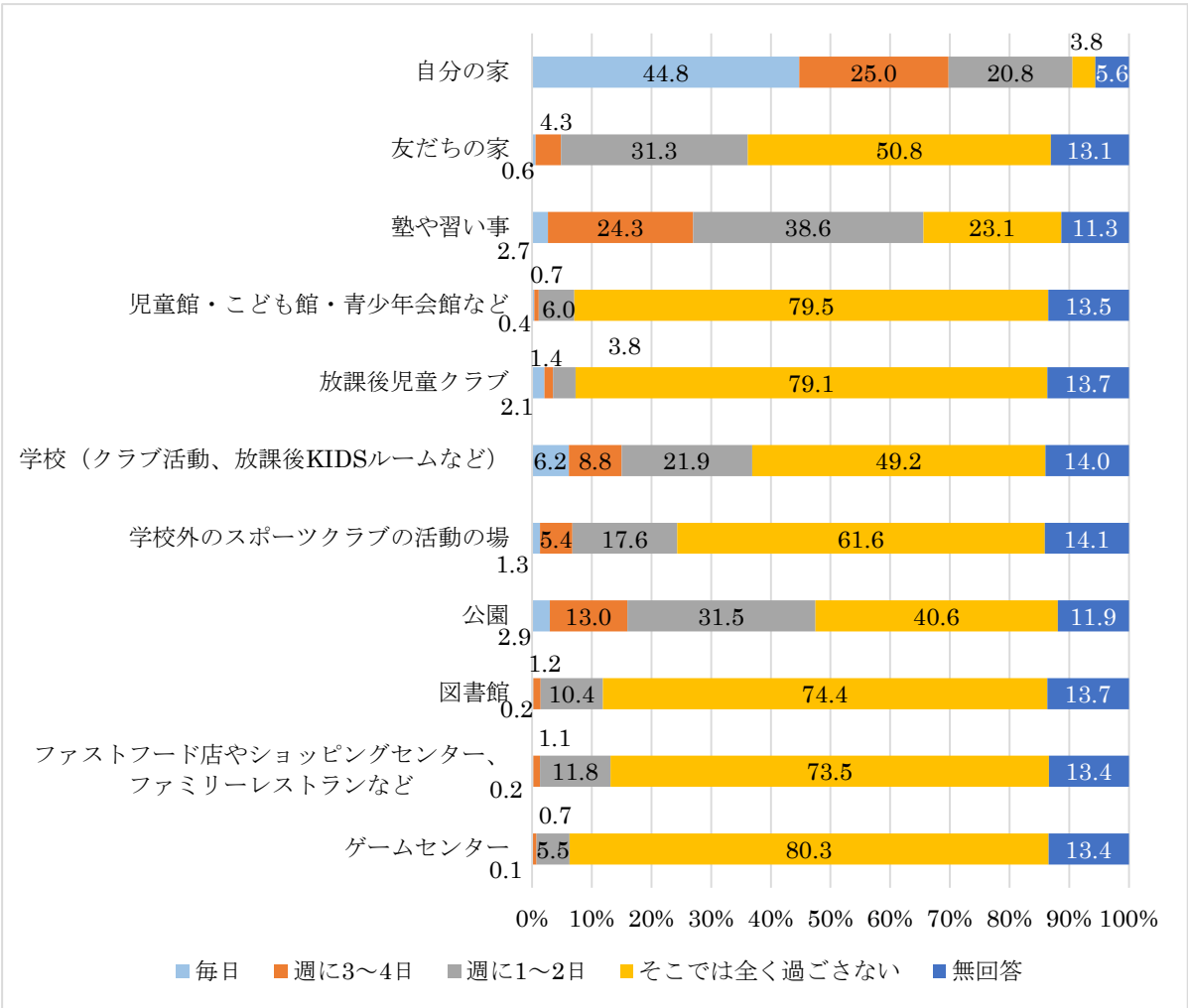
# 第6章 子どもの居場所・つながり

## 1. 平日の放課後・休日の午後に過ごす場所

### (1) 平日の放課後に過ごす場所

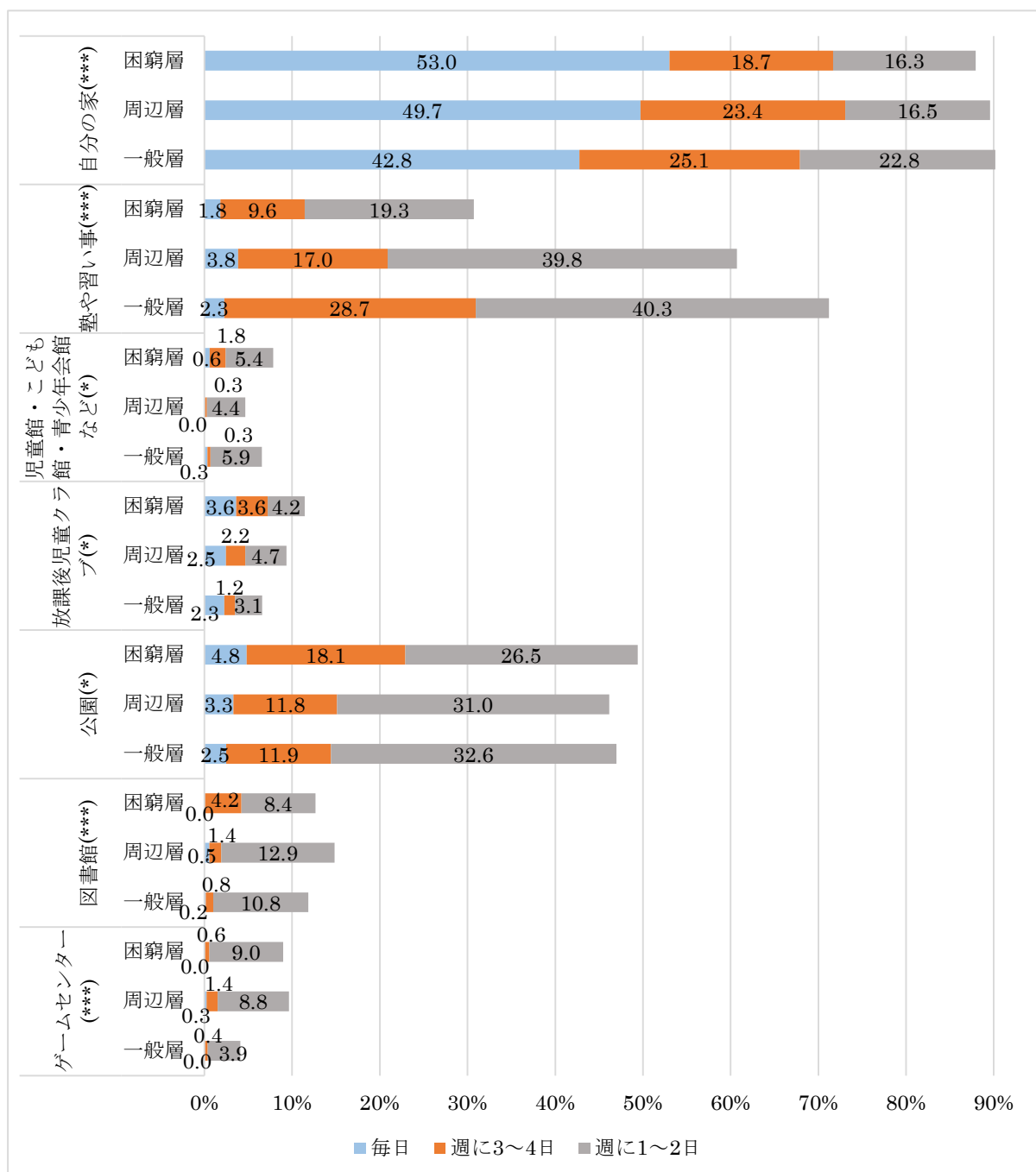
本章では、子どもの居場所に注目して分析を行う。まず、子ども票にて、平日の放課後にどれくらい過ごすかを、以下の場所について、それぞれ、「毎日」、「週に3~4日」、「週に1~2日」、「そこでは全く過ごさない」の4択で聞いた。その結果、小学5年生が平日3~4日以上（「毎日」および「週に3~4日」）、放課後を過ごす場所は、「自分の家」が一番多く69.8%、次に「塾や習い事」27.0%、「公園」15.9%、「学校」15.0%と続く。「図書館」、「放課後児童クラブ」や「児童館・こども館・青少年会館など」の地域の資源についても、これらよりも少ないものの、「週に1~2回」まで含めると7.1%~11.8%の子どもが過ごしている。一方、「ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど」、「ゲームセンター」といった商業施設についても、それぞれ13.1%、6.3%の小学5年生が「週に1~2回」以上、放課後の時間を過ごしている。

図表 6-1-1 平日の放課後に過ごす場所(小学5年生)



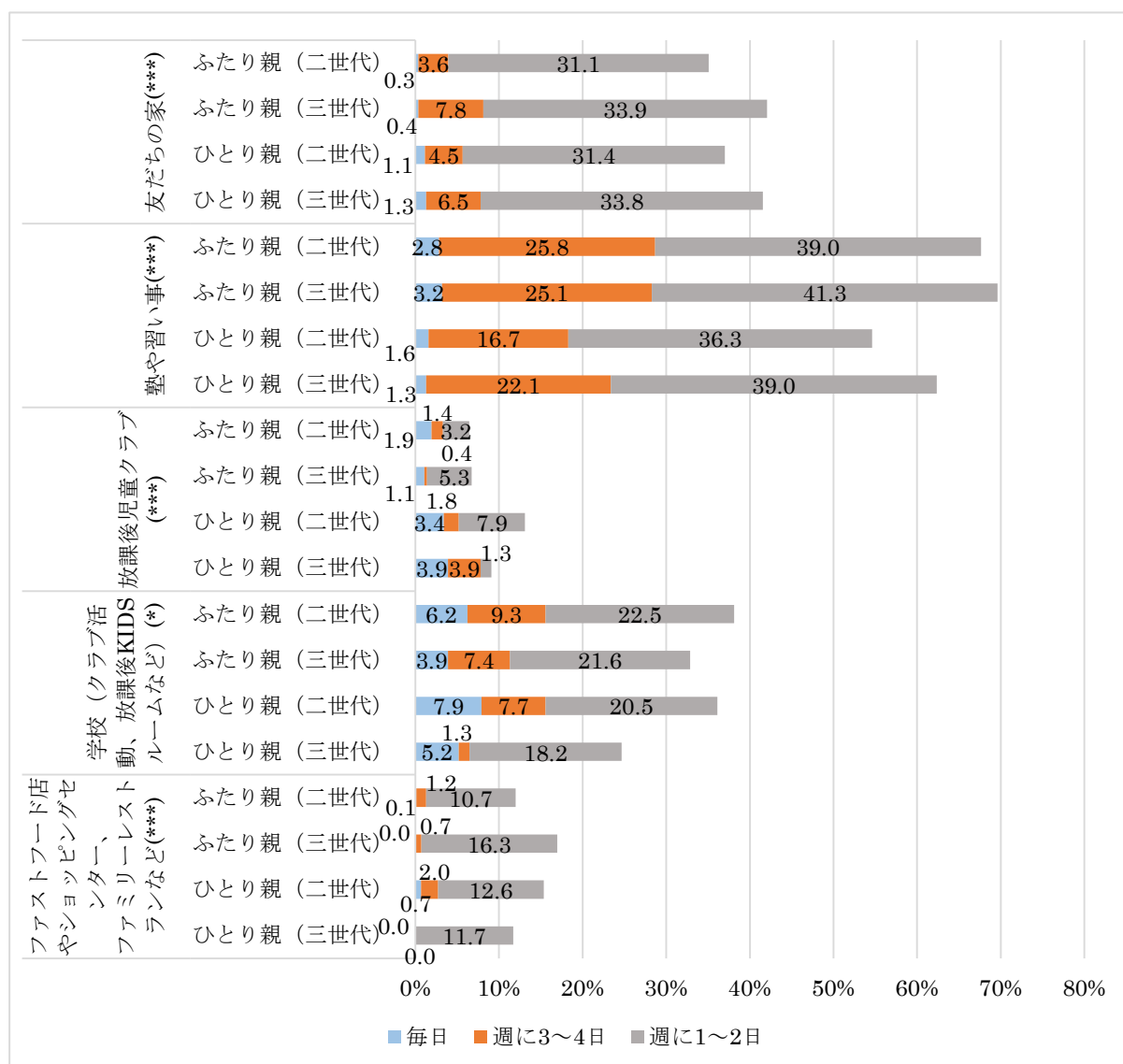
この割合を生活困難度別にみると、「自分の家」、「塾や習い事」、「図書館」、「ゲームセンター」については統計的に有意な差がみられた（「公園」は 10%水準で有意）。「自分の家」で「毎日」過ごす子どもは一般層で 42.8%である一方、周辺層は 49.7%、困窮層は 53.0%となっている。「塾や習い事」で平日 1~2 日以上過ごす子どもは、一般層では 71.3%であるのに対し、周辺層は 60.6%、困窮層は 30.7%にとどまり、生活困難度別に差がもっとも大きいのはこの項目である。「図書館」で平日 3~4 日以上過ごす子どもは、一般層で 1.0%、周辺層で 1.9%である一方で、困窮層は 4.2%である。「ゲームセンター」で平日 1~2 日以上過ごす子どもは、一般層で 4.3%であるが、周辺層は 10.5%、困窮層は 9.6%である。

図表 6-1-2 平日の放課後に過ごす場所(小学 5 年生):生活困難度別(有意差のある項目のみ)



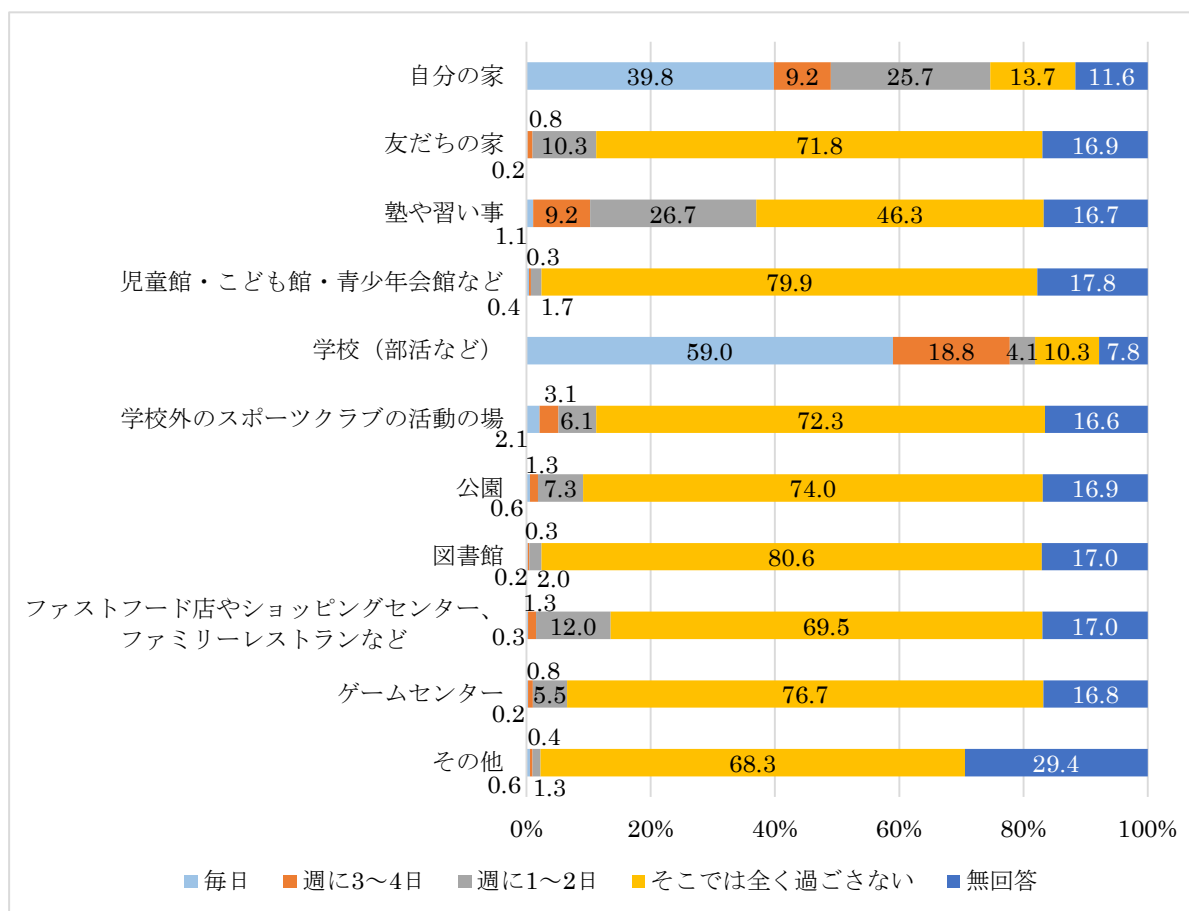
同じくこの割合を世帯タイプ別にみると、「友だちの家」、「塾や習い事」、「放課後児童クラブ」、「ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど」にて有意な差がみられた（「学校」は10%水準で有意）。「友だちの家」で平日1～2日以上過ごす子どもは、ふたり親（三世代）世帯、ひとり親（三世代）世帯で約42%であるのに対し、ふたり親（二世帯）世帯では35.0%、ひとり親（二世帯）世帯では37.0%であり、三世代世帯の子どもの方が友だちの家で過ごす傾向がうかがえる。「塾や習い事」で平日1～2日以上過ごす子どもは、ふたり親（二世帯）世帯で67.6%、ふたり親（三世代）世帯で69.6%であるのに対し、ひとり親（二世帯）世帯では54.6%、ひとり親（三世代）世帯では62.4%にとどまる。「放課後児童クラブ」で平日1～2日以上過ごす子どもは、ふたり親（二世帯、三世代）世帯で約7%、ひとり親（三世代）世帯で9.1%である一方、ひとり親（二世帯）世帯では13.1%である。小学校高学年で学童クラブを利用する世帯は多くはないものの、特にひとり親（二世帯）世帯でニーズが大きいことが分かる。「ファストフード店など」で平日1～2日以上過ごす子どもはふたり親（三世代）世帯の17.0%、ひとり親（二世帯）世帯の15.3%である。

図表 6-1-3 平日の放課後に過ごす場所(小学5年生):世帯タイプ別(有意差のある項目のみ)



中学2年生が平日3~4日以上、放課後に過ごす場所は、「学校(部活など)」77.8%、「自分の家」49.0%、「塾や習い事」10.3%の順に多い。小学5年生に比べると、中学2年生においては、「学校」の存在が大きく、約60%の子どもが「毎日」放課後を学校で過ごしている。「塾や習い事」で過ごす子どもは小学5年生よりも少ないが、「週に1~2回」まで含めると、37.0%がそこで過ごしている。「公園」、「児童館・こども館・青少年会館」、「図書館」などの公共の施設で過ごす子どもは、小学5年生よりも少ない。一方、「ファストフード店など」で「週に1~2回」以上過ごす子どもは13.6%、「ゲームセンター」では6.5%となっており、商業施設が子どもの放課後の居場所となっている場合もある。

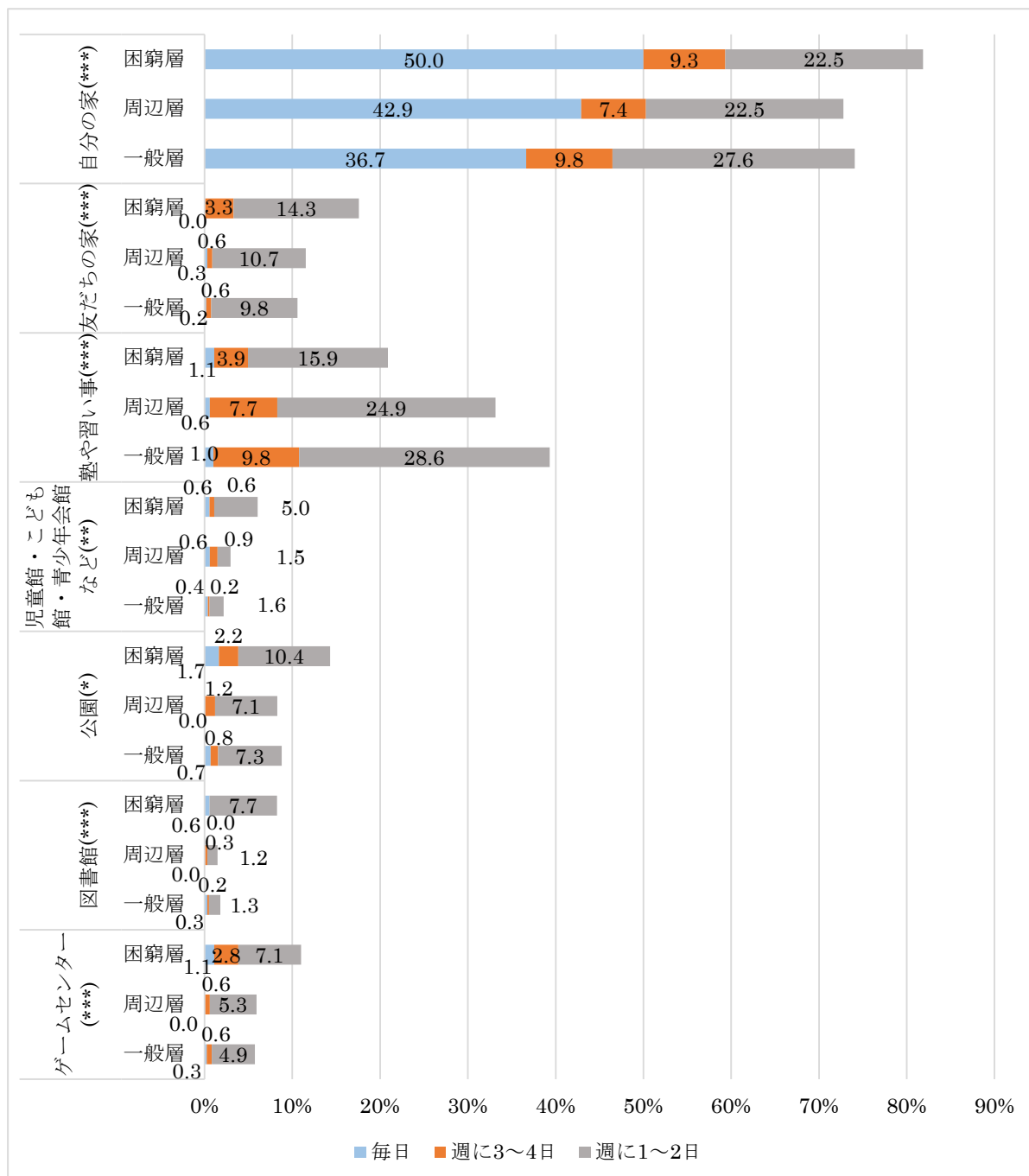
図表 6-1-4 平日の放課後に過ごす場所(中学2年生)



この割合を生活困難度別にみると、「自分の家」、「友だちの家」、「塾や習い事」、「児童館など」、「図書館」、「ゲームセンター」で過ごす頻度について有意な差がみられた(「公園」は10%水準で有意)。「自分の家」で「毎日」過ごす子どもは一般層では36.7%であるが、周辺層では42.9%、困窮層では50.0%と、生活困難度が上がるほど多くなっている。これは、小学5年生と同じ傾向である。「友だちの家」で平日1~2日以上過ごす子どもの割合も、生活困難度が上がるほど多く、一般層は10.6%であるが、周辺層では11.6%、困窮層では17.6%である。また、「図書館」、「ゲームセンター」で平日1~2日以上過ごす子どもの割合は周辺層でそれぞれ1.5%、5.9%、一般層では1.8%、5.8%であるのに対し、困窮層ではそれぞれ8.3%、11.0%と多い。「公園」で過ごす頻度についても、平日1~2日過ごす子どもの割合は困窮層(14.3%)で多い。これらと逆の傾向を示

すのが「塾や習い事」で、平日1～2日以上「塾や習い事」で過ごす子どもは、一般層では39.4%であるが、周辺層では33.2%、困窮層では20.9%にとどまる。なお、「児童館等」については一貫した傾向を読み取れない。

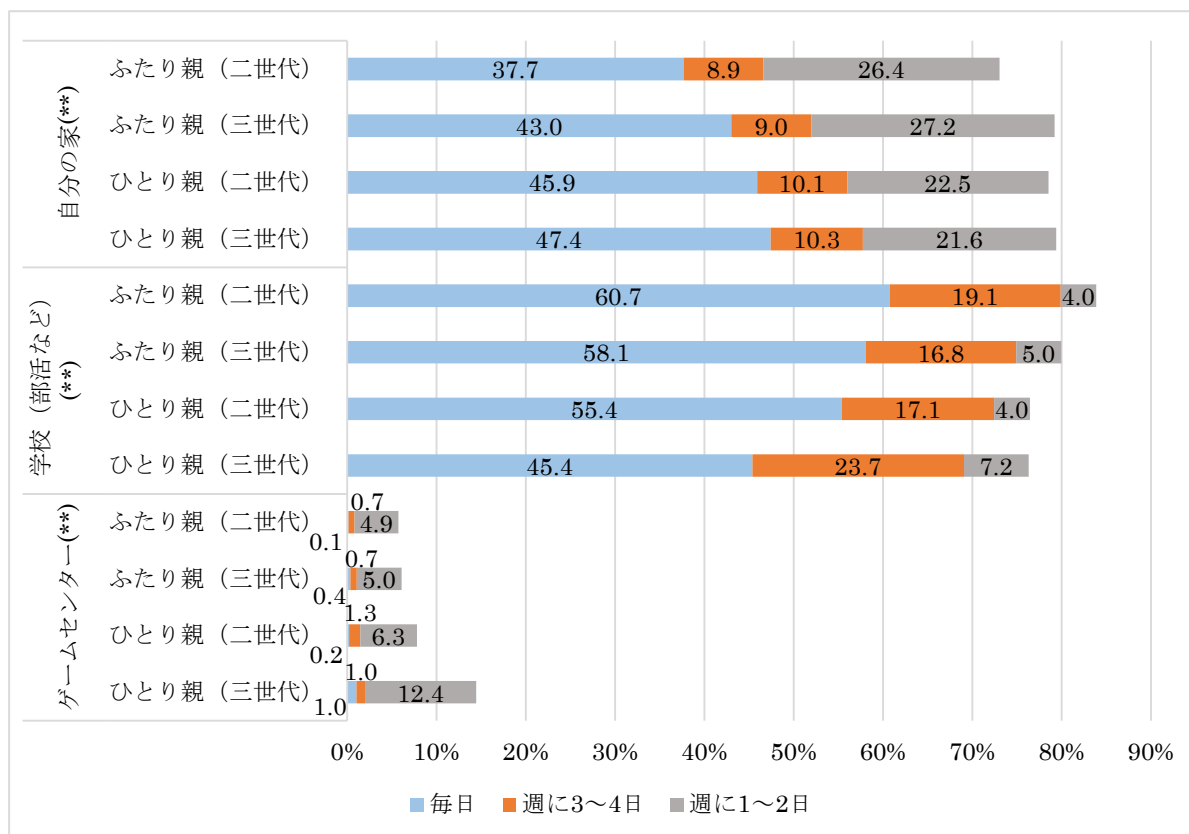
図表 6-1-5 平日の放課後に過ごす場所(中学2年生):生活困難度別(有意差のある項目のみ)



同様に、世帯タイプ別にみると、「自分の家」、「学校（部活など）」、「ゲームセンター」で過ごす頻度について有意な差がみられた。「自分の家」で「毎日」過ごす子どもは、ひとり親（三世代）世帯で最も多く47.4%、次にひとり親（二世代）世帯45.9%、最も少ないのがふたり親（二世代）世帯の37.7%である。「学校（部活など）」で「毎日」過ごす子どもの割合は、ふたり親（二世代）

で最も多く 60.7%、ひとり親（三世代）世帯で最も少なく 45.4%である。「ゲームセンター」で平日 1～2 日過ごす子どもの割合が最も多いのはひとり親（三世代）世帯で 14.4%である。

図表 6-1-6 平日の放課後に過ごす場所(中学 2 年生):世帯タイプ別(有意差のある項目のみ)

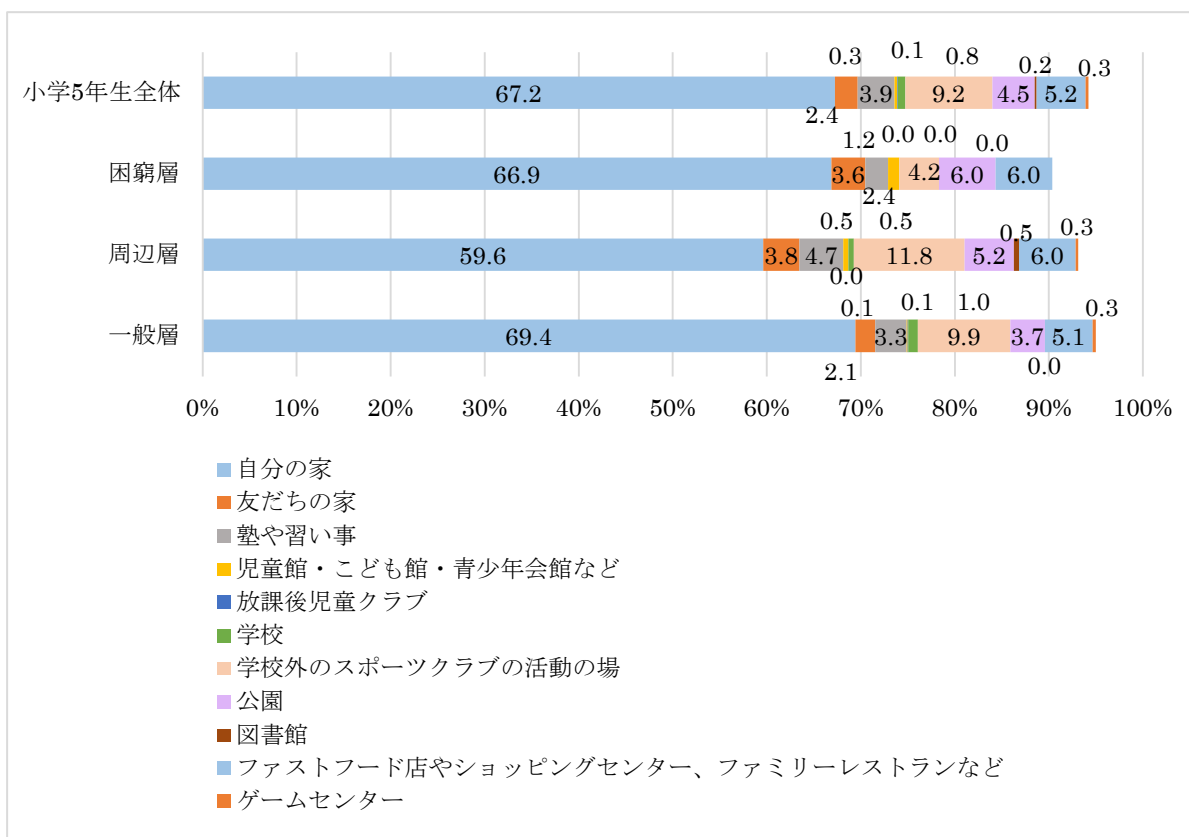


## (2) 休日の午後に過ごす場所

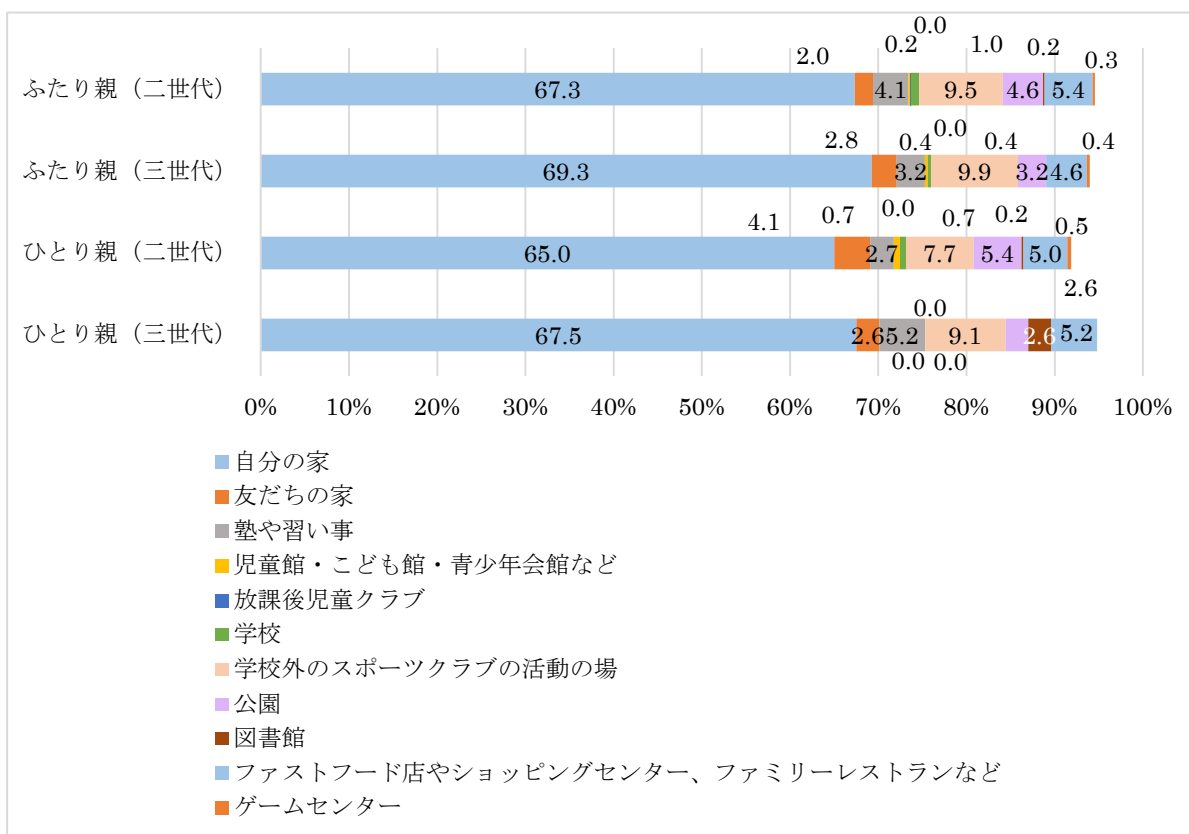
次に、休日の午後に過ごす場所について、子ども票の設問の回答から集計した。ここでは、「最もよく過ごす場所」を集計している。この結果、小学 5 年生が最もよく過ごす場所は「自分の家」67.2%で、次に大きく離れて「学校外のスポーツクラブの活動の場」9.2%、「ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど」5.2%と続く。生活困難度別にみると、一般層、周辺層のトップ 3 の順は小学 5 年生全体と同じであるが、困窮層は「自分の家」66.9%の次に「ファストフード店など」と「公園」がそれぞれ 6.0%となる。一般層、周辺層の子どもの約 10%は休日の午後に「学校外のスポーツクラブ」に行くが、困窮層で「学校外のスポーツクラブ」に行く子どもは 4.2%にとどまる。

世帯タイプ別にみると、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯およびひとり親（三世帯）世帯のトップ 3 の順は小学 5 年生全体と同じであり、ひとり親（三世帯）世帯の第 3 位には「塾や習い事」が同ポイントで加わるが、ひとり親（二世帯）世帯は「自分の家」65.0%、「学校外のスポーツクラブ」7.7%の次に「公園」5.4%となっている。

図表 6-1-7 休日の午後に過ごす場所(小学 5 年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)



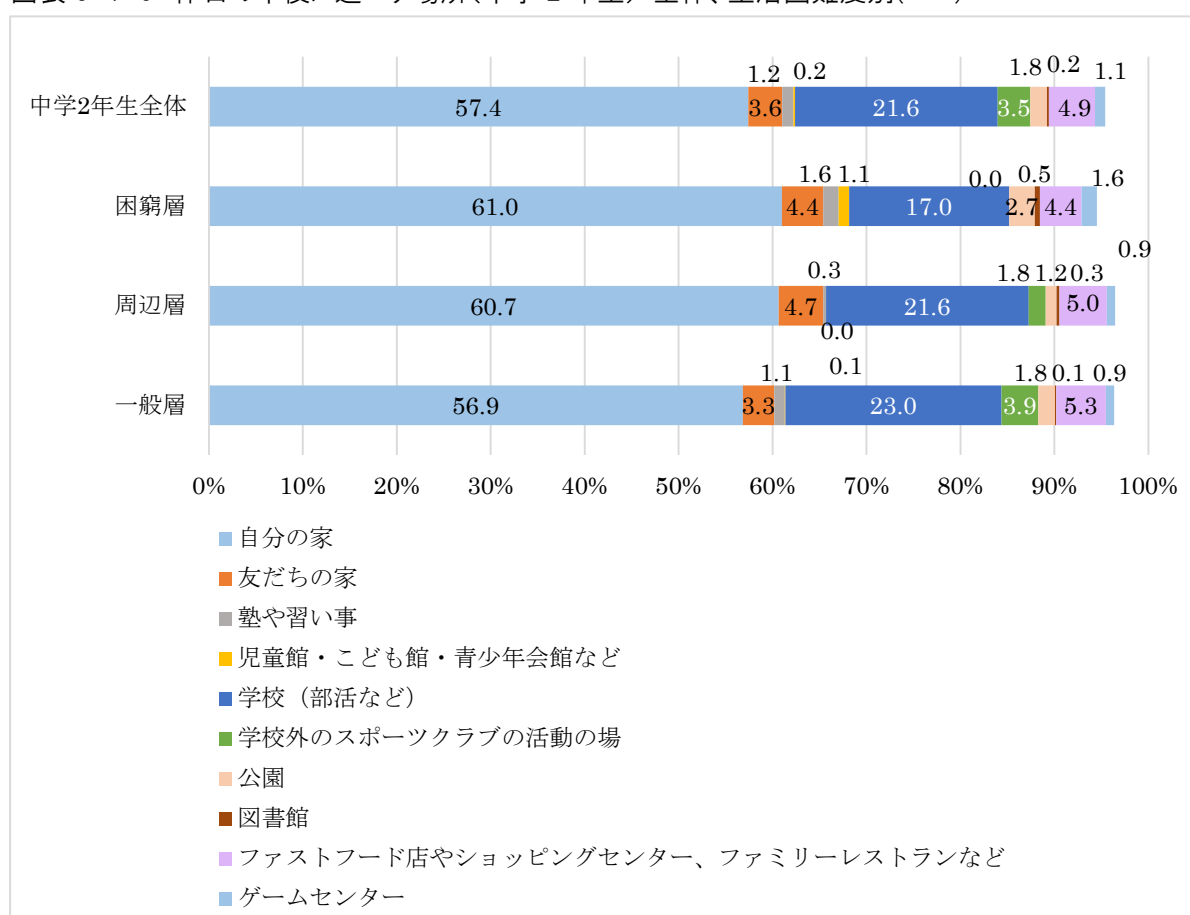
図表 6-1-8 休日の午後に過ごす場所(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



中学2年生については、休日の午後に最もよく過ごす場所は「自分の家」57.4%で、次に「学校（部活など）」21.6%、「ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど」4.9%と続く。生活困難度別にみると、どの層も中学2年生全体とトップ3は同じであるが、困窮層は「自分の家」が61.0%と一般層よりも約4ポイント多い一方で、「学校（部活など）」が17.0%と一般層よりも6ポイント少ない。また、一般層は「学校外のスポーツクラブの活動の場」が3.9%あるが、困窮層は0.0%である。

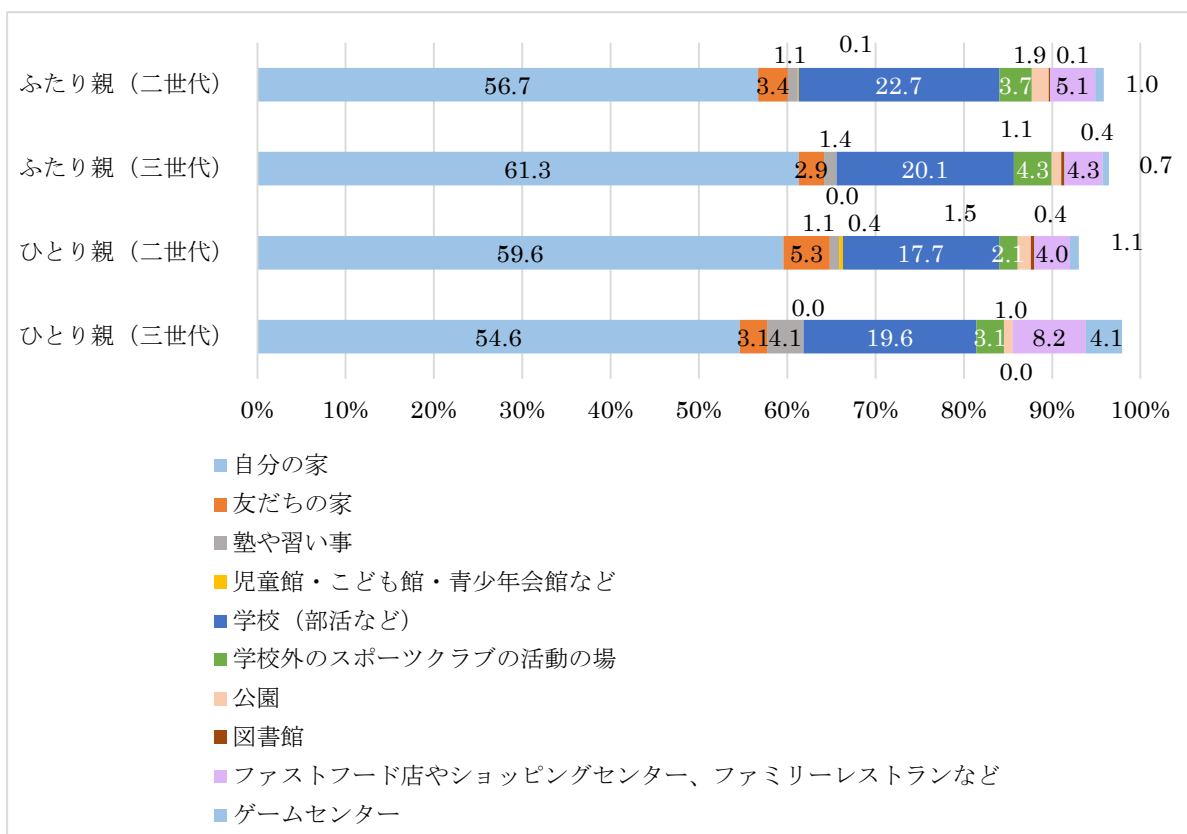
世帯タイプ別にみると、「自分の家」で過ごす子どもの割合はふたり親（三世代）世帯で61.3%である一方、ひとり親（三世代）世帯では54.6%である。「学校（部活など）」で過ごす子どもの割合はふたり親（二世帯）世帯で22.7%である一方、ひとり親（二世帯）世帯では17.7%である。また「ファストフード店など」で過ごす子どもの割合は、ひとり親（二世帯）世帯は4.0%であるが、ひとり親（三世代）世帯では8.2%である。

図表 6-1-9 休日の午後に過ごす場所(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)





図表 6-1-10 休日の午後に過ごす場所(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*)



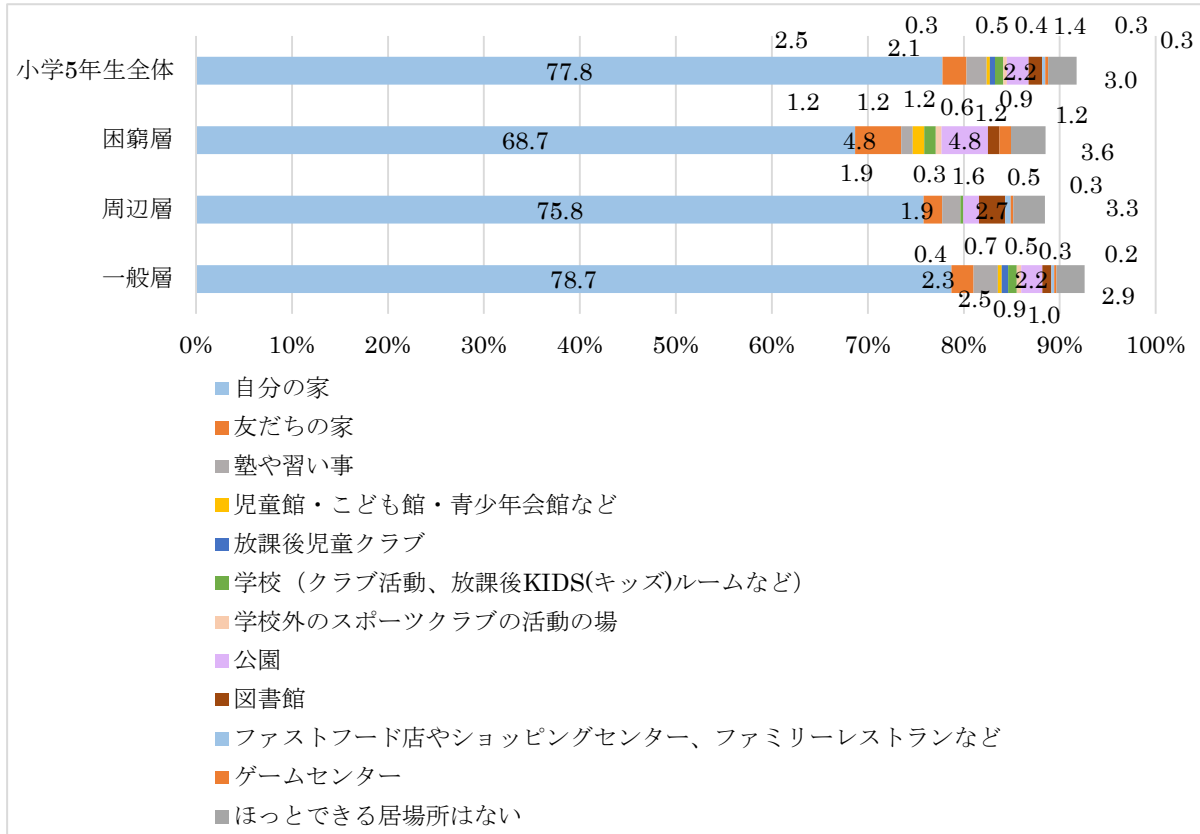
### (3) ほっとできる場所

平日の放課後に過ごす頻度をたずねた項目のうち、「あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか」と子どもに聞いた。その結果、小学 5 年生の 77.8%が「自分の家」と答えたが、次に多かったのは「ほっとできる居場所はない」3.0%であった。生活困難度別にみると、一般層は「自分の家」78.7%、「ほっとできる居場所はない」2.9%、周辺層は「自分の家」75.8%、「ほっとできる居場所はない」3.3%と、小学 5 年生全体と同様の傾向である。一方で、困窮層は「自分の家」が 68.7%で一般層、周辺層に比べて少なく、次に「友だちの家」と「公園」がそれぞれ 4.8%である。そして「ほっとできる居場所はない」は 3.6%である。世帯タイプ別に有意な差は認められなかった。

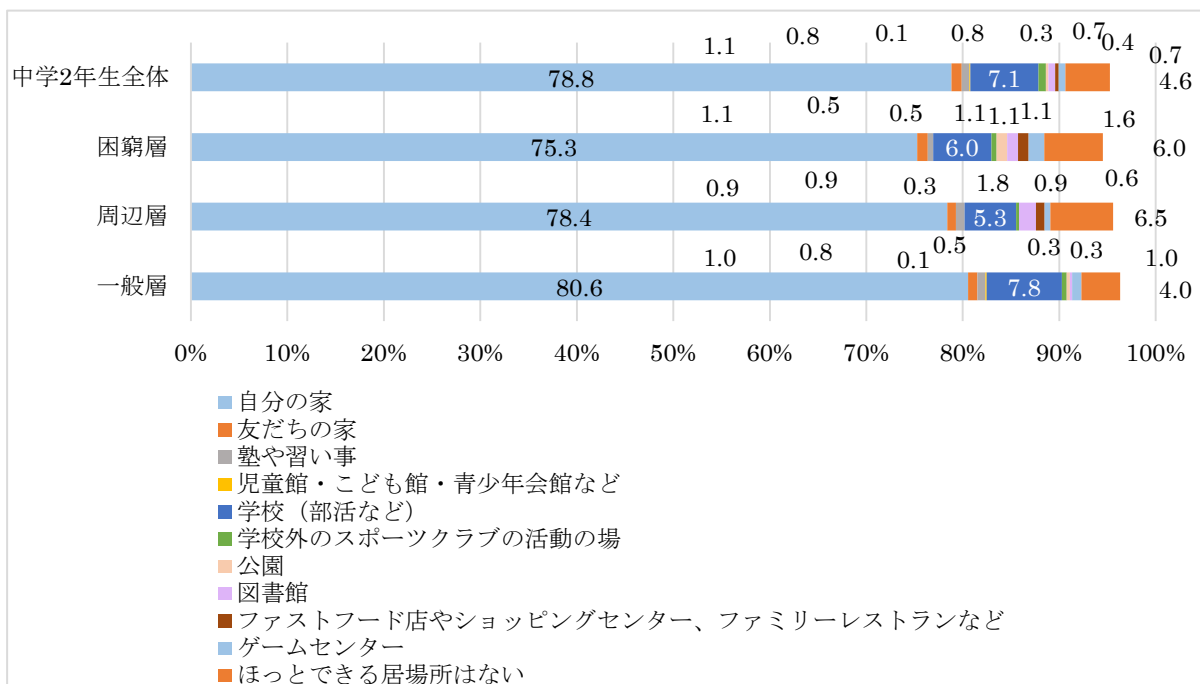
中学 2 年生がほっとできる居場所で最も多いのは「自分の家」78.8%で、次に「学校 (部活など)」7.1%であるが、3 番目に多いのは「ほっとできる居場所はない」で 4.6%である。生活困難度別にみると、一般層は「自分の家」80.6%、「学校 (部活など)」7.8%、「ほっとできる居場所はない」4.0%で中学 2 年生全体と同様の傾向であるが、周辺層は「自分の家」78.4%の次に「ほっとできる居場所はない」が多い (6.5%)。困窮層は「自分の家」(75.3%)の次に「学校 (部活など)」と「ほっとできる居場所はない」が多い (6.0%)。世帯タイプ別にみると、ふたり親 (二世帯、三世帯)世帯の子どものほっとできる場所のトップ 3 の順位は中学 2 年生全体と同じである。一方で、ひとり親 (二世帯、三世帯)世帯は「自分の家」(約 75%)の次に「ほっとできる居場所はない」(それぞれ 6.5%、8.2%)が多く、中学生支援の在り方を検討する際に着目すべき点である。

小学5年生、中学2年生に共通して言えることは、困窮層の子どもたちは一般層の子どもたちに比べて「自分の家」でほっとできる割合が少ないことである。

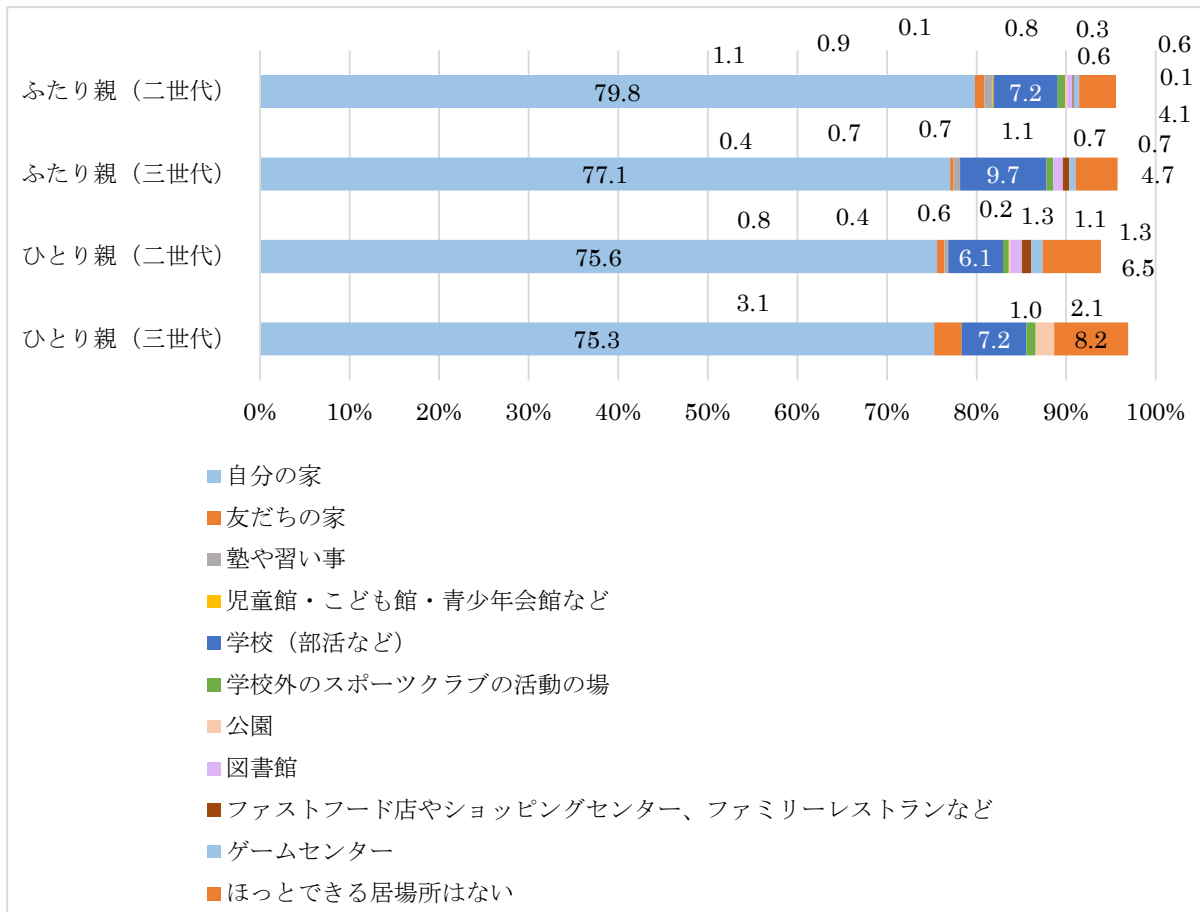
図表 6-1-11 ほっとできる居場所(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*)



図表 6-1-12 ほっとできる居場所(中学2年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)



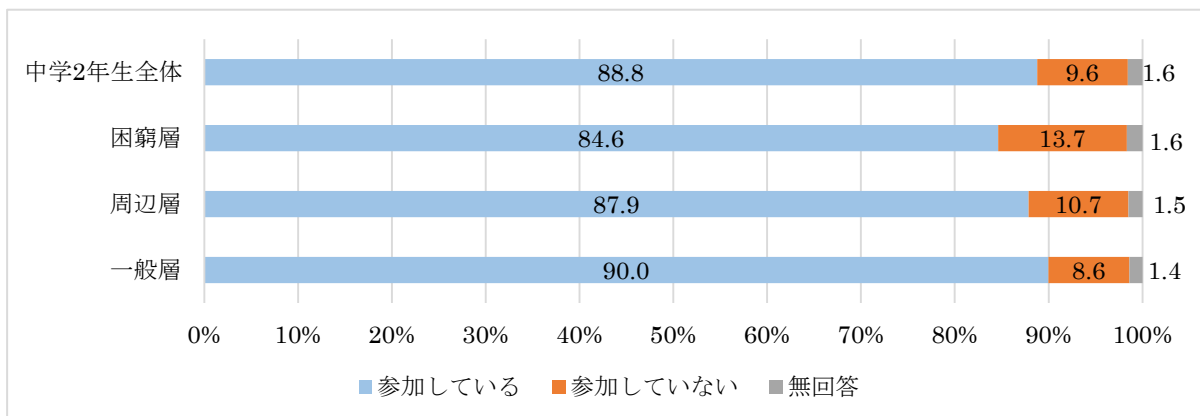
図表 6-1-13 ほっとできる居場所(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



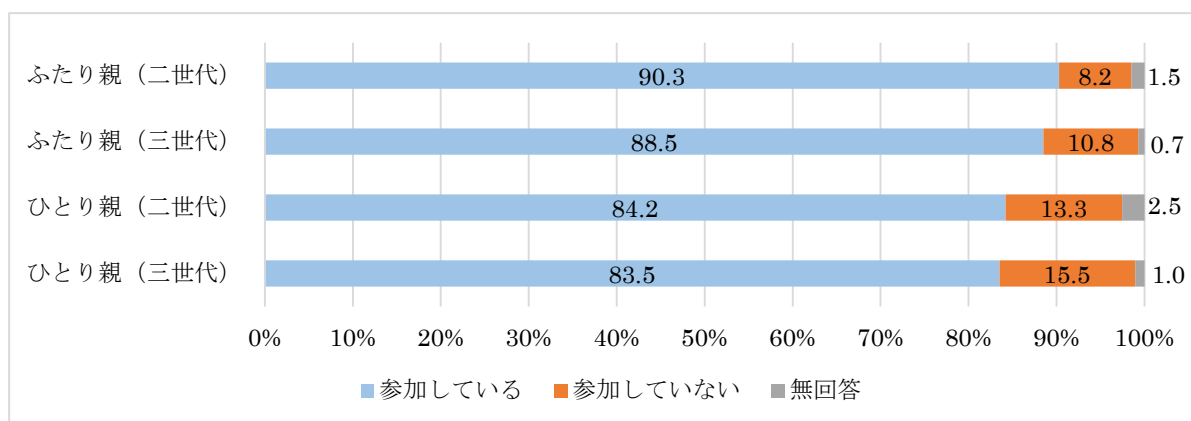
## 2. 中学生の部活動の状況

前節の分析では、平日の放課後に中学 2 年生が過ごす場所として最も多かったのが「学校(部活など)」であった。そこで、学校の部活動への参加状況について集計した。中学 2 年生全体では 88.8%が部活動に参加している。しかし、この割合には生活困難度別、世帯タイプ別にて差がみられる。部活参加率は、一般層では 90.0%であるが、困窮層は 84.6%にとどまる。また、世帯タイプ別には、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯はそれぞれ 90.3%、88.5%であるが、ひとり親(二世帯、三世帯)世帯はそれぞれ 84.2%、83.5%であった。

図表 6-2-1 部活動への参加状況(中学 2 年生):全体、生活困難度別(\*)

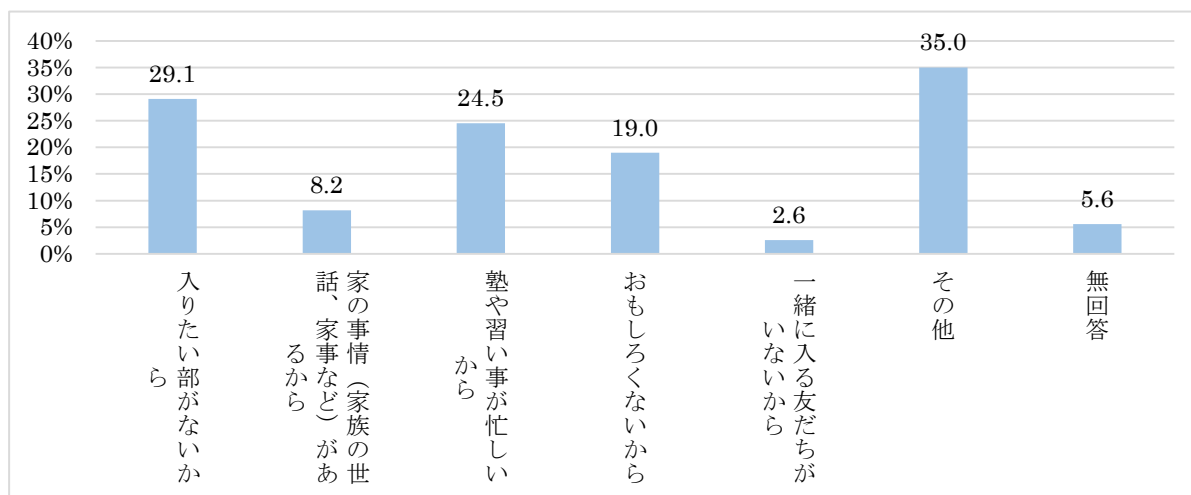


図表 6-2-2 部活動への参加状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



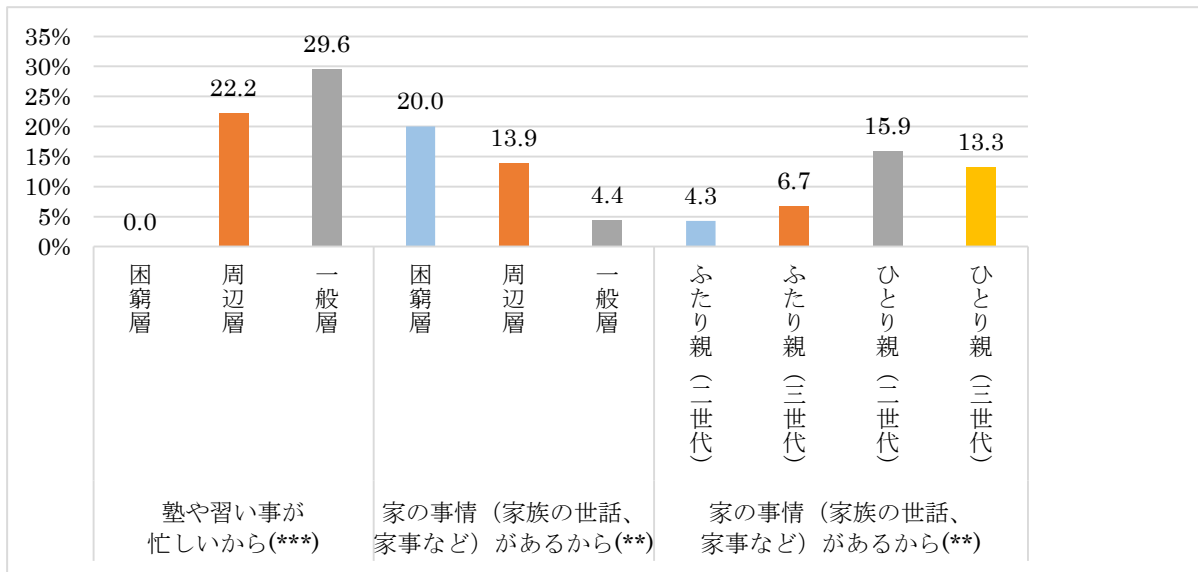
部活に参加していないと答えた中学 2 年生に、参加していない理由を聞いたところ(複数回答)、多い順に「入りたい部がないから」29.1%、「塾や習い事が忙しいから」24.5%、「おもしろくないから」19.0%、「家の事情」8.2%であった。このうち、「塾や習い事が忙しいから」は生活困難度別に有意な差がみられ、一般層では 29.6%、周辺層では 22.2%であるが、困窮層では 0.0%である。また、「家の事情」と答えた子どもの割合は、一般層では 4.4%だが、周辺層は 13.9%、困窮層は 20.0%と、生活困難度が上がるほど多い。「家の事情」で参加しないと答えたのは、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯ではそれぞれ 4.3%、6.7%であるが、ひとり親(二世帯、三世帯)世帯ではそれぞれ 15.9%と 13.3%であり、ひとり親世帯の子どもはふたり親世帯の子どもに比べて、「家の事情」により部活に参加していない傾向がみられる。

図表 6-2-3 部活動に参加しない理由(中学 2 年生)



図表 6-2-4 部活動に参加しない理由(中学 2 年生):

生活困難度別、世帯タイプ別(有意差のある項目のみ)



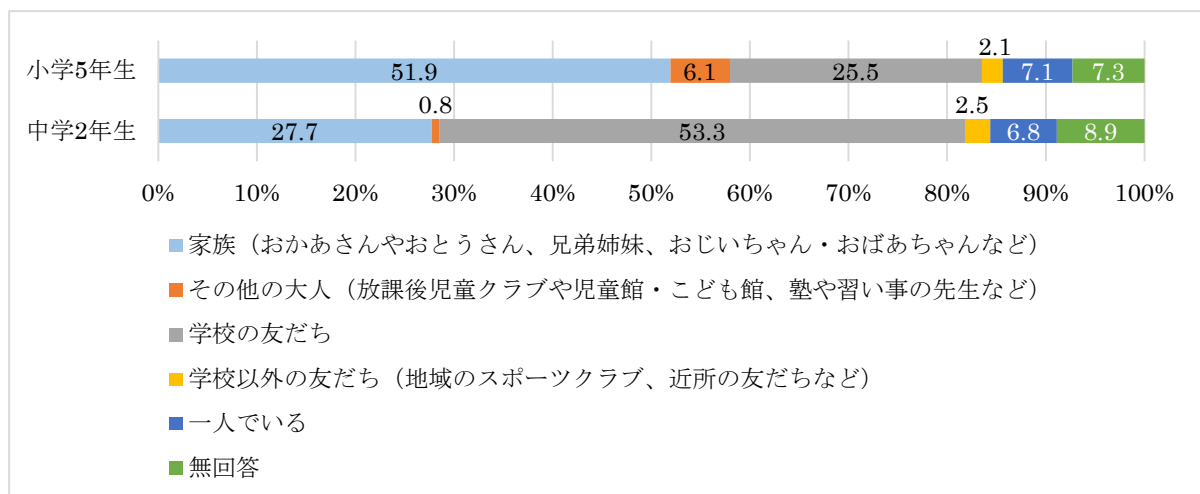
### 3. 平日の放課後・休日の午後に一緒に過ごす人

#### (1) 平日の放課後に一緒に過ごす人

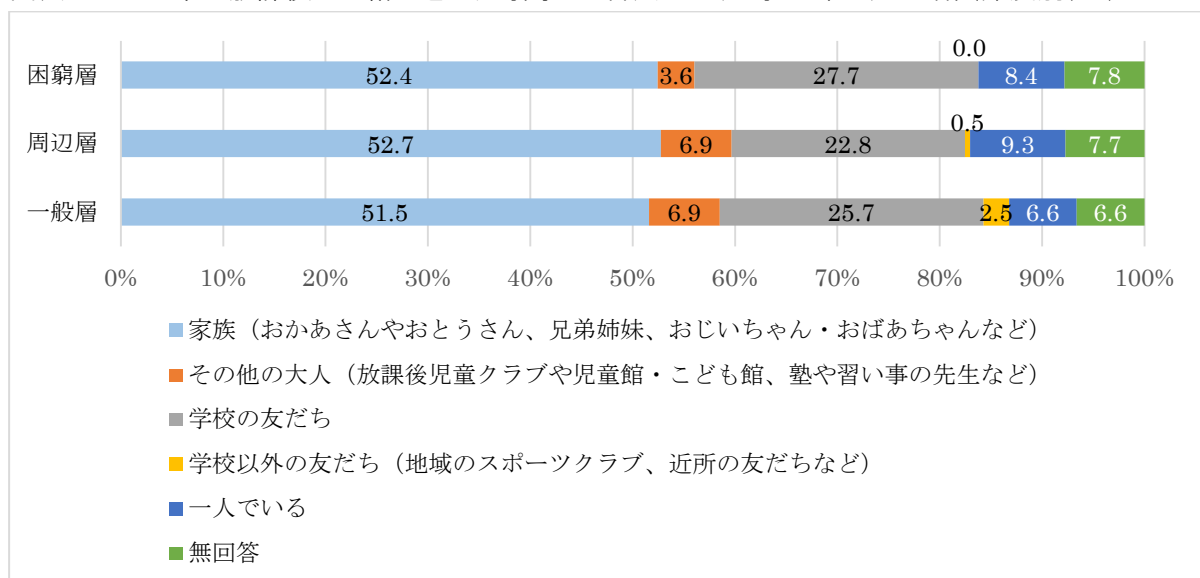
次に、子どもの孤立の観点から、子どもに、「あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)はだれと過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください」と聞いた。小学5年生で最も多かったのは「家族」51.9%、次に「学校の友だち」25.5%、3番目に多かった回答は「一人である」7.1%、4番目は「その他の大人」6.1%であった。これを生活困難度別にみると、「一人である」が一般層は6.7%であるが、周辺層、困窮層ではそれぞれ9.3%、8.4%である。また、「その他の大人」は、一般層、周辺層ともに6.9%であるのに対し、困窮層は3.6%にとどまる。世帯タイプ別にみると、「家族」と一番長く過ごす割合はふたり親(三世帯)世帯で58.3%であるのに対し、ひとり親(二世帯)世帯は43.8%と約15ポイント少ない。また、「一人である」と答えた割合は、ふたり親(三世帯)世帯で2.8%であるのに対し、ひとり親(二世帯)世帯では12.0%と約9ポイント多い。「一人である」子どもの割合は三世帯世帯よりも二世帯世帯で多いと言える。

中学2年生で最も多かったのは「学校の友だち」であり53.3%、次に「家族」27.7%、そして「一人である」6.8%が3番目に多かった。生活困難度別にみると、一般層は「学校の友だち」が57.1%であるのに対し、困窮層は46.2%である。また、「一人である」は一般層、周辺層でそれぞれ6.5%、6.8%であるのに対し、困窮層では12.6%と約2倍である。世帯タイプ別にみると、「学校の友だち」と一番長く過ごす子どもの割合は、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯で過半数であるのに対し、ひとり親(二世帯、三世帯)世帯の子どもは約45%である。また、「一人である」割合は、ふたり親(二世帯、三世帯)世帯で約6%であるのに対し、ひとり親(二世帯、三世帯)世帯ではそれぞれ12.0%、10.3%である。

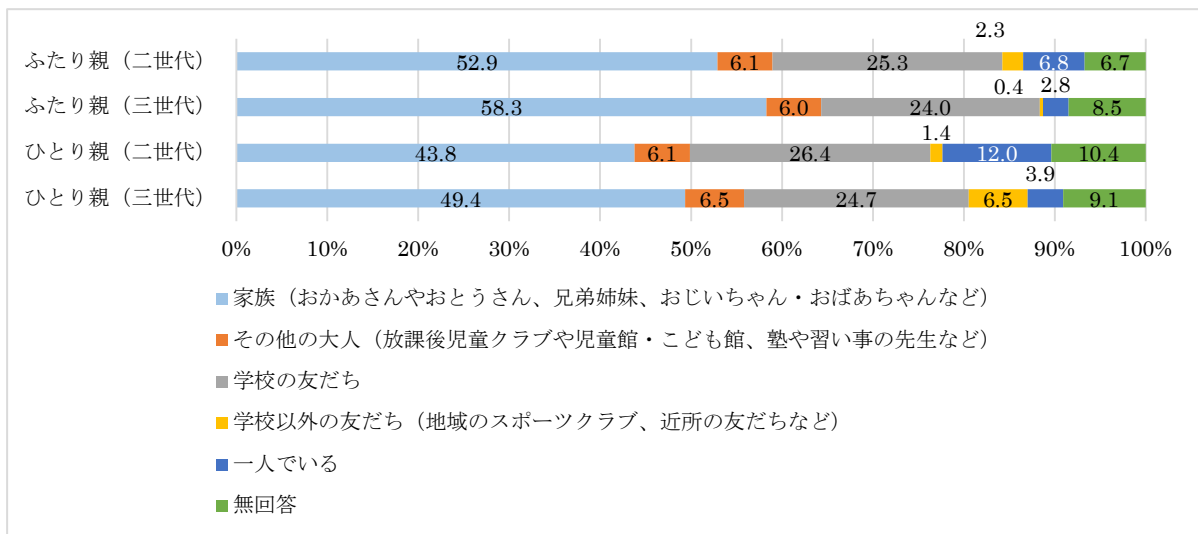
図表 6-3-1 平日放課後に一緒に過ごす時間が一番長い人(小学5年生、中学2年生)



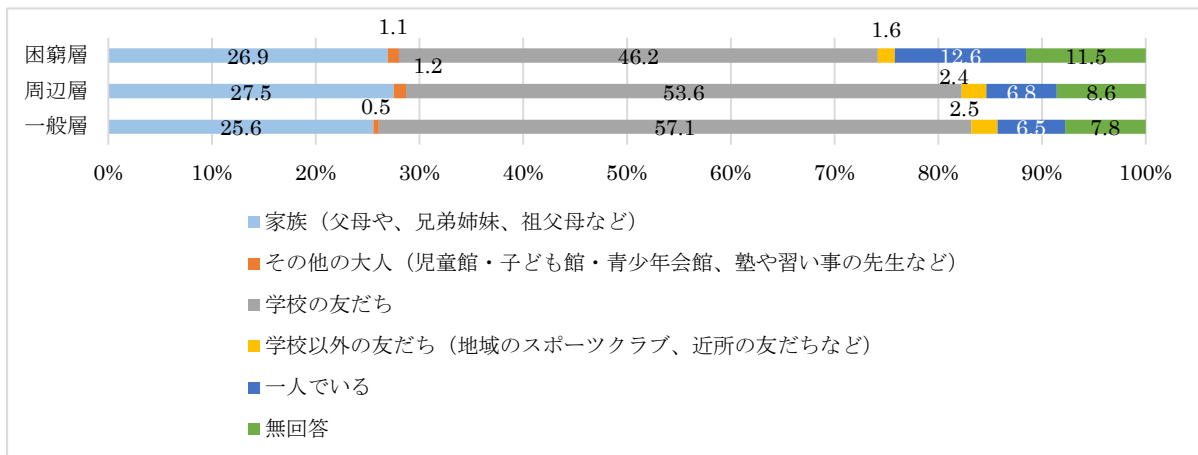
図表 6-3-2 平日放課後に一緒に過ごす時間が一番長い人(小学5年生):生活困難度別(\*\*)



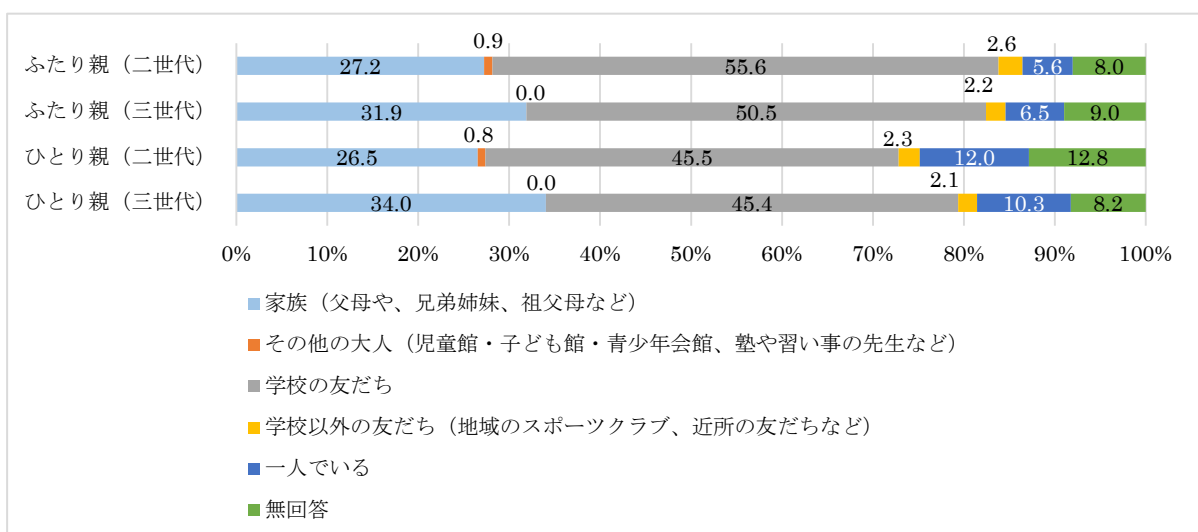
図表 6-3-3 平日放課後に一緒に過ごす時間が一番長い人(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-3-4 平日放課後に一緒に過ごす時間が一番長い人(中学2年生):生活困難度別(\*\*)



図表 6-3-5 平日放課後に一緒に過ごす時間が一番長い人(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



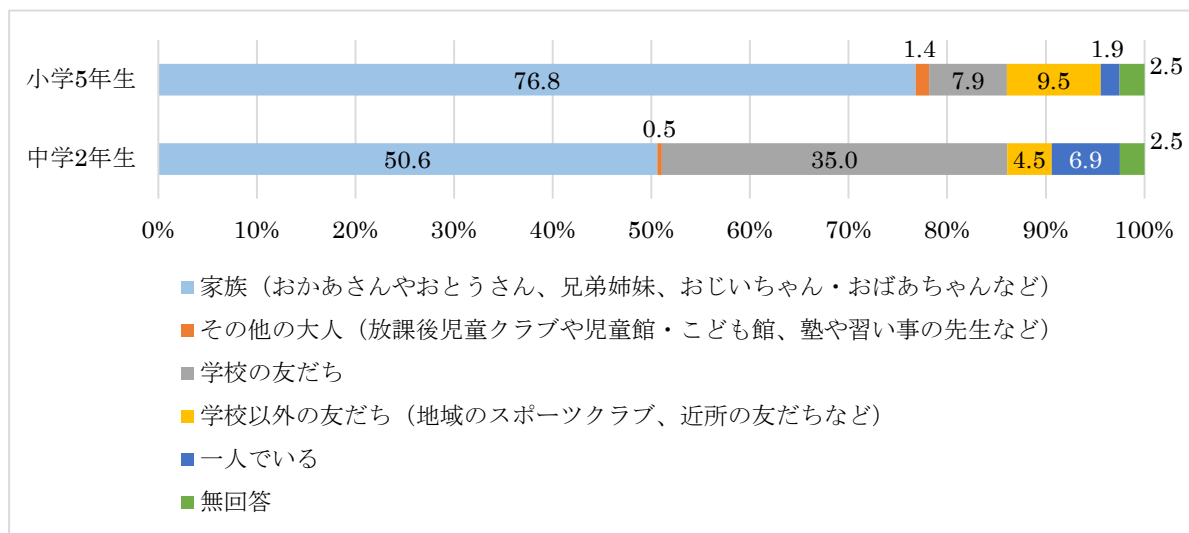
## (2) 休日の午後と一緒に過ごす人

次に、休日の午後と一緒に過ごす人について、子ども票にて、「あなたは、休日（学校がお休みの日）の午後はだれと過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください」とたずねた。この結果、小学5年生で最も多かったのは「家族」76.8%、次に「学校以外の友だち」9.5%、「学校の友だち」7.9%と続く。生活困難度別にみると、一般層は「家族」79.4%、「学校以外の友だち」9.1%、「学校の友だち」6.4%と全体平均と同じ傾向であるが、周辺層は「家族」が69.0%と一般層より約10ポイント少なく、「学校以外の友だち」12.9%、「学校の友だち」11.0%は一般層よりやや多い。その一方で、困窮層は「学校の友だち」と過ごす割合が12.7%と、一般層に比べて多い。世帯タイプ別に有意な差はみられなかった。

中学2年生は「家族」が最も多く50.6%、次に、「学校の友だち」35.0%、「一人である」6.9%の順に多かった。生活困難度別にみると「家族」、「学校の友だち」の割合はいずれもほぼ同じであるが、「一人である」と答えた割合が大きく異なり、一般層は6.1%であるのに対し、周辺層は9.2%、困窮層は13.2%であった。世帯タイプ別にみると、「家族」と一番長く過ごす割合はふたり親（二世帯、三世帯）世帯で約51%であるが、ひとり親（三世帯）世帯は46.4%である。また、「学校の友だち」の割合はふたり親（二世帯、三世帯）世帯で約35%である一方、ひとり親（二世帯）世帯は31.8%である。もっとも差が大きいのは「一人である」と答えた子どもの割合で、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯はそれぞれ6.1%、6.8%であるが、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯はそれぞれ10.3%、13.4%であった。

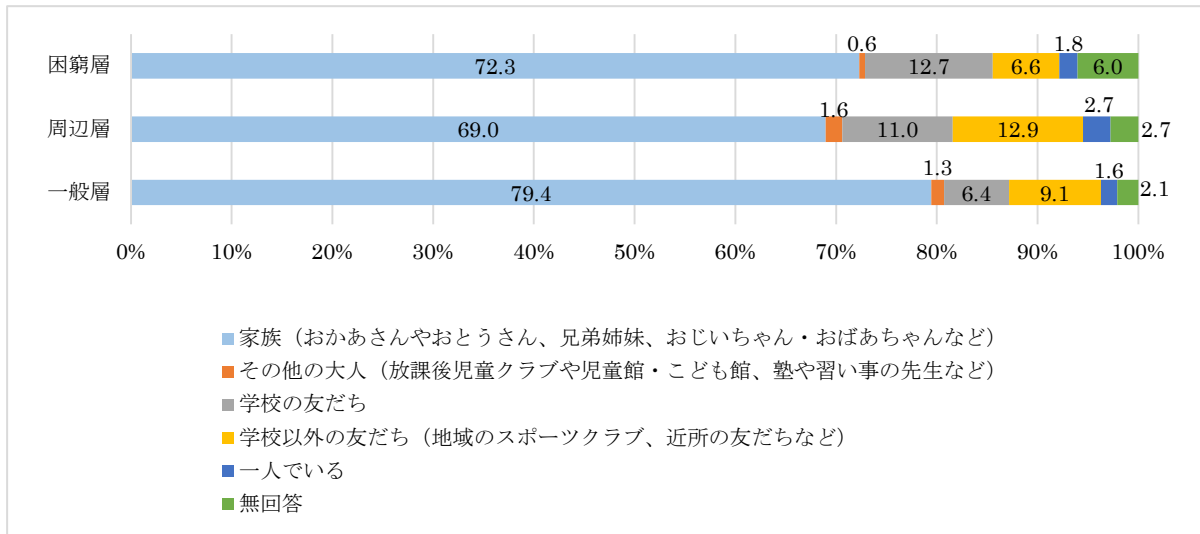
ひとり親世帯の中学2年生は、平日の放課後も休日の午後も「一人である」割合がふたり親世帯に比べて多いことは、子ども支援施策を検討するうえで注目すべき点である。

図表 6-3-6 休日の午後と一緒に過ごす時間が一番長い人(小学5年生、中学2年生)

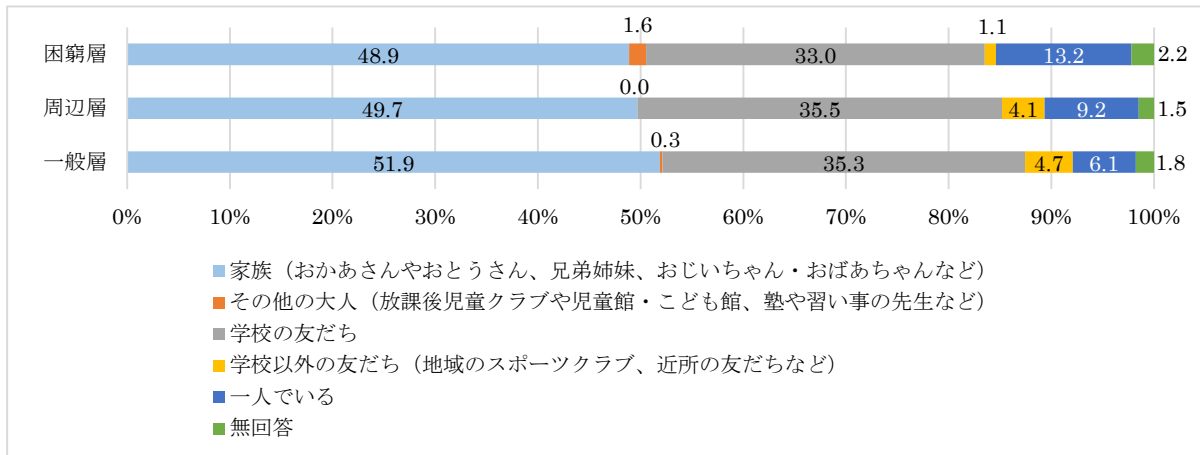




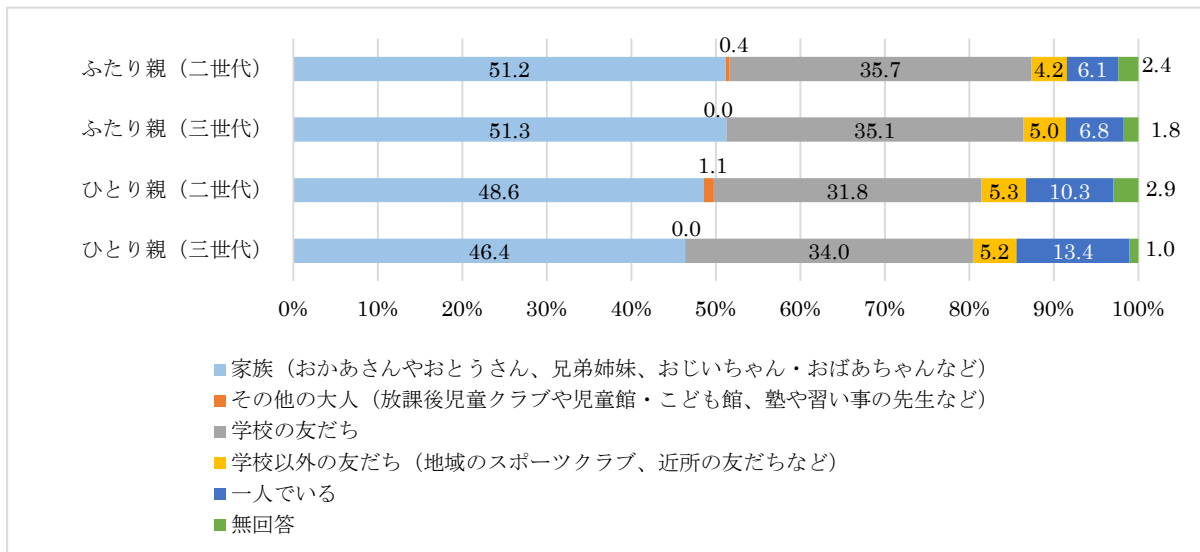
図表 6-3-7 休日の午後に一緒に過ごす時間が一番長い人(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 6-3-8 休日の午後に一緒に過ごす時間が一番長い人(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)



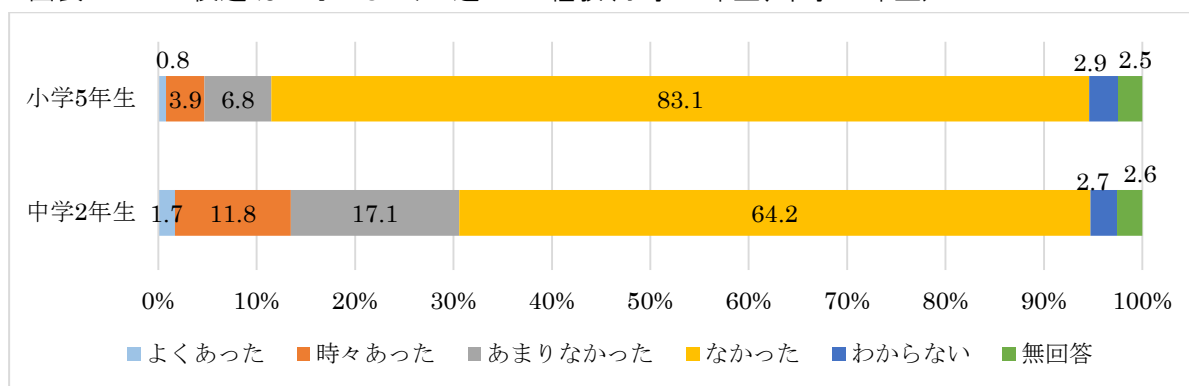
図表 6-3-9 休日の午後に一緒に過ごす時間が一番長い人(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*)



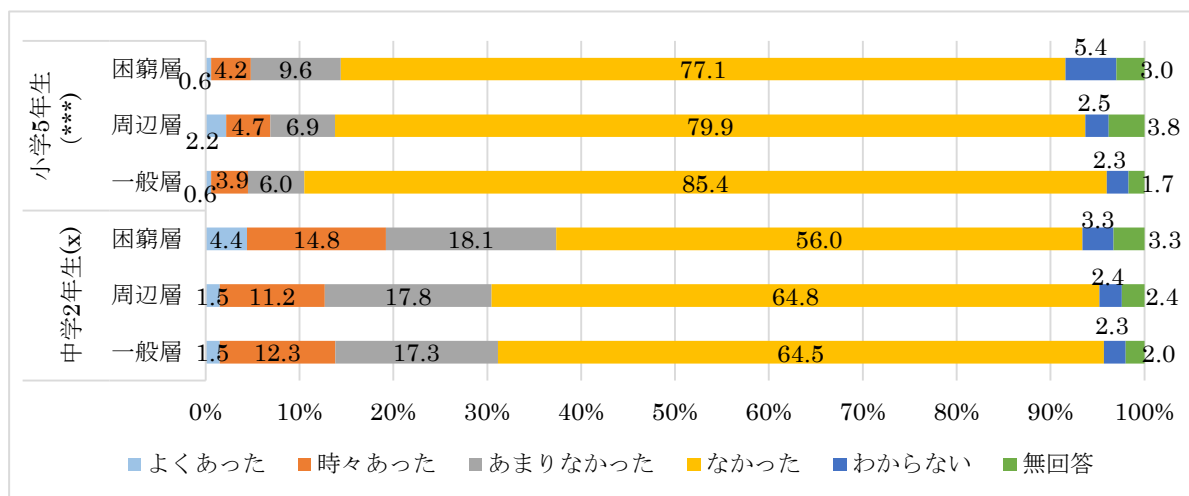
## 4. 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験

子どもだけで夜遅くまで過ごすことがどのくらいあるのかを知るため、「これまでに、夜遅くまで子どもだけで過ごしたことがありますか。」と子ども本人に聞いた。その結果、「よくあった」、「時々あった」を合わせた回答は、小学5年生は4.7%、中学2年生は13.5%であった。また、生活困難度別にみると、小学5年生では周辺層、中学2年生では困窮層において多かった。

図表 6-4-1 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学5年生、中学2年生)



図表 6-4-2 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



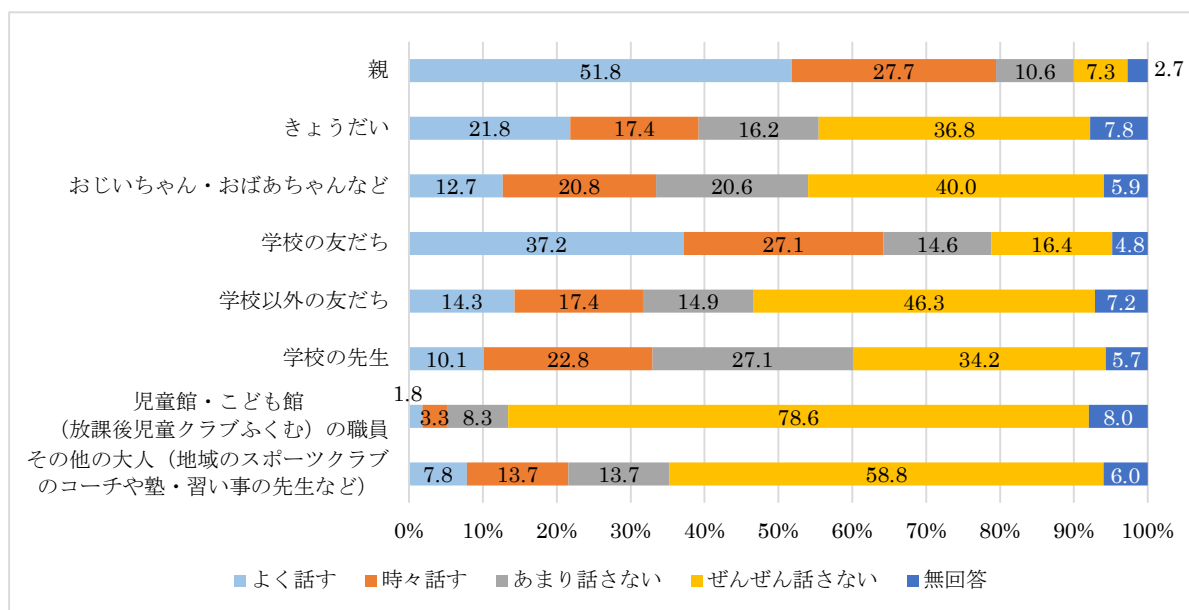
## 5. 会話の頻度

### (1) 小学5年生

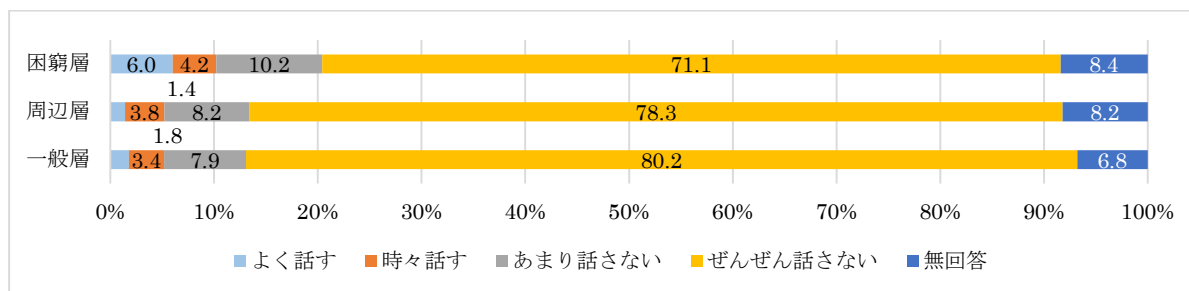
子どもたちが会話を通して、どのような人と強い関わりを持っているのかを知るために、子ども票にて「あなたはふだん、楽しいことや悲しいこと、困っていることや悩みごとを、他の人にどれくらい話しますか」と子ども本人に聞いた。その結果、小学5年生が「よく話す」と答えた割合が最も高かったのは「親」51.8%、次に「学校の友だち」37.2%、「きょうだい」21.8%であった。「学校の先生」や「その他の大人(地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など)」といった親以外の大人については、「よく話す」とした子どもがそれぞれ10.1%、7.8%となっており、家族や友だちに比べると会話の頻度は少ない。また「児童館・こども館(放課後児童クラブふくむ)の職員」については、「よく話す」、「時々話す」を合わせても5.1%に過ぎない。

会話の頻度について、生活困難度別に有意な差がみられたのは「児童館・こども館の職員」、「その他の大人」との会話の頻度である。「児童館・こども館の職員」と「よく話す」「時々話す」を合わせた子どもの割合は、一般層、周辺層ともに5.2%であるが、困窮層では10.2%である。また、「その他の大人」と「よく話す」「時々話す」子どもの割合は、一般層で22.7%、周辺層で21.7%であるが、困窮層では13.2%と低くなっている。児童館・こども館の職員が困窮層の子どもにとって「話せる大人」として認知される傾向がうかがえる一方、困窮層の子どもは、周囲の大人との関わりが他の層の子どもに比べて希薄であることがうかがえる。

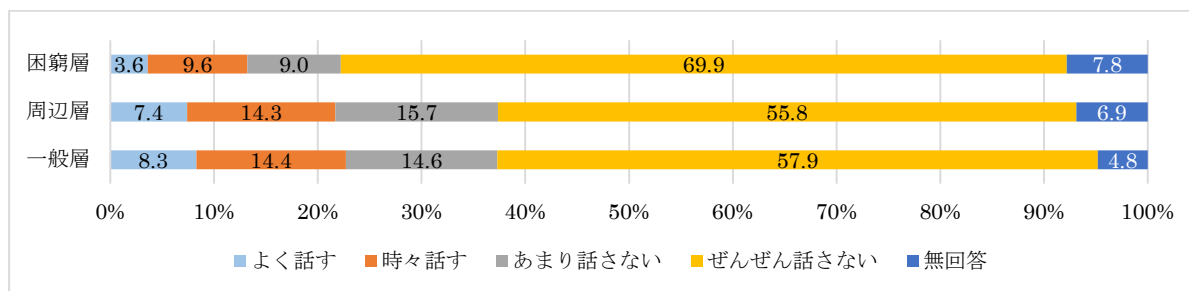
図表 6-5-1 会話の頻度(小学5年生)



図表 6-5-2 児童館・こども館の職員との会話の頻度(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)

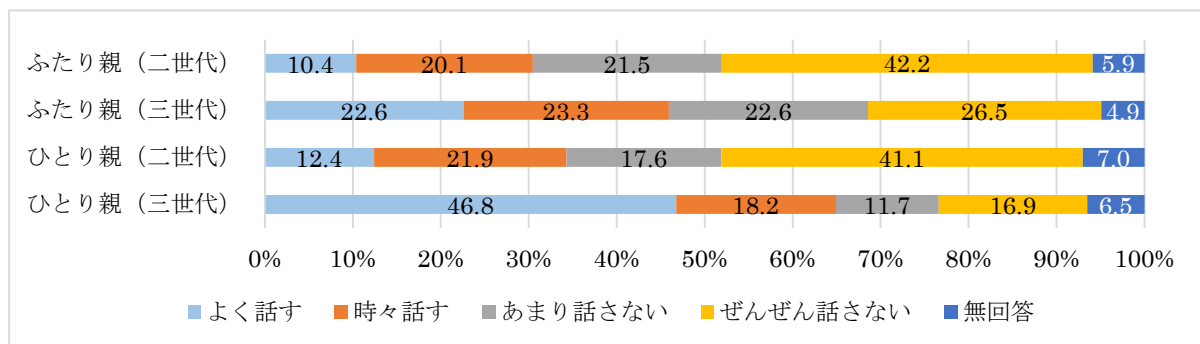


図表 6-5-3 その他の大人との会話の頻度(小学5年生):生活困難度別(\*\*)

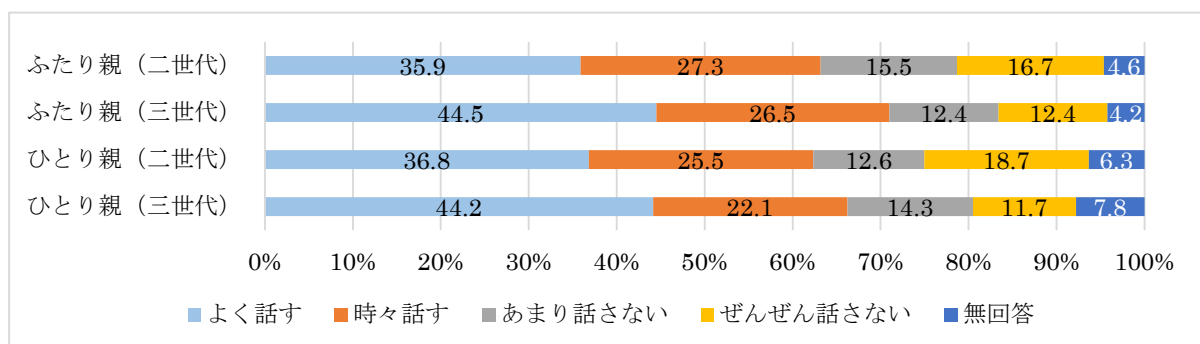


世帯タイプ別にみると、「親」、「きょうだい」、「学校以外の友だち」以外のすべての項目で有意な差がみられた。「おじいちゃん・おばあちゃんなど」は、二世帯世帯よりも三世帯世帯で「よく話す」割合が多いのは当然であろう。「学校の友だち」と「よく話す」子どもの割合は、ふたり親（二世帯）世帯では 35.9%、ひとり親（二世帯）世帯では 36.8%であるが、ふたり親（三世帯）世帯では 44.5%、ひとり親（三世帯）世帯では 44.2%と三世帯世帯の方が二世帯世帯よりも高くなっている。「学校の先生」についても世帯タイプ別で差がみられ、「よく話す」子どもはふたり親（二世帯、三世帯）世帯ではそれぞれ 9.3%、9.9%だが、ひとり親（二世帯）世帯では 12.4%、ひとり親（三世帯）世帯は 16.9%となっている。「学校の先生」はとくにひとり親（三世帯）世帯の子どもから「話せる大人」として認知されている。「児童館・こども館の職員」と「よく話す」、「時々話す」子どもの割合は、ふたり親（三世帯）世帯、ひとり親（二世帯）世帯で比較的に多い（7.7%、7.7%）。「その他の大人」と「よく話す」、「時々話す」子どもの割合は、ふたり親（三世帯）世帯（27.6%）が他の世帯タイプに比べてやや多い。

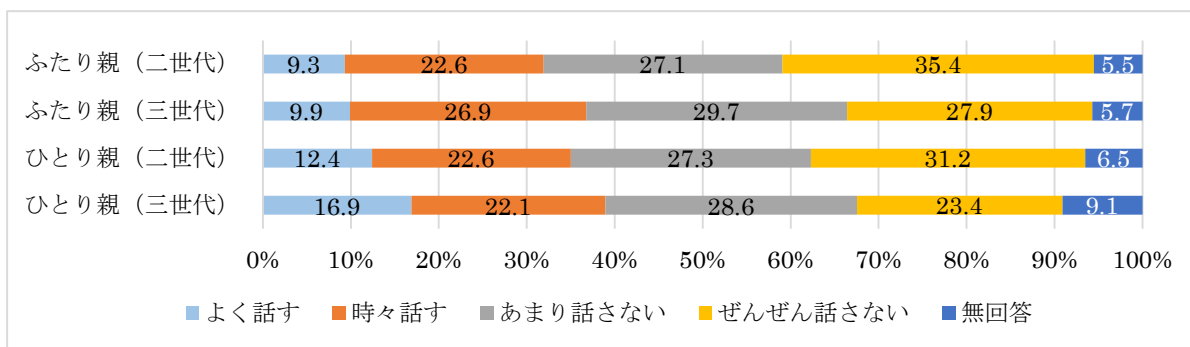
図表 6-5-4 おじいちゃん・おばあちゃんなどとの会話の頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



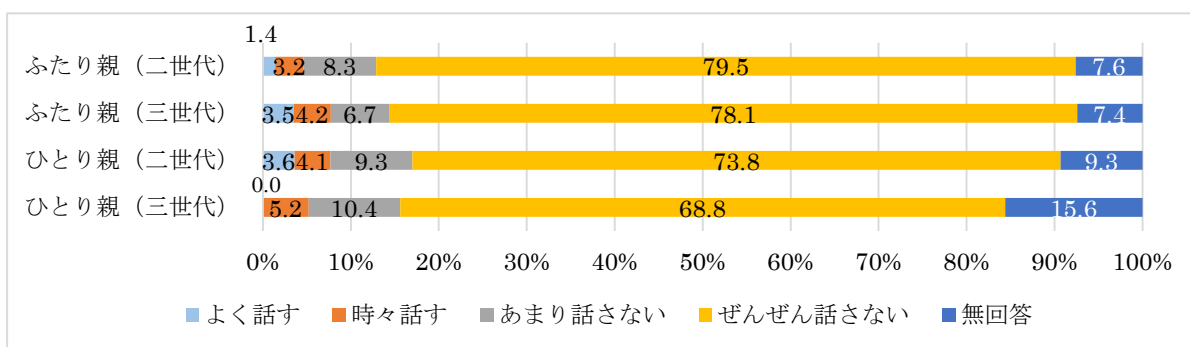
図表 6-5-5 学校の友だちとの会話の頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



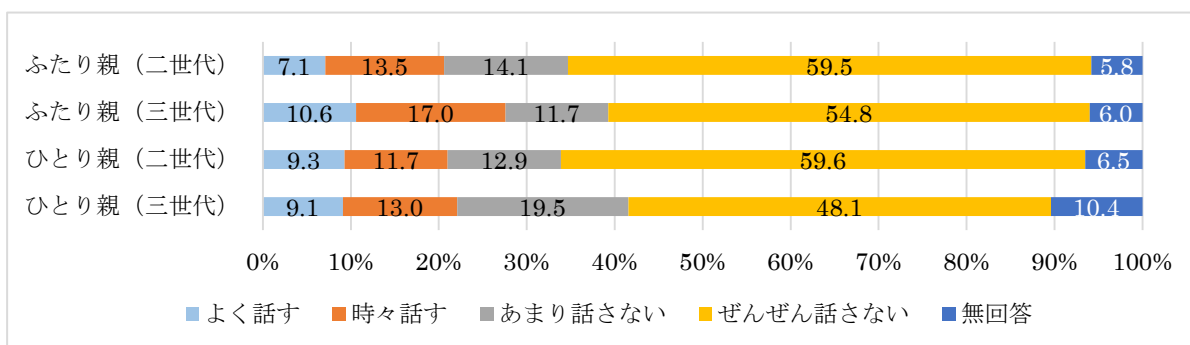
図表 6-5-6 学校の先生との会話の頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*)



図表 6-5-7 児童館・こども館の職員との会話の頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-5-8 その他の大人との会話の頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*)



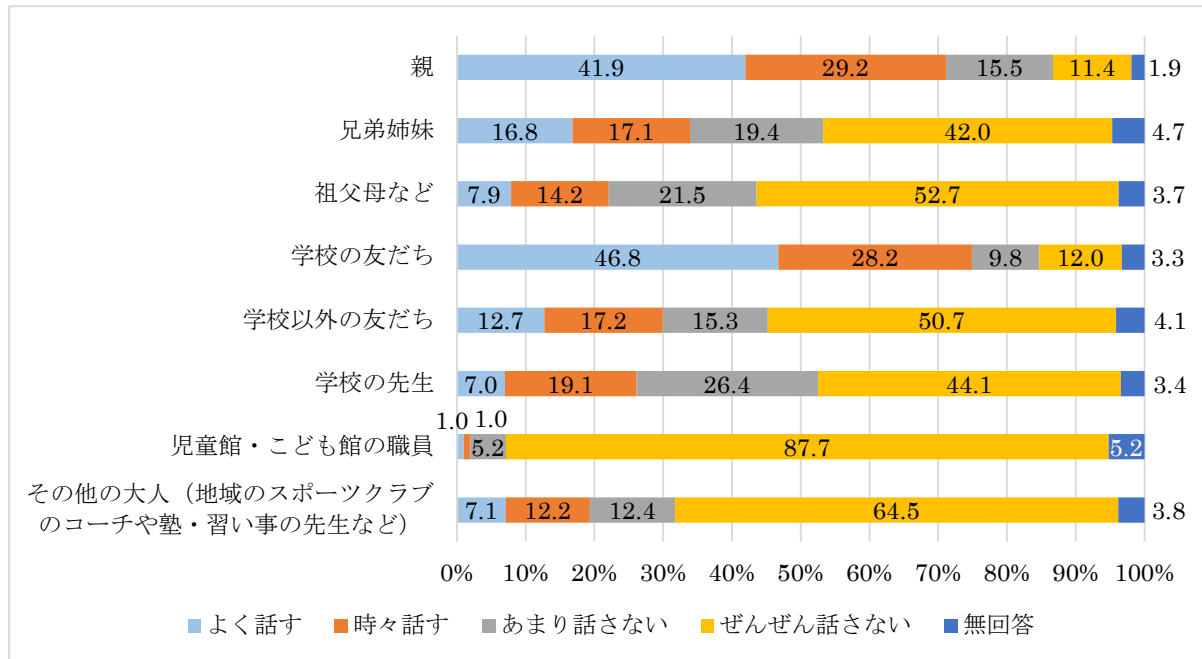
## (2) 中学 2 年生

中学 2 年生が「よく話す」と答えた割合が最も多かったのは「学校の友だち」であり 46.8%、次に多かったのは「親」41.9%、次に大きく離れて「兄弟姉妹」16.8%であった。

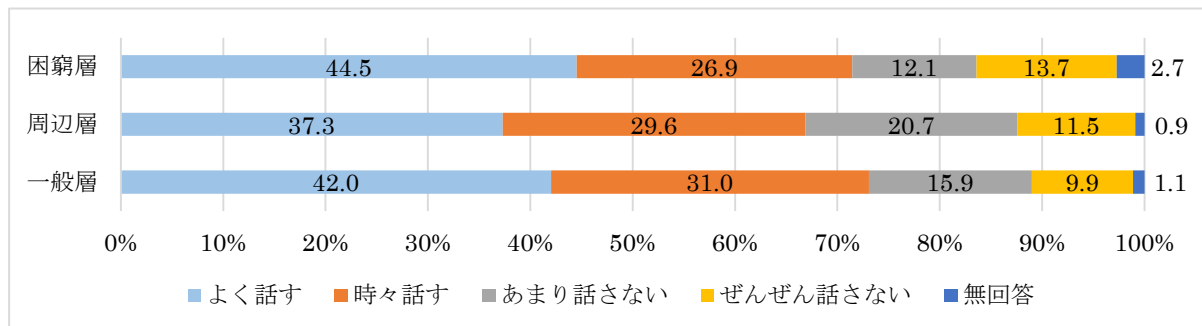
会話の頻度について生活困難度別に有意な差がみられたのは、「親」、「祖父母など」、「学校の友だち」、「その他の大人」である。「親」と「よく話す」割合が最も多いのは困窮層では 44.5%であるが、「親」と「ぜんぜん話さない」と答えた割合が最も多いのも困窮層で 13.7%である。「祖父母など」と「よく話す」、「時々話す」割合が最も多いのは困窮層で 28.5%である。「学校の友だち」と「よく話す」子どもの割合は困窮層、一般層それぞれ 46.2%、47.8%であるが、周辺層は 40.2%にとどまり、「学校の友だち」と「ぜんぜん話さない」周辺層の子どもも 15.7%存在する。「その

他の大人」と「よく話す」、「時々話す」割合は一般層、周辺層でそれぞれ 20.5%、18.6%であるのに対し、困窮層では 14.8%である。

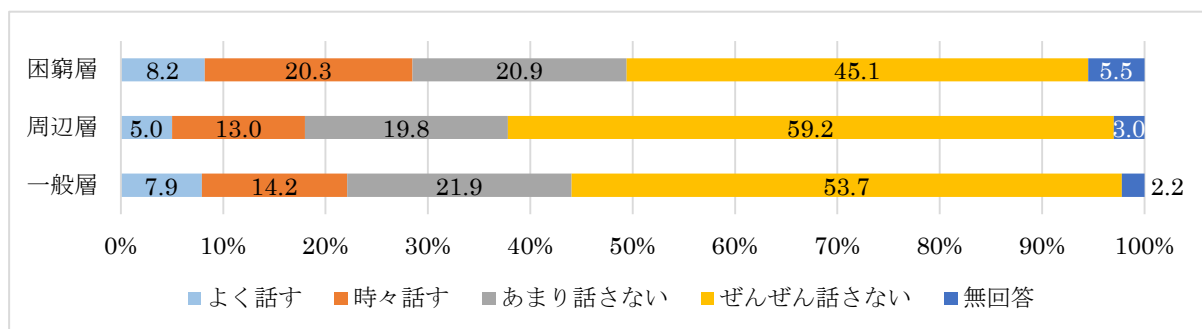
図表 6-5-9 会話の頻度(中学 2 年生)



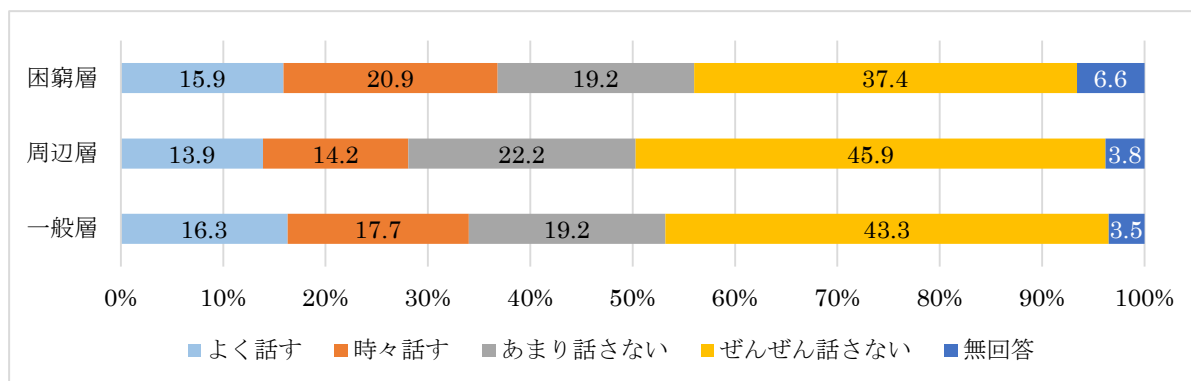
図表 6-5-10 親との会話の頻度(中学 2 年生):生活困難度別(\*)



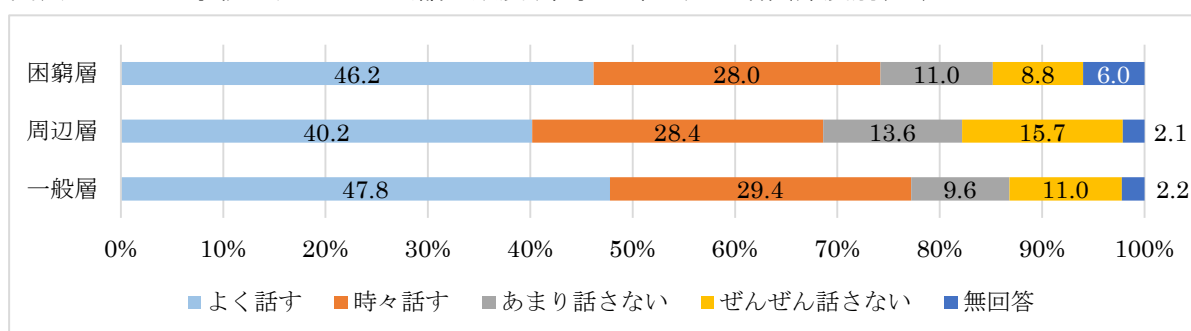
図表 6-5-11 祖父母などとの会話の頻度(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)



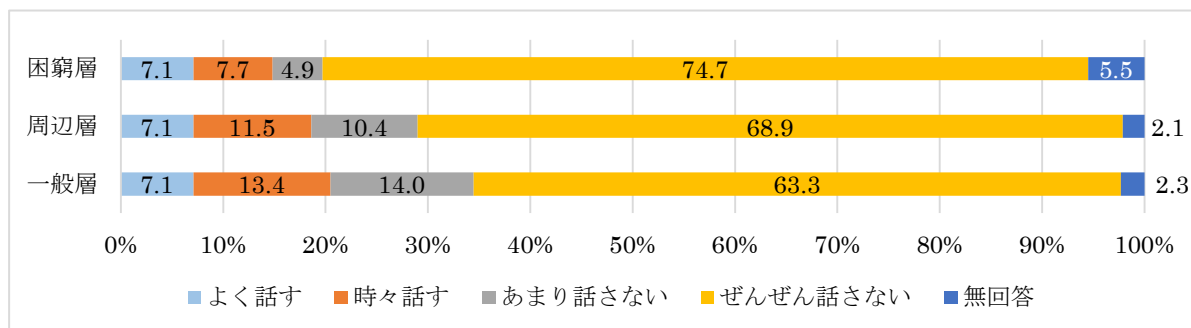
図表 6-5-12 兄弟姉妹との会話の頻度(中学 2 年生):生活困難度別(X)



図表 6-5-13 学校の友だちとの会話の頻度(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)

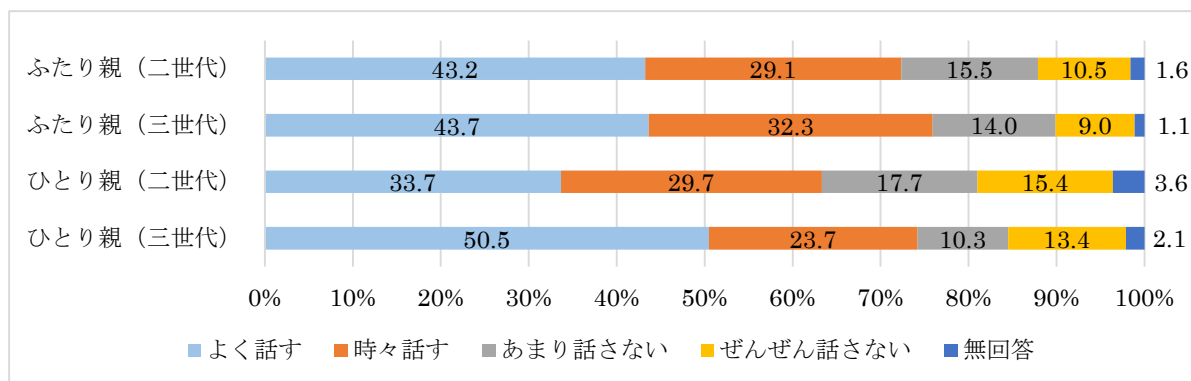


図表 6-5-14 その他の大人との会話の頻度(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*\*)

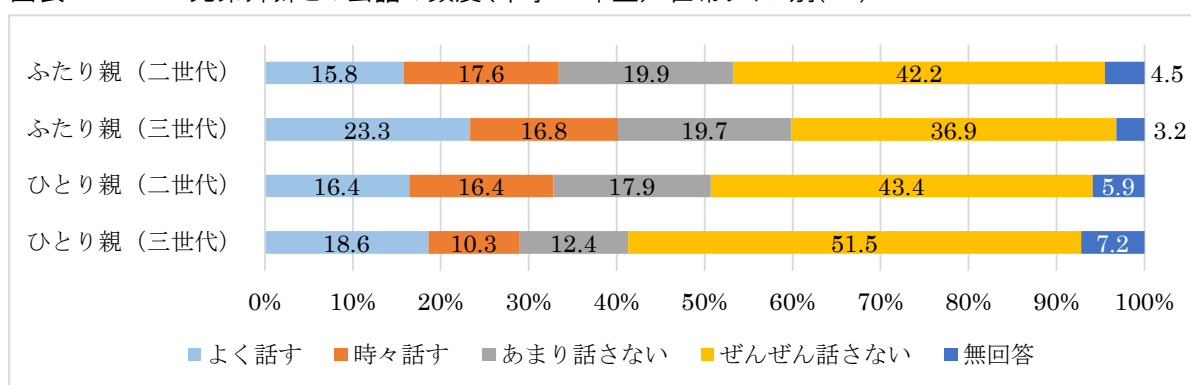


会話の頻度について、世帯タイプ別に有意な差がみられたのは、「親」、「兄弟姉妹」、「祖父母など」である。これらのうち「祖父母など」は、祖父母と同居しているかどうかで違いがあるのは当然であろう。しかし、小学 5 年生で有意差がみられなかった「親」、「兄弟姉妹」との会話の頻度について、中学 2 年生で世帯タイプによって有意な違いがみられるようになる点は注目すべきであろう。中学 2 年生のうち「親」と「よく話す」割合が最も多いのはひとり親（三代）世帯の 50.5%で、最も少ないのはひとり親（二世）世帯の 33.7%である。ひとり親（二世）世帯は「ぜんぜん話さない」が 15.4%と最も多く、「親」との会話が少ないことが懸念される。

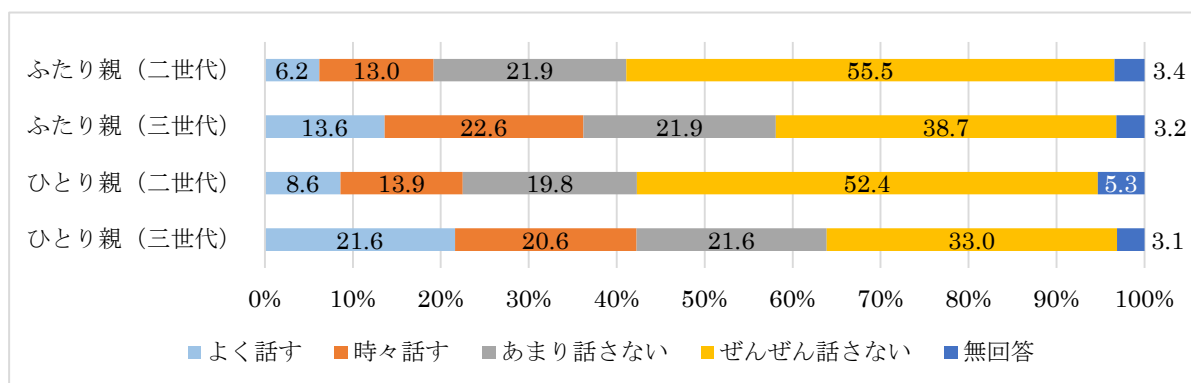
図表 6-5-15 親との会話の頻度(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 6-5-16 兄弟姉妹との会話の頻度(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*)



図表 6-5-17 祖父母などとの会話の頻度(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)





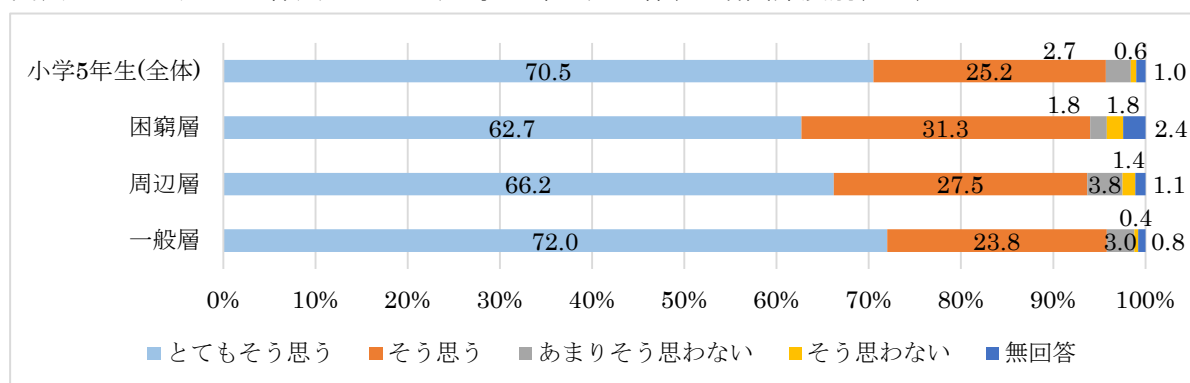
## 6. 友人関係

### (1) 友だちとの関係

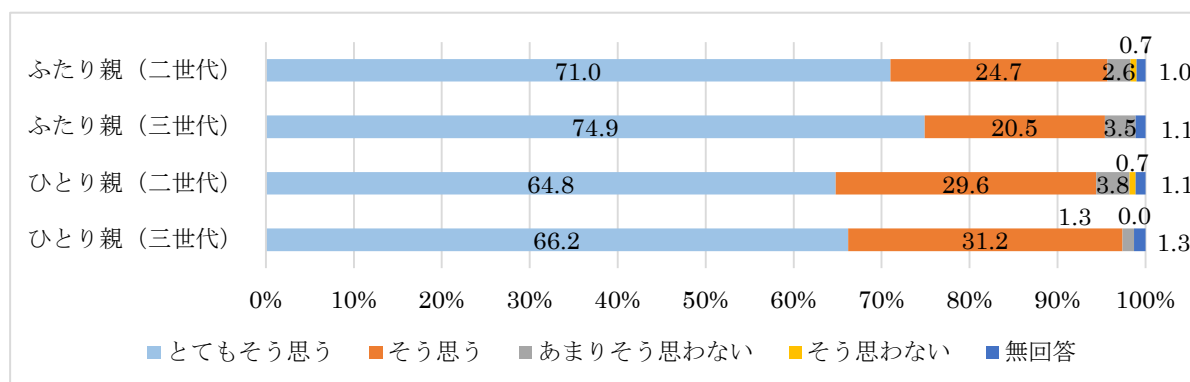
次に、子どもの交友関係をみるために、「友だちと仲良くしていると思う」という設問について、子どもに「とてもそう思う」、「そう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4択で聞いた。この結果、小学5年生の70.5%が「とてもそう思う」と答えており、「そう思う」を合わせると95.7%の小学5年生は友だちと仲良くしていると回答している。しかし、この割合は生活困難度によって差がみられ、「とてもそう思う」と答えた割合は、一般層では72.0%であるが、周辺層は66.2%、困窮層は62.7%と、生活困難度が上がるほど低い割合になる。世帯タイプ別にみても、若干の差がみられ、「とてもそう思う」と答えた子どもの割合は、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯ではそれぞれ71.0%、74.9%であるのに対し、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯ではそれぞれ64.8%、66.2%にとどまる。

中学2年生では、全体の63.0%が「とてもそう思う」と答えており、小学5年生よりも低い割合となっているものの、「そう思う」まで含めると95.2%とほぼ同等の割合となっている。「とてもそう思う」と答えた割合は、一般層では64.0%であるが、周辺層では58.3%、困窮層では61.5%と、小学5年生と同様に低くなっている。困窮層においては、「あまりそう思わない」も6.0%、「そう思わない」も1.6%と否定的な回答をした子どもの割合も相対的に高くなっている。また、世帯タイプ別にみても差があり、ふたり親（二世帯、三世帯）世帯では約64%であるが、ひとり親（二世帯）世帯では56.8%、ひとり親（三世帯）世帯では52.6%にとどまっている。

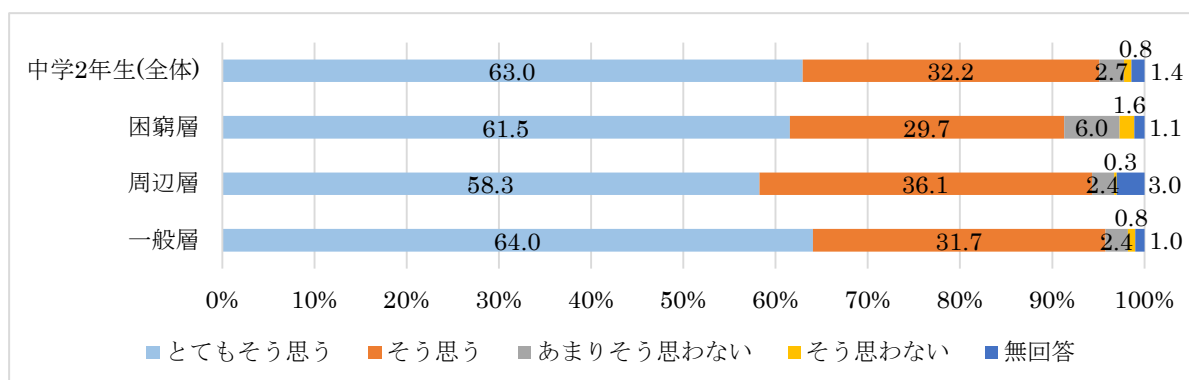
図表 6-6-1 友だちと仲良くしている(小学5年生):全体、生活困難度別(\*\*\*)



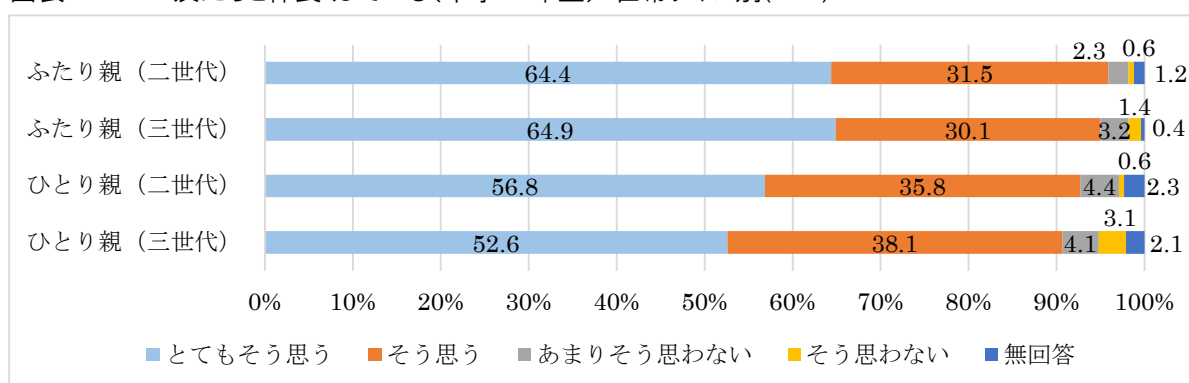
図表 6-6-2 友だちと仲良くしている(小学5年生):世帯タイプ別(\*)



図表 6-6-3 友だちと仲良くしている(中学 2 年生):全体、生活困難度別(\*\*)



図表 6-6-4 友だちと仲良くしている(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

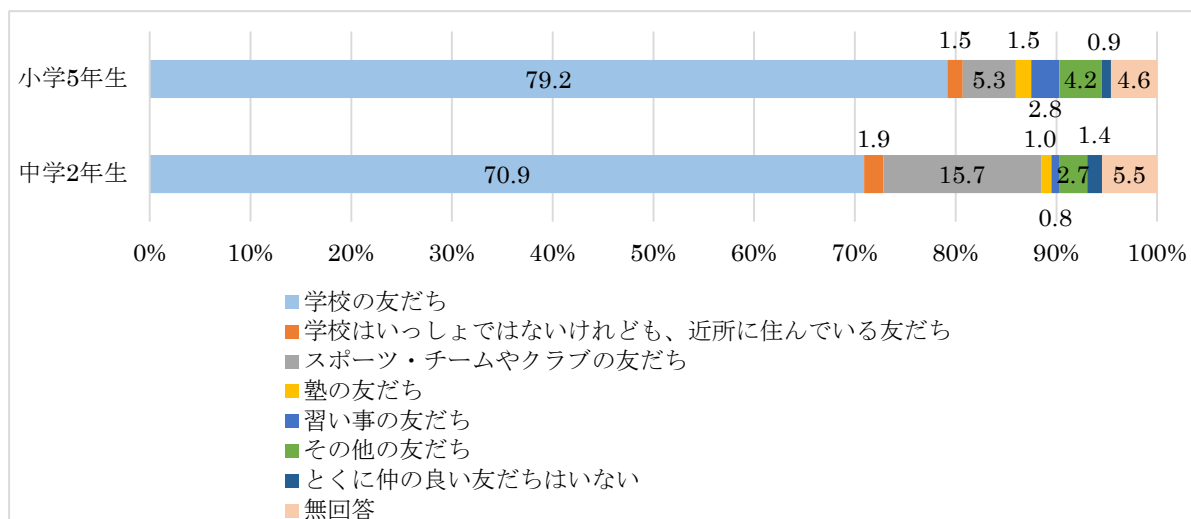


## (2) 仲の良い友だち

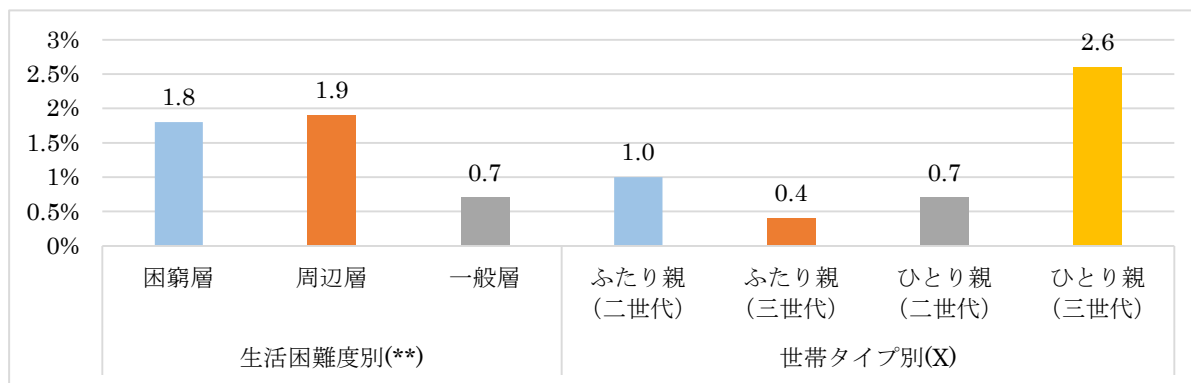
また、「あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか」と子ども本人に聞いたところ、小学 5 年生も中学 2 年生も「学校の友だち」が大半を占め、それぞれ 79.2%、70.9%であった。次に多かったのは両学年とも「スポーツチームやクラブの友だち」で、それぞれ 5.3%、15.7%であった。その一方で、「とくに仲の良い友だちはいない」と答えた子どもも若干存在し、小学 5 年生では 0.9%、中学 2 年生では 1.4%であった。

ここでは孤立に着目するため、「とくに仲の良い友だちはいない」と答えた子どもの割合を生活困難度別にみると、小学 5 年生の一般層では 0.7%であるのに対し、困窮層、周辺層ではそれぞれ 1.8%、1.9%である。中学 2 年生では生活困難度別に有意な差は認められないものの、困窮層では 2.7%である。この割合を世帯タイプ別にみると、小学 5 年生で有意な差はみられないものの、ひとり親 (三世帯) 世帯では 2.6%である。中学 2 年生ではひとり親 (二世帯) 世帯で 2.7%、ひとり親 (三世帯) 世帯で 2.1%となっている。

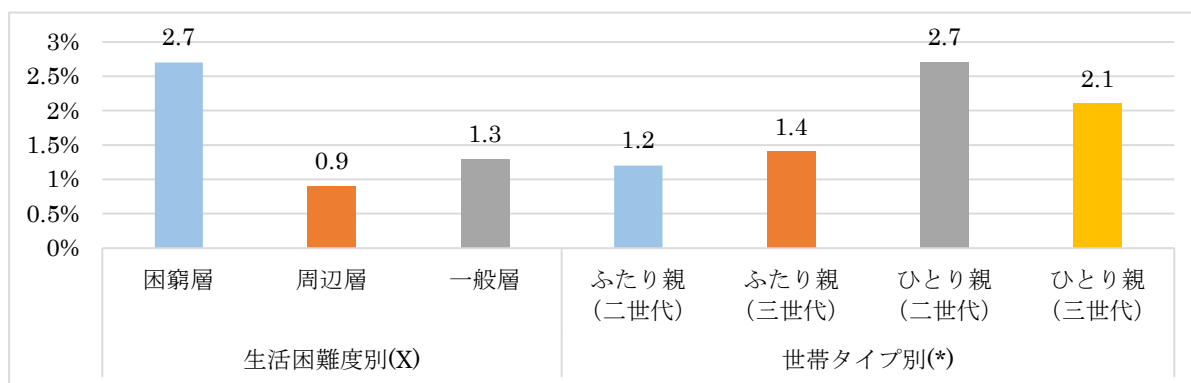
図表 6-6-5 仲の良い友だち(小学5年生、中学2年生):全体



図表 6-6-6 とくに仲の良い友だちはいない子どもの割合(小学5年生):生活困難度別、世帯タイプ別



図表 6-6-7 とくに仲の良い友だちはいない子どもの割合(中学2年生):生活困難度別、世帯タイプ別



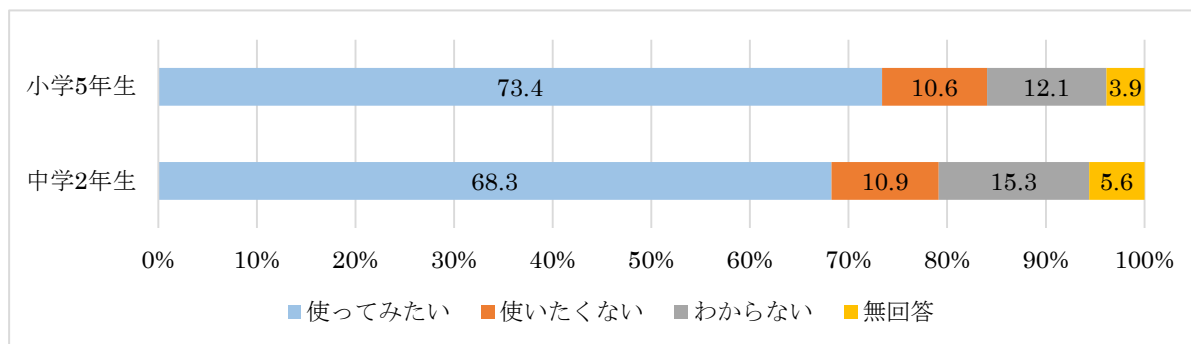
## 7. 使ってみたい居場所・相談事業

### (1) 放課後の居場所事業

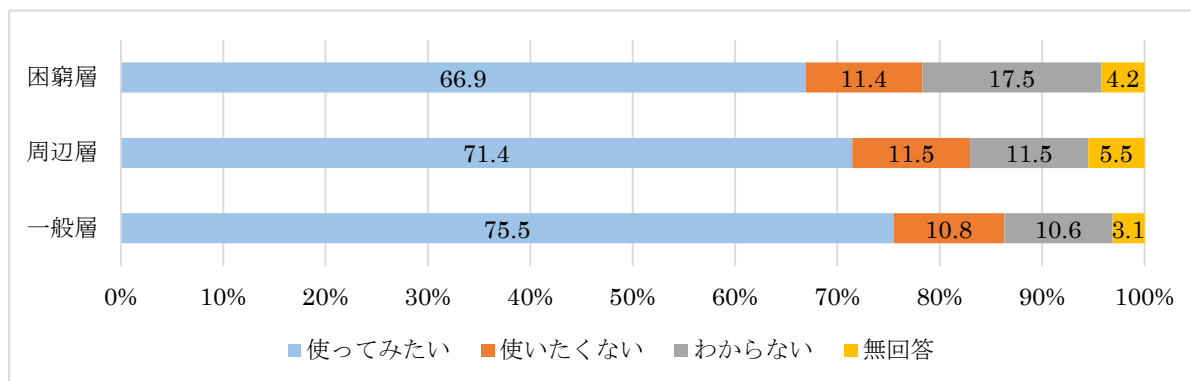
次に、子どもの居場所事業の要望をみるために、子ども票にて「(家や学校以外で) 放課後に友達と食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設」について「(このような) 場所があれば使ってみたいと思いますか」と聞いた。すると、小学5年生の73.4%が「使ってみたい」と答えた。生活困難度別にみると、若干の差がみとめられ、一般層では75.5%が「使ってみたい」としているが、困窮層は66.9%と少なくなっている。しかし、困窮層の70%に近い子どもが放課後の居場所事業に興味を示していることは特記すべきである。小学5年生の世帯タイプ別には、有意な差はみられなかった(図表省略)。

中学2年生も同様に、68.3%が「使ってみたい」と答えているが、生活困難度、世帯タイプによる有意な差はみられず、どの世帯タイプにおいても同じ程度の割合の子どもが「使ってみたい」と答えている。

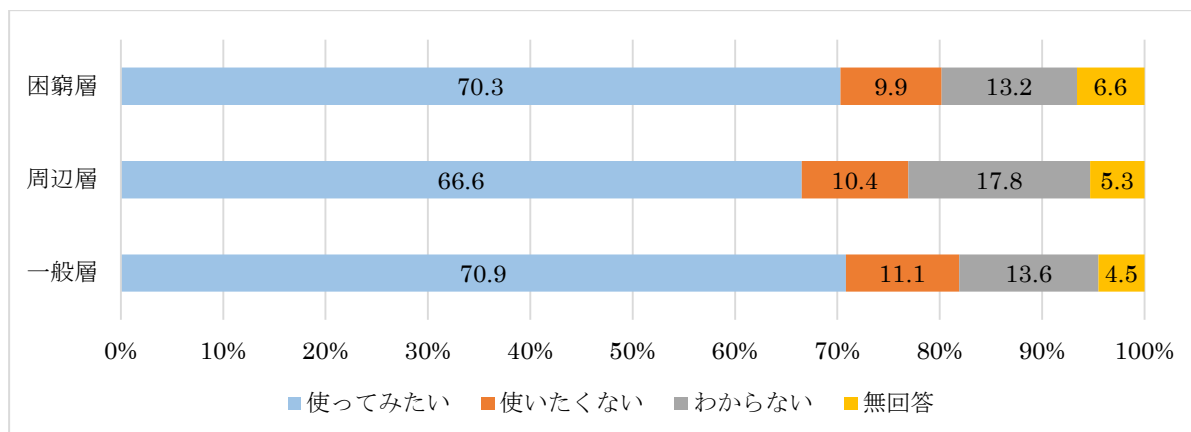
図表 6-7-1 放課後の居場所事業の利用意向(小学5年生、中学2年生):全体



図表 6-7-2 放課後の居場所事業の利用意向(小学5年生):生活困難度別(\*)



図表 6-7-3 放課後の居場所事業の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(X)

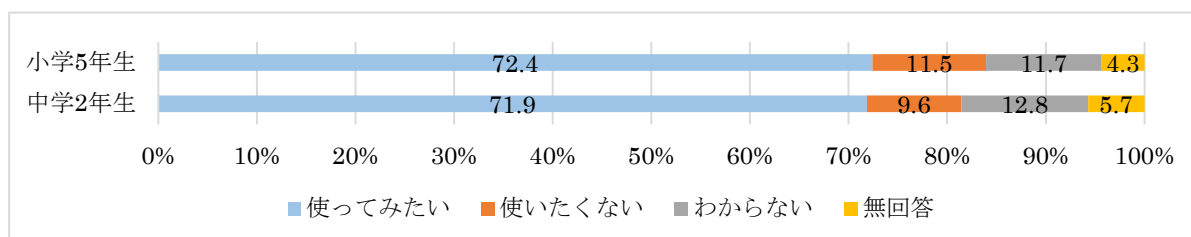


## (2) 休日の居場所事業

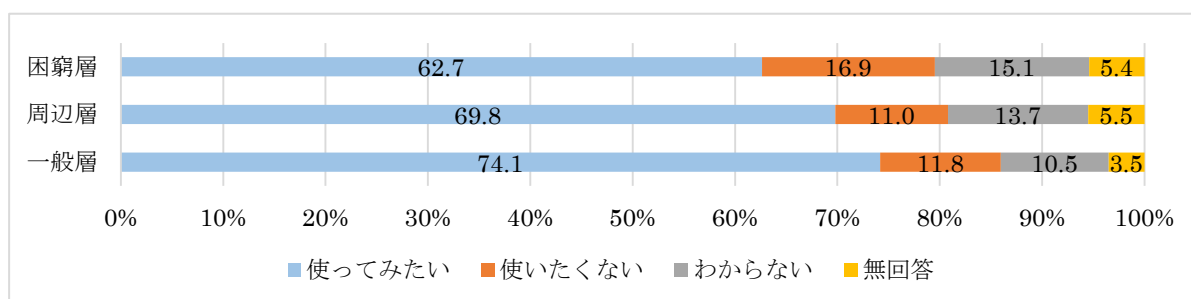
次に、「(家や学校以外で) 休日や夏休みなどに友だちと食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設」の利用意向を子ども本人に聞いた。その結果、小学 5 年生の 72.4%が「使ってみたい」と答えており、「使いたくない」と答えたのは 11.5%であった。生活困難度別にみると一般層は 74.1%が「使ってみたい」としているが、困窮層は 62.7%であり、約 10 ポイント低くなっているが、それでも過半数は「使ってみたい」と答えている。世帯タイプ別にみると、ふたり親(二世帯)世帯で 73.3%であるが、その他の世帯タイプはいずれも約 69%である。

中学 2 年生においては、71.9%が「使ってみたい」と答えた。中学 2 年生においては、生活困難度別、世帯タイプ別に有意な差はみられなかった。

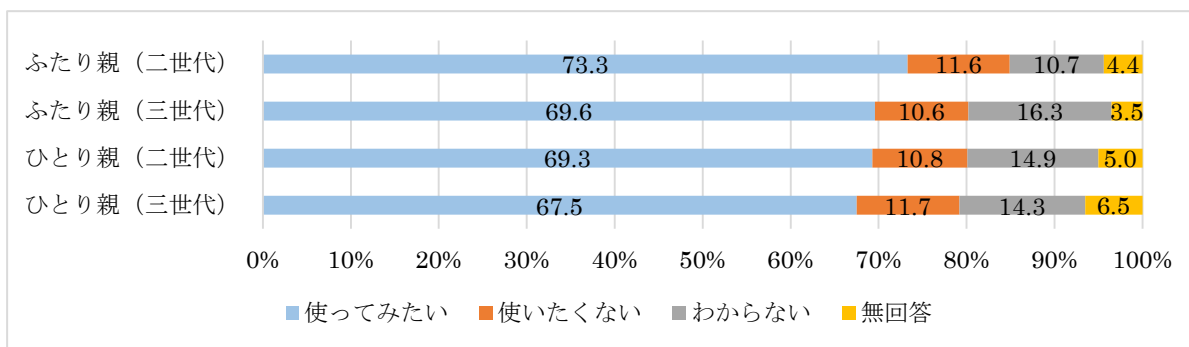
図表 6-7-4 休日の居場所事業の利用意向(小学 5 年生、中学 2 年生):全体



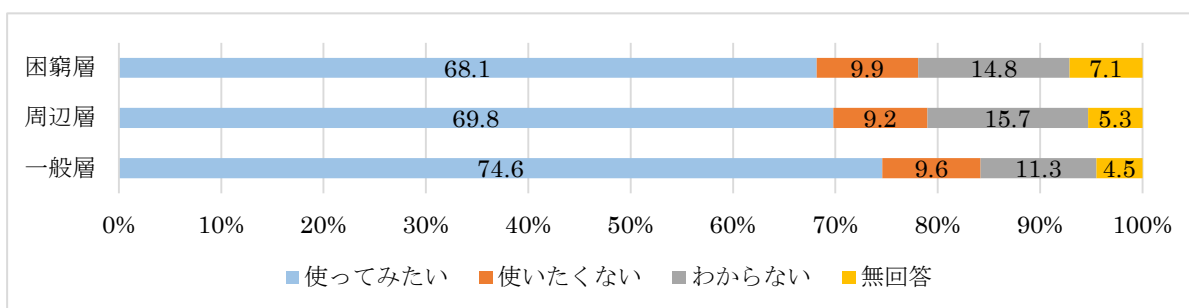
図表 6-7-5 休日の居場所事業の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*)



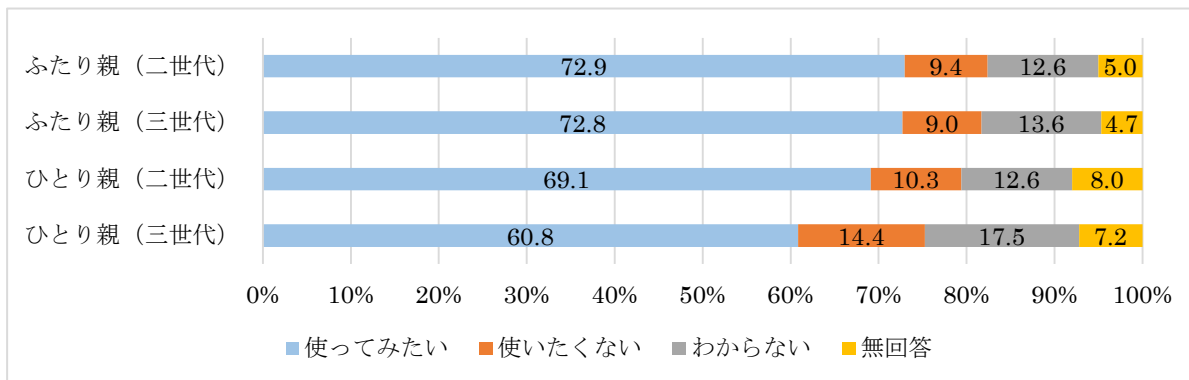
図表 6-7-6 休日の居場所事業の利用意向(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*)



図表 6-7-7 休日の居場所の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(X)



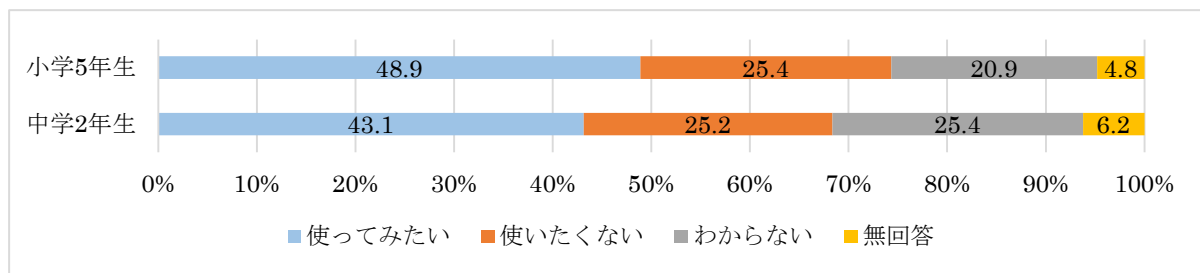
図表 6-7-8 休日の居場所の利用意向(中学 2 年生):世帯タイプ別(X)



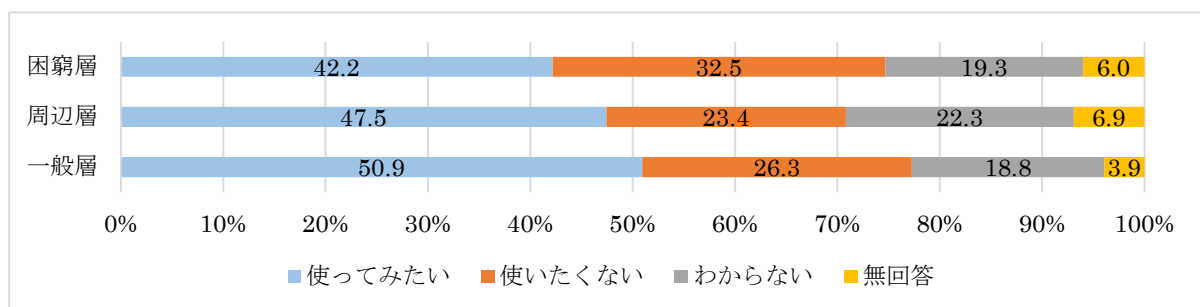
### (3) 夕食の場所 (子ども食堂)

「(家や学校以外で) 家族がいないときに、友だちや大人の人などとみんなで夕ごはんを食べることができる場所や施設」の利用意向については、小学 5 年生の 48.9%、中学 2 年生の 43.1%が「使ってみたい」と答えている。一方、この項目については、前述の居場所事業に比べて「使ってみたい」が少なめであると同時に、「わからない」との答えも多いのが特徴的である。生活困難度別にみると、両学年ともに差がみられ、小学 5 年生においては、一般層 50.9%に対して困窮層は 42.2%、中学 2 年生については、一般層 45.3%に対して困窮層 36.8%が「使ってみたい」と答えている。世帯タイプ別にみると、小学 5 年生では、ひとり親 (三世帯) 世帯 50.6%、ふたり親 (二世帯) 世帯 49.8%で約半数の利用意向がある。中学 2 年生は世帯タイプ別に有意な差はみられなかった (図表省略)。

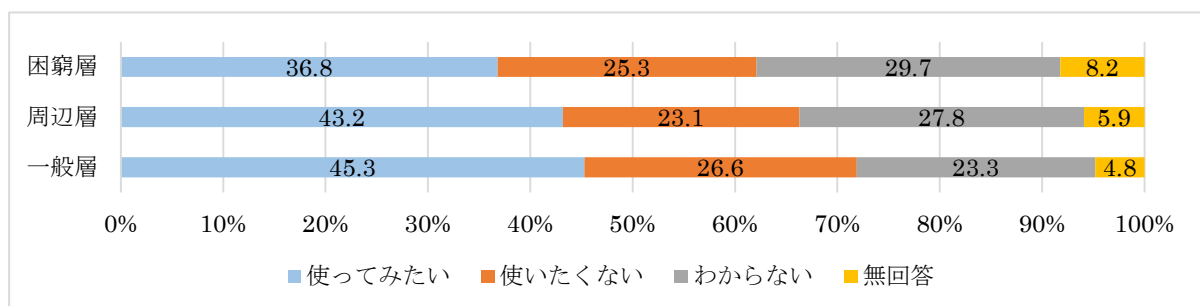
図表 6-7-9 夕食の場所(子ども食堂)の利用意向(小学5年生、中学2年生)



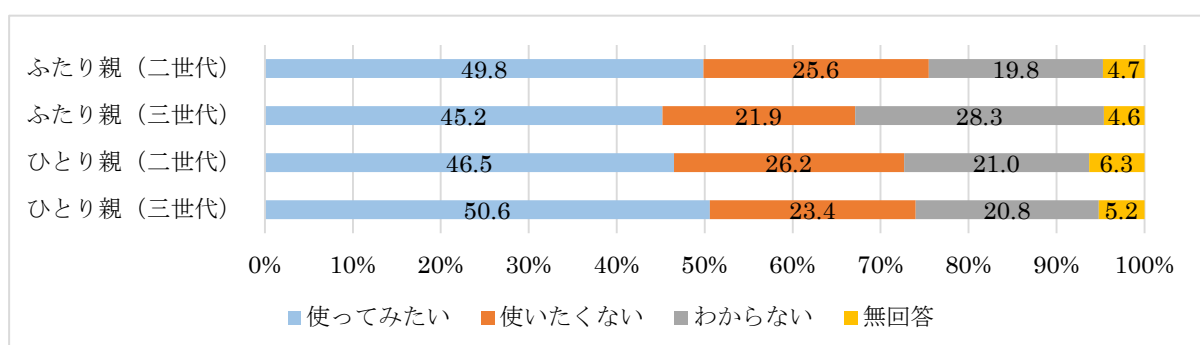
図表 6-7-10 夕食の場所(子ども食堂)の利用意向(小学5年生):生活困難度別(\*)



図表 6-7-11 夕食の場所(子ども食堂)の利用意向(中学2年生):生活困難度別(\*)



図表 6-7-12 夕食の場所(子ども食堂)の利用意向(小学5年生):世帯タイプ別(\*)

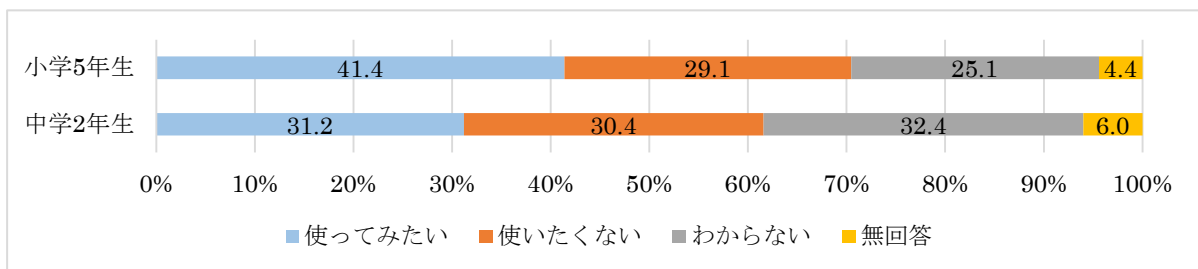


#### (4) 何でも相談できるところ

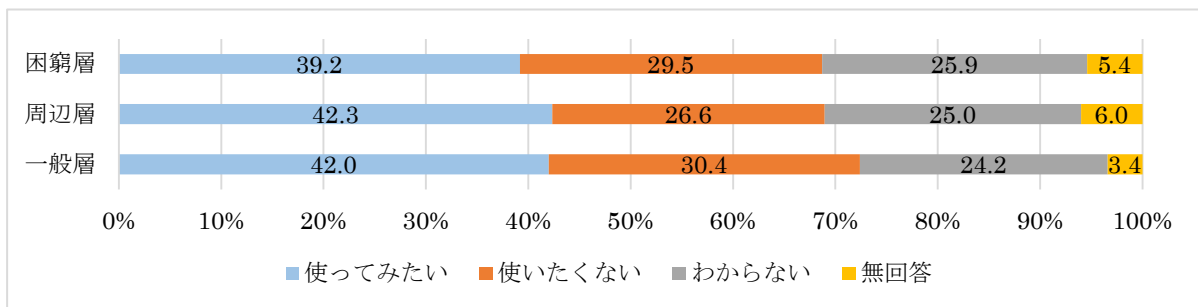
「(家族や学校以外で) 自分のことや友だちのことなど何でも相談できる人のいる場所や施設」の利用意向については、小学5年生の41.4%、中学2年生の31.2%が「使ってみたい」と答えている。一方、「使いたくない」と答えた子どもも、それぞれ29.1%、30.4%存在する。夕食の場所(子ども食堂)と同様に「わからない」とした回答も多い。

小学5年生においては、生活困難度別、世帯タイプ別に有意な差はみられなかった。中学2年生では、生活困難度別に有意な差はみられなかったが。世帯タイプの間には有意な差がみられた。ただし、その差は小さくなく、ふたり親世帯の子どものほうが若干「使ってみたい」とした割合が少ない。

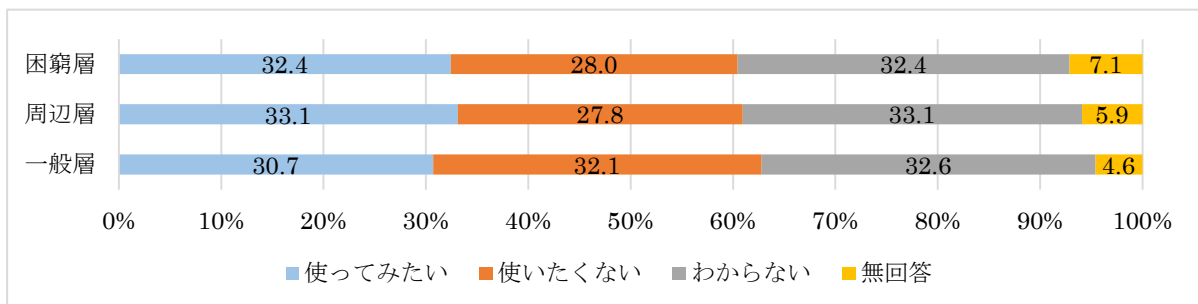
図表 6-7-13 何でも相談できる場所の利用意向(小学5年生、中学2年生)



図表 6-7-14 何でも相談できる場所の利用意向(小学5年生):生活困難度別(X)

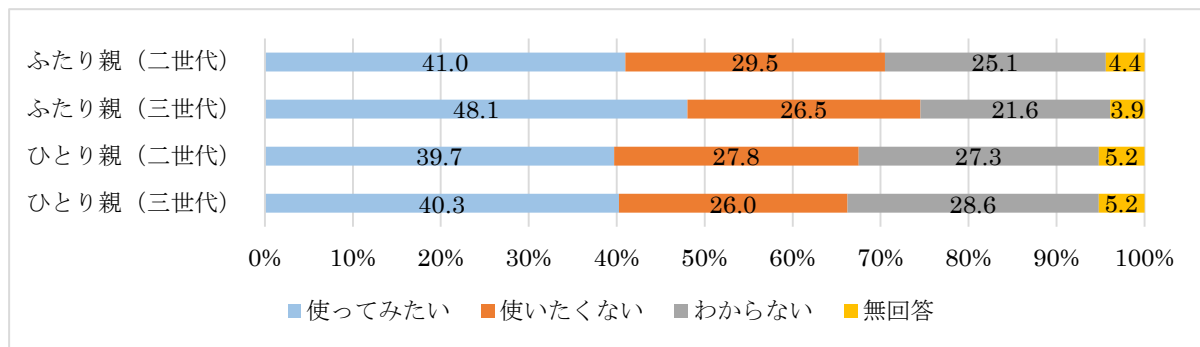


図表 6-7-15 何でも相談できる場所の利用意向(中学2年生):生活困難度別(X)

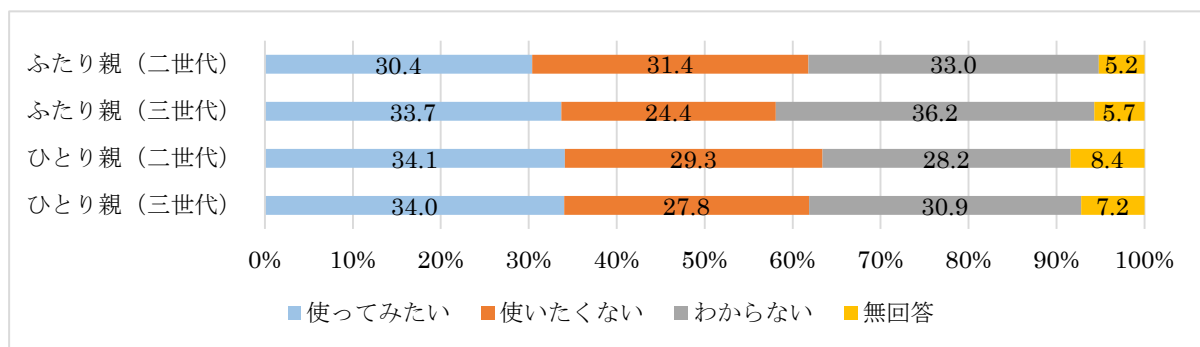




図表 6-7-16 何でも相談できるところの利用意向(小学5年生):世帯タイプ別(X)



図表 6-7-17 何でも相談できるところの利用意向(中学2年生):世帯タイプ別(\*)





# 第7章 子どもの自己肯定感

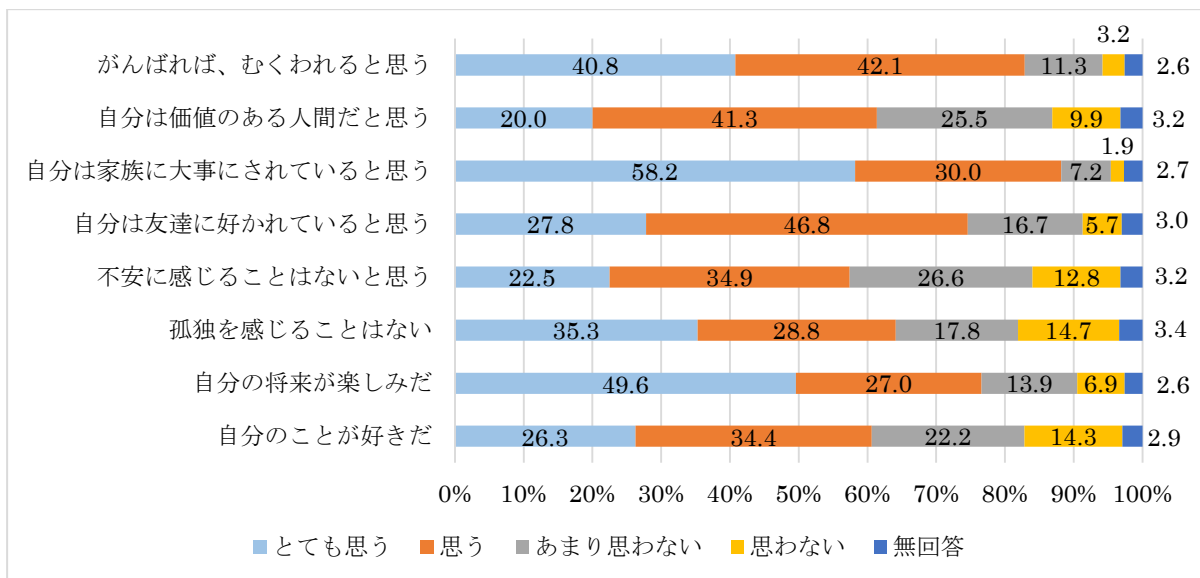
## 1. 自己肯定感

本調査では、子どもの自己肯定感をみるために、子ども自身の考えや気持ちを尋ねる8つの項目を子ども票に設けている。具体的には、図表7-1-1にある8項目について、「とても思う」から「思わない」の4段階で自分の考えや気持ちに最も近いものを選択してもらった。

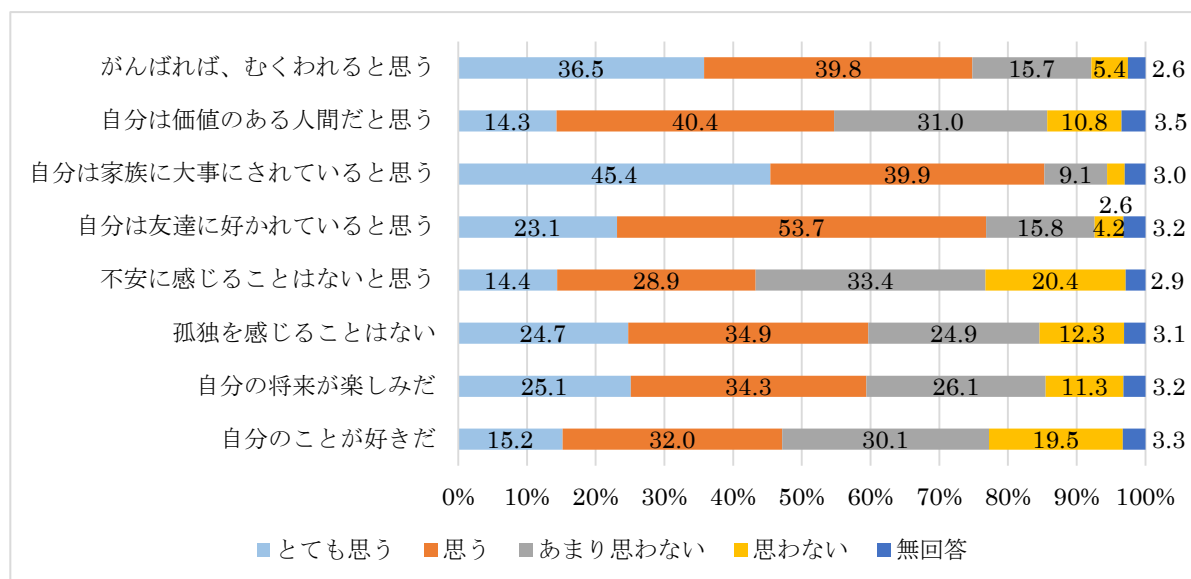
その結果、「とても思う」、「思う」と答えた者（つまりポジティブな考えや気持ちを持っている者）の割合は、最も高い項目である「自分は家族に大切にされていると思う」で88.2%（「とても思う」58.2%、「思う」30.0%）であった。最も低い項目である「不安に感じることはないと思う」であっても57.4%（「とても思う」22.5%、「思う」34.9%）と、どの項目でも半数を超える。これは、全体として割合が低くなっている傾向はあるものの、中学2年生も同様である。

ただし、「自分は価値のある人間だと思う」については、小学5年生の9.9%、中学生の10.8%が「思わない」と回答している。また、小学5年生の6.9%、中学2年生の11.3%で、「自分の将来が楽しみだ」に対して「思わない」、また、小学5年生の14.3%、中学2年生の19.5%が「自分のことが好きだ」に対して「思わない」と答えている。自己肯定感の低い子どもが一定割合いること、特にその割合が、学年があがると高まる可能性に注意が必要である。

図表7-1-1 自己肯定感(小学5年生)



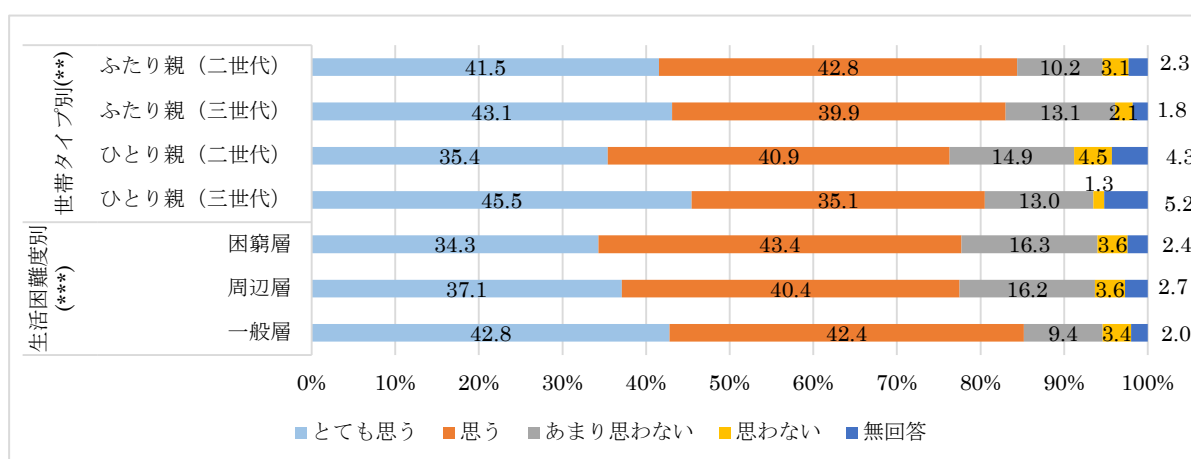
図表 7-1-2 自己肯定感(中学 2 年生)



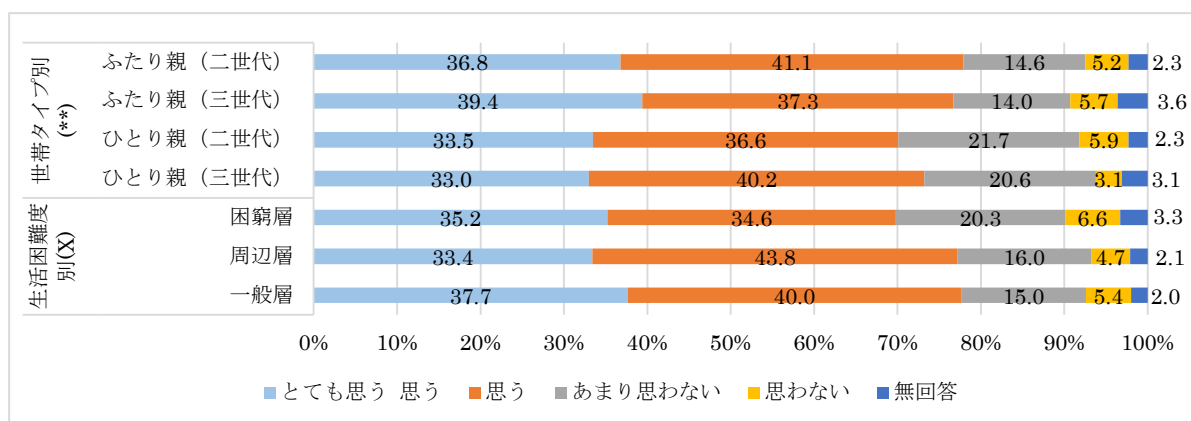
小学 5 年生を世帯タイプ別にみると、「不安に感じることはないと思う」、「自分の将来が楽しみだ」、「自分のことが好きだ」という項目は、統計的に有意な差がみられなかった。一方で中学 2 年生は、全ての項目について統計的な差がみられる。生活困難度別においては、小学 5 年生は全ての項目について差がみられるが、中学 2 年生では、「がんばれば、むくわれると思う」、「不安に感じることはないと思う」、「孤独を感じることはない」の 3 つの項目では統計的差がみられなかった。以下各項目についてみることにする。

「がんばれば、むくわれると思う」について、小学 5 年生ではひとり親（二世帯）世帯および困窮層で「とても思う」と回答する割合が他より少なく、中学 2 年生については、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯で少なくなっている。

図表 7-1-3 がんばれば、むくわれると思う(小学 5 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

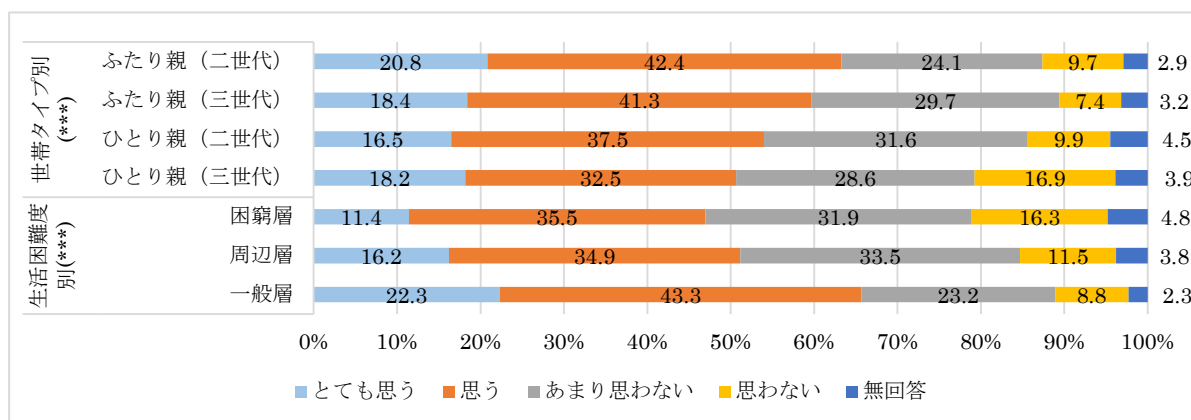


図表 7-1-4 がんばれば、むくわれると思う(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

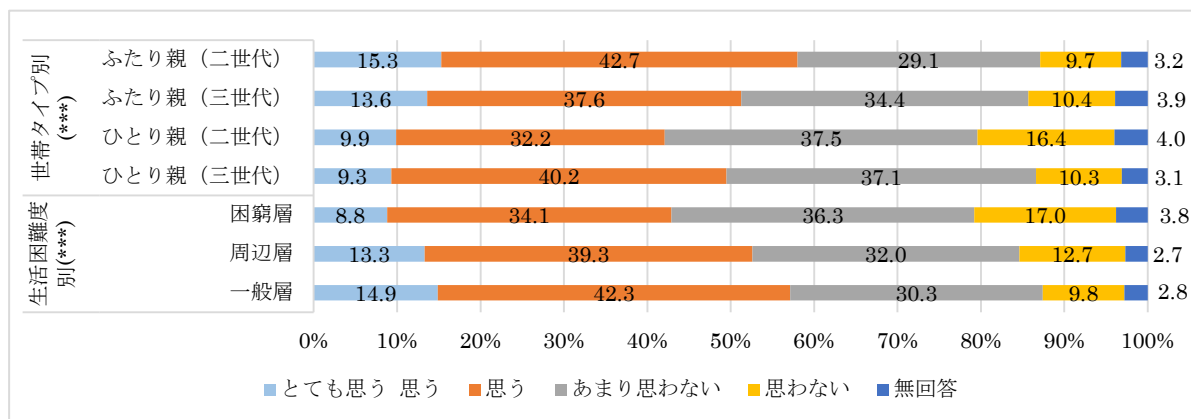


「自分は価値のある人間だと思う」においては、「がんばれば、むくわれると思う」よりも大きな差がみられ、小学 5 年生ではひとり親 (三世帯) 世帯と困窮層で「思わない」と回答する割合がそれぞれ 16.9%、16.3%と特に高い。また中学 2 年生では、ひとり親 (二世帯) 世帯、困窮層で特に高く、それぞれ 16.4%、17.0%である。

図表 7-1-5 自分は価値のある人間だと思う(小学 5 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

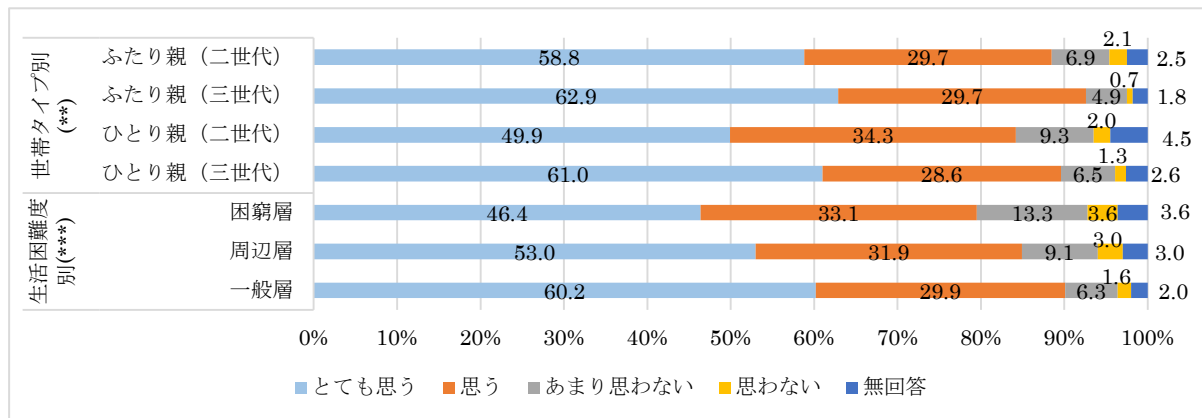


図表 7-1-6 自分は価値のある人間だと思う(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

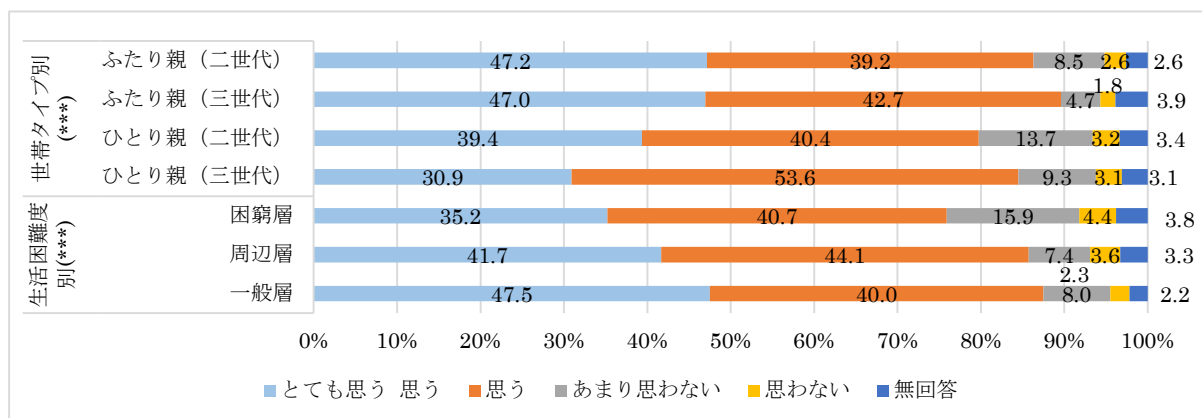


「自分は家族に大事にされていると思う」の項目では、「思わない」と回答した割合は、どの世帯タイプ、生活困難度でも数パーセントに留まっているものの、「とても思う」、「思う」と答えた割合については差がみられる。小学5年生では、「とても思う」と回答する割合がひとり親（二世帯）世帯、困窮層で少なく、一方、中学2年生は、ひとり親（三世帯）世帯および困窮層で少なくなっている。

図表 7-1-7 自分は家族に大事にされていると思う(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別

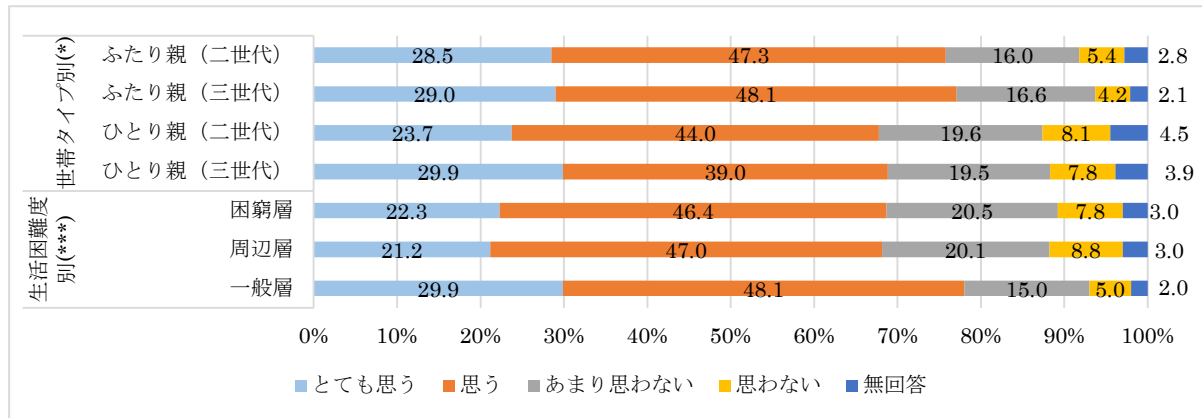


図表 7-1-8 自分は家族に大事にされていると思う(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

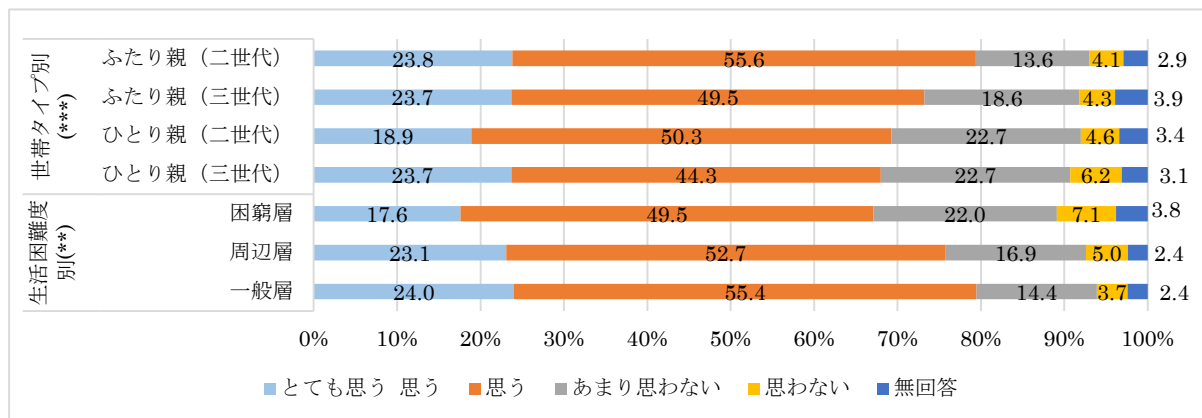


「自分は友だちに好かれていると思う」については、小学5年生においては、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯や困窮層、周辺層において約8～9%の子どもが「思わない」と答えており、他の層より多い。中学2年生においても、約5～7%が「思わない」と答えている。

図表 7-1-9 自分は友だちに好かれていると思う(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別

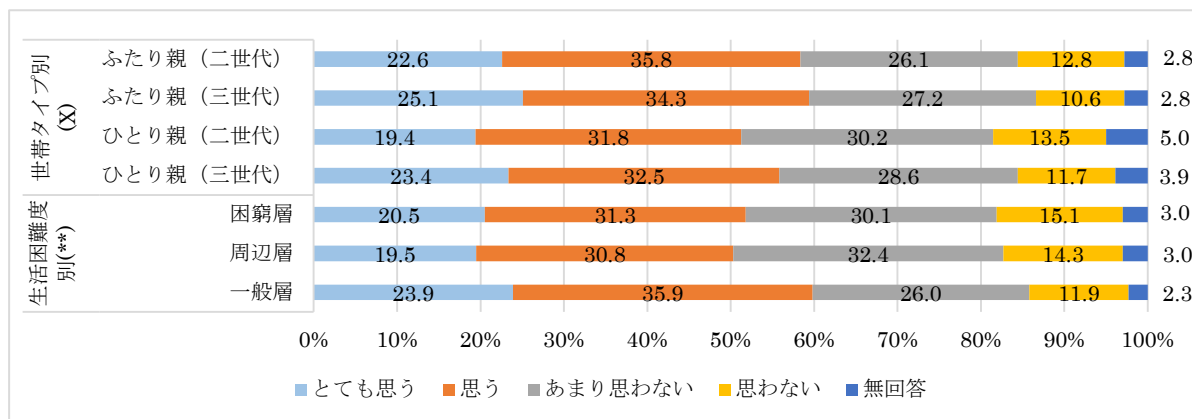


図表 7-1-10 自分は友だちに好かれていると思う(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

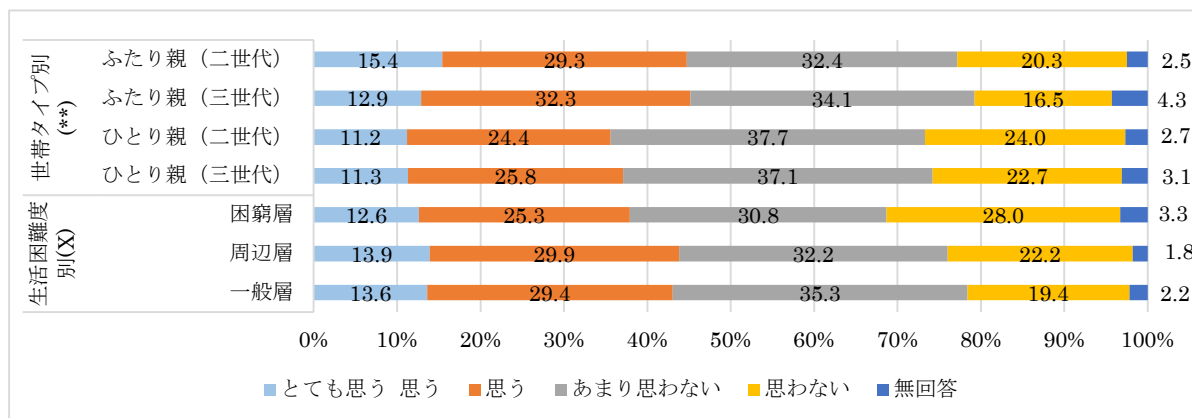


「不安に感じることはないと思う」の項目については、生活困難度別、世帯タイプ別にみると、小学5年生より中学2年生の方が「あまり思わない」、「思わない」と答えた割合が高い傾向にある。小学5年生では生活困難度別、中学2年生では世帯タイプ別において統計的に有意な差がみられた。

図表 7-1-11 不安に感じることはないと思う(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



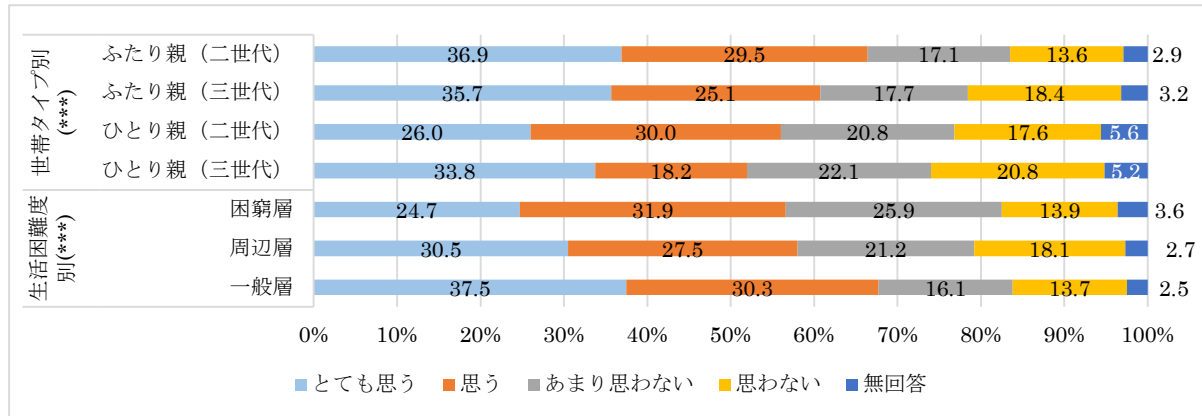
図表 7-1-12 不安に感じることはないと思う(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別



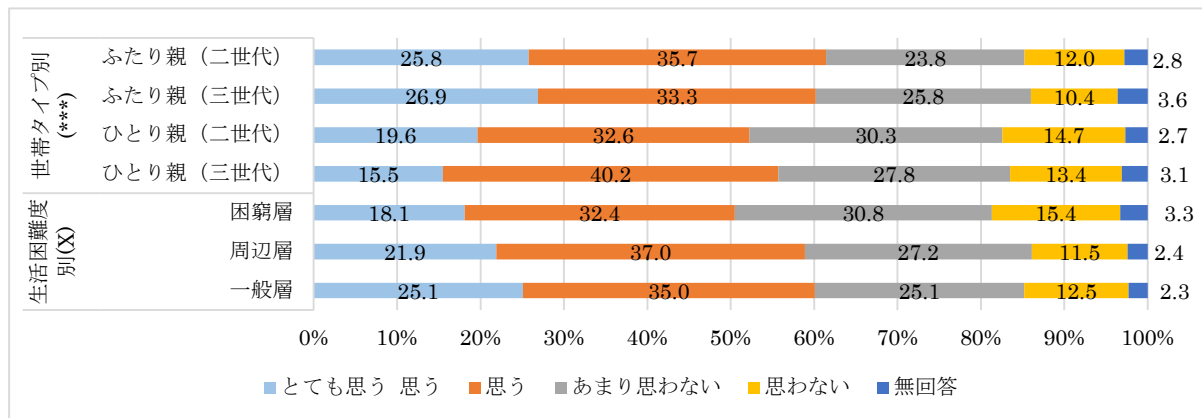


「孤独を感じることはない」の項目については、特に、小学5年生においては、ひとり親（三世代）世帯の20.8%、また、中学2年生では困窮層の15.4%とその割合が相対的に高い。

図表 7-1-13 孤独を感じることはない(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別

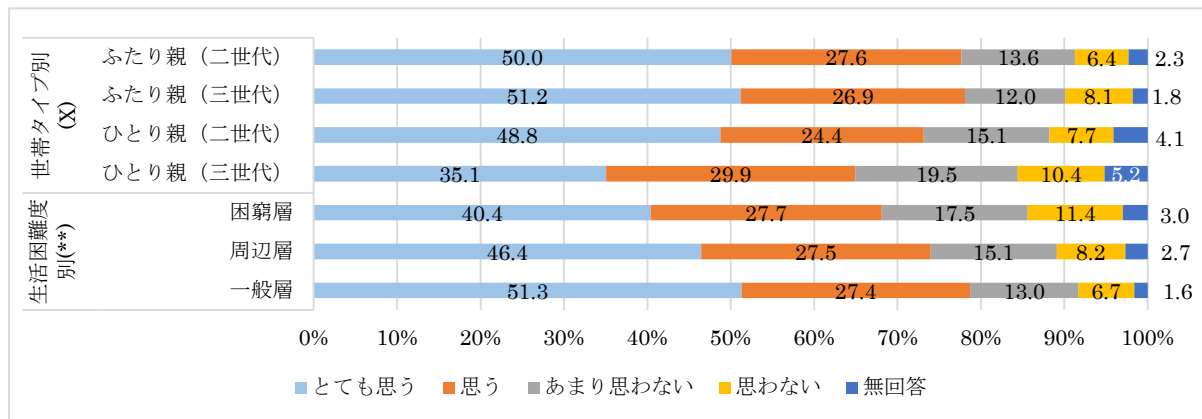


図表 7-1-14 孤独を感じることはない(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

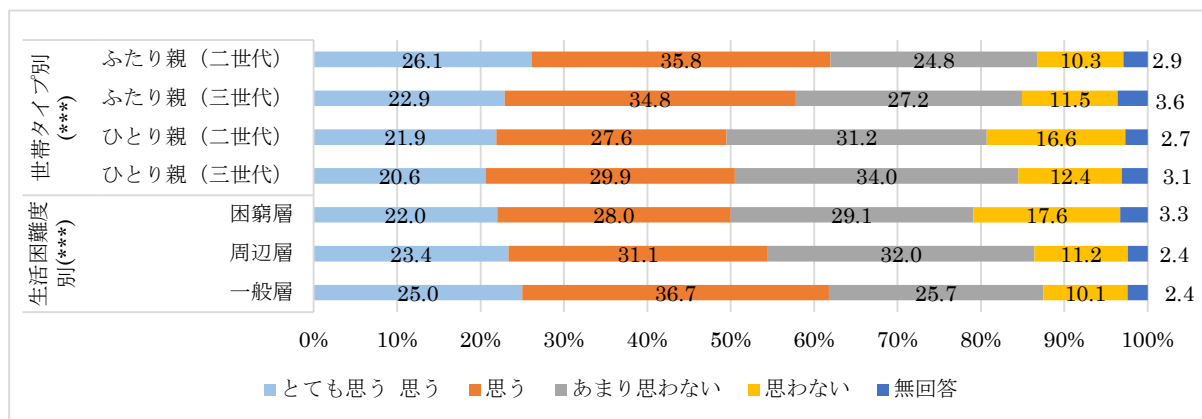


「自分の将来が楽しみだ」については、小学5年生ではおおよそ半数の子どもが「とても思う」と答えているが、ひとり親（三世代）世帯ではこの割合が35.1%であり、「あまり思わない」、「思わない」と回答した割合は合わせて29.9%となっている。また、困窮層でも「あまり思わない」、「思わない」と回答した割合が約30%である。また、中学2年生では、全体的に「とても思う」が小学5年生に比べて減るが、世帯タイプ別、生活困難度別の差がみられ、「あまり思わない」、「思わない」と回答した割合は、ひとり親（二世帯、三世代）世帯および困窮層、周辺層では40~50%程度となっている。

図表 7-1-15 自分の将来が楽しみだ(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別

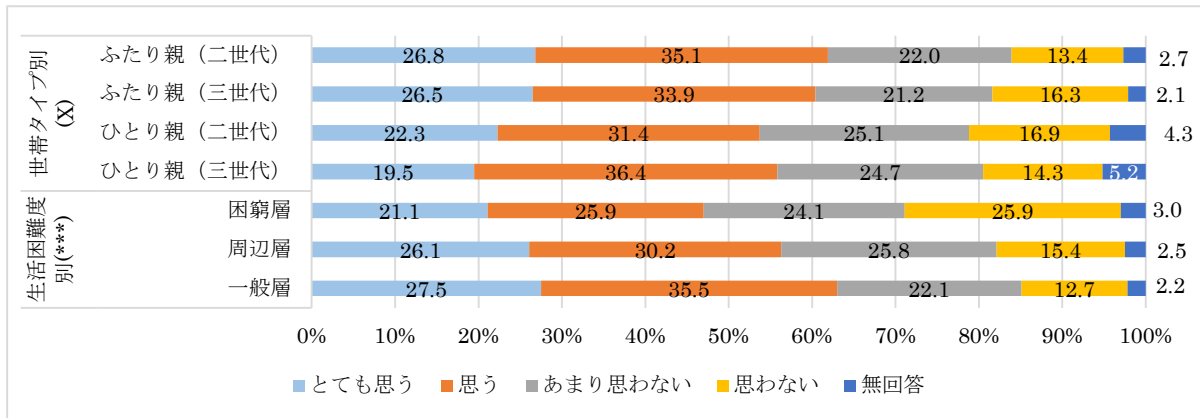


図表 7-1-16 自分の将来が楽しみだ(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

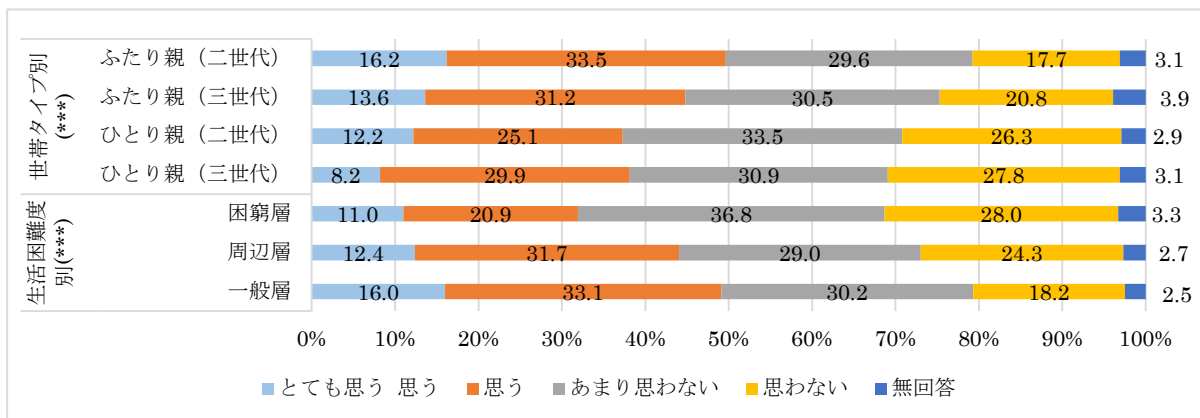


「自分のことが好きだ」では、小学5年生で「思わない」と回答した割合が困窮層で高く25.9%であり、一般層と比較して約2倍である。中学2年生は、ひとり親（三世代）世帯と困窮層で高く、それぞれ27.8%、28.0%との結果である。

図表 7-1-17 自分のことが好きだ(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



図表 7-1-18 自分のことが好きだ(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

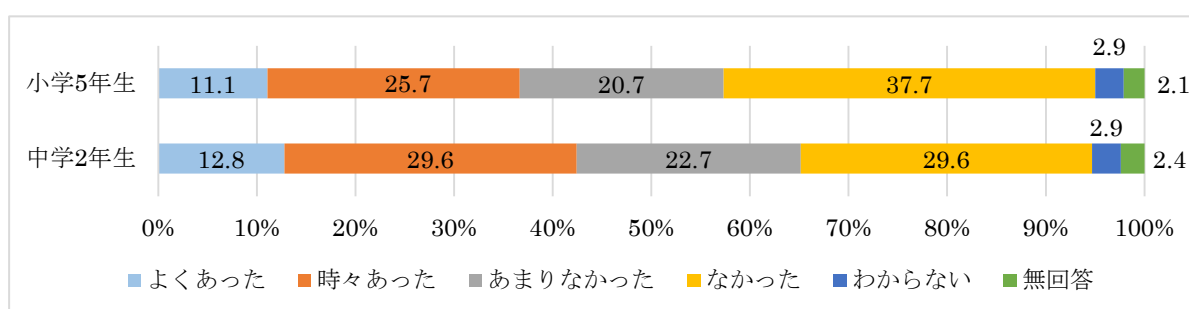


## 2. 学校に行きたくないと思った経験

本調査では、子どもの通学に対する気持ちをみるために、子ども票にて「あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか」との設問を設け、その中で「学校に行きたくないと思った」の項目を含めている。回答の選択肢は、「よくあった」、「時々あった」、「あまりなかった」、「なかった」、「わからない」の5つである。

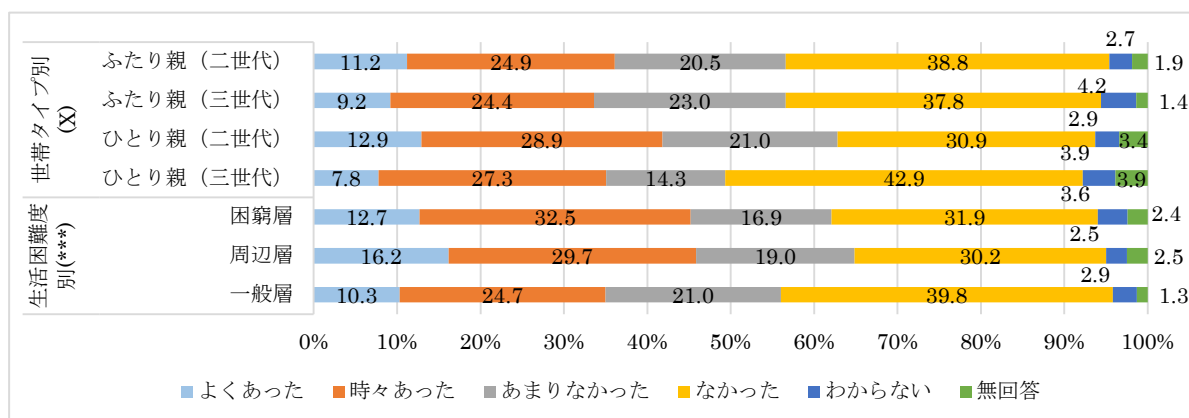
まず、全体的にみると、「よくあった」と回答した子どもは小学5年生では11.1%、中学2年生では12.8%であり、約10人に1人の子どもは学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」ということがわかる。一方、「なかった」と答えた子どもは、小学5年生では37.7%、中学2年生では29.6%と約3人に1人となっている。

図表 7-2-1 学校に行きたくないと思った(小学5年生、中学2年生)

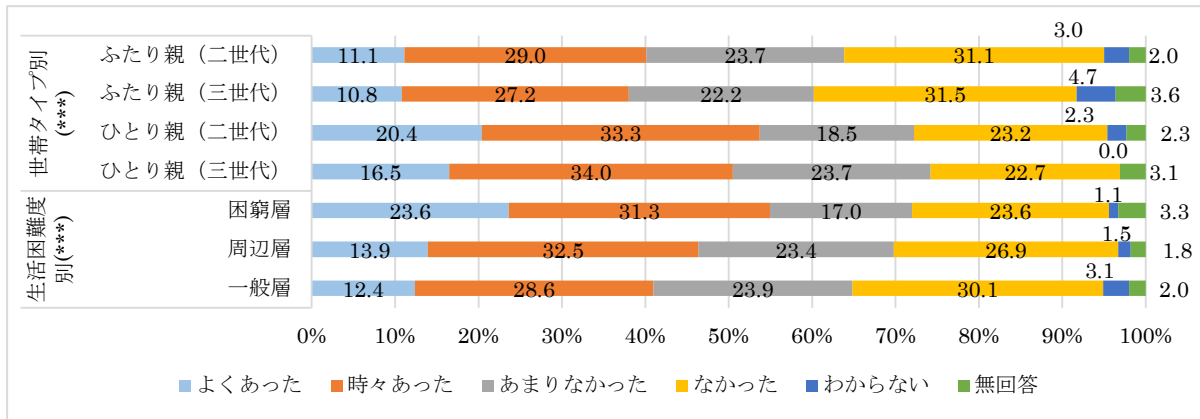


回答を、世帯タイプ別、生活困難度別にみたものが以下である。小学5年生では生活困難度別、中学2年生では生活困難度別、世帯タイプ別に、統計的に有意な差がみられた。全体の傾向としては困窮層、周辺層、ひとり親（二世帯）世帯で「よくあった」が多く、特に中学2年生の困窮層では23.6%、ひとり親（二世帯）世帯では20.4%が「よくあった」と回答している。

図表 7-2-2 学校に行きたくないと思った(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



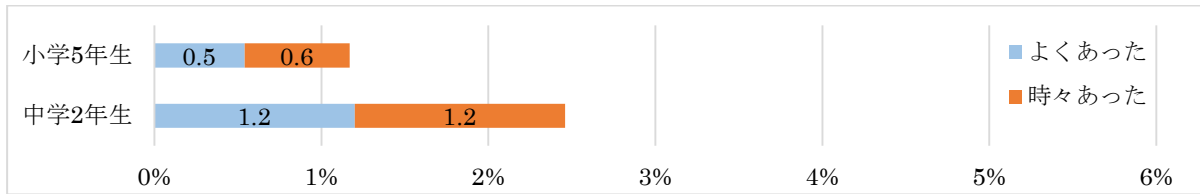
図表 7-2-3 学校に行きたくないと思った(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別



### 3. 1か月以上学校を休んだ経験

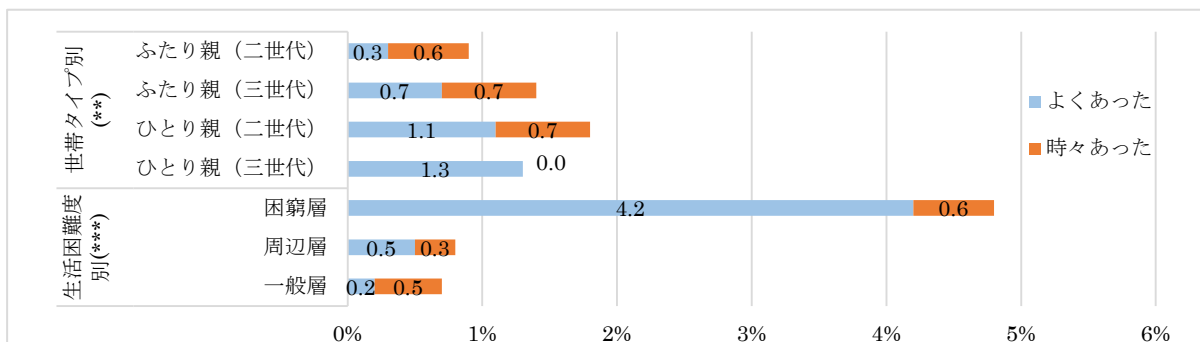
次に、上記と同様に、子ども票にて「あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか」の設問により、「1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)」経験を聞いた。全体において、1か月以上学校を休んだ経験があることが「よくあった」、「時々あった」と答えた割合は小学5年生では1.1%、中学2年生では2.4%である。

図表 7-3-1 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)(小学5年生、中学2年生):全体

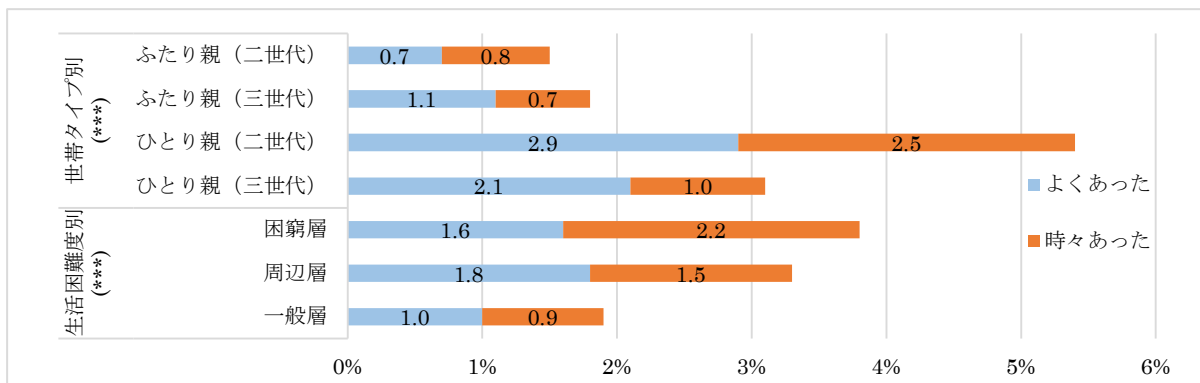


1か月以上学校を休んだ経験については、小学5年生、中学2年生いずれも世帯タイプ別、生活困難度別において統計的に有意な差がみられる。特に、生活困難度別では、小学5年生の困窮層で「よくあった」、「時々あった」の割合が多く4.8%であった。また、中学2年生でも困窮層、周辺層で多い傾向があり、それぞれ3.8%、3.3%となっている。世帯タイプ別においては、中学2年生のひとり親(二世)世帯で5.4%と相対的に高い割合であるほか、ひとり親(三世)世帯も3.1%である。

図表 7-3-2 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



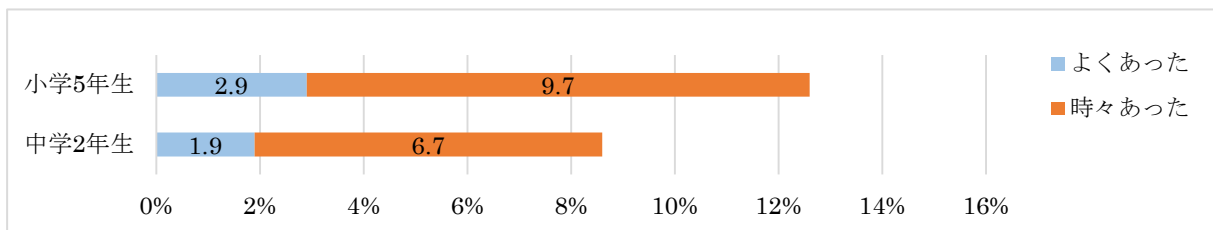
図表 7-3-3 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別



#### 4. いじめ

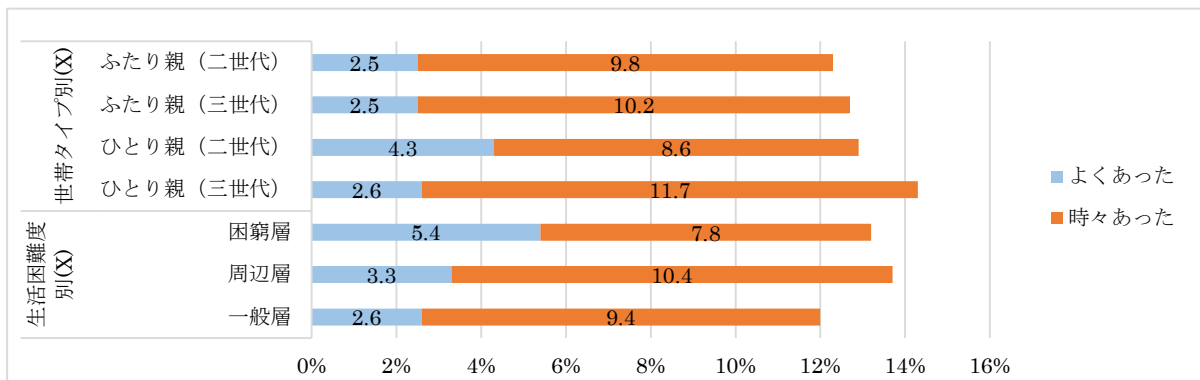
同様に、「いじめられた」経験についても、子ども票にて聞いた。その結果、「いじめられた」ことが「よくあった」、「時々あった」と回答した子どもの割合は、小学5年生では12.6%、中学2年生では8.6%である。

図表 7-4-1 いじめられた(小学5年生、中学2年生)

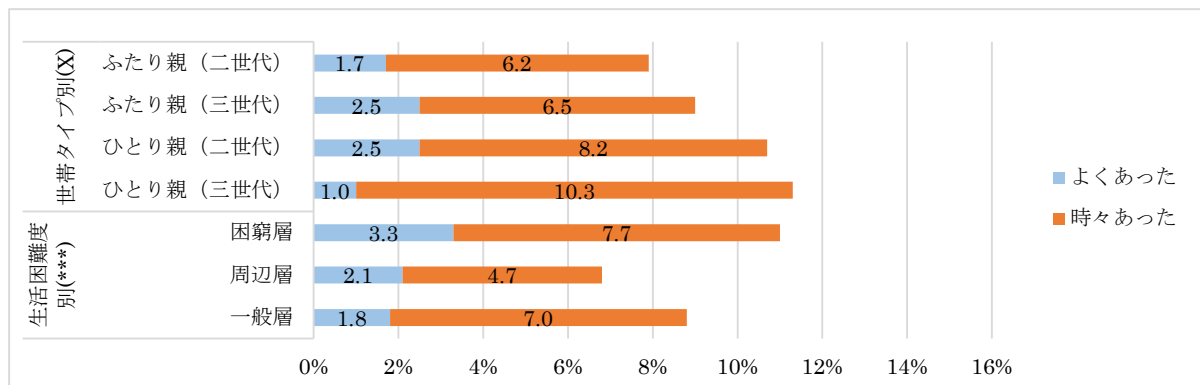


「いじめられた」経験について、世帯タイプ別、生活困難度別にみると、小学5年生については世帯タイプ別、生活困難度別にいずれも統計的に有意な差はみられなかったが、中学2年生では生活困難度別にて有意差がみられ、困窮層の11.0%がいじめに「よくあった」、「時々あった」と回答しているのに対し、一般層では8.8%であった。

図表 7-4-2 いじめられた(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



図表 7-4-3 いじめられた(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別





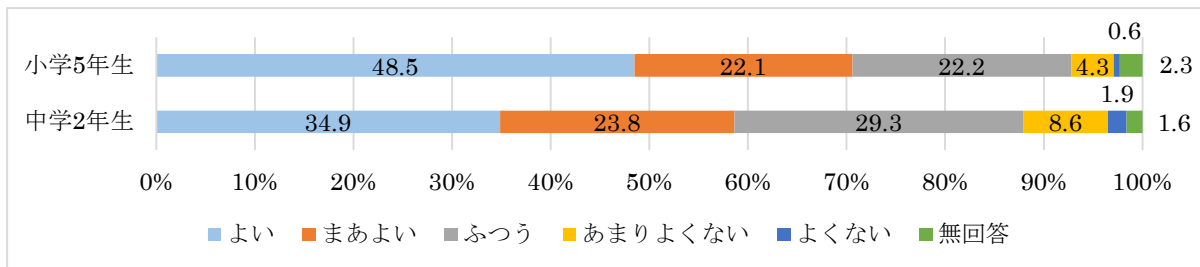


# 第8章 子どもの健康状態

## 1. 健康状態についての主観的評価

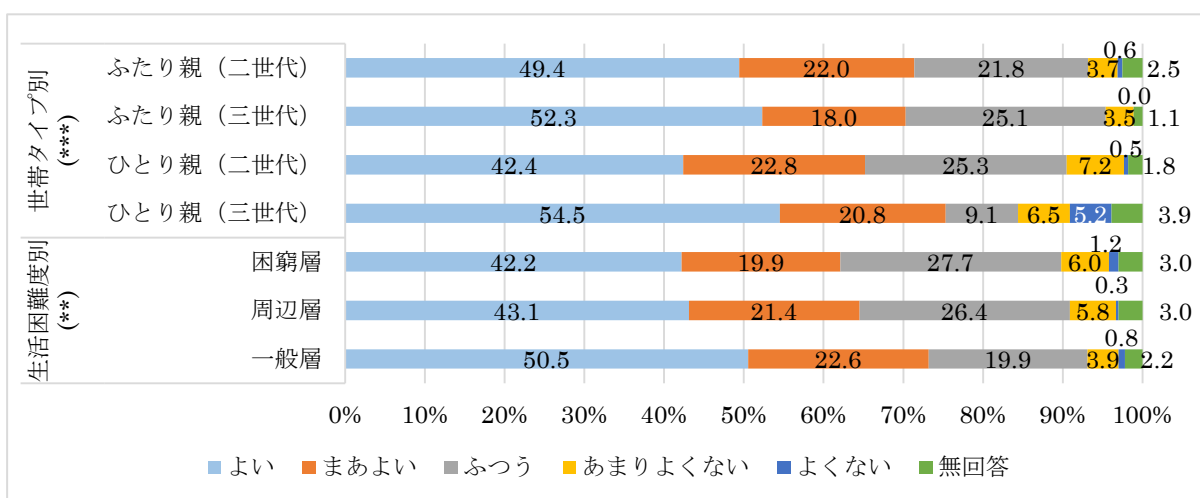
子どもに、自分の健康状態について、5段階（「よい」、「まあよい」、「ふつう」、「あまりよくない」、「よくない」）の選択肢で聞いた。その結果、小学5年生の48.5%、中学2年生の34.9%は、自分の健康状態が「よい」と答えている。健康状態が「よい」、「まあよい」を合わせると約60~70%の子どもは自分の健康状態をよいと認識している。しかし、小学5年生の4.3%、中学2年生の8.6%が「あまりよくない」と回答しており、また、「よくない」と答えた子どももそれぞれ0.6%、1.9%存在する。

図表 8-1-1 本人の健康状態(小学5年生、中学2年生)



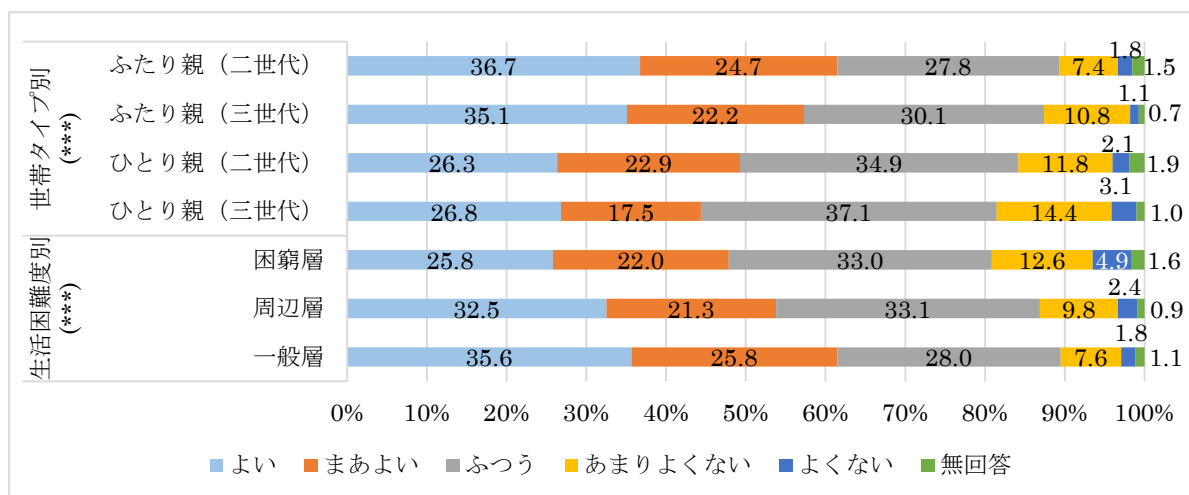
健康状態を、世帯タイプ別、生活困難度別にみると、小学5年生、中学2年生いずれにおいても統計的に有意な差がみられた。小学校5年生では、ひとり親で健康状態が「あまりよくない」、「よくない」と回答する割合が高く、ひとり親（二世帯）世帯では7.7%、ひとり親（三世帯）世帯では11.7%となっている。一方、ひとり親（三世帯）世帯は、「よい」と答えた子どもの割合が最も高く、両端に偏っている。また、生活困難度が高いほど、健康状態が悪いと回答した子どもの割合が高い。

図表 8-1-2 本人の健康状態(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



中学2年生においても、ひとり親（二世帯、三世帯）世帯において、「よい」とする割合が低く、「あまりよくない」、「よくない」とする割合が高い傾向がみられる。また、生活困難度が高くなるほど、健康状態が悪いと答える傾向は小学5年生と同じである。

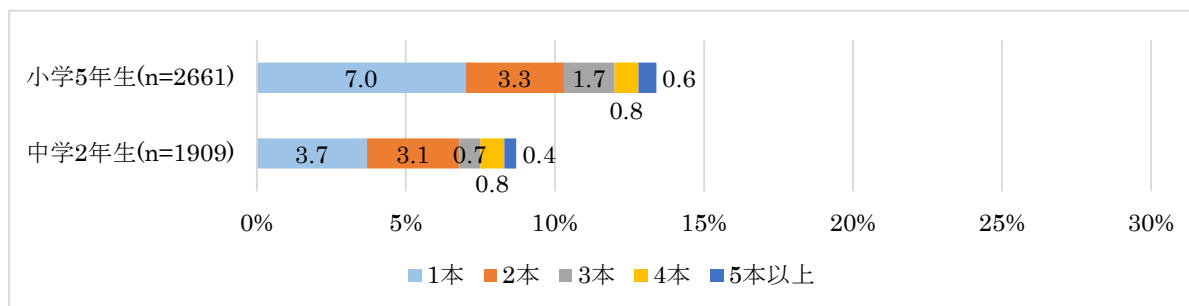
図表 8-1-3 本人の健康状態(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別



## 2. 虫歯の有無

次に、虫歯の本数（治療中も含む）について、子ども票にて聞いた。これは、子ども本人の申告によるものなので、医学的に診断された本数ではないことに留意されたい。その結果が以下である（「0本」は図から省略）。虫歯の有無について回答した小学5年生のうち13.4%、中学生2年生のうち8.7%の子どもが、虫歯が1本以上あると回答している。虫歯が4本以上の子どもは、それぞれ1.4%、1.2%である。また、小学5年生と比較すると、中学2年生は虫歯がある子どもの割合が少ない。

図表 8-2-1 虫歯の本数(治療中も含む)(小学5年生、中学2年生)

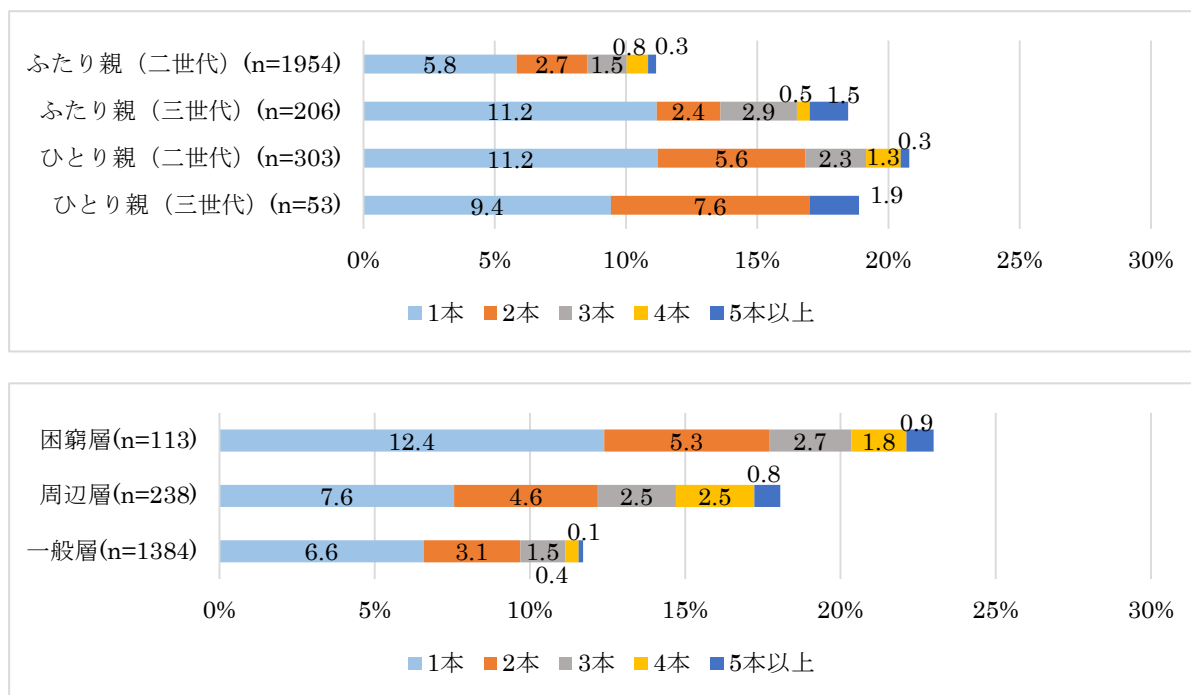


\*虫歯の有無を答えた回答者に限る。

世帯タイプ別、生活困難度別にみると、小学5年生では、虫歯が1本以上と回答したものはひとり親（二世帯）世帯でもっとも高く20.7%となっている。生活困難度別にみると、生活困難度が高いほど虫歯が多く、困窮層では23.1%にのぼる。中学2年生では、その差がさらに顕著に表れており、困窮層では計27.6%となっている。ひとり親（三世帯）も他の世帯タイプに比べて虫

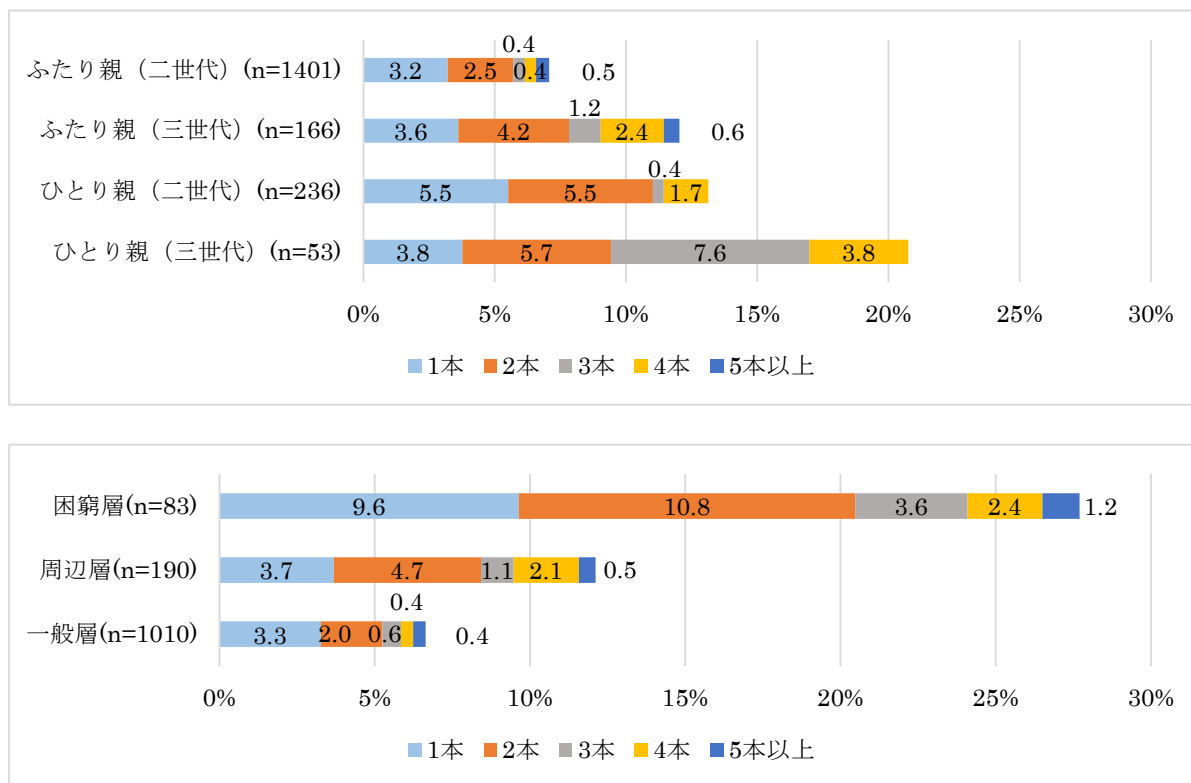
歯のある子どもが多くなっており、計 20.9%であった。

図表 8-2-2 虫歯の本数(治療中も含む)(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)、生活困難度別(\*\*\*)



\*虫歯の有無を答えた回答者に限る。

図表 8-2-3 虫歯の本数(治療中も含む)(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)、生活困難度別(\*\*\*)



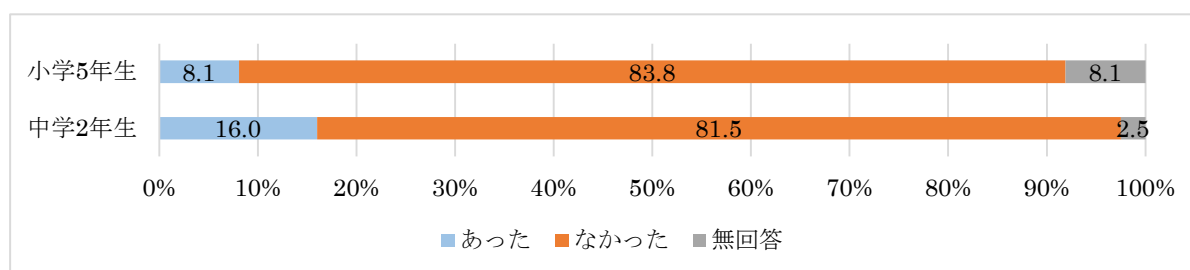
\*虫歯の有無を答えた回答者に限る。

### 3. 医療機関での受診状況

#### (1) 医療の受診抑制経験

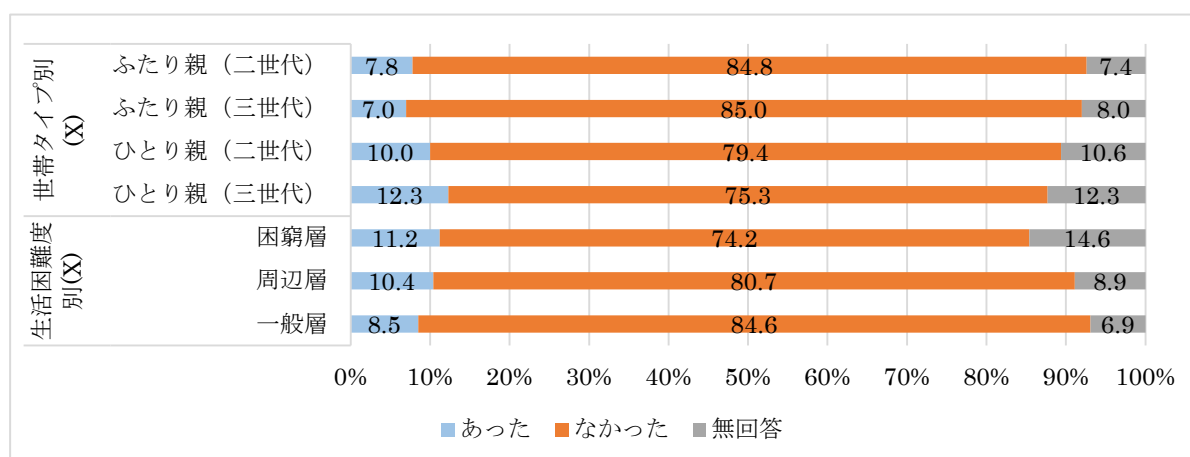
次に、医療機関における受診の状況について集計する。本調査では、保護者票にて「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」と質問している。さらに「あった」と答えた保護者にはその理由を聞いた。その結果、小学5年生の世帯では8.1%、中学2年生の世帯では16.0%の保護者が受診させなかった経験が「あった」と回答している。

図表 8-3-1 医療の受診抑制経験

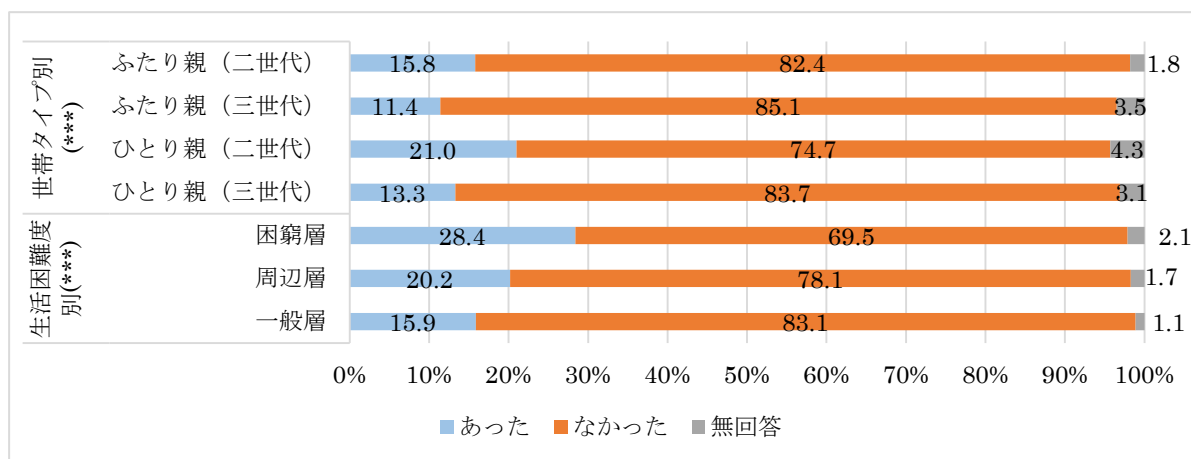


生活困難度別、世帯タイプ別に医療受診状況をみると、中学2年生の世帯でのみ統計的に有意な差がみられた。困窮層、ひとり親（二世帯）世帯では、「あった」と答えた割合が、それぞれ28.4%、21.0%と他のカテゴリーよりも高い値となっている。小学5年生においては、どのカテゴリーにおいても、10%程度となっている。

図表 8-3-2 医療の受診抑制経験(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別



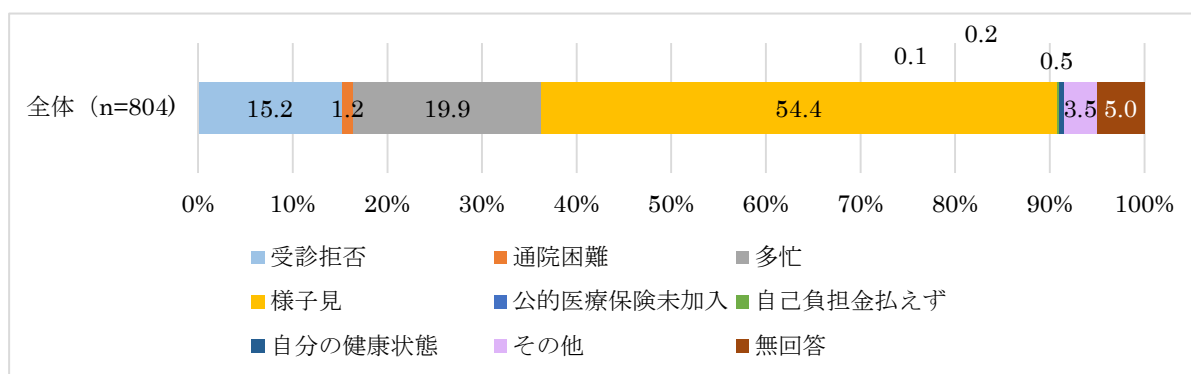
図表 8-3-3 医療の受診抑制経験(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別



## (2) 受診抑制の理由

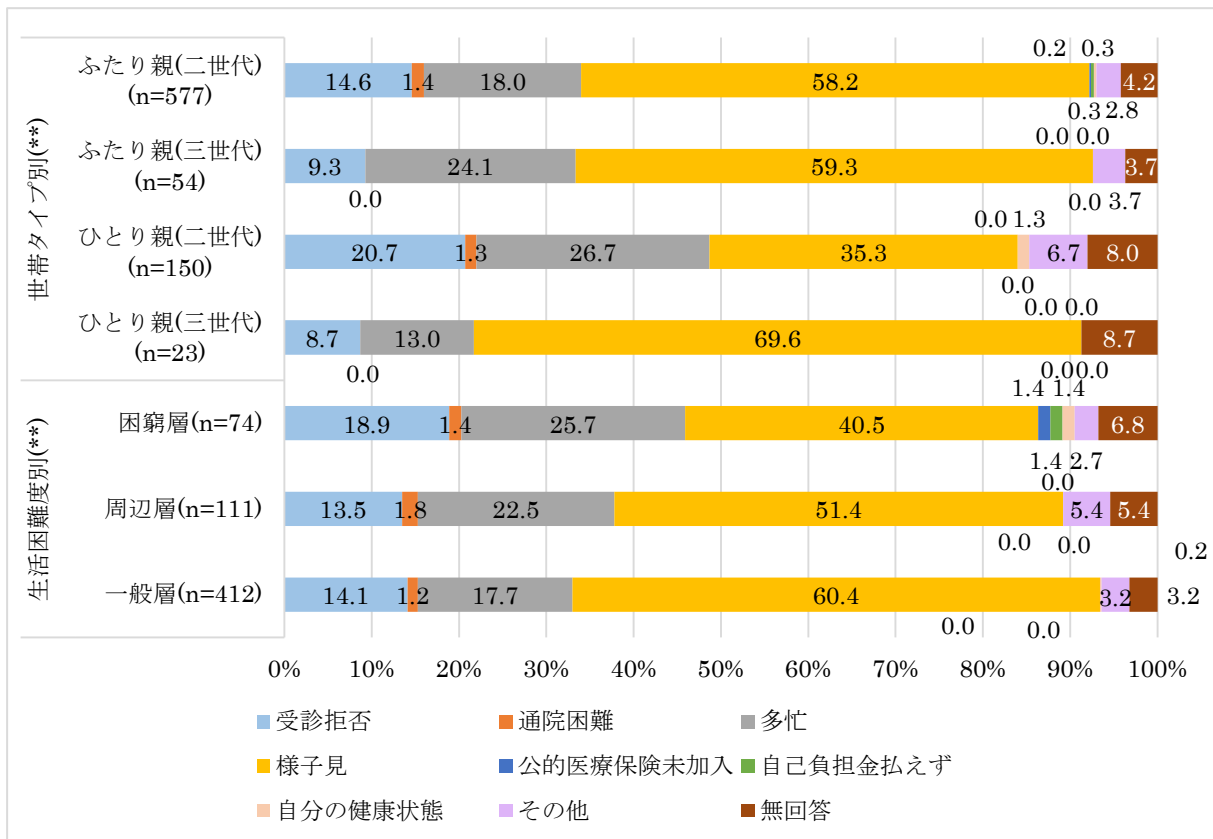
子どもを受診させなかった経験が「あった」保護者に、その理由を聞いた。ここでは、サンプルサイズが小さい為、小学 5 年生の世帯、中学 2 年生の世帯を合わせて集計を行っている。受診させなかった理由の過半数は「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため(様子見)」が 54.4%、次に「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため(多忙)」が 19.9%と多い。

図表 8-3-4 医療の受診抑制理由(小学 5 年生、中学 2 年生合算)



世帯タイプ別、生活困難度別にみると、「子ども本人が受診しなかったため(受診拒否)」と回答した割合が最も高いのは、ひとり親(二世帯)世帯の 20.7%、困窮層の 18.9%である。「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため(多忙)」と回答した割合が高いのはひとり親(二世帯)世帯の 26.7%、困窮層の 25.7%である。「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を払うことができないと思ったため(自己負担金払えず)」と回答しているのは困窮層の 1.4%である。また、困窮層においては、「公的医療保険未加入」を受診抑制理由として回答した保護者も 1.4%であった。

図表 8-3-5 医療の受診抑制理由(小学 5 年生、中学 2 年生合算):世帯タイプ別、生活困難度別



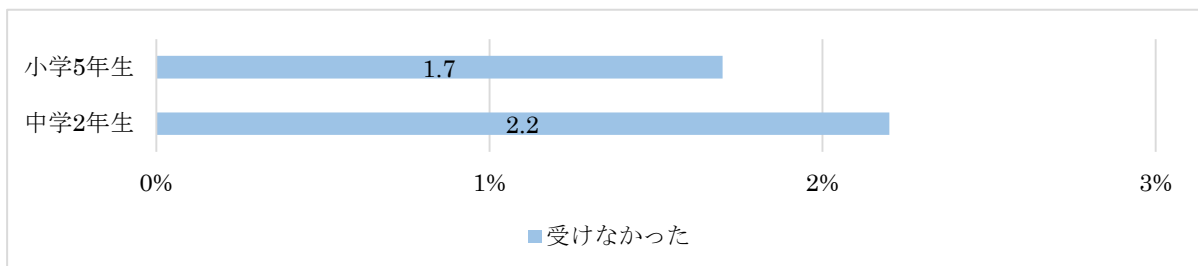
#### 4. 予防接種の状況

次に、予防接種の状況を見る。予防接種については、種類別に、保護者票にて子どもの接種状況を聞いている。その結果、両学年とも、無料で受けられる定期予防接種では未接種率が低いものの、任意予防接種の未接種率は相対的に高い。

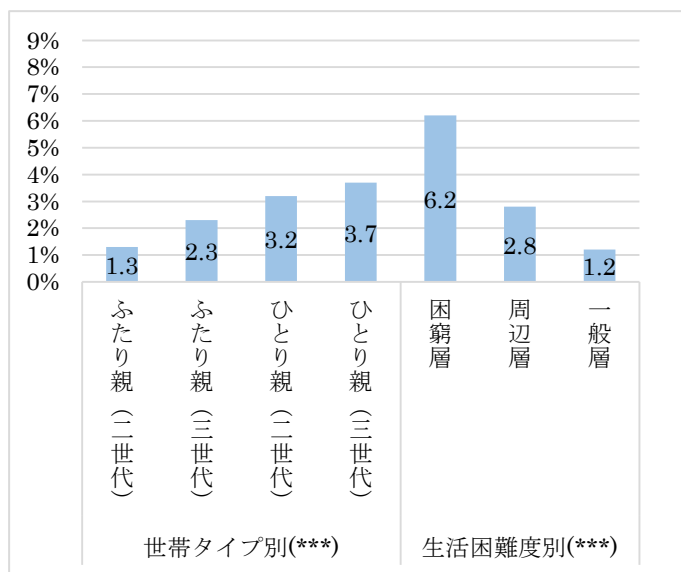
##### (1) 定期予防接種の接種状況

定期予防接種を「受けなかった」と回答した保護者は、小学 5 年生で 1.7%、中学 2 年生では 2.2%であった。世帯タイプ別、生活困難度別にみると、いずれにおいても統計的に有意な差がみられる。未接種の回答が多かったのは、ひとり親世帯と困窮層であり、特に、困窮層の未接種割合が高く、小学 5 年生の世帯では 6.2%、中学 2 年生の世帯では 7.9%となっている。

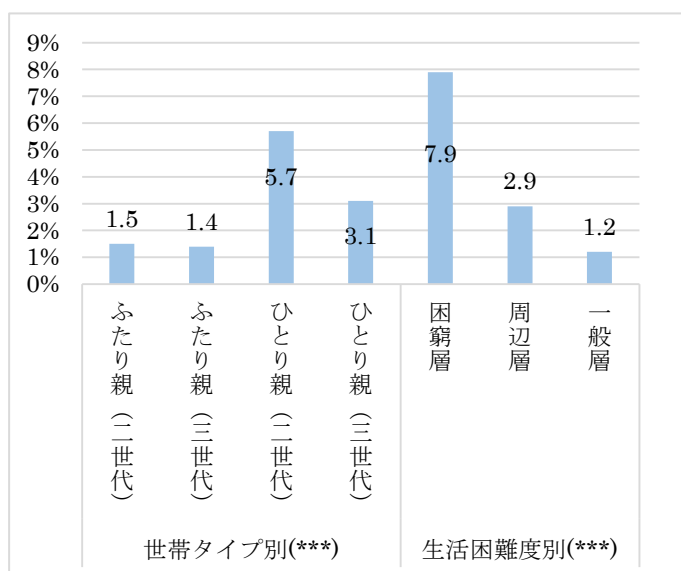
図表 8-4-1 定期予防接種の未接種率(小学 5 年生、中学 2 年生)



図表 8-4-2 定期予防接種の未接種率(小学 5 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

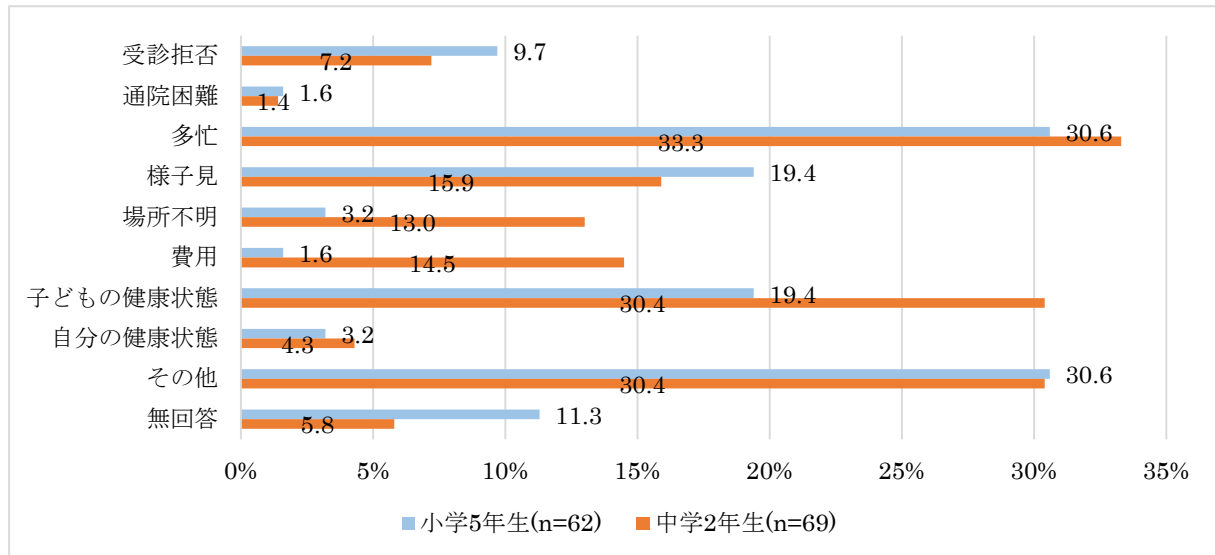


図表 8-4-3 定期予防接種の未接種率(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別



定期予防接種の未接種の理由については、一番多い回答は、「多忙で、医療機関等に連れていく時間がなかったため（多忙）」であり、次に「その他」、3番目に「受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため（子どもの健康状態）」となっている。

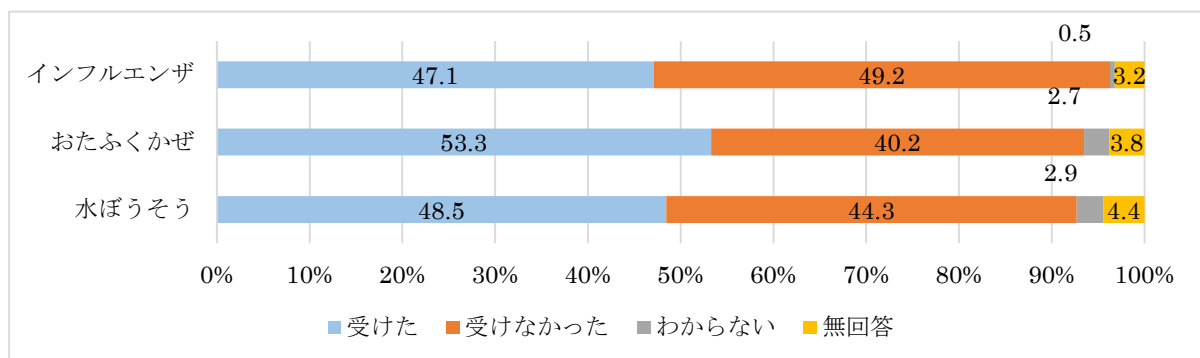
図表 8-4-4 定期予防接種の未接種理由(小学5年生、中学2年生)



## (2) 任意予防接種の接種状況

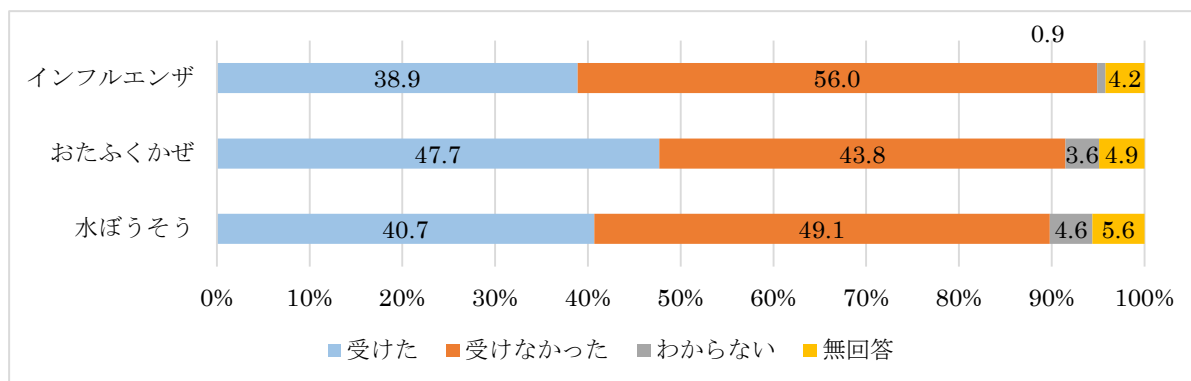
任意予防接種の接種状況については、インフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそうについて、質問項目が設けてある。全体的にみると、小学5年生の世帯、中学2年生の世帯いずれにおいても、40%~60%程度がどの種類の予防接種についても「受けなかった」と回答している。

図表 8-4-5 任意予防接種の接種状況(小学5年生)



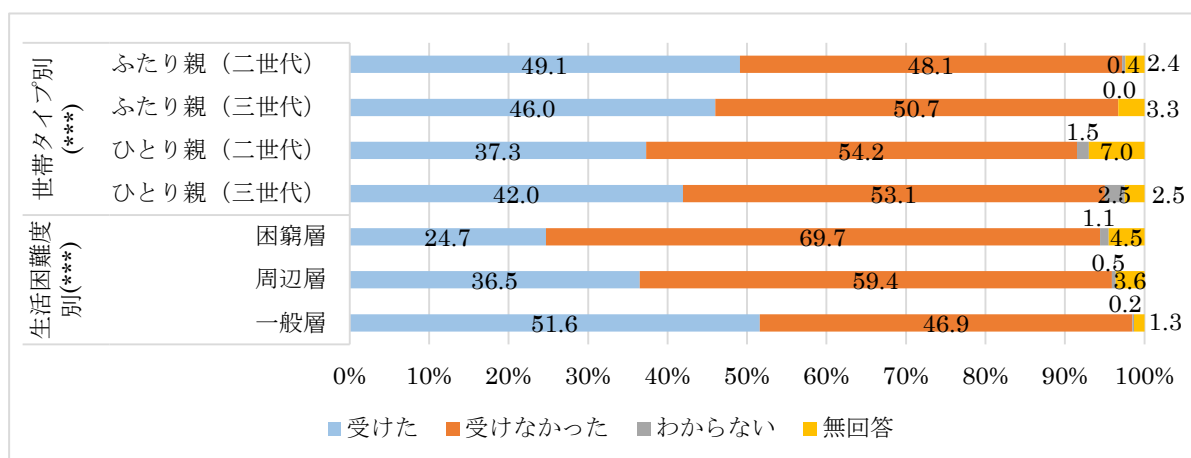


図表 8-4-6 任意予防接種の接種状況(中学 2 年生)

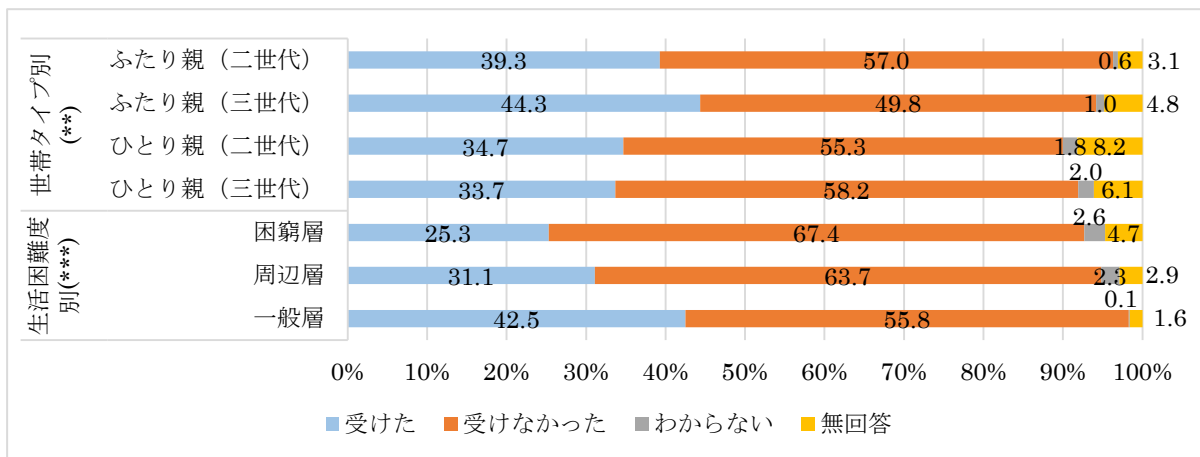


世帯タイプ別、生活困難度別に接種状況を見ると、いずれの学年においても、世帯タイプ別、生活困難度別に統計的に有意な差がみられる。インフルエンザの予防接種は、小学 5 年生では、ひとり親（二世帯）世帯で「受けなかった」と回答する割合が最も高く、54.2%となっている。生活困難度別でみると、困窮層では 69.7%が「受けなかった」と回答している。また中学 2 年生は、ひとり親（三世帯）世帯で高く 58.2%、困窮層では 67.4%が「受けなかった」としている。

図表 8-4-7 任意予防接種の接種状況(インフルエンザ(過去 1 年))(小学 5 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

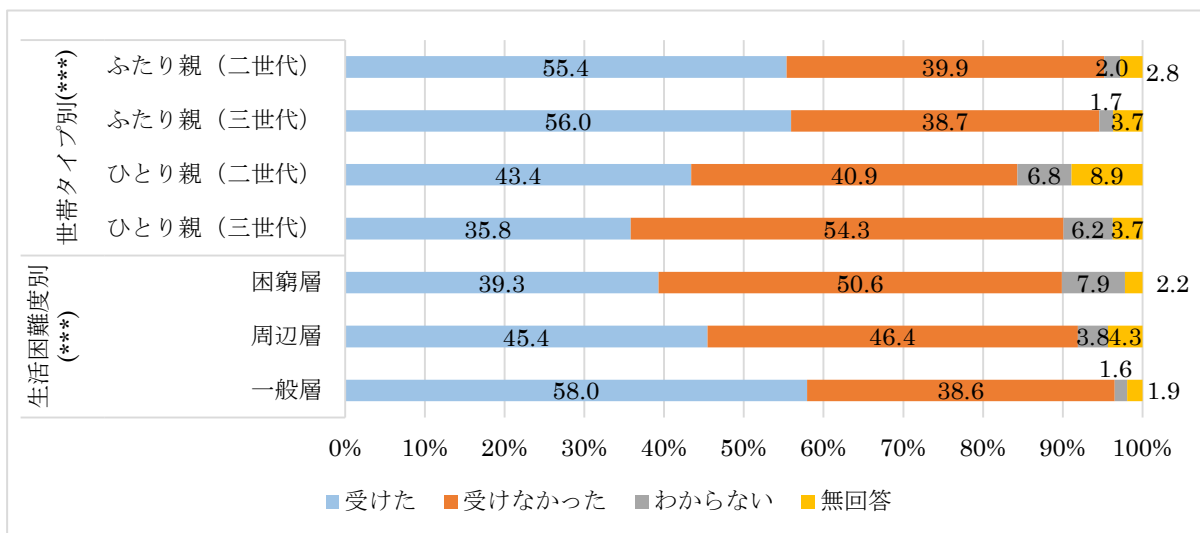


図表 8-4-8 任意予防接種の接種状況(インフルエンザ(過去1年))(中学2年生):世帯タイプ別、生活困難度別

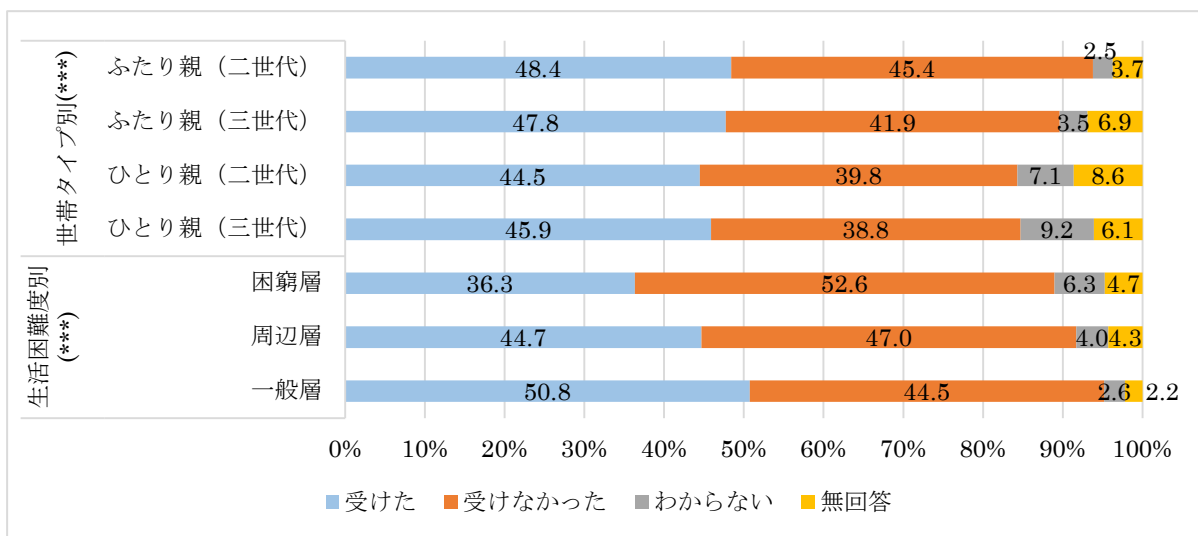


おたふくかぜについては、小学5年生では、ひとり親(二世帯、三世帯)世帯、困窮層で「受けなかった」とする割合が高い。これら世帯においては、「わからない」と回答する割合も高く、それぞれ6.8%、6.2%、7.9%となっている。中学2年生でも、同様の傾向がみられ、「わからない」と回答する割合は、ひとり親(三世帯)世帯では9.2%、困窮層では6.3%であった。

図表 8-4-9 任意予防接種の接種状況(おたふくかぜ)(小学5年生):世帯タイプ別、生活困難度別

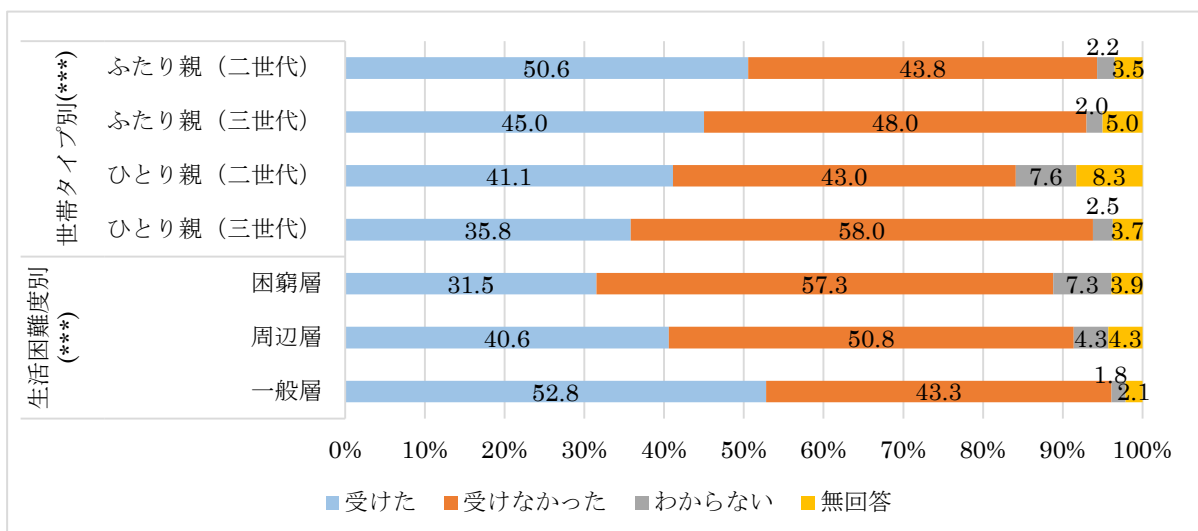


図表 8-4-10 任意予防接種の接種状況(おたふくかぜ)(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別

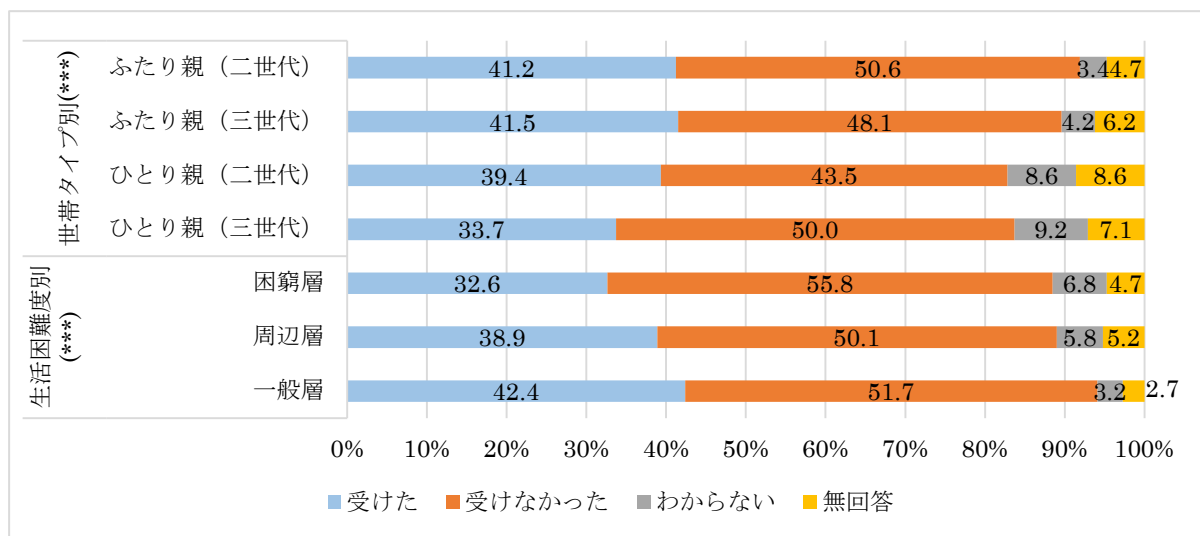


水ぼうそうでは、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても世帯タイプ別、生活困難度別にて統計的に有意な差がみられた。傾向としては、おたふくかぜと同じであり、小学 5 年生については、特に、ひとり親 (三世帯) 世帯、困窮層で「受けなかった」と回答する割合が高く、それぞれ 58.0%、57.3%であった。また、「わからない」と回答する保護者はひとり親 (二世帯) 世帯、および困窮層で高い。中学 2 年生ではふたり親 (二世帯) 世帯と困窮層で「受けなかった」と回答する割合が高く、「わからない」と回答する割合は、ひとり親 (二世帯、三世帯) 世帯にて高く、それぞれ 8.6%、9.2%である。

図表 8-4-11 任意予防接種の接種状況(水ぼうそう)(小学 5 年生):世帯タイプ別、生活困難度別



図表 8-4-12 任意予防接種の接種状況(水ぼうそう)(中学 2 年生):世帯タイプ別、生活困難度別



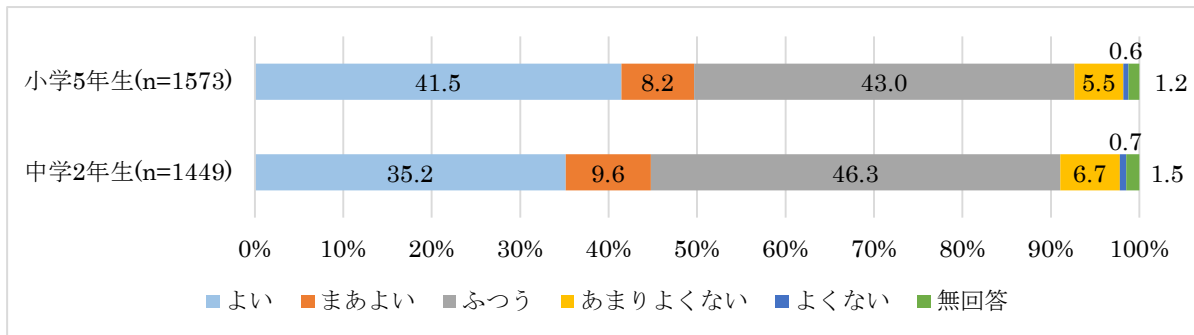
# 第9章 保護者の状況

## 1. 保護者の健康状態

### (1) 母親

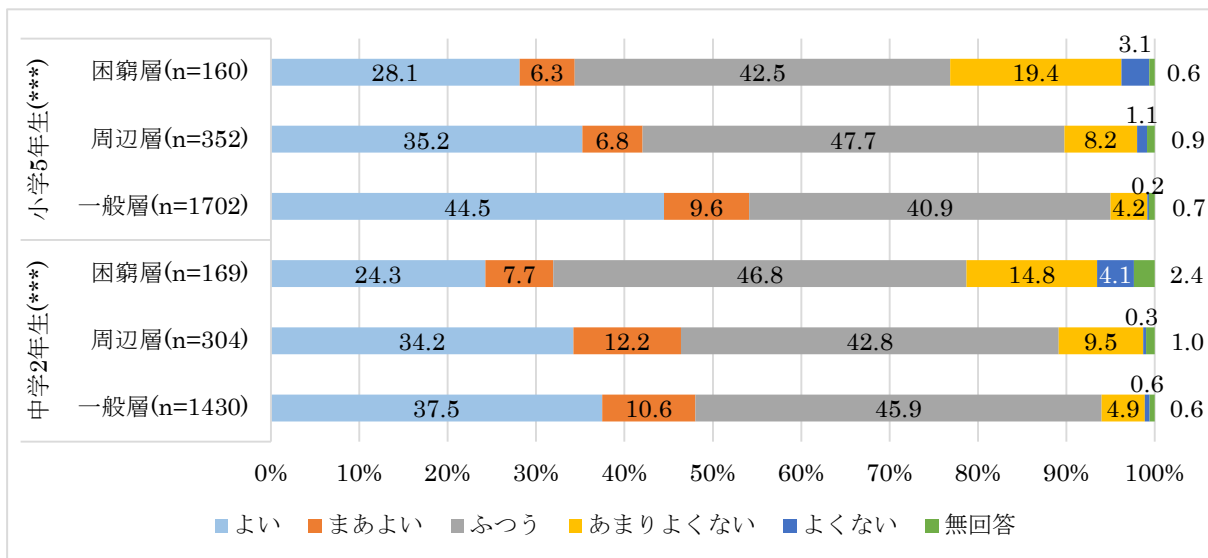
ここでは、保護者（回答者）の健康状態を、保護者票の「あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします」の問いの「あなたの健康状態」の回答を母親、父親それぞれについて集計した。自分の健康状態について「よい」と回答した母親が約30~40%となっており、「まあよい」、「ふつう」を合わせると、90%以上となるものの、「あまりよくない」、「よくない」とする母親が小学5年生では6.1%、中学2年生では7.4%存在する。

図表 9-1-1 母親の健康状態(小学5年生、中学2年生)



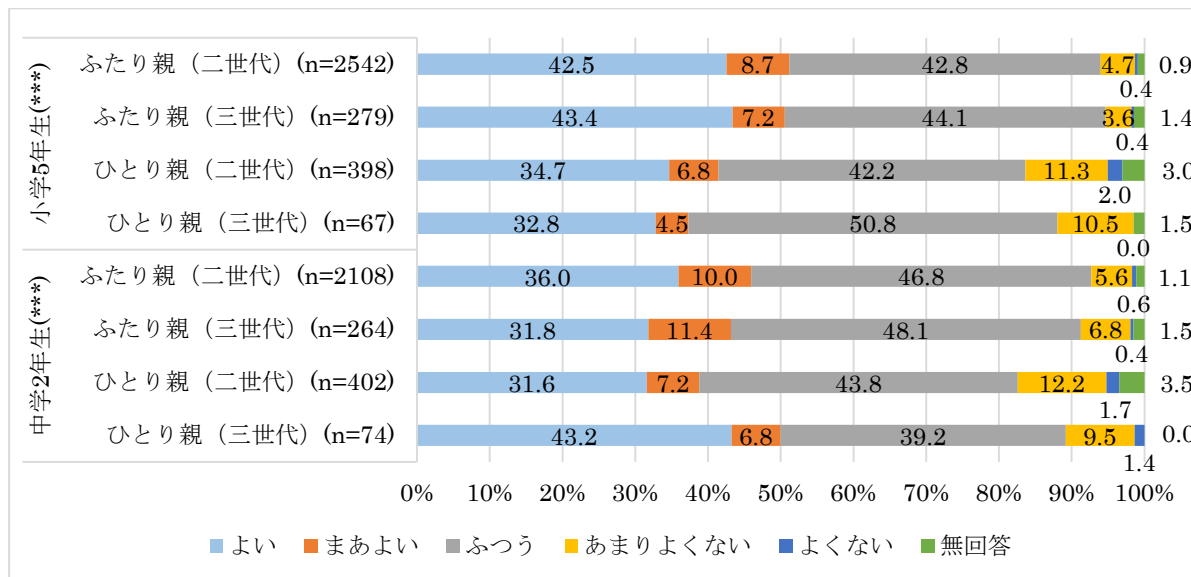
母親の健康状態を生活困難度別にみると、小学5年生、中学2年生いずれも統計的に有意な違いがみられた。生活困難度が高いほど母親の健康状態が悪い傾向がみられ、小学5年生の困窮層の22.5%、中学2年生の困窮層の18.9%の母親が「あまりよくない」、「よくない」と回答している。

図表 9-1-2 母親の健康状態(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



母親の健康状態を世帯タイプ別にみても両学年にて有意な差がみられた。自身の健康状態が「あまりよくない」、「よくない」と回答した母親はひとり親世帯で多く、小学5年生のひとり親（二世帯）世帯では13.3%、ひとり親（三世帯）世帯では10.5%である。中学2年生のひとり親（二世帯）世帯では13.9%、ひとり親（三世帯）世帯では10.9%であった。

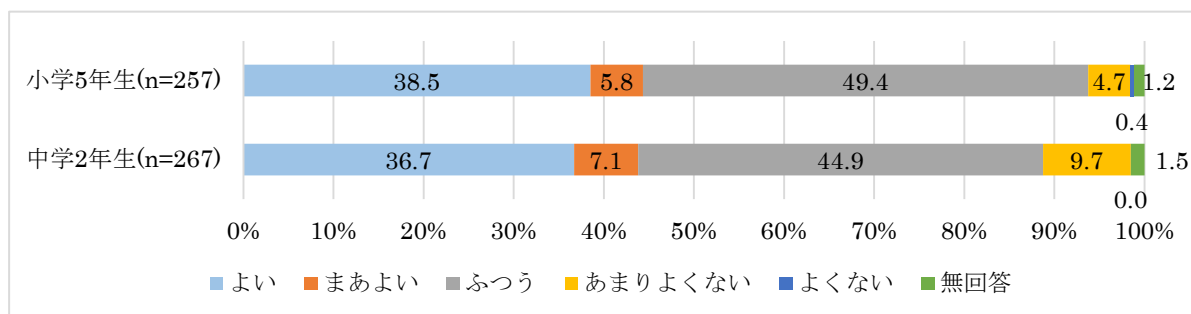
図表 9-1-3 母親の健康状態(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別



## (2) 父親

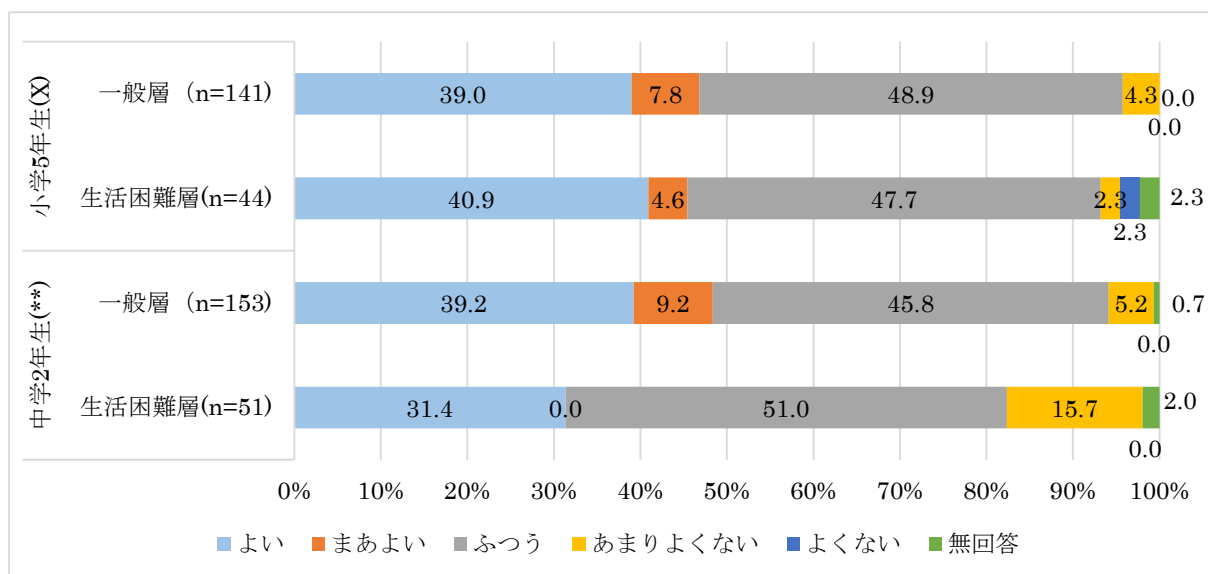
自分の健康状態について「よい」と回答した父親は小学5年生でも中学2年生でも約40%となっており、「まあよい」、「ふつう」を合わせると小学5年生では93.7%、中学2年生では88.7%となった。しかし、自分の健康状態は「あまりよくない」、「よくない」とする父親が小学5年生では5.1%、中学2年生では9.7%存在する。

図表 9-1-4 父親の健康状態(小学5年生、中学2年生)



父親の健康状態を生活困難度別にみると中学2年生のみ有意な差がみられ、自分の健康状態は「よい」と答えた父親は一般層で39.2%であるのに対し、生活困難層では31.4%にとどまる。中学2年生の生活困難層の父親の15.7%は「あまりよくない」、「よくない」と答えている。

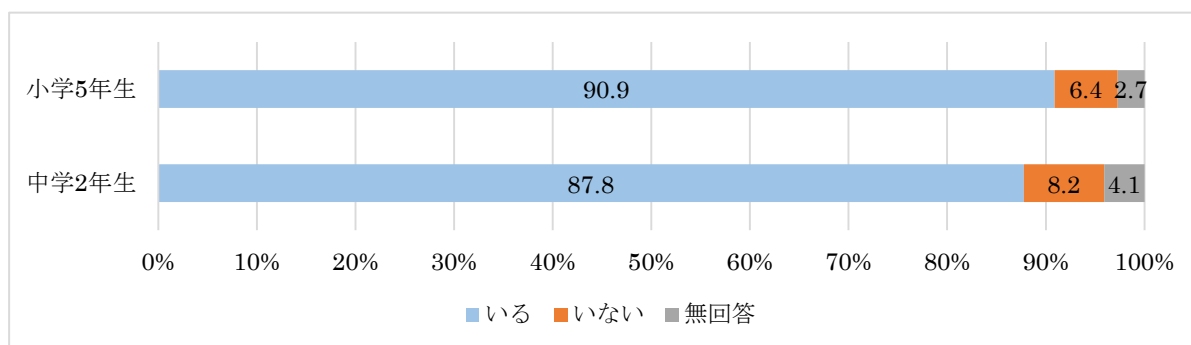
図表 9-1-5 父親の健康状態(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



## 2. 相談相手

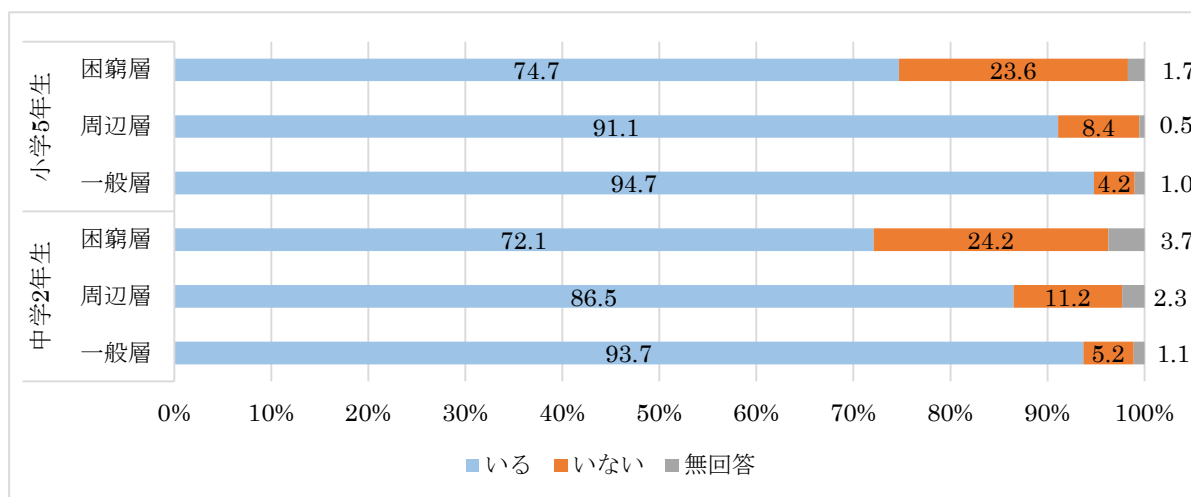
保護者票では「あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか」の問いを設けており、この回答から保護者の孤立の状況をみていく。相談相手が「いる」と回答した保護者は、小学5年生では90.9%、中学2年生では87.8%であった。反対に相談相手が「いない」と答えた保護者の割合は、小学5年生では6.4%、中学2年生では8.2%である。

図表 9-2-1 保護者の相談相手の有無(小学5年生、中学2年生)



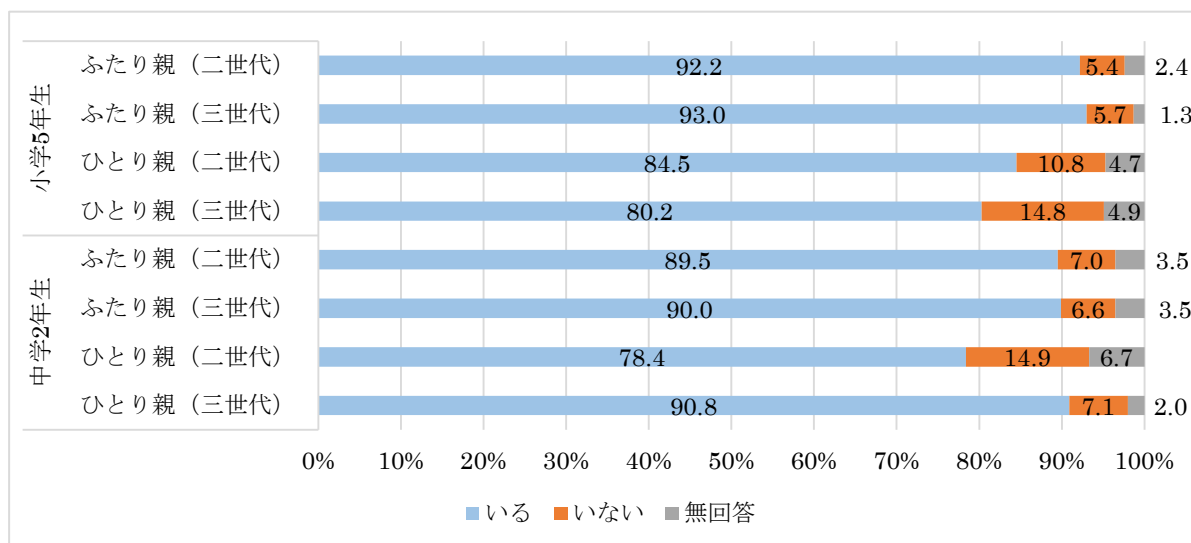
相談相手の有無を生活困難度別にみると、両学年とも有意な差が確認された。困窮層、周辺層、一般層の順に相談相手のいない割合が高くなっており、困窮層で相談相手がない割合は、小学5年生の世帯において23.6%、中学2年生の世帯において24.2%であり、およそ4人に1人の保護者に困りごとの相談相手がないことがわかる。困窮層は、単に生活が困窮しているだけでなく、困った時の相談相手がないなど孤立の傾向があることがうかがえる。

図表 9-2-2 保護者の相談相手の有無(小学5年生、中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



世帯タイプ別においても、両学年において有意な差が確認された。どちらの学年でも、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が、相談相手のいない割合が高い。ひとり親世帯同士で比較すると、小学5年生においては、三世帯のひとり親世帯の方が相談相手のいない割合が高く、中学2年生においては二世帯のひとり親世帯の方が相談相手のいない割合が高い。特に、中学2年生における三世帯のひとり親世帯の相談相手のいない割合は、7.1%と中学2年生のふたり親世帯と同程度であるが、二世帯のひとり親世帯のその割合は、14.9%とおおよそ2倍である。

図表 9-2-3 保護者の相談相手の有無(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)





### 3. 子どもと一緒にすること

家庭にて保護者と子どもがどのように過ごしているかを把握するため、勉強（「勉強をみる」）、遊び（「体を動かして遊ぶ」、「コンピュータゲームで遊ぶ」、「カードゲームなどで遊ぶ」）、会話（「学校生活の話をする」、「ニュースの話をする」、「テレビ番組（ニュースを除く）の話をする」）、料理（「一緒に料理をする」）、外出（「一緒に外出をする」）について、その行為を行う頻度を保護者に聞いた。個々の項目についてみていくと、まず勉強については、小学5年生においては「ほぼ毎日」と回答した保護者が24.2%、「週に3~4回」が21.4%、「週に1~2回」が28.5%であり、週1回以上子どもの勉強をみる保護者が74.1%であった。一方で、「めったにない」と答えた割合は11.6%である。中学2年生においては、勉強を週に1~2回以上みる保護者の割合は25.1%（「ほぼ毎日」4.7%、「週に3~4回」5.5%、「週に1~2回」14.9%）となるのに対し、「めったにない」は48.1%となり、子どもの勉強に親が直接かかわる頻度が少なくなる傾向がある。

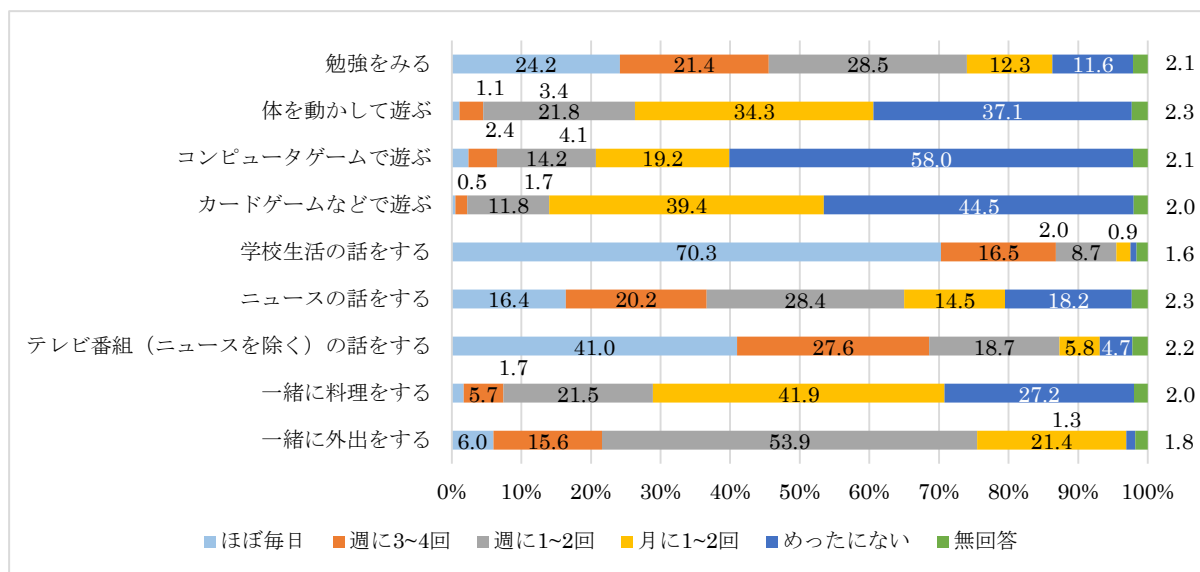
遊びについて「めったにない」と答えた保護者の割合は、小学5年生の場合、「体を動かして遊ぶ」では37.1%、「コンピュータゲームで遊ぶ」では58.0%、「カードゲームなどで遊ぶ」では44.5%であるのに対し、中学2年生の場合ほどの遊びについても70%以上の保護者が「めったにない」と答えている。保護者が子どもと一緒に遊ぶ頻度は勉強をみる頻度よりも低く、さらに中学2年生の保護者の多数が子どもと一緒に遊ぶことがほとんどない。

会話については、両学年とも「学校生活」、「テレビ番組（ニュースを除く）」、「ニュース」の順に頻度が高い。特に学校生活については、小学5年生保護者の95.5%（「ほぼ毎日」70.3%、「週に3~4回」16.5%、「週に1~2回」8.7%）、中学2年生保護者の92.2%（「ほぼ毎日」59.5%、「週に3~4回」18.9%、「週に1~2回」13.8%）が週に1~2回以上、子どもと会話をしている。両学年とも子どもと保護者は、勉強や遊び以上に高い頻度で会話をしており、その頻度の学年間の差も、他の項目よりも小さい。

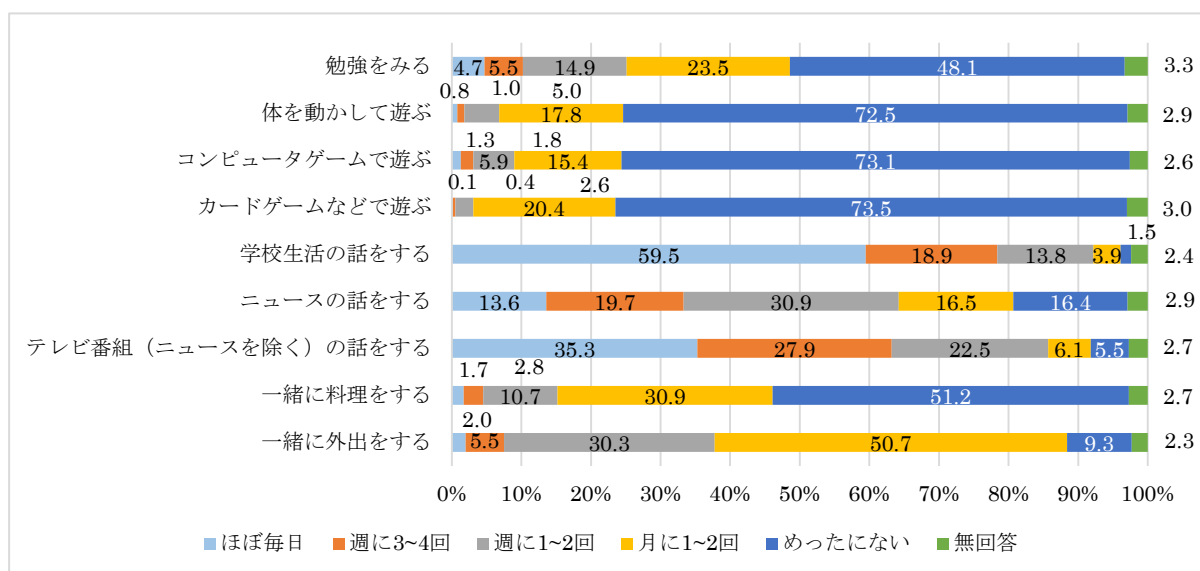
料理については、「めったにない」と回答した割合が小学5年生の保護者においては27.2%、中学2年生の保護者においては51.2%となっている。

外出について「めったにない」と回答した割合は、小学5年生の保護者では1.3%、中学2年生の保護者では9.3%であった。最も割合が高い回答は、小学5年生では「週に1~2回」53.9%であり、中学2年生では「月に1~2回」50.7%である。

図表 9-3-1 子どもと一緒にすること(小学 5 年生)

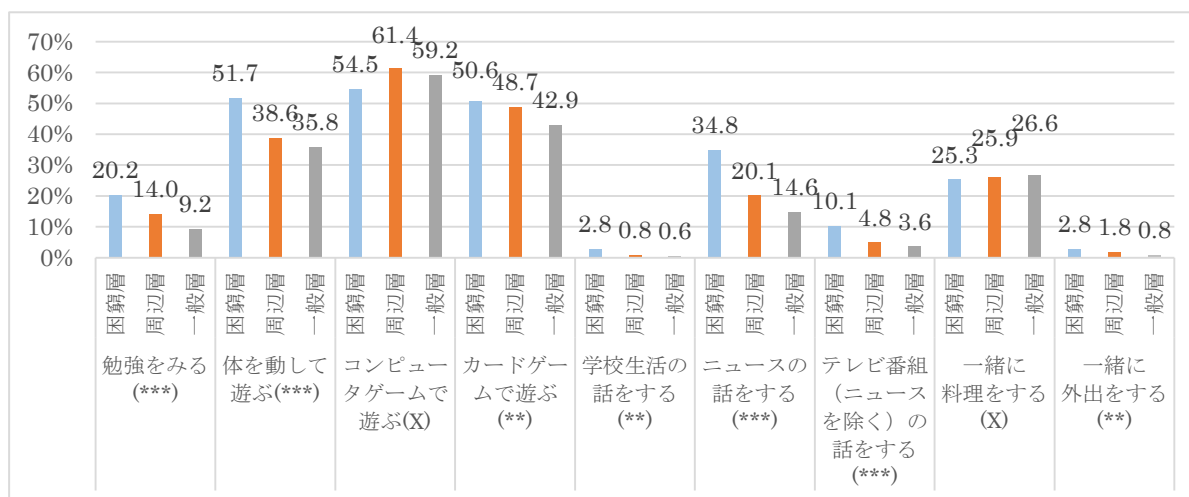


図表 9-3-2 子どもと一緒にすること(中学 2 年生)



各項目の「めったにない」と回答した割合を生活困難度別にみたところ、いくつかの項目で有意な差が確認された。小学5年生の世帯については、「勉強をみる」、「体を動かして遊ぶ」、「カードゲームなどで遊ぶ」、「学校生活の話をする」、「ニュースの話をする」、「テレビ番組（ニュースを除く）の話をする」、「一緒に外出をする」において、生活困難度が高いほど「めったにない」との割合が高くなっている。

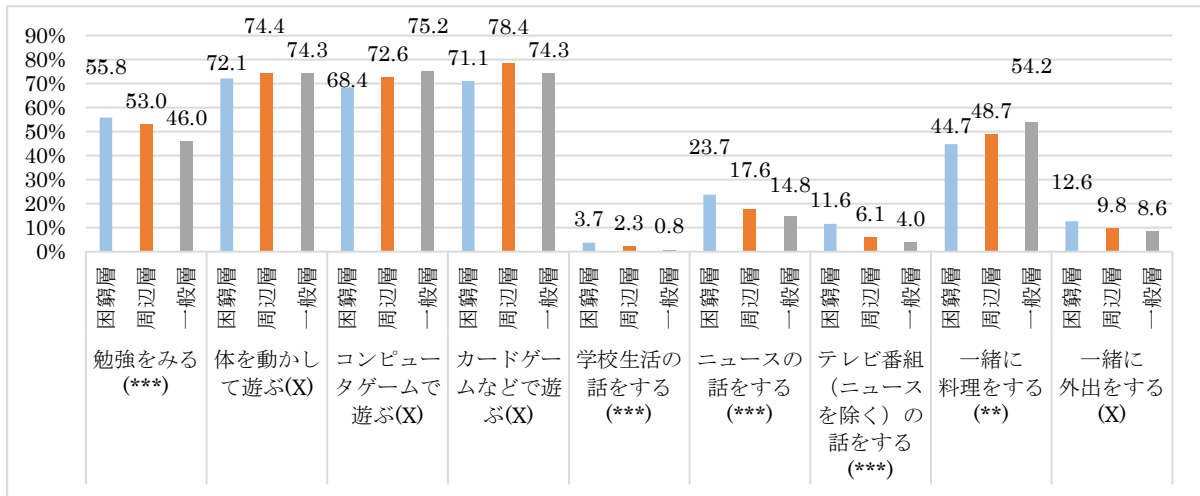
図表 9-3-3 子どもと一緒にすることが「めったにない」割合(小学5年生):生活困難度別



\* 「学校生活の話をする」及び「一緒に外出をする」は期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

中学2年生の世帯においては、「勉強をみる」、「学校生活の話をする」、「ニュースの話をする」、「テレビ番組（ニュースを除く）の話をする」において、生活が困窮するほど「めったにない」と回答した割合が高くなっている。また、「一緒に料理をする」においては反対に生活が困窮するほど「めったにない」の割合が低くなっている。中学2年生の保護者は全体的に子どもと一緒に遊ばない傾向があるので、生活困難度別にみても有意な差が確認されなかったと思われる。どちらの学年においても、生活が困窮している層ほど保護者と子どもと一緒に活動することが少なくなる傾向にある。

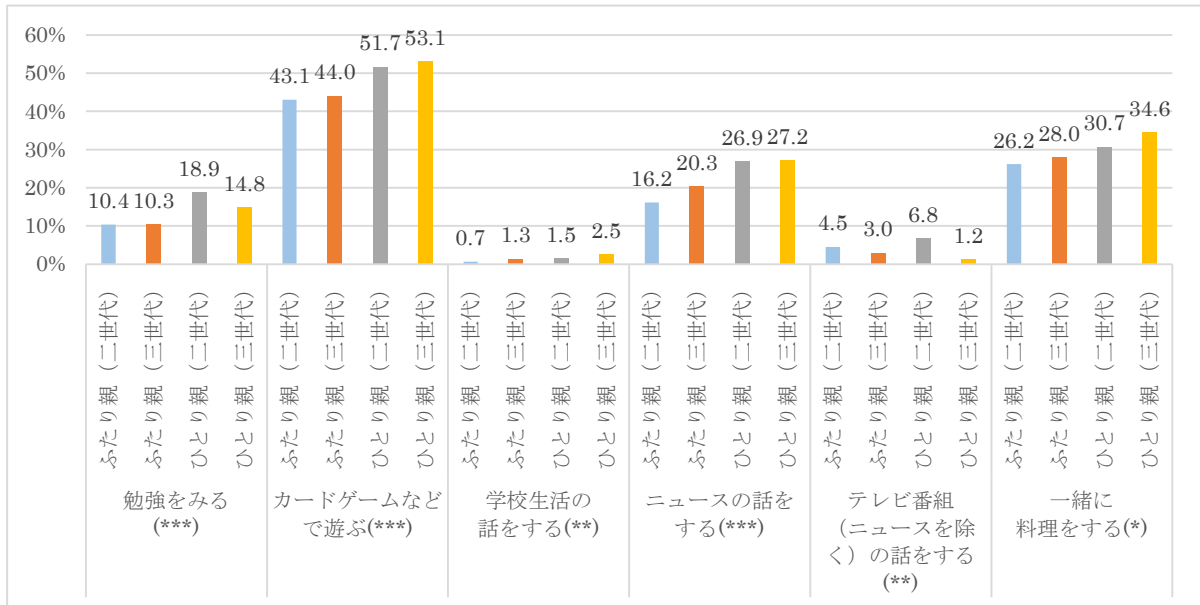
図表 9-3-4 子どもと一緒にすることが「めったにない」割合(中学2年生):生活困難度別



\* 「学校生活の話をする」は期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

世帯タイプ別にみると、小学5年生については、「カードゲームなどで遊ぶ」、「学校生活の話をする」、「ニュースの話をする」、「一緒に料理をする」において、ひとり親（三世代）世帯、ひとり親（二世帯）世帯、ふたり親（三世代）世帯、ふたり親（二世帯）世帯の順に、「めったにない」と回答した割合が高い。「勉強をみる」についても、ひとり親世帯の方が、割合が高い傾向にある。「テレビ番組（ニュースを除く）の話をする」は、ひとり親（二世帯）世帯が高くなっている。

図表 9-3-5 子どもと一緒にすることが「めったにない」割合(小学5年生):世帯タイプ別

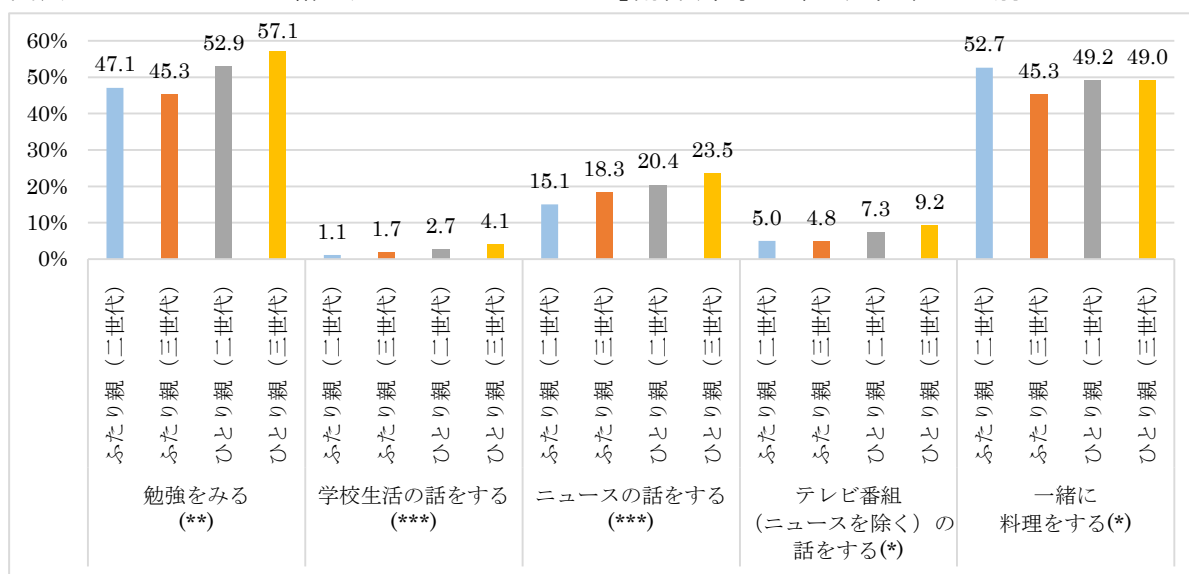


\*作表の都合上、有意な結果のみ示している。

\* 「学校生活の話をする」は期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

中学2年生については、「学校生活の話をする」、「ニュースの話をする」において、ひとり親(三世代)世帯、ひとり親(二世代)世帯、ふたり親(三世代)世帯、ふたり親(二世代)世帯の順に、「めったにない」と回答した割合が高い。また、「勉強をみる」、「テレビ番組(ニュースを除く)の話をする」においても、ひとり親世帯の方が「めったにない」と回答した割合が高い。「一緒に料理をする」については、小学5年生同様、一貫した傾向を読み取れない。両学年とも総じて、ひとり親世帯、特に三世代のひとり親世帯において、保護者と子どもと一緒に活動することが少ない傾向にある。

図表 9-3-6 子どもと一緒にすることが「めったにない」割合(中学2年生):世帯タイプ別



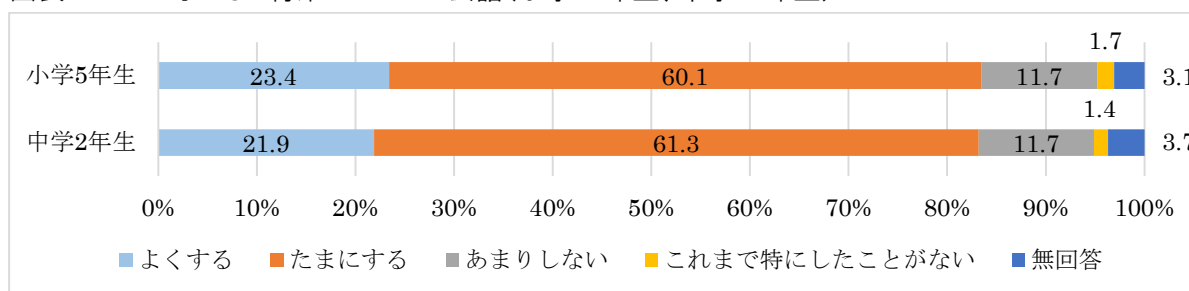
\*作表の都合上、有意な結果のみ示している。

\*「学校生活の話をする」は期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

#### 4. 子どもの将来についての会話

保護者が子どもと将来についての会話をしている頻度を聞いたところ、小学5年生の世帯では、「よくする」23.4%、「たまにする」60.1%、「あまりしない」11.7%、「これまで特にしたことがない」1.7%であった。中学2年生の世帯では、それぞれ21.9%、61.3%、11.7%、1.4%であった。両学年とも、80%以上の保護者が子どもと将来の話を「よくする」、「たまにする」と回答している。

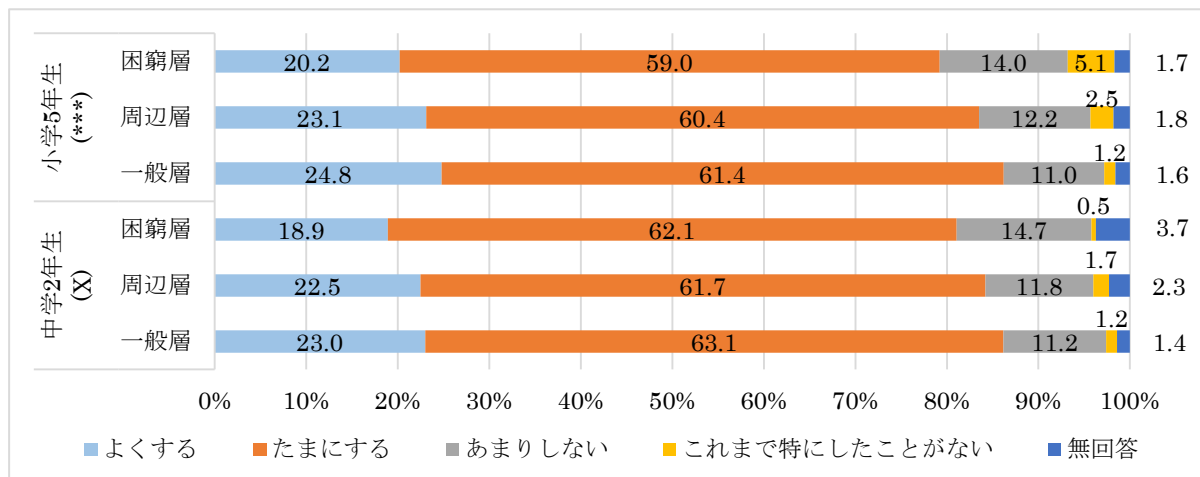
図表 9-4-1 子どもの将来についての会話(小学5年生、中学2年生)



生活困難度別にみると、小学5年生の世帯においてのみ有意な差が確認された（図表9-4-2）。具体的には、「よくする」と「たまにする」の割合が、生活困難度が高いほど低く、「あまりしない」、「これまで特にしたことがない」の割合が高い傾向にある。生活が困窮する世帯の保護者ほど、子どもと将来について話す頻度が低い傾向がある。

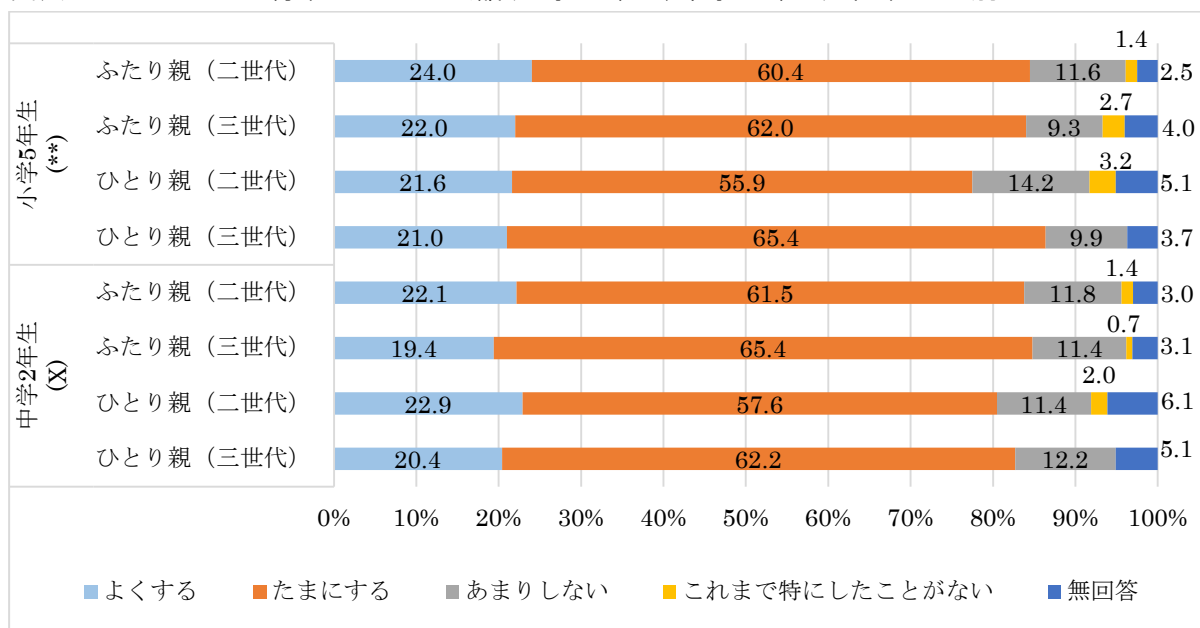
一方、中学2年生の世帯においては統計的に有意な差は検証されなかった。

図表9-4-2 子どもの将来についての会話(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



世帯タイプ別にみても、小学5年生の世帯においてのみ有意な違いが確認された。ただし、分布をより具体的にみても、一貫した傾向は読み取れない。保護者が子どもと将来について会話する頻度は、世帯タイプよりも生活困難度との関わりがより深いと考えられる。

図表9-4-3 子どもの将来についての会話(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別



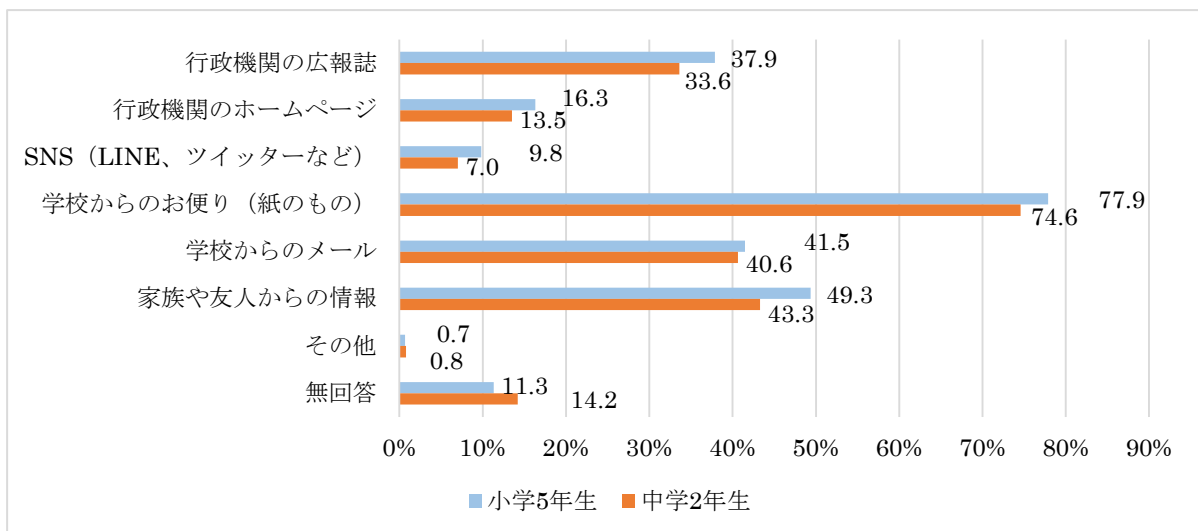
# 第10章 制度・サービスの利用

## 1. 情報の入手

### (1) 現在の情報の入手方法

保護者が子どもに関する施策等の情報をどのような方法で受け取っているかを図表10-1-1に示した。これをみると、「学校からのお便り（紙のもの）」から情報を入手している保護者の割合が77.9%（小学5年生）、74.6%（中学2年生）と突出して高い。続いて、「家族や友人からの情報」（小学5年生49.3%、中学2年生43.3%）、「学校からのメール」（小学5年生41.5%、中学2年生40.6%）、「行政機関の広報誌」（小学5年生37.9%、中学2年生33.6%）が比較的多く利用されている。さらに、「行政機関のホームページ」（小学5年生16.3%、中学2年生13.5%）、「SNS（LINE、ツイッターなど）」（小学5年生9.8%、中学2年生7.0%）など、インターネット経由で情報を入手している保護者も一定割合いる。

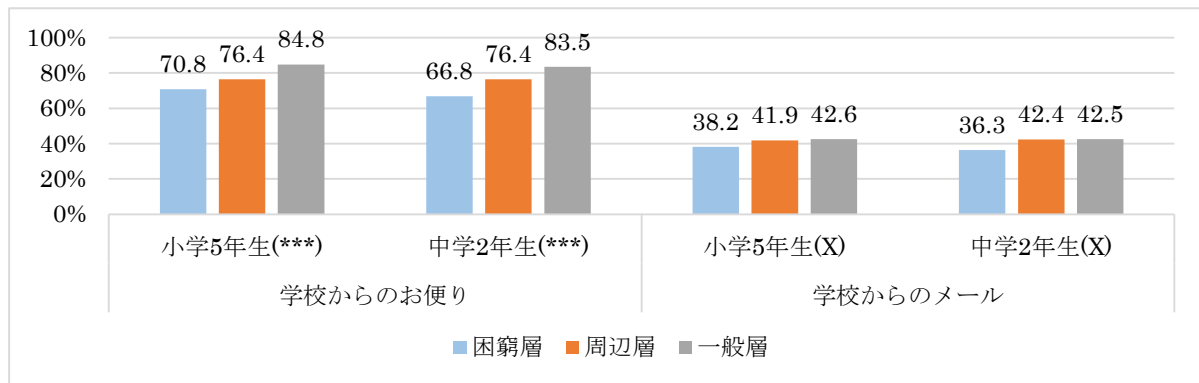
図表 10-1-1 子どもに関する施策等の情報の入手方法(小学5年生、中学2年生)



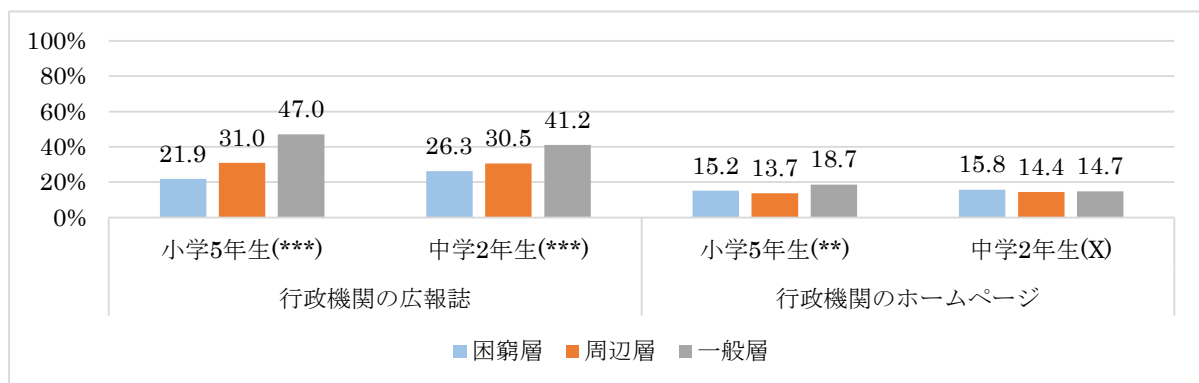
生活困難度別にみると、学校による情報発信においては、「学校からのお便り（紙のもの）」は両学年とも有意な差が確認されたのに対し、「学校からのメール」には有意な差は確認されなかった。生活が困窮するほど、「学校からのお便り（紙のもの）」を通じて情報を入手する保護者が少ない傾向がある。行政機関による情報発信においては、「行政機関の広報誌」は両学年とも有意な差が確認されたのに対し、「行政機関のホームページ」は小学5年生においてのみ有意な差が確認された。ただし、「行政機関の広報誌」については、生活が困窮するほど情報入手の方法として用いる保護者の割合が低いものの、「行政機関のホームページ」では、最も割合が高いのは一般層ながら、困窮層よりも周辺層の方が割合が低い。保護者の私的なネットワークについては、「家族や

友人からの情報」では両学年とも有意な差が確認されたが、「SNS」<sup>1</sup>ではどちらの学年でも有意な差は確認されなかった。生活が困窮している保護者ほど家族や友人から情報を得ていない傾向がある。

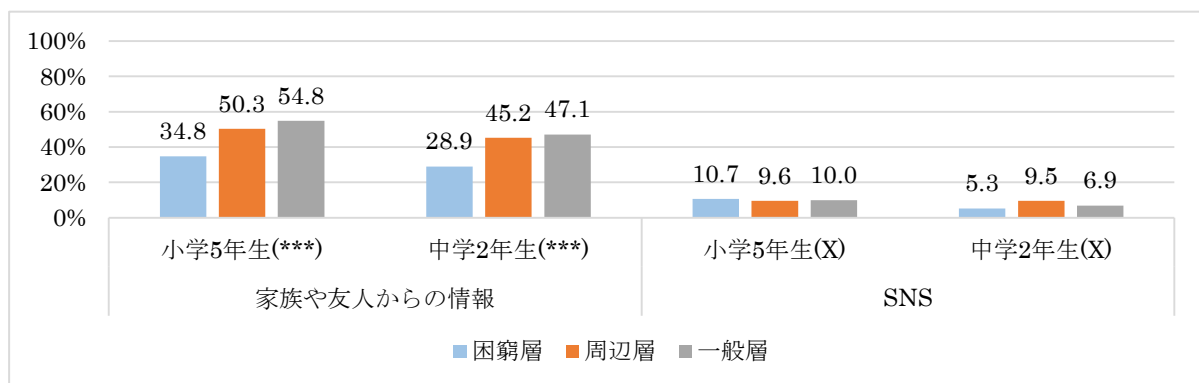
図表 10-1-2 学校の情報発信を通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



図表 10-1-3 行政機関の情報発信を通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



図表 10-1-4 私的なネットワークを通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生):生活困難度別

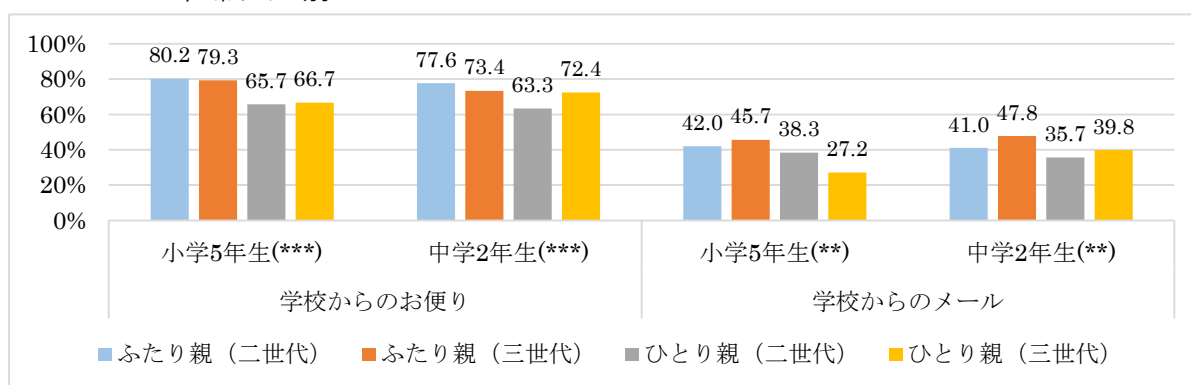


<sup>1</sup> ここでは「SNS (LINE、ツイッターなど)」を保護者の私的なネットワークの1つと解釈しているが、行政機関が運営する公式アカウント (松戸市公式ツイッターなど) と解釈されている可能性もある。

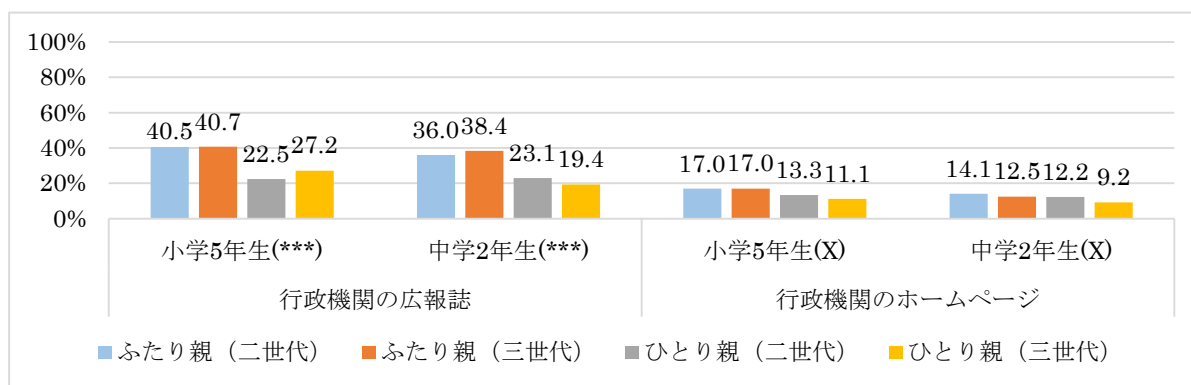


世帯タイプ別にみると、学校による情報発信においては、「学校からのお便り（紙のもの）」も「学校からのメール」も両学年について有意な差が確認された。ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、学校からの情報発信を通じて情報を入手していない傾向にある。また、行政機関による情報発信においては、「行政機関の広報誌」のみ両学年において世帯タイプによる有意な差が確認された。学校による情報発信同様、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、行政機関の広報誌を通じて情報を入手していない傾向にある。さらに、保護者の私的なネットワークでは「家族や友人からの情報」は両学年とも有意な差が確認されたが、「SNS」では小学5年生においてのみ有意な差が確認された。ここでも、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、家族や友人から子どもに関する施策等の情報を得ていない傾向にある。なお、小学5年生のふたり親世帯（三世帯）において、SNS から情報を得ている保護者の割合が高い。

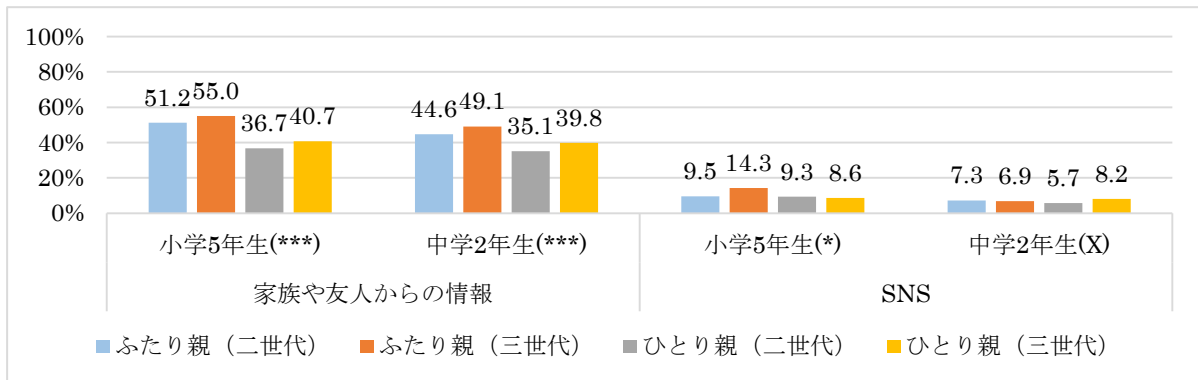
図表 10-1-5 学校の情報発信を通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生): 世帯タイプ別



図表 10-1-6 行政機関の情報発信を通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生): 世帯タイプ別



図表 10-1-7 私的なネットワークを通じて情報を入手している保護者の割合(小学5年生、中学2年生):  
世帯タイプ別

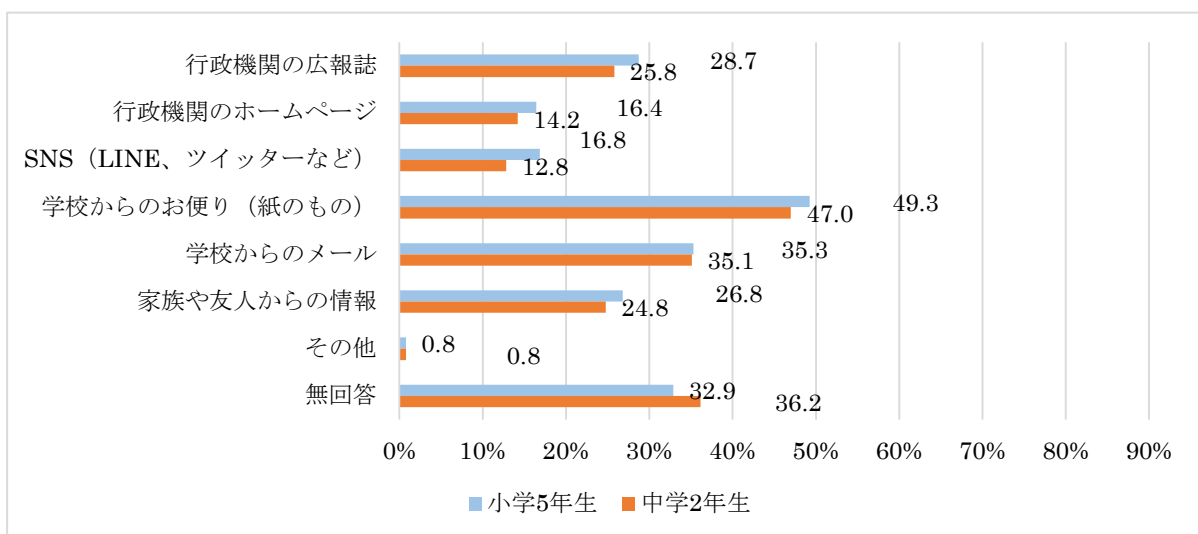


## (2) 情報の入手方法の希望

保護者が、今後、子どもに関する施策等の情報を、どのような方法で受け取りたいと考えているかを図表 10-1-8 に示した。具体的にみると、「学校からのお便り（紙のもの）」を希望する保護者の割合が小学5年生では49.3%、中学2年生では47.0%と最も高い。続いて、「学校からのメール」（小学5年生35.3%、中学2年生35.1%）、「行政機関の広報誌」（小学5年生28.7%、中学2年生25.8%）、「家族や友人からの情報」（小学5年生26.8%、中学2年生24.8%）が希望されている。さらに「行政機関のホームページ」（小学5年生16.4%、中学2年生14.2%）、「SNS（LINE、ツイッターなど）」（小学5年生16.8%、中学2年生12.8%）などインターネット経由での情報入手を希望している保護者も一定割合いる。また、どの方法も選択しなかった保護者（「無回答」）が、小学5年生においては32.9%、中学2年生においては36.2%いる。

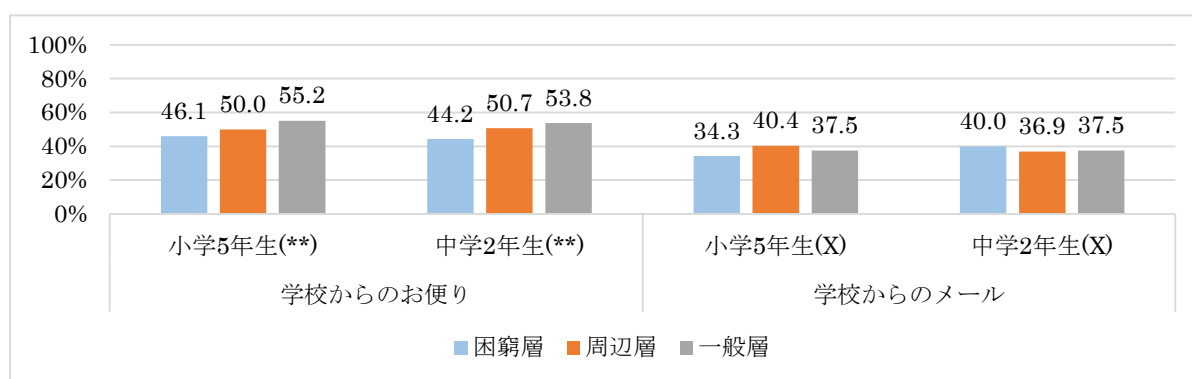
なお、多くの入手方法では、実際に利用している保護者の割合の方が、今後の利用を希望する保護者の割合よりも高いが、「行政機関のホームページ」と「SNS」は、わずかながら後者の割合の方が高い。

図表 10-1-8 子どもに関する施策等の情報の入手方法の希望(小学5年生、中学2年生)

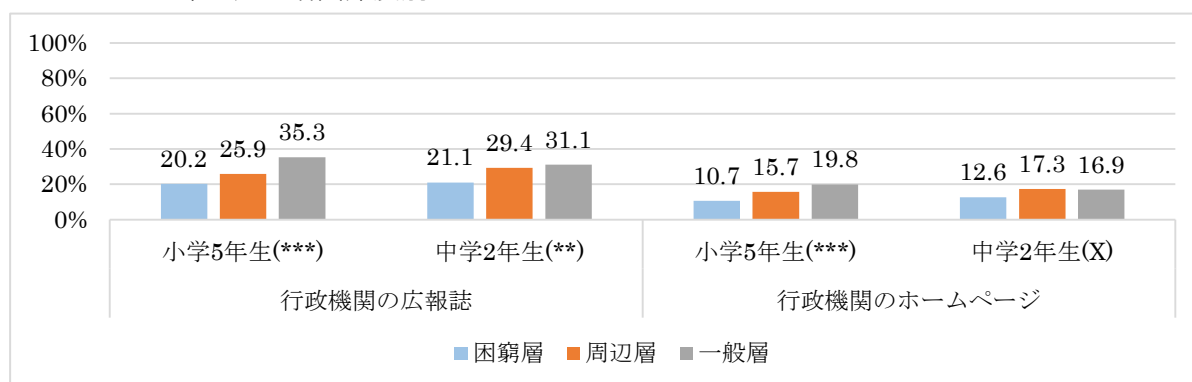


生活困難度別にみると、学校からの情報については、「学校からのお便り（紙のもの）」は両学年とも有意な差が確認されたのに対し、「学校からのメール」には有意な差は確認されなかった。生活が困窮するほど、「学校からのお便り」から情報を得ていない傾向があるだけでなく、そこから情報を得る希望も少ない傾向がある。行政機関からの情報については、「行政機関の広報誌」は両学年とも有意な差が確認されたのに対し、「行政機関のホームページ」は小学5年生においてのみ有意な差が確認された。生活が困窮するほど、これらの方法を通じた情報の入手を希望する割合が低い。保護者の私的なネットワークでは「家族や友人からの情報」は両学年とも有意な差が確認されたが、「SNS」<sup>2</sup>ではどちらの学年でも有意な差は確認されなかった。ここでも、生活が困窮している保護者は家族や友人から情報を得ることを希望する割合が低い傾向にある。

図表 10-1-9 学校の情報発信を通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学5年生、中学2年生):生活困難度別

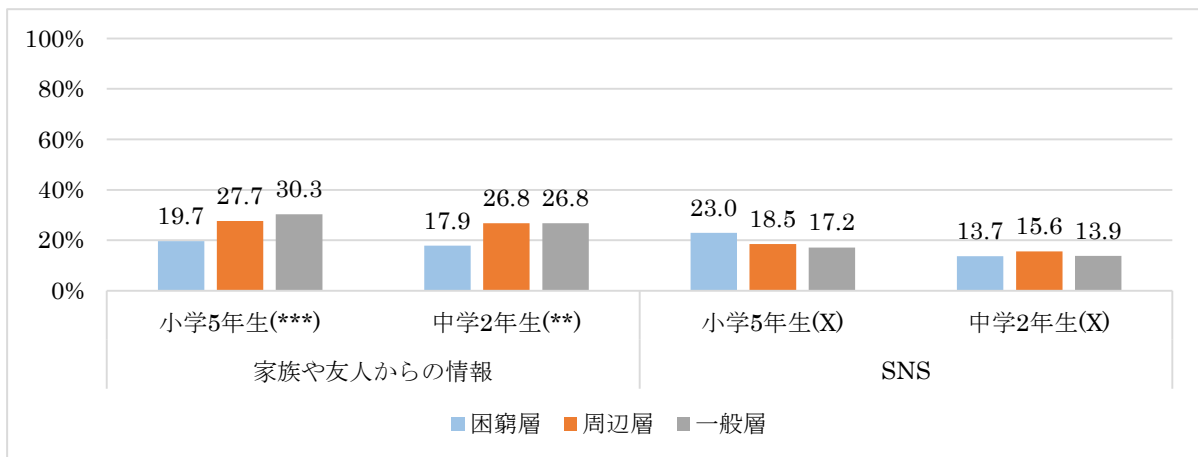


図表 10-1-10 行政機関の情報発信を通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



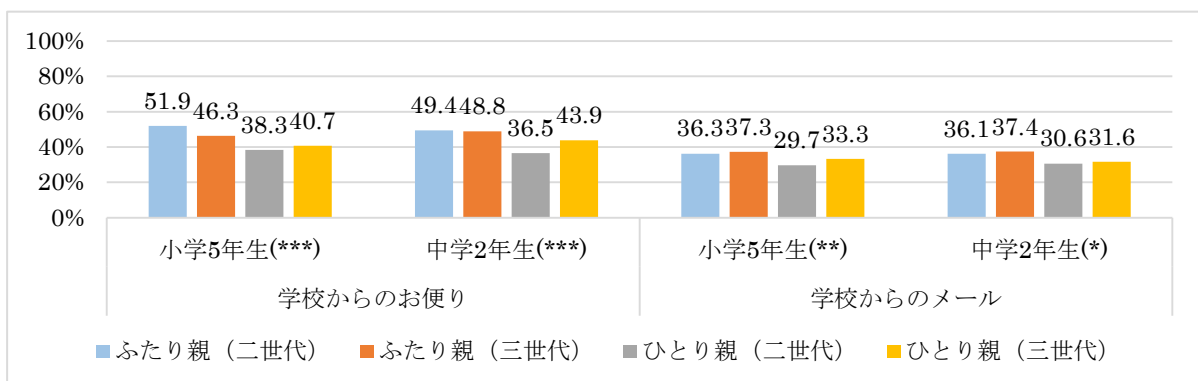
<sup>2</sup> ここでは「SNS (LINE、ツイッターなど)」を保護者の私的なネットワークの1つと解釈しているが、行政機関が運営する公式アカウント (松戸市公式ツイッターなど) と解釈されている可能性もある。

図表 10-1-11 私的なネットワーク通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学 5 年生、中学 2 年生):生活困難度別

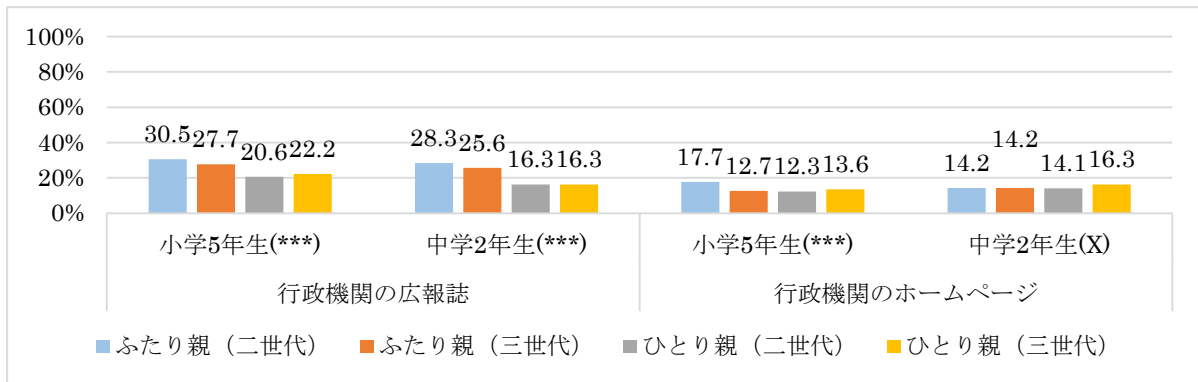


世帯タイプ別にみると、学校による情報発信を通じた情報入手を希望する保護者の割合は、「学校からのお便り（紙のもの）」も「学校からのメール」も両学年について有意な差が確認された。ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、学校からの情報入手を希望していない傾向にある。また、行政機関からの情報については、「行政機関の広報誌」については両学年において、「行政機関のホームページ」については小学 5 年生において、世帯タイプによる有意な差が確認された。学校からの情報同様、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、「行政機関の広報誌」を通じた情報入手を希望していない傾向にある。「行政機関のホームページ」については、小学 5 年生の「ひとり親（二世帯）世帯」の保護者において希望している割合が、その他の世帯タイプより低い。さらに、保護者の私的なネットワークでは「家族や友人からの情報」は両学年とも有意な差が確認されたが、「SNS」では確認されなかった。ここでも、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも、家族や友人から子どもに関する施策等の情報を得ることを希望していない傾向にある。

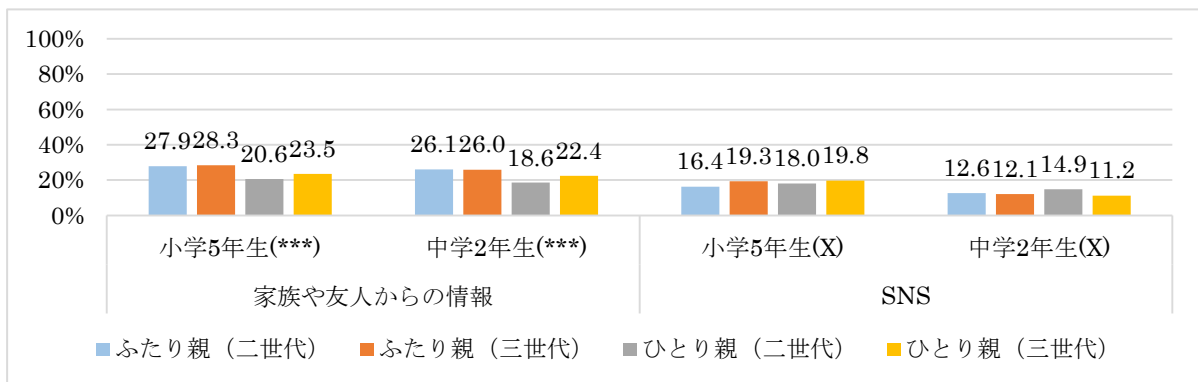
図表 10-1-12 学校の情報発信を通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学 5 年生、中学 2 年生):世帯タイプ別



図表 10-1-13 行政機関の情報発信を通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別



図表 10-1-14 私的なネットワークを通じた情報入手を希望する保護者の割合(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別

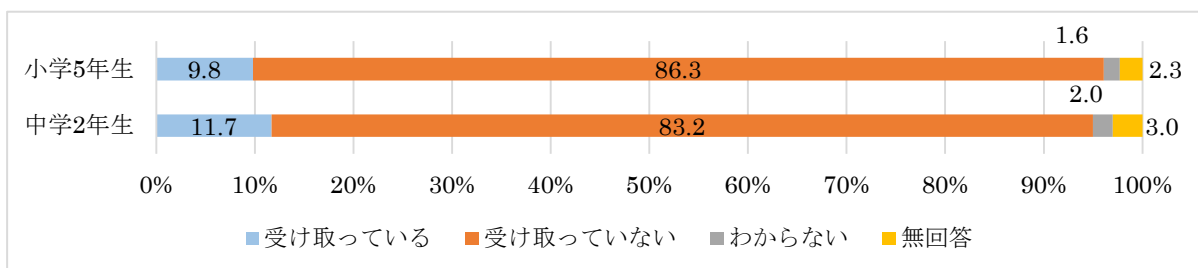


## 2. 就学援助制度の利用

### (1) 就学援助制度の利用状況

就学援助制度の利用状況を学年別にみたところ、小学5年生では9.8%、中学2年生においては11.7%の保護者が就学援助費を受給していると回答した(以下、この割合を就学援助率という)<sup>3</sup>。また、少数ながら「わからない」と答えている保護者も存在し、小学5年生において1.6%、中学2年生において2.0%いる。

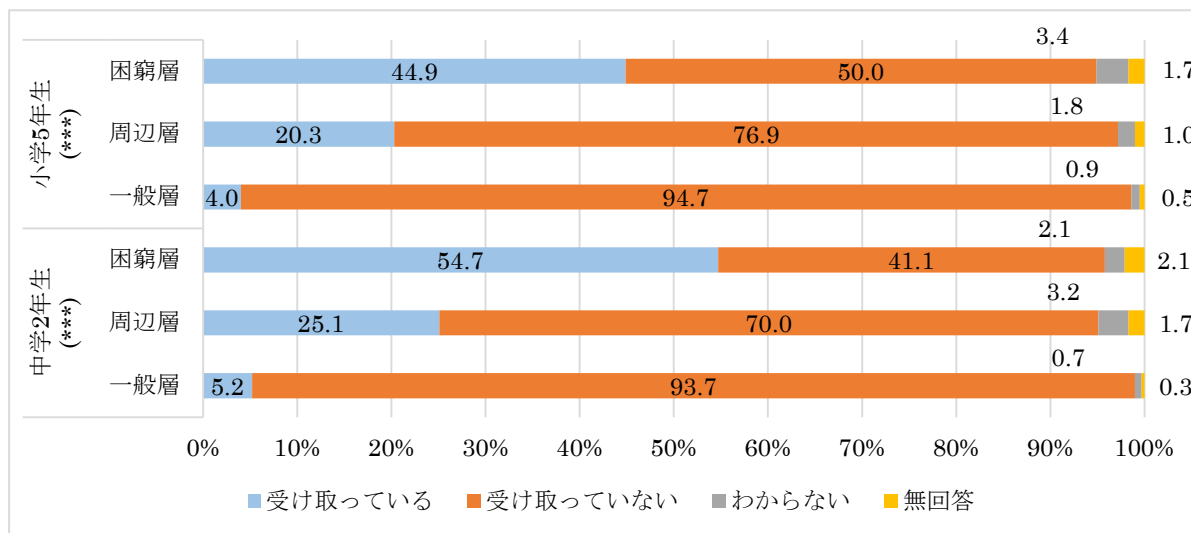
図表 10-2-1 就学援助制度の利用状況(小学5年生、中学2年生)



<sup>3</sup> 平成29年3月31日現在の松戸市全体の就学援助率は、小学生が10.9%、中学生が12.8%である(松戸市教育委員会(2017)『平成29年度松戸の教育』)。

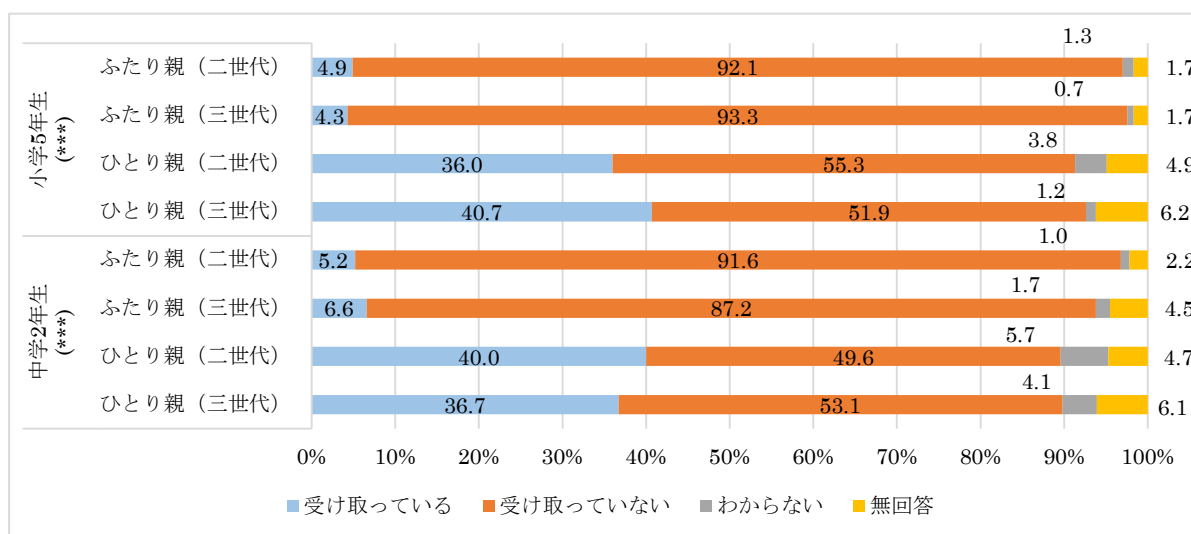
生活困難度別に就学援助制度の利用状況をみると、両学年において有意な差が確認された。具体的に就学援助率をみると、困窮層では小学5年生で44.9%、中学2年生で54.7%、周辺層では小学5年生で20.3%、中学2年生で25.1%、一般層では小学5年生で4.0%、中学2年生で5.2%であり、両学年とも生活が困窮するほど就学援助率が高い。

図表 10-2-2 就学援助制度の利用状況(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



世帯タイプ別に就学援助制度の利用状況をみると、両学年において有意な差が確認され、ふたり親世帯よりひとり親世帯の方が就学援助を受給している割合が圧倒的に高い。具体的な受給率は、ふたり親世帯についてみると、二世帯世帯の小学5年生で4.9%、中学2年生で5.2%、三世帯世帯の小学5年生で4.3%、中学2年生で6.6%であるのに対し、ひとり親世帯では二世帯世帯の小学5年生で36.0%、中学2年生で40.0%、三世帯世帯の小学5年生で40.7%、中学2年生で36.7%である。

図表 10-2-3 就学援助制度の利用状況(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別

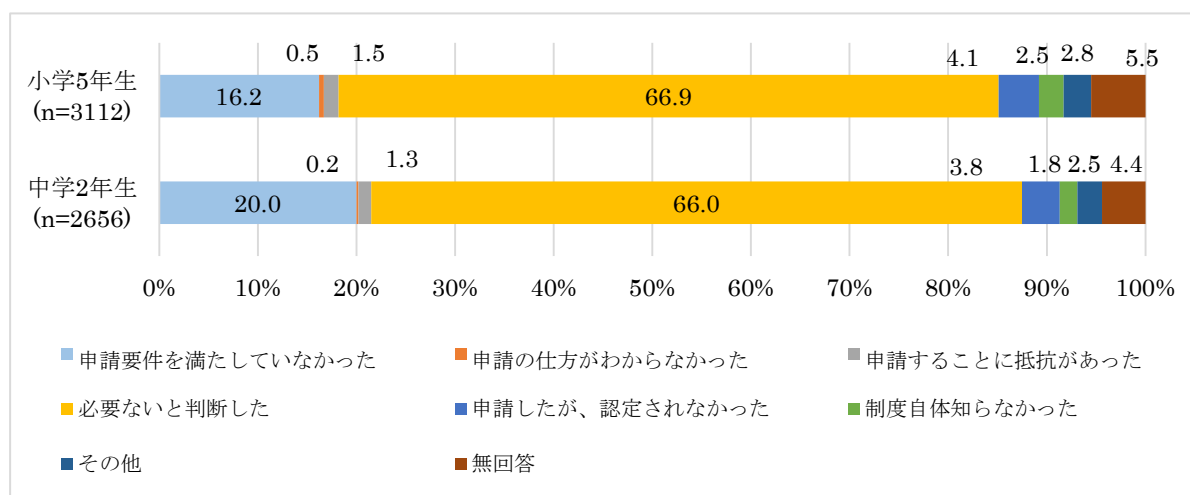


## (2) 就学援助制度を利用していない理由

就学援助制度を利用していない理由をみると、小学5年生の世帯では「必要であるが、申請要件を満たしていなかった」が16.2%、「必要であるが、申請の仕方がわからなかった」が0.5%、「必要であるが、申請することに抵抗があった」が1.5%、「必要ないと判断した」が66.9%、「申請したが、認定されなかった」が4.1%、「制度自体知らなかった」が2.5%、「その他」が2.8%、「無回答」が5.5%である。中学2年生の世帯では「必要であるが、申請要件を満たしていなかった」が20.0%、「必要であるが、申請の仕方がわからなかった」が0.2%、「必要であるが、申請することに抵抗があった」が1.3%、「必要ないと判断した」が66.0%、「申請したが、認定されなかった」が3.8%、「制度自体知らなかった」が1.8%、「その他」が2.5%、「無回答」が4.4%である。

「その他」には生活保護や特別支援教育就学奨励制度など、就学援助制度との併用が不可能な金銭的支援制度の利用を理由にあげる回答が目立つ。

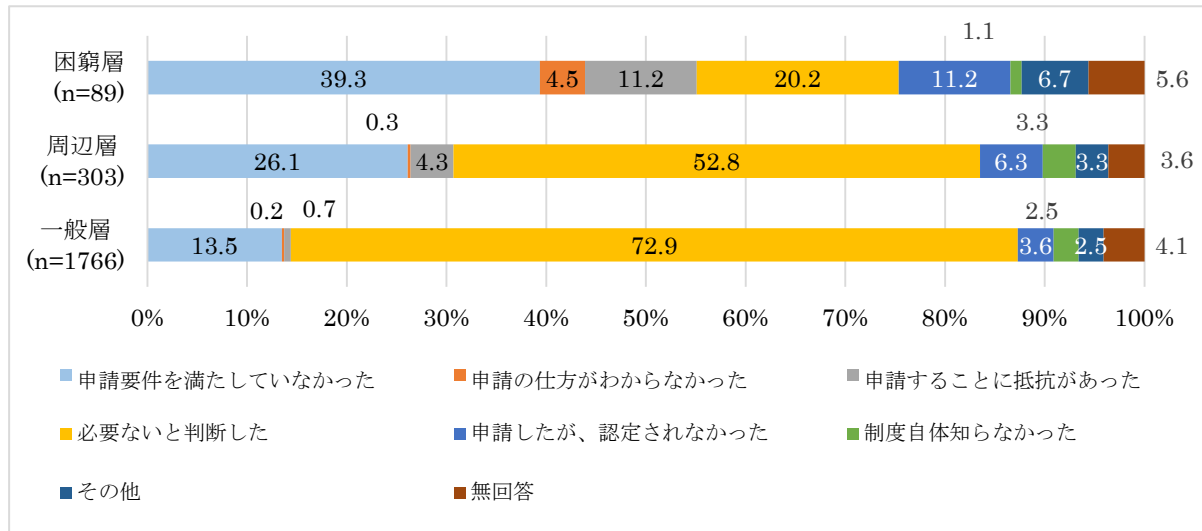
図表 10-2-4 就学援助制度を利用していない理由(小学5年生、中学2年生)



\*就学援助制度を利用していない世帯のみ

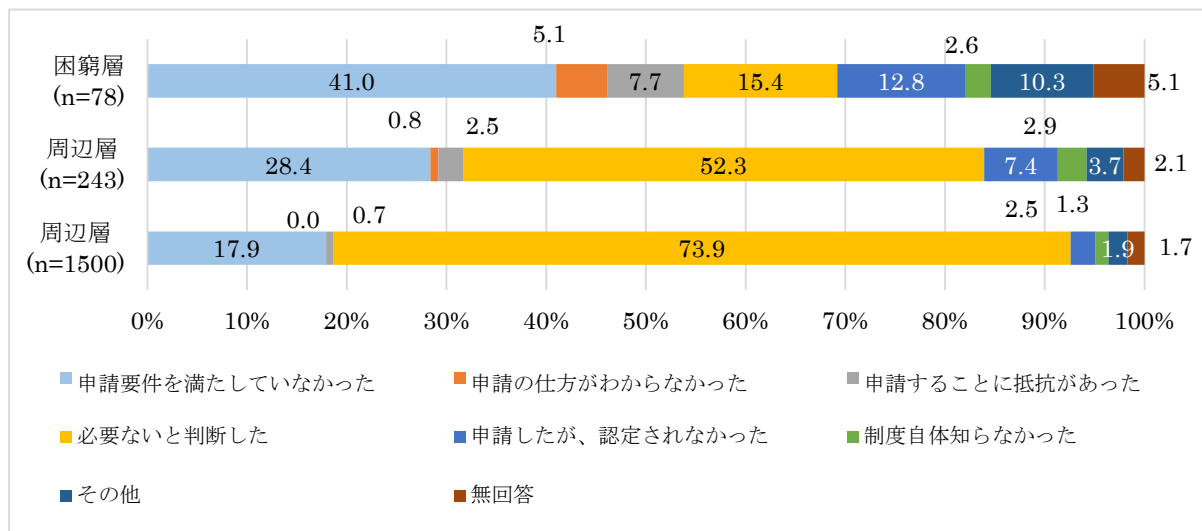
生活困難度別にみると、就学援助制度を利用していない理由の分布は有意に異なる。まず、「必要ないと判断した」の割合は、困窮層において小学5年生の世帯では20.2%、中学2年生の世帯では15.4%、周辺層において小学5年生では52.8%、中学2年生では52.3%、一般層において小学5年生では72.9%、中学2年生では73.9%と、生活困難度が高いほど低い。

図表 10-2-5 就学援助制度を利用していない理由(小学5年生):生活困難度別(\*\*\*)



\*就学援助制度を利用していない世帯のみ。

図表 10-2-6 就学援助制度を利用していない理由(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



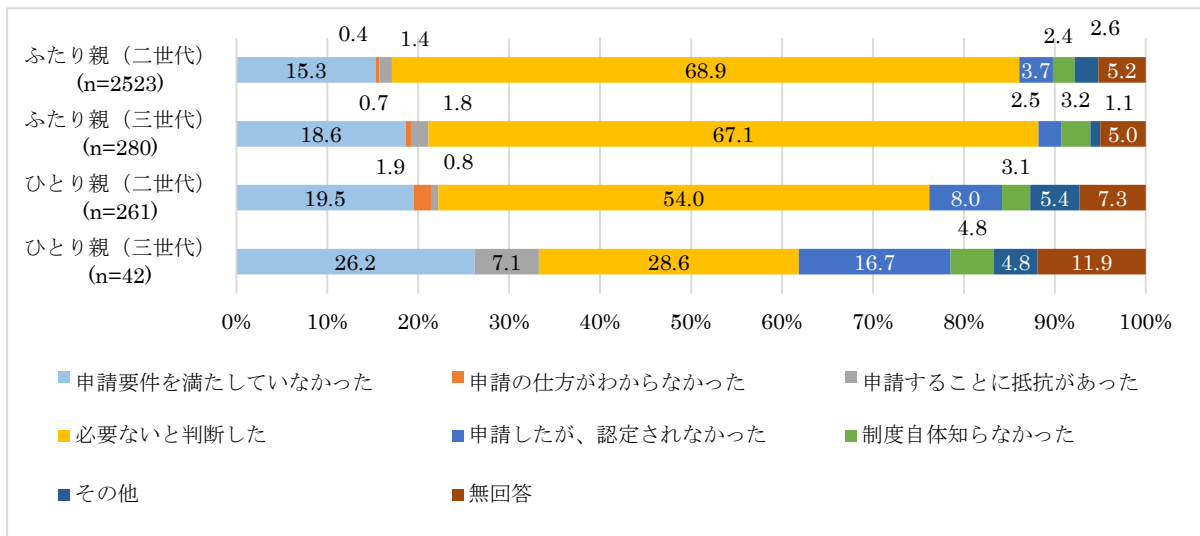
\*就学援助制度を利用していない世帯のみ



世帯タイプ別にみても、就学援助制度を利用していない理由の分布は有意に異なる。両学年とも、ひとり親世帯は、ふたり親世帯に比べ「申請したが、認定されなかった」の割合が高く、「必要ないと判断した」の割合が低い。

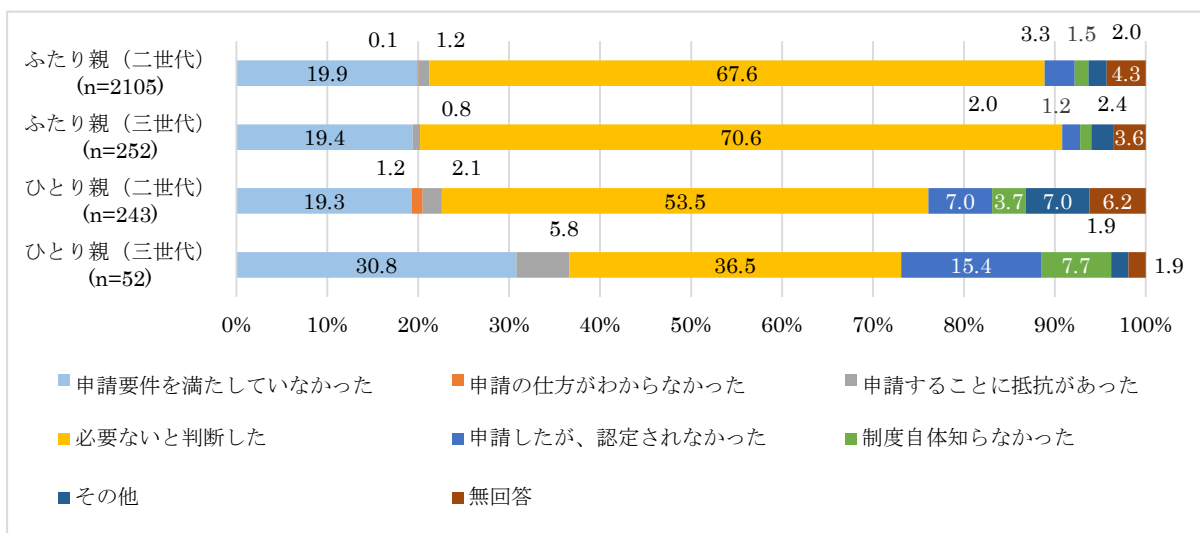
また、ひとり親世帯同士で比較すると、ひとり親（三世代）世帯は、ひとり親（二世帯）世帯よりも「申請要件を満たしていなかった」、「申請したが、認定されなかった」の割合が両学年とも高い一方、「必要ないと判断した」の割合は低い。

図表 10-2-7 就学援助制度を利用していない理由(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



\*就学援助制度を利用していない世帯のみ

図表 10-2-8 就学援助制度を利用していない理由(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



\*就学援助制度を利用していない世帯のみ

### (3) 就学援助費と実費の差

支給された就学援助費と実際にかかった費用の間に差があった項目を、図表 10-2-9 及び図表 10-2-10 に示した。なお、1 人の回答者が複数の項目を回答している場合も多い。また、本来は就学援助費では賄われない項目を回答しているケースもあるが、子どもの就学費用のために生活の他の領域に影響が出ている可能性を踏まえ、表に含めた。また、制服は入学年度に購入した場合は新入学用品費、2 年生以降に購入した場合は学用品費として計上される。

実費と就学援助費の差があった項目として小学 5 年生において最も回答が多かったのが、「学用品費」である (142 ケース)。特に小学 5 年生においては、体操服など身体の成長とともに買いなおす必要がある物や、音楽や美術などの実技系科目に必要な教材の高価さを訴える回答もある。小学 5 年生においては「給食費」(41 ケース)、さらに、林間学校費 (23 ケース)、校外学習費 (15 ケース)、修学旅行費 (7 ケース) と、学校外活動の費用が続く。林間学校並びに修学旅行の費用は就学援助費にて実費が支給されるが、家庭で自主的に用意するように指示される物 (ジャージなど) について負担感を訴える回答もあった。

中学 2 年生においても、最も回答数が多かったのは学用品である (127 ケース)。新入学用品 (37 ケース)、給食費 (24 ケース)、さらに遠征費を含めた部活動の費用がそれに続く (18 ケース)。部活動費は、松戸市の就学援助費の支給項目としては認められていないが、活動に必要な道具や大会等に参加するための交通費の負担の高さを訴える回答があった。

図表 10-2-9 就学援助費と実費に差があった項目(小学 5 年生)

項目名	n
学用品費 (体操服・楽器・書道・裁縫セットなど)	142
給食費	41
林間学校費	23
校外学習費	15
修学旅行費	7
日用品 (服、靴、眼鏡)	7
部活動費	5
PTA 会費	2
生活費	2
貯金	1
習い事代	2
家庭学習に使う費用 (机など)	2
入学準備費	1
わからない	7
特にない	23

図表 10-2-10 就学援助費と実費に差があった項目(中学 2 年生)

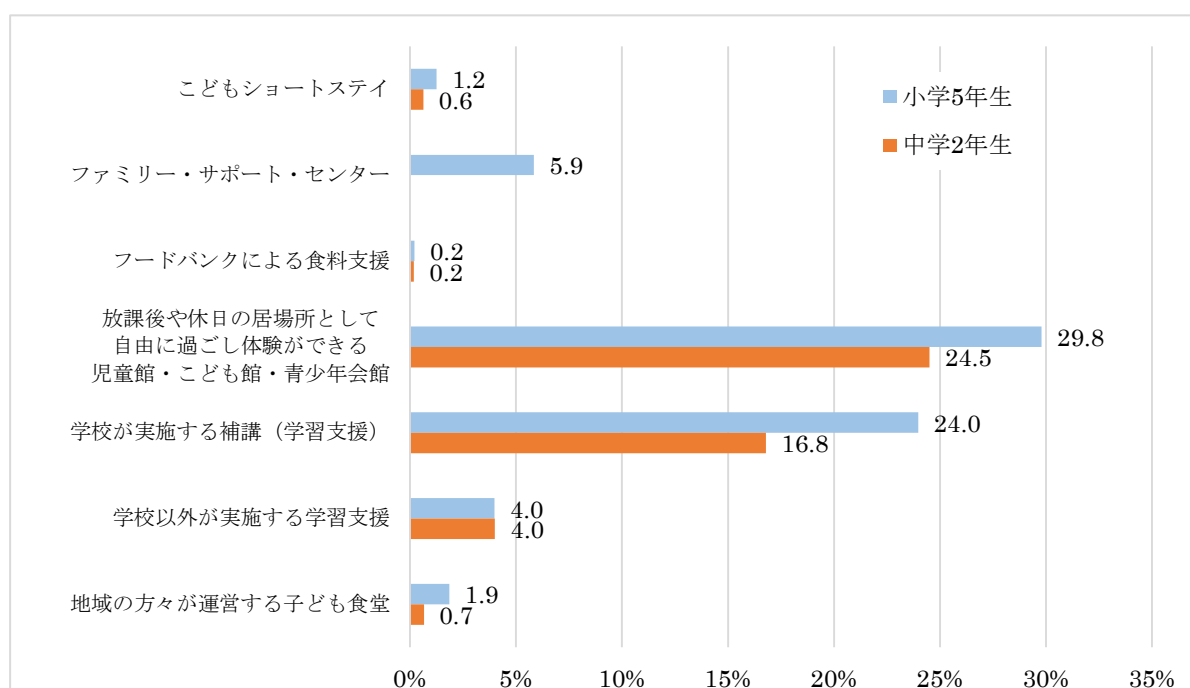
項目名	n
学用品費等(体操服、副教材、上履きなど)	127
新入学用品費(制服、通学用靴など)	37
給食費	24
部活動費(交通費・遠征費も含む)	18
林間学校費	14
修学旅行費	8
生活費(食費、衣類代)	6
学外での教育費(塾など)	6
交通費(通学)	3
学用消耗品	2
家庭内補助費	1
卒業式費用	1
病院代	1
PTA 費	1
わからない	7
特になし	15

### 3. 子どもを対象とした支援制度の利用

#### (1) 子どもを対象とした支援制度の利用状況

子どもを対象とした支援制度の利用について、保護者からの回答を図表 10-3-1 に示した。最も利用率が高いのは「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」(小学 5 年生 29.8%、中学 2 年生 24.5%) である。続いて、「学校が実施する補講(学習支援)」(小学 5 年生 24.0%、中学 2 年生 16.8%)、「ファミリー・サポート・センター」(小学 5 年生 5.9%)、「学校以外が実施する学習支援」(小学 5 年生 4.0%、中学 2 年生 4.0%)、「地域の方々が運営する子ども食堂」(小学 5 年生 1.9%、中学 2 年生 0.7%)、「こどもショートステイ」(小学 5 年生 1.2%、中学 2 年生 0.6%) となっている。

図表 10-3-1 子どもを対象とした支援制度の利用状況(小学 5 年生、中学 2 年生)

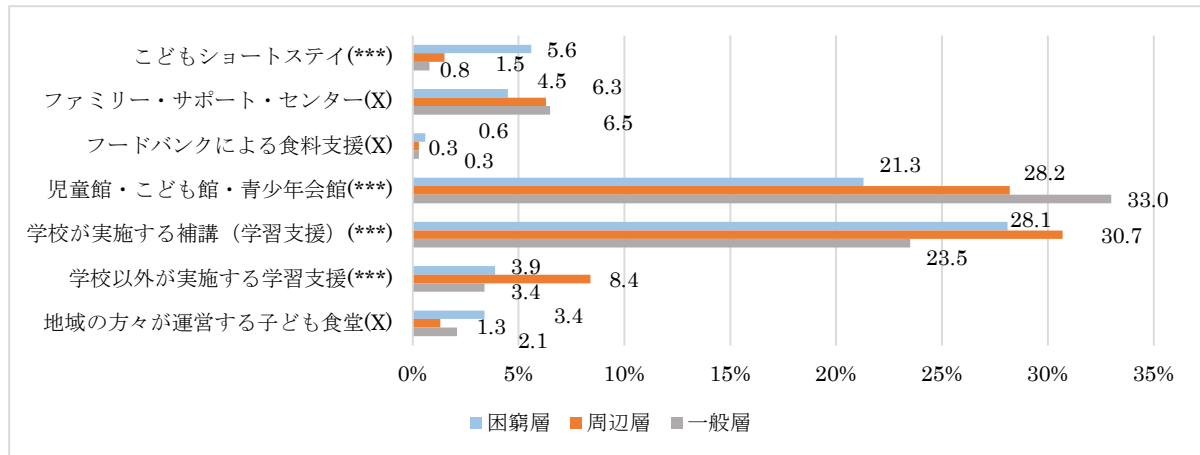


\* 「ファミリー・サポート・センター」については小学生保護者票においてのみ質問している。

生活困難度別の各支援制度の利用について、保護者からの回答を図表 10-3-2 及び図表 10-3-3 に示した。支援制度ごとにみると、「こどもショートステイ」については小学 5 年生においてのみ有意な違いが確認され、生活が困窮するほど利用率が高い。全体の利用率が 1.3%と低いものの、困窮層に限ると 5.6%の保護者が利用したことがあると答えている。「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」については両学年において有意な差が確認され、小学 5 年生においては生活が困窮するほど、利用率が低くなっている。他方、中学 2 年生では、周辺層の利用率が最も低く 20.7%、続いて困窮層 25.8%、一般層 27.4%となっている。「学校が実施する補講(学習支援)」と「学校以外が実施する学習支援」は、どちらも両学年で有意な差が確認され、小学 5 年生においては周辺層で「学校が実施する補講」30.7%、「学校以外が実施する学習支援」8.4%と利用率が最も高く、次に困窮層で「学校が実施する補講」28.1%、「学校以外が実施する学習支援」3.9%、一般層で「学校が実施する補講」23.5%、「学校以外が実施する学習支援」3.9%となっている。

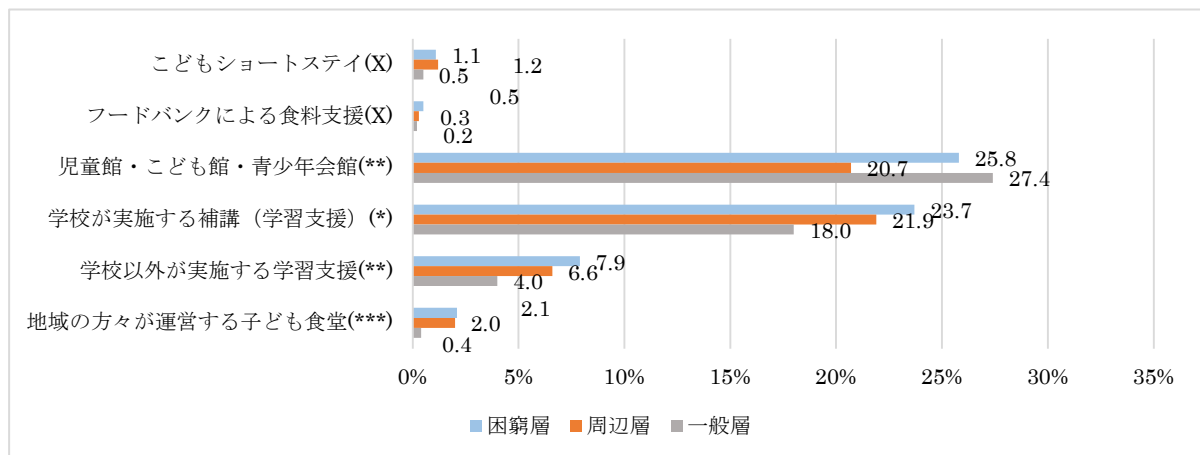
する学習支援」3.4%と続く。他方、中学2年生においては生活が困窮するほど利用率が高い傾向がある。「地域の方々が運営する子ども食堂」については中学2年生においてのみ有意であり、生活が困窮するほど利用率が高い。

図表 10-3-2 子どもを対象とした支援制度の利用率(小学5年生):生活困難度別



\*「こどもショートステイ」及び「フードバンクによる食料支援」は、期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

図表 10-3-3 子どもを対象とした支援制度の利用率(中学2年生):生活困難度別

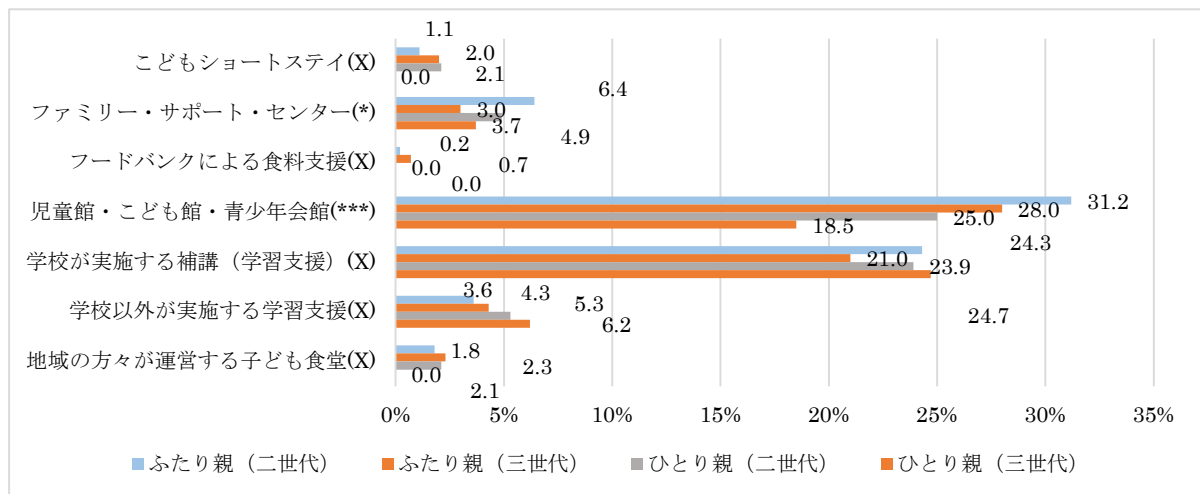


\*「こどもショートステイ」及び「フードバンクによる食料支援」は、期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

世帯タイプ別の各支援制度の利用についての保護者からの回答を図表 10-3-4 及び図表 10-3-5 に示した。支援制度ごとにみると、「ファミリー・サポート・センター」は利用率に有意な差があり、ふたり親(二世帯)世帯(6.4%)、ひとり親(二世帯)世帯(4.9%)、ひとり親(三世帯)世帯(3.7%)、ふたり親(三世帯)世帯(3.0%)の順で利用率が高い。「フードバンクによる食料支援」は中学2年生においてのみ、有意な差が確認され、小学5年生の「ファミリー・サポート・センター」と同様、二世帯世帯の利用率が三世帯世帯の利用率よりも高い。「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」については両学年において

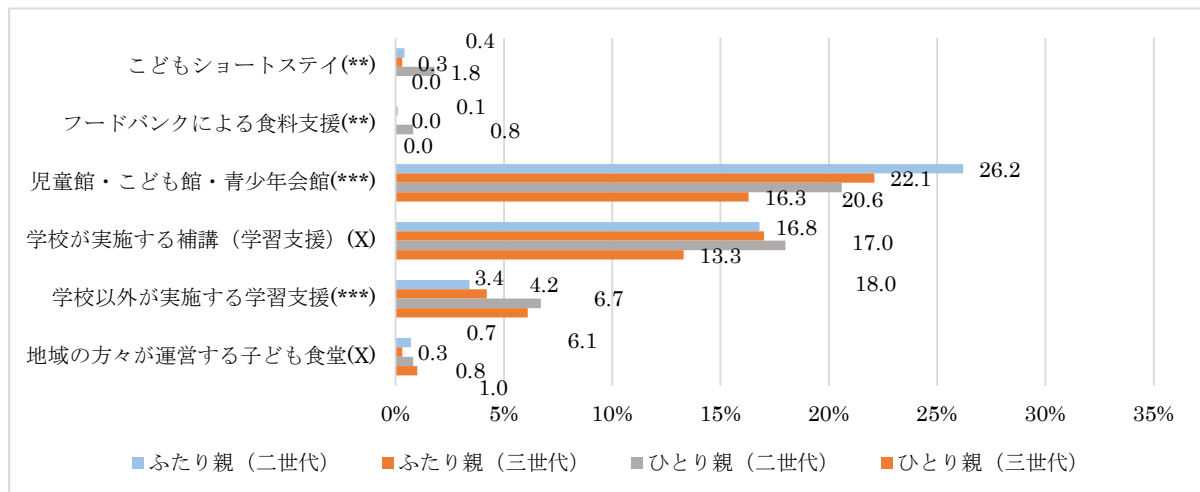
有意な差が確認され、どちらもふたり親世帯よりもひとり親世帯の利用率が低い。特に、ひとり親（三世帯）世帯の利用率が最も低い（小学5年生18.5%、中学2年生16.3%）。「学校以外が実施する学習支援」は、中学2年生においてのみ、有意な差が確認され、児童館等とは反対にひとり親世帯の方が利用率が高い。

図表 10-3-4 子どもを対象とした支援制度の利用率(小学5年生):世帯タイプ別



\* 「こどもショートステイ」及び「フードバンクによる食料支援」は、期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

図表 10-3-5 子どもを対象とした支援制度の利用率(中学2年生):世帯タイプ別



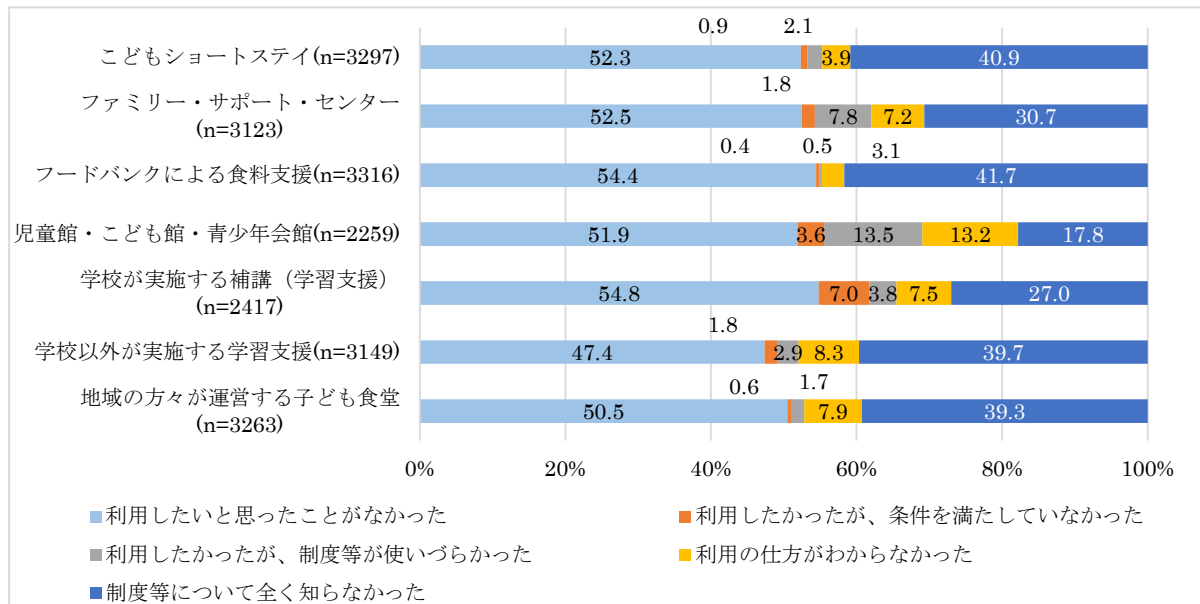
\* 「こどもショートステイ」及び「フードバンクによる食料支援」は、期待度数が小さいため、フィッシャーの正確性検定を行っている。

## (2) 子どもを対象とした支援制度を利用していない理由

子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限り、利用経験のない理由をみると、両学年とも全ての支援制度において、「利用したいと思ったことがなかった」の割合

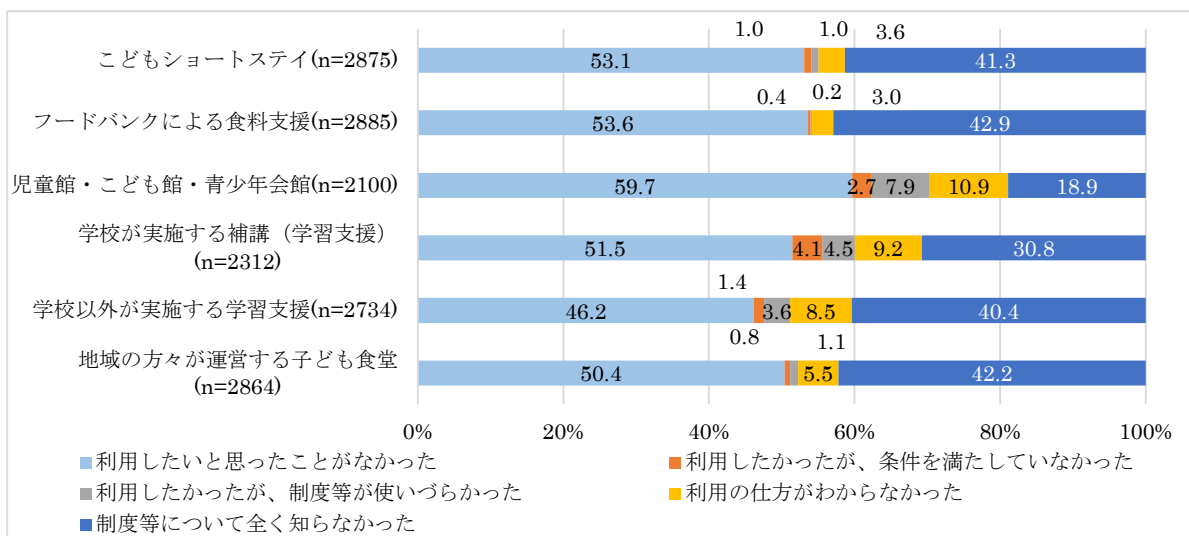
が約 50%で最も高い。続いて、「制度等について全く知らなかった」の割合が約 20%~40%を占める。特に、「フードバンクによる食糧支援」、「こどもショートステイ」、「学校以外が実施する学習支援」、「地域の方々が運営する子ども食堂」について、「制度等について全く知らなかった」と回答した割合が約 40%と高い。その他に目立った回答としては、「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」を利用した経験がない理由として、「利用の仕方がわからなかった」をあげた保護者が小学 5 年生では 13.2%、中学 2 年生では 10.9%にのぼる。児童館等は、ここにあげた支援制度の中で最も利用率が高いが、利用経験のない保護者のうち、「利用の仕方がわからなかった」と答えた者の割合も最も高い。また、同様に児童館等について、「利用したかったが、制度等が使いづらかった」と答えた者の割合も、ここにあげた支援制度の中で最も高い（小学 5 年生 13.5%、中学 2 年生 7.9%）。反対に、児童館等について「制度等について全く知らなかった」と答えた保護者の割合は、最も低かった（小学 5 年生 17.8%、中学 2 年生 18.9%）。

図表 10-3-6 子どもを対象とした支援制度を利用していない理由(小学 5 年生)



\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。。

図表 10-3-7 子どもを対象とした支援制度を利用していない理由(中学 2 年生)



\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

生活困難度別に、利用経験のない理由をみると、全ての支援制度において、生活が困窮している層ほど、有意に「利用したいと思ったことがなかった」の割合が低く、「制度等について全く知らなかった」の割合が高い。また、「利用の仕方がわからなかった」は、ほとんどの支援制度について困窮層、周辺層、一般層の順に割合が高く、困窮層ほど支援制度の利用方法がわからないために、利用に至っていない傾向がある<sup>4</sup>。

特に困窮層において、利用に至らなかった理由ごとに特徴的な分布を示した支援制度をみると、まず「利用したいと思ったことがなかった」と答えた困窮層の保護者の割合が最も低かった支援制度として、「学校が実施する補講」、「学校以外が実施する学習支援」があげられる。「学校が実施する補講」においては小学 5 年生 34.2%、中学 2 年生 25.6%、「学校以外が実施する学習支援」においては小学 5 年生 26.0%、中学 2 年生 21.5%であり、ここに挙げた支援制度の中で最も低い。一方、利用しなかった層の理由をみると、「制度等について全く知らなかった」の割合が「学校が実施する補講」では小学 5 年生 41.0%、中学 2 年生 44.8%、「学校以外が実施する学習支援」では小学 5 年生 48.1%、中学 2 年生 50.0%と最も高い。さらに、「利用の仕方がわからなかった」と答えた保護者の割合も 10%を超えるなど一定割合を占めている（「学校が実施する補講」小学 5 年生 12.8%、中学 2 年生 18.4%、「学校以外が実施する学習支援」小学 5 年生 13.3%、中学 2 年生 12.7%）。ただし、「学校が実施する補講」における「制度等について全く知らなかった」の割合の高さは、すべての学校で補講が実施されているわけではないためである可能性がある。

困窮層において、「制度等について全く知らなかった」ために利用しなかったと回答した保護者の割合が最も高かったのが、「フードバンクによる食料支援」、「地域の方々が運営する子ども食堂」である。「フードバンク」については小学 5 年生の 60.5%、中学 2 年生の 63.0%、「子ども食堂」については小学 5 年生の 57.8%、中学 2 年生の 66.1%に及んだ。また、子育て支援制度もこの割

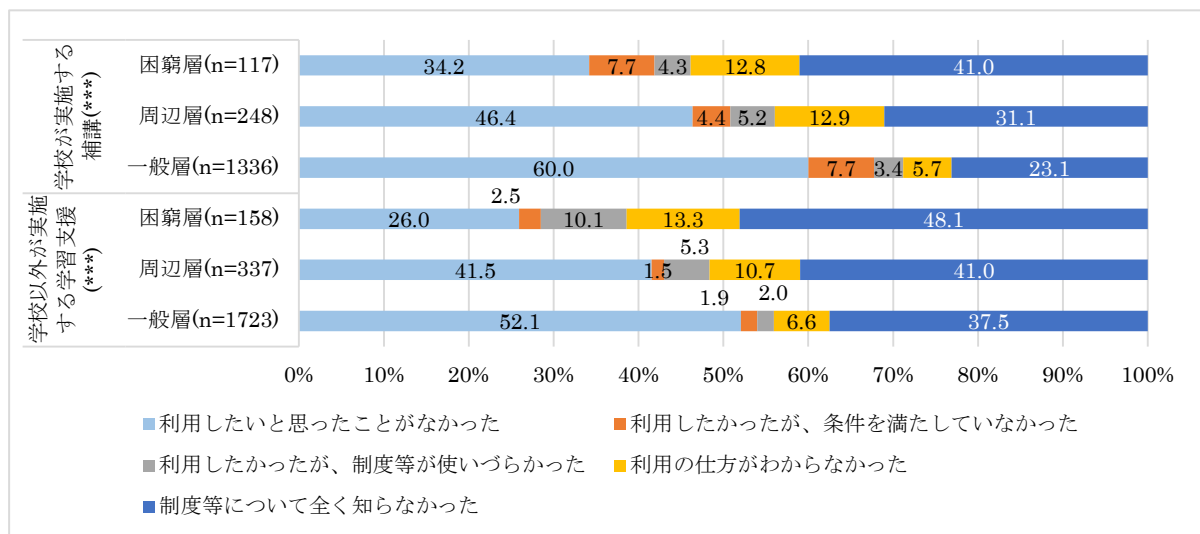
<sup>4</sup> 小学 5 年生の「学校が実施する補講」においてのみ、「利用の仕方がわからなかった」の割合が困窮層 12.8%、周辺層 12.9%と周辺層の方が高い。ただし、両者の差はわずか 0.1 ポイントであり、一般層の同理由の割合は 5.7%である。生活が困窮するほど利用方法がわからないために支援制度を利用しない層の割合が高くなるという全体的な傾向から大きくは外れていない。



合が高い。小学 5 年生の困窮層においては、「子どもショートステイ」53.5%、「ファミリー・サポート・センター」44.7%、中学 2 年生の困窮層においては「子どもショートステイ」56.4%であった。

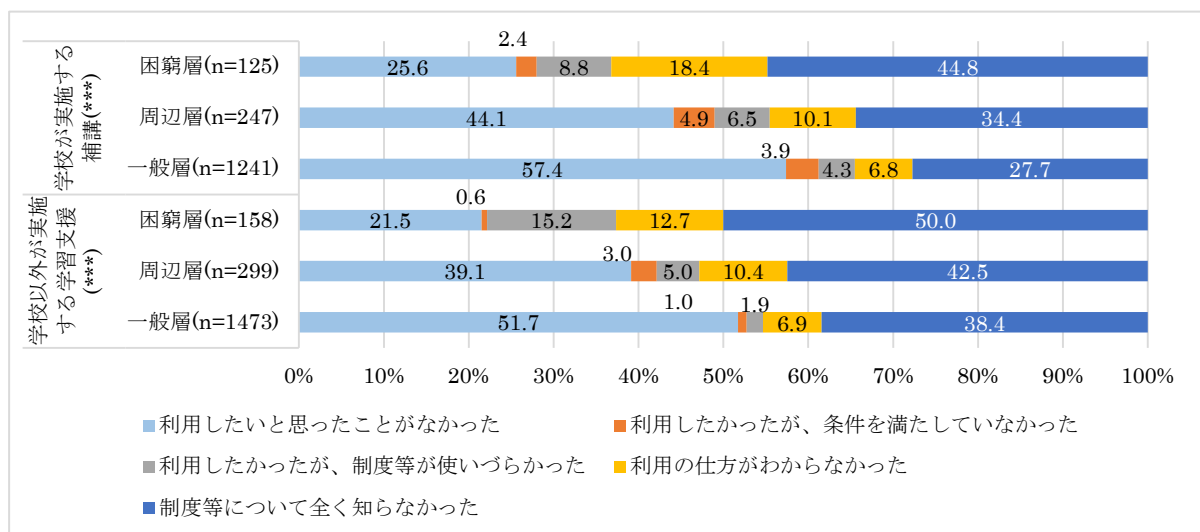
困窮層において、「利用の仕方がわからなかった」ために利用に至らなかったと回答した保護者の割合が比較的高かったのが、「放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館」である（小学 5 年生 23.9%、中学 2 年生 17.1%）。なお、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」、「利用したかったが制度等が使いづらかった」は生活困難度との一貫した関連が確認されなかった。

図表 10-3-8 学習支援制度を利用していない理由(小学 5 年生):生活困難度別



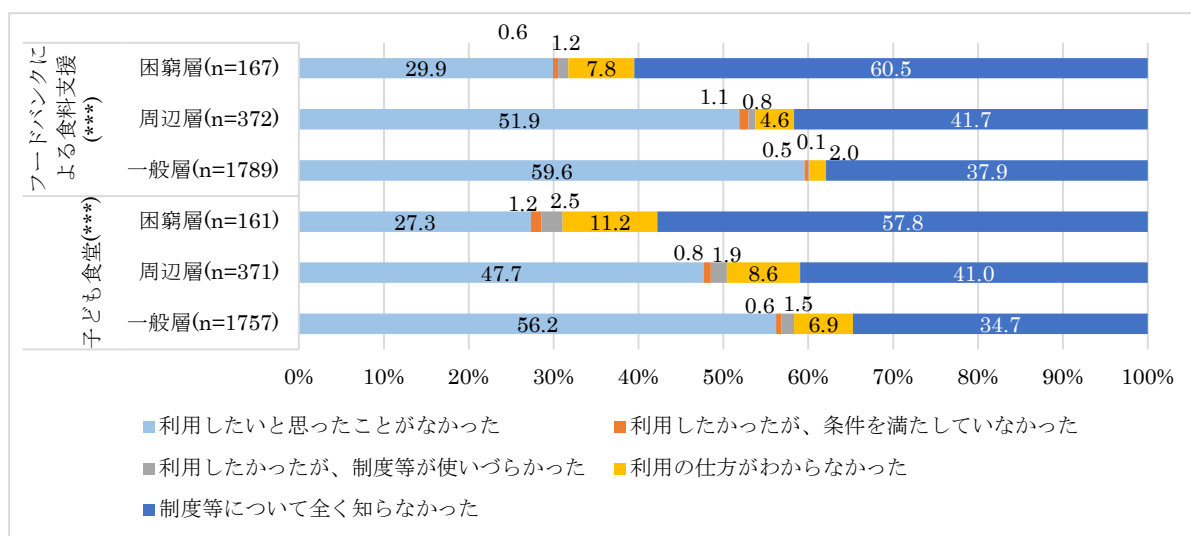
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-9 学習支援制度を利用していない理由(中学 2 年生):生活困難度別



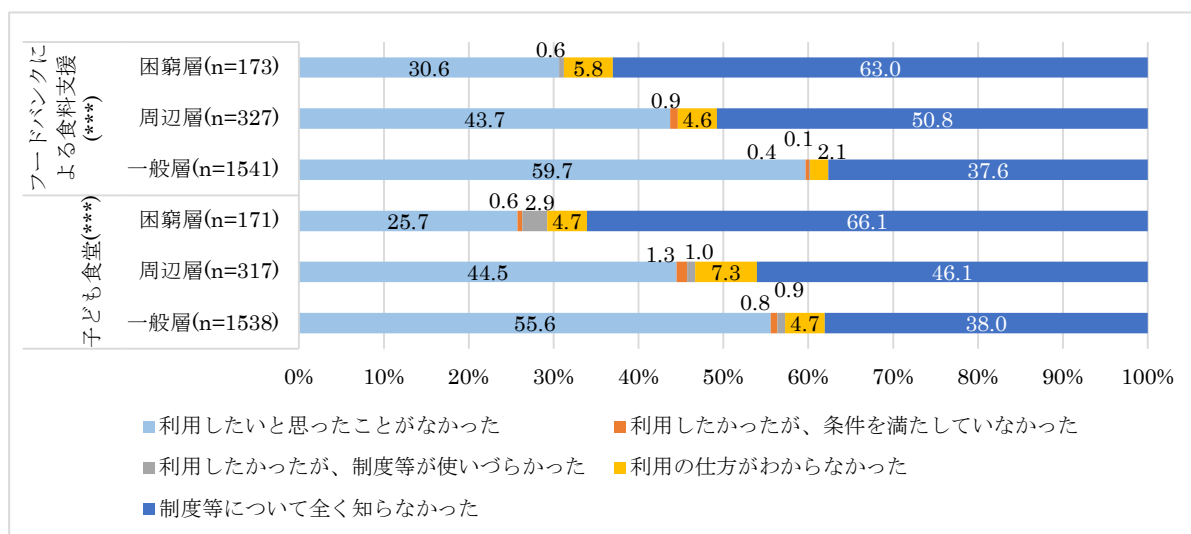
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-10 食事支援サービスを利用していない理由(小学5年生):生活困難度別



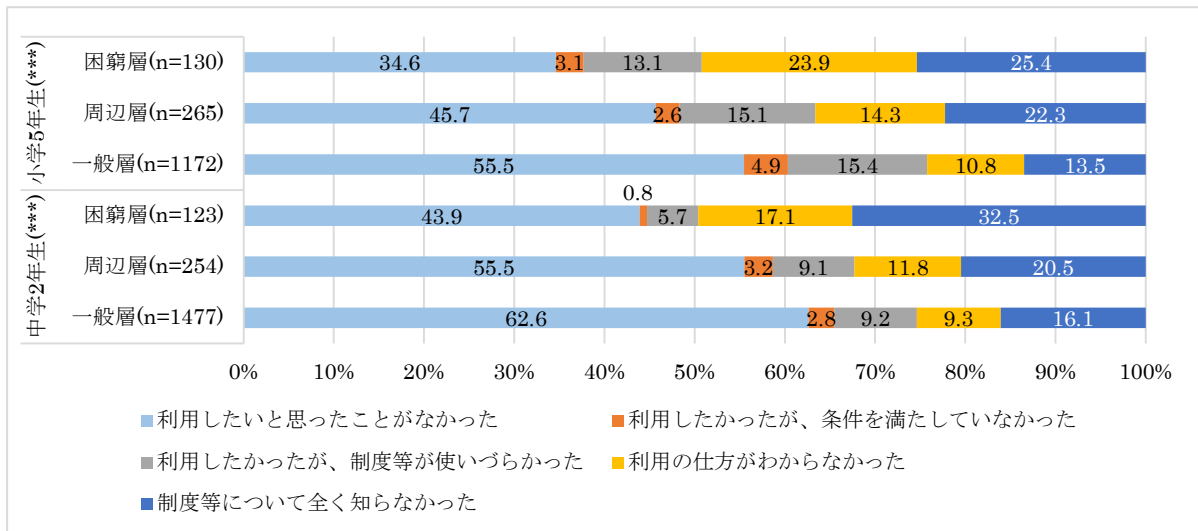
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-11 食事支援サービスを利用していない理由(中学2年生):生活困難度別



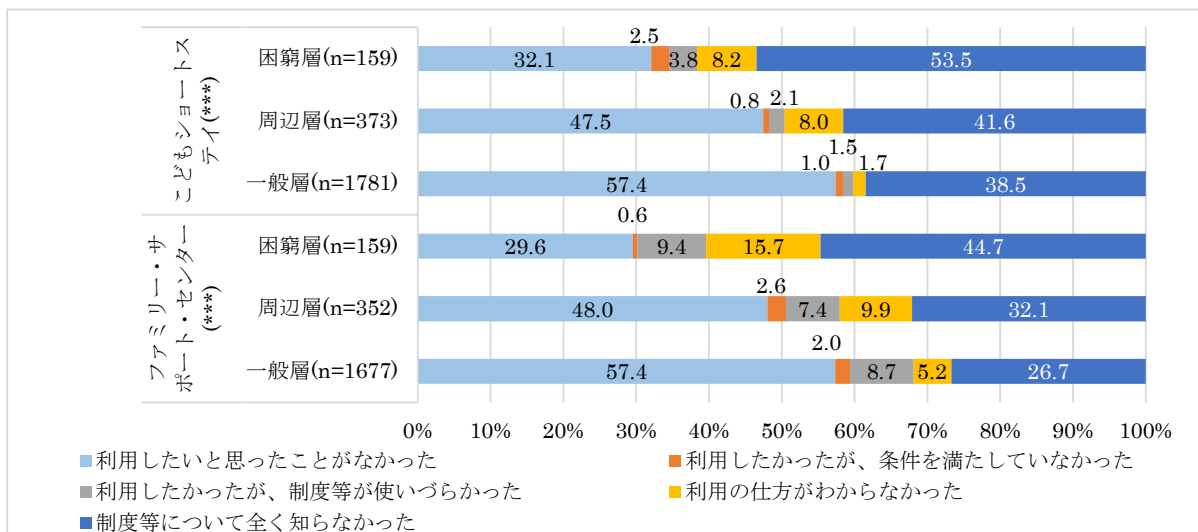
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-12 「児童館・こども館・青少年会館」を利用していない理由(小学5年生、中学2年生):生活困難度別



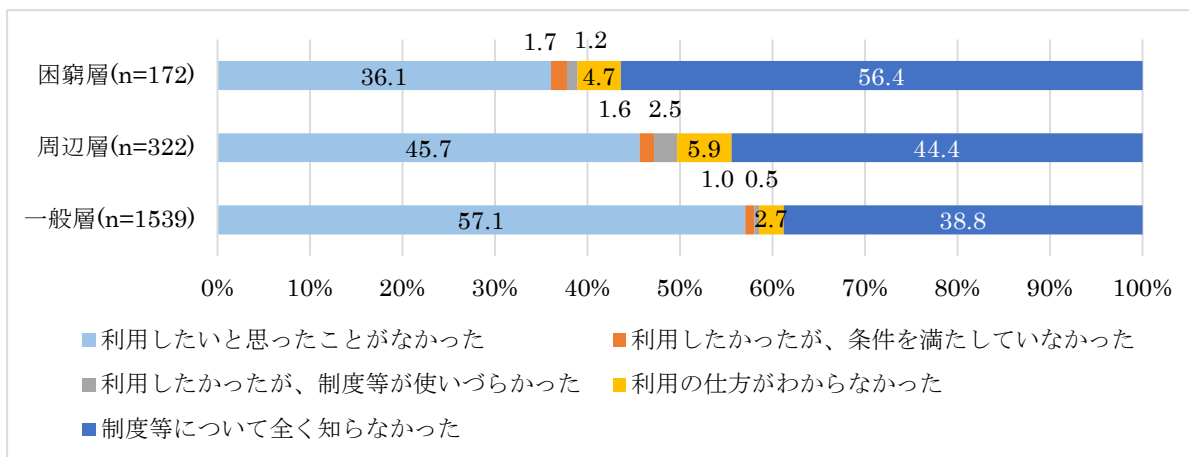
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-13 子育て支援制度を利用していない理由(小学5年生):生活困難度別



\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

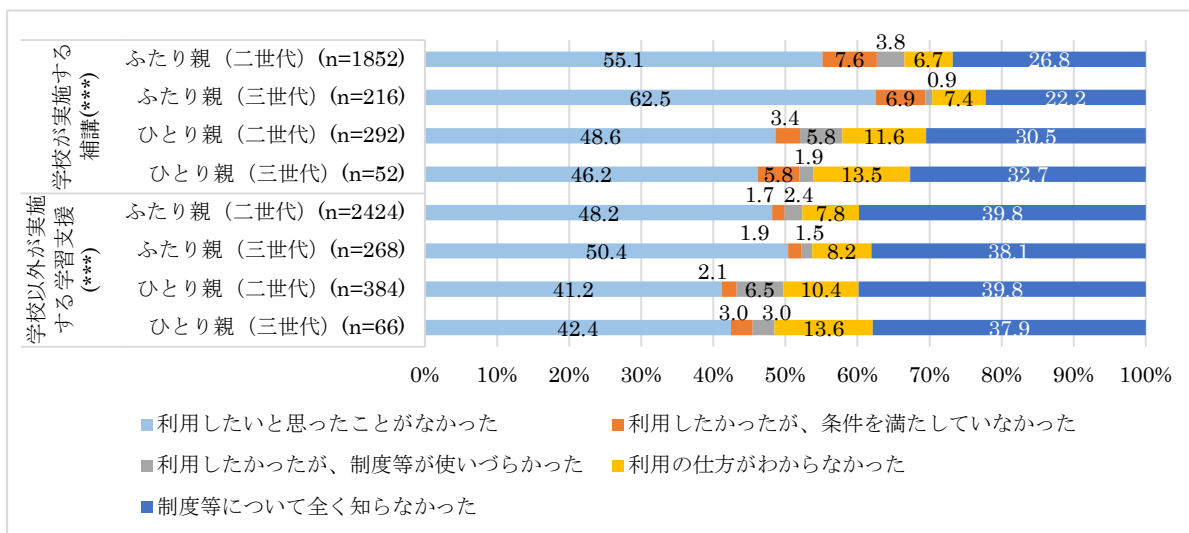
図表 10-3-14 「こどもショートステイ」を利用していない理由(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

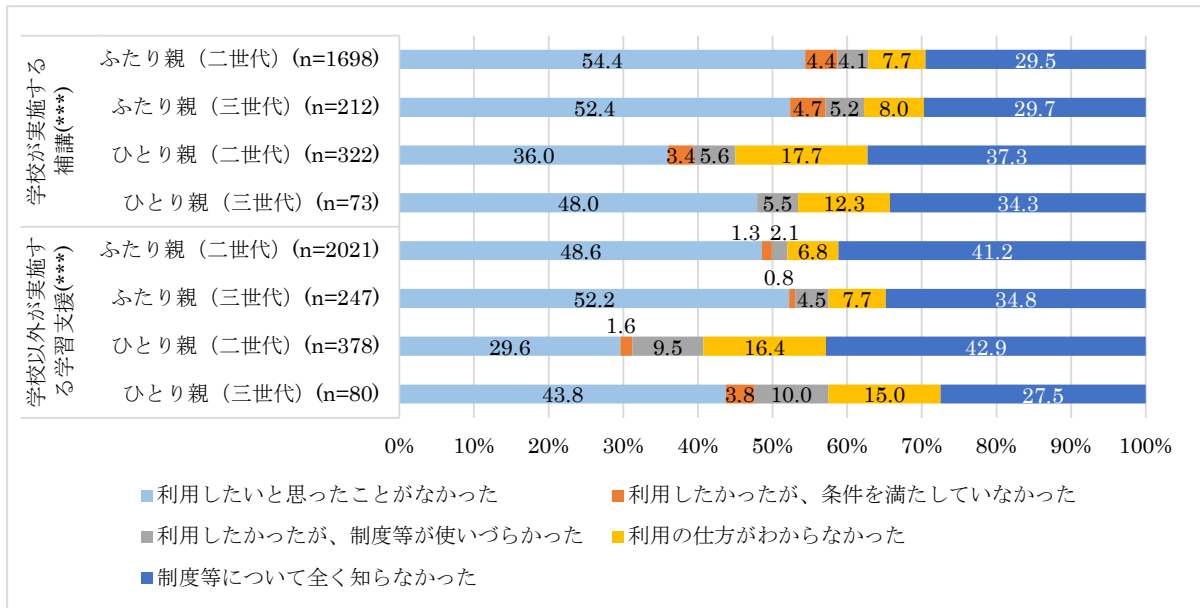
世帯タイプ別に、利用経験のない理由をみると、全ての支援制度において、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも有意に「利用したいと思ったことがなかった」との割合が低い。また、学習支援制度以外の全ての支援制度において、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも「制度等について全く知らなかった」の割合が高い。

図表 10-3-15 学習支援制度を利用していない理由(小学5年生):世帯タイプ別



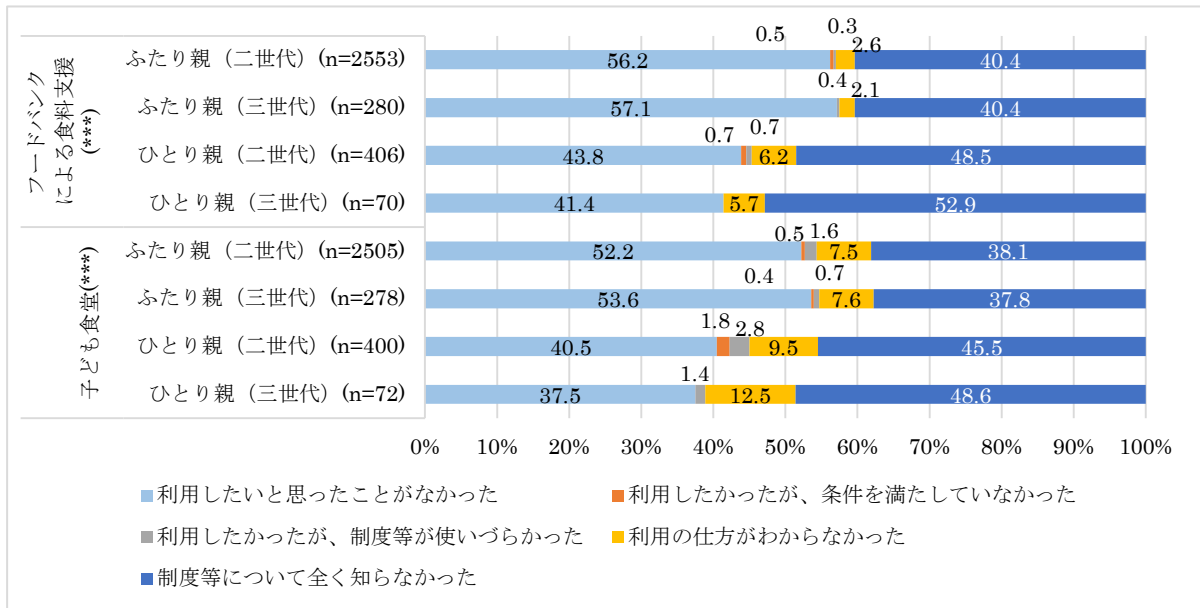
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-16 学習支援制度を利用していない理由(中学 2 年生):世帯タイプ別



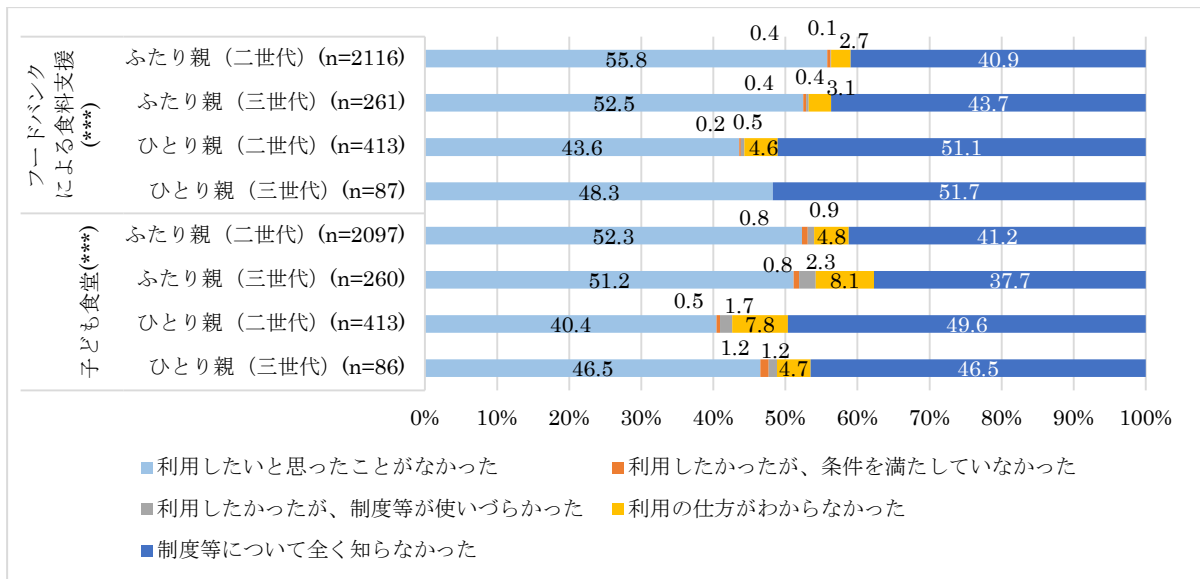
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-17 食事支援サービスを利用していない理由(小学 5 年生):世帯タイプ別



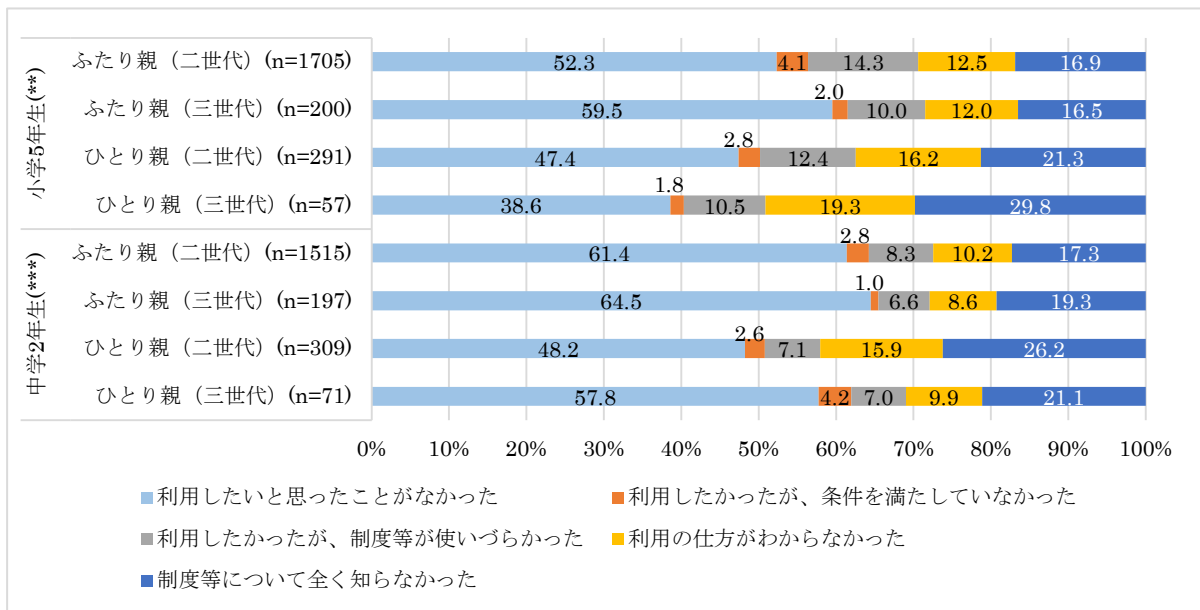
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-18 食事支援サービスを利用していない理由(中学2年生):世帯タイプ別



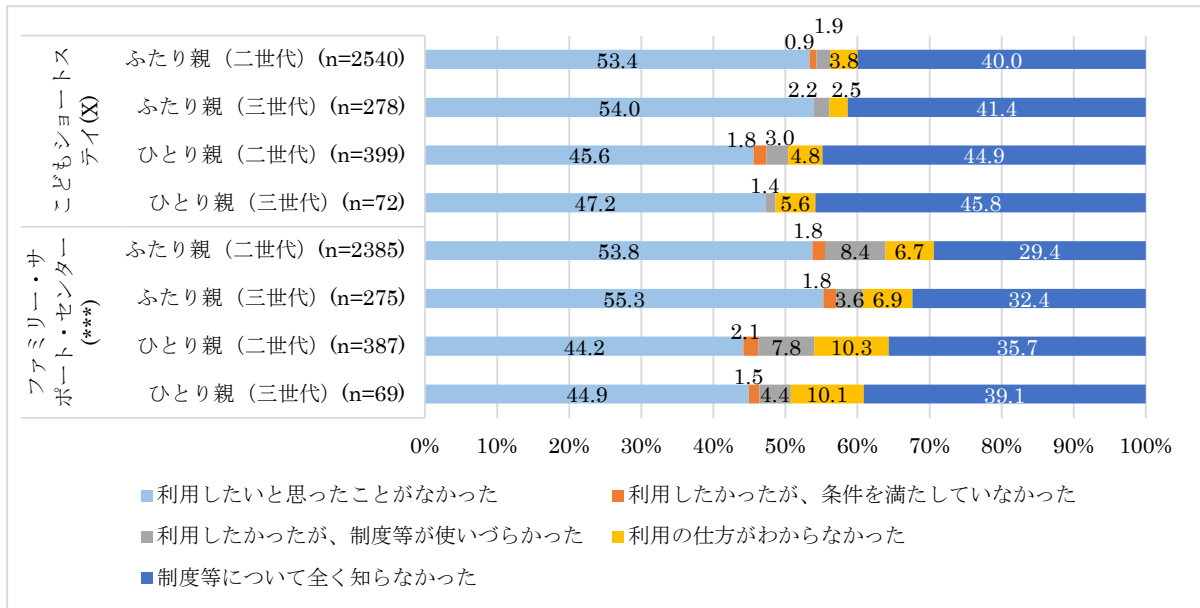
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-19 「児童館・こども館・青少年会館」を利用していない理由(小学5年生、中学2年生):世帯タイプ別



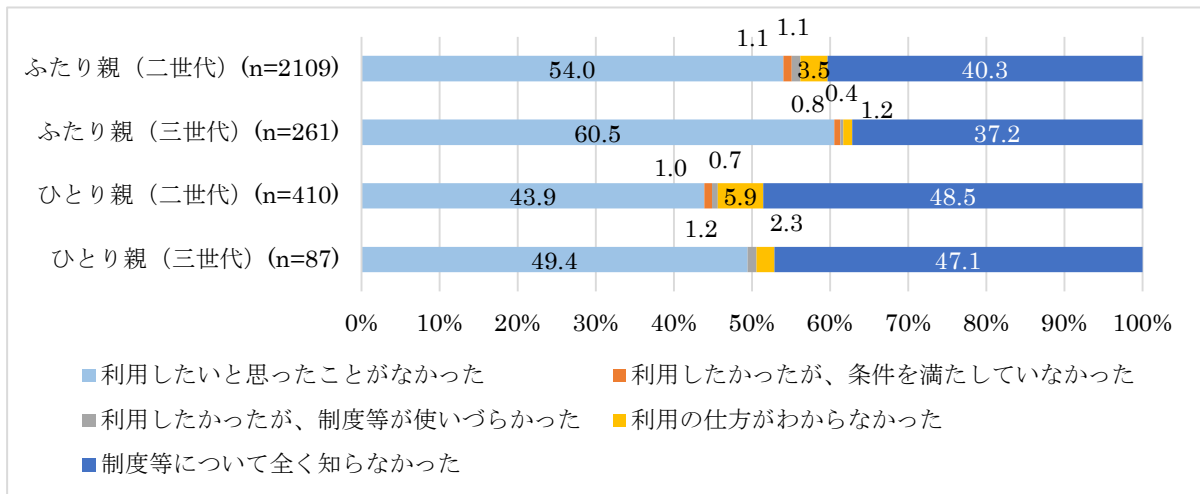
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-20 子育て支援制度を利用していない理由(小学5年生):世帯タイプ別



\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

図表 10-3-21 「こどもショートステイ」を利用していない理由(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



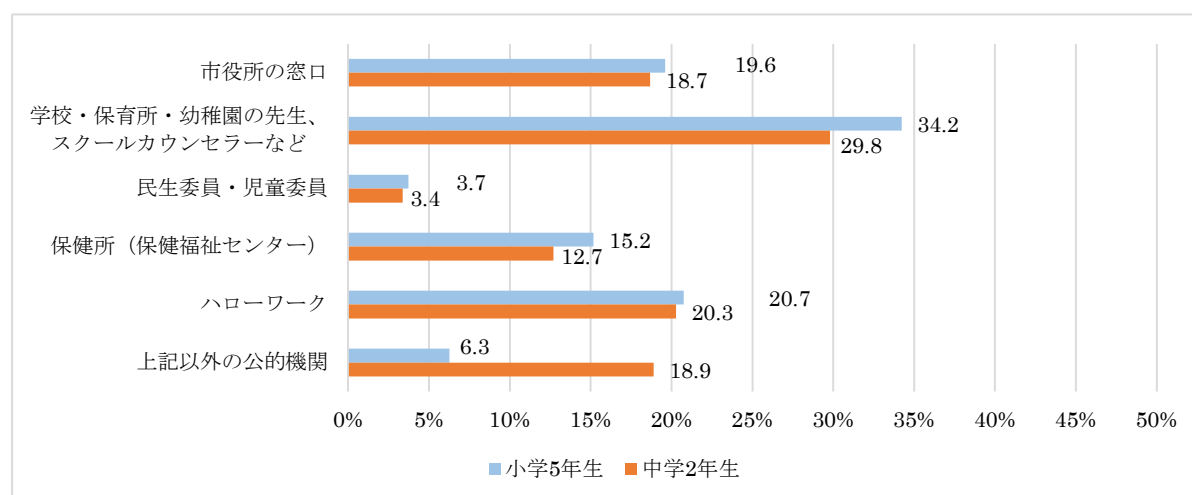
\*子どもを対象とした支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

## 4. 公的機関への相談

### (1) 公的機関への相談経験の有無

次に、保護者票の「あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか」との設問から、公的機関に相談した経験のある保護者の割合を集計した。この結果、「市役所の窓口」に相談したことがある保護者は、小学5年生では19.6%、中学2年生では18.7%、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」は小学5年生では34.2%、中学2年生では29.8%、「民生委員・児童委員」は小学5年生では3.7%、中学2年生では3.4%、「保健所（保健福祉センター）」は小学5年生では15.2%、中学2年生では12.7%、「ハローワーク」は小学5年生では20.7%、中学2年生では20.3%、「上記以外の公的機関」は小学5年生では6.3%、中学2年生では18.9%であった。両学年とも教員など教育関係者に相談したことがある保護者の割合が約30%と最も高かった。「市役所の窓口」と「ハローワーク」の割合も、両学年とも約20%と同程度である。ただし、「上記以外の公的機関」の割合のみ、小学5年生の6.3%に対し、中学2年生は18.9%である。

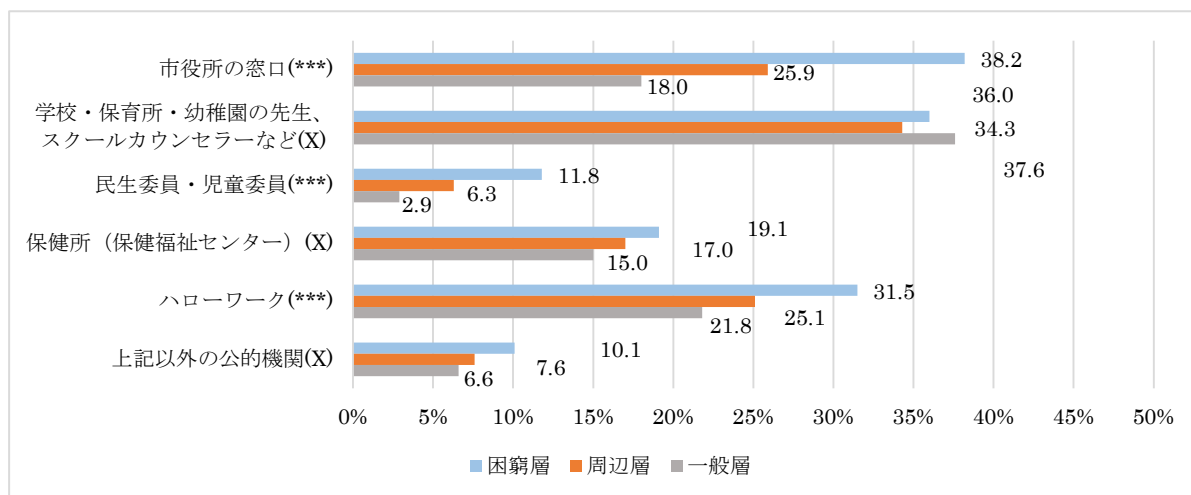
図表 10-4-1 公的機関に相談した経験のある保護者の割合(小学5年生、中学2年生)



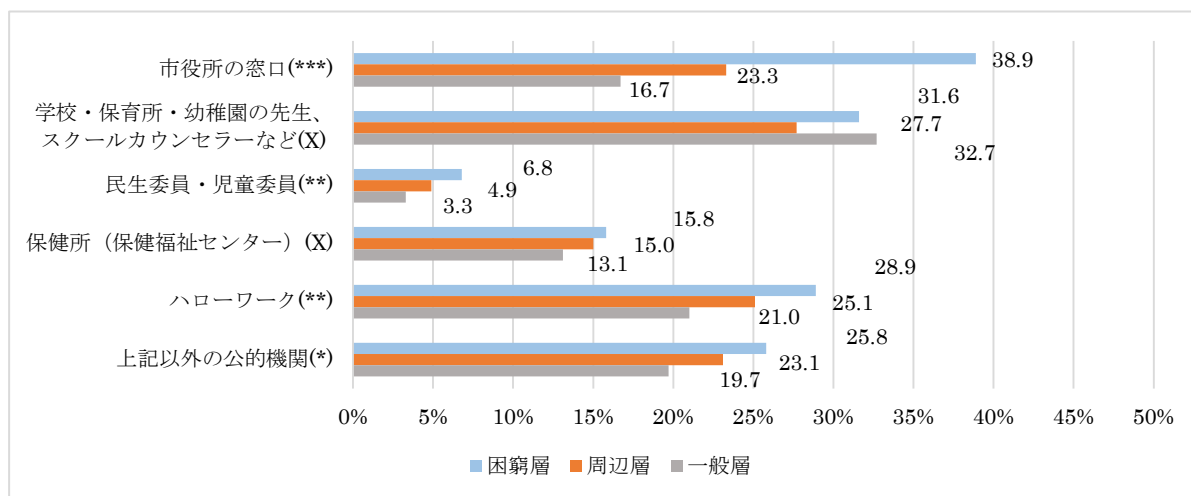


生活困難度別に、各公的機関に相談した経験を持つ保護者の割合をみると、「市役所の窓口」、「民生委員・児童委員」、「ハローワーク」について、両学年とも有意な差が確認された。また、「上記以外の公的機関」については中学2年生においてのみ、有意な差が確認された。有意な差が確認されたものはすべて、生活が困窮するほど相談した経験を持つ保護者の割合が高い。

図表 10-4-2 公的機関に相談した経験のある保護者の割合(小学5年生):生活困難度別



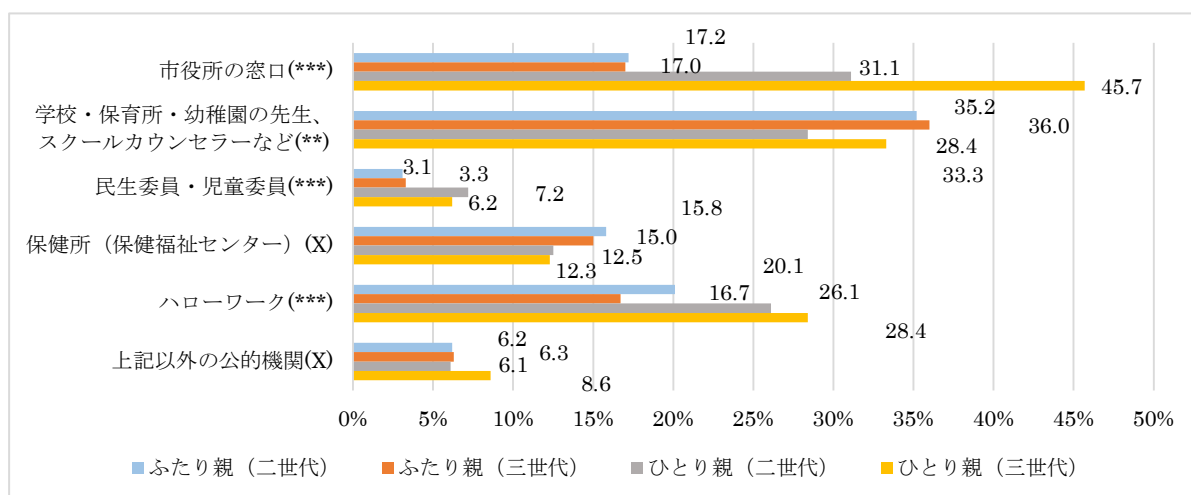
図表 10-4-3 公的機関に相談した経験のある保護者の割合(中学2年生):生活困難度別



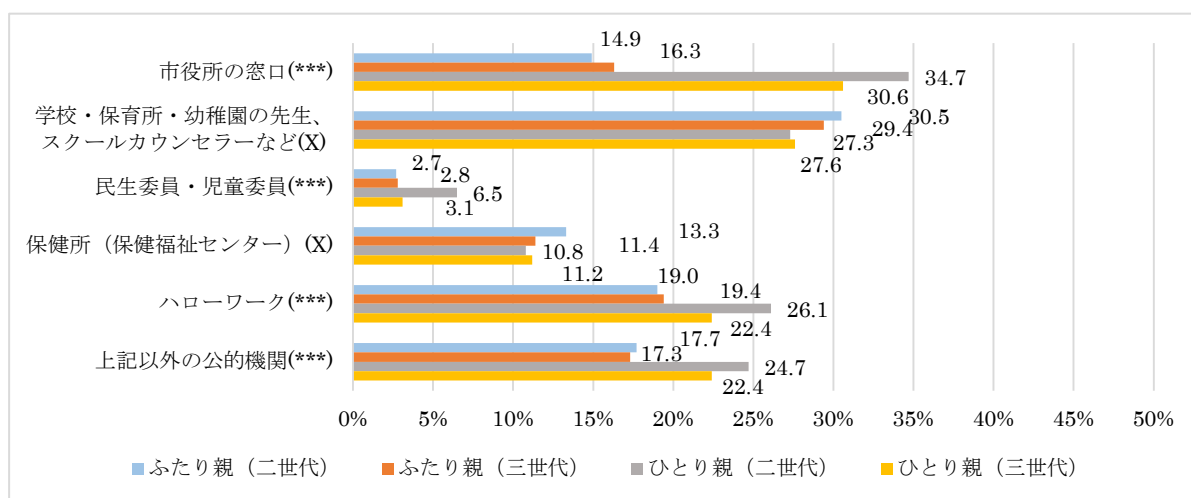
世帯タイプ別に、各公的機関に相談した経験を持つ保護者の割合をみると、小学5年生においては、「市役所の窓口」、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」、「民生委員・児童委員」、「ハローワーク」において有意な差が確認された。また、中学2年生においては、「市役所の窓口」、「民生委員・児童委員」、「ハローワーク」、「上記以外の公的機関」において有意な差が確認された。

「市役所の窓口」、「民生委員・児童委員」、「ハローワーク」については両学年とも、ひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも相談した経験を持つ保護者の割合が高い。また、中学2年生の「上記以外の公的機関」同様である。反対に、小学5年生の「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」はひとり親世帯の方が、ふたり親世帯よりも相談した経験を持つ保護者の割合が低い。「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」において、生活困難度別にはみられなかった差が、小学5年生では世帯タイプ別にはみられること、さらにはひとり親世帯の方が相談した経験を持つ保護者の割合が数ポイント程度とはいえ低い。

図表 10-4-4 公的機関に相談した経験のある保護者の割合(小学5年生):世帯タイプ別



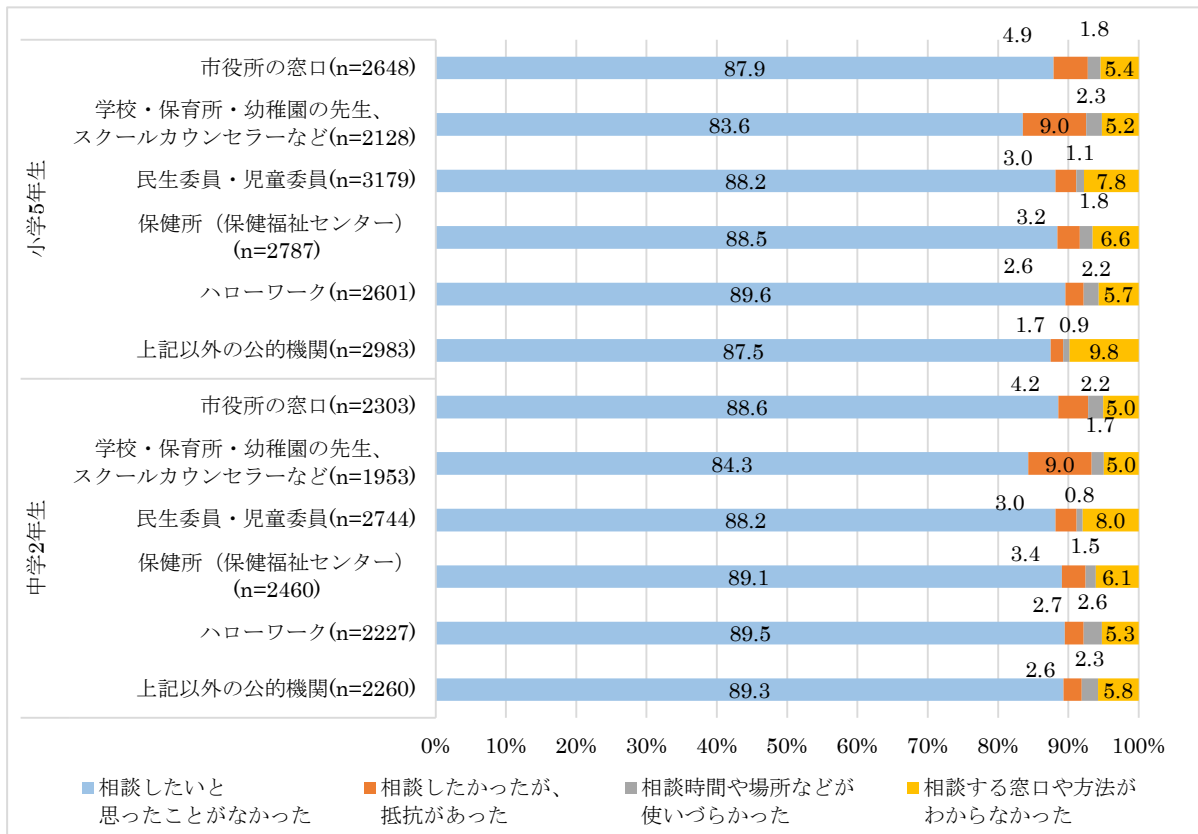
図表 10-4-5 公的機関に相談した経験のある保護者の割合(中学2年生):世帯タイプ別



## (2) 公的機関に相談しなかった理由

各々の公的機関について、相談した経験のない保護者に限り、その理由を図表 10-4-6 に示した。どの窓口についても約 80～90%の保護者が「相談したいと思ったことがなかった」と回答している。続いて「市役所の窓口」、「民生委員・児童委員」、「保健所（保健福祉センター）」、「ハローワーク」、「上記以外の公的機関」については、「相談する窓口や方法がわからなかった」と答えた保護者の割合が約 5%～10%で二番目に高い。「学校・保育園・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」については、「相談する窓口や方法がわからなかった」（小学 5 年生では 5.2%、中学 2 年生では 5.0%）よりも、「相談したかったが、抵抗があった」が両学年とも 9.0%と多い。学校関係者への相談経験を持つ保護者は約 30%と相対的に多い（図表 10-4-4 及び図表 10-4-5）が、相談した経験を持たない保護者の中には、抵抗感を持つ者も一定程度いることがうかがえる。

図表 10-4-6 公的機関に相談しなかった理由(小学 5 年生、中学 2 年生)



\*各公的機関に相談した経験のない保護者に限る。

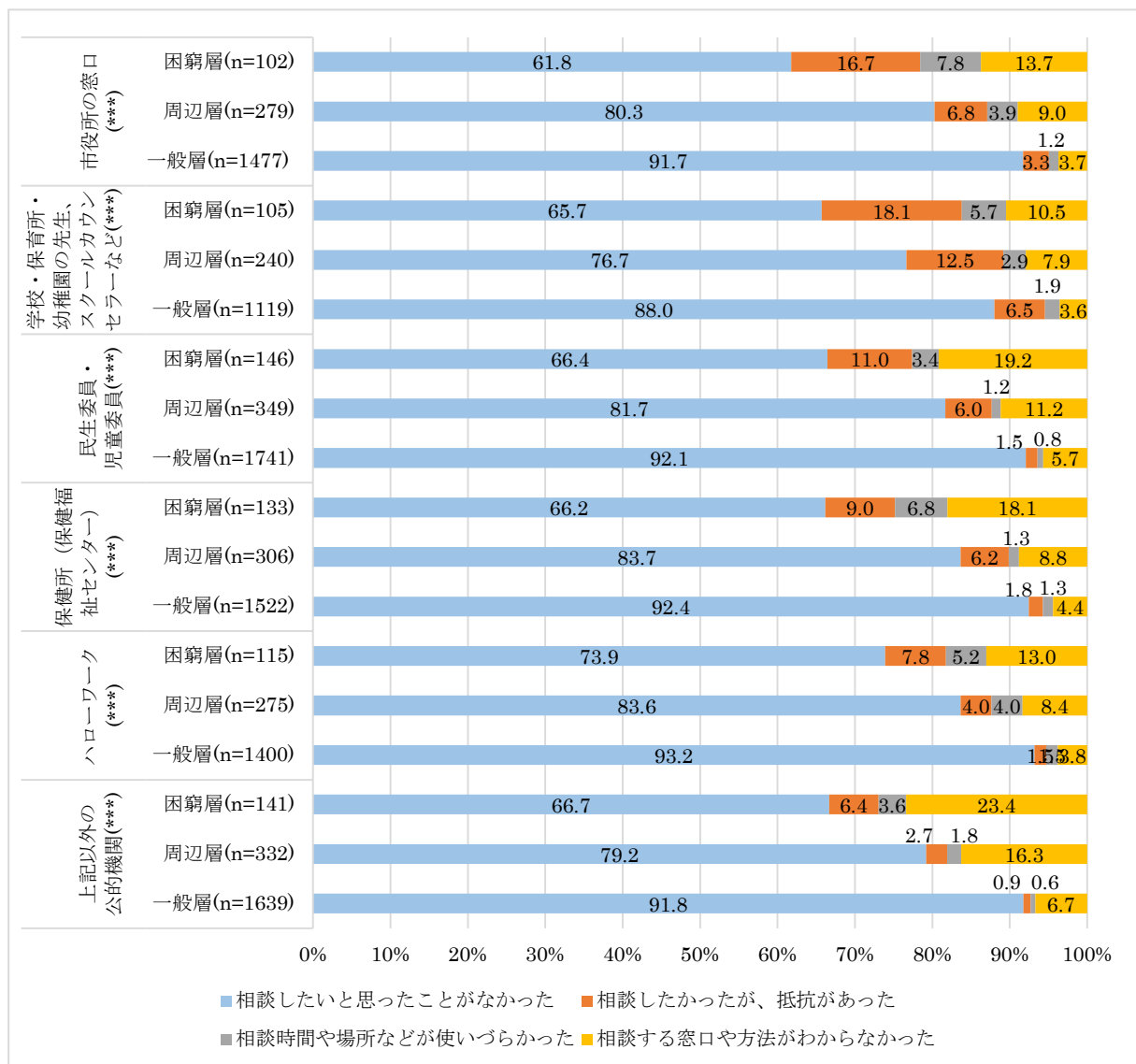
生活困難度別に保護者が公的機関に相談しなかった理由をみると、両学年とも全ての公的機関において有意な差が確認された。また、ほとんどすべての公的機関において、「相談したかったが、抵抗があった」、「相談時間や窓口が使いづらかった」、「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が、生活が困窮するほど高い<sup>5</sup>。また、「相談したいと思ったことがなかった」は、生活が

<sup>5</sup> 中学 2 年生の「市役所の窓口」の「相談時間や場所などが使いづらかった」のみ、周辺層（3.3%）の方が困窮層（2.9%）よりも割合が高い。ただし、その差は 0.4 ポイントであり、一般層の割合は 1.5%と困窮層よりも低い。この結果は、生活が困窮するほど、相談する意向を持ちながらも相談しなかった保護者の割合が高いという全体的な傾向から、大きく外れるもので

困窮するほど低い。困窮層においては、ほとんど全ての窓口について、相談したいが相談に至らなかった層（「相談したかったが、抵抗があった」、「相談時間や場所などが使いづらかった」、「相談する窓口や方法が分からなかった」）の割合が30%を超えている（小学5年生「ハローワーク」を除く）。また、中学2年生の困窮層において、その割合がより高く、「市役所の窓口」と「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」においては、相談したいが相談に至らなかった層の割合は40%を超える。

困窮層において「相談したかったが、抵抗があった」の割合が最も高かったのが、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」であり、小学5年生では18.1%、中学2年生では25.9%であった。図表10-4-6にて、学校関係者への相談に対する抵抗感を指摘したが、この傾向は生活が困窮するほど強い。

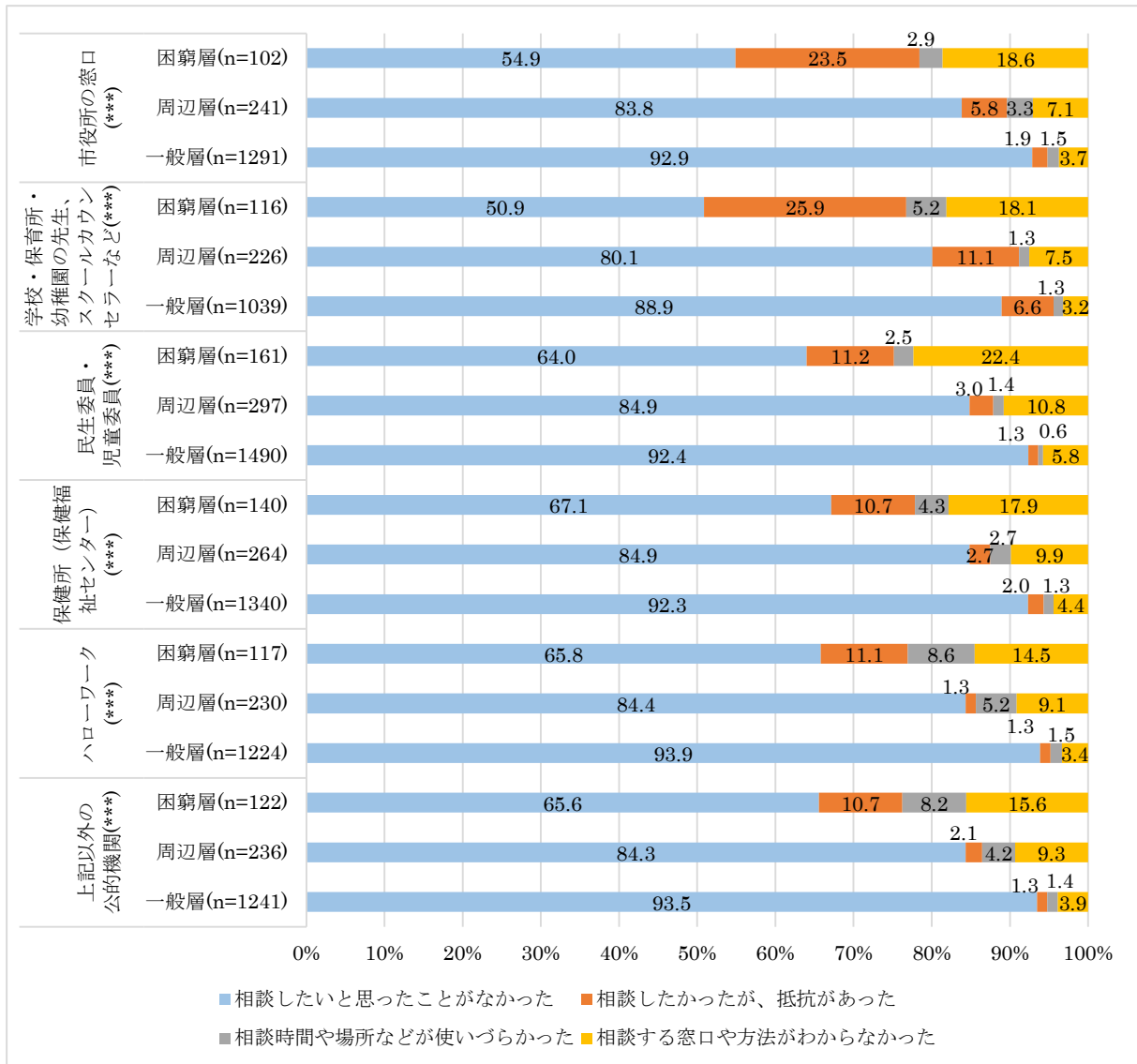
図表 10-4-7 公的機関に相談しなかった理由(小学5年生):生活困難度別



\*各公的機関に相談した経験のない保護者に限る。

はない。

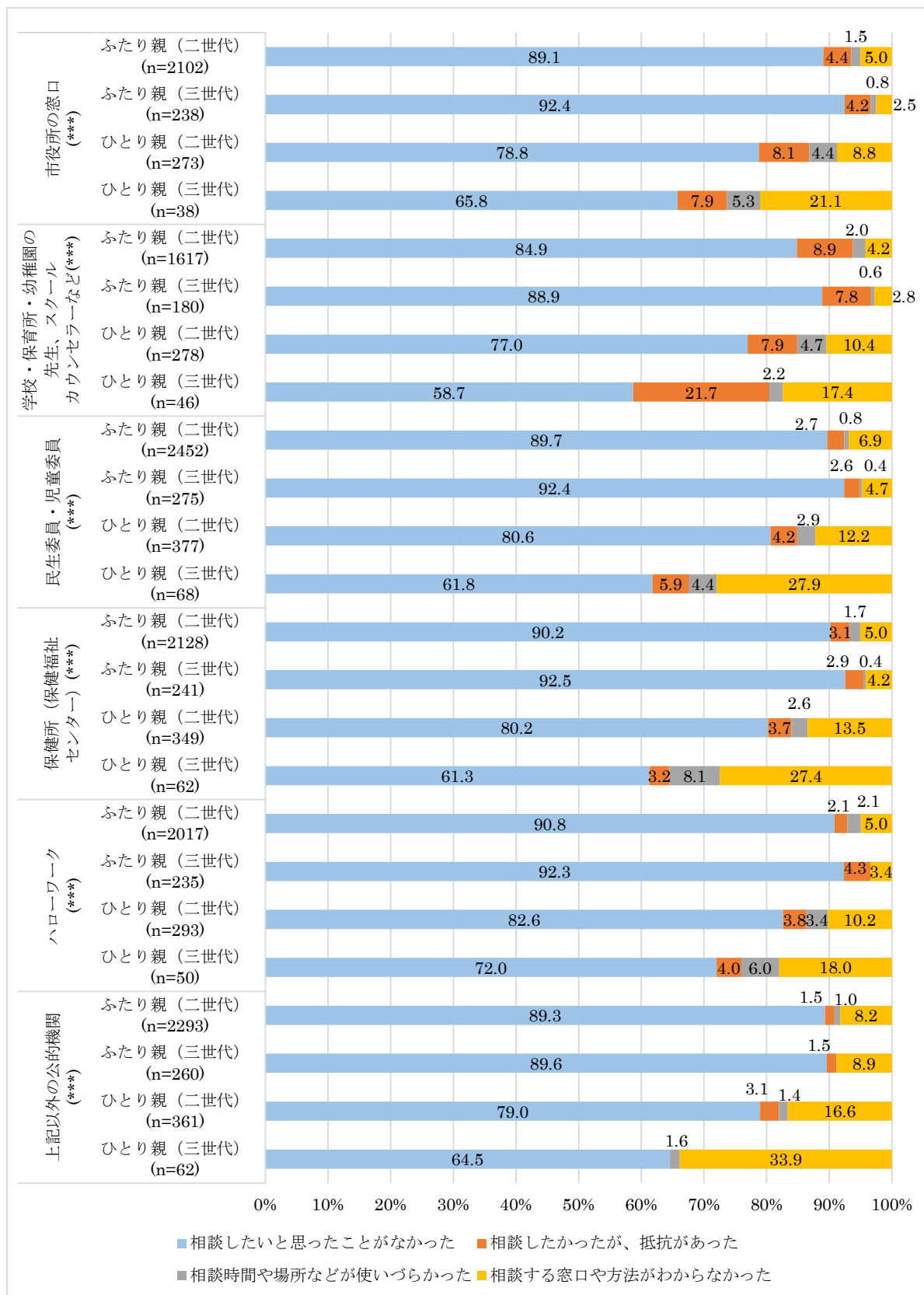
図表 10-4-8 公的機関に相談しなかった理由(中学 2 年生):生活困難度別



\*各公的機関に相談した経験のない保護者に限る。

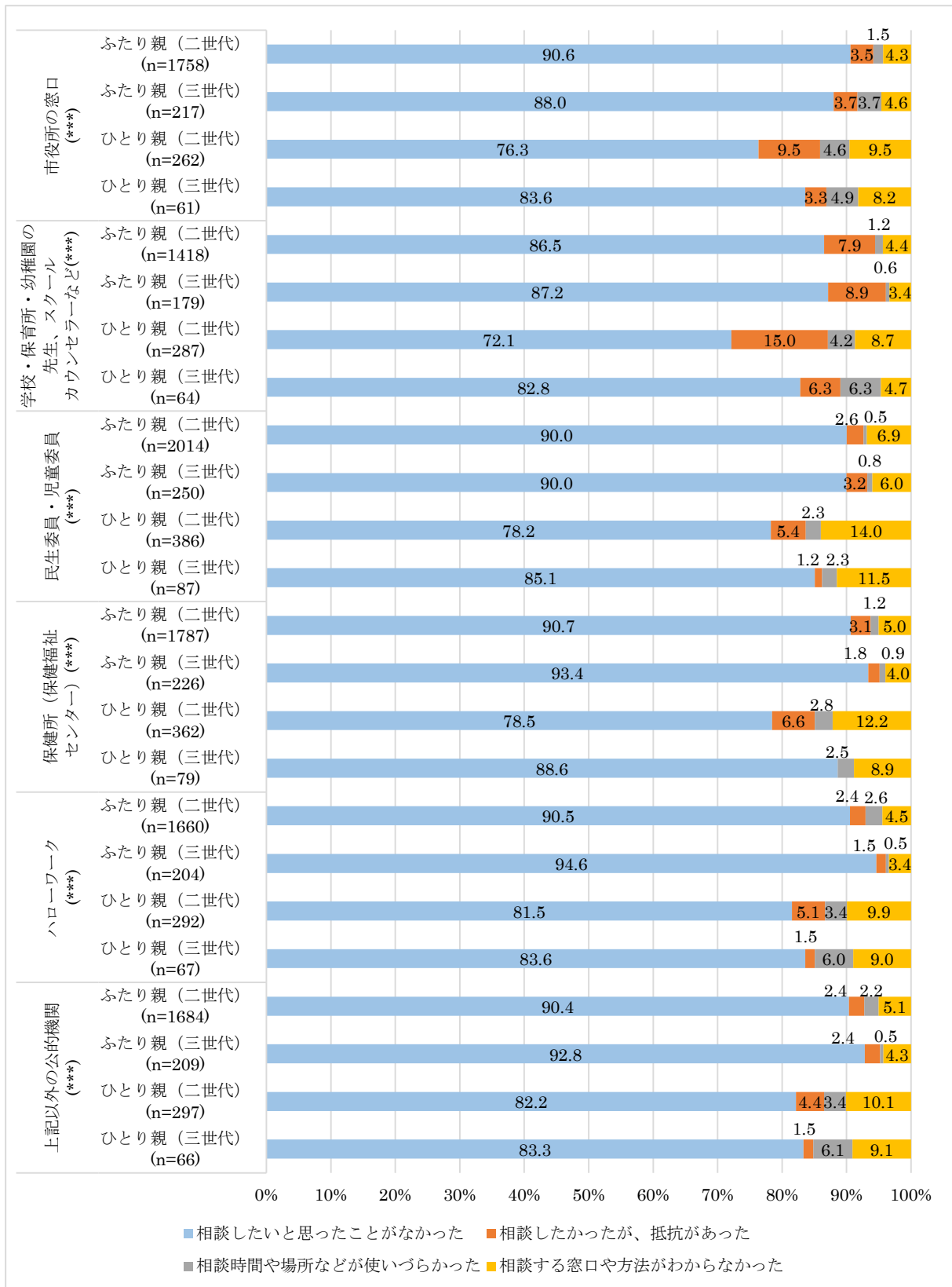
世帯タイプ別に保護者が公的機関に相談しなかった理由をみると、両学年とも全ての公的機関において有意な差が確認された。両学年とも全ての公的機関において、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも、相談に至らなかった層(「相談したかつたが、抵抗があつた」、「相談時間や場所などが使いづらかつた」、「相談する窓口や方法がわからなかつた」)の割合が高い。ひとり親世帯同士で比較すると、小学 5 年生においては、三世帯のひとり親世帯の方が、その割合が高く、中学 2 年生においては反対に、二世帯のひとり親世帯の割合の方が高い。また、困窮層の傾向と、ひとり親世帯の傾向を比較すると、全体的に困窮層の方が、相談意向を持ちながらも相談に至らなかった層の割合が高い傾向にある。特に中学 2 年生においては、ひとり親世帯の二世帯と三世帯の両方において、その割合は 30%を超えることはないのに対し、中学 2 年生の困窮層においては全ての窓口で 30%を超えている。中学 2 年生においては、世帯タイプよりも生活困難度の方が、保護者の相談窓口の利用状況に影響を与えている可能性がある。

図表 10-4-9 公的機関に相談しなかった理由(小学5年生):世帯タイプ別



\*各公的機関に相談した経験のない保護者に限る。

図表 10-4-10 公的機関に相談しなかった理由(中学2年生):世帯タイプ別



\*各公的機関に相談した経験のない保護者に限る。

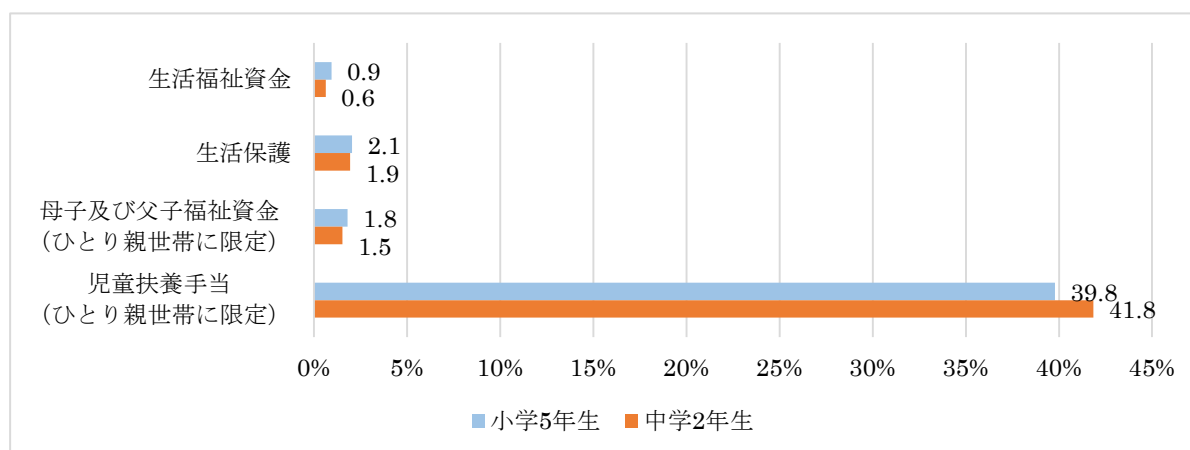
## 5. 金銭的支援制度の利用

### (1) 金銭的支援制度の利用経験

次に、保護者票の「あなたのご家庭では、以下の支援制度等（生活福祉資金、生活保護、母子及び父子福祉資金、児童扶養手当）は、これまでに利用したことがありますか」の回答から、金銭的支援制度を利用した経験のある保護者の割合をみる。その結果、「生活福祉資金」については、小学5年生0.9%、中学2年生0.6%、「生活保護」については、小学5年生2.1%、中学2年生1.9%である。母子及び父子福祉資金と、児童扶養手当は主にひとり親世帯を対象とした制度であるため、回答者をひとり親世帯に限定したうえで利用経験をみた。すると、「母子及び父子福祉資金」については、小学5年生1.8%、中学2年生1.5%、「児童扶養手当」については、小学5年生39.8%、中学2年生41.8%である。

両学年とも、約40%にのぼるひとり親世帯の児童扶養手当の利用経験を除くと、生活福祉資金、生活保護、母子及び父子福祉資金の利用経験率はいずれも数パーセントである。

図表 10-5-1 金銭的支援制度の利用経験(小学5年生、中学2年生)



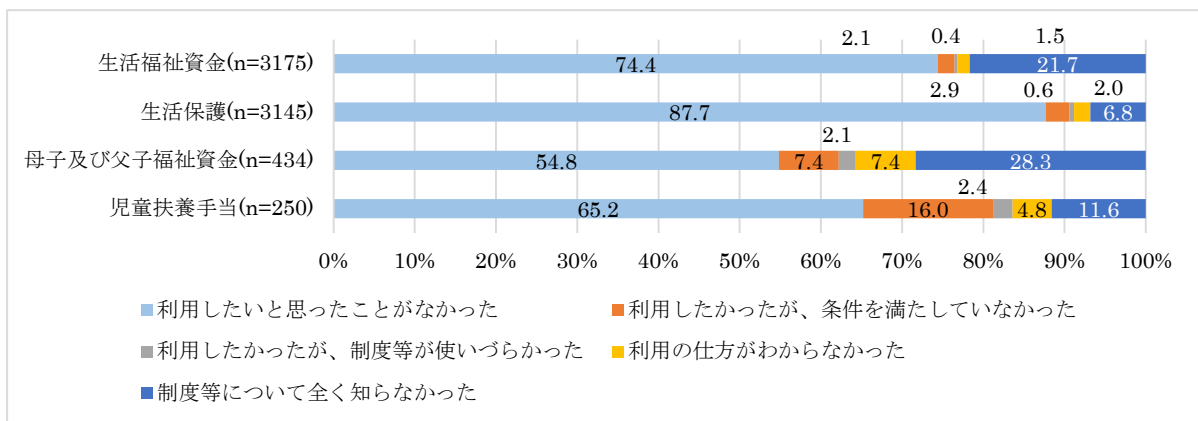
### (2) 金銭的支援制度を利用したことがない理由

金銭的支援制度を利用したことがない保護者に限り、制度を利用しなかった理由をみると、どの支援制度も「利用したいと思ったことがなかった」と回答した保護者の割合が一番高かった。

続いて、「制度等について全く知らなかった」と回答した保護者の割合が、「生活福祉資金」、「生活保護」、「母子及び父子福祉資金」において二番目に高いが、支援制度によってその割合は大きく異なる。「生活保護」についてはその割合が小学5年生では6.8%、中学2年生では7.2%と10%を下回るのに対し、「生活福祉資金」については小学5年生では21.7%、中学2年生では21.4%、母子及び父子福祉資金については小学5年生では28.3%、中学2年生では29.7%であった。「児童扶養手当」においては、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」が小学5年生では16.0%、中学2年生では18.9%と二番目に高い。「母子及び父子福祉資金」においては「利用の仕方がわからなかった」が小学5年生のひとり親世帯では7.4%、中学2年生のひとり親世帯では8.5%と他の支援制度より相対的に高い。



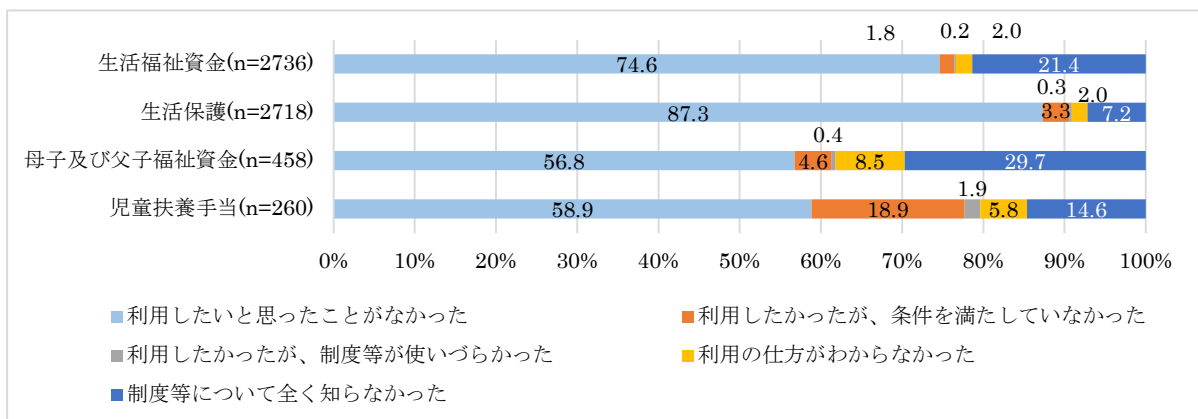
図表 10-5-2 金銭的支援制度を利用したことがない理由(小学 5 年生)



\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

図表 10-5-3 金銭的支援制度を利用したことがない理由(中学 2 年生)



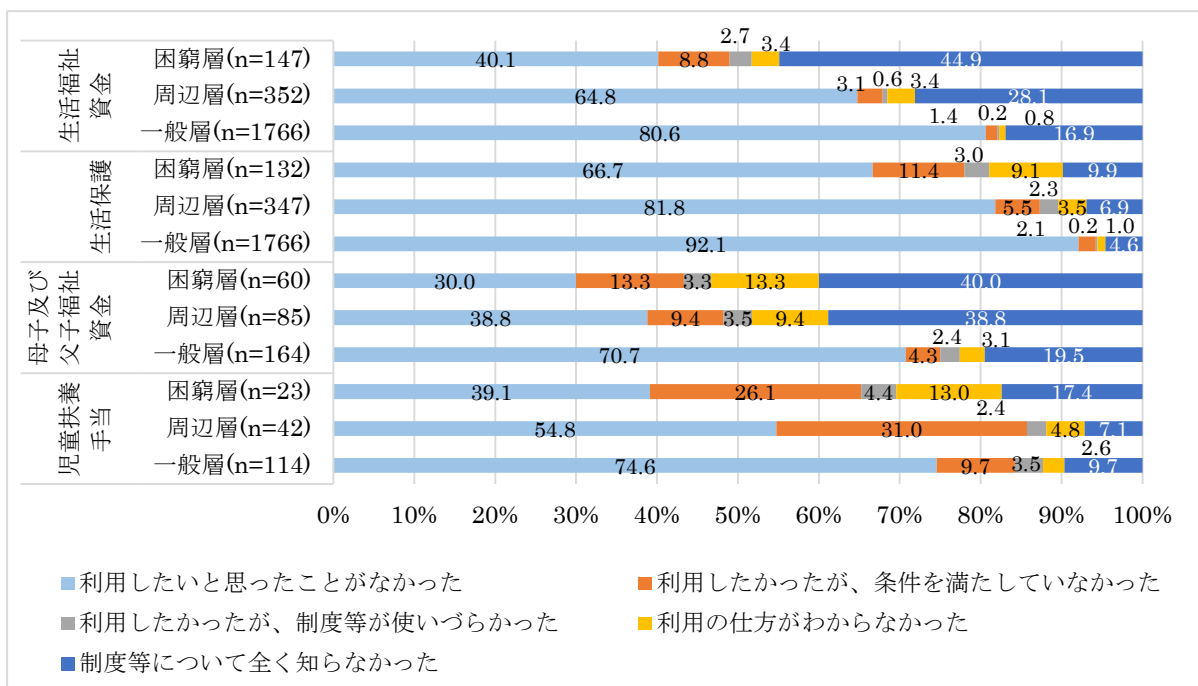
\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

生活困難度別にみると、両学年とも全ての金銭的支援制度において有意な差が確認された。また、ほとんどすべての金銭的支援制度について、生活が困窮するほど制度の不知や条件が理由で利用に至らなかった割合が高い(中学 2 年生の「児童扶養手当」を除く)。

個別の理由をみると、困窮層における「制度等について全く知らなかった」の割合の高さが目立つ。特に、「生活福祉資金」は、利用経験を持たない困窮層の 40%以上(小学 5 年生 44.9%、中学 2 年生 43.0%)が、制度を認知していなかったため利用しなかったと答えている。「母子及び父子福祉資金」は、利用経験を持たない(ひとり親世帯の)困窮層の約 30%から 40%(小学 5 年生 40.0%、中学 2 年生 28.8%)、「児童扶養手当」は利用経験を持たない(ひとり親世帯の)困窮層の約 15%(小学 5 年生 17.4%、中学 2 年生 16.1%)が制度について全く知らなかったと答えている。なお、「児童扶養手当」については、困窮層、周辺層における「利用したかったが、条件を満たしていなかった」の占める割合も相対的に高い(小学 5 年生困窮層 26.1%、小学 5 年生周辺層 31.0%。中学 2 年生困窮層 22.6%、中学 2 年生周辺層 29.6%)。

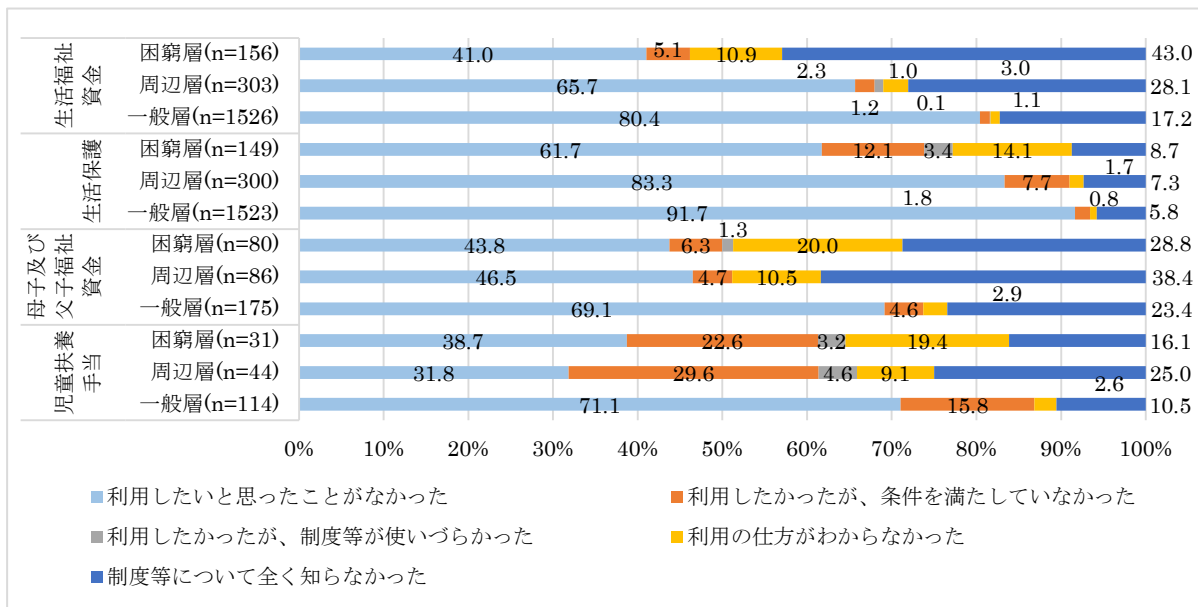
図表 10-5-4 金銭的支援制度を利用したことがない理由(小学5年生):生活困難度別(全て\*\*\*)



\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

図表 10-5-5 金銭的支援制度を利用したことがない理由(中学2年生):生活困難度別(全て\*\*\*)



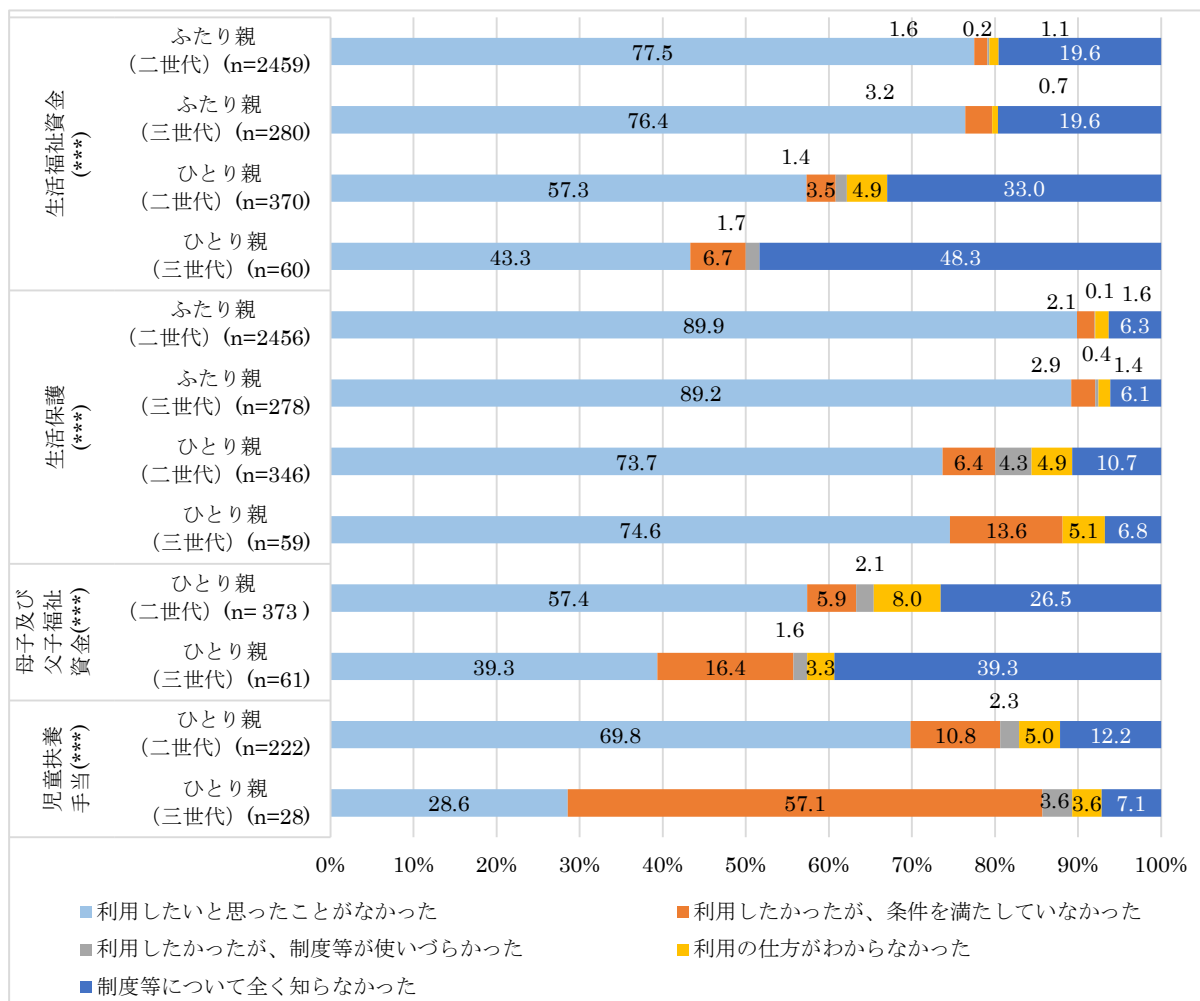
\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

世帯タイプ別にみると、中学2年生の世帯の「母子及び父子福祉資金」以外は全て有意な差が確認された。「生活福祉資金」については両学年とも、「生活保護」については、小学5年生の世帯において、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が、制度の不知や条件に合わないとの理由で利用に至らなかった割合が高い。小学5年生の「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」については、三世帯のひとり親世帯の方が、二世帯のひとり親世帯よりも、利用意向があったにもかかわらず利用に至らなかった割合が高い。

個別の理由で特徴的な分布を示しているのが、「生活福祉資金」と「母子及び父子福祉資金」の「制度等について全く知らなかった」と答えたひとり親世帯の割合の高さである。「生活福祉資金」については、「ひとり親（二世帯）世帯」は小学5年生33.0%、中学2年生34.9%、「ひとり親（三世帯）世帯」は小学5年生48.3%、中学2年生32.1%である。「母子及び父子福祉資金」については、「ひとり親（二世帯）世帯」は小学5年生26.5%、中学2年生29.7%、「ひとり親（三世帯）世帯」は小学5年生39.3%、中学2年生29.8%である。また、「児童扶養手当」については、両学年とも「ひとり親（三世帯）世帯」の「利用したかったが、条件を満たしていなかった」の割合の高さが目立つ（小学5年生は57.1%、中学2年生は35.6%）。

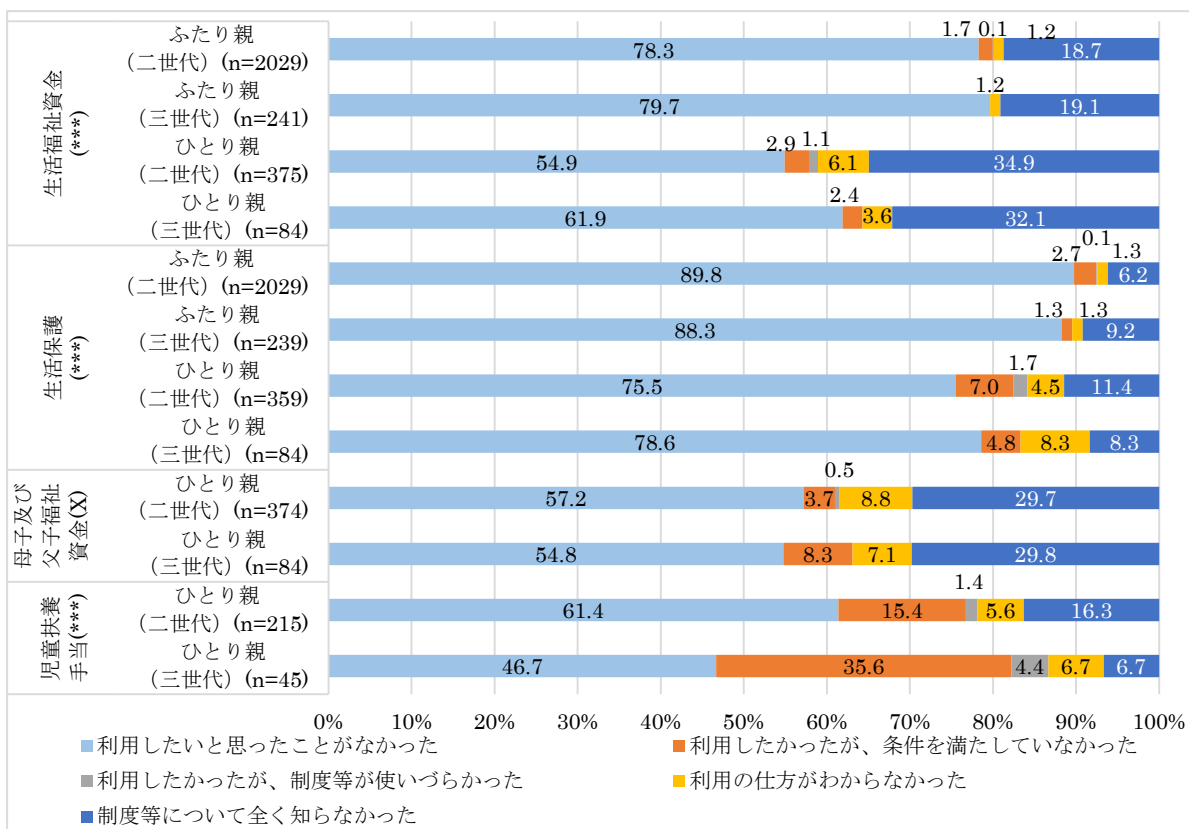
図表 10-5-6 金銭的支援制度を利用したことがない理由(小学5年生):世帯タイプ別



\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

図表 10-5-7 金銭的支援制度を利用したことがない理由(中学2年生):世帯タイプ別



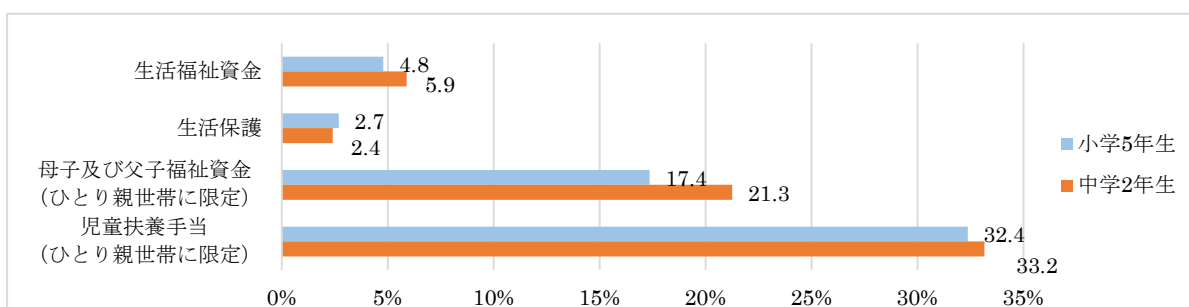
\*各支援制度を利用したことがないと答えた保護者に限る。

\*「母子及び父子福祉資金」と「児童扶養手当」はひとり親世帯に限る。

### (3) 金銭的支援制度の利用意向

保護者票から利用意向を学年別にみると、小学5年生は、「生活福祉資金」は4.8%、「生活保護」は2.7%、中学2年生は、「生活福祉資金」は5.9%、「生活保護」は2.4%であった。また、ひとり親世帯の保護者のうち、小学5年生においては「母子及び父子福祉資金」は17.4%、「児童扶養手当」は32.4%、中学2年生においては「母子及び父子福祉資金」は21.3%、「児童扶養手当」は33.2%が利用意向を持っている。「母子及び父子福祉資金」の実際の利用率に比べ(小学5年生1.8%、中学2年生1.5%) (図表 10-5-1)、利用意向を持つひとり親世帯の保護者の割合が相対的に高い(小学5年生17.4%、中学2年生21.3%)。

図表 10-5-8 金銭的支援制度の利用意向(小学5年生、中学2年生)



# 第 1 1 章 外国にルーツを持つ世帯の状況

本章では、保護者票の「お子さんのご両親の国籍をそれぞれ教えてください」との問いの回答から、親の国籍に着目し、父親又は母親が外国籍を持つ世帯を、外国籍の親がいる世帯（以下「外国にルーツを持つ世帯」）、それ以外で両親ともに日本国籍を持つ世帯（以下「外国にルーツを持たない世帯」）と分類した。分類の結果、集計対象となったのは下表のとおりである。一方の親のみが日本人、他方が「いない」、「無回答」の場合は、国籍が判別できないため集計対象外としている。以下、いくつかの項目について、当該分類による集計結果をみていく。

図表 11-0-1 外国にルーツを持つ世帯に関する分析対象サンプル数

	小学 5 年生		中学 2 年生	
	保護者	子ども	保護者	子ども
外国にルーツを持たない世帯	3,239	3,072	2,876	2,812
外国にルーツを持つ世帯	154	138	78	75

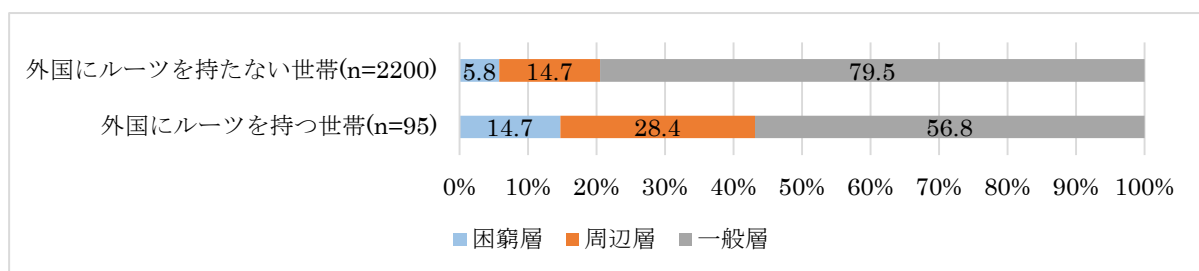
## 1. 生活困難度

### (1) 生活困難層の割合

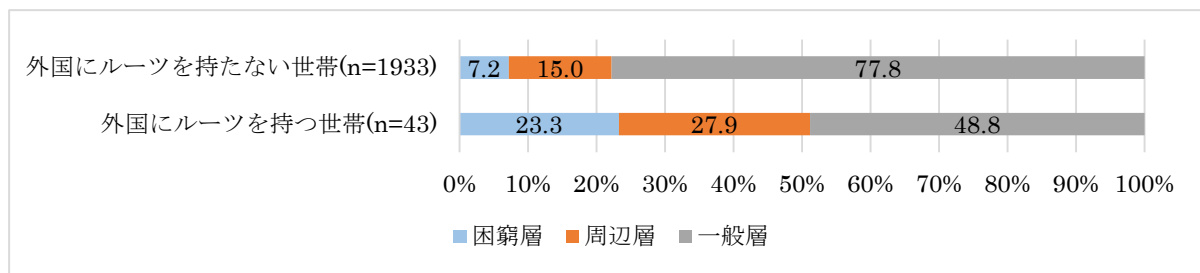
外国にルーツを持つ世帯と持たない世帯の生活困難度をみると、両学年ともに統計的に有意な差がみられた。小学 5 年生においては、外国にルーツを持つ世帯の困窮層の割合は 14.7%、周辺層の割合は 28.4%に対し、外国にルーツを持たない世帯ではそれぞれ 5.8%、14.7%となっており、どちらの層も外国にルーツを持つ世帯の方が約 2 倍の割合となっている。外国にルーツを持つ世帯においては、生活困難層（困窮層+周辺層）が 43.1%となっており、半数近い世帯が生活困難を抱えている。

中学 2 年生においては、外国にルーツを持つ世帯の困窮層の割合は 23.3%、周辺層の割合は 27.9%なのに対し、外国にルーツを持たない世帯ではそれぞれ 7.2%、15.0%となっており、困窮層は約 3 倍、周辺層は約 2 倍の高さである。生活困難層全体では、半数を超える 51.2%となっている。

図表 11-1-1 生活困難度(小学 5 年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



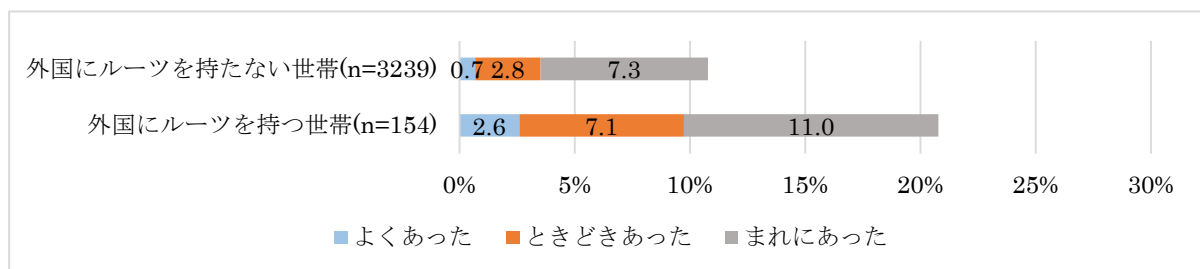
図表 11-1-2 生活困難度(中学 2 年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



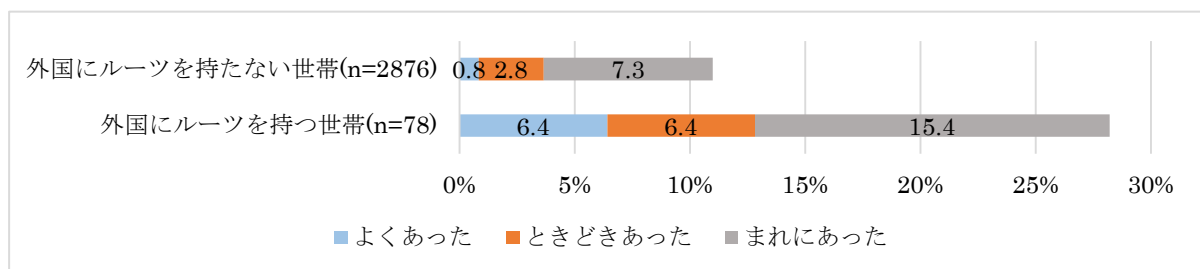
## (2) 食料を買えなかった経験

「あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」の問いに対する回答から外国にルーツを持つ世帯の食料困窮経験をみた。両学年ともに、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯よりも食料を買えなかった経験がある世帯が際立って高くなっている。小学5年生の外国にルーツを持つ世帯においては、2.6%が「よくあった」、7.1%が「ときどきあった」、11.0%が「まれにあった」と回答しており、合計すると20.7%にて食料が買えなかった経験がある。中学2年生では、この割合がそれぞれ6.4%、6.4%、15.4%であり、計28.2%であった。

図表 11-1-3 食料を買えなかった経験(小学 5 年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



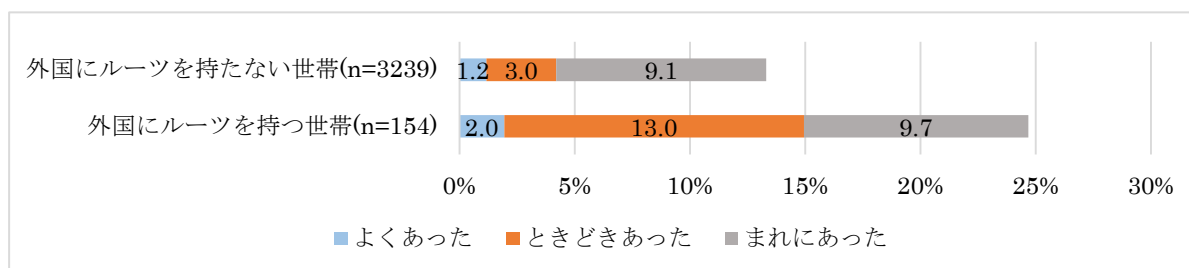
図表 11-1-4 食料を買えなかった経験(中学 2 年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



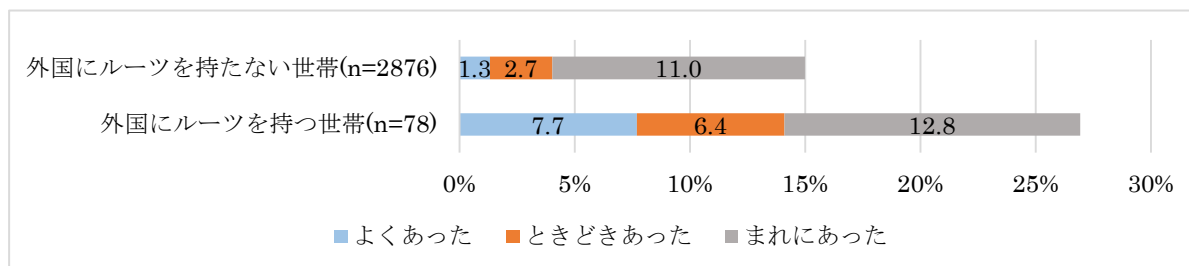
### (3) 衣類を買えなかった経験

「あなたのご家庭では過去1年の間に、お金が足りなくて家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか」の問いに対する回答から外国にルーツを持つ世帯の衣類困窮の経験をみた。ここにおいても、両学年ともに、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯よりも衣類を買えなかった経験がある世帯の割合が際立って高い。小学5年生の外国にルーツを持つ世帯においては、2.0%が「よくあった」、13.0%が「ときどきあった」、9.7%が「まれにあった」と回答しており、合計すると24.7%が衣類が買えなかった経験がある。中学2年生では、この割合がそれぞれ7.7%、6.4%、12.8%であり、計26.9%であった。とくに衣類を買えないことが「よくあった」に関して、中学2年生の外国にルーツを持つ世帯では7.7%と、外国にルーツを持たない世帯の1.3%と比べて約6倍の高さである。

図表 11-1-5 衣類を買えなかった経験(小学5年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



図表 11-1-6 衣類を買えなかった経験(中学2年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)

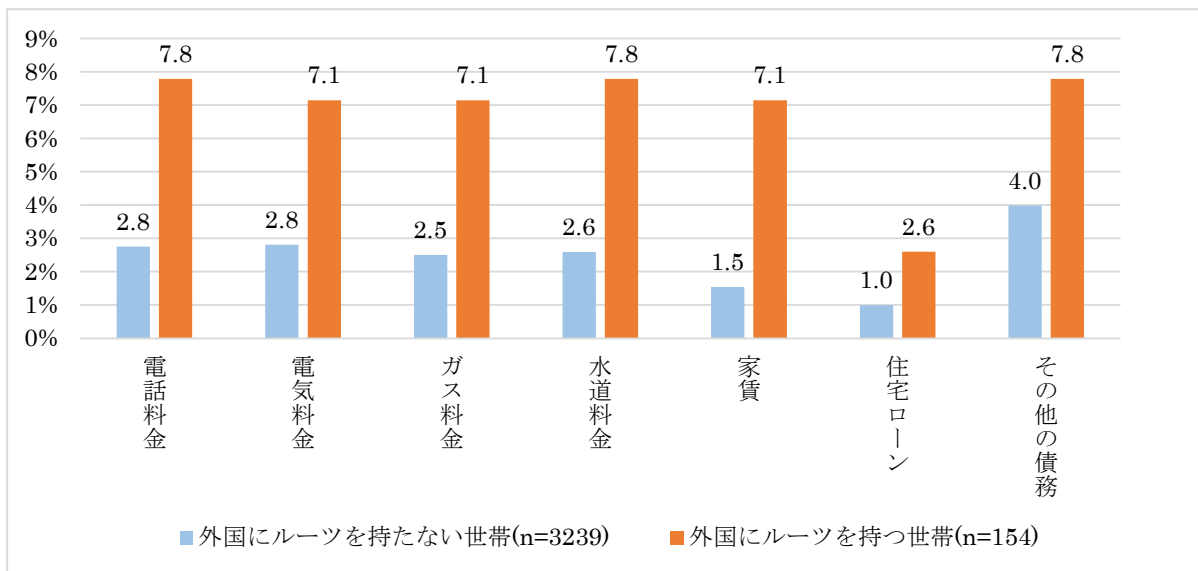


### (4) 公共料金の滞納経験

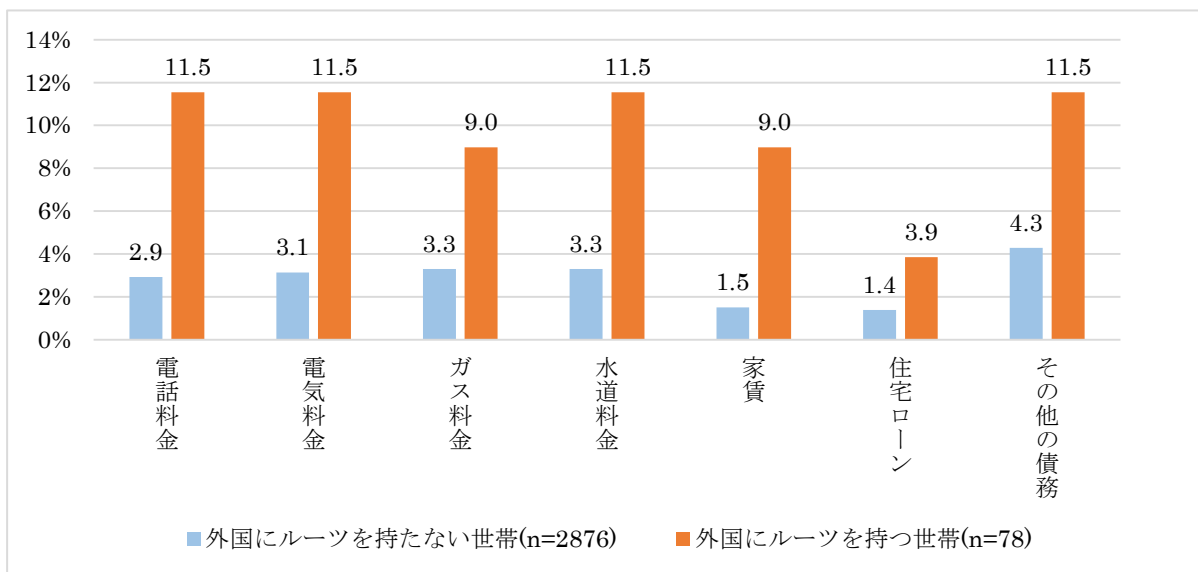
次に、公共料金（電話、電気、ガス、水道）、家賃、住宅ローン、その他の債務の滞納経験をみた。保護者票にて「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか」との設問を設けており、「あった」、「なかった」、「該当しない（払う必要がない）」の3つの選択肢を設けている。この中で「あった」と答えた外国にルーツを持つ世帯の割合を集計した。ここにおいても、両学年ともに、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯よりも滞納経験が多い。

小学5年生では、外国にルーツを持つ世帯の約7~8%において電話、電気、ガス、水道料金、家賃、その他の債務の滞納経験がある。住宅ローンについては2.6%の世帯に滞納経験がある。中学2年生では、外国にルーツを持つ世帯の約9~12%において電話、電気、ガス、水道料金、家賃、その他の債務の滞納経験があり、住宅ローンについては3.9%であった。これらは、外国にルーツを持たない世帯に比べると、約2倍から6倍の高さである。

図表 11-1-7 公共料金の滞納の経験(小学 5 年生):外国ルーツの有無別(その他の債務のみ\*\*,それ以外はすべて\*\*\*)



図表 11-1-8 公共料金の滞納の経験(中学 2 年生):外国ルーツの有無別(すべて\*\*\*)



## 2. 授業の理解度

次に、外国にルーツを持つ世帯の子どもの状況をみるために、まず、子ども票の「あなたは、学校の授業がわからないことがありますか」から、授業の理解度を集計した。

小学 5 年生においては、外国にルーツを持つ世帯の子どもの 14.5%が、授業がわからないことが「よくある」と答えており、外国にルーツを持たない世帯の 8.1%に比べると高い割合となっている。無回答割合も、外国にルーツを持つ世帯の子どもの方が 5.8%と、外国にルーツを持たない世帯の 2.7%と比較して多い。その一方で、授業がわからないことが「ほとんどない」と答えた外国にルーツを持つ世帯の子どもの方が 26.8%と、外国にルーツを持たない世帯の子どもの 22.7%より多い。授業がわからないことが「よくある」、「ときどきある」と答えた割合の合計は、外国にルーツを持つ世帯では 29.0%、外国にルーツを持たない世帯では 21.9%であり、授業の理解度

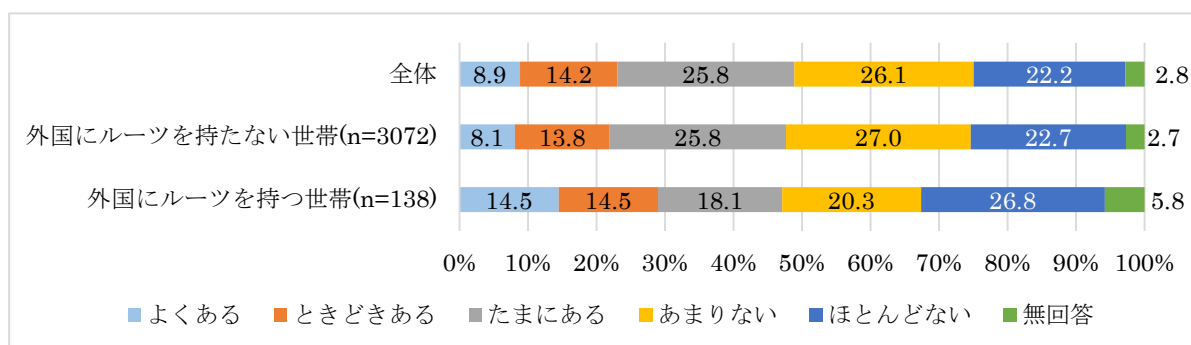


において、外国にルーツを持つ世帯の子どもは、外国にルーツを持たない世帯の子どもに比べて、よく理解できている者と理解できていない者に、二極化している傾向がみられた。

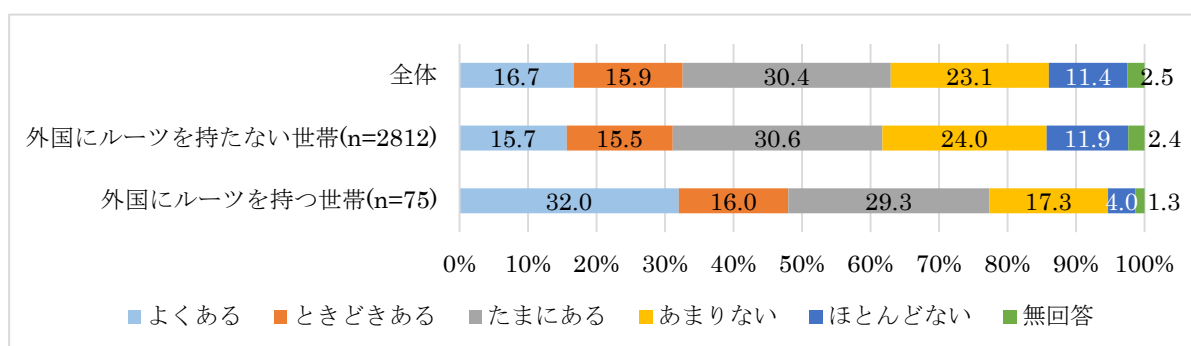
中学2年生では、外国にルーツを持つ世帯の子どもの32.0%が、授業がわからないことが「よくある」と答えており、外国にルーツを持たない世帯の15.7%と比べて、小学5年生よりも、大きな差がみられる。同様に、授業がわからないことが「ほとんどない」と答えた割合が、外国にルーツを持つ世帯の子どもでは4.0%、外国にルーツを持たない世帯の子どもでは11.9%となっている。授業がわからないことが「あまりない」と答えた割合も外国にルーツを持つ世帯では17.3%となっており、外国にルーツを持たない世帯の24.0%に比べて少ない。

両学年ともに、授業が分からないことが「よくある」子どもの割合が、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯に比べて、約2倍ほど多くなっている。また、中学2年生の方が小学5年生よりも、外国にルーツを持つ世帯の子どもの授業の理解度が低い傾向がみられる。

図表 11-2-1 授業の理解度(小学5年生):全体、外国ルーツの有無別(\*\*)



図表 11-2-2 授業の理解度(中学2年生):全体、外国ルーツの有無別(\*\*\*)

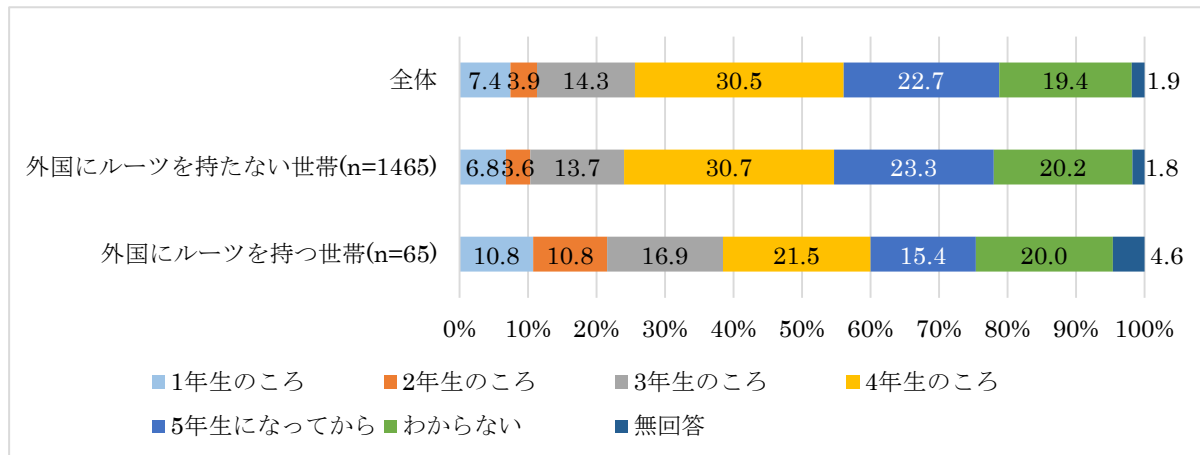


次に授業の分からなくなった時期について、上記の間で「よくある」、「ときどきある」、「たまにある」と答えた子どもに、いつから分からなくなったのかを聞き、集計した。小学5年生においては、授業が分からなくなった時期が「小学1年生」、「小学2年生」、「小学3年生」と答えた割合が、外国にルーツを持つ世帯の子どもでは小学1年生：10.8%、小学2年生：10.8%、小学3年生：16.9%、計38.5%となっており、外国にルーツを持たない世帯の子ども(小学1年生：6.8%、小学2年生：3.6%、小学3年生：13.7%、計24.1%)と比べて多く、外国にルーツを持つ世帯の

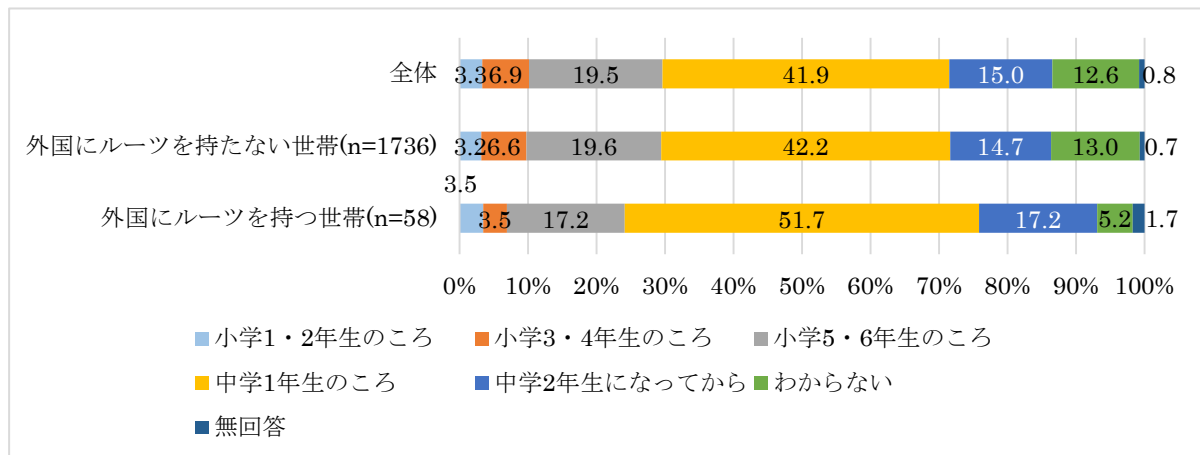
方が、小学3年生以前の早い段階から授業がわからなくなっている子どもが多い。

中学2年生では、統計的に有意な差はみられなかった。しかしながら、授業がわからなくなった時期が「中学1年生」と答えた割合については、外国にルーツを持つ世帯の子どもでは51.7%であるのに対し、外国にルーツを持たない世帯の子どもでは42.2%と、差が約10ポイントある。

図表 11-2-3 授業の分からなくなった時期(小学5年生):全体、外国ルーツの有無別(\*\*)



図表 11-2-4 授業の分からなくなった時期(中学2年生):全体、外国ルーツの有無別(X)



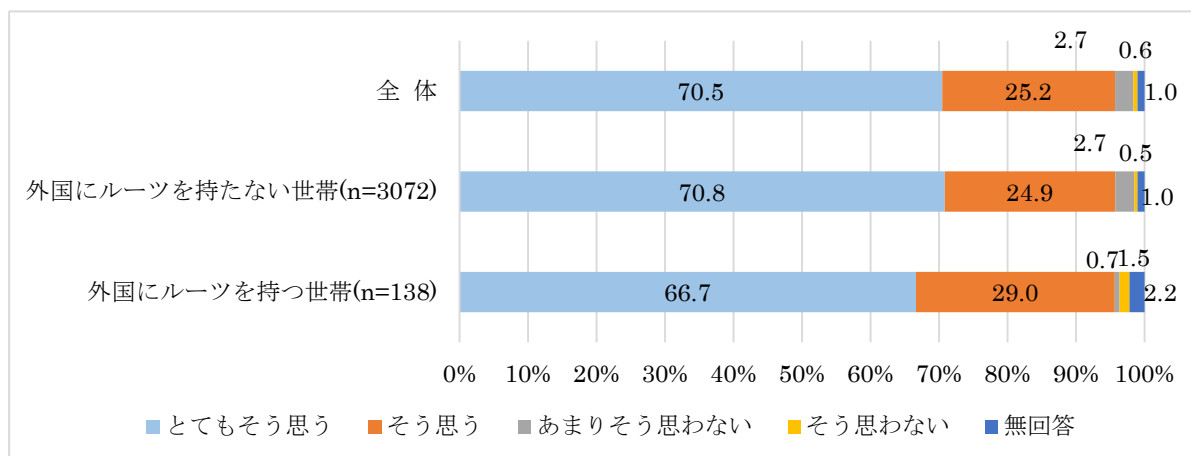
### 3. 友だちとの関係

次に、子ども票の「友だちと仲良くしていると思うか」の問の回答から、外国にルーツを持つ世帯の子どもの交友関係についてみた。

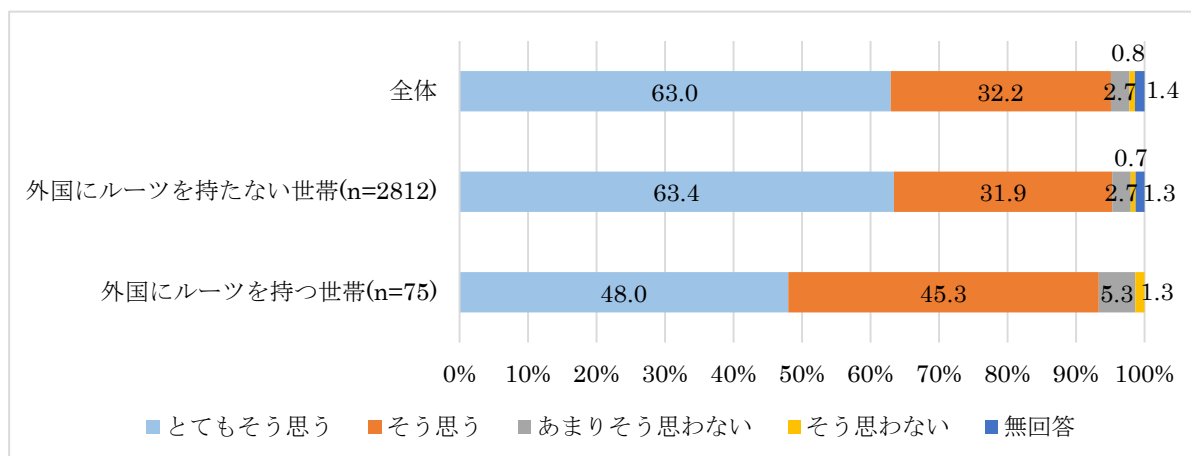
まず、小学5年生では、統計的に有意な差は検証されず、外国にルーツを持つ世帯の子どもも、持たない世帯の子どもも同様の交友関係があるとみられる。

しかし、中学2年生においては、「とてもそう思う」と答えた割合は、外国にルーツを持つ世帯の子どもでは48.0%、外国にルーツを持たない世帯の子どもでは63.4%と、外国にルーツを持たない世帯の子どもの方が多い。一方で、「そう思う」については、外国にルーツを持つ世帯の子どもでは45.3%、外国にルーツを持たない世帯の子どもでは31.9%となり、外国にルーツを持つ世帯の子どもの方が多い。「とても思う」、「そう思う」を合わせると、外国にルーツを持つ世帯の子どもの93.3%が、友人関係が良好であるが、その度合いについては、外国にルーツを持たない世帯の子どもに比べて若干低い。

図表 11-3-1 「友だちと仲良くしていると思うか」について(小学5年生):全体、外国ルーツの有無別(X)



図表 11-3-2 「友だちと仲良くしていると思うか」について(中学2年生):全体、外国ルーツの有無別(\*\*)



## 4. 保護者の健康状態

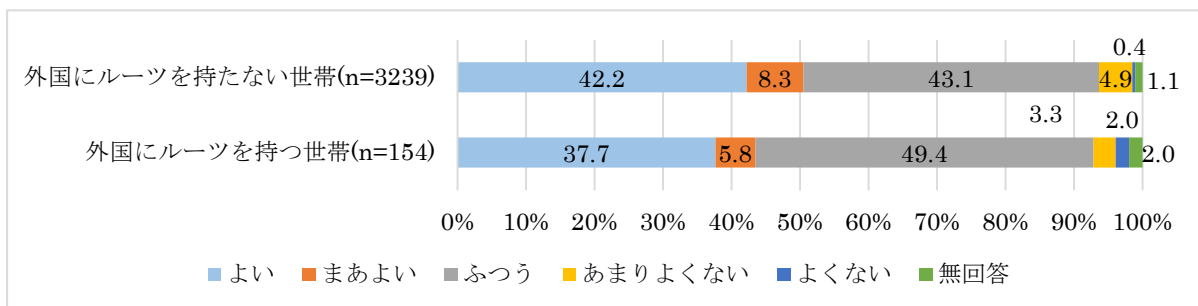
### (1) 保護者の健康状態

ここでは、保護者票の回答から、外国ルーツの有無別に保護者の健康状態をみる。

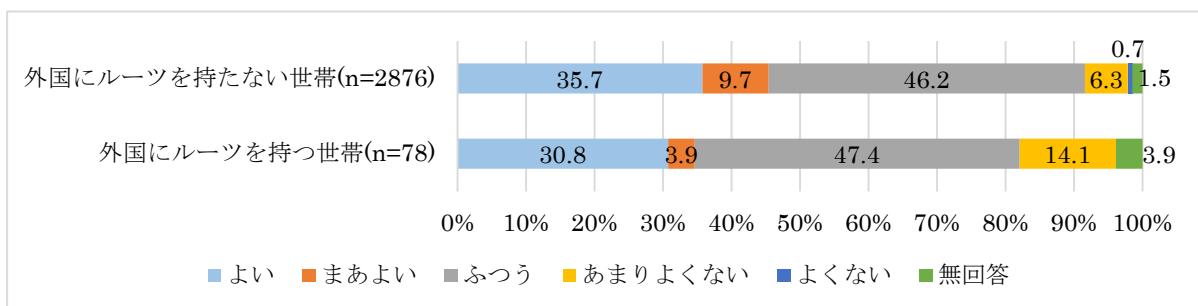
小学5年生では、統計的な差がみられ、外国にルーツを持たない世帯の保護者と比較して、外国にルーツを持つ世帯の保護者では健康状態が「よい」と回答した割合が低く、それぞれ、42.2%と37.7%となっている。また、「よくない」と答えた保護者も、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が若干高い（「外国にルーツを持つ世帯」2.0%、「外国にルーツを持たない世帯」0.4%）。

中学2年生では、両者の間で統計的に有意な差はみられなかった。

図表 11-4-1 保護者の健康状態(小学5年生):外国ルーツの有無別(\*\*)



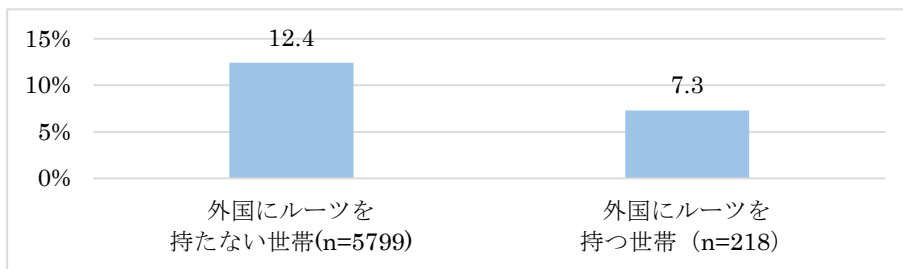
図表 11-4-2 保護者の健康状態(中学2年生):外国ルーツの有無別(X)



## (2) 医療の受診抑制経験およびその理由

ここでは、外国にルーツを持つ世帯における医療機関へ受診させなかった経験およびその理由についてみる。なお、サンプルサイズの関係上、小学5年生および中学2年生を合算して集計した結果を掲載している。保護者票の「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか」の問にて、「あった」と答えた割合をみると、外国にルーツを持たない世帯の保護者では12.4%であるのに対し、外国にルーツを持つ世帯の保護者では7.3%となっており、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が5.1ポイント少ない。

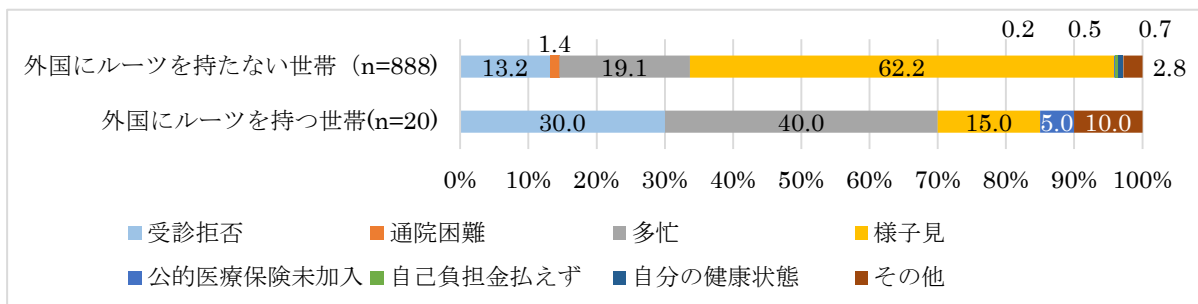
図表 11-4-3 医療の受診抑制経験「あった」(小学5年生、中学2年生合算):外国ルーツの有無別 (\*\*)



受診抑制経験が「あった」と回答した保護者にその理由を聞いた回答をみた。ここでは、選択肢が多いうえに外国人家庭のサンプルサイズが小さいことから、統計的検定は行わず集計結果のみを掲載する。理由の選択肢は、「子ども本人が受診しなかったため(受診拒否)」、「医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため(通院困難)」、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため(多忙)」、「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため(様子見)」、「公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため(公的医療保険未加入)」、「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため(自己負担金払えず)」、「自分の健康状態が悪かったため(自分の健康状態)」、「その他」である。

外国にルーツを持たない世帯では、最も多かったのは「様子見」で62.2%、「多忙」が19.1%と続く。一方、外国にルーツを持つ世帯において、もっとも割合が多かったのは「多忙」で40.0% (8人)、「受診拒否」が30.0% (6人)であった。

図表 11-4-4 医療機関への未受診理由(小学5年生、中学2年生合算)::外国ルーツの有無別



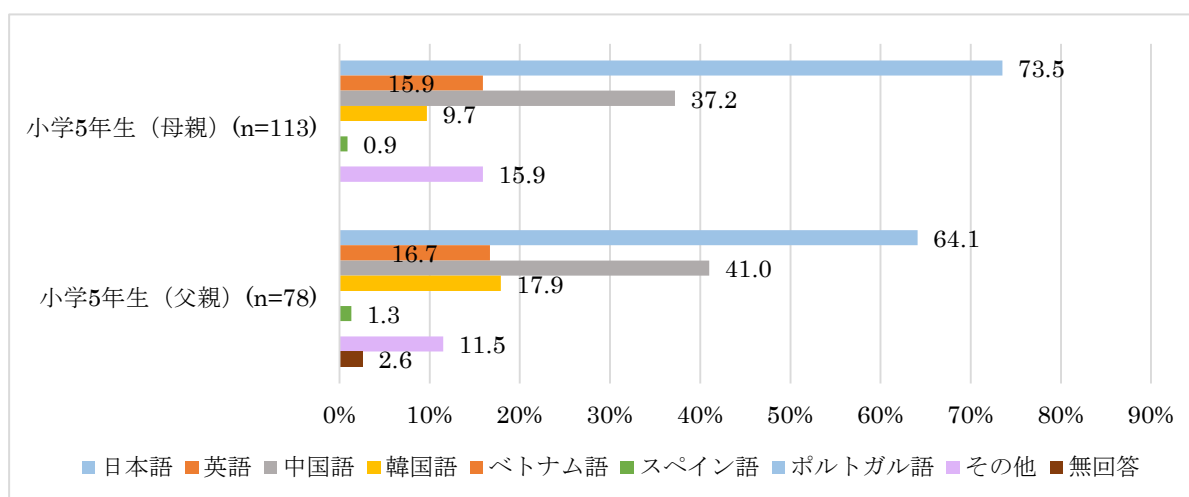
\*受診抑制経験がある世帯に限る。

## 5. 普段話す言語

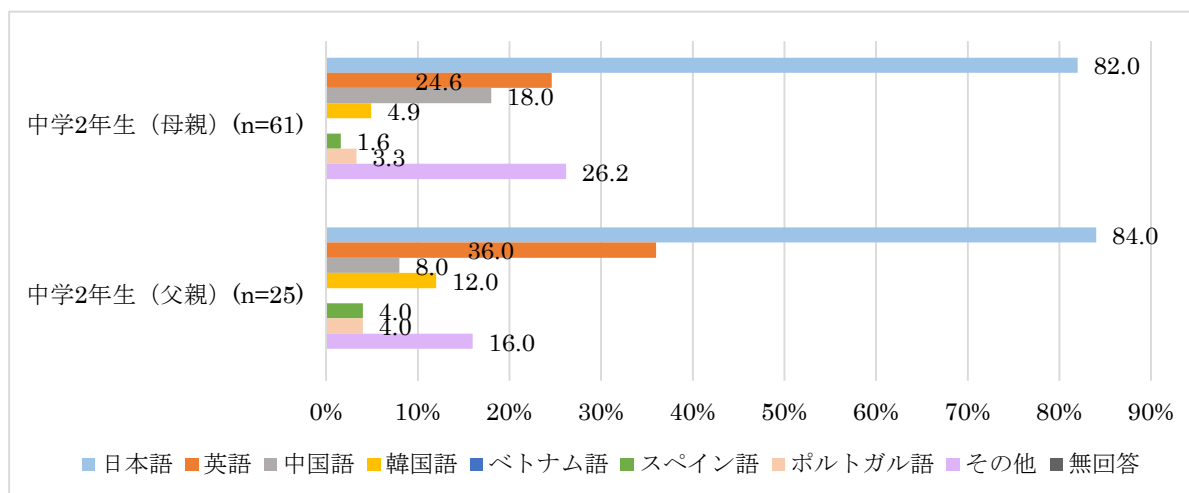
次に、保護者票にて、外国籍を持つ親のみに限定して、父親、母親それぞれに普段話す言語を聞いた。

小学5年生においては、母親では73.5%、父親では64.1%と日本語が一番多い。これは中学2年生においても同様であり、母親では、82.0%、父親では84.0%であった。日本語の次に話されている言語については、小学5年生と中学2年生において違った傾向がみられる。小学5年生においては、日本語の次に話されている言語は中国語であり、母親では37.2%、父親では41.0%である。一方、中学2年生においては、中国語の割合は、母親では18.0%、父親では8.0%と小学5年生に比べて低い。英語が日本語の次に話されており、母親では24.6%、父親では36.0%であった。なお、自由記述欄に回答のあった言語は、多い順にタガログ（フィリピン）語（11 ケース）、タイ語（3 ケース）、インドネシア語（2 ケース）、フランス語（2 ケース）、ウルドゥー語（1 ケース）、トルコ語（1 ケース）、ルーマニア語（1 ケース）、ウガンダ語（1 ケース）、ドイツ語（1 ケース）、ベンガル語（1 ケース）であった。

図表 11-5-1 外国籍の親が普段話す言語(小学5年生)



図表 11-5-2 外国籍の親が普段話す言語(中学2年生)



## 6. 日本語が分からないことで困っていること

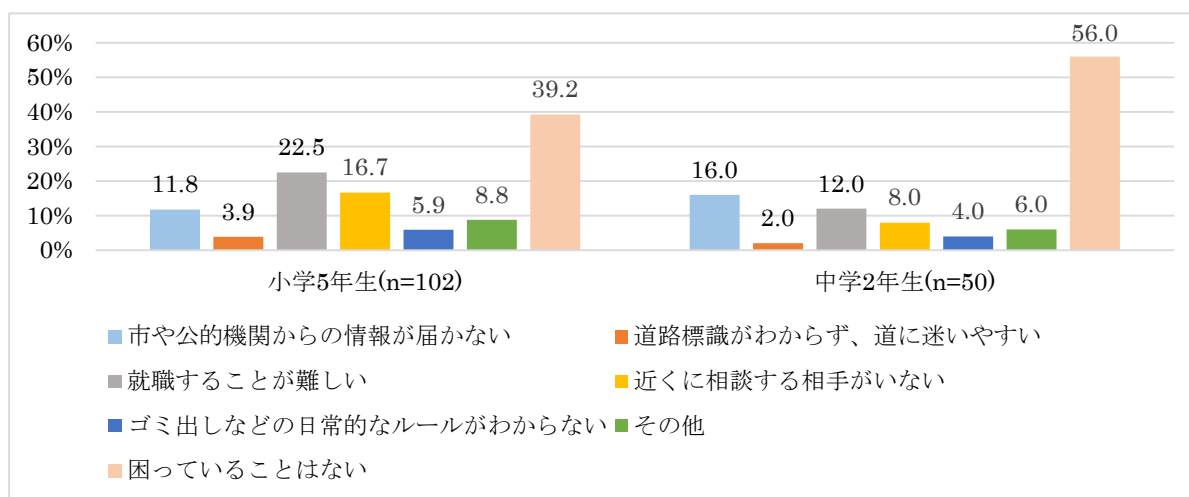
ここでは、普段話す言語が日本語以外である外国籍を持つ親のみに限定して質問した。日本語が分からないことによる困りごとや、サービスの利用意向、相談相手に関する回答結果をみる。

小学5年生における、普段日本語以外を話す外国籍の保護者が日本語がわからなくて困っていることは、割合が多い順に、「就職することが難しい」22.5%、「近くに相談する相手がいない」16.7%、「市や公的機関からの情報が届かない」11.8%である。

中学2年生についても割合が多い順に、「市や公的機関からの情報が届かない」16.0%、「就職することが難しい」12.0%、「近くに相談する相手がいない」8.0%となっている。

なお、両学年ともに、「困っていることはない」が一番多く、小学5年生、中学2年生それぞれ39.2%、56.0%であった。

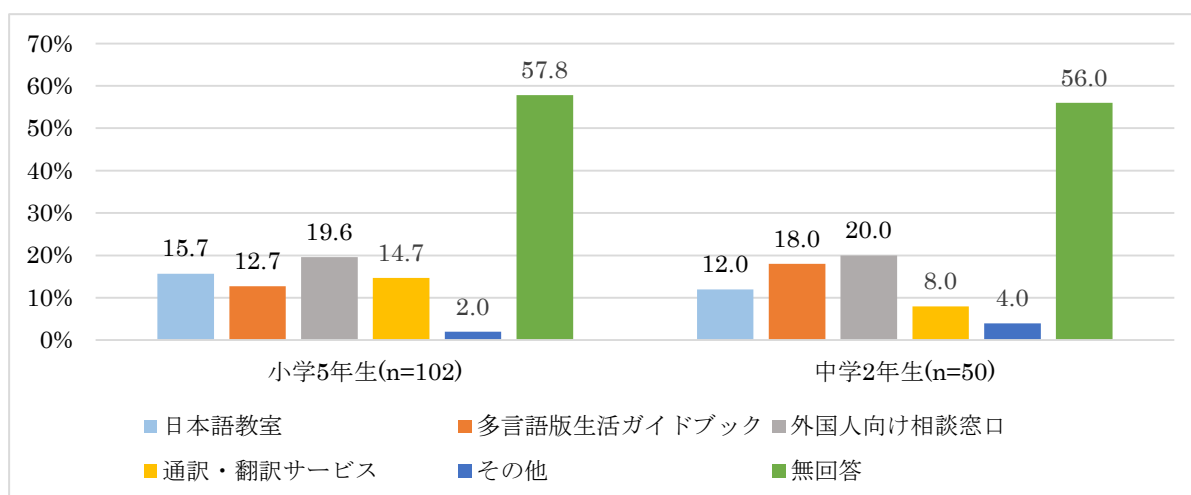
図表 11-6-1 日本語が分からないことによる困りごと(小学5年生、中学2年生)



\*普段話す言語が、日本語以外の外国籍の親に限る。

次に、上述した日本語が分からないことによる困りごとがあった際にどのようなサービスがあれば利用してみたいのかを聞いた。「外国人向け相談窓口」が両学年とも一番多く、小学5年生では19.6%、中学2年生では20.0%である。次に多いのは小学5年生では「日本語教室」であり、15.7%、中学2年生では「多言語版生活ガイドブック」であり18.0%である。その次は、小学5年生では「通訳・翻訳サービス」であり14.7%、中学2年生では「日本語教室」であり12.0%である。選択肢の内容とは別に、両学年とも「無回答」の割合が半数以上であった。

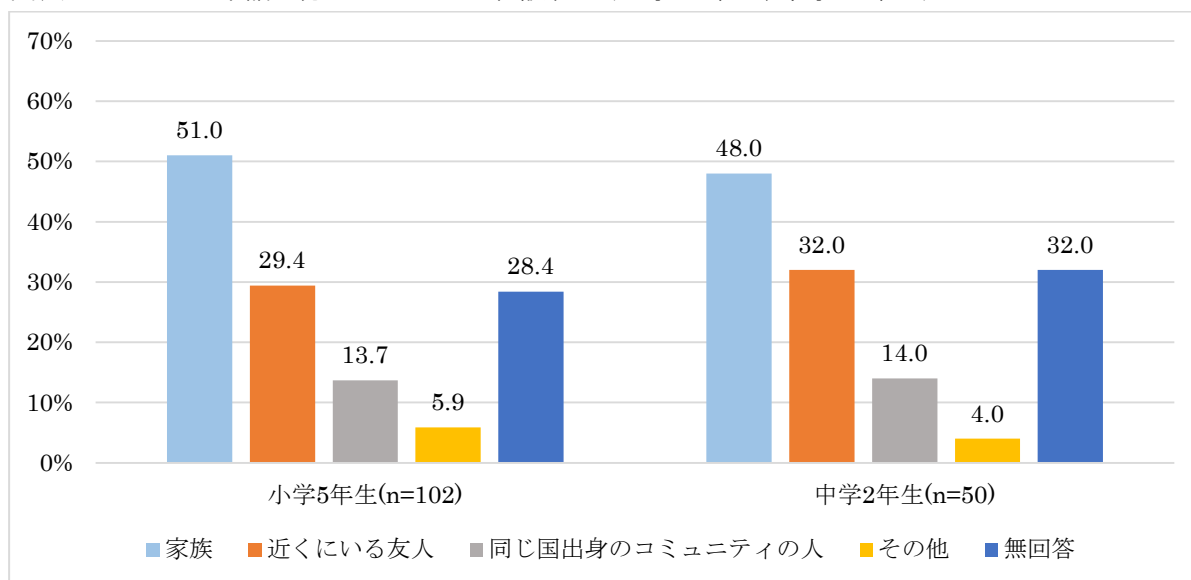
図表 11-6-2 困ったときのサービス利用意向(小学5年生、中学2年生)



\*普段話す言語が日本語以外の外国籍の親に限る。

「日本語がわからないことで困ったことがあったときに、誰に相談していますか。」という設問に対する回答で、もっとも多いのが両学年ともに「家族」であり、小学5年生では51.0%、中学2年生では48.0%である。次に多いのが「近くにいる友人」であり、小学5年生では29.4%、中学2年生では32.0%である。なお、両学年とも約30%が無回答であった。

図表 11-6-3 日本語が分からないときの相談相手(小学5年生、中学2年生)



\*普段話す言語が日本語以外の外国籍の親に限る。

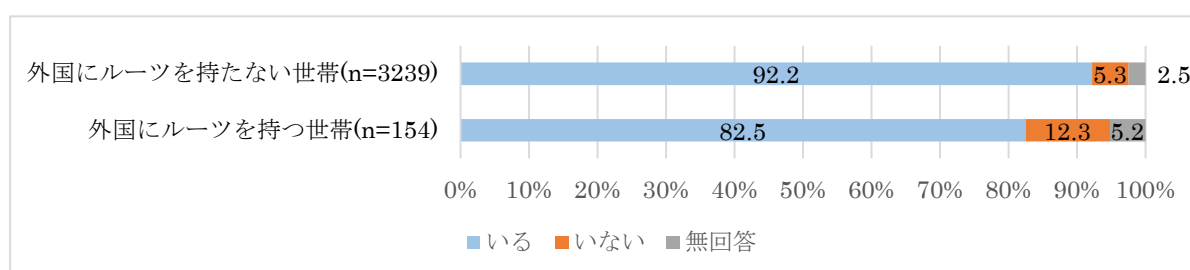


## 7. 相談相手

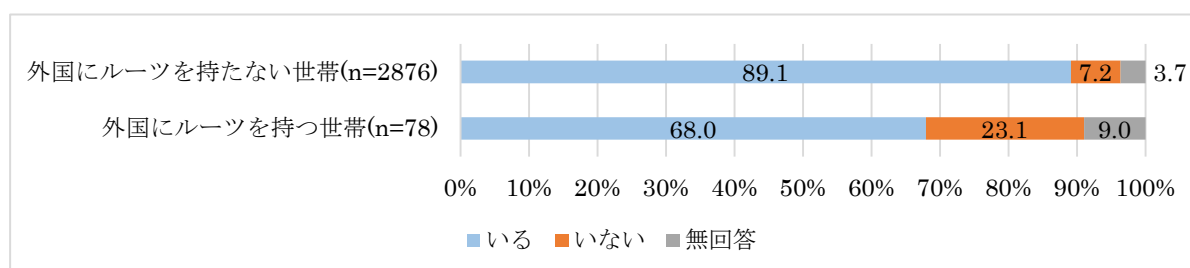
次に、保護者票の「あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親族、同僚など）がいますか」の設問の回答から、相談相手の有無を集計した。小学5年生においては、相談相手が「いない」と答えた割合は、外国にルーツを持つ世帯では12.3%、外国にルーツを持たない世帯では5.3%となっており、2倍以上、外国にルーツを持つ世帯の方が、相談相手がいない親が多い。

中学2年生でも同様の傾向がみられ、相談相手が「いない」と答えた割合は、外国にルーツを持つ世帯では23.1%、外国にルーツを持たない世帯では7.2%となっており、3倍以上、外国にルーツを持つ世帯の方が多い。

図表 11-7-1 相談相手の有無(小学5年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



図表 11-7-2 相談相手の有無(中学2年生):外国ルーツの有無別(\*\*\*)



## 8. 情報入手の方法

子どもに関する施策等の情報入手方法では、全体としては、両学年とも、どの入手方法にしても、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯に比べて低い割合となっている（「その他」を除く）。ただし、一部の項目では、有意差はみられない。以下、具体的に外国にルーツを持つ世帯の利用割合が高い順に、特徴的な選択肢をみていく。

一番多く利用されている「学校からのお便り（紙のもの）」については、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が（55.2%（小学5年生）、50.0%（中学2年生））、外国にルーツを持たない世帯の保護者（79.7%（小学5年生）、76.1%（中学2年生））よりも約25ポイント低い。

「学校からのメール」については、外国にルーツを持つ世帯の保護者では小学5年生で34.4%、中学2年生で34.6%、外国にルーツを持たない世帯の保護者では小学5年生で42.2%、中学2年生で40.9%である。ただし、中学2年生においては、統計的に有意な差ではない。

「家族や友人からの情報」についても、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が（24.0%（小学5年生）、30.8%（中学2年生））、外国にルーツを持たない世帯の保護者（51.4%（小学5年生）、44.1%（中学2年生））よりも低い割合であった。

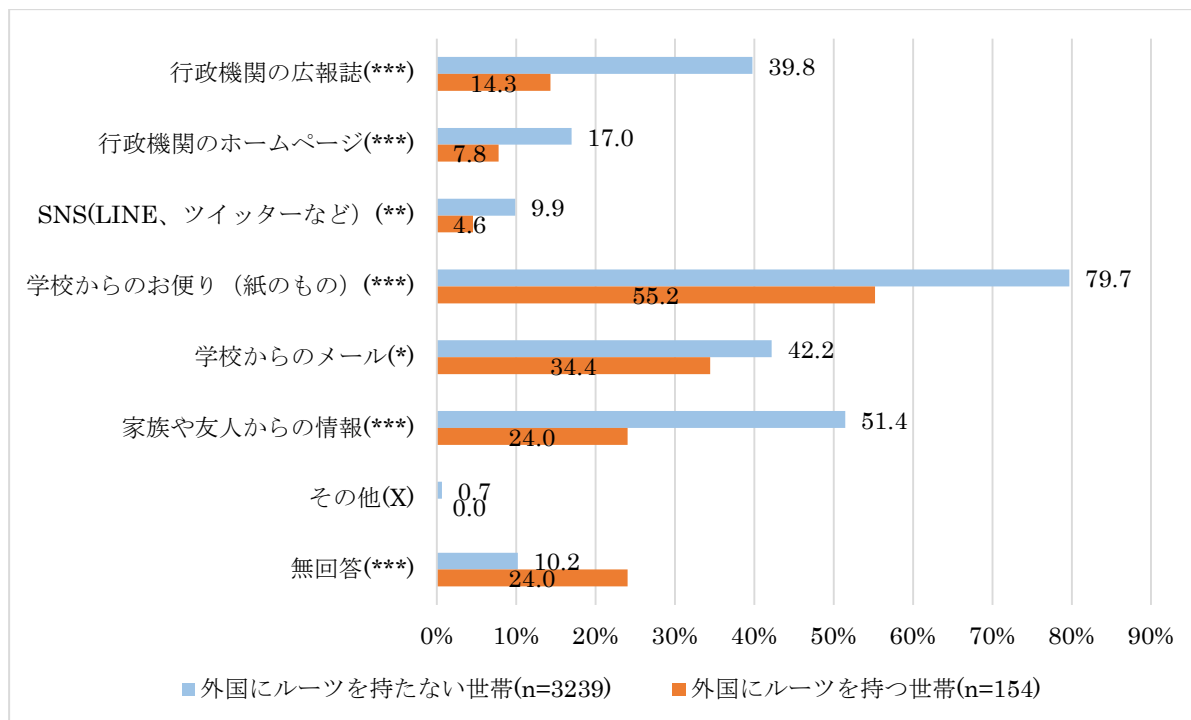
「行政機関の広報誌」については、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が14.3%（小学5年生）、15.4%（中学2年生）、外国にルーツを持たない世帯の保護者（39.8%（小学5年生）、35.2%（中学2年生））よりも低い割合であった。

今後、希望する子どもに関する施策等の情報入手方法においても同様に、両学年とも、外国にルーツを持つ世帯の方が、外国にルーツを持たない世帯に比べて、概ね低い割合となっている。

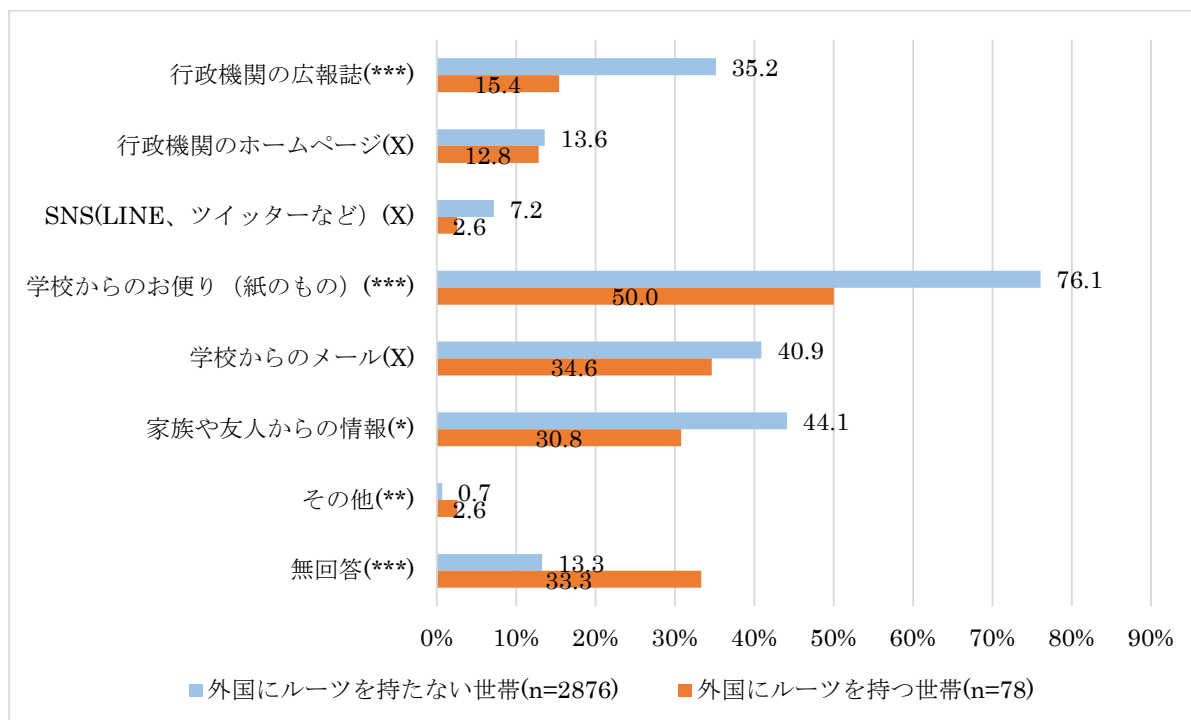
現在の入手方法で最も多く利用されていた「学校からのお便り（紙のもの）」は、今後希望する入手方法としても、最も割合が高くなっている。また、両学年ともに統計的に有意な差がみられ、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が（33.8%（小学5年生）、35.9%（中学2年生））、外国にルーツを持たない世帯の保護者（50.4%（小学5年生）、48.1%（中学2年生））よりも約15ポイント低い。

「行政機関の広報誌」についても、外国にルーツを持つ世帯の保護者の方が（14.9%（小学5年生）、12.8%（中学2年生））、外国にルーツを持たない世帯の保護者（29.8%（小学5年生）、27.0%（中学2年生））よりも約15ポイントほど低い。

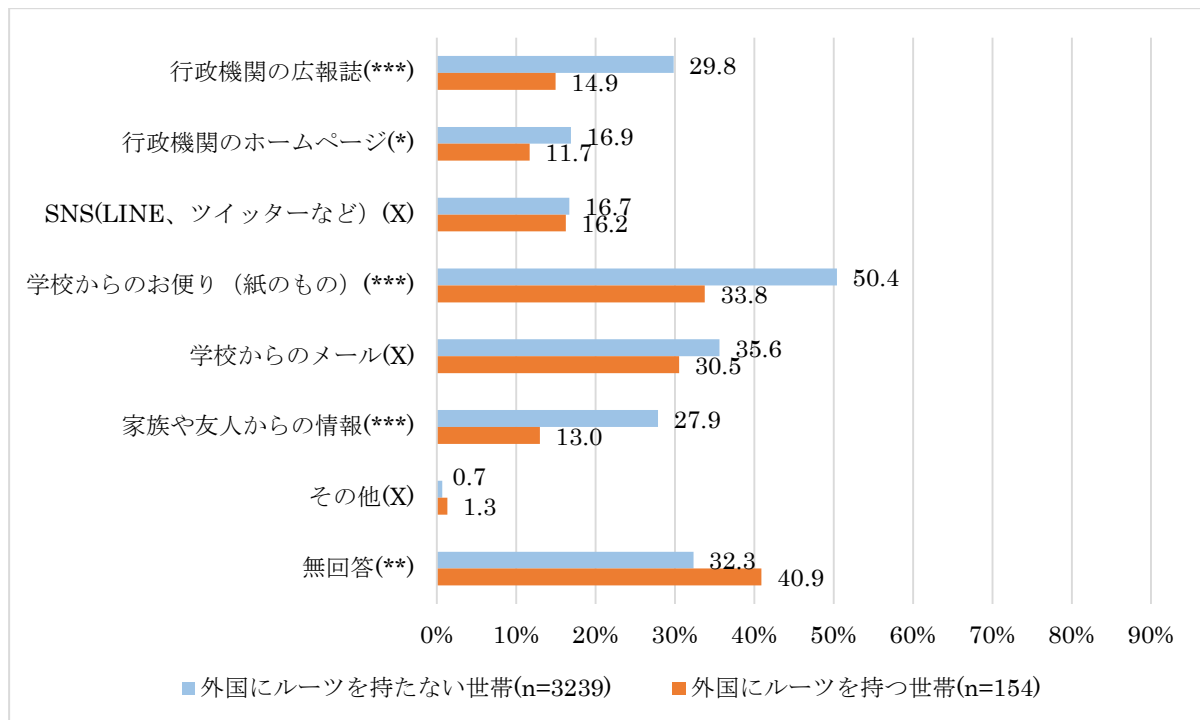
図表 11-8-1 子どもに関する施策等の情報の入手方法(小学 5 年生):外国ルーツの有無別



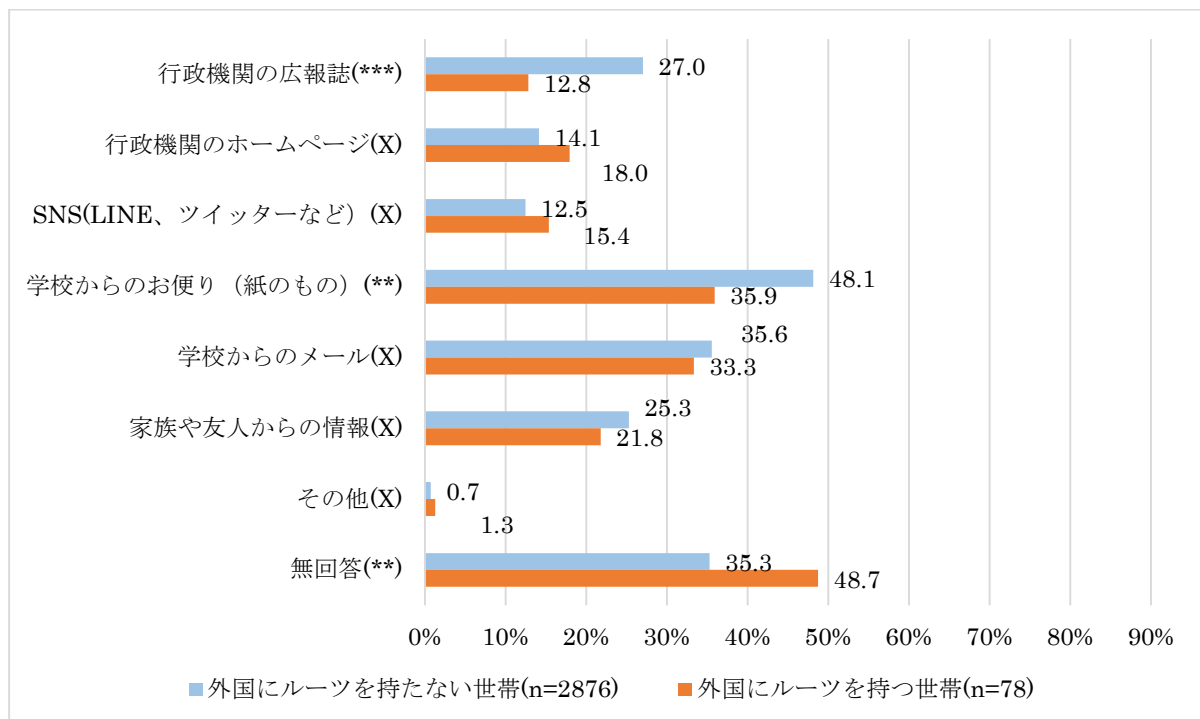
図表 11-8-2 子どもに関する施策等の情報の入手方法(中学 2 年生):外国ルーツの有無別



図表 11-8-3 今後、希望する子どもに関する施策等の情報の入手方法(小学5年生):外国ルーツの有無別



図表 11-8-4 今後、希望する子どもに関する施策等の情報の入手方法(中学2年生):外国ルーツの有無別



## 参考資料

松戸市子育て世帯生活実態調査 調査票

- (1) 小学生票
- (2) 小学生保護者票
- (3) 中学生票
- (4) 中学生保護者票



子育て世帯生活実態調査（小学生<sup>ひょう</sup>票）ねが  
お願い

- これは、松戸市の子どもの夢や悩み、生活状況などを調べるためのアンケートです。
  - この調査は、小学生のあなたが家で自分で書いてください。おうちの方に見せる必要はありません。
  - 名前は、書かないでください。
  - 答えたくない質問は、答えなくてよいです。自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問はそのまま飛ばして次に進んでください。
  - 答えは、あてはまる番号に○をつけるか、数字や文章で書いてください。
  - のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号1つに○」や「あてはまる番号すべてに○」などと書いてありますので、それにしてください。
- 例1 本を読むことは好きですか。（あてはまる番号1つに○）
- |          |            |               |            |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1. あてはまる | 2. まああてはまる | 3. あまりあてはまらない | 4. あてはまらない |
|----------|------------|---------------|------------|
- 例2 次のうち、あなたが飼っている生物を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）
- |       |          |            |              |
|-------|----------|------------|--------------|
| 1. イヌ | 2. ネコ    | 3. ウサギ     | 4. 鳥         |
| 5. 魚  | 6. ハムスター | 7. その他（カメ） | 8. 生物は飼っていない |
- 全部書き終わったら、自分で黄色の封筒に入れてとじてください。それを、おうちの方の封筒と一緒に、大きい封筒に入れて、先生の指示にしたがって提出してください。
  - このアンケートは、調査の目的以外には使用しません。回答した内容は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

この調査は、松戸市が実施しています。

調査に関してのお問い合わせは、以下までお願いします。

松戸市 子ども部 子ども家庭相談課 子どもの未来応援担当室  
電話番号：047-366-5181

# あなたのことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 男子	2 女子
------	------

問2 あなたの身長・体重を教えてください。(四角の中に数字で答えてください)

A 身長	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ
B 体重	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム、 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム

問3 あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、いらなと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく) →	1	2	3
B 子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます) →	1	2	3
C (自宅で)インターネットにつながるパソコン →	1	2	3
D 自宅で宿題をすることができる場所 →	1	2	3
E 自分専用の勉強机 →	1	2	3
F スポーツ用品(野球のグローブや、テニスラケットなど) →	1	2	3
G ゲーム機 →	1	2	3
H たいていの友だちが持っているおもちゃ →	1	2	3
I 自転車 →	1	2	3
J おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい →	1	2	3
K 友だちが着ているのと同じような服 →	1	2	3
L ふだんはく靴2足以上 →	1	2	3
M けいたい電話、スマートフォン →	1	2	3
N けいたい音楽プレーヤーなど →	1	2	3



## あなたの「<sup>ゆめ</sup>夢」についておたずねします

問4 あなたは、<sup>しょうらい</sup>将来の<sup>ゆめ</sup>夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある	2 ない →問4-2へ
------	-------------

問4-1 将来の夢が「1 ある」と答えた人におききます。

その夢は何ですか。(下の枠の中に書いてください)

問4-2 将来の夢が「2 ない」と答えた人におききます。

<sup>ゆめ</sup>夢がない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 もうすべてに満足しているから	3 夢がかなうのがむずかしいと思うから
2 具体的に、何も思いうかばないから	4 わからない

## あなたの<sup>とも</sup>友だちのことについておたずねします

全員におききます。

問5 あなたと友だちの<sup>かんけい</sup>関係について、どのように思いますか。もっとも<sup>ちか</sup>近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 友だちといっしょにたくさん <sup>あそ</sup> 遊んでいると思う →	1	2	3	4
B 友だちと仲良く <sup>なかよ</sup> していると思う →	1	2	3	4
C 友だちに好かれて <sup>す</sup> いると思う →	1	2	3	4

問6 あなたの一番<sup>なか</sup>仲が<sup>よ</sup>良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 学校の友だち
- 2 学校はいっしょではないけれども、近所に住んでいる友だち
- 3 スポーツ・チームやクラブの友だち
- 4 <sup>じやく</sup>塾の友だち
- 5 <sup>なら</sup>習い事<sup>ごと</sup>の友だち
- 6 <sup>た</sup>その他の友だち
- 7 <sup>なか</sup>とくに仲の<sup>よ</sup>良い友だちはいない

**あなたのらだんの生活についておたずねします**

問7 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)はだれと過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- 1 家族(おかあさんやおとうさん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど)
- 2 その他の大人(放課後児童クラブや児童館・こども館、塾や習い事の先生など)
- 3 学校の友だち
- 4 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
- 5 一人である

問8 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)、どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごす日数に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	まいにち 毎日	週に 3~4日	週に 1~2日	そこでは全 く過ごさない
A 自分の家	1	2	3	4
B 友だちの家	1	2	3	4
C 塾や習い事	1	2	3	4
D 児童館・こども館・青少年会館など	1	2	3	4
E 放課後児童クラブ	1	2	3	4
F 学校(クラブ活動、放課後KIDSルームなど)	1	2	3	4
G 学校外のスポーツクラブの活動の場	1	2	3	4
H 公園	1	2	3	4
I 図書館	1	2	3	4
J ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど	1	2	3	4
K ゲームセンター	1	2	3	4
L その他(具体的に )	1	2	3	4

問9 上の問8のA~Lの場所の中で、あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。1つだけ選んで、その記号をカッコの中に書いてください。ほっとできる居場所がない場合は、「X ほっとできる居場所はない」に○をつけてください。

記号 (                      )                      X ほっとできる居場所はない

問 10 あなたは、休日(学校がお休みの日)の午後はだれと過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- 1 家族(おかあさんやおとうさん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど)
- 2 その他の大人(放課後児童クラブや児童館・こども館、塾や習い事の先生など)
- 3 学校の友だち
- 4 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
- 5 一人

問 11 あなたは、休日(学校がお休みの日)の午後、どこで過ごしますか。一番長く過ごす場所に○をつけてください。  
(あてはまる番号1つに○)

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1 自分の家             | 7 学校外のスポーツクラブの活動の場                  |
| 2 友だちの家            | 8 公園                                |
| 3 塾や習い事            | 9 図書館                               |
| 4 児童館・こども館・青少年会館など | 10 ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど |
| 5 放課後児童クラブ         | 11 ゲームセンター                          |
| 6 学校               | 12 その他<br>(具体的に )                   |

問 12 あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日 2時間 以上	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	ぜんぜん しない
A ゲーム機で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
B テレビを見る	1	2	3	4	5	6	7
C インターネットを見る	1	2	3	4	5	6	7
D スマートフォン、携帯電話で メールやLINEをする	1	2	3	4	5	6	7
E 室内でのほかの活動 (読書、室内遊びなど)	1	2	3	4	5	6	7
F 公園で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
G 塾や習い事	1	2	3	4	5	6	7
H 家事(洗濯、掃除、料理など)	1	2	3	4	5	6	7
I 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護	1	2	3	4	5	6	7

問 13 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。(あてはまる番号1つに○)

※例：部活動、ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳など

1 ほとんどしない・全くしない	3 週に3~4回	5 ほぼ毎日
2 週に1~2回	4 週に5~6回	

問 14 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。(あてはまる番号1つに○)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容にかかわらず、数にふくめないでください。

1 読まなかった	3 2~3冊	5 8~11冊
2 1冊	4 4~7冊	6 12冊以上

問 15 あなたはふだん、楽しいことや悲しいこと、困っていることや悩みごとを、他の人にどれくらい話しますか。「1 よく話す」から「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEも「話した」と考えて答えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よく話す	時々話す	あまり 話さない	ぜんぜん 話さない
A おや 親 →	1	2	3	4
B きょうだい →	1	2	3	4
C おじいちゃん・おばあちゃんなど →	1	2	3	4
D 学校の先生 →	1	2	3	4
E 児童館・子ども館(放課後児童クラブふくむ)の職員 →	1	2	3	4
F 学校の友だち →	1	2	3	4
G 学校以外の友だち →	1	2	3	4
H その他の大人(地域のスポーツクラブの コーチや塾・習い事の先生など) →	1	2	3	4

問 16 あなたは、平日(学校に行く日)に毎日、朝ごはんを食べますか。(あてはまる番号1つに○)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 いつも食べる(週に5日)     | 3 食べないほうが多い(週に1、2日) |
| 2 食べるほうが多い(週に3、4日) | 4 いつも食べない           |

問 17 あなたは、平日(学校に行く日)に朝ごはんをだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1 おや 親                    | 4 家族以外の人    |
| 2 きょうだい きょうだい             | 5 ひとりで食べる   |
| 3 その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど) | 6 朝ごはんは食べない |

問 18 あなたは、平日(学校に行く日)に夕ごはんをだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1 おや 親                    | 4 家族以外の人    |
| 2 きょうだい きょうだい             | 5 ひとりで食べる   |
| 3 その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど) | 6 夕ごはんは食べない |

問 19 あなたは、給食をのぞいて、以下の食物をふだんどれくらい食べますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日食べる	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日以下	食べない
A やさい 野菜 →	1	2	3	4	5
B くだもの →	1	2	3	4	5
C 肉か魚 →	1	2	3	4	5
D カップめん・インスタントめん →	1	2	3	4	5
E コンビニのおにぎり・お弁当 →	1	2	3	4	5
F お菓子 →	1	2	3	4	5

問 20 あなたは、現在の健康状態についてどう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

- |      |        |       |           |        |
|------|--------|-------|-----------|--------|
| 1 よい | 2 まあよい | 3 ふつう | 4 あまりよくない | 5 よくない |
|------|--------|-------|-----------|--------|

問 21 あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。カッコの中に本数を書いてください。わからない場合は、「X わからない」に○をつけてください。

※治療中のものも、虫歯として数えてください。

※治療が終わったものは数えません。

※虫歯がない場合は、0本と書いてください。

(            )本	X わからない
-----------------	---------

## 学校のことや勉強のことについておたずねします

問 22 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「1 とても楽しみ」から「4 楽しみではない」のもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない
A 国語、社会、算数、理科の授業	1	2	3	4
B 音楽	1	2	3	4
C 図工	1	2	3	4
D 家庭科	1	2	3	4
E 体育	1	2	3	4
F 英語分野	1	2	3	4
G 先生に会うこと	1	2	3	4
H 友だちに会うこと	1	2	3	4
I 学校の部活動・クラブ活動	1	2	3	4
J 休み時間	1	2	3	4
K 給食	1	2	3	4

問 23 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| 1 よくある   | 3 たまにある | 4 あまりない  |
| 2 ときどきある |         | 5 ほとんどない |

問 23-1 問 23 で「1」～「3」と答えた人におききます。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |          |             |
|----------|----------|-------------|
| 1 1年生のころ | 3 3年生のころ | 5 5年生になってから |
| 2 2年生のころ | 4 4年生のころ | 6 わからない     |

全員におききます。

問 24 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                                 |                |
|---------------------------------|----------------|
| 1 親                             | 5 塾や習い事の先生     |
| 2 親以外の家族(きょうだいや、おじちゃん・おばあちゃんなど) | 6 その他の大人       |
| 3 学校の先生                         | 7 友だち          |
| 4 児童館・こども館や放課後KIDSルームなどの先生      | 8 教えてもらえる人がいない |

問 25 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 1 上のほう   | 3 真ん中のあたり | 5 下のほう  |
| 2 やや上のほう | 4 やや下のほう  | 6 わからない |

問 26 あなたの得意な教科は、どれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 国語	4 理科	7 家庭科	10 どれもあてはまらない
2 社会	5 音楽	8 体育	
3 算数	6 図工	9 英語分野	

問 27 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※ 塾などでの時間もふくみます。

1 まったくしない	4 1時間以上、2時間より少ない
2 30分より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない
3 30分以上、1時間より少ない	6 3時間以上

問 28 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。通っている(来てもらっている)場合、1週間に何日くらいですか。(あてはまる番号1つに○)

1 通って(来てもらって)いない	4 週に3日	7 週に6日
2 週に1日	5 週に4日	8 毎日
3 週に2日	6 週に5日	

問 29 あなたは、自宅で以下の教材を使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 学校で配られるドリルなど	3 通信教育の教材	5 使っていない
2 本屋で売っているドリルや参考書	4 1～3以外の教材	

問 30 あなたの学校では、学習教室(放課後、昼休み等)を実施していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 実施している	2 実施していない
----------	-----------

問 30-1 学校で学習教室を「1 実施している」と答えた人におききます。

あなたは、学校での学習教室に参加していますか。もっとも近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 いつも参加している	2 時々参加している	3 たまに参加している	4 参加していない
-------------	------------	-------------	-----------

問 30-2 学校での学習教室に「3 たまに参加している」または、「4 参加していない」と答えた人におききます。

あまり参加しない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家の事情(家族の世話、家事など)があるから	
2 塾、スポーツ、習い事などで時間がないから	
3 友だちが参加していないから	
4 興味がなから	
5 必要がないから	
6 その他の理由(具体的に	)

あなたがふだん考えていることについておたずねします

全員におききます。

問 31 あなたの思いや気持ちについて、「1 とても思う」から「4 思わない」のもっとも近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	とても思う	思う	あまり 思わない	思わない
A がんばれば、むくわれると思う →	1	2	3	4
B 自分は価値のある人間だと思う →	1	2	3	4
C 自分は家族に大事にされていると思う →	1	2	3	4
D 自分は友だちに好かれていると思う →	1	2	3	4
E 不安に感じることはないと思う →	1	2	3	4
F 孤独を感じることはない →	1	2	3	4
G 自分の将来が楽しみだ →	1	2	3	4
H 自分のことが好きだ →	1	2	3	4

問 32 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	よく あった	ときどき 時々 あった	あまり なかった	なかった	わからない
A 学校に行きたくないと思った →	1	2	3	4	5
B 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく) →	1	2	3	4	5
C いじめられた →	1	2	3	4	5
D 夜遅くまで子どもだけで過ごした →	1	2	3	4	5



問 33 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		いつもそうだ	ときどき 時々 そうだ	そんなことはない
A	たの 楽しみにしていることがたくさんある →	1	2	3
B	とてもよくねむれる →	1	2	3
C	あそ 遊びに出かけるのが好きだ →	1	2	3
D	元気いっぱいだ →	1	2	3
E	しよくじ 食事が楽しい →	1	2	3
F	やろうと思ったことがうまくできる →	1	2	3
G	いつものようになに 何をしても楽しい →	1	2	3
H	家族と話すのが好きだ →	1	2	3
I	お 落ちこんでいてもすぐに元気になれる →	1	2	3
J	な 泣きたいような気がする →	1	2	3
K	逃げ出したいような気がする →	1	2	3
L	おなかが痛くなることがある →	1	2	3
M	いじめられても自分で「やめて」と言える →	1	2	3
N	こわい夢を見る →	1	2	3
O	ひとりぼっちの気がする →	1	2	3
P	とてもかな 悲しい気がする →	1	2	3
Q	とてもたいくつ 退屈な気がする →	1	2	3

問 34 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	使ってみたい	使いたくない	わからない
A (家や学校以外で)放課後に友だちと食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設 →	1	2	3
B (家や学校以外で)休日や夏休みなどに友だちと食べたりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設 →	1	2	3
C (家や学校以外で)家族がいないときに、友だちや大人の人などとみんなで夕ごはんを食べることができる場所や施設 →	1	2	3
D (家や学校以外で)放課後や休日・夏休みなどに、静かに勉強ができる場所や施設 →	1	2	3
E (家や学校以外で)大学生のお兄さんやお姉さんなどが、勉強を無料でみてくれる場所や施設 →	1	2	3
F (家族や学校以外で)自分のことや友だちのことなど何でも相談できる人のいる場所や施設 →	1	2	3

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 子育て世帯生活実態調査（小学生保護者票）

### ご記入にあたってのご注意

- このアンケートは、小学校5年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方に、生活の状況やお子さんしたことなどについて伺うものです。アンケートの結果は、子育て世帯等への施策に役立てることを目的としています。
- このアンケートは、小学校5年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方がお答えください。
- このアンケートは無記名です。お名前をお書きいただく必要はありません。
- ご回答は、質問番号の順番に、鉛筆か、黒または青のボールペンで、回答の番号に○をつけてください。お答えになりたくない質問には、無回答のまま、次の質問にお進みください。
- 「その他」に○をつけた場合は、( ) 内にその内容を具体的にご記入ください。
- ご記入いただいたアンケート用紙は、白色の封筒に三つ折りにして入れ、封をして、同様に封をしたお子さんの黄色の封筒と一緒に返送用の封筒に入れ、学校で提出するようお子さんに伝えてください。
- このアンケートは、調査の目的以外には使用しません。ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

この調査は、松戸市が実施しています。

調査に関してのお問い合わせは、以下までお願いします。

松戸市 子ども部 子ども家庭相談課 子どもの未来応援担当室  
電話番号：047-366-5181

※このアンケートのなかの「お子さん」とは、小学校5年生のお子さんを指します。

### あなたのこと、あなたの世帯のことについておうかがいします

問1 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 父親	4 祖母	7 施設職員
2 母親	5 兄弟姉妹	(→施設職員の方は以後の設問に対して、 回答できる範囲で回答してください)
3 祖父	6 その他 (具体的に )	

問2 あなたの年齢を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 20歳未満	4 30～34歳	7 45～49歳	10 60歳以上
2 20～24歳	5 35～39歳	8 50～54歳	
3 25～29歳	6 40～44歳	9 55～59歳	

問3 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。単身赴任しているご家族も含めてください。

	人
--	---

問4 問3で回答したご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。

(あてはまる番号すべてに○、人数はカッコの中に数字で回答してください)

1 父親	4 祖母( 人)	7 弟( 人)	10 その他( 人)
2 母親	5 兄( 人)	8 妹( 人)	
3 祖父( 人)	6 姉( 人)	9 その他の親せき( 人)	

問5 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問6 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。

(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問7 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(あてはまる番号1つに○)

A お母さま →	1 日本	2 日本以外	3 いない
B お父さま →	1 日本	2 日本以外	3 いない

問7-1 問7で「2」を選んだ方におうかがいします。  
ふだんどのような言語を話されますか。(あてはまる番号すべてに○)

A お母さま →	1 日本語	2 英語	3 中国語	4 韓国語	5 ベトナム語	6 スペイン語
	7 ポルトガル語	8 その他( )				
B お父さま →	1 日本語	2 英語	3 中国語	4 韓国語	5 ベトナム語	6 スペイン語
	7 ポルトガル語	8 その他( )				

問7-2 問7-1で、「2」～「8」を選んだ方におうかがいします。  
日本語がわからないことで、どのようなことに困っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 市や公的機関からの情報が届かない	5 ゴミ出しなどの日常的なルールがわからない
2 道路標識がわからず、道に迷いやすい	6 その他( )
3 就職することが難しい	7 困っていることはない
4 近くに相談する相手がいない	

問7-3 問7-2で回答した困ったことがあったときに、どのようなサービスがあれば利用してみたいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 日本語教室	4 通訳・翻訳サービス
2 多言語版生活ガイドブック	5 その他 ( )
3 外国人向け相談窓口	

問7-4 日本語がわからないことで困ったことがあったときに、誰に相談していますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 家族	3 同じ国出身のコミュニティの人
2 近くにいる友人	4 その他 ( )

全員におうかがいします。

問8 現在お住まいの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○)

1 持ち家	4 都市再生機構(UR)・公社などの賃貸住宅
2 民間の賃貸住宅	5 給与住宅(社宅・公務員住宅など)
3 県営または市営の賃貸住宅	6 間借り・その他

問8-1 お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数(玄関、ふろ、リビング、ダイニング等は含めない)を教えてください。

【部屋数】  室

問8-2 1か月あたりの住居費負担はいくらですか。持ち家の場合は住宅ローン返済額、賃貸の場合は、家賃または間代および共益費または管理費(共用部分の電気料・清掃費など)を教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A 持ち家⇒ (問8で「1」を選んだ方)	<b>【1か月あたりの住宅ローン返済額】</b>	
	1 0円	6 50,001～80,000円
	2 1～5,000円	7 80,001～100,000円
	3 5,001～10,000円	8 100,001～150,000円
	4 10,001～30,000円	9 150,001～200,000円
B 賃貸住宅⇒ (問8で「2」～「6」を選んだ方)	<b>【家賃・間代】</b>	
	1 0円	5 80,001～100,000円
	2 1～30,000円	6 100,001～150,000円
	3 30,001～50,000円	7 150,001～200,000円
	4 50,001～80,000円	8 200,001円以上
	<b>【共益費・管理費】</b>	
	1 0円	5 30,001～50,000円
	2 1～5,000円	6 50,001～80,000円
	3 5,001～10,000円	7 80,001～100,000円
	4 10,001～30,000円	8 100,001円以上

問9 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 結婚している(事実婚を含む)	3 死別
2 離婚(別居中を含む)	4 未婚・非婚

**お子さんのお母さまとお父さまの職業についておうかがいします**

問 10 お子さんのお母さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は、問 11 にお進みください。

1 会社役員	6 自営業(家族従業者を含む)	10 専業主婦	} 問 11 へ
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生	
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退(退職)	
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をしている	13 その他の無職	
5 パート・アルバイト・日雇い・ 非常勤職員		14 求職中、内定を 得たものの待機中	
		15 わからない	

問 10-1 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お子さんのお母さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。

週に平均 

--	--	--

 時間程度

問 10-2 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

昨年1年間(2016年1月～12月)を合計した、お子さんのお母さまのお仕事からの収入(税込)は、およそいくらですか。(あてはまる番号1つに○)

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

問 10-3 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝(5～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に )	

全員におうかがいします。

問 11 お子さんのお父さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合は、問 12 にお進みください。

1 会社役員	6 自営業(家族従業者を含む)	10 専業主夫	} 問 12 へ
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生	
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退(退職)	
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をしている	13 その他の無職	
5 パート・アルバイト・日雇い・ 非常勤職員		14 求職中、内定を 得たものの待機中	
		15 わからない	

問 11-1 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お子さんのお父さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。

週に平均  時間程度

問 11-2 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

昨年1年間(2016年1月～12月)を合計した、お子さんのお父さまのお仕事からの収入(税込)は、およそいくらですか。(あてはまる番号1つに○)

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

問 11-3 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝(5～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に )	

## お子さんのことについておうかがいします

全員におうかがいします。

問 12 お子さんがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等をすべてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

1 認可保育所	4 幼稚園(国立)
2 認可外保育施設	5 幼稚園(公立)
3 認定こども園	6 幼稚園(私立)

問 13 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

1 中学まで	3 短大・高専・専門学校まで	5 まだわからない
2 高校まで	4 大学またはそれ以上	

**あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします**

問 14 あなた(回答者)が、お子さんのお父さまかお母さまの場合、あなたの現在の身長・体重を教えてください。あなたが、お子さんのご両親でない場合は空欄としてください。

身長	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ
体重	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム、 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム

全員におうかがいします。

問 15 あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。それぞれ、最も近いものに○をつけてください。

問 15-1 あなた(回答者)(あてはまる番号1つに○)

1 よい	3 ふつう	4 あまりよくない
2 まあよい		5 よくない

問 15-2 お子さん(あてはまる番号1つに○)

1 よい	3 ふつう	4 あまりよくない
2 まあよい		5 よくない

問 16 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 あった	2 なかった →問 17 へ
-------	----------------

問 16-1 問 16 で「1 あった」を選んだ方におうかがいします。

その理由は、何ですか。以下の中から、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 子ども本人が受診しなかったため
2 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
3 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため
4 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため
5 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
6 公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため
7 自分の健康状態が悪かったため
8 その他(具体的に )



全員におうかがいします。

問 17 お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※定期予防接種(結核(BCG)、麻しん・風しん、ポリオ等)は、無料で受けられます。任意接種(インフルエンザ、おたふくかぜ等)は自己負担がかかります。

		受けた	受けなかった	わからない
A 定期予防接種	→	1	2	3
B 任意接種(インフルエンザ)※過去1年間	→	1	2	3
C 任意接種(おたふくかぜ)	→	1	2	3
D 任意接種(水ぼうそう)	→	1	2	3

※平成26年10月より定期予防接種となっています。

問 17-1 問 17 で定期予防接種について「2 受けなかった」と回答した人におうかがいします。

定期予防接種を受けないことがあったのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

<p>1 子ども本人が受けたがらなかったため</p> <p>2 医療機関等までの距離が遠く、行くことが困難であったため</p> <p>3 多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため</p> <p>4 子どもの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため</p> <p>5 いつどこで受けさせればよいのかよくわからなかったため</p> <p>6 費用がかかると思っていたため</p> <p>7 受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため</p> <p>8 自分の健康状態が悪かったため</p> <p>9 その他(具体的に )</p>
--

全員におうかがいします。

問 18 次のA～Gの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
A そわそわ、落ち着かなく感じましたか	→	1	2	3	4	5
B 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	→	1	2	3	4	5
C 何をするのも面倒だと感じましたか	→	1	2	3	4	5
D ぴりぴり、いらいらを感じましたか	→	1	2	3	4	5
E 神経が過敏だと感じましたか	→	1	2	3	4	5
F 自分は価値のない人間だと感じましたか	→	1	2	3	4	5
G 絶望的だと感じましたか	→	1	2	3	4	5

**子育てにかかる費用についておうかがいします**

問 19 お子さんの生活費や学費について、おうかがいします。次のA～Hの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。平均的な金額を教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	3,000円以下	3,001～5,000円	5,001～10,000円	10,001～30,000円	30,001～50,000円	50,001円以上
A 授業料・学校納付金 (給食費、教材費、校外学習費)	1	2	3	4	5	6
B 塾など、学校外でかかる教育費	1	2	3	4	5	6
C 習い事(スポーツクラブなど以外)	1	2	3	4	5	6
D スポーツクラブ・部活	1	2	3	4	5	6
E 子どもの食費(給食費を除く)	1	2	3	4	5	6
F 子どもの服・靴	1	2	3	4	5	6
G お小遣い	1	2	3	4	5	6
H (お子さんの)携帯・スマートフォンの代金	1	2	3	4	5	6

問 20 あなたのご家庭では、お子さんのために就学援助費を受け取っていますか。

(あてはまる番号1つに○)

※就学援助制度は、経済的な理由により就学が困難な子どもたちの保護者に対して、援助を行い、子どもたちが等しく義務教育を受けることができるようにするための制度です。

1 受け取っている	2 受け取っていない	3 わからない
	→ 問 20-2 へ	→ 問 21 へ

問 20-1 問 20 で「1 受け取っている」を選んだ方におうかがいします。

就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、その差が大きいものは何の経費ですか。(下の枠の中に書いてください)

(例：学用品費、学校給食費など、具体的にお書きください)

問 20-2 問 20 で「2 受け取っていない」を選んだ方におうかがいします。

受け取っていない理由は、何ですか。次のうち最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 必要であるが、申請要件を満たしていなかった

2 必要であるが、申請の仕方がわからなかった

3 必要であるが、申請することに抵抗があった

4 必要ないと判断した

5 申請したが、認定されなかった

6 制度自体知らなかった

7 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

全員におうかがいします。

問 21 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の 1 回あたりの支給額はいくらですか。

(枠内に数字で回答してください)

※該当する収入がない場合には、0 とご記入ください。

※兄弟姉妹等にかかわる手当等も含まれます。

※「児童扶養手当」は、所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための補助金です。

		1 回あたり金額
A 児童手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
B 児童扶養手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
C 特別児童扶養手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
D 年金(遺族年金、老齢年金など)	→	円 (2か月に 1 回支払われます)
E 生活保護	→	円

問 22 上記問 21 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金以外の収入についてお聞きします。

お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入(税込)はいくらですか。

(あてはまる番号1つに○)

※収入には、勤労収入(パート、アルバイトを含む)、事業収入(自営業等)、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者からの養育費を含まれますが、上記問 21 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金は除いてお考えください。

※複数の収入源がある場合(お父さまが勤労収入、お母さまに事業収入など)は、おおよその合算値(合計額)を教えてください。

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

## 食事のことについておうかがいします

問 23 あなたは、平日(お子さんの学校のある日)に毎日、朝ごはんを食べますか。

(あてはまる番号1つに○)

1 いつも食べる(週に5日)	3 食べないほうが多い(週に1、2日)
2 食べるほうが多い(週に3、4日)	4 いつも食べない

**お子さんとのかわりについておうかがいします**

問 24 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない
A お子さんの勉強をみる →	1	2	3	4	5
B お子さんとからだを動かして遊ぶ(キャッチボールなど) →	1	2	3	4	5
C お子さんでコンピュータゲームで遊ぶ (テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど) →	1	2	3	4	5
D お子さんでカードゲームなどで遊ぶ (トランプ・ボードゲーム・将棋など) →	1	2	3	4	5
E お子さんと学校生活の話をする →	1	2	3	4	5
F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする →	1	2	3	4	5
G お子さんとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする →	1	2	3	4	5
H お子さんと一緒に料理をする →	1	2	3	4	5
I お子さんと一緒に外出をする →	1	2	3	4	5

問 25 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あ る	な い		
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴に行く →	1	2	3	4
B 山登り、ハイキング、サイクリングに行く →	1	2	3	4
C キャンプやバーベキューに行く →	1	2	3	4
D 家族旅行に行く →	1	2	3	4
E 遊園地やテーマパークに行く →	1	2	3	4
F スポーツ観戦や劇場に行く →	1	2	3	4
G 博物館・科学館・美術館などに行く →	1	2	3	4

問 26 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくする	2 たまにする	3 あまりしない	4 これまで特にしたことがない
--------	---------	----------	-----------------

**あなたのご家庭での生活についておうかがいします**

問 27 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 大変ゆとりがある	3 普通	4 やや苦しい
2 ややゆとりがある		5 大変苦しい

問 28 ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 黒字であり、毎月貯蓄をしている	4 赤字であり、貯蓄を取り崩している
2 黒字であるが、貯蓄はしていない	5 赤字であり、借金をして生活している
3 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	6 その他(具体的に )

問 29 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

問 30 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

問 31 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A 電話料金 →	1	2	3
B 電気料金 →	1	2	3
C ガス料金 →	1	2	3
D 水道料金 →	1	2	3
E 家賃 →	1	2	3
F 住宅ローン →	1	2	3
G その他の債務 →	1	2	3

問 32 あなたのご家庭では、過去5年の間に、何回転居がありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 0回(過去5年間で転居はしていない)	2 1回	3 2回	4 3回以上
----------------------	------	------	--------

問 33 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Iについて、「1 している」「2 していない、したくない(方針でしない)」「3 していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	している	していない	
		したくない (方針でしない)	経済的に できない
A 毎月お小遣いを渡す →	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う →	1	2	3
C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる →	1	2	3
D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう) →	1	2	3
E お誕生日のお祝いをする →	1	2	3
F 1年に1回以上家族旅行に行く →	1	2	3
G クリスマスのプレゼントをあげる →	1	2	3
H 正月のお年玉をあげる →	1	2	3
I 子どもの学校行事などへ親が参加する →	1	2	3

問 34 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 子どもの年齢に合った本	9 電子レンジ
2 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	10 電話(固定電話・携帯電話を含む)
3 子どもが自宅で宿題をすることができる場所	11 インターネットにつながるパソコン
4 洗濯機	12 新聞の定期購読(ネット含む)
5 炊飯器	13 世帯専用のおふろ
6 掃除機	14 世帯人数分のベッドまたは布団
7 暖房機器	15 急な出費のための預貯金(5万円以上)
8 冷房機器	16 あてはまるものはない

お子さんのお母さまとお父さまのこれまでのご経験についておうかがいします  
 ⇒ 回答者がお母さま・お父さまでない場合は、問 41 にお進みください

問 35 お子さんのお母さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)  
 ※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は、問 36 にお進みください。

1 中学校
2 高等学校(全日制)
3 高等学校(定時制または通信制)
4 高等専修学校(中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校)
5 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)
6 短期大学
7 専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)
8 大学
9 大学院
10 その他
11 わからない →問 36 へ

問 35-1 問 35 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。

お子さんのお母さまは、問 35 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |        |          |              |
|--------|----------|--------------|
| 1 卒業した | 2 中途退学した | 3 その他(具体的に ) |
|--------|----------|--------------|

全員におうかがいします。

問 36 お子さんのお父さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合は、問 37 にお進みください。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 中学校                            |
| 2 高等学校(全日制)                      |
| 3 高等学校(定時制または通信制)                |
| 4 高等専修学校(中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校)    |
| 5 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)     |
| 6 短期大学                           |
| 7 専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程) |
| 8 大学                             |
| 9 大学院                            |
| 10 その他                           |
| 11 わからない →問 37 へ                 |

問 36-1 問 36 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。

お子さんのお父さまは、問 36 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |        |          |              |
|--------|----------|--------------|
| 1 卒業した | 2 中途退学した | 3 その他(具体的に ) |
|--------|----------|--------------|

全員におうかがいします。

問 37 あなたが 15 歳頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 両親世帯(祖父母との同居あり) | 5 父子世帯(祖父母との同居あり) |
| 2 両親世帯(祖父母との同居なし) | 6 父子世帯(祖父母との同居なし) |
| 3 母子世帯(祖父母との同居あり) | 7 児童養護施設などの施設     |
| 4 母子世帯(祖父母との同居なし) | 8 その他(具体的に )      |

問 38 あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

- |             |      |           |
|-------------|------|-----------|
| 1 大変ゆとりがあった | 3 普通 | 4 やや苦しかった |
| 2 ややゆとりがあった |      | 5 大変苦しかった |

問 39 あなたは、成人する前に以下のような体験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1 両親が離婚した      | 5 親から暴力を振るわれた       |
| 2 親が生活保護を受けていた | 6 育児放棄(ネグレクト)された    |
| 3 母親が亡くなった     | 7 1～6のいずれも経験したことがない |
| 4 父親が亡くなった     |                     |

問 40 あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 | (元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある |
| 2 | 子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある            |
| 3 | 育児放棄になった時期がある                   |
| 4 | 出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある          |
| 5 | わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある    |
| 6 | しつけが厳しすぎるのではないかと考えたことがある        |
| 7 | 自殺を考えたことがある                     |
| 8 | 1～7のいずれも経験したことがない               |

**公的支援の利用状況についておうかがいします**

問 41 あなたは、子どもに関する施策等の情報をどのような方法で受け取っていますか。また、今後、受け取りたいですか。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

A 現在の受け取り方法	B 今後、受け取りたい方法
1 行政機関の広報誌	1 行政機関の広報誌
2 行政機関のホームページ	2 行政機関のホームページ
3 SNS(LINE、ツイッターなど)	3 SNS(LINE、ツイッターなど)
4 学校からのお便り(紙のもの)	4 学校からのお便り(紙のもの)
5 学校からのメール	5 学校からのメール
6 家族や友人からの情報	6 家族や友人からの情報
7 その他(具体的に )	7 その他(具体的に )

問 42 お子さんについて、以下のA～Gの支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	利用したことがある	利用したことがない				
		利用したいと思ったことがなかった	条件を満たしていなかった	利用したかったが、時間が足りなかった	利用の仕方がわからなかった	全く知らなかった
A こどもショートステイ →	1	2	3	4	5	6
B ファミリー・サポート・センター →	1	2	3	4	5	6
C フードバンクによる食料支援 →	1	2	3	4	5	6
D 放課後や休日の居場所として自由に過ごし体験ができる児童館・こども館・青少年会館	1	2	3	4	5	6
E 学校が実施する補講(学習支援) →	1	2	3	4	5	6
F 学校以外が実施する学習支援 →	1	2	3	4	5	6
G 地域の方々が運営する子ども食堂 →	1	2	3	4	5	6



<参考>

A こどもショートステイ	入院、出産、介護、仕事などで、一時的にお子さんの養育にお困りのとき、児童養護施設で子どもを預かる制度。
B ファミリー・サポート・センター	育児のお手伝いをしてほしい方(利用会員)と育児のお手伝いをしたい方(提供会員)の両者を登録して、援助活動により仕事と育児の両立や、子育てする家庭にゆとりを持っていただけるよう支援する制度。
C フードバンク	まだ食べられるにもかかわらず処分されてしまう食品を、NPOなどが食品メーカー等から引き取って、福祉施設や支援を必要とする人へ無料で提供する活動。
D 児童館	子どもたちに健全で楽しい遊びを提供するための施設。地域の子どもたちが、自由にきて遊んだり、大人(児童厚生員)とのかかわりのなかで、季節に応じた行事に参加するなどさまざまな活動をしている。
G 子ども食堂	子どもたちの食の支援、居場所の支援等を目的に、民間団体などが無料または格安で食事を提供している場所。

問 42-1 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 こどもショートステイ	5 学校が実施する補講(学習支援)
2 ファミリー・サポート・センター	6 学校以外が実施する学習支援
3 フードバンクによる食料支援	7 地域の方々が運営する子ども食堂
4 放課後や休日の居場所として自由に 過ごし体験ができる児童館・こども館・青 少年会館	8 いずれにも興味がない

問 43 あなたのご家庭では、以下の H~K の支援制度等は、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		利用したことがない					
		利用したことがある	利用したいと思ったことが なかった(そもそも制度等 の対象外であった)	利用したかったが、 条件を満たしていなかった	利用したかったが、 制度等が使いづらかった	利用の仕方が わからなかった	制度等について 全く知らなかった
H 生活福祉資金	→	1	2	3	4	5	6
I 生活保護	→	1	2	3	4	5	6
J 母子及び父子福祉資金	→	1	2	3	4	5	6
K 児童扶養手当	→	1	2	3	4	5	6

<参考>

H 生活福祉資金	所得が一定水準以下の世帯等を対象とした、低利または無利子の資金貸付。
I 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときは一定の条件により、援助が受けられる制度。
J 母子及び父子福祉資金	ひとり親世帯を対象にした、低利または無利子の資金貸付。
K 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のための補助金。

問 43-1 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 生活福祉資金	4 児童扶養手当
2 生活保護	5 いずれにも興味がない
3 母子及び父子福祉資金	

問 44 あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人(家族、友人、親戚、同僚など)がいますか。

(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問 45 あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。相談したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	相談したことがある	相談したことがない			
		相談したいと思った ことがなかった	抵抗があったが、 相談しなかった	相談時間や場所な どが使いづらかった	相談する窓口や方 法がわからなかった
A 市役所の窓口 →	1	2	3	4	5
B 学校・保育所・幼稚園の先生、 スクールカウンセラーなど →	1	2	3	4	5
C 民生委員・児童委員 →	1	2	3	4	5
D 保健所(保健福祉センター) →	1	2	3	4	5
E ハローワーク →	1	2	3	4	5
F 上記以外の公的機関 →	1	2	3	4	5

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 子育て世帯生活実態調査（中学生票）

### お願い

- これは、松戸市の子どもなやの夢や悩み、生活じょうきょう状況などを調しらべるためのアンケートです。
- この調査は、中学生のあなたが家で自分で書いてください。おうちの方かたに見せる必要ひつようはありません。
- 名前は、書かないでください。
- 答えたくない質問は、答えなくてよいです。自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。答えが思おもいがかばない場合や答えたくない質問はそのまま飛ばして次に進んでください。
- 答えは、あてはまる番号に○をつけるか、数字や文章で書いてください。
- のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号1つに○」や「あてはまる番号すべてに○」などと書いてありますので、それにしたがってください。

例1 本すを読むことは好きですか。（あてはまる番号1つに○）

1.  あてはまる 2. まああてはまる 3. あまりあてはまらない 4. あてはまらない

例2 次のうち、あなたが飼かっている生物いきものを教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1.  イヌ 2. ネコ 3. ウサギ 4. 鳥  
5.  魚 6. ハムスター 7.  その他（カメ） 8. 生物は飼っていない

- 全部書き終わったら、自分で緑色の封筒ふうとうに入れてとじてください。それを、おうちの方かたの封筒と一緒いっしょに、大きい封筒に入れて、先生の指示にしたがって提出してください。
- このアンケートは、調査の目的以外には使用しません。回答した内容は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

この調査は、松戸市が実施しています。

調査に関してのお問い合わせは、以下までお願いします。

松戸市 子ども部 子ども家庭相談課 子どもの未来応援担当室  
電話番号：047-366-5181

## あなたのことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 男子	2 女子
------	------

問2 あなたの身長・体重を教えてください。(四角の中に数字で教えてください)

A 身長 <sup>しんちよう</sup>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ
B 体重 <sup>たいじゆう</sup>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム、 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム

問3 あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、いらなと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく) →	1	2	3
B 子ども部屋(兄弟姉妹と使っている場合もふくみます) →	1	2	3
C (自宅で)インターネットにつながるパソコン →	1	2	3
D 自宅で宿題をすることができる場所 →	1	2	3
E 自分専用の勉強机 →	1	2	3
F スポーツ用品(野球のグローブや、テニスラケットなど) →	1	2	3
G ゲーム機 →	1	2	3
H たいていの友だちが持っている玩具、おしゃれなヘアアクセサリ、小物等 →	1	2	3
I 自転車 →	1	2	3
J おやつや、ちょっとした玩具、おしゃれなヘアアクセサリ、小物等 を買うおこづかい →	1	2	3
K 友だちが着ているのと同じような服 →	1	2	3
L ふだんはく靴 <sup>くつ</sup> 2足以上 →	1	2	3
M 携帯電話、スマートフォン →	1	2	3
N 携帯音楽プレーヤーなど →	1	2	3

## あなたの「夢」についておたずねします

問4 あなたは、将来の夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある	2 ない →問4-2へ
------	-------------

問4-1 将来の夢が「1 ある」と答えた人におききします。

その夢は何ですか。(下の枠の中に書いてください)

問4-2 将来の夢が「2 ない」と答えた人におききします。

夢がない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 もうすべてに満足しているから	3 夢がかたうのがむずかしいと思うから
2 具体的に、何も思いうかばないから	4 わからない

全員におききします。

問4-3 あなたは、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 中学まで	4 大学またはそれ以上
2 高校まで	5 まだわからない
3 短大・高専・専門学校まで	

## あなたの<sup>とも</sup>友だちのことについておたずねします

問5 あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 友だちと <sup>いっしょ</sup> 一緒にたくさん遊んでいると思う →	1	2	3	4
B 友だちと仲良くしていると思う →	1	2	3	4
C 友だちに好かれていると思う →	1	2	3	4

問6 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

1 学校の友だち	4 塾の友だち
2 学校は <sup>いっしょ</sup> 一緒ではないけれども、近所に住んでいる友だち	5 習い事の友だち
3 スポーツ・チームや部活動(クラブ)の友だち	6 その他の友だち
	7 とくに仲の良い友だちはいない

**あなたのらだんの生活についておたずねします**

問7 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)はだれと過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- 1 家族(父母や、兄弟姉妹、祖父母など)
- 2 その他の大人(児童館・子ども館・青少年会館、塾や習い事の先生など)
- 3 学校の友だち
- 4 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
- 5 一人ひとりでいる

問8 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)、どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日	週に 3~4日	週に 1~2日	そこでは全 く過 <small>ま</small> ごさない
A 自分の家	1	2	3	4
B 友だちの家	1	2	3	4
C 塾や習い事	1	2	3	4
D 児童館・こども館・青少年会館など	1	2	3	4
E 学校(部活など)	1	2	3	4
F 学校外のスポーツクラブの活動の場	1	2	3	4
G 公園	1	2	3	4
H 図書館	1	2	3	4
I ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど	1	2	3	4
J ゲームセンター	1	2	3	4
K その他(具体的に )	1	2	3	4

問9 上の問8のA~Kの場所の中で、あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。1つだけ選んで、その記号をカッコの中に書いてください。ほっとできる居場所がない場合は、「X ほっとできる居場所はない」に○をつけてください。

記号 (                      )                      X ほっとできる居場所はない

問 10 あなたは、学校の部活動に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 <small>さんか</small> 参加している	2 参加していない
-----------------------------	-----------

問 10-1 学校の部活動に「2 参加していない」と答えた人におききします。

参加しない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 入りたい部がないから
2 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
3 塾や習い事が忙 <small>いそが</small> しいから
4 おもしろくないから
5 一緒に入る友だちがい <small>いっしょ</small> ないから
6 その他(具体的 <small>たぐたいてき</small> に )

全員におききします。

問 11 あなたは、休日(学校がお休みの日)の午後はだれと過ごしますか。いっしょ一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

1 家族(父母や、兄弟姉妹、祖父母など)
2 その他の大人 <small>おとな</small> (児童館・こども館・青少年会館、塾や習い事の先生など)
3 学校の友だち
4 学校以外の友だち(地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
5 ひとり <small>ひとり</small> でいる

問 12 あなたは、休日(学校がお休みの日)の午後、どこで過すごしますか。一番長く過ごす場所に○をつけてください。  
(あてはまる番号1つに○)

1 自分の家	7 公園
2 友だちの家	8 図書館
3 塾や習い事	9 ファストフード店やショッピングセンター、ファミリーレストランなど
4 児童館・こども館・青少年会館など	10 ゲームセンター
5 学校(部活など)	11 その他
6 学校外のスポーツクラブの活動の場	(具体的に )

問 13 あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日 2時間 以上	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	ぜんぜん しない
A ゲーム機で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
B テレビを見る	1	2	3	4	5	6	7
C インターネットを見る	1	2	3	4	5	6	7
D スマートフォン、携帯電話で メールやLINEをする	1	2	3	4	5	6	7
E 室内でのほかの活動 (読書、室内遊びなど)	1	2	3	4	5	6	7
F 公園で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
G 塾や習い事	1	2	3	4	5	6	7
H 家事(洗濯、掃除、料理など)	1	2	3	4	5	6	7
I 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護	1	2	3	4	5	6	7

問 14 あなたは、30分以上からだを動かすことを、1週間でどれくらいしますか。(あてはまる番号1つに○)

※例：部活動、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳など

1 ほとんどしない・ <sup>まった</sup> 全くしない	3 週に3~4回	5 ほぼ毎日
2 週に1~2回	4 週に5~6回	

問 15 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。(あてはまる番号1つに○)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容にかかわらず、数にふくめないでください。

1 読まなかった	3 2~3冊	5 8~11冊
2 1冊	4 4~7冊	6 12冊以上

問 16 あなたはふだん、<sup>たの</sup>楽しいことや<sup>かな</sup>悲しいこと、<sup>こま</sup>困っていることや<sup>なや</sup>悩みごとを、<sup>ほか</sup>他の人にどれくらい話しますか。「1 よく話す」から「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINE もふくめて考えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		よく話す	時々話す	あまり 話さない	ぜんぜん 話さない
A 親	→	1	2	3	4
B 兄弟姉妹	→	1	2	3	4
C 祖父母など	→	1	2	3	4
D 学校の先生	→	1	2	3	4
E 児童館・こども館の職員	→	1	2	3	4
F 学校の友だち	→	1	2	3	4
G 学校以外の友だち	→	1	2	3	4
H その他の <sup>おとな</sup> 大人(地域のスポーツクラブの コーチや塾・習い事の先生など)	→	1	2	3	4



食事のことや健康のことについておたずねします

問 17 あなたは、平日(学校に行く日)に毎日、朝ごはんを食べますか。(あてはまる番号1つに○)

1 いつも食べる(週に5日)	3 食べないほうが多い(週に1、2日)
2 食べるほうが多い(週に3、4日)	4 いつも食べない

問 18 あなたは、平日(学校に行く日)に朝ごはんを誰と食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 親	4 家族以外の人
2 兄弟姉妹	5 一人で食べる
3 その他の家族(祖父母など)	6 朝ごはんは食べない

問 19 あなたは、平日(学校に行く日)に夕ごはんを誰と食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 親	4 家族以外の人
2 兄弟姉妹	5 一人で食べる
3 その他の家族(祖父母など)	6 夕ごはんは食べない

問 20 あなたは、給食をのぞいて、以下の食物をふだんどれくらい食べますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日食べる	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日以下	食べない
A 野菜 →	1	2	3	4	5
B くだもの →	1	2	3	4	5
C 肉か魚 →	1	2	3	4	5
D カップめん・インスタントめん →	1	2	3	4	5
E コンビ尼のおにぎり・お弁当 →	1	2	3	4	5
F お菓子 →	1	2	3	4	5

問 21 あなたは、現在の健康状態についてどう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よい	2 まあよい	3 ふつう	4 あまりよくない	5 よくない
------	--------	-------	-----------	--------

問 22 あなたは、今、虫菌がおおよそ何本くらいありますか。カッコの中に本数を書いてください。わからない場合は、「X わからない」に○をつけてください。

※治療中のものも、虫菌として数えてください。

※治療が終わったものは数えません。

※虫菌がない場合は、0本と書いてください。

( )本	X わからない
------	---------

## 学校のことや勉強のことについておたずねします

問 23 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「1 とても楽しみ」から「4 楽しみではない」のもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない
A	国語、社会、数学、理科の授業 →	1	2	3	4
B	音楽 →	1	2	3	4
C	美術 →	1	2	3	4
D	保健体育 →	1	2	3	4
E	技術・家庭科 →	1	2	3	4
F	英語 →	1	2	3	4
G	先生に会うこと →	1	2	3	4
H	友だちに会うこと →	1	2	3	4
I	部活動 →	1	2	3	4
J	休み時間 →	1	2	3	4
K	給食(お弁当など) →	1	2	3	4

問 24 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| 1 よくある   | 3 たまにある | 4 あまりない  |
| 2 とくどきある |         | 5 ほとんどない |

→ 問 24-1 問 24 で「1」～「3」と答えた人におききます。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |              |              |               |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 小学1・2年生のころ | 3 小学5・6年生のころ | 5 中学2年生になってから |
| 2 小学3・4年生のころ | 4 中学1年生のころ   | 6 わからない       |

全員におききます。

問 25 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1 親                   | 5 その他の大人       |
| 2 親以外の家族(兄弟姉妹や、祖父母など) | 6 友だち          |
| 3 学校の先生               | 7 教えてもらえる人がいない |
| 4 塾や習い事などの先生          |                |

問 26 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 1 上のほう   | 3 真ん中のあたり | 5 下のほう  |
| 2 やや上のほう | 4 やや下のほう  | 6 わからない |

問 27 あなたの得意な教科は、どれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 国語	4 理科	7 保健体育	10 どれもあてはまらない
2 社会	5 音楽	8 技術・家庭科	
3 数学	6 美術	9 英語	

問 28 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※ 塾じゅくなどでの時間もふくみます。

1 まったくしない	4 1時間以上、2時間より少ない
2 30分より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない
3 30分以上、1時間より少ない	6 3時間以上

問 29 あなたは、学習塾じゅくに通ったり、家庭教師かきょうしに来てもらったりしていますか。通っている(来てもらっている)場合、1週間に何日くらいですか。(あてはまる番号1つに○)

1 通 <small>かよ</small> って(来てもらって)いない	4 週に3日	7 週に6日
2 週に1日	5 週に4日	8 毎日
3 週に2日	6 週に5日	

問 30 あなたは、自宅で以下の教材を使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 学校で配 <small>くば</small> られる問題集など	3 通信教育の教材	5 使っていない
2 本屋で売っている問題集や参考書	4 1～3以外の教材	

問 31 あなたの学校では、補習教室ほしゅうを実施していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 実施している	2 実施していない
----------	-----------

問 31-1 学校で補習教室を「1 実施している」と答えた人におききます。

あなたは、学校での補習教室ほしゅうに参加さんかしていますか。もっとも近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 いつも参加 <small>さんか</small> している	2 時々参加 <small>さんか</small> している	3 たまに参加 <small>さんか</small> している	4 参加 <small>さんか</small> していない
---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	-------------------------------

問 31-2 学校での補習教室ほしゅうに「3 たまに参加さんかしている」または、「4 参加さんかしていない」と答えた人におききます。

あまり参加さんかしない理由りゆうは何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家の事情(家族の世話、家事など)があるから	
2 塾 <small>じゅく</small> 、スポーツ、習 <small>なら</small> い事などで時間が無いから	
3 友だちが参加 <small>さんか</small> していないから	
4 興味 <small>きょうみ</small> がないから	
5 必要 <small>ひつやう</small> がないから	
6 その他の理由(具体的に	)

あなたがふだん考えていることについておたずねします

全員におききます。

問 32 あなたの思いや気持ちについて、「1 とても思う」から「4 思わない」のもっとも近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	とても思う	思う	あまり 思わない	思わない
A がんばれば、むくわれると思う →	1	2	3	4
B 自分は価値のある人間だと思う →	1	2	3	4
C 自分は家族に大事にされていると思う →	1	2	3	4
D 自分は友だちに好かれていると思う →	1	2	3	4
E 不安に感じることはないと思う →	1	2	3	4
F 孤独 <small>こどく</small> を感じることはない →	1	2	3	4
G 自分の将来が楽しみだ →	1	2	3	4
H 自分のことが好きだ →	1	2	3	4

問 33 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	よく あった	ときどき 時々 あった	あまり なかった	なかった	わからない
A 学校に行きたくないと思った →	1	2	3	4	5
B 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく) →	1	2	3	4	5
C いじめられた →	1	2	3	4	5
D 夜遅くまで子どもだけで過ごした <small>おそ</small> →	1	2	3	4	5

問 34 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの1週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		いつもそうだ	時々 <small>ときどき</small> そうだ	そんなことはない
A	たのしみ <small>たの</small> にしていることがたくさんある →	1	2	3
B	とてもよく <small>よ</small> 眠れる <small>ねむ</small> →	1	2	3
C	あそび <small>あそ</small> に出かけるのが好きだ →	1	2	3
D	元気いっぱいだ →	1	2	3
E	しよくじ <small>しよくじ</small> がたのしみ <small>たの</small> →	1	2	3
F	やろうと思ったことがうまくできる →	1	2	3
G	いつものように何 <small>なに</small> をしても楽しい <small>たの</small> →	1	2	3
H	家族と話すのが好きだ →	1	2	3
I	お <small>お</small> 落ちこんでいてもすぐに元気になる →	1	2	3
J	な <small>な</small> 泣きたいような気がする →	1	2	3
K	逃げ出したいような気がする →	1	2	3
L	おなか <small>おなか</small> が痛くなることがある →	1	2	3
M	いじめられても自分で「やめて」と言える →	1	2	3
N	こわい夢を見る →	1	2	3
O	ひとりぼっち <small>ひとりぼっち</small> の気がする →	1	2	3
P	とても <small>かな</small> 悲しい気がする →	1	2	3
Q	とても <small>たいくつ</small> 退屈 <small>たいくつ</small> な気がする →	1	2	3

問 35 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	使ってみたい	使いたくない	わからない
A (家や学校以外で)放課後に友だちとしゃべったりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる → 場所や施設	1	2	3
B (家や学校以外で)休日や夏休みなどに友だちとしゃべったりおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごせる場所や施設 →	1	2	3
C (家や学校以外で)家族がいないときに、友だちや大人の人などとみんなで夕ごはんを食べることができる場所や施設 →	1	2	3
D (家や学校以外で)放課後や休日・夏休みなどに、静かに勉強ができる場所や施設 →	1	2	3
E (家や学校以外で)大学生のお兄さんやお姉さんなどが、勉強を無料でみしてくれる場所や施設 →	1	2	3
F (家族や学校以外で)自分のことや友だちのことなど何でも相談できる人のいる場所や施設 →	1	2	3

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 子育て世帯生活実態調査（中学生保護者票）

### ご記入にあたってのご注意

- このアンケートは、中学校2年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方に、生活の状況やお子さんしたことなどについて伺うものです。アンケートの結果は、子育て世帯等への施策に役立てることを目的としています。
- このアンケートは、中学校2年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方がお答えください。
- このアンケートは無記名です。お名前をお書きいただく必要はありません。
- ご回答は、質問番号の順番に、鉛筆か、黒または青のボールペンで、回答の番号に○をつけてください。お答えになりたくない質問には、無回答のまま、次の質問にお進みください。
- 「その他」に○をつけた場合は、( ) 内にその内容を具体的にご記入ください。
- ご記入いただいたアンケート用紙は、白色の封筒に三つ折りにして入れ、封をして、同様に封をしたお子さんの緑色の封筒と一緒に返送用の封筒に入れ、学校で提出するようお子さんに伝えてください。
- このアンケートは、調査の目的以外には使用しません。ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

この調査は、松戸市が実施しています。

調査に関してのお問い合わせは、以下までお願いします。

松戸市 子ども部 子ども家庭相談課 子どもの未来応援担当室  
電話番号：047-366-5181

※このアンケートのなかの「お子さん」とは、中学校2年生のお子さんを指します。

### あなたのこと、あなたの世帯のことについておうかがいします

問1 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 父親	4 祖母	7 施設職員
2 母親	5 兄弟姉妹	(→施設職員の方は以後の設問に対して、 回答できる範囲で回答してください)
3 祖父	6 その他 (具体的に )	

問2 あなたの年齢を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 20歳未満	4 30～34歳	7 45～49歳	10 60歳以上
2 20～24歳	5 35～39歳	8 50～54歳	
3 25～29歳	6 40～44歳	9 55～59歳	

問3 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。単身赴任しているご家族も含めてください。

	人
--	---

問4 問3で回答したご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。

(あてはまる番号すべてに○、人数はカッコの中に数字で回答してください)

1 父親	4 祖母( 人)	7 弟( 人)	10 その他( 人)
2 母親	5 兄( 人)	8 妹( 人)	
3 祖父( 人)	6 姉( 人)	9 その他の親せき( 人)	

問5 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問6 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。

(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問7 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(あてはまる番号1つに○)

A お母さま →	1 日本	2 日本以外	3 いない
B お父さま →	1 日本	2 日本以外	3 いない

問7-1 問7で「2」を選んだ方におうかがいします。  
ふだんどのような言語を話されますか。(あてはまる番号すべてに○)

A お母さま →	1 日本語	2 英語	3 中国語	4 韓国語	5 ベトナム語	6 スペイン語
	7 ポルトガル語	8 その他( )				
B お父さま →	1 日本語	2 英語	3 中国語	4 韓国語	5 ベトナム語	6 スペイン語
	7 ポルトガル語	8 その他( )				

問7-2 問7-1で、「2」～「8」を選んだ方におうかがいします。  
日本語がわからないことで、どのようなことに困っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 市や公的機関からの情報が届かない	5 ゴミ出しなどの日常的なルールがわからない
2 道路標識がわからず、道に迷いやすい	6 その他( )
3 就職することが難しい	7 困っていることはない
4 近くに相談する相手がいない	



問7-3 問7-2で回答した困ったことがあったときに、どのようなサービスがあれば利用してみたいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 日本語教室	4 通訳・翻訳サービス
2 多言語版生活ガイドブック	5 その他 ( )
3 外国人向け相談窓口	

問7-4 日本語がわからないことで困ったことがあったときに、誰に相談していますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 家族	3 同じ国出身のコミュニティの人
2 近くにいる友人	4 その他 ( )

全員におうかがいします。

問8 現在お住まいの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○)

1 持ち家	4 都市再生機構(UR)・公社などの賃貸住宅
2 民間の賃貸住宅	5 給与住宅(社宅・公務員住宅など)
3 県営または市営の賃貸住宅	6 間借り・その他

問8-1 お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数(玄関、ふろ、リビング、ダイニング等は含めない)を教えてください。

【部屋数】  室

問8-2 1か月あたりの住居費負担はいくらですか。持ち家の場合は住宅ローン返済額、賃貸の場合は、家賃または間代および共益費または管理費(共用部分の電気料・清掃費など)を教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A 持ち家⇒ (問8で「1」を選んだ方)	【1か月あたりの住宅ローン返済額】	
	1 0円	6 50,001～80,000円
	2 1～5,000円	7 80,001～100,000円
	3 5,001～10,000円	8 100,001～150,000円
	4 10,001～30,000円	9 150,001～200,000円
	5 30,001～50,000円	10 200,001円以上
B 賃貸住宅⇒ (問8で「2」～「6」を選んだ方)	【家賃・間代】	
	1 0円	5 80,001～100,000円
	2 1～30,000円	6 100,001～150,000円
	3 30,001～50,000円	7 150,001～200,000円
	4 50,001～80,000円	8 200,001円以上
	【共益費・管理費】	
	1 0円	5 30,001～50,000円
	2 1～5,000円	6 50,001～80,000円
	3 5,001～10,000円	7 80,001～100,000円
	4 10,001～30,000円	8 100,001円以上

問9 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 結婚している(事実婚を含む)	3 死別
2 離婚(別居中を含む)	4 未婚・非婚

**お子さんのお母さまとお父さまの職業についておうかがいします**

問 10 お子さんのお母さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は、問 11 にお進みください。

1 会社役員	6 自営業(家族従業者を含む)	10 専業主婦	→問 11 へ
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生	
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退(退職)	
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をしている	13 その他の無職	
5 パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員		14 求職中、内定を得たものの待機中	
		15 わからない	

問 10-1 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お子さんのお母さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっていられる場合は合算してください。

週に平均 

--	--	--

 時間程度

問 10-2 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

昨年1年間(2016年1月～12月)を合計した、お子さんのお母さまのお仕事からの収入(税込)は、およそいくらですか。(あてはまる番号1つに○)

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

問 10-3 問 10 で「1」～「9」を選んだ、お母さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝(5～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に )	

全員におうかがいします。

問 11 お子さんのお父さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお父さまがいらっしゃる場合は、問 12 にお進みください。

1 会社役員	6 自営業(家族従業者を含む)	10 専業主夫	→問 12 へ
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生	
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退(退職)	
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をしている	13 その他の無職	
5 パート・アルバイト・日雇い・ 非常勤職員		14 求職中、内定を 得たものの待機中	
		15 わからない	

問 11-1 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お子さんのお父さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。

週に平均  時間程度

問 11-2 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

昨年1年間(2016年1月～12月)を合計した、お子さんのお父さまのお仕事からの収入(税込)は、およそいくらですか。(あてはまる番号1つに○)

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

問 11-3 問 11 で「1」～「9」を選んだ、お父さまが職業をおもちの方におうかがいします。

お父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝(5～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に )	

## お子さんのことについておうかがいします

全員におうかがいします。

問 12 お子さんがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等をすべてお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

1 認可保育所	4 幼稚園(国立)	7 小学校(国立)
2 認可外保育施設	5 幼稚園(公立)	8 小学校(公立)
3 認定こども園	6 幼稚園(私立)	9 小学校(私立)

問 13 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

1 中学まで	3 短大・高専・専門学校まで	5 まだわからない
2 高校まで	4 大学またはそれ以上	

**あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします**

問 14 あなた(回答者)が、お子さんのお父さまかお母さまの場合、あなたの現在の身長・体重を教えてください。あなたが、お子さんのご両親でない場合は空欄としてください。

身長	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> センチ
体重	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム	記入例 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム、 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> キログラム

全員におうかがいします。

問 15 あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。それぞれ、最も近いものに○をつけてください。

問 15-1 あなた(回答者)(あてはまる番号1つに○)

1 よい	3 ふつう	4 あまりよくない
2 まあよい	5 よくない	

問 15-2 お子さん(あてはまる番号1つに○)

1 よい	3 ふつう	4 あまりよくない
2 まあよい	5 よくない	

問 16 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 あった	2 なかった →問 17 へ
-------	----------------

問 16-1 問 16 で「1 あった」を選んだ方におうかがいします。

その理由は、何ですか。以下の中から、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 子ども本人が受診しなかったため
2 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
3 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため
4 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため
5 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
6 公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため
7 自分の健康状態が悪かったため
8 その他(具体的に )

全員におうかがいします。

問 17 お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※定期予防接種(結核(BCG)、麻しん・風しん、ポリオ等)は、無料で受けられます。任意接種(インフルエンザ、おたふくかぜ等)は自己負担がかかります。

	受けた	受けなかった	わからない
A 定期予防接種 →	1	2	3
B 任意接種(インフルエンザ)※過去1年間 →	1	2	3
C 任意接種(おたふくかぜ) →	1	2	3
D 任意接種(水ぼうそう) →	1	2	3

※平成26年10月より定期予防接種となっています。

問 17-1 問 17 で定期予防接種について「2 受けなかった」と回答した人におうかがいします。

定期予防接種を受けないことがあったのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

<p>1 子ども本人が受けたがらなかったため</p> <p>2 医療機関等までの距離が遠く、行くことが困難であったため</p> <p>3 多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため</p> <p>4 子どもの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため</p> <p>5 いつどこで受けさせればよいのかよくわからなかったため</p> <p>6 費用がかかると思っていたため</p> <p>7 受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため</p> <p>8 自分の健康状態が悪かったため</p> <p>9 その他(具体的に )</p>
--

全員におうかがいします。

問 18 次のA～Gの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
A そわそわ、落ち着かなく感じましたか →	1	2	3	4	5
B 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか →	1	2	3	4	5
C 何をするのも面倒だと感じましたか →	1	2	3	4	5
D ぴりぴり、いらいらを感じましたか →	1	2	3	4	5
E 神経が過敏だと感じましたか →	1	2	3	4	5
F 自分は価値のない人間だと感じましたか →	1	2	3	4	5
G 絶望的だと感じましたか →	1	2	3	4	5

**子育てにかかる費用についておうかがいします**

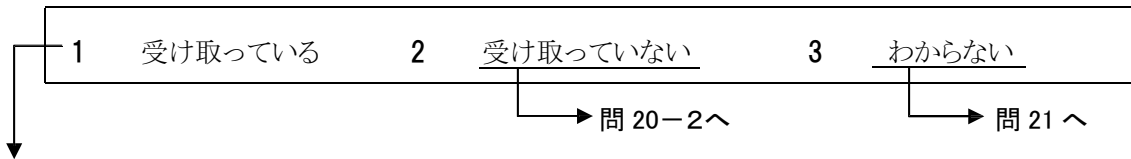
問 19 お子さんの生活費や学費について、おうかがいします。次のA～Hの費用は、毎月いくらくらいかかっていますか。平均的な金額を教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	3,000円以下	3,001～5,000円	5,001～10,000円	10,001～30,000円	30,001～50,000円	50,001円以上
A 授業料・学校納付金 (給食費、教材費、校外学習費)	1	2	3	4	5	6
B 塾など、学校外でかかる教育費	1	2	3	4	5	6
C 習い事(スポーツクラブなど以外)	1	2	3	4	5	6
D スポーツクラブ・部活	1	2	3	4	5	6
E 子どもの食費(給食費を除く)	1	2	3	4	5	6
F 子どもの服・靴	1	2	3	4	5	6
G お小遣い	1	2	3	4	5	6
H (お子さんの)携帯・スマートフォンの代金	1	2	3	4	5	6

問 20 あなたのご家庭では、お子さんのために就学援助費を受け取っていますか。

(あてはまる番号1つに○)

※就学援助制度は、経済的な理由により就学が困難な子どもたちの保護者に対して、援助を行い、子どもたちが等しく義務教育を受けることができるようにするための制度です。



問 20-1 問 20 で「1 受け取っている」を選んだ方におうかがいします。

就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、その差が大きいものは何の経費ですか。(下の枠の中に書いてください)

(例：学用品費、学校給食費など、具体的にお書きください)

問 20-2 問 20 で「2 受け取っていない」を選んだ方におうかがいします。

受け取っていない理由は、何ですか。次のうち最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

- 1 必要であるが、申請要件を満たしていなかった
  - 2 必要であるが、申請の仕方がわからなかった
  - 3 必要であるが、申請することに抵抗があった
  - 4 必要ないと判断した
  - 5 申請したが、認定されなかった
  - 6 制度自体知らなかった
  - 7 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

全員におうかがいします。

問 21 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の 1 回あたりの支給額はいくらですか。

(枠内に数字で回答してください)

※該当する収入がない場合には、0 とご記入ください。

※兄弟姉妹等にかかわる手当等も含みます。

※「児童扶養手当」は、所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための補助金です。

		1 回あたり金額
A 児童手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
B 児童扶養手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
C 特別児童扶養手当	→	円 (4か月に 1 回支払われます)
D 年金(遺族年金、老齢年金など)	→	円 (2か月に 1 回支払われます)
E 生活保護	→	円

問 22 上記問 21 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金以外の収入についてお聞きします。

お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入(税込)はいくらですか。

(あてはまる番号1つに○)

※収入には、勤労収入(パート、アルバイトを含む)、事業収入(自営業等)、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者からの養育費を含みますが、上記問 21 で回答いただいた、公的年金と社会保障給付金は除いてお考えください。

※複数の収入源がある場合(お父さまが勤労収入、お母さまに事業収入など)は、おおよその合算値(合計額)を教えてください。

1 収入はない(0円)	5 200～300万円未満	9 600～700万円未満	13 わからない
2 1～50万円未満	6 300～400万円未満	10 700～800万円未満	
3 50～100万円未満	7 400～500万円未満	11 800～900万円未満	
4 100～200万円未満	8 500～600万円未満	12 900万円以上	

## 食事のことについておうかがいします

問 23 あなたは、平日(お子さんの学校のある日)に毎日、朝ごはんを食べますか。

(あてはまる番号1つに○)

1 いつも食べる(週に5日)	3 食べないほうが多い(週に1、2日)
2 食べるほうが多い(週に3、4日)	4 いつも食べない

**お子さんとのかわりについておうかがいします**

問 24 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない
A お子さんの勉強をみる →	1	2	3	4	5
B お子さんとからだを動かして遊ぶ(キャッチボールなど) →	1	2	3	4	5
C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ (テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど) →	1	2	3	4	5
D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ (トランプ・ボードゲーム・将棋など) →	1	2	3	4	5
E お子さんと学校生活の話をする →	1	2	3	4	5
F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする →	1	2	3	4	5
G お子さんとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする →	1	2	3	4	5
H お子さんと一緒に料理をする →	1	2	3	4	5
I お子さんと一緒に外出をする →	1	2	3	4	5

問 25 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あ る	な い		
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴に行く →	1	2	3	4
B 山登り、ハイキング、サイクリングに行く →	1	2	3	4
C キャンプやバーベキューに行く →	1	2	3	4
D 家族旅行に行く →	1	2	3	4
E 遊園地やテーマパークに行く →	1	2	3	4
F スポーツ観戦や劇場に行く →	1	2	3	4
G 博物館・科学館・美術館などに行く →	1	2	3	4

問 26 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくする	2 たまにする	3 あまりしない	4 これまで特にしたことがない
--------	---------	----------	-----------------



## あなたのご家庭での生活についておうかがいします

問 27 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

- |            |      |         |
|------------|------|---------|
| 1 大変ゆとりがある | 3 普通 | 4 やや苦しい |
| 2 ややゆとりがある |      | 5 大変苦しい |

問 28 ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 黒字であり、毎月貯蓄をしている    | 4 赤字であり、貯蓄を取り崩している  |
| 2 黒字であるが、貯蓄はしていない    | 5 赤字であり、借金をして生活している |
| 3 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである | 6 その他(具体的に )        |

問 29 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |         |           |          |            |
|---------|-----------|----------|------------|
| 1 よくあった | 2 ときどきあった | 3 まれにあった | 4 まったくなかった |
|---------|-----------|----------|------------|

問 30 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |         |           |          |            |
|---------|-----------|----------|------------|
| 1 よくあった | 2 ときどきあった | 3 まれにあった | 4 まったくなかった |
|---------|-----------|----------|------------|

問 31 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A 電話料金 →	1	2	3
B 電気料金 →	1	2	3
C ガス料金 →	1	2	3
D 水道料金 →	1	2	3
E 家賃 →	1	2	3
F 住宅ローン →	1	2	3
G その他の債務 →	1	2	3

問 32 あなたのご家庭では、過去5年の間に、何回転居がありましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |                      |      |      |        |
|----------------------|------|------|--------|
| 1 0回(過去5年間で転居はしていない) | 2 1回 | 3 2回 | 4 3回以上 |
|----------------------|------|------|--------|

問 33 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Iについて、「1 している」「2 していない、したくない(方針でしない)」「3 していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	→	している	していない	
			したくない (方針でしない)	経済的に できない
A 毎月お小遣いを渡す	→	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う	→	1	2	3
C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	→	1	2	3
D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)	→	1	2	3
E お誕生日のお祝いをする	→	1	2	3
F 1年に1回以上家族旅行に行く	→	1	2	3
G クリスマスのプレゼントをあげる	→	1	2	3
H 正月のお年玉をあげる	→	1	2	3
I 子どもの学校行事などへ親が参加する	→	1	2	3

問 34 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 子どもの年齢に合った本	9 電子レンジ
2 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	10 電話(固定電話・携帯電話を含む)
3 子どもが自宅で宿題をすることができる場所	11 インターネットにつながるパソコン
4 洗濯機	12 新聞の定期購読(ネット含む)
5 炊飯器	13 世帯専用のお風呂
6 掃除機	14 世帯人数分のベッドまたは布団
7 暖房機器	15 急な出費のための預貯金(5万円以上)
8 冷房機器	16 あてはまるものはない

**お子さんのお母さまとお父さまのこれまでのご経験についておうかがいします**  
⇒ 回答者がお母さま・お父さまでない場合は、問 41 にお進みください

問 35 お子さんのお母さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)  
※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は、問 36 にお進みください。

1 中学校
2 高等学校(全日制)
3 高等学校(定時制または通信制)
4 高等専修学校(中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校)
5 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)
6 短期大学
7 専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)
8 大学
9 大学院
10 その他
11 わからない →問 36 へ

問 35-1 問 35 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。

お子さんのお母さまは、問 35 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 卒業した      2 中途退学した      3 その他(具体的に )

全員におうかがいします。

問 36 お子さんのお父さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)

※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合は、問 37 にお進みください。

- 1 中学校  
2 高等学校(全日制)  
3 高等学校(定時制または通信制)  
4 高等専修学校(中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校)  
5 高等専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)  
6 短期大学  
7 専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程)  
8 大学  
9 大学院  
10 その他  
11 わからない →問 37 へ

問 36-1 問 36 で「1」～「10」を選んだ方におうかがいします。

お子さんのお父さまは、問 36 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 卒業した      2 中途退学した      3 その他(具体的に )

全員におうかがいします。

問 37 あなたが 15 歳の頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 両親世帯(祖父母との同居あり) | 5 父子世帯(祖父母との同居あり) |
| 2 両親世帯(祖父母との同居なし) | 6 父子世帯(祖父母との同居なし) |
| 3 母子世帯(祖父母との同居あり) | 7 児童養護施設などの施設     |
| 4 母子世帯(祖父母との同居なし) | 8 その他(具体的に )      |

問 38 あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

- |             |      |           |
|-------------|------|-----------|
| 1 大変ゆとりがあった | 3 普通 | 4 やや苦しかった |
| 2 ややゆとりがあった |      | 5 大変苦しかった |

問 39 あなたは、成人する前に以下のような体験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1 両親が離婚した      | 5 親から暴力を振るわれた       |
| 2 親が生活保護を受けていた | 6 育児放棄(ネグレクト)された    |
| 3 母親が亡くなった     | 7 1～6のいずれも経験したことがない |
| 4 父親が亡くなった     |                     |

問 40 あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 | (元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある |
| 2 | 子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある            |
| 3 | 育児放棄になった時期がある                   |
| 4 | 出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある          |
| 5 | わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある    |
| 6 | しつけが厳しすぎるのではないかと考えたことがある        |
| 7 | 自殺を考えたことがある                     |
| 8 | 1～7のいずれも経験したことがない               |

**公的支援の利用状況についておうかがいします**

問 41 あなたは、子どもに関する施策等の情報をどういう方法で受け取っていますか。また、今後、受け取りたいですか。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

A 現在の受け取り方法	B 今後、受け取りたい方法
1 行政機関の広報誌	1 行政機関の広報誌
2 行政機関のホームページ	2 行政機関のホームページ
3 SNS(LINE、ツイッターなど)	3 SNS(LINE、ツイッターなど)
4 学校からのお便り(紙のもの)	4 学校からのお便り(紙のもの)
5 学校からのメール	5 学校からのメール
6 家族や友人からの情報	6 家族や友人からの情報
7 その他(具体的に )	7 その他(具体的に )

問 42 お子さんについて、以下のA～Fの支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	利用したことがある	利用したことがない				
		利用したいと思った ことがなかった	利用したかったが、 条件を満たして いなかった	利用時間や制度等 が使いづらかった	利用の仕方が わからなかった	制度等について 全く知らなかった
A こどもショートステイ →	1	2	3	4	5	6
B フードバンクによる食料支援 →	1	2	3	4	5	6
C 放課後や休日の居場所として 自由に過ごし体験ができる児童 館・こども館・青少年会館 →	1	2	3	4	5	6
D 学校が実施する補講(学習支援) →	1	2	3	4	5	6
E 学校以外が実施する学習支援 →	1	2	3	4	5	6
F 地域の方々が運営する 子ども食堂 →	1	2	3	4	5	6

<参考>

A 子どもショートステイ	入院、出産、介護、仕事などで、一時的にお子さんの養育にお困りのとき、児童養護施設で子どもを預かる制度。
B フードバンク	まだ食べられるにもかかわらず処分されてしまう食品を、NPOなどが食品メーカー等から引き取って、福祉施設や支援を必要とする人へ無料で提供する活動。
C 児童館	子どもたちに健全で楽しい遊びを提供するための施設。地域の子どもたちが、自由にきて遊んだり、大人(児童厚生員)とのかかわりのなかで、季節に応じた行事に参加するなどさまざまな活動をしている。
F 子ども食堂	子どもたちの食の支援、居場所の支援等を目的に、民間団体などが無料または格安で食事を提供している場所。

問 42-1 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 子どもショートステイ	4 学校が実施する補講(学習支援)
2 フードバンクによる食料支援	5 学校以外が実施する学習支援
3 放課後や休日の居場所として自由に 過ごし体験ができる児童館・子ども館・青 少年会館	6 地域の方々が運営する子ども食堂
	7 いずれにも興味がない

問 43 あなたのご家庭では、以下の G~J の支援制度等は、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		利用したことがない					
		利用したことがある	利用したいと思ったことが なかった(そもそも制度等 の対象外であった)	利用したかったが、 条件を満たしていなかった	利用したかったが、 制度等が使いづらかった	利用の仕方が わからなかった	全く知らなかった 制度等について
G 生活福祉資金	→	1	2	3	4	5	6
H 生活保護	→	1	2	3	4	5	6
I 母子及び父子福祉資金	→	1	2	3	4	5	6
J 児童扶養手当	→	1	2	3	4	5	6

<参考>

G 生活福祉資金	所得が一定水準以下の世帯等を対象とした、低利または無利子の資金貸付。
H 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときは一定の条件により、援助が受けられる制度。
I 母子及び父子福祉資金	ひとり親世帯を対象にした、低利または無利子の資金貸付。
J 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のための補助金。

問 43-1 現在、これらの支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 生活福祉資金	4 児童扶養手当
2 生活保護	5 いずれにも興味がない
3 母子及び父子福祉資金	

問 44 あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人(家族、友人、親戚、同僚など)がいますか。  
(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

問 45 あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。相談したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	相談したことがある	相談したことがない			
		相談したいと思った ことがなかった	抵抗があった 相談しなかったが、	相談時間や場所な どが使いづらかった	相談する窓口や方 法がわからなかった
A 市役所の窓口 →	1	2	3	4	5
B 学校・保育所・幼稚園の先生、 スクールカウンセラーなど →	1	2	3	4	5
C 民生委員・児童委員 →	1	2	3	4	5
D 保健所(保健福祉センター) →	1	2	3	4	5
E ハローワーク →	1	2	3	4	5
F 上記以外の公的機関 →	1	2	3	4	5

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。